



# 『源氏物語』古注釈資料のデータベース化に関する研究

(課題番号 15520108)

平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(C))

研究成果報告書

平成18年3月

研究代表者 妹尾好信

(広島大学大学院文学研究科助教授)



# 『源氏物語』古注釈資料のデータベース化に関する研究

(課題番号 15520108)

平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(C))

研究成果報告書



平成 18 年 3 月

研究代表者 妹尾好信

(広島大学大学院文学研究科助教授)

## 目 次

はしがき	1
研究組織	2
交付決定額（配分額）	2
研究発表	3
データベースの利用の仕方	5
資料編	
写本・刊本項目対照表	17
論考編（右開き）	
広島大学蔵刊本『源氏物語抄（紹巴抄）』とその書き入れについて ——刊本『紹巴抄』の書誌的考察（Ⅰ）——	（1）
《翻刻》広島大学蔵刊本『源氏物語抄（紹巴抄）』 第一冊欄外・行間書き入れ注（付・考察）	（13）
『源氏物語抄（紹巴抄）』の古活字本と整版本 ——刊本『紹巴抄』の書誌的考察（Ⅱ）——	（45）
『源氏物語抄（紹巴抄）』の古活字本から整版本へ ——刊本『紹巴抄』の書誌的考察（Ⅲ）・項目異同から見た改訂の様相——	（57）

## はしがき

近年、『源氏物語』の享受史・研究史の研究は著しく発展し、それとともに古注釈資料の発掘や紹介も盛んに行われるようになった。そして、影印や翻刻の形で多くの資料が公開され、研究者に提供されてきた。しかしながら、今のところそれらはほとんどすべてが冊子の形態であり、電子情報としてデータベース化されたものはいまだないと言ってよく、検索システムも未開発である。『源氏物語』は全 54 巻に及ぶ大部な物語であり、その注釈資料はさらに膨大な情報量を持つ。注釈資料がデータベース化されて、情報が迅速かつ正確に検索され、さらに被注本文の物語中における所在情報も容易に知ることができれば、『源氏物語』の注釈史研究のみならず、本文批判や解釈研究にも大いに役立つことが予想される。

本研究は、『源氏物語』の古注釈資料を、デジタル画像および文字情報によるテキストデータベースとして、広範な閲覧・検索の利用に供する形に作り上げることを目的として行った。全丁をカラーデジタル画像としてありのままの本文情報を提供するとともに、正確な翻刻本文と検索用の校訂本文とを相互に行き来することができ、さらには別系統の本文との間の異同も容易に参照することができるようにする。加えて、注釈箇所のお話本文の所在をも付記する。そういう利便性の高いデータベースの構築をめざした。

研究代表者である妹尾は、平成 6 年度より広島平安文学研究会の代表となり、前任者の故稲賀敬二先生が昭和 42 年に始められた「翻刻 平安文学資料稿」の刊行事業を受け継いで、現在第三期として『源氏物語』をはじめとする平安朝文学の古注釈資料を翻刻・紹介してきている。その事業の中で、稲賀先生の時代に、第二期として、『永禄奥書 源氏物語紹巴抄』全 10 冊を刊行した。それは、連歌師里村紹巴が三条西公条による『源氏物語』講釈の聞書をまとめた注釈書である『源氏物語抄（紹巴抄）』を、先生ご架蔵の写本を底本として全文翻刻したものであった。本研究では、この『源氏物語抄（紹巴抄）』を対象として、データベースの底本には江戸時代に流布した刊本を取り上げることとした。直接には広島大学図書館中央図書館が所蔵する整版本 20 冊を用いた。同本は旧文学部国語学国文学研究室蔵本で、「翻刻 平安文学資料稿」では、底本とした写本との間の主要な異同を校異として簡略に示してある。この本の全丁をカラー画像として収めるほか、「翻刻 平安文学資料稿」の翻刻本文の版面も画像としてデータベースに加え、相互に参照することを可能とした。

研究分担者として加わった中村康夫（国文学研究資料館・文学形成研究系・教授）は、長年国文学資料のテキスト検索システムの開発・整備に携わり、さまざまな古典文学作品のデータベース化とその公開を行ってきた。『源氏物語』に関しても、早く『源氏物語（絵入）〔承応版本〕CD-ROM』（1999 年 岩波書店）を刊行している。本研究では、中村を中心に開発した「散文検索システム」に『源氏物語』古注釈資料のデータベースを乗せるためのさまざまなプログラム処理を行った。今回は実現できなかったが、将来的には『源氏物語（絵入）〔承応版本〕』データベースともリンクさせて、被注本文の参照に供することも視野に入れている。

本文データの入力作業は、もともと大部な作品であり、かつ振り仮名や割注、漢文の返

り点などの多い表記が煩雑な資料であることと、整版本と古活字本との間の異同をデータベースに反映させることにしたために膨大な時間を要して、それぞれに多忙な校務や他の研究課題を抱えた研究分担者にとっては予想以上に困難な仕事になったが、幸いにも多くの若い研究者が研究補助者またはボランティアとして献身的に協力してくれたため、3年間でほぼ計画通りのデータベースを完成させることができた。ありがたいことである。

データベースは、画像・テキスト情報ともにDVD-ROM1枚に収録した。検索のために必要な「散文検索システム (v2.31)」(中村康夫開発)も収めてある。本報告書には、「データベースの利用の仕方」と、「資料編」として、『源氏物語抄(紹巴抄)』の「写本・刊本項目対照表」、「論考編」として、研究代表者がこの3年間に発表した底本の紹介と古活字本と整版本の異同に関する書誌学的研究の論文3編を一部補訂して再録した。

本研究で対象作品に『源氏物語抄(紹巴抄)』を取り上げたのは、前述のように「翻刻平安文学資料稿」において全文を翻刻刊行した実績があることと、底本に採用可能な版本が研究代表者の勤務校に所蔵されていることとによるが、あくまで『源氏物語』古注釈資料の1サンプルとして便宜的に取り上げたに過ぎない。注釈史的には、江戸時代に広く流布した北村季吟の『源氏物語湖月抄』や、それより古くは中院通勝の『岷江入楚』などの方が、注釈の水準からも諸注集成的な性格からもはるかに利用価値が高いであろう。本研究は、『源氏物語』古注釈資料のデータベース化の方法と形態を模索した成果であると理解していただきたい。このような形で『湖月抄』や『岷江入楚』をはじめとする主要な古注釈書がデータベース化されて、一括処理や相互参照が可能になれば、一大古注集成として『源氏物語』の研究に大きく裨益するものになることは間違いない。本研究がそのための第一歩となることを願うものである。(研究代表者 妹尾好信)

## 研究組織

研究代表者	妹尾好信	(広島大学・大学院文学研究科・助教授)
研究分担者	西本寮子	(県立広島大学・人間文化学部・教授)
	黒木香	(活水女子大学・文学部・助教授)
	古瀬雅義	(安田女子大学・文学部・助教授)
	森下要治	(広島文教女子大学・人間科学部・助教授)
	中村康夫	(国文学研究資料館・文学形成研究系・教授)

## 交付決定額(配分額)

平成15年度	1,200,000円
平成16年度	800,000円
平成17年度	1,100,000円
総計	3,100,000円

(直接経費のみ)

## 研究発表

### (1) 学会誌等

- 妹尾好信 広島大学蔵刊本『源氏物語抄（紹巴抄）』とその書き入れについて  
広島大学大学院文学研究科論集 第63巻 2003年12月
- 妹尾好信 広島大学蔵刊本『源氏物語抄（紹巴抄）』箒木巻の書入れについて  
古代中世国文学（広島平安文学研究会） 第20号 2004年1月
- 妹尾好信 『源氏物語抄（紹巴抄）』の古活字本と整版本  
広島大学大学院文学研究科論集 第64巻 2004年12月
- 妹尾好信 『源氏物語抄（紹巴抄）』の古活字本から整版本へ  
一項目異同から見た改訂の様相一  
広島大学大学院文学研究科論集 第65巻 2005年12月

### (2) その他

なし

※本研究には、研究代表者および研究分担者のほかに、次の方々の協力を得た。ここに  
お名前を記して、厚く御礼申し上げる次第である（所属・身分は平成17年度現在）。とり  
わけ、安道・小川両氏には、データの入力・点検、異同調査からプログラム処理にい  
たるまで、さまざまな分野で多大な貢献を得たことを特記しておきたい。

田野 慎二（広島国際大学・専任講師）

安道百合子（国文学研究資料館・研究支援員）

松本 智子（国文学研究資料館・非常勤研究員）

猪川 優子（弓削商船高等専門学校・助教授）

小川 陽子（広島大学・大学院文学研究科博士課程後期修了）

新居 和美（広島大学・大学院文学研究科博士課程後期在学）

# データベースの利用の仕方

## はじめに

本研究で作成した『源氏物語抄（紹巴抄）』のデータベースは、添付の DVD-ROM 1 枚に収めてあります。DVD-ROM の内容は以下の通りです。

### フォルダ名

〔散文検索システム〕……「散文検索システム」のインストールに必要なファイル類。

〔整版本『紹巴抄』データベース〕……「散文検索システム」に登録して利用できる整版本『紹巴抄』のマスターデータ。

〔広島大学蔵整版本画像〕……「散文検索システム」に登録して利用できる広島大学蔵整版本『紹巴抄』の全見開き画像。「Jpg」（ジエイペグ・精細画像）と「Bmp」（ビットマップ・簡易画像）というフォルダ内に、それぞれの種類の画像データが1冊ごと1フォルダに収められています。「Index」は検索システム上でテキストデータとリンクさせるために必要なデータです。

〔「資料稿」画像〕……「翻刻平安文学資料稿」第二期全10冊所収の翻刻本文の全見開き画像。「資料稿第1分冊」～「資料稿第10分冊」というフォルダ内に、各冊の翻刻本文部分の全画像がJpg画像で収められています。また「画像と項目番号対照表.csv」というファイルを開くと、「資料稿」の画像ファイル名と項目番号との対応関係が一覧できます。

〔「写本・刊本項目対照表」データ〕……研究成果報告書（冊子）の「資料編」に収めた「写本・刊本項目対照表」のデータと凡例です。

〔利用の仕方〕……この「データベースの利用の仕方」の文書データです。

データベースをお使いになるには、はじめに「散文検索システム」をインストールしてください。「整版本『紹巴抄』データベース」と「広島大学蔵整版本画像」は、「散文検索システム」に登録して利用できる形に整えてあります。システムのインストールのあと、これらのデータを登録していただくことになります。

## 1. 「散文検索システム」のインストール

### \*セットアップ前の確認事項\*

すでに「散文検索システム」がインストールされているかどうか、ご確認ください。

- ・「散文検索システム V1.100」（「国文学研究資料館データベース 古典コレクション」『歴史物語』以降に添付のシステム）または V2.\*\* をインストールされている場合は、新たにシステムをインストールする必要はありません。そのまま「整版本『紹巴抄』データベース」を登録してお使いいただけます。また、「整版本『紹巴抄』データベース」を登録しても、すでに登録されているデータベースが消えることはありません。一緒に利用することができます。
- ・ V1.\*\*（小数点以下2桁）のバージョンのものがインストールされている場合は、本報告書添付の「散文検索システム」を新たにインストールしてください。「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」から、すでに入っている旧バージョンの「散文検索システム」をアンインストールした上で、インストール手順へお進みください。なお、アンインストールしても登録されたデータベースが消えることはありません。新しいシステム上で一緒にお使いいただけます。

### \*インストール手順

- 1) 「マイコンピュータ」をダブルクリックして開きます。
- 2) 「DVD」ドライブをダブルクリックします。
- 3) 「散文検索システム」をダブルクリックします。
- 4) 「SETUP.EXE」ファイル（パソコンの絵のアイコン）をダブルクリックするとインストールが始まります。指示に従って「次へ」を押し順に進んでください。

- 5) セットアップが完了すると「セットアップの完了」画面になります。
- 6) ただちにプログラムを開始するときはチェックを付け「終了」ボタンを1回クリックします。これでセットアップ完了です。チェックを付けた場合はすぐに「Sanbun」画面になります。

- ・セットアップ終了後ひきつづいて[マスタデータの登録][画像データの登録][画像ビューアの登録]を行います。「3. 「整版本『紹巴抄』データベース」の登録」に登録手順を説明してあります。

## 2. 「散文検索システム」について

「国文学研究資料館データベース 古典コレクション」シリーズという電子出版物があります。電子出版物は、データとそれを利用するソフトウェアとが一体になっているのが一般的ですが、この「古典コレクション」シリーズは、応用自在なソフトウェアと、それに登録できる構造のデータが販売されている、というかたちです。データ記述仕様（データフォーマットと呼びます）がすべて公開され、利用者によるデータの改変や追加を許容するという、開放型・参加型のシステムとして他に例を見ないソフトウェアとなっています。したがって、シリーズ既出版のものに添付のシステムは、発売当時のパソコンのOSに合わせてバージョンアップはされていますが、基本的に同じシステムです。既出版のデータベースのうち、「散文検索システム」で利用できる作品は、『源氏物語（絵入）』『吾妻鏡』『歴史物語（栄花物語・大鏡・今鏡・水鏡・増鏡）』『兼永本古事記・出雲国風土記抄』があります。このシステム上では、複数の作品を登録できるため、複数の作品を横断的に検索することが可能で、しかも登録作品を増やしていくことができるのです。

本研究で作成した「整版本『紹巴抄』データベース」においても、このシステム上で利用できるフォーマットのデータを作成しました。システム開発が、本研究の研究分担者の一人である中村康夫（国文学研究資料館教授）の科研費（平成10年度～13年度科学研究費基盤研究(A)(2)「古典籍原本データベースにおけるテキストと絵図の構造的検索の研究」）で行われたものであることと、既出版の『源氏物語（絵入）』と同時に登録することで、本データベースの利用価値がより高まると判断されることが主な理由です。また、今後、『源氏物語』古注釈資料のデータベース化を継続していくにあたり、同じフォーマットで作成することは、作成作業の効率が高いばかりでなく、諸作品と同時に利用できることで個々の注釈書の研究を深めることが期待できます。将来的に、『源氏物語』古注釈固有のデータベース利用環境を整えること（固有のシステム開発）を視野に入れても、テキストデータで、応用利用可能な状況で作成してあるということの利点は大きいと思われる。

では、次に、「散文検索システム」に登録できるデータのフォーマットについて、簡単に説明します。基本は、原本の状態を再現できるということにあるため、イメージデータとテキストデータの2種類のデータを、本の位置情報（冊・ページ・行）で管理する構造になっています。さらに、テキストデータは作品・巻・小見出しというように内容によって階層構造になっており、1行のデータごとに「本文領域」・「標準領域」・「注記領域」・「メモ領域」という4領域のデータを持っています。底本にある文字情報をすべてテキストデータにするだけでなく、全体を通して検索の便宜のために表記を整えた領域や、参考資料とのリンク情報などを盛り込むことができるようになっているわけです。汎用性の高いシステムであるため、各領域の内容は、底本の性質や利用者の用途に応じて、自在に作りこむことが可能です。

『紹巴抄』の場合、その本文の性質から、項目とそれ以外の情報とを分けること、整版本に見えるふりがな情報や訓点の情報を生かすこと、検索の便宜を優先して付訓情報にさえぎられない白文の本文も必要であること、『源氏物語』の本文に戻って確認するために『源氏物語』本文データベースとのリンク情報が必要であること、などをまず重視しました。さらに『紹巴抄』諸本の比較研究のために、写本との比較は、本研究の研究代表者である妹尾好信が現在代表をしている広島平安文学研究会刊の「翻刻 平安文学資料稿」第二期に活字翻刻されている写本『紹巴抄』（故稲賀敬二先生蔵本）の版面を利用して翻刻本文部分の全見開き画像を収めることで可能ならしめ、本データベースでも同書の項目番号と同番号を採用して対照の便宜をはかることとしました。そして、古活字本との比較については、本データベースにその異同情報を盛り込むことにしました。さらに、「写本・刊本項目対照表」を作成して、3本の項目異同を一覧できるようにしてあります。その結果、「本文領域」では、『源氏物語（絵入）』データベースの「本文領域」にかなり近いかたちの白文を、「標準領域」には返り点・送り仮名・連辞符なども残して底本の状態を再現できる本文を、「注記領域」には、これも『源氏物語』データベースと同じふりがなや行間情報を、そして「メモ領域」には項目番号と『源氏物語大成』の頁・行情報とを入れることにしました。

\*データフォーマットと、「整版本『紹巴抄』データベース」の記述内容です。下図は「散文検索システム」に登録したときの画面の状態です。基本フォーマットは階層構造をわかりやすく示すためにタグ(テキストデータの中にある「¥(アルファベット)」の目印)の開始位置をずらして記しています。実際のテキストデータには空白は作らないので、開始位置がずれることはありません。

【「整版本『紹巴抄』データベース」のデータフォーマット】

¥A 作品名 (¥A源氏物語紹巴抄 (整版本))

¥T 巻名 (¥T源氏物語抄巻第一)

¥M 見出名 (¥M桐壺) ……ここには『源氏物語』の巻名が入ります。

¥B本文領域 (作品本文を白文で示す)

V 何冊目にあたるかを示す。全角2桁。……V・P・Lは本文の場所を示すタグ。

P 頁 全角3桁

L 行 全角2桁

¥C標準領域 (送り仮名/返り点・連辞符(=音読・一訓読)などを原本通りに再現する。古活字本との異同を示す)

V 冊

P 頁

L 行

¥D注記領域 (原本にあるふりがな・傍記などを示す。下図の場合(11)文字目に「ラウ」とふりがながあることを意味する)

V 冊

P 頁

L 行

¥Eメモ領域 (項目【項目番号】大成【頁・行】)

V 冊

P 頁

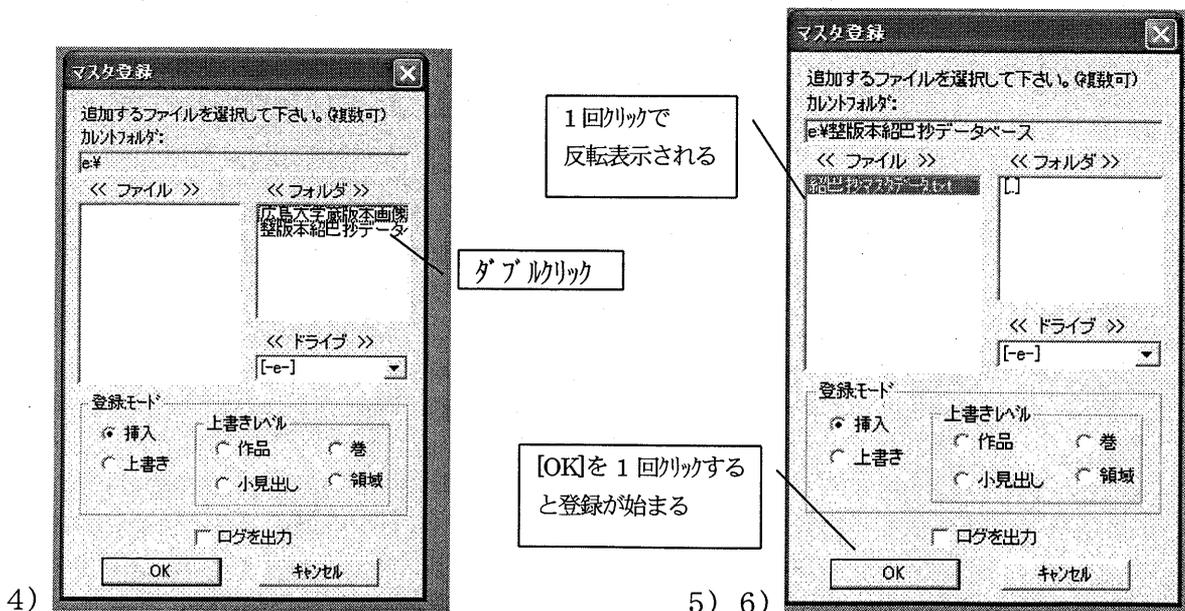
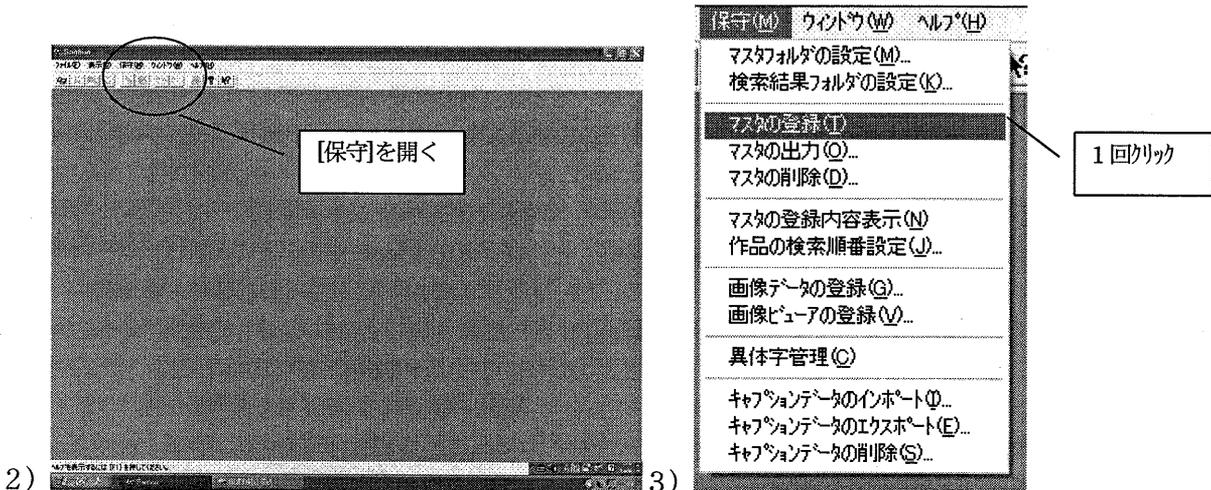
L 行



### 3. 「整版本『紹巴抄』データベース」の登録

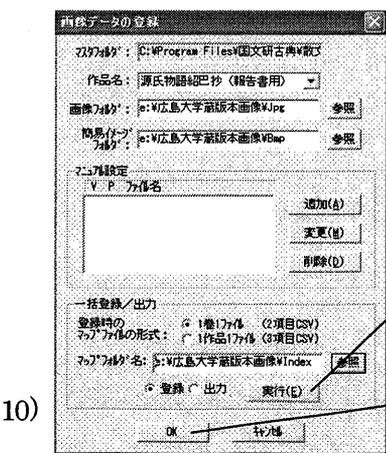
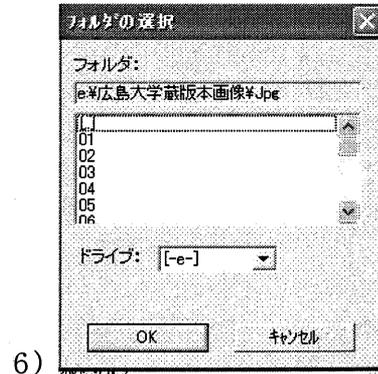
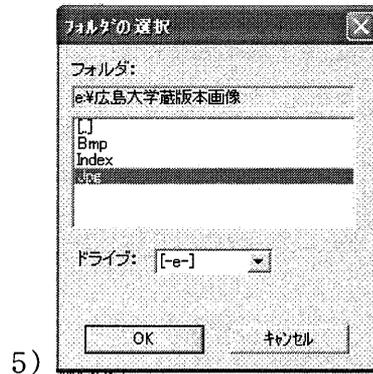
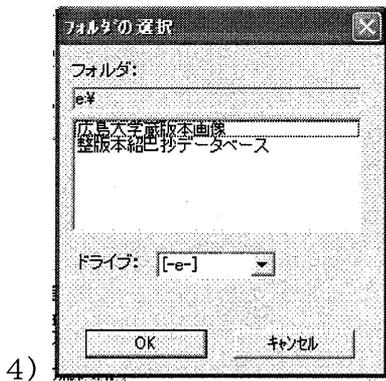
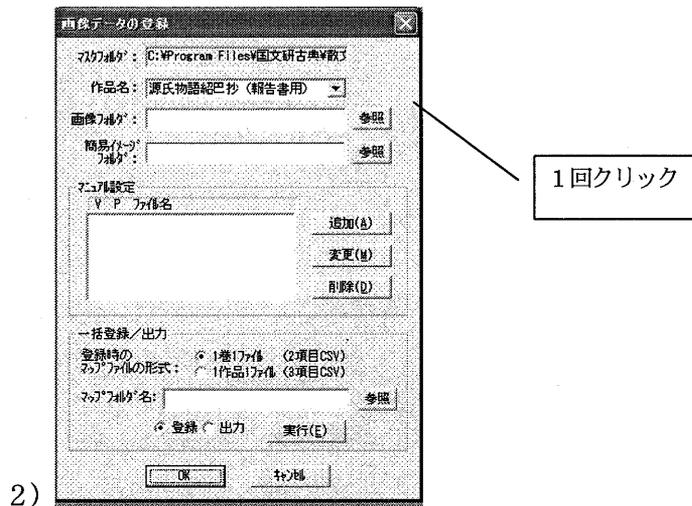
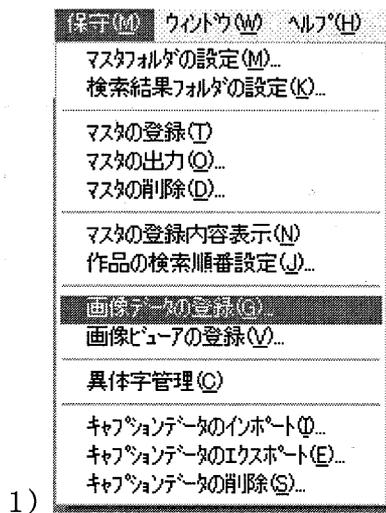
#### \* マスタデータの登録

- 1) [スタート]→[すべてのプログラム]→[散文検索システム v2.31]→[散文検索システム v2.31]の順にクリックし、システムをスタートさせます。
- 2) 「Sanbun」画面が開きます。
- 3) 「保守」→「マスタ登録」をクリックします。
- 4) 「マスタ登録」の画面が中央に出ます。
- 5) 《ドライブ》を DVD-ROM ドライブに設定し、《フォルダ》に表示されるなかから「整版本紹巴抄データベースフォルダ」をダブルクリックします。
- 6) 《ファイル》に表示される「紹巴抄マスタデータ」を1回クリックして反転表示させます。
- 7) [OK]ボタンを1回クリックします。[マスタ登録中]という画面が表示されます。しばらくお待ちください。
- 8) 「マスタ登録が終了しました」と表示されたら、[OK]を1回クリックします。



\* 画像データの登録

- 1) 「保守」→「画像データの登録」をクリックします。
- 2) 画面中央に「画像データの登録」画面が出ます。作品名に「源氏物語紹巴抄」とあることを確認します。
- 3) 見出し《画像フォルダ》の[参照]をクリックします。
- 4) 「フォルダの選択」画面が出たら、[ドライブ]を選びDVD-ROMドライブにします。
- 5) [フォルダ]名のなかから「広島大学蔵版本画像」をダブルクリックします。
- 6) 「Jpg」フォルダをダブルクリックし、最上欄に「e:\広島大学蔵版本画像\Jpg」と表示されたら[OK]を1回クリックします。
- 7) 見出し《簡易イメージフォルダ》の[参照]をクリックします。
- 8) 4)～6)と同じ手順で「e:\広島大学蔵版本画像\Bmp」と表示させ、[OK]を1回クリックします。
- 9) 下枠「一括登録/出力」内の《マップフォルダ名》の[参照]をクリックします。
- 10) 4)～6)と同じ手順で「e:\広島大学蔵版本画像\Index」と表示させ、[OK]を1回クリックします。
- 11) [実行]を1回クリックします。画面中央に「対応表登録」と表示され、処理されます。
- 12) 「終了しました」と出たら[OK]を1回クリック。「画像データの登録」画面に戻ったら一番下の[OK]を1回クリックします。

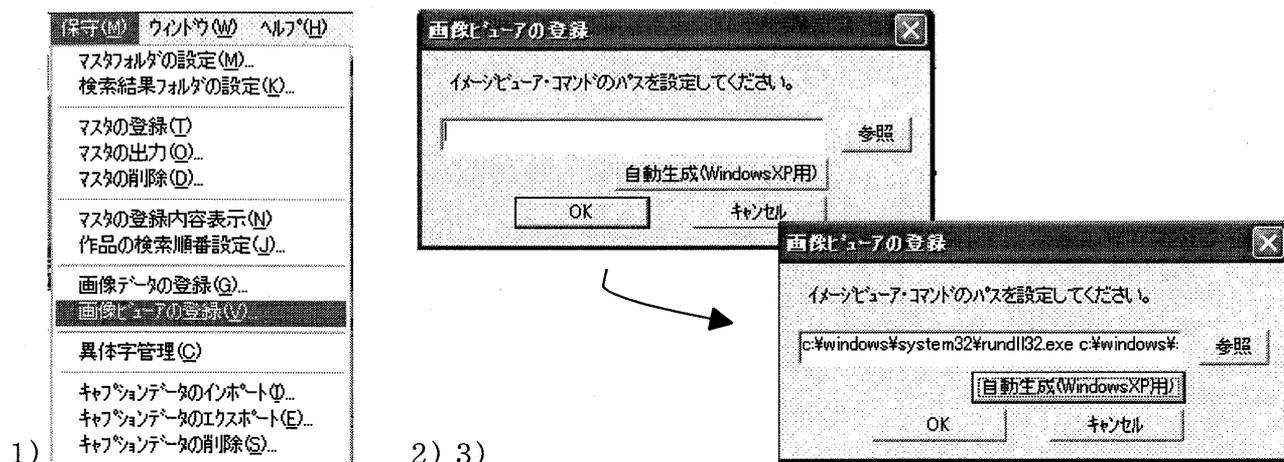


[実行]ボタンを1回クリックすると「対応表登録」という画面が出て処理されます。

[OK]ボタンは登録処理後、一番最後にクリックします。

### \*画像ビューアの登録

- 1) 「保守」→「画像ビューアの登録」をクリックします。
- 2) 「画像ビューアの登録」画面が表示されます。
- 3) WindowsXP をお使いの場合は「自動生成 (WindowsXP 用)」ボタンを1回クリックすると、枠内にパスが表示されます。〔 →5) へ進む 〕
- 4) WindowsMe・98・95をお使いの場合は[参照]ボタンを1回クリックします。「ファイル選択」画面が表示されますので、「Imaging」ソフトが入っている場所を選択します。ファイル名は「Wanging.exe」または「Kodaking.exe」となっている場合もあります。
- 5) [OK]ボタンを1回クリックします。

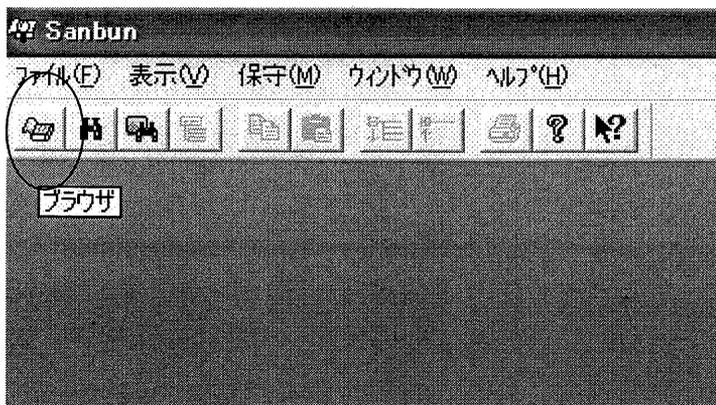


\*以上で「整版本『紹巴抄』データベース」の登録は完了です。

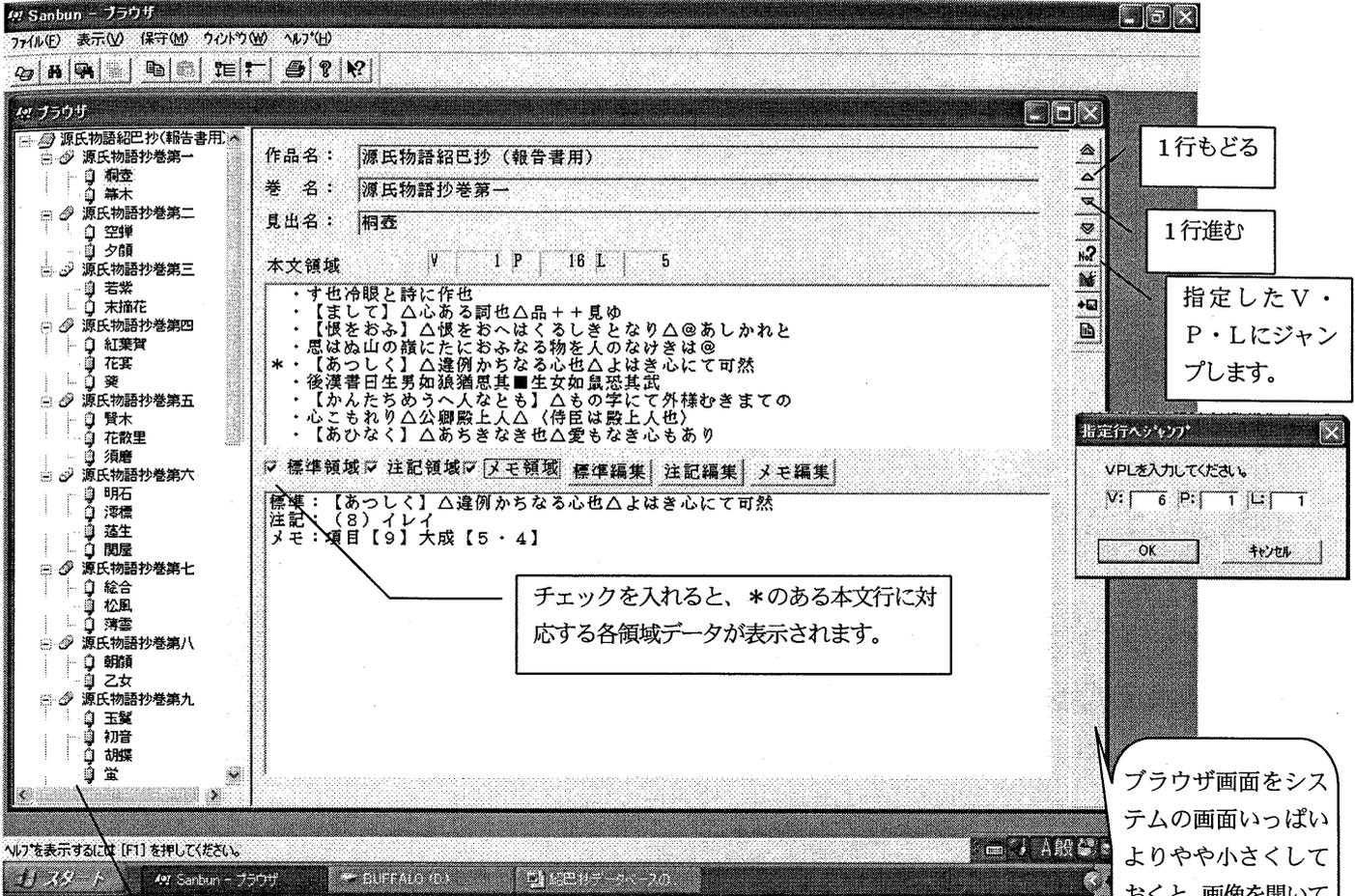
### 4. 「整版本『紹巴抄』データベース」の利用

#### \*縦覧画面をひらく

- 1) 「散文検索システム」をスタートさせると、最初の画面には何も表示されません。
- 2) 「ファイル」→「ブラウザ」を1回クリックするか、あるいは、メニュー表示の下にあるアイコンと呼ばれるボタンの左端の「本を開いている絵」のボタンを1回クリックすると画面があらわれます。最初に表示される画面は「ブラウザ」という画面で、データベースを縦覧するためのものです。

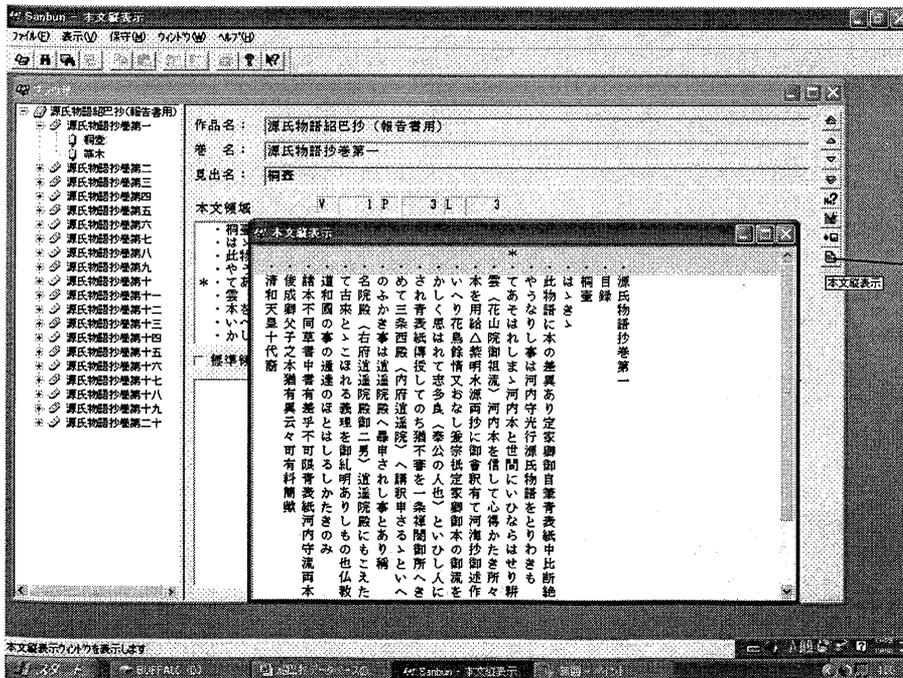


\*ブラウザ画面の説明

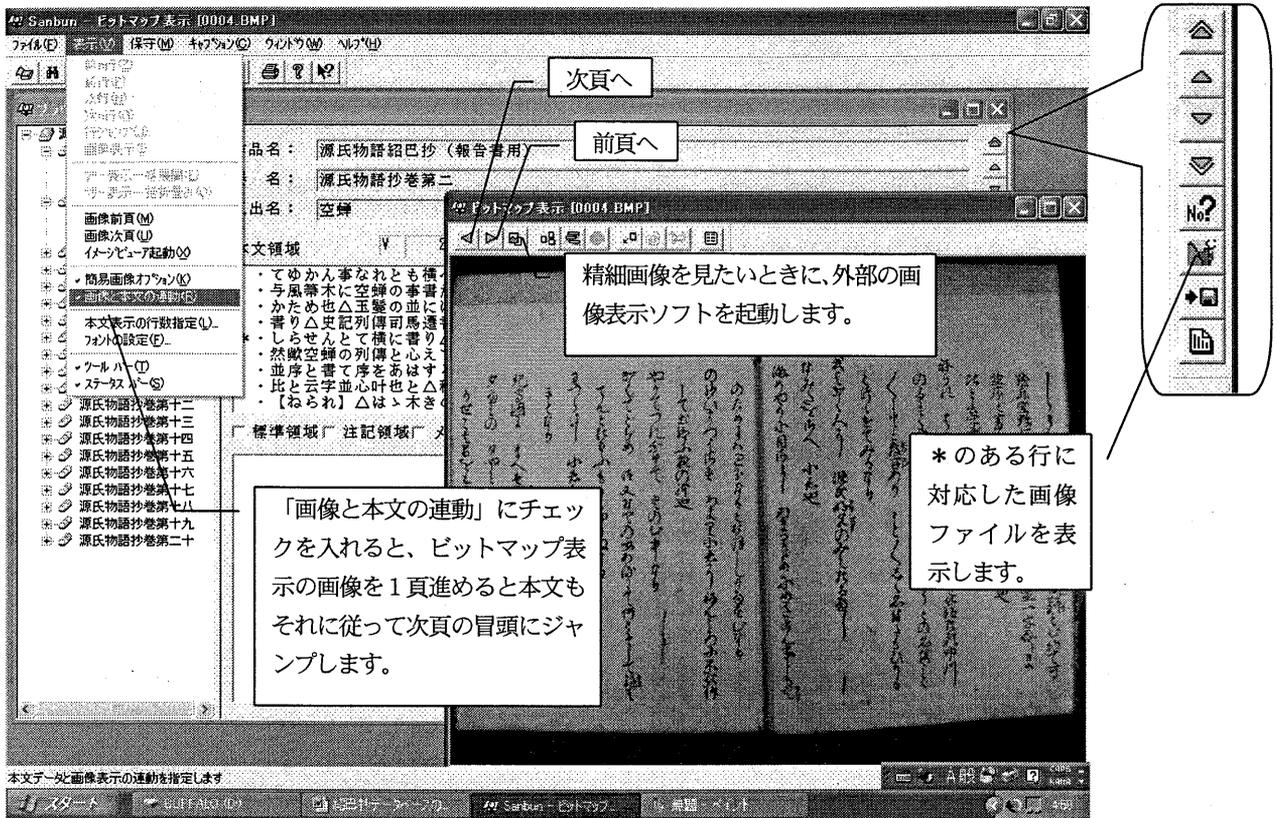


左側には作品名・巻名・見出し名の構成が表示されます。目的の巻・見出しをダブルクリックすると右側の画面にその巻・見出しの冒頭が表示されます。

ブラウザ画面をシステムの画面いっぱいよりやや小さくしておくと、画像を開いて縦覧する時に便利です。



「本文縦表示」ボタンをクリックすると、新たにウィンドウが開いて、本文領域が縦書きで表示されます。



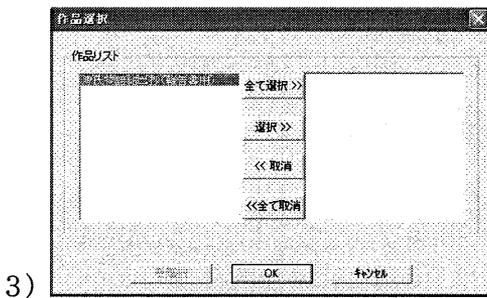
**\* 検索**

このボタンを1回クリックすると、検索条件入力画面を表示します。

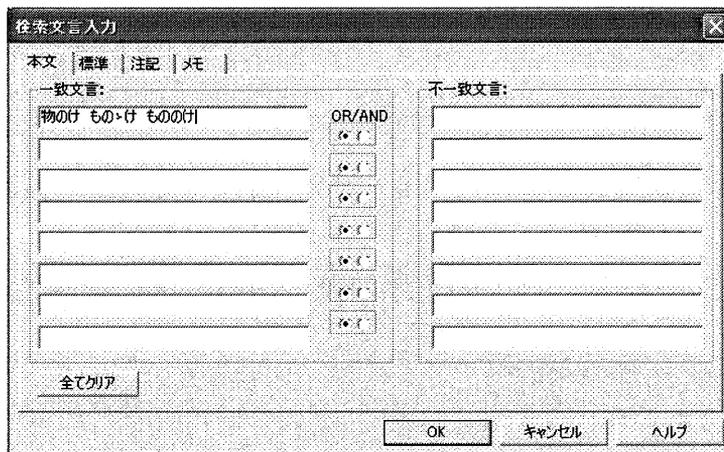


**\*検索の手順**

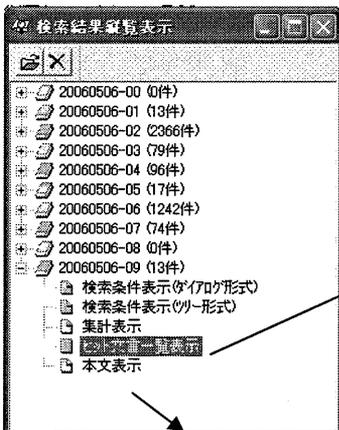
- 1) 「ファイル」→「検索」を選択します。またはメニュー表示の下にある「双眼鏡の絵」のボタンをクリックします。
- 2) 画面中央に「検索条件入力画面」が表示されます。
- 3) 「検索対象」にチェックを入れると「作品選択」画面が表示されます。左の枠内から対象にしたい作品を一回クリックして反転表示させます。
- 4) 「選択」をクリックすると、選んだ作品が右の枠内に移動します。
- 5) [OK]ボタンを押すと、ふたたび「検索条件入力画面」に戻ります。次に「検索文言入力」にチェックを入れます。
- 6) 「検索文言入力」画面が表示されます。各領域に検索文言を入れることができます。ひとつの枠内に文言を一文字あけて入力すると、「OR」検索をします。ふたつの枠にそれぞれ文言を一語入れて「AND」をチェックすると、「AND」検索をします。複数の領域にまたがる場合はいったん文言入力をしたあとで、「検索条件入力画面」に戻り「複合検索条件の入力」をチェックして検索方法を指示します。また、一致文言に「かなし」不一致文言に「はかなし」と入れると、「はかなし」をのぞいて「かなし」を検索します。
- 7) 「検索を正常に終了しました」の表示のあと、「検索結果縦覧表示」が出ます。
- 8) 「ヒット文言一覧表示」や「本文表示」ができ、ファイル出力して利用することもできます。



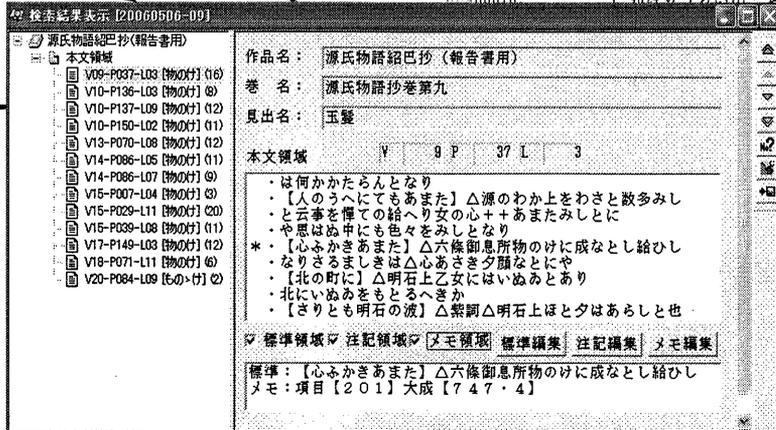
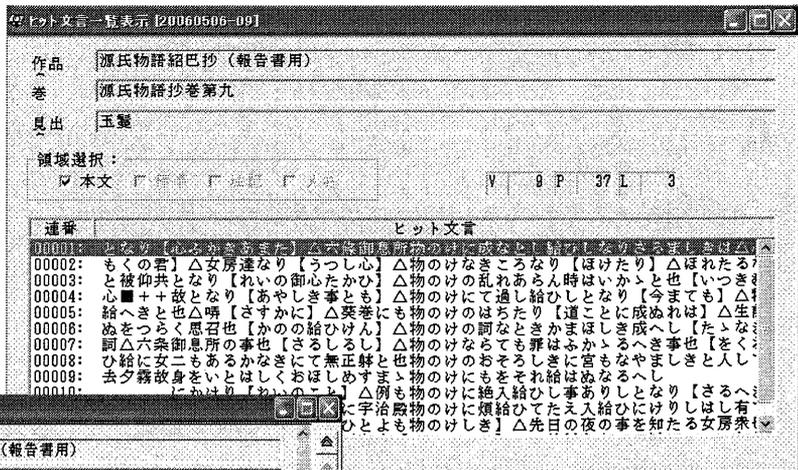
3)



6)



7)





- 4) 入力に際しての記号は基本的に『源氏物語（絵入）』に準じましたが、訓点や連辞符については以下の基準で入力してあります。

《全領域に使われる記号》

- ++ ヲドリ字（2字以上を繰り返す符号）
- △ 原本のスペース  
\*ただし、「本文領域」については語句をさえぎらないことを優先し、改行直後の△はとってあります。
- 〈 〉 割書き

《標準領域（原本の再現領域）に使われる記号》

- \$ 漢字に濁点が付されている場合、当該漢字の後
- = 音読みを意味する連辞符（字間中央にあるもの）
- 訓読みを意味する連辞符（字間左側にあるもの）
- ☆ 文字でない記号・系図部分の線など
- {/} 訓点を再現するために用いた記号  
\*訓点については、“ {送り仮名/返り点} ”のかたちで入力してあります。

《注記領域（傍記情報）に使われる記号》

- # ふりがなでない傍記がある場合、当該傍記の頭
- ・(ナカグロ) 傍記が左右にある場合、左右の傍記を分ける記号  
\* “ 右側の傍記・左側の傍記 ”のかたちで入力しています。
- (左線) (右線) 音読符・訓読符の傍線  
\* 読みを再現してありません。

- 5) 漢字は原則として原本通りを優先しましたが、異体字を通行の字体に改めた場合があります。異体字の統一、新旧字体の統一処理を施しておりませんので、字体の別を問わず検索したい場合には、DVD-ROM内の「異体字表」を別途「散文検索システム」に登録し、検索オプション「異体字テーブルの選択」をチェックしてご利用ください。詳細はシステムの「ヘルプ」を御覧ください。

- 6) テキストデータに入力できない特殊な漢字は、やむなく■で表してあります。当該文字については「広島大学蔵整版本画像」によって確認していただきたいと思ひます。

(※本稿の作成には、安道百合子氏の全面的な協力を得ました。記して御礼申し上げます。 妹尾好信)

資 料 編

# 写本・刊本項目対照表

## 〔凡 例〕

- 1、『源氏物語抄（紹巴抄）』は、『源氏物語』本文から1語ないしは連続した数語から成る表現を抜き出し、その語句について注釈を加える体裁をとる。その際、『源氏物語』から抜き出した語句を行頭から書き始め、その下に1字分の空白を置いて注釈を書いており、注釈文が2行以上にまたがるときは2行目以下は行頭を1字分下げて書きつないでいる。『源氏物語』からの抽出語句一つとそれに施された注釈文を1単位として「項目」と呼ぶことにする。とくに、行頭から書き始められる『源氏物語』からの抽出部分を「項目の見出し」、それ以外の注釈部分を「注釈本文」と呼んで区別する。
- 2、本対照表は、テキストデータベースの底本とした広島大学蔵の整版本『源氏物語抄（紹巴抄）』の項目の見出しを、故稲賀敬二先生蔵（現安田女子大学図書館蔵）の写本を底本とする広島平安文学研究会刊「翻刻 平安文学資料稿」第二期『永祿奥書 源氏物語紹巴抄』の活字翻刻本と古活字本（国文学研究資料館蔵の東洋文庫蔵本と陽明文庫蔵本の紙焼写真を参照した）の項目の見出しを対照して、相互の異同を示す目的で作成したものである。以下、それぞれの本を「整版本」・「資料稿底本」・「古活字本」と略称する。
- 3、項目の見出しは「整版本」を基準とする。「整版本」の項目と同じ場合には「資料稿底本」・「古活字本」の欄は空白とし、異なる場合のみ各本の項目の見出しを掲げた。ただし、濁点や声点・合点などの記号の有無については異同とは認めなかった。「資料稿底本」については、漢字のあて方や送りがなの付け方の相違、単純な仮名遣いや漢字の字体の相違なども異同と見なしていない。
- 4、項目の見出しの認定については、書式の相違も判断基準とする。すなわち、行頭から書き始められていること、見出しの下に1字分の空白があることをもって「見出し」と認定する。1字分の空白は「△」で示し、空白の有無に異同がある場合、その違いを明確にするために、見出しの下に「△」を入れて示した場合がある。
- 5、項目となっているが誤りと見なされるものには項目番号の前に「×」記号を付し、「資料稿底本」と刊本との間で項目の順序が前後している場合には「\*」記号を付した。なお、見出しとなるべき語句が存在しない場合は「〈欠〉」とし、前後の項目に埋没している場合は「〈ナシ〉」として状況を（ ）内に補記した。
- 6、項目番号は、既刊の「資料稿」との対応を図って、「資料稿」の翻刻本文に施された項目番号をそのまま用いることとした。「資料稿」に使われているダッシュ記号（<sup>˘</sup>）や丸括弧（ ）で囲んだ項目番号なども、その表記に従う。なお、「資料稿」では基本的に項目番号の連番のミスを補う場合にダッシュが使用され、版本などによって補った場合に丸括弧を使用しているが、とくに説明が必要と思われる場合は適宜「備考」欄に補記した。また、「資料稿」において項目番号の与えられていない項目がある場合は、直前の番号に「+」記号を加えて区別し、連続して複数ある場合には、「+」「++」「+++」のように「+」記号の数で区別することとした。
- 7、項目の見出しに2字以上繰り返す符号が使われている場合は「++」で表し、見出しが空白なく下に続く場合は「…」で示した。また、傍書を（ ）内に記した場合がある。
- 8、参考のために、項目の見出しに掲げられた『源氏物語』の語句の所在を『源氏物語大成』校異篇のページと行数で示した。

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
桐壺	1	いつれの御時	いつれの御時にか			5・1
桐壺	2		女御更衣			5・1
桐壺	2+		更衣			5・1
桐壺	3		やんことなき			5・1
桐壺	4		時めく			5・2
桐壺	5		はしめより			5・2
桐壺	6		めさましき			5・2
桐壺	7		まして			5・3
桐壺	8		恨をおふ			5・4
桐壺	9		あつく			5・4
桐壺	10		かんたちめうへ人なとも			5・7
桐壺	11	あいなく	あひなく			5・7
桐壺	12	目をそはめ	目をそはめつゝ			5・7
桐壺	13		もろこしにも			5・8
桐壺	14		はしたなき			5・10
桐壺	15		父大納言			5・11
桐壺	16		よしあるにて			5・12
桐壺	17		はか++しき			5・14
桐壺	18		よりところ			5・14
桐壺	19		玉のおのこ			6・1
桐壺	20		みかたちなり			6・3
桐壺	21	いちのみこは	いちのみこ			6・3
桐壺	22		右大臣			6・3
桐壺	23		よせおもく			6・4
桐壺	24		まうけの君			6・4
桐壺	25		はしめより			6・7
桐壺	26		みえし			6・11
桐壺	× 27	あらさりき	〈ナシ〉(△1字下ゲ・26注ノ一部)			
桐壺	28		おほとのこもり			6・10
桐壺	29		まつはず			6・8
桐壺	30		ほうにもようせすは			6・12
桐壺	31		人よりさき			6・13
桐壺	32		かしこきみかけ			7・1
桐壺	33		中++			7・3
桐壺	34	みつほねは桐壺也	みつほねは			7・3
桐壺	35		うちはしわた殿			7・6
桐壺	36		あやしきわさ			7・6
桐壺	37		まさなき			7・6
桐壺	38		をくりむかへ			7・7
桐壺	39		はしたなめは			7・8
桐壺	40		こうらうてん			7・10
桐壺	41		さうじ			7・10
桐壺	42	まして	〈ナシ〉(41注ノ一部)			7・11
桐壺	43		このみこみつに			7・11
桐壺	44		くらつかさおさめとの			7・12
桐壺	45		をよすけ			7・14
桐壺	46		五六日			8・5
桐壺	47	まかてさせと書て	まかてさせと書て…			8・6
桐壺	48		ごとにおいて			8・10
桐壺	49		たゆけ			8・12
桐壺	50		われかの			8・13
桐壺	51		てくるまのせんし			8・13
桐壺	52		かきりとての哥			9・3
桐壺	53		いとかく思			9・3
桐壺	54		けふはしむへき			9・5
桐壺	55		みこはかくても			9・11
桐壺	56		なにことかあらん			9・12
桐壺	57		よろしき			9・14
桐壺	58		をたき			10・3
桐壺	59		むなしき御から			10・4
桐壺	60		いまは			10・5
桐壺	61		さは	さはされはこそと人++云也		10・7
桐壺	62		みつのくらゐ			10・8
桐壺	63		せんみやう			10・9
桐壺	64		いまきさみ			10・10
桐壺	65		給ひしか			10・13
桐壺	66		さまあしき			10・13
桐壺	67		心はせ			10・12
桐壺	68		すげなふ			10・13
桐壺	69		なくてそ			10・14
桐壺	70	野分	野分たちてはたさむき			11・7
桐壺	71		ゆけい			11・8
桐壺	72		やみのうつゝには			11・12
桐壺	73		門引いるゝ			11・12
桐壺	74		やもめ			11・13
桐壺	75		荒たる心ちして			12・1
桐壺	76		やへむくら			12・1

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
桐壺	77	内侍の一	内侍の	内侍の一		12・5
桐壺	78		思ひしつまる			12・7
桐壺	79		めもみえ			12・13
桐壺	80		ほとへは			12・14
桐壺	81		ためらふ			12・14
桐壺	82		いはけなき			13・1
桐壺	83	宮城野の歌	宮きのゝ			13・5
桐壺	84		命なかけ			13・5
桐壺	85		松のおもはん			13・6
桐壺	86		もゝしき			13・6
桐壺	87		ゆゝしき			13・11
桐壺	88		くれまとふ			13・14
桐壺	89		わたくし			13・14
桐壺	90		かへすかへす			14・2
桐壺	91		すか++		105ト重複。	16・2
桐壺	92		思ひくつおる			14・5
桐壺	93		よこさまなる			14・9
桐壺	94		人の心をまけたる			14・13
桐壺	95		かたくなに			15・2
桐壺	96		いたう			15・3
桐壺	97		むしの声			15・5
桐壺	98		すゝむしの哥			15・7
桐壺	99		いとゝしく哥			15・9
桐壺	100		かことも			15・9
桐壺	101	御さうそく一くたり	御さうそく一くたり一領	御さうそく一くた		15・11
桐壺	102	みくしあけ	みくしあけの			15・11
桐壺	103		わかき人++			15・12
桐壺	104		さう++しき			15・13
桐壺	105		すか++		91ト重複。	16・2
桐壺	106		つほせんさい			16・3
桐壺	107		ていしのあん			16・6
桐壺	108		長恨歌の御系			16・6
桐壺	109		まぐらこと			16・7
桐壺	110	あらき風歌	あらきかせ			16・11
桐壺	111		みたりかはしき			16・11
桐壺	112		故大納言			17・1
桐壺	113		さるへき			17・3
桐壺	114		命なかく			17・4
桐壺	115		なき人の			17・5
桐壺	116		尋行まほろし哥			17・7
桐壺	117		系にかける			17・7
桐壺	118	大液の一	大液の			17・8
桐壺	119		花とりの色にも音にも			17・10
桐壺	120		ことくさ			17・11
桐壺	121		あそひをそ			17・14
桐壺	122		月もいりぬ			18・3
桐壺	123	雲のうへも歌	雲の上も			18・4
桐壺	124		ともし火を			18・4
桐壺	125		右近のつかさ			18・5
桐壺	126		よるのおとゝに			18・6
桐壺	127		あくるもしらず			18・7
桐壺	128		猶あさまつりこと			18・7
桐壺	129		朝かれみ			18・9
桐壺	130	大床子の	大床子のおもの			18・9
桐壺	131		はいせん			18・10
桐壺	132		この御事に			18・13
桐壺	133		たいだいしき			19・1
桐壺	134		さゝめく			19・1
桐壺	135		坊さたまり			19・3
桐壺	136		かきりこそ			19・5
桐壺	137		世の人			19・5
桐壺	138	御おは北の	御おは北方			19・6
桐壺	139		年比から返++の給ひけるまで			19・9
桐壺	140		文はしめなど			19・11
桐壺	141	らうたし	らうたうし			19・13
桐壺	142		女みこ			20・1
桐壺	143		なまめかしく			20・3
桐壺	144		うちとけぬ			20・4
桐壺	145		人の御さま也			20・5
桐壺	146		こまうと			20・6
桐壺	147		宮のうちに			20・7
桐壺	148		こうろくはん			20・8
桐壺	149		右大弁			20・9
桐壺	150		国のおや			20・10
桐壺	151		ざへ			20・13
桐壺	152		いみしきをくり物			21・3
桐壺	153		やまとさうを			21・5
桐壺	154		むほん親王			21・7

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
桐壺	155		たゝよふ			21・7
桐壺	156		げさく			21・8
桐壺	157		いよ++みち++			21・9
桐壺	158		きはことに			21・10
桐壺	159		すくよう			21・12
桐壺	160		源氏に			21・12
桐壺	161		先帝の四君			22・1
桐壺	161+		四君			22・2
桐壺	162	三たいの	三だい			22・5
桐壺	163		きさい			22・6
桐壺	164		みかたち人			22・7
桐壺	165		すか++			22・10
桐壺	166		みうしろみたち			22・12
桐壺	167		御せうとの兵部卿			22・12
桐壺	168		うけばりて			23・2
桐壺	169		あかぬことなし			23・3
桐壺	170		かれは			23・3
桐壺	171		こよなく			23・4
桐壺	172		おほしなくさむやう			23・5
桐壺	173		うちおとなひ			23・7
桐壺	174		なつさひ			23・11
桐壺	175		うへも			23・11
桐壺	176		よそへつへき			23・12
桐壺	177		なめし			23・12
桐壺	178		にけなからず			23・13
桐壺	179		そは++			24・1
桐壺	180		もとより			24・2
桐壺	181		名たかふ			24・3
桐壺	182		ひかる			24・4
桐壺	183		かゝやく日の宮			24・5
桐壺	184		いとかへまうく			24・6
桐壺	185		十二にて			24・6
桐壺	186		みたち			24・6
桐壺	187		南殿			24・7
桐壺	188		所++			24・8
桐壺	189		くらつかさこくさうめん			24・8
桐壺	190		おはします殿			24・10
桐壺	191		いしたてゝ			24・11
桐壺	192		くはんさ			24・11
桐壺	193		ひきいれ			24・11
桐壺	194		大蔵卿蔵人			24・13
桐壺	195		かつふりし給ひて御やすみ所			25・1
桐壺	196		御そたてまつりかへて			25・1
桐壺	197		みな人なみた			25・2
桐壺	198		きひは			25・4
桐壺	199		あげおとり			25・4
桐壺	200		ひきいれの大臣のみこはらに			25・5
桐壺	200+	<ナシ>(200注ノ一部)	みうしろみ		注釈ナシ。	25・8
桐壺	201		さふらひ			25・9
桐壺	202		みき			25・9
桐壺	203		けしきばみ		注釈ナシ。、写本ハ付箋ニテ注ヲ補ウ。	25・10
桐壺	204		ものゝつゝましき			25・10
桐壺	205		おまへより			25・12
桐壺	206		うへの命婦			25・13
桐壺	207		白大うちき			25・13
桐壺	208		御さかつきの			25・13
桐壺	209		いときなき哥			26・1
桐壺	210		むすひつる哥			26・3
桐壺	211		なかはし			26・3
桐壺	212		ひたりの			26・4
桐壺	213		くらうと所の			26・4
桐壺	214		おりひつもの			26・5
桐壺	215		どむ食			26・7
桐壺	216		さぼう			26・9
桐壺	217		女君はすこしすくし			26・10
桐壺	218		このおとゝ			26・11
桐壺	219		四の君			27・3
桐壺	220		御あはひともになん			27・3
桐壺	221		おほゑとのゝ君			27・6
桐壺	222		おとなに成給て			27・8
桐壺	223	五日六日△二三日	五日△六日△二日△三日		注釈ナシ。	27・11
桐壺	224		こゝら			27・6
桐壺	224+	<欠>	おほな++			27・14
桐壺	225		おほしいたつく			27・14
桐壺	226		しげいさ			28・1
桐壺	227	さとの殿は	さとのとは二条院也			28・1
桐壺	228		修理職			28・2

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
桐壺	229		になふ			28・2
桐壺	230		いけの心			28・3
桐壺	231		おもふやうならん			28・4
桐壺	(232)		源氏生給て日数いかほとをへて禁 中二人給ふへき哉		写本八付箋ニテ文意ヲ補 ウ。	
桐壺	(233)		又源氏君の元服に録給ふ事は東 宮御元服の時の儀を表する也			
簞木	1		ひかる源氏			35・1
簞木	2		名のみこと++しく			35・1
簞木	3		すきこととをも			35・1
簞木	4		人の物いひ			35・3
簞木	5		まめたち			35・4
簞木	6	なよひか	なよひかに			35・4
簞木	7		かたの少将			35・4
簞木	8		また中將			35・5
簞木	9		さふらひようして			35・5
簞木	10		しのふの			35・6
簞木	11		めなれたるとは			35・7
簞木	12		うちましりけるまで			35・9
簞木	13		なか雨			35・10
簞木	14		御物いみ			35・10
簞木	15		なかみ			35・10
簞木	16		御よそひ			35・11
簞木	17		なにくれ			35・11
簞木	18		宮はら			35・13
簞木	19		右のおとゝのいたはり			35・14
簞木	20		この君も			35・14
簞木	21		しつらひ			36・2
簞木	22		おさ++			36・3
簞木	23	かしこまりもえをかす△と 云本もあり	かしこまりもえをかすと云本もあり			36・4
簞木	24		こゝろのうちに			36・5
簞木	25		殿上にもおさ++人			36・6
簞木	26		とのゐ所は			36・6
簞木	27		おほとのおふらちかくては			36・7
簞木	28		色++は			36・7
簞木	29		をのかし			36・11
簞木	30		えんすれは			36・12
簞木	31		やんことなくせちに			36・12
簞木	32		大そう			36・13
簞木	33	二町	二の町			36・14
簞木	34		よくさま++			37・1
簞木	35		そこに			37・3
簞木	36		御覽し所から			37・4
簞木	37		女の是はしもとなん付ましき			37・6
簞木	38		はしりかき			37・7
簞木	39		そもは			37・8
簞木	40		まことにそのかたを			37・8
簞木	41		わか心得			37・9
簞木	42		おやなど			37・10
簞木	43		あかめて			37・11
簞木	44		おひさき			37・11
簞木	45		おほとき			37・12
簞木	46		はかなき			37・13
簞木	47		ゆへづけて			37・14
簞木	48		をくれたる			37・14
簞木	49		さてありぬへし			38・1
簞木	50		くたさん			38・2
簞木	51		うめきたる			38・3
簞木	52		そのかたかと			38・4
簞木	53		いとさはかり			38・5
簞木	54		すかされ			38・6
簞木	55		とるかたなく			38・6
簞木	56		みみたゝずかし			38・10
簞木	57		その品++や			38・11
簞木	58		もとのしなたく			38・12
簞木	59		くらみみしかく			38・12
簞木	60		又なを人のかんだちめ			38・12
簞木	61		左の馬のかみ			38・14
簞木	62		藤式部			38・14
簞木	63		物よくいひとをる			39・1
簞木	64		中將まちとりて			39・1
簞木	65		なりのほれとも			39・3
簞木	66		もとはやんことなく			39・4
簞木	67	すりやうといひて人の	〈ナシ〉(66注ノ一部)			39・7
簞木	68		けしうは			39・8
簞木	69		なま++の			39・9
簞木	70		非参議			39・9

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
箒木	71		もとの根さし			39・9
箒木	72	かはらかなるや	かわらかなりや			39・10
箒木	73		家のうちに			39・10
箒木	74		宮つかへに			39・11
箒木	75		はふかす			39・12
箒木	76	すへてにきはしきに	すへてにきはしき			39・14
箒木	77		こと人の			39・14
箒木	78		もとの品			40・1
箒木	79		うちあひすくれたらん			40・3
箒木	80		なにかしか			40・5
箒木	81		世に有と			40・5
箒木	82		たかへる			40・8
箒木	83		ちの年おひ			40・8
箒木	84		いてや			40・14
箒木	85		しろき御そとも			41・1
箒木	86		なよかなるに			41・1
箒木	87		しとけなく			41・1
箒木	88		女にて			41・3
箒木	89		大かたの世に			41・4
箒木	90		うつは物			41・7
箒木	91		かみはしちに			41・9
箒木	92		せはき家			41・9
箒木	93		とあれはかり			41・11
箒木	94		なのめに			41・11
箒木	95	かならずしも	かならずしも我おもふにかなはね			42・1
箒木	96		されと			42・4
箒木	97		かたちきたなけなく			42・5
箒木	98		をのかし			42・6
箒木	99		文をかけと			42・6
箒木	100		ことえり			42・7
箒木	101		又さやかに			42・8
箒木	102		声きく			42・8
箒木	103		女しと			42・9
箒木	104		ことかなかに			42・11
箒木	105		なのめなるましき			42・11
箒木	106		物のあはれ知すくし			42・11
箒木	107		すゝめる			42・13
箒木	108		みみはさみかち			42・13
箒木	109		ひさうなき			42・14
箒木	110		よきあしき			43・1
箒木	111		さしくみ			43・4
箒木	112		大やけはらだしく			43・4
箒木	113		なにしかは			43・5
箒木	114		あはつかに			43・6
箒木	115		ひたふるに			43・7
箒木	116		こめき			43・7
箒木	117		ひきつくるひ			43・7
箒木	118		けにさしむかひ			43・9
箒木	119		立はなれて			43・10
箒木	120		わか心と			43・11
箒木	121		たのもしけなきとかや			43・12
箒木	122		つねはずこしそは++しく			43・12
箒木	123		さためかね			43・13
箒木	124		今はた品にもよらし			43・14
箒木	125		ねちけかましき			44・1
箒木	126		物まめやかに			44・1
箒木	127		あまりのゆへよし			44・3
箒木	128		もとめ			44・4
箒木	129		えんに物はちして			44・6
箒木	130		うらみいふへき事をも			44・6
箒木	131		うへはつれなく			44・6
箒木	132		海つらなどに			44・9
箒木	133		わらはに待し			44・9
箒木	134		心かるし			44・10
箒木	135		ことさらひ			44・11
箒木	136		見る目のまへに			44・12
箒木	137		いてあなかなし			45・2
箒木	138		ひたすらに			45・3
箒木	139		君の御心は			45・3
箒木	140		ひたいかみ			45・5
箒木	141		うちひそみぬ			45・5
箒木	142		にこりにしめる		(ナシ)(△1字下ゲ)	45・7
箒木	143		たえぬすくせ			45・8
箒木	144		又なのめに			45・12
箒木	145	をこかましかりなん	をこかましかりなん句			45・12
箒木	146		たえぬへき			45・14
箒木	147		すへてよろつのこと			45・14
箒木	148		えんずへき			46・1

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
箒木	149		おほくは			46・3
箒木	150		あまりむけに			46・3
箒木	151		つなかぬ舟の			46・5
箒木	152		中将うなつく			46・5
箒木	153		さしあたりて			46・6
箒木	154		たのもしけなき			46・6
箒木	155		わか心あやまちなくて			46・7
箒木	156		それさしも			46・8
箒木	157		ともかくも			46・8
箒木	158		わかいもうとの			46・9
箒木	159		ころやましと			46・11
箒木	160		はかせ			46・11
箒木	161		びびらきゐたり			46・12
箒木	162		あへしらひゐたり		注釈ナシ。	46・13
箒木	163		木のみちの			46・13
箒木	164		りんし	<ナシ>(△1字下ゲ)		46・14
箒木	165		そはつき			47・1
箒木	166		されはみ			47・1
箒木	167		うるはしき			47・2
箒木	168		又急所			47・4
箒木	169		すみかき			47・5
箒木	170		つき++は			47・5
箒木	171		ほうらいの山			47・6
箒木	172		すくよかならぬ			47・11
箒木	173		心しらひ			47・11
箒木	174		てをかきたるにも			47・13
箒木	175		はかなき事			48・2
箒木	176		見るめの			48・3
箒木	177		そのはしめのこと			48・3
箒木	178		つらつえ			48・5
箒木	179		法の師の			48・5
箒木	180		はやうまた下らうに			48・7
箒木	181	きこえさせつる	<ナシ>(△1字下ゲ)			48・8
箒木	182		まほ			48・8
箒木	183		よるへとは			48・10
箒木	184		おいらかならまし			48・11
箒木	185		かくかすならぬ			48・12
箒木	186		あるやう			48・14
箒木	187		この人とは			48・14
箒木	188		すゝめる			49・3
箒木	189		とかくになひきて			49・3
箒木	190		うとき人			49・5
箒木	191		おもてふせ			49・5
箒木	192		みさほに			49・6
箒木	193		たえぬへき			49・10
箒木	194	をそましく	をそましくは			49・11
箒木	195		人なみ++	人みな++		50・1
箒木	196		いひそし			50・3
箒木	197		みたてなく			50・3
箒木	198	つらき心	つらき心を			50・4
箒木	199		あひなたのめ			50・5
箒木	200		はらたしく			50・7
箒木	201		世をそむき			50・10
箒木	202	手をおりて哥	手をおりての哥	手をおもての哥		50・13
箒木	203		えうらみし			50・13
箒木	204	憂ふしを哥	憂ふしの哥			51・1
箒木	205		いひしろふ			51・1
箒木	206		せうこそ			51・2
箒木	207		りんし			51・3
箒木	208		みそれふる夜			51・4
箒木	209		あかるゝ			51・4
箒木	210	家路と思はん	家ちと			51・4
箒木	211		けしきはめる			51・5
箒木	212		そいろさむく			51・6
箒木	213		人わろく			51・7
箒木	214		爪くはるゝ			51・7
箒木	215		火ほのかに			51・8
箒木	216		あつこへ			51・8
箒木	217		おほひなるこ			51・9
箒木	218		ひきあくへき			51・9
箒木	219		こよひはかりやと			51・9
箒木	220		さうじみはなし			51・10
箒木	221		おやの家に			51・11
箒木	222		えんなる			51・11
箒木	223		ひたやこもり			51・12
箒木	224		きるへき物			51・14
箒木	225		われみすてん			52・1
箒木	226		そむきもせず			52・3

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
箒木	227		かゝやかし			52・4
箒木	228		たゝ有し			52・4
箒木	229		こらさん			52・6
箒木	230		いたくつなひきて			52・7
箒木	231		たはふれ			52・8
箒木	232		ひとへに			52・8
箒木	233		立田姫			52・10
箒木	234		七夕			52・11
箒木	235		うるさく			52・11
箒木	236		七夕のたちぬふ			52・12
箒木	237		あへましは			52・13
箒木	238		その龍田姫			52・13
箒木	239		はかなき			52・14
箒木	240		露のはへ			52・14
箒木	241		さておなし比			53・2
箒木	242		打よみ			53・3
箒木	243		はしりかきは			53・3
箒木	244		見るめもこともなく			53・4
箒木	245		このさかな物			53・5
箒木	246		しは十			53・7
箒木	247	まはゆき	まはゆきは			53・7
箒木	248		大納言			53・10
箒木	249		こよひ人まつらん			53・11
箒木	250		よきぬ			53・11
箒木	251		水かけ			53・12
箒木	252		おり侍ぬかし			53・13
箒木	252'		すゝろきて			53・14
箒木	253		廊のすのこ			53・14
箒木	254		かけもよし			54・3
箒木	254'		つゝしり			54・3
箒木	255		わこん			54・3
箒木	256		りちのしらへ			54・4
箒木	257		いまめきたる			54・5
箒木	258		庭の紅葉こそ			54・6
箒木	259		ねたます			54・7
箒木	260		ことの音も哥			54・9
箒木	261		わろかめり			54・9
箒木	262		いま一声			54・9
箒木	263		あされ			54・10
箒木	264		木からしに哥			54・12
箒木	265		さうのこと			54・13
箒木	266		まはゆき			54・14
箒木	267		さしすくひたり			55・3
箒木	268		此ふたつ			55・4
箒木	269		わかき時			55・4
箒木	270		御心の			55・6
箒木	271		おらはおち			55・6
箒木	272		あへか	あへる		55・8
箒木	273		七とせ			55・8
箒木	274		中将			55・11
箒木	275		おはさうす			55・12
箒木	276		しれものゝ			55・13
箒木	277		うらめしと			56・2
箒木	278		おやもなく			56・6
箒木	279		をだしく			56・7
箒木	280		この見給ふる			56・8
箒木	281		むけに			56・10
箒木	282		なみたくみ			56・12
箒木	283		いさやことなる			56・13
箒木	284		山かつの哥			56・14
箒木	285		むかし物かたり			57・2
箒木	286		咲まじる哥			57・4
箒木	287		ちりをたに			57・5
箒木	288		うちはらふ			57・6
箒木	289		さすらふ			57・10
箒木	290		哀と			57・10
箒木	291		おもひまとはす			57・11
箒木	292		これこそ			57・14
箒木	293		つれなくて			57・14
箒木	294		今やう十			58・1
箒木	295		えたもつ			58・3
箒木	296		されはかの			58・4
箒木	297		おもひ出ある			58・4
箒木	298		あきたき			58・5
箒木	299		この心もとなき			58・6
箒木	300		くらへくるしき			58・8
箒木	301		なんすへきくさはひ			58・8
箒木	302		吉祥天女			58・9

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
帚木	303		ほうけつき			58・10
帚木	303+	〈欠〉	くすしからん			58・10
帚木	304		式部か			58・10
帚木	305		何事をか			58・13
帚木	306		もんしやう			58・13
帚木	307		かしこき			58・13
帚木	308		なま十十の			59・2
帚木	309		わか二の道			59・5
帚木	310		おさ十十			59・6
帚木	311		むへ十十しく			59・10
帚木	312		こしおれ文			59・11
帚木	313		むさい			59・12
帚木	314	したゝかなる	したゝかなり	したゝかなる		59・14
帚木	315		はかなし口おし			59・14
帚木	316		すくせのひくかた侍めれは			60・1
帚木	317		をのこしもなん			60・1
帚木	318		すかい給			60・2
帚木	319		心はえなから			60・2
帚木	320		をこつきて			60・3
帚木	321		ふすふるか			60・5
帚木	322		さかし人			60・6
帚木	323		ふひやう			60・8
帚木	324		さうやく			60・8
帚木	325		ざうじら			60・9
帚木	326		むへ十十			60・10
帚木	327		うけ給めとて			60・11
帚木	328	すへなくて	すへなく			60・13
帚木	329		さゝかにのふるまひ哥			61・1
帚木	330		をひて			61・2
帚木	331		あふ事の哥			61・3
帚木	332		おいらかに			61・5
帚木	333	君達あさまし	〈ナシ〉(△1字下ゲ)			61・4
帚木	334		つまはしきをして			61・6
帚木	335		あはめ			61・6
帚木	336		をり			61・7
帚木	337		すへて			61・8
帚木	338		三史五きやう			61・9
帚木	339		なとか女と			61・10
帚木	340		かきすくめる			61・13
帚木	341		上らうの中にも			62・1
帚木	342		おかしき			62・3
帚木	343		五月のせち			62・4
帚木	344		おもひしつめられぬ			62・5
帚木	345		えならぬ			62・6
帚木	346		九日のえんに			62・6
帚木	347		菊の露			62・7
帚木	348		さならても			62・7
帚木	349		あべかり			62・8
帚木	350	よろつのことに	よろつのことに句			62・9
帚木	351		心にしれらん			62・11
帚木	352		ひとつ	ひとつ一		62・12
帚木	353		人ひとりは			62・13
帚木	354		是にたらず			62・14
帚木	355		あやしきことゝも			63・1
帚木	356		からうして			63・2
帚木	357		大かたのけしき			63・3
帚木	358	中納言中務	中納言			63・7
帚木	359		にかみ			63・10
帚木	360		人十十			63・10
帚木	361		なか神			63・11
帚木	362		さかし			63・12
帚木	363		二条院にも			63・13
帚木	364		紀のかみ			63・14
帚木	365		中川のわたり			64・1
帚木	366		よかなり			64・2
帚木	367		いとおしきなるへし			64・5
帚木	368		うけ給はりなから			64・5
帚木	369		なめけなる			64・6
帚木	370		人ちかゝらん	人ちかゝらん一		64・7
帚木	371		けによるしき			64・9
帚木	372		こと十十し			64・9
帚木	373	あるし	あるしも			65・2
帚木	374		おもひあかれる			65・4
帚木	375		衣のをとなひ			65・5
帚木	376		ゑわらひ			65・6
帚木	377		ことさらひ			65・6
帚木	378		かうし			65・7
帚木	379		むつかりて			65・7

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
箒木	380		さうしのかみ			65・7
箒木	381	わか御うへ	わか卸うへ			65・10
箒木	382		よすか			65・10
箒木	383		おほすこと			65・12
箒木	384		式部卿			65・14
箒木	385		ほゆかめて			66・1
箒木	386	くつろき	くつろきすきま有て			66・1
箒木	387		かみいてきて			66・3
箒木	388	とはりちやうもいかにそと	とはりちやうもいかにそは			66・3
箒木	389		何よけん			66・4
箒木	390		わらはなる			66・6
箒木	391		こゑもん			66・9
箒木	392		あね			66・10
箒木	393		さえ			66・10
箒木	394		殿上なども			66・10
箒木	395		すか++			66・11
箒木	396		まうと			66・12
箒木	397		をよすけ			67・1
箒木	398		ふゐにかく			67・1
箒木	399		女のすくせ			67・2
箒木	400		かしたくや			67・3
箒木	401		君とおもふらん			67・3
箒木	402		わたくしの			67・4
箒木	403		なにかしより			67・4
箒木	404	つき++	つき++しく			67・5
箒木	405	おろしたてんやは	おろしおてんやは	おろしたてんやは		67・6
箒木	406		けしきはめるをや			67・6
箒木	407		いつかたにそ			67・7
箒木	408		しもやへ			67・7
箒木	409		ものけたまはる			67・11
箒木	410		いつくにおはし			67・12
箒木	411		こゝに			67・12
箒木	412		けどをき			67・14
箒木	413		いもうと			67・14
箒木	414		ひさし			68・1
箒木	415		ひるならましかは			68・2
箒木	416		ねたうは			68・3
箒木	417		まろは			68・4
箒木	418		女君はた			68・5
箒木	419		中将君			68・6
箒木	420		なけしの			68・6
箒木	421		ゆにおりて			68・7
箒木	422		さゝやか			68・11
箒木	423		もとめつる			68・12
箒木	424		中将めし			68・13
箒木	425		人たかへ			69・5
箒木	426		たかふへくも			69・6
箒木	427		おほめくは			69・7
箒木	428		やと			69・9
箒木	429		おもひよりぬ			69・10
箒木	430		どうもなく			69・13
箒木	431		どうて			70・3
箒木	432		おほしくたし			70・4
箒木	433		いかゝあさくは			70・4
箒木	434		きはゝきはと			70・5
箒木	435		きは++を			70・7
箒木	436		中++			70・8
箒木	437		さるへきにや			70・9
箒木	438		あばめらるゝ			70・9
箒木	439		すくよか			70・12
箒木	440		さるかた			70・13
箒木	441		人から			70・14
箒木	442		まことに心			71・1
箒木	443		心くるし			71・2
箒木	444		おほえなき			71・4
箒木	445		世をおもひ			71・5
箒木	445		おほゝれ			71・5
箒木	446		うき身の			71・6
箒木	447		ありしなから			71・6
箒木	448		みなをし			71・7
箒木	449		うきね			71・8
箒木	450		みきとなかけそ			71・9
箒木	451		をろかならす			71・9
箒木	452		いきたなき			71・11
箒木	453		御かたかへこそ			71・11
箒木	454		さしはへて			71・13
箒木	455		鳥もしは++			72・3
箒木	456		つれなきを哥			72・5

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
箒木	457		身のうさを哥			72・9
箒木	458		ことゝ			72・9
箒木	459		へたつる関			72・11
箒木	460		そゝき			72・12
箒木	461		すのこの			72・12
箒木	462		月は有明			72・14
箒木	463		みる人から			73・2
箒木	464		殿にかへり			73・4
箒木	465		中の品			73・6
箒木	466		中納言			73・9
箒木	467		うへにも			73・10
箒木	468		あそむ			73・12
箒木	469		おやのをきて			73・13
箒木	470		心ゆかぬ			73・13
箒木	471		世のたとひ			74・1
箒木	472		あて人			74・3
箒木	473		さるへき事は			74・4
箒木	474		いひしらせ給ふ			74・6
箒木	475		おもかくし			74・8
箒木	476		いとおほくては			74・9
箒木	477	見し夢を哥	みし夢を			74・10
箒木	478		める夜なけれは			74・10
箒木	479		めもきりて			74・11
箒木	480	心えぬ	ころえぬ			74・11
箒木	481		臥給へりは			74・12
箒木	482		いておよすけ			75・1
箒木	483		さば			75・2
箒木	484		むつかられて			75・2
箒木	485		ついせうし			75・3
箒木	486		あひおもふましき			75・4
箒木	487		いつら			75・5
箒木	488		又もたまへり			75・6
箒木	489		あこは			75・6
箒木	490		くひほそし			75・7
箒木	491		かのたのもし			75・9
箒木	492		わかみくしげ殿			75・11
箒木	493		かる++しき名			75・13
箒木	494		めてたき			75・14
箒木	495		おかしきさま			76・2
箒木	496		れいの			76・7
箒木	497		めいほく			76・8
箒木	498		女もさる			76・10
箒木	499		夢のやうにて			76・12
箒木	500		けちかく		注釈ナシ。	76・14
箒木	501		うちたゝかせ			77・1
箒木	502		いかにかひなし			77・4
箒木	503	いひおとし	いひおとして		注釈ナシ。	77・7
箒木	504		さげす			77・7
箒木	505		見けつ			77・10
箒木	506		とてもかくても			77・12
箒木	507		むしん			77・12
箒木	508		ふよう			77・14
箒木	509		身もいと			78・1
箒木	510		いと++おし			78・1
箒木	511		はゝきゝの哥			78・4
箒木	512		かすならぬ哥			78・6
箒木	513		れいの			78・7
箒木	514		一所は			78・8
箒木	515	人に似ぬ一	人に似ぬ			78・9
箒木	516		さばれ			78・10
箒木	517		かしこげに			78・12
箒木	518		わかく			78・13
箒木	519		つれなき			78・14
箒木	520		とそ			79・1
空蟬	1		ねられ			85・1
空蟬	2		我はかく人に			85・1
空蟬	3		なみたをさへ			85・2
空蟬	4		まめやかに目さまし			85・5
空蟬	5		の給ひまつはさず			85・6
空蟬	6		やかてつれなくて			85・8
空蟬	7		かくてどちめ			85・10
空蟬	8		わつらはし			85・14
空蟬	9		紀守國に			86・1
空蟬	10		夕やみの			86・2
空蟬	11		ついせう			86・6
空蟬	12		なそかう			86・8
空蟬	13	西のかた	西の御かた			86・9
空蟬	14		こうたせ			86・9

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
空蟬	15		にしさまに			86・11
空蟬	16		木丁なとも			86・13
空蟬	17		そはめる人や			86・14
空蟬	18		こきあやの			86・14
空蟬	19		なにゝかあらん			87・1
空蟬	20		物けなき			87・2
空蟬	21		ひきかくし			87・3
空蟬	22		いまひとり			87・3
空蟬	23		白うす物			87・4
空蟬	24		二あひ			87・5
空蟬	25		くれなるのこし			87・5
空蟬	26		はうそく			87・6
空蟬	27		そどろかなる			87・7
空蟬	28		さかりは			87・9
空蟬	29		ねちけたる			87・9
空蟬	30		むへこそ			87・9
空蟬	31		かとなきには			87・11
空蟬	32		けちさす			87・11
空蟬	33		さうとけ			87・12
空蟬	34		おくの人は			87・12
空蟬	35		ちにこそ			87・13
空蟬	36		こうをこそ			87・13
空蟬	37		いてこのたひ			87・14
空蟬	38		まげにけり			87・14
空蟬	39		とをはたみそよそ			87・14
空蟬	40		いよのゆのゆけた			88・1
空蟬	41		たとしへなく口おほひて			88・1
空蟬	42		すこしはれたる			88・2
空蟬	43		ねひれて			88・4
空蟬	× 43+	〈ナシ〉(43注ノ一部)	〈ナシ〉(△1字下ゲ・43注ノ一部)	軒はの荻は見事ながら		
空蟬	44		ほこりに			88・6
空蟬	45	〈欠〉	そをるれは		資料稿ハ版本ニヨリ補ウ。	88・6
空蟬	46		あはつけし			88・8
空蟬	47		見給ふかきり			88・9
空蟬	48		れいならぬ			88・13
空蟬	49		しつまれるは			89・2
空蟬	50		あがるゝ			89・4
空蟬	51		わか君			89・4
空蟬	52		きのかみのいもうと			89・8
空蟬	53		さかし	さかし御領状也		89・9
空蟬	* 54	さうし	こたひ			89・11
空蟬	* 55	こたひ	さうし			89・11
空蟬	56		風吹とをせ			89・11
空蟬	57		たゝみひろけて			89・12
空蟬	58		戸はなちつる			89・13
空蟬	59		やはらかなるしも			90・3
空蟬	60		いたに			90・5
空蟬	61		ひるはなかめ			90・5
空蟬	62		うちみじろく			90・9
空蟬	63		ゆかのしもに			90・12
空蟬	64		物++しく		「くノ字母、整版本「久」、古活字本「具」。	90・13
空蟬	65		わるき御心あさゝ			91・4
空蟬	66		世中			91・6
空蟬	67		あへかにも			91・6
空蟬	68		たとらん人は			91・9
空蟬	69		さこそさし過たる			91・10
空蟬	70		人知たる			92・1
空蟬	71		あひおもひ給へよ			92・2
空蟬	72		又さるへき			92・3
空蟬	73		なを++しう			92・4
空蟬	74		人のおもひ侍らん			92・4
空蟬	75		ぬきすへし			92・8
空蟬	76		戸をやをら			92・9
空蟬	77		まろそと			92・10
空蟬	78	とさまへく	とさまへ			92・11
空蟬	79		あらず			92・11
空蟬	80		民部のおもと			92・13
空蟬	81		けしう			92・13
空蟬	82	今はたゝいま	いまたゝいま			93・1
空蟬	83		をしかへさて			93・2
空蟬	84		わた殿のくち			93・2
空蟬	85		おもとは			93・3
空蟬	86		いらへもきかて			93・6
空蟬	87		いよ++			93・7
空蟬	88		いとふかうにくみ			93・10
空蟬	89		おもひはつまし			93・14
空蟬	90		ねられ			94・1

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
空蟬	91		さしはへ			94・2
空蟬	92		うつせみの哥			94・4
空蟬	× 92+	<ナシ>(92注ノ一部)	<ナシ>(△1字下ゲ・92注ノ一部)	うつくしきと云心もあり		
空蟬	93		かの人も			94・5
空蟬	94		かつはいかに			94・9
空蟬	95		ひたりみき			94・10
空蟬	96		いせおの			94・11
空蟬	97		又しる			94・13
空蟬	98		されたる			95・1
空蟬	99		しつむれと			95・1
空蟬	100		ありしなから			95・2
空蟬	101		しのひ			95・2
空蟬	102	うつせみの哥	うつせみの			95・5
夕顔	1		六条わたり			101・1
夕顔	2		大貳のめのと			101・1
夕顔	3		御車入へき			101・2
夕顔	4		むつかしけなる			101・3
夕顔	5		ひがき			101・4
夕顔	6		はじとみ			101・5
夕顔	7		すたれなとも			101・5
夕顔	8		立さまよふらん			101・6
夕顔	9		たけたかき			101・7
夕顔	10		やうかはりて			101・8
夕顔	11		さきも			101・9
夕顔	12		程なく			101・10
夕顔	13		いつこかして			101・11
夕顔	14		玉のうてなも			101・11
夕顔	15		きりかけたつ			101・11
夕顔	16		をのれひとりゑみのまゆ			101・13
夕顔	17		をちかた人			101・13
夕顔	18		御ずい人			101・13
夕顔	19		夕かほ			101・14
夕顔	20		このもかのも			102・2
夕顔	21		むね十十しからぬ			102・2
夕顔	22		されたる			102・4
夕顔	23		いたうこかしたる			102・6
夕顔	24		枝も			102・6
夕顔	25	かきをゝき	かげをゝき			102・7
夕顔	26		ふびんなる			102・8
夕顔	27		あやめ			102・9
夕顔	27+	<欠>	らうかはしき			102・9
夕顔	28	むこの一	むこの	むこの一		102・11
夕顔	29		たゆたひし			102・14
夕顔	30		いむ事			102・14
夕顔	31		よみかへり			102・14
夕顔	32		あみた仏			103・1
夕顔	33		日比			103・2
夕顔	34		くらゐたかく			103・4
夕顔	35		このしな			103・4
夕顔	36		かたほ			103・6
夕顔	37		子どもは			103・9
夕顔	38		おもふへき人十十			103・11
夕顔	39		はくむ			103・12
夕顔	40		人と成て			103・13
夕顔	41		さらぬ			104・1
夕顔	42		すほう	すをう		104・4
夕顔	43		ありつる			104・5
夕顔	44	心あてに哥	心あてに			104・8
夕顔	45		ゆへづき			104・9
夕顔	46	うるさき	うるさきは			104・10
夕顔	47		にくしと			104・13
夕顔	48		やうめいのすけ			105・1
夕顔	49		わかく			105・2
夕顔	50		さらはは			105・4
夕顔	51		このかたには			105・6
夕顔	52		たうかみ			105・6
夕顔	53		あらぬ			105・6
夕顔	54		よりにこそその哥			105・8
夕顔	55		またみぬ			105・9
夕顔	56		御さきの火			105・12
夕顔	57		ほたる			105・13
夕顔	58		心にく			105・14
夕顔	59		うちとけぬ			106・1
夕顔	60		ありつるは			106・2
夕顔	61		一ふし			106・5
夕顔	62		いとしのひて五月の比			106・9
夕顔	63		しひら			106・11
夕顔	64		昨日夕日			106・12

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夕顔	65		文かく			106・13
夕顔	66	おほえをもかる思ひをり	おほえをもかる△からおもひをりま			107・1
夕顔	67		もし見給へ			107・5
夕顔	68		かの下か			107・8
夕顔	69		おひらかならましかは			107・10
夕顔	70		うらもなく			107・14
夕顔	71		ゆげたは			108・5
夕顔	72		むまのかみ			108・8
夕顔	73		人のため			108・9
夕顔	74	かろらかは	かろらかに			108・12
夕顔	75		さるへき			109・1
夕顔	76		今一かた			109・4
夕顔	77		秋にも成ぬ			109・5
夕顔	78		ひきかへし			109・8
夕顔	79		されと余所なりし			109・9
夕顔	80		御よはひの程も			109・10
夕顔	81		そゝのかされて			109・12
夕顔	82		一まあけて		注釈ナシ。	109・14
夕顔	83	しをん色の折にあひたる△句..	しをん色のおりにあひたる句	しをん色のおりに		110・2
夕顔	84		かみのさかりは			110・5
夕顔	85	さく花に哥	さく花に			110・7
夕顔	86	朝顔の哥	朝霧の哥			110・9
夕顔	87		大やけ			110・9
夕顔	88		さふらひわらは			110・10
夕顔	89		山かつも			110・13
夕顔	90		明暮			111・4
夕顔	91		是みつかあつかり			111・5
夕顔	92		中屋			111・8
夕顔	93		しゆう			111・9
夕顔	94		右近の君こそ			111・11
夕顔	95		てかく			111・12
夕顔	96		うちはしたつ			111・13
夕顔	97		いそきくる物は			111・13
夕顔	98		いてこのかつらきの神			112・1
夕顔	99		むつかりて			112・1
夕顔	100		なにがしくれがし			112・3
夕顔	101		ことねり			112・3
夕顔	102		たしかに			112・4
夕顔	103		もしかの			112・4
夕顔	104		はかられ			112・8
夕顔	105		おほしまさせ初てけり			112・14
夕顔	106		けさう人			113・4
夕顔	107		けさのほと			113・13
夕顔	108		かほをも			114・6
夕顔	109		むかし有けん			114・6
夕顔	110		大夫をうたかひ			114・9
夕顔	111		あされ		注釈ナシ。	114・10
夕顔	* 112	かくれか	たゆめて			114・11
夕顔	* 113	たゆめて	かくれか			114・13
夕顔	114		なのめにおもひなし			114・14
夕顔	115		世つかぬ御もてなし			115・6
夕顔	116		いつれかきつねならん			115・7
夕顔	117		世になく			115・8
夕顔	118		心なから			115・13
夕顔	119	八月(一日)	八月		写本「一日」ハ講釈ノ進行ヲ表スモノ。見出シデハナク行間書キ入レト思ワレ	115・14
夕顔	120		なりはひ			116・3
夕顔	121		ゐ中の			116・3
夕顔	122		北殿			116・4
夕顔	123		そゝめき			116・5
夕顔	124		おもひいれたるさまならて			116・8
夕顔	125		こめかしう			116・8
夕顔	126		こほ十と			116・10
夕顔	127		からうす			116・12
夕顔	128		まくらかみ			116・12
夕顔	129		しろたへの衣			116・14
夕顔	130		されたる			117・2
夕顔	131		かへのなかのきり十十す			117・4
夕顔	132	白あはせ	しろきあはせ			117・7
夕顔	133		こゝろばみたる			117・10
夕顔	134	世なれたる人も	世なれたる人とも			117・14
夕顔	135		このある人十十			118・2
夕顔	136		みたけさうしにやあらん			118・4
夕顔	137		ぬかつく	ぬるつく		118・4
夕顔	138		あしたの露に			118・5
夕顔	139		南無を			118・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夕顔	140		うはそくか哥			118・9
夕顔	141		長生殿			118・9
夕顔	142		こちたし			118・10
夕顔	143		さきの世の哥			118・12
夕顔	144	心もとなか	心もとなかめり			118・13
夕顔	145		いさよふ月に			118・13
夕顔	146		ゆくりは		「は」ノ字母、整版本「八」、古活字本「盤」。	118・13
夕顔	147		雲かくれて			118・14
夕顔	148		なにかしの院			119・2
夕顔	149		あつかり			119・2
夕顔	150		こくらし			119・3
夕顔	151		すたれをさへ			119・4
夕顔	152		またかやうなる			119・4
夕顔	153		いにしへも哥			119・7
夕顔	154		山のはの哥			119・9
夕顔	155		かのさし			119・10
夕顔	156		おましなと			119・11
夕顔	157		右近えんなる			119・11
夕顔	158		けいめい			119・13
夕顔	159	このみあり	このみありさま			119・13
夕顔	160		とのにも			120・1
夕顔	161		さるへき			120・2
夕顔	162		口かため		注釈ナシ。	120・4
夕顔	163		とりつく			120・4
夕顔	163'		おき中川			120・5
夕顔	164		けちかき			120・7
夕顔	165		秋の野ら			120・8
夕顔	166		けうとげに			120・9
夕顔	167		へちなう			120・9
夕顔	168	夕露にひもとく哥	夕露にひもとく			120・14
夕顔	169		露のひかりや			120・14
夕顔	170		ひかりありとの哥	ひかりあるとの哥		121・2
夕顔	171		つきせす			121・4
夕顔	172	あまの子一	あまの子			121・5
夕顔	173		あひたれたり			121・5
夕顔	174		我から			121・6
夕顔	175		うこんか			121・7
夕顔	176		ゆつりきこえて			121・10
夕顔	177		あやしき心ち			121・13
夕顔	178		名残なく成にたる			122・1
夕顔	179		内にいかに			122・2
夕顔	180		六条わたり			122・4
夕顔	181		あまり心ふかき			122・6
夕顔	182		ことなる事なき			122・9
夕顔	183		時めかし			122・9
夕顔	184		山ひこ			123・1
夕顔	185		ひるも			123・4
夕顔	186		うへわらは			123・9
夕顔	187		人はなれ		注釈ナシ。	123・11
夕顔	188		瀧口			123・13
夕顔	189		火あやうしと			123・14
夕顔	190		内をおほし			124・1
夕顔	191		なたいめん			124・1
夕顔	192		女君はさなから			124・3
夕顔	193		けおそろしう			124・5
夕顔	194		おまへにこそ			124・7
夕顔	195	ケトラレ	けとられ		注釈ナシ。	124・9
夕顔	196		なけし			124・12
夕顔	197		所にしたかひて			124・12
夕顔	198		むかし物語			124・14
夕顔	198+	〈ナシ〉(欄外ニ「キケト△ひえひえ」トアリ)	きけと一△たゝひえにひえて	きけと申△たゝひえにひえて	見出し候補ノ語彙2例カ。	124・14
夕顔	199		けはひ物うく			125・7
夕顔	200		南殿のをにの			125・8
夕顔	201		夜の聲			125・10
夕顔	202		むく++しさ			126・3
夕顔	203		けしきある鳥のから聲			126・4
夕顔	204		わなゝきしぬへし			126・7
夕顔	205		くま++			126・9
夕顔	206		あしをどひし++			126・10
夕顔	207		ありかさためぬ			126・11
夕顔	208		かゝるすちに			126・14
夕顔	209		あり++て			127・3
夕顔	210		右近大夫			127・7
夕顔	211		いきをのへてそ			127・9
夕顔	212		すぎやう			127・11
夕顔	213		かねて			127・14

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夕顔	214		よゝとなきぬ			128・2
夕顔	215		しほしみ			128・2
夕顔	216		この人ひとり			128・4
夕顔	217		くゑんそく			128・5
夕顔	218		かの古郷			128・7
夕顔	219		むかし見給へし			128・10
夕顔	220		みつわくみて			128・11
夕顔	221		かこか			128・12
夕顔	222		えいたき			128・13
夕顔	223		うはむしろ			128・13
夕顔	224		さゝやか			128・14
夕顔	225		くゞり			129・4
夕顔	226		我も			129・11
夕顔	227		にはかに			130・6
夕顔	228		神事			130・8
夕顔	229		むらい			130・10
夕顔	230		いかなるいきふれ			130・12
夕顔	231		むねつふれ			130・13
夕顔	232	たい++しく	たい++しき			130・14
夕顔	233		蔵人の弁			131・2
夕顔	234		日暮		注釈ナシ。	131・4
夕顔	235		なか++と			131・7
夕顔	236	けさは谷	けさは谷に			131・10
夕顔	237		こしらへをき			131・12
夕顔	238		さるへきにこそ			131・14
夕顔	239		うかひたる			132・2
夕顔	240		かこと			132・3
夕顔	241		少将の命婦			132・3
夕顔	242		かゞり給へる			132・5
夕顔	243		さらにことなく			132・8
夕顔	244		鳥へ野			133・4
夕顔	245		女ひとり			133・7
夕顔	246		とのかたには			133・7
夕顔	247		撃たてぬ			133・8
夕顔	248		清水のかたそ			133・9
夕顔	249		大とこ			133・10
夕顔	250		いひさばかれ			134・6
夕顔	251		別といふ物			134・8
夕顔	252		かくいふ			134・10
夕顔	253		わか紅の			134・14
夕顔	254		つゝみのほと			135・2
夕顔	255		かゝる道の空にて			135・4
夕顔	256	わかほか++	わかほか++し			135・5
夕顔	257		まことに臥			135・12
夕顔	258		しゆほう			135・14
夕顔	259		ふくいと			136・6
夕顔	260		年比のたのみ			136・8
夕顔	261		立そひ			136・9
夕顔	262		いふかひ			136・10
夕顔	263		雨の足			136・12
夕顔	264	けいめいし(付箋ニヨル)	〈欠〉			136・14
夕顔	265		ひとつに			137・2
夕顔	266		内の御とのゐ所			137・3
夕顔	267		あらぬ世に			137・5
夕顔	268		九月			137・5
夕顔	269		あまのこ			137・9
夕顔	270		いつのほと			137・11
夕顔	271		御名かくしも			137・13
夕顔	272		人にゆるされぬ			138・2
夕顔	273		なかゝるましき			138・7
夕顔	274		七日++			138・8
夕顔	275		みつから			138・9
夕顔	276	おやから	おやたち	おやたちから云出せり		138・10
夕顔	277		こそ秋比			138・14
夕顔	278		まとあるを			139・1
夕顔	279		すみわひ給ひて			139・3
夕顔	280		ふたかり			139・4
夕顔	281	とても	〈ナシ〉(280注ノ一部)			139・5
夕顔	282		きこゆ			140・2
夕顔	283		ありし院			140・6
夕顔	284		なく成にける			140・9
夕顔	285		いとしも			140・11
夕顔	286		はかなひたるこそ			140・13
夕顔	287		みつから			140・14
夕顔	288		女はたゞやはらかに			140・14
夕顔	289		あさむかれぬへきか			141・1
夕顔	290		この御かたの			141・3
夕顔	291		みし人の哥			141・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夕顔	292		みみかし			141・7
夕顔	293		うしと			141・10
夕顔	294		とをく			141・11
夕顔	295		ことに出ては			141・12
夕顔	296	とはぬをも哥	とはぬをも			141・14
夕顔	297	ます田はまことに	ます田はことに			141・14
夕顔	298		いけるかひなきや			142・1
夕顔	299		空蟬の哥			142・3
夕顔	300	もぬけ	もぬけを			142・5
夕顔	301		けちかく			142・5
夕顔	302		いふかひ			142・6
夕顔	303	かたつかたは	かたつかた			142・6
夕顔	304		ほのかにも哥			142・11
夕顔	305		とりあやまちても	とりあやまちてもくるしかる ましきとなり		142・12
夕顔	305+	<欠>	見すれば△句			142・14
夕顔	305++	<欠>	かことにて			143・1
夕顔	306		ほのめかす哥			143・2
夕顔	307		打とけて			143・3
夕顔	308		こりすま			143・5
夕顔	309		かの人の四十九日			143・6
夕顔	310		法花を			143・6
夕顔	311		さうぞく			143・6
夕顔	312		もんさうはかせ			143・9
夕顔	313		なく+十も哥	<ナシ>(△1字下ゲ)		144・2
夕顔	314		この程までは			144・2
夕顔	315		かことに			144・5
夕顔	316		右近は			144・6
夕顔	317		住けん物の			145・3
夕顔	318		くしは	くしはとこほる		145・6
夕顔	319		あふきは			145・6
夕顔	320		逢までの哥			145・8
夕顔	321		うさければ			145・9
夕顔	322		せみのはも哥			145・11
夕顔	323		冬たつ			145・12
夕顔	324		過にしも哥			146・1
夕顔	325		おほしり給へと			146・2
夕顔	326		くた+十しき事			146・2
若紫	1	わらはやみ	<ナシ>(△1字下ゲ)			151・1
若紫	2		ましなひかち			151・1
若紫	3		北山			151・2
若紫	4		ましなひわつらひしを			151・3
若紫	5		しごらかし			151・4
若紫	6	めしにつかはし	めしにつかはす			151・5
若紫	7		山のさくらは			151・8
若紫	8		げんがたの			151・13
若紫	9		さるべきもの			152・1
若紫	10		つらをり			152・3
若紫	11		おなし小柴			152・3
若紫	12		やらう			152・4
若紫	13		なに人			152・5
若紫	14		きもこそ			152・7
若紫	15		きよけなるわらは			152・8
若紫	16		まきははさせ給て			152・12
若紫	17		うしろの山			152・13
若紫	18		御ゑいみしう			153・2
若紫	19		ふしの山なにかしのたけ			153・3
若紫	20		ちかき所			153・5
若紫	21		ゆほびか			153・7
若紫	22		さきのかみしほち			153・7
若紫	23		いゑいといたし			153・8
若紫	24		大臣のうちにて			153・8
若紫	25		いてたち			153・8
若紫	26		こんゑの中將			153・9
若紫	27		おくまり			153・11
若紫	28		さいつ比			153・14
若紫	29		所えぬ			154・1
若紫	30		さはいへと			154・2
若紫	31		けしうはあらず	けうはあらず		154・5
若紫	32		たい+	<欠>		154・6
若紫	33		さる心はへ	<欠>		154・6
若紫	34		海にいりね			154・6
若紫	35		かいりう王	かいりう		154・9
若紫	36		いつきむすめ			154・10
若紫	37		くら人よりことし			154・11
若紫	38		いとすきたるから			154・11
若紫	39		したかひたらんは			154・12
若紫	40		はごそゆへ			155・1

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若紫	41		るいにふれて			155・1
若紫	42		なさけなき人			155・2
若紫	43		その見るめ			155・3
若紫	44		かすみたるにまきれて			155・4
若紫	45		ちふつ			155・11
若紫	46		そかれたる			155・13
若紫	47		山吹			156・3
若紫	48		かみは扇を			156・5
若紫	49		あかくすりなして			156・7
若紫	50		わらはへとはらたちて			156・8
若紫	51		すこしおほえたる			156・8
若紫	52		いぬき			156・9
若紫	53		ふせこ			156・10
若紫	54		さいなまるゝ			156・10
若紫	55		つみうることゝ			156・11
若紫	56		こちやと			157・3
若紫	57		打けふり			157・3
若紫	58		かいやり			157・4
若紫	59		かんさし			157・4
若紫	59+	〈ナシ〉	ねひゆかん△調行△ねひゆく		写本見出しヲ欠クガ、整版本・古活字本ノ注内容ハ57注ノ一部ニアリ。	157・5
若紫	60		さるはかきり			157・5
若紫	61	こ姫君	こ姫君は			157・9
若紫	62		ふしめ			157・12
若紫	63		つや++			157・13
若紫	64		おひたゝん哥			158・1
若紫	65		又ぬたる			158・1
若紫	66		はつ草の哥			158・3
若紫	67		此すき物			158・11
若紫	68		かの御かはり			158・14
若紫	69		よぎり			159・2
若紫	70		おとろきながら			159・3
若紫	71		いぬる			159・5
若紫	72		かやうなる人の			159・7
若紫	73		かる++しき			159・11
若紫	74		すゝしき			159・12
若紫	75		かのまたみぬ			159・13
若紫	76	ほとにも	などにも			160・2
若紫	77		名がう			160・3
若紫	78		そうつ			160・5
若紫	79		おそろしう			160・5
若紫	80		夢を見給へし			160・9
若紫	81		兵部卿			161・5
若紫	82		物おもひに			161・7
若紫	83		かの人			161・8
若紫	84		人のほと			161・10
若紫	85		さかしら心			161・10
若紫	86		かたみもなきかと			161・11
若紫	87		なく成待し			161・13
若紫	88		それにつけて			161・13
若紫	89	思ふ心ありて	おもふ心ありて句			162・2
若紫	90		また	また又も同	整版本デハ90項ノ2行目ヨリ古活字本丁変リニツキ行頭位置ニズレアリ。	162・3
若紫	91		いと			162・4
若紫	92		かの御おは			162・6
若紫	93		すくよかに			162・7
若紫	94		そや			162・8
若紫	95		山風ひやゝ			162・10
若紫	96	ねふたけなる	ねふたけなり			162・11
若紫	97		ずゝの			162・14
若紫	98		おほえなき			163・2
若紫	99	すこしりそきて	すこし			163・4
若紫	100	くらきにいりても	〈ナシ〉(99注ノ一部)			163・5
若紫	101		はつ草の哥			163・9
若紫	102		しろし			163・10
若紫	103		さるやう			163・11
若紫	104		よづいたるさるにてはかの若草			163・12
若紫	105		まくらゆふ哥			164・2
若紫	106		ひかたう			164・2
若紫	107		かうやう			164・3
若紫	108		かたしけなくとも			164・3
若紫	109		ひかこと			164・5
若紫	110		仏は			164・9
若紫	111		とみにも			164・9
若紫	112		けにおもひ給ひ			164・10
若紫	113		あはれに			164・11

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若紫	114		いふかひなき			164・12
若紫	115		おなしさま			164・14
若紫	116	かたくてなん	かたりてなん句			165・1
若紫	117		あやしき			165・3
若紫	118		いとにけなき			165・7
若紫	119		をしたて			165・9
若紫	120		法花三昧			165・9
若紫	121	吹まかふ哥	吹まよふ哥			165・12
若紫	122		さしく(○)み哥			165・13
若紫	123		名もしらぬ			165・14
若紫	124		にしきを			166・1
若紫	125	鹿ヲ	鹿の	<ナシ>(△1字下ゲ)		166・2
若紫	126		ひしり			166・2
若紫	127		こしん			166・3
若紫	128		すきひかめる			166・3
若紫	129		ぐうつきて			166・3
若紫	130		谷のそこまで			166・6
若紫	131		ことしばかり			166・6
若紫	132		宮人に哥			166・11
若紫	133		うとんけの哥			166・13
若紫	134		時ありて一たひ			166・13
若紫	135		おく山の哥			167・2
若紫	136		とこたてまつる			167・3
若紫	137		さうとく			167・3
若紫	138		くたら			167・3
若紫	138+	<ナシ>(138注ノ一部)	ごんがうじ			167・3
若紫	138++	<ナシ>(138注ノ一部)	さうぞく			167・
若紫	138+++	<ナシ>(138注ノ一部)	すきたる袋			167・4
若紫	139		御業			167・5
若紫	140		どきやう			167・7
若紫	141		みずぎやう		注釈ナシ。	167・9
若紫	142		四五年			167・10
若紫	143		さなん			167・11
若紫	144	夕ま暮の哥	夕まくれ哥			167・13
若紫	145		まことにや哥			168・1
若紫	146		打すて			168・2
若紫	147		弁の君			168・8
若紫	148		とよらの寺の			168・9
若紫	149	僧都きんを	僧都きんを…			168・12
若紫	150		山の鳥をも			168・13
若紫	151		日のもとの末の世に			169・5
若紫	152		宮の			169・6
若紫	153	あさりなにも	あさりなとも			169・12
若紫	154		さしも			170・2
若紫	155		殿にも			170・5
若紫	156		とはぬはつらき			170・14
若紫	157		まれ++は			171・1
若紫	158		とはぬなと			171・2
若紫	159		いのちたにとて			171・4
若紫	160		なまころつきなきにや			171・6
若紫	161		ねぶたけ			171・6
若紫	161+	<ナシ>(162注ノ一部)	あてに			171・10
若紫	162		ひとぞう			171・11
若紫	163		一きさいはら			171・11
若紫	164		中にちいさく			172・2
若紫	165		おもかけは身をも	おもかけは		172・3
若紫	166		よのまの風も			172・3
若紫	167	はかなくをしつゝみ	はかなくをしつゝみて			172・4
若紫	168		さたすき			172・4
若紫	169		ゆくては			172・6
若紫	170		ふりはへさせ			172・6
若紫	171		また難波津を			172・7
若紫	172		あらし吹哥			172・9
若紫	173		うしろめたう			172・9
若紫	174	まほなら	まほならねと			172・12
若紫	175		つぎ++しう		注釈ナシ。	173・1
若紫	176	はなちかき	はるちかき			173・3
若紫	177	あさか山の哥	あさか山哥			173・5
若紫	178	くみそめての哥	くみそめて哥			173・6
若紫	179		これみつも			173・6
若紫	180		藤つほの宮			173・8
若紫	181		いと++おしう			173・9
若紫	182		王命婦			173・12
若紫	183	いかゝはたばかり	いかゝたばかり			173・12
若紫	184		宮もあさまし			173・13
若紫	185		心づくていみしきから			174・1
若紫	186		なとかなのめに			174・3
若紫	187	何ことをかは	なにをかは			174・3

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若紫	188		くらふの山に			174・4
若紫	189		みても又哥			174・6
若紫	190		さすか			174・7
若紫	191		世かたりに哥			174・8
若紫	192		なきねに			174・10
若紫	193		又いかなる			174・12
若紫	194		人しれず			175・1
若紫	195		み月			175・2
若紫	196		あさましき			175・4
若紫	197		人は			175・4
若紫	198		御めのとこの弁	御めのと此弁		175・7
若紫	199		うちには			175・9
若紫	200		中将君も			175・12
若紫	201		その中にたかひめ			175・13
若紫	202		此夢あふまで			176・1
若紫	203		まねぶな			176・1
若紫	204		文月			176・5
若紫	205		こなたにのみ			176・8
若紫	206		みあそひも			176・9
若紫	207		有しにまさる			176・13
若紫	208		月のおかしき夜			177・1
若紫	209		一日ものゝ			177・4
若紫	210		いとむつかしけに			177・11
若紫	211		ゆくりなう			177・12
若紫	212		けにかゝる所は			177・13
若紫	213		つねに			177・13
若紫	214		いとちかければ			178・6
若紫	215		この君たに			178・7
若紫	216		この世の			178・10
若紫	217		うへこそ			178・13
若紫	218		いさ			178・14
若紫	219		いはけなき哥			179・7
若紫	220		おなし人にや			179・7
若紫	221		とはせ給へるは			179・9
若紫	222		秋の夕はまして			179・11
若紫	223		きえん空なき			179・13
若紫	224	てにつみていつしか哥	てにつみていつしか			180・1
若紫	225	神無月	十月			180・1
若紫	226		まゆうど	<ナシ>(△1字下ゲ)		180・2
若紫	227		たちぬる月			180・6
若紫	228		せけんのたうり			180・6
若紫	229		こみやす所			180・8
若紫	230		ちこならぬ			181・1
若紫	231		中空なる			181・2
若紫	232		あまた			181・2
若紫	233		過給ひぬるも			181・3
若紫	234		のちの			181・5
若紫	235		つゝみ給ふらん			181・8
若紫	236		あしわかの哥			181・11
若紫	237		めさまし			181・11
若紫	238		よる波の哥			181・13
若紫	239		わりなきは			181・13
若紫	240		なそ恋さらん			181・14
若紫	241	あそひかたき共	あそひかたきとも...			182・2
若紫	242		いさかし			182・6
若紫	243		手をさし入て			182・9
若紫	244	思ふへき人	おもふへき人句			182・13
若紫	245		さりともかゝる程			183・1
若紫	246		そゝろさむけに	そゝろささむけに		183・9
若紫	247		ひとへはかりを			183・9
若紫	248		この四十九日			184・6
若紫	249		たのもしき			184・7
若紫	250		まことの			184・10
若紫	251		いとしのひて			184・10
若紫	252	朝ほらけ哥	朝ほらけの哥			184・14
若紫	253		ふたかへり	ふたりかへり		184・14
若紫	254		立とまり哥			185・2
若紫	255		とのへ			185・3
若紫	256		おかしかりつる			185・3
若紫	257		れいならねは			185・5
若紫	258		御そはなへて		注釈ナシ。	185・12
若紫	259		あつしく			185・13
若紫	260		かしこに			185・14
若紫	261		人もこゝろ			186・1
若紫	262		かゝるおりにしも			186・1
若紫	263		なにか			186・2
若紫	264	めしあれはなん△句	めしあれはなん句			187・1
若紫	265		あちきなうもある哉			187・2

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若紫	266		たゝなるよりは			187・10
若紫	267		ことありかほに			187・10
若紫	268		おさ十			188・5
若紫	269		あつまをすがきて			188・7
若紫	270		ひたちには田をこそ			188・8
若紫	271		もときをひ			188・11
若紫	272	車のさうそくさなから	車のさうそく			188・12
若紫	273		をきたれ			188・12
若紫	274		すきかましきこと	すきかましきへと	注釈ナシ。	188・14
若紫	275		人のほとたに			188・14
若紫	276		さてはつしてん			189・2
若紫	277		さふらふ人十			189・5
若紫	278		物のたより			189・10
若紫	279	またおとろい	またおとろかひ			189・13
若紫	280		かゝる朝霧			189・14
若紫	281		大ゆふ少納言			190・4
若紫	282		さへき			190・9
若紫	283		をのつから			190・9
若紫	284		ひきさけて			190・13
若紫	285		そは心なり			191・2
若紫	286	み帳み屏風などあたり十し	み帳見屏風などあたり十	み帳み屏風などあたり十し	はやすめ字にや	191・7
若紫	287		おとゝ			191・14
若紫	288		おましなと			191・8
若紫	289		まらうとの			192・2
若紫	290		ゆふつけて			192・5
若紫	291		たいに			192・5
若紫	292		すゝろ成人は	すゝろ成へは		192・8
若紫	293		をんなは心やはら			192・8
若紫	294		さしはなちて			192・9
若紫	295		にび色			192・11
若紫	296	てならひ	てならひ句			193・4
若紫	297	四位は	〈ナシ〉(296注ノ一部)			193・1
若紫	298		むさし野と			193・5
若紫	299	ねは見ねとの哥	ねはみねと哥			193・8
若紫	* 300	心なからは	よからねと			193・10
若紫	* 301	よからねと	心なからは			193・12
若紫	302		かこつへき哥			193・14
若紫	303	ひゝなの	ひゝなの			194・2
若紫	304		おいらかに			194・9
若紫	305		跡はかなくて			194・11
若紫	306		のちのおや			195・4
若紫	307		物より			195・5
若紫	308		さるかた			195・6
若紫	309		さかしら			195・7
若紫	310		むすめ			195・9
末摘花	1		おもへとも			201・1
末摘花	2		露にをくれし			201・1
末摘花	3		こゝもかしこも			201・1
末摘花	4		御いとましさに			201・2
末摘花	5		らうたけならん			201・4
末摘花	6		ゆへつきて			201・5
末摘花	7		さてもやと			201・5
末摘花	8		つれなう			201・8
末摘花	9		大かたなこり			201・13
末摘花	10		左衛門			201・13
末摘花	11		わかんとをり			202・1
末摘花	12	母ちくせん	母はちくせん			202・3
末摘花	13		こひたちのかみ			202・3
末摘花	14	ふかきかた	ふかきかたは			202・6
末摘花	15	ひそめ	ひかめ			202・7
末摘花	16		さへき			202・7
末摘花	17		きんをそ			202・7
末摘花	18		三の友			202・8
末摘花	19		いまくさ			202・9
末摘花	20		てつかひ			202・10
末摘花	21	けしきはましや	〈欠〉			202・12
末摘花	22		あはれしる			203・9
末摘花	23		もゝしきに			203・9
末摘花	24		すちことなる			203・12
末摘花	25		むかし物語			203・14
末摘花	26	一かたある物にて	かたあるものにて			204・3
末摘花	27		まらうと	まらうと		204・4
末摘花	28		いとひかほにもこそ			204・4
末摘花	28+	〈ナシ〉(28注ノ一部)	おもへは			204・7
末摘花	29		ほのめかせ			204・11
末摘花	30		うへのまめに			204・12
末摘花	31		こと人の			204・14

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
末摘花	32		かりきぬすかた			205・10
末摘花	33	きゝついで	〈欠〉			205・11
末摘花	34		ぬき足			205・12
末摘花	35	もろともに句	もろともに哥			206・1
末摘花	36		さとわかぬ哥			206・4
末摘花	37		かうしたひ			206・4
末摘花	38		すいしんからこそ	すいしんかうこそ		206・5
末摘花	38+	〈欠〉	かのなてしこ			206・8
末摘花	38++	〈欠〉	をもきこう			206・8
末摘花	39		あまへて			206・9
末摘花	40	御なをし	〈欠〉			206・12
末摘花	41		いまくるやう			206・12
末摘花	42		中つかさ			206・14
末摘花	43		君たち			207・5
末摘花	44		あらましことに			207・7
末摘花	45		この君			207・9
末摘花	46		こなたかなた			207・10
末摘花	47		おほつかなく			207・11
末摘花	48		しか++の			208・1
末摘花	49	いさ見んとし	いさみんとしも			208・3
末摘花	50		人わきしけり			208・4
末摘花	51		君は			208・4
末摘花	52		こと葉おほき			208・6
末摘花	53		もとの心を			208・7
末摘花	54		みしかき			208・9
末摘花	55	心やすからんと云にあたり ていさやかさやとり	心やすからんと云にあたり△			208・12
末摘花	56		つきなげに			208・14
末摘花	57		らう++しう			209・1
末摘花	58	こめかしうは	こめかしう			209・2
末摘花	59		わらはやみ			209・3
末摘花	60		人しれぬ			209・3
末摘花	61		きぬた			209・5
末摘花	62		いかなるやうそ			209・7
末摘花	63		てをえさし			209・10
末摘花	64		かゝやかし			209・11
末摘花	65		おもひしつまり			209・12
末摘花	66		おなし心に			209・13
末摘花	67		心いられ			210・1
末摘花	68		猶よにある			210・2
末摘花	69		ゑみまけて			210・10
末摘花	70		父君にも			210・14
末摘花	71	は月廿よ日	は月はつかあまり			211・1
末摘花	72		みたれたる			211・7
末摘花	73		おとろきかほに			211・8
末摘花	74		かきりなき人も			212・1
末摘花	75		いらへきこえて			212・3
末摘花	76		二間			212・6
末摘花	77		さうしに入臥て			212・9
末摘花	78	さうしみ	〈欠〉			212・12
末摘花	79		物おもひ			213・2
末摘花	80	され覆	され			213・3
末摘花	81		えひの香			213・5
末摘花	82		いくそたひ哥			213・9
末摘花	82+	〈ナシ〉(△1字下ゲ)	玉襷			213・10
末摘花	83	かねつきて歌	かねつきての哥			213・12
末摘花	84		あまへては			213・13
末摘花	85		口ふたかる			213・14
末摘花	86		いはぬをも哥			214・2
末摘花	87		おもふかたことに			214・3
末摘花	88		をとき		注釈ナシ。	214・6
末摘花	89		さる心も			214・8
末摘花	90		思ふにかなはぬ			214・14
末摘花	91		しか			215・3
末摘花	92		朱雀院			215・4
末摘花	93		ひきつゝけたれと			215・7
末摘花	94		かさやとり			215・11
末摘花	95		夕霧の哥			216・1
末摘花	96		雲ま待			216・1
末摘花	97		はれぬ夜の哥			216・6
末摘花	* 98	〔はひをくれ〕	はいをくれ		写本八付箋ニヨル見出し。	216・7
末摘花	* 99		中央			216・7
末摘花	100	かゝる事	〈ナシ〉(△1字下ゲ)			216・9
末摘花	101		ひかれて			216・11
末摘花	102	おほひちりき大こゑ	おほひちりき			216・14
末摘花	103		大こをさへ			217・1
末摘花	104	ぬすまはれ給へ	ぬすまれ給へ			217・3
末摘花	105	心にくもてなし	心にくもてなし…			217・7

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
末摘花	106		いとまなきほとそや			217・9
末摘花	107		ころさん			217・11
末摘花	108		われもうちゑまるゝ			217・11
末摘花	* 109	この(一日)御いそぎ	うらみられ給ふ御よばひやと被遊也		写本「一日」ハ講釈ノ進行ヲ表スモノ。見出シデハナク行間書キ入レト思ワレ	217・12
末摘花	* 110	恨られ給ふ御よはひやと被遊也	この御いそぎ			217・13
末摘花	111		紫のゆかり			217・14
末摘花	112		所せき			218・2
末摘花	113		御たいひそく			218・8
末摘花	114		くさはひ			218・9
末摘花	115		まかてゝは			218・10
末摘花	116		くしをし			218・11
末摘花	117		内教坊			218・12
末摘花	118		あるはや			218・13
末摘花	119		かけても			218・13
末摘花	120		いのち			218・14
末摘花	121		とひたちぬへく			219・2
末摘花	122		齋院			219・5
末摘花	123		かの物に			219・8
末摘花	124		いさとさ			219・10
末摘花	125		ほのくら		写本ノ注内容ハ整版本・古活字本ノ126注内容ニアタル。	220・2
末摘花	126	くらけれと雪のひかりに	をせなかに		写本ハ付箋ニヨル項目。写本ノ注内容ハ整版本・古活字本ノ125注内容ニアタ	220・8
末摘花	127	ふけんほさち	ふけんほさつ			220・9
末摘花	128		さほに			220・11
末摘花	129		さらほひて			220・13
末摘花	130		ひたい			220・11
末摘花	131		いたけなる			220・13
末摘花	132		かみのかゝりは			221・1
末摘花	133	き給へる	〈欠〉			221・3
末摘花	134	みさうそく	〈欠〉			221・5
末摘花	135		ゆるし色			221・5
末摘花	136		くろきうちき			221・6
末摘花	137		ふるきのかはきぬ			221・6
末摘花	138		こたいのゆへつき		注釈ナシ。	221・7
末摘花	139		われさへ			221・10
末摘花	140		ぎしきくはん			221・12
末摘花	141		ずゞろひ			221・13
末摘花	142		たのもしき人なき			221・14
末摘花	143	もてはやされは	〈欠〉			221・8
末摘花	144		朝日さす哥			222・3
末摘花	145		たゝむゝ			222・3
末摘花	146		松の雪のみ			222・6
末摘花	147		かの人十+			222・7
末摘花	148		あるましき			222・9
末摘花	149		うらやみかほ			222・13
末摘花	150		名にたつ末の			222・14
末摘花	151		はしたなる			223・3
末摘花	152		すゝけたる			223・4
末摘花	153		袖くみ			223・5
末摘花	154		ふりにける哥			223・8
末摘花	155		わかきものは			223・8
末摘花	156		よのつねなる			223・11
末摘花	157		をとるへき			224・5
末摘花	158		うちのとのゐ所			224・7
末摘花	159		御けつりくし			224・8
末摘花	160		けさう			224・8
末摘花	161		何さま			224・11
末摘花	162		先こそは			224・13
末摘花	163		れいのえん			224・13
末摘花	164		みちの國かみのあつこえたる			225・1
末摘花	165		いとう	いとうかき		225・2
末摘花	166		から衣の哥			225・3
末摘花	167		ひきこめ			225・7
末摘花	168		袖まき			225・8
末摘花	169		御筆のしりとるはかせ			225・10
末摘花	170	かしこきかたとは是をも	かしこきかたとは△			225・11
末摘花	171		今やう色のえゆるす			225・13
末摘花	172		なつかしき色とは哥			226・3
末摘花	173	色こき花と	〈ナシ〉(172注ノ一部)			226・3
末摘花	174		月影などに			226・5
末摘花	175		くれなゐの哥			226・6
末摘花	176		かいなで	かいなく		226・7

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
末摘花	177		とりかくさんや			226・9
末摘花	178		かゝるわさ			226・9
末摘花	179		たいはん所			226・11
末摘花	180		くはや			226・11
末摘花	181		たうめの花の色のこと			226・12
末摘花	182	みかさの山	〈ナシ〉(△1字下ゲ)			226・13
末摘花	183		あらずは			227・1
末摘花	184		かひねりは	かねねりは		227・1
末摘花	185		あなちなる			227・2
末摘花	186		さこんの命婦ひこのうねめ			227・3
末摘花	187		あはぬ夜を哥			227・6
末摘花	188		ひとく			227・8
末摘花	189		ゑひ染			227・8
末摘花	190	山吹か	〈ナシ〉(△1字下ゲ「山吹か…」)			227・9
末摘花	191		ありし色あひ			227・9
末摘花	192	ものに	〈ナシ〉(△のに)	ものに		227・11
末摘花	193		おとこたうか			227・14
末摘花	194		七日			228・2
末摘花	195		生なをり			228・10
末摘花	196	みかうしてつから	みかうし			228・10
末摘花	197		ひんくき			228・11
末摘花	198		きやうたい			228・12
末摘花	199		ありし箱の			228・14
末摘花	200		さもおほし			229・1
末摘花	201		またるゝ物は			229・2
末摘花	202		さへつる春			229・4
末摘花	203		夢かとそ			229・4
末摘花	204		かたおひ			229・7
末摘花	205		くれなゐは			229・7
末摘花	206		むもんの桜			229・8
末摘花	207		はくろめ			229・10
末摘花	208		かう憂世を			229・11
末摘花	209	物を見てみたらと	物をもみてみたらと			229・12
末摘花	210	うたてこそ	〈欠〉			230・5
末摘花	211		へいちう	へうちう		230・7
末摘花	212		あへなんは			230・8
末摘花	213		ほゝゑみ			230・10
末摘花	214		はしかくし			230・11
末摘花	215		紅の哥			230・12
末摘花	(216)	一、たゝ梅のはなの色のこと とみかさの山のをとめをは すてゝ	〈欠〉			226・13
紅葉賀	1		朱雀院の行幸			237・1
紅葉賀	2		行幸			237・1
紅葉賀	3	試薬をおまへにて	試薬を			237・3
紅葉賀	4		青海波			237・3
紅葉賀	5		花のかたはらの太山木也			237・4
紅葉賀	6		ゑいなと			237・6
紅葉賀	7		御かれうひん			237・7
紅葉賀	8		待とりたる			237・9
紅葉賀	9		東宮の女御			237・10
紅葉賀	10		神など			237・11
紅葉賀	11		おほけなき			237・12
紅葉賀	12		宮はやかて			237・13
紅葉賀	13		けしう			238・2
紅葉賀	14		家の子			238・3
紅葉賀	15		こゝしう			238・4
紅葉賀	16		いかに御らんしけん			238・6
紅葉賀	17	物思ひに哥	物おもふに哥			238・8
紅葉賀	17+	〈欠〉	めもあや			238・8
紅葉賀	18		から人の哥			238・10
紅葉賀	19		大かたにはと			238・10
紅葉賀	20		御后ことは	御后ことき		238・11
紅葉賀	21		みすきやう			239・2
紅葉賀	22		かいしろ			239・3
紅葉賀	23		宰相兩人は			239・4
紅葉賀	24		四十人のかいしろ			239・7
紅葉賀	25		散すきて			239・10
紅葉賀	26		左大将			239・11
紅葉賀	27		かさしの紅葉			239・10
紅葉賀	28		入あや			239・13
紅葉賀	29		しよきやうてん			240・1
紅葉賀	30		秋風楽			240・2
紅葉賀	31		ことさまし		注釈ナシ。	240・3
紅葉賀	32		正三位			240・4
紅葉賀	33	正下△正四位…	正下正四位下の△	正△正四位…		240・4
紅葉賀	34		むかしの世			240・6
紅葉賀	35		宮は			240・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
紅葉賀	36		さわがれ		注釈ナシ。	240・7
紅葉賀	37		うち十の			240・9
紅葉賀	38		れいの人やうに			240・10
紅葉賀	39		人よりさき			240・13
紅葉賀	40		見つい			241・3
紅葉賀	41		御ことゝも			241・5
紅葉賀	42		ほかなる			241・6
紅葉賀	43		まん所けいし			241・7
紅葉賀	44		あやしき物から			242・1
紅葉賀	45		かの御法事			242・1
紅葉賀	46		けさやかに			242・4
紅葉賀	47		この君			242・5
紅葉賀	48		女にて			242・6
紅葉賀	49		聲に			242・9
紅葉賀	50		しは十			242・13
紅葉賀	51	こそそと	ことそと			242・13
紅葉賀	52		すく十			242・14
紅葉賀	53		かたみにつきせず			243・3
紅葉賀	54		御ふく母かたは			243・8
紅葉賀	55		又おやもなくしておひいて			243・9
紅葉賀	56		まはゆき色には			243・9
紅葉賀	57		地のかきり			243・10
紅葉賀	58		てうはい			243・11
紅葉賀	59		そゝき			243・13
紅葉賀	60		なやらふとて			244・1
紅葉賀	61		いぬき			244・2
紅葉賀	62	ひいな	ひいな			244・5
紅葉賀	63		さはいへと			244・12
紅葉賀	64		うるはしき			245・1
紅葉賀	65		しめて見知ぬ			245・5
紅葉賀	66		よとせ			245・7
紅葉賀	67		おなし大臣			245・10
紅葉賀	68		名高き御おひ			246・1
紅葉賀	69		内えん			246・3
紅葉賀	70		さんさ			246・7
紅葉賀	71		内			246・7
紅葉賀	72	青宮	〈ナシ〉(71注ノ一部)			246・7
紅葉賀	73	一院	〈ナシ〉(71注ノ一部)			246・7
紅葉賀	74		この御ことのしはずも			246・10
紅葉賀	75		つれなくて			246・12
紅葉賀	76		身のいたつらに			246・13
紅葉賀	77		中将の君			246・14
紅葉賀	78		世中の			247・1
紅葉賀	79		うけはしけに			247・4
紅葉賀	80		さはやい			247・5
紅葉賀	81		うつしとり			247・10
紅葉賀	82		御心のをに			247・10
紅葉賀	83		いかさまに哥			248・6
紅葉賀	84		宮のおもほしみたれたる			248・7
紅葉賀	85	見てもおもふ哥	見てもおもふ			248・9
紅葉賀	86		こゝろゆるひ			248・9
紅葉賀	87		人の物いひから			248・10
紅葉賀	88		命婦をも			248・12
紅葉賀	89		思ひの外なる			248・14
紅葉賀	90		卯月に			248・14
紅葉賀	91		ならひなきとちは			249・2
紅葉賀	92		みこたち			249・9
紅葉賀	93		おもての色			249・12
紅葉賀	94		うつろふ心ちして			249・13
紅葉賀	95		物かたり			249・14
紅葉賀	96	似たるかとおほしめす	似たるとおほしめす			250・1
紅葉賀	97		わか御かた			250・3
紅葉賀	98		よそへつゝ哥			250・7
紅葉賀	99		花にさかなん			250・7
紅葉賀	100		たゝ塵ばかり			250・8
紅葉賀	101	袖ぬるゝ哥(一日)	袖ぬるゝ哥		写本「一日」ハ講釈ノ進行ヲ表スモノ。見出シデハナク行間書キ入レト思ワレ	250・11
紅葉賀	102		うちふくたみ			251・1
紅葉賀	103		あされたる	あまれたる		251・1
紅葉賀	104		ありつる			251・2
紅葉賀	105		おはしなから			251・4
紅葉賀	106		はしのかたに			251・5
紅葉賀	107		入ぬる磯の			251・5
紅葉賀	108		見るめにあくは			251・7
紅葉賀	109		さうのことは中のほそを			251・8
紅葉賀	110	平調にをしくたして	平調にをしくたして筆ノ柱をさけてたつる也	平調にほしくたして筆柱をさけてたつる也		251・9

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
紅葉賀	111	ゆしは	ゆしは…	ゆし…		251・10
紅葉賀	111+	<ナシ>(110注ノ一部)	ほそろくせりは		写本ハ付箋ニテ注ヲ補ウ。	251・14
紅葉賀	112	一日も	一日も…			252・5
紅葉賀	113	くね十+	くね十十く		注釈ナシ。	252・7
紅葉賀	114		おも			252・12
紅葉賀	115		あやうけに			252・14
紅葉賀	116		まつはし			253・4
紅葉賀	117		ころなけに			253・6
紅葉賀	118		物けなかりし			253・7
紅葉賀	119		にまれは			253・9
紅葉賀	120	うね女蔵人	うねめ			253・13
紅葉賀	121		内侍のすけ			254・4
紅葉賀	122		御けつりくし			254・9
紅葉賀	123		みうちきの人			254・10
紅葉賀	124		かはほり			254・14
紅葉賀	125		まかわ			255・1
紅葉賀	126		はつれ			255・2
紅葉賀	127		ぬりかくし			255・4
紅葉賀	128	かたはらにては	かたつかたにては			255・4
紅葉賀	129		もりの下草			255・4
紅葉賀	130		もりこそ夏の			255・5
紅葉賀	131		君しこは哥			255・8
紅葉賀	132		篠わけは哥			255・10
紅葉賀	133		またかゝる			255・11
紅葉賀	134		橋はしら			255・13
紅葉賀	135		にくからぬ			256・2
紅葉賀	136		頭中將			256・4
紅葉賀	137		このみごゝろ			256・5
紅葉賀	138		かきりあり			256・7
紅葉賀	139		うたての好や			256・7
紅葉賀	140		温明殿			256・10
紅葉賀	141		物のうらめしう			256・13
紅葉賀	142		うりつくり			256・13
紅葉賀	143		かくしう			256・14
紅葉賀	144	あつまを	あつまやを			257・2
紅葉賀	145		立ぬるゝ哥			257・4
紅葉賀	146		我ひとり	<ナシ>(△1字下ゲ)		257・4
紅葉賀	147		人つまは哥	<ナシ>(△1字下ゲ)		257・7
紅葉賀	148		人にしたかひ			257・8
紅葉賀	149		たゆめは			257・13
紅葉賀	150		すりのかみ			258・2
紅葉賀	151		くものふるまひ			258・3
紅葉賀	152		すかし			258・4
紅葉賀	* 153	ふるう十+	ごほ十+		「ごほ十+」注釈ナシ。	258・5
紅葉賀	* 154	ごほ十+	ふるう十+			258・9
紅葉賀	155		ほど十+	はと十+		258・13
紅葉賀	156		あか君			258・13
紅葉賀	157		はたち			258・14
紅葉賀	158		をこに			259・3
紅葉賀	159		うつし心			259・5
紅葉賀	160		つゝむめる哥			259・9
紅葉賀	161		うへにとりきは			259・9
紅葉賀	162		かくれなき哥			259・11
紅葉賀	163		うらやみなき			259・11
紅葉賀	164		恨てもいふかひ哥			260・1
紅葉賀	165		そこも			260・1
紅葉賀	166		あらたちし哥			260・4
紅葉賀	167		帯は			260・4
紅葉賀	168		端袖			260・5
紅葉賀	169		中たえは哥			260・10
紅葉賀	170		君にかく哥			260・12
紅葉賀	171		そうしくたす			260・14
紅葉賀	172		うしや世中			261・3
紅葉賀	173		とこの山なる			261・3
紅葉賀	174		いひむかふる			261・5
紅葉賀	175		やんことなき			261・8
紅葉賀	176	去は	さりきこえ			261・9
紅葉賀	177	此君ひとりそ	この君ひとりそ			261・10
紅葉賀	178	おとるへき	<欠>			261・13
紅葉賀	179		うるさくてなんまで	うるくてなんまで		262・1
紅葉賀	180	七月	七月…			262・1
紅葉賀	181	(廿よねん)△廿よねんとよみ…	廿よねんとよみ給へり		資料稿ハ( )デ見出シヲ立テル。写本ニナク私ニ補ツタモノカ。	262・7
紅葉賀	182		玉のひかり			262・10
紅葉賀	183		御こしのうちも			262・12
紅葉賀	184	すゝろはしき	そゝろは		写本ハ欄外ノ書キ入シ。	262・12
紅葉賀	185		つきもせぬ哥			262・14

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
紅葉賀	186	けにいかさまに	けにいかさまも			263・2
花宴	1		きさらきのはつか			269・1
花宴	2		みつほね			269・1
花宴	3		そのみち			269・4
花宴	4		たんいん		写本、見出し注ノ先頭1文ハ行間ニ書キ入シ。マタ付箋ニテ注ヲ補ウ。	269・4
花宴	5		宰相の中將春と云	宰相の中將		269・5
花宴	5+	<ナシ>(△1字下ゲ)	さての人は			269・7
花宴	6		をくしかちに			269・7
花宴	7		はなしろめる			269・7
花宴	8		やすきことなれと			269・11
花宴	9		年おひたるはかせ			269・11
花宴	10		かくともはさらにも			269・12
花宴	11		春の鶯			269・13
花宴	12		春宮			269・14
花宴	13		けしきはかり			270・2
花宴	14	左おとゝ	左のおとゝ			270・3
花宴	15		いますこしすこして			270・4
花宴	16		めつらしきことに			270・5
花宴	17		源氏の君の御をは	源氏の君の御をはてにをは也		270・7
花宴	18		大かたに哥			270・12
花宴	19		御心のうちなり			270・12
花宴	20		なをあらしに			271・4
花宴	21		ほそ殿			271・4
花宴	22		さんのくち			271・4
花宴	23		かやうにて			271・6
花宴	24		おほろ月夜に			271・8
花宴	25		こなたさまにはくる物か			271・9
花宴	26		ふかき夜の哥			271・12
花宴	27		まろは			271・14
花宴	28		なんてう			271・14
花宴	29		憂身世に哥			272・8
花宴	30		聞えたかへたるも			272・9
花宴	31		いつれそと哥			272・10
花宴	32		すかい			272・11
花宴	33		扇はかりを			272・13
花宴	34		桐壺には			272・13
花宴	35		五六			273・2
花宴	36		帥宮の北方	帥宮の北方		273・2
花宴	37		すさめぬ			273・3
花宴	* 38	六君	中++それ			273・4
花宴	* 39	中++それ	六君			273・4
花宴	40		たえなんとは			273・5
花宴	41		おくまりたるはや			273・8
花宴	42		後宴			273・9
花宴	43		かの有明			273・11
花宴	44		おまへよりまかて			273・12
花宴	45		北の陣			273・13
花宴	46	四位ノ少將右中弁	四位少將右中弁…	四位少將		273・14
花宴	47		あかれ			274・1
花宴	48		姫君いかに			274・6
花宴	49		桜の三重かさね	桜の三かさね		274・7
花宴	50		めなれたれと			274・8
花宴	51		よにしらぬ哥			274・11
花宴	52		おとこの御をしへ			275・1
花宴	53		れいのと			275・3
花宴	54	まさくりて	まさくり			275・5
花宴	55		やはらかにぬる夜は			275・5
花宴	56		一日の			275・6
花宴	57		めいわうの御代四たい			275・7
花宴	58		文ともきやうさく			275・7
花宴	59		みち++の			275・9
花宴	60		おきなもほど++	おきなもほと++		275・10
花宴	61		そしうなる			275・11
花宴	62		よろつの事			275・12
花宴	63		こうたい			275・12
花宴	64		ましてさかゆく春に	ましてさかやく春に		275・13
花宴	65		弁の中將			275・14
花宴	66		春宮に			276・3
花宴	67		弓のけち			276・6
花宴	68		ほかの散なん			276・7
花宴	69		宮たちの御もき			276・9
花宴	70	我宿の花し哥	我が宿の花し	我が宿の花		276・13
花宴	71		したりかほなるやとわらはせ			276・14
花宴	72		女みこたち			276・14
花宴	73		御よそひ			277・2

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
花宴	74		桜の唐の綺	桜の唐の綺は		277・2
花宴	75		しりいとなくひきて	しりいとなくひけて		277・3
花宴	76		うへのきぬ			277・3
花宴	77		あされたる大君すかた			277・3
花宴	78		女一宮			277・7
花宴	79	みかうしとも	みかうしともあけわたし		注釈ナシ。	277・8
花宴	80		袖口など			277・9
花宴	81		かしこけれ			277・12
花宴	82		かけにもかくさせ			277・12
花宴	83		引き給へは			277・12
花宴	84		よからぬ人こそ			277・13
花宴	85		けふたくくゆり			278・1
花宴	86		さしも有ましき			278・4
花宴	87		あふきをとられて			278・5
花宴	88		おほとけ			278・6
花宴	89		あやしくも			278・6
花宴	90		あつさ弓哥			278・10
花宴	91		心いるかた哥			278・12
花宴	92		いとうれしき物から			278・13
葵	1		世中かはりて			283・1
葵	2		よろつ			283・1
葵	3		御身のやんことなさもそふにや	御身のやんことなきもそふるや		283・1
葵	4		むくひにや			283・2
葵	5		たゝ人のやう			283・4
葵	6		今きさき			283・4
葵	7	立ならふへき	立ならふ人なふ			283・5
葵	8		春宮をそ			283・7
葵	9		大将の君に			283・8
葵	10		まことやかか			283・9
葵	11		前坊			283・9
葵	12	斎宮は	斎宮に			283・9
葵	13		古宮			283・12
葵	14		このみごたち			283・14
葵	15	人のため	〈欠〉			284・3
葵	16		けしからぬ心の			284・4
葵	17		女もにけなき			284・8
葵	18		それにしたかひたるさまに			284・8
葵	19		権の姫君は			284・11
葵	20		あまりつゝまぬ			284・14
葵	21		心くるしきさまの			285・1
葵	22		とたえおほかるへし			285・4
葵	23		其比斎院も			285・5
葵	24		女三宮			285・5
葵	25		すちことに			285・6
葵	26		見所こよなし			285・8
葵	27		御禊の日上達め			285・9
葵	28		下かさねの色			285・10
葵	29		大将の君			285・11
葵	30		御心ちさへ			286・1
葵	31		おほよそ人			286・2
葵	32		大宮			286・4
葵	33		にはかにめくらし			286・6
葵	34		よそほしう			286・7
葵	35		によはうぐるま			286・7
葵	36		あんしろ			286・9
葵	37		かざみ			286・10
葵	38		さないはせそ			287・2
葵	39		さはかりにては			287・2
葵	40		かうけ			287・2
葵	41		そのかたの			287・3
葵	42		人たまへ			287・5
葵	43	榻事	〈ナシ〉(△1字下ゲ)	榻事		287・7
葵	44		すゝなる車のどう			287・7
葵	45		とをりいてん			287・8
葵	45+	〈ナシ〉(45注ノ一部)	ことなりぬ	ことりぬ		287・8
葵	46		さゝのくまに			287・10
葵	47		大殿のは			287・13
葵	48		影のみ哥			288・2
葵	49		めもあやなる			288・3
葵	50		大将のかりの隨身			288・6
葵	51		草木もなひかぬは			288・9
葵	52		つぼさうそく			288・9
葵	53	すけて	すけみて			288・11
葵	54		かみきこめたる			288・12
葵	55		てをつくりて			288・12
葵	56		やう十の			289・2
葵	57		式部卿宮			289・4

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
葵	58		神なとめもこそ			289・4
葵	59		姫君は年比			289・5
葵	60		まつりの日は			289・8
葵	61		あたりをもちかに			289・9
葵	62		斎宮はまた			289・14
葵	63		榊のはかりにことつけて			290・1
葵	63+	〈ナシ〉(△1字下げ)	そは++しからて			290・2
葵	64		うきもんのうへの袴			290・10
葵	65		はかりなき哥			291・1
葵	66		千ひろとも哥			291・3
葵	67		むまはのおとゝ			291・5
葵	68		あふきのつまを			291・10
葵	69		はかなしや哥			291・11
葵	70		しめのうち			291・11
葵	71		かさしける哥			291・14
葵	72		悔しくも哥			292・2
葵	73		人とあひ			292・2
葵	74		いとましからぬ			292・5
葵	75		かやうに			292・6
葵	76		釣する海士の			292・11
葵	77		数ならぬ身を			292・14
葵	78	みそきかはら	御祓河原			293・2
葵	79		さはいへと			293・5
葵	80		いきずだま			293・7
葵	81		人にもさらに			293・9
葵	82		二条の君			293・12
葵	83		親の御方			294・1
葵	84		院より			294・5
葵	85		かの殿には			294・9
葵	86		かゝる御物思ひのみたれ			294・10
葵	87		なやみ給ふ			294・13
葵	88		うちとけぬ朝ほらけ	うち拝め朝ほらけ		295・4
葵	89		おほしかへさる			295・5
葵	90	いと心さし	いと心さし			295・5
葵	91		れいの			295・9
葵	92	袖ぬるゝこひちと哥	袖ぬるゝこひちと			295・11
葵	93		山の井の水			295・11
葵	94		いかにそやもから			295・13
葵	95		袖のみぬるゝやいかに			295・14
葵	96		あさみにや哥			296・2
葵	97		おほろけ			296・2
葵	98		御いきすたま			296・3
葵	99		おほしつゝくれは			296・5
葵	100		御夢には			296・10
葵	101	たけくいかき	たけく			296・11
葵	101+	〈ナシ〉	身を捨て也		写本ハ見出シヲ欠クガ、整 版本・古活字本ノ注内容ハ 写本101注ノ一部ニアリ。	296・12
葵	102		いと名たゝしう			297・1
葵	103		つれなき人			297・3
葵	104		思ふも物を			297・4
葵	105		斎宮はこそうちに入			297・5
葵	106	二たひの御はらへ	二たひの御禊			297・6
葵	107		まさる方の			297・9
葵	108		またさるへき			297・10
葵	109		ほくゑ経			298・3
葵	110		うちそへたるも			298・8
葵	111		涙のこほるゝ			298・11
葵	112		口おしう			298・12
葵	113		かならずあふせ			298・14
葵	114		おとゝ宮など			298・14
葵	115		いてあらずや			299・2
葵	116		物思ふ人の			299・3
葵	117		歎わひ哥			299・6
葵	118		御ゆ			299・12
葵	119		のちの事			300・1
葵	120		御かしつきに			300・5
葵	121		うふやしなひ			300・7
葵	122		御ゆする			300・11
葵	123		御そなともたゝけしのか			300・11
葵	124		御心かはりも			300・14
葵	125		人の御ため			301・3
葵	126		猶いとなやまし			301・5
葵	127		れいのさまにて			301・5
葵	128		ことあひたる			301・7
葵	129		内など			301・12
葵	130		すこし			301・13
葵	131	けにたゝ一人に	けにたゝ一人に			302・1

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
葵	132		あかぬ事			302・11
葵	133		宮のつと			302・13
葵	134		おまし所にこそ句			303・1
葵	135		あまりわかく			303・1
葵	136		つねよりはめとゝめて			303・3
葵	137		秋のつかさめし			303・3
葵	138		君達			303・4
葵	139		いたはりのそむ			303・4
葵	140		ゆすり			303・12
葵	141		物にそあたる			303・11
葵	142		御枕など			303・13
葵	143		たゝならぬ			304・2
葵	144		鳥邊野に			304・7
葵	145		もこよふ			304・12
葵	146		いともはかなきかはね			304・13
葵	147		人ひとりか			304・14
葵	148		八月廿日あまり			305・1
葵	149		のほりぬる哥			305・4
葵	150		我先たゝまし			305・9
葵	151	かきりあれはの哥	限あれは哥			305・11
葵	152		法界三昧			305・12
葵	153		なにゝ			305・14
葵	154		又たくひ			306・4
葵	155		袖の上の玉			306・5
葵	156		さゑものつかさに			306・8
葵	157		いつくしき			306・9
葵	158		うしとおもひしみにし世も			306・10
葵	159	時しもあれ	(ナシ)(△1字下ゲ)			306・14
葵	160		念佛の暁方			307・1
葵	161		身にもしみけるかな			307・1
葵	162		菊のけしきはめる			307・2
葵	163		こきあをにひの紙			307・3
葵	164		さしをきて			307・3
葵	165		聞えぬ程は			307・4
葵	166		人の世を哥			307・6
葵	167	つれなの御訪や	つれなの御訪や…			307・7
葵	168		久しくおもひわつらひ			307・12
葵	169		むらさきの			307・13
葵	170		こよなく			307・13
葵	171		とまる身も哥			308・2
葵	172		かつは			308・2
葵	173		御らんせすもやとて			308・2
葵	174		里に			308・3
葵	175		こせん坊			308・5
葵	176		そのかはりに			308・7
葵	177		大かたの世につけて			308・12
葵	178		野の宮の御うつろひ			308・12
葵	179		正日			309・3
葵	180		三位中将			309・4
葵	181		かのいさよひのさやかならさりし			309・7
葵	182		はて十は			309・9
葵	183		時雨うちして			309・10
葵	184	中将君にひ色のなをし	中将もにひ色のなをし	中将君にひ色のなをし		309・10
葵	185		雨となり			309・14
葵	186		ひもはかりを			310・3
葵	187		これはすこし			310・3
葵	188		紅のつやゝかなる			310・3
葵	189		雨となり			310・6
葵	190		ひとりことの			310・6
葵	191		みし人の哥			310・8
葵	192		あやしう			310・9
葵	193	くんしいたかり	くつしいたかり			310・14
葵	194		枯たる下草			310・14
葵	195		草枯の哥			311・3
葵	196		木の葉よりけに			311・5
葵	197		いまでもて中十十哥			311・7
葵	198		たえまとをけれど			311・9
葵	199	空の色し	空の色したる			311・10
葵	200		わきてこのは			311・12
葵	201		いつも時雨			311・12
葵	202		おほうち山を			311・14
葵	203		えやはとて			311・14
葵	204		秋露に哥			312・2
葵	205		何事につけても			312・3
葵	206		つらき人しも			312・3
葵	207		猶ゆへつき			312・6
葵	208	さはおふし	さはおほし			312・7
葵	209		みぬほと			312・8

## 写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
葵	210	めおやたちたれ共	<ナシ>		写本ミセケチ前ノ本文ガ版本209注ノ一部ニアリ。	312・8
葵	211	中納言	中納言君			312・10
葵	212		みなれ十十て			312・14
葵	213		聞えもやらず			313・3
葵	214		いのちこそ			313・5
葵	215		火をうちなかめ			313・5
葵	216		とりわきて			313・6
葵	217		程なきあこめ			313・8
葵	218		くわざう			313・9
葵	219		むかしを			313・10
葵	220		待とを			313・12
葵	221		すこしひま有つる			314・4
葵	222		けふにしも			314・6
葵	223		をくれ			315・7
葵	224		暮ぬほとに			315・9
葵	225		をしこりて			315・11
葵	226		おほしすつましき			315・12
葵	227		けにこそ			316・4
葵	228		いと浅はかなる			316・4
葵	229		中十今は			316・6
葵	230		うつせみの			316・8
葵	231		からのもやまどのも			316・10
葵	232	なき玉その哥	なき玉そ哥			317・1
葵	233		霜の花しろし			317・1
葵	234		一日の花なるへし			317・3
葵	235		宮に御らんせ			317・4
葵	236		いふかひなき			317・4
葵	237		かく心まとはず			317・5
葵	238		おとな十しき			317・10
葵	239		殿のおほし			317・12
葵	240		中宮			318・4
葵	241		常なき世は			318・6
葵	242		めにちかく			318・7
葵	243		けふまでもとて			318・8
葵	244		むものうへの御そに			318・9
葵	245		ゑいまき			318・10
葵	246		いなみ			318・13
葵	247		御さうそく			318・14
葵	248		衣かへ			319・1
葵	249		しはしことかた			319・9
葵	250		猶あやしく思ひきこゆ			319・11
葵	251		中将君といふ...			319・13
葵	252		わか君			319・13
葵	253		にけなからぬ			320・3
葵	254		へんつき			320・5
葵	255		おほしはなちたる			320・7
葵	256		君は			320・9
葵	257		御硯			320・11
葵	258		あやなくも哥			321・1
葵	259		うらなく			321・2
葵	260		ぬのこのもちい			321・13
葵	261		かゝる御思ひの			321・13
葵	262		かす十十			322・2
葵	263		けふはいま十しき			322・2
葵	264		子のこはいくつ			322・5
葵	265		みつか一にても			322・6
葵	266		ころしらひ			322・13
葵	267		むすめの弁			322・13
葵	268		かうこのはこ			322・14
葵	269		あなかしこあたになといへは	あなかしこあたになといへは		323・1
葵	270		あたる事は			323・1
葵	271		いまはさるもし			323・2
葵	272		君それいの			323・4
葵	273		したしき			323・5
葵	274		けそく			323・6
葵	275		さてもうち十十に			323・8
葵	276		夜をや			323・13
葵	277		世中のいと			323・14
葵	278		いまきさきは			324・1
葵	279		この大将			324・2
葵	280		いとにくしと			324・3
葵	281		君もをしなへて			324・5
葵	282		御もきの			324・13
葵	283		なれはまさらぬ			325・4
葵	284		年もかへりぬ			325・5
葵	285		みそかけ			325・14

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
葵	286		けふはかりは			326・3
葵	287		こさらまし			326・6
葵	288		春やきぬる			326・7
葵	289		あまた年哥			326・10
葵	290		あたらしき哥			326・12
葵	291		をろかなる			326・12
葵	292	いまはさる文字いませ給へよましり侍らしまして	〈ナシ〉(271注ノ一部)			323・2
葵	293	忍ひかたく成て	〈ナシ〉(255注ノ一部)			320・8
葵	294	一、いとましからぬかかし あらそひかなとさう＋十し うおほせとかやうにおもな からぬ人はた人あひ乗給	〈欠〉		75ニ「私此心不分明末ニ注之」ト記スト対応スル。	292・5
葵	295	一、私心なかき人たにあらは	〈欠〉		213行間ニ「私△ころなかき人たに此心奥ニ注之」ト記スト対応スル。	313・5
葵	296	一、御まへにて物なとまいらせ給て	〈欠〉		239行間ニ「私△御まへにてものなと△別に悉口末に注之」ト記スト対応スル。	318・3
賢木	1		斎宮の御くたり			333・1
賢木	2		世人も			333・2
賢木	3		まことにうしと			333・4
賢木	4		ひたみち			333・5
賢木	5		おやそひて			333・5
賢木	6		人は心つきなし			333・9
賢木	7		もとの殿には			333・11
賢木	8		まうて給へき			333・12
賢木	9		院のうへ			333・13
賢木	10		九月七日			334・2
賢木	11		いてやどは			334・3
賢木	12		松風すこく	〈ナシ〉(△1字下ゲ)		334・6
賢木	13		そのことゝも			334・6
賢木	14		こせん			334・8
賢木	15	しのひ給へれと	しのひ給つれと			334・8
賢木	16		こ柴を大かきに			334・11
賢木	17		くろ木の鳥あ			334・13
賢木	18		かんづかさ			334・14
賢木	19		ひたきや			335・1
賢木	20		北のたい			335・3
賢木	21	アソヒハ	あそひは		写本ハ欄外ノ書き入シ。	335・4
賢木	22		かうやうの			335・6
賢木	23		かうしめの外			335・7
賢木	24		こゝの人目			335・9
賢木	25		かのおほさん			335・10
賢木	26	出ぬん	出ぬんか			335・10
賢木	27		こなたは			335・12
賢木	28		月比の			335・14
賢木	29		かはらぬ色を	かはらぬ宮を		336・2
賢木	30		いかきもこえ			336・2
賢木	31		神かきは哥			336・4
賢木	32		をとめ子が哥			336・6
賢木	33		大かたのけはひ			336・6
賢木	34		ひきゝて			336・6
賢木	35		人もしたひさま			336・8
賢木	36		きすありて			336・9
賢木	37		おほしとまる			336・13
賢木	38		月も入ぬ			336・14
賢木	39		こゝらおもひ			337・1
賢木	40		殿上のわかきんたち			337・2
賢木	41		まねひやらん			337・5
賢木	42		ことさらにつくり出			337・5
賢木	43	暁の	あかつきの哥			337・7
賢木	44		中十ことも			337・10
賢木	45		大かたの哥			337・11
賢木	46		くやしきこと			337・11
賢木	47		あやまちも			337・14
賢木	48		又うちかへし			338・3
賢木	49	男はからおほしなやむへしまて	おとこはから			338・3
賢木	50		ほとちかく	ほとちかく		338・9
賢木	51	斎宮	斎宮は			338・9
賢木	52		もときも			338・11
賢木	53		何事も人にもとき			338・11
賢木	54		十六日			338・13
賢木	55		長奉送使	〈ナシ〉(△1字下ゲ)		338・14
賢木	56		れいの			339・1
賢木	57	かけまくもかしこ	かけまくも△かしこ			339・2
賢木	58		ゆふにつけて			339・2

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
賢木	59	なる神たにこそ	<ナシ>(見出シヲ欠クガ注内容ハ58注ノ一部ニアリ)			339・3
賢木	60		やしまもる哥			339・4
賢木	61		おもひ給ふるに			339・4
賢木	62		宮の御をは			339・5
賢木	63		女別當			339・5
賢木	64	くにつかみ	くにつかみ哥			339・7
賢木	65		御かへりおとな++しき			339・9
賢木	66		れいにたかへる			339・11
賢木	67		世中不定			339・13
賢木	68		御息所御こしに			340・1
賢木	69		ちゝおとゝ			340・1
賢木	70	そのかみを哥	そのかみ哥			340・5
賢木	71		御心うこきてわかれのくし			340・7
賢木	72		八省			340・8
賢木	73		洞院のおほち			340・10
賢木	74		ふりすてゝ哥			340・13
賢木	75		すゝか河哥			341・2
賢木	76		哀なるけを			341・3
賢木	77		霧いたう			341・3
賢木	78		行かたを哥			341・6
賢木	79		たひの空			341・7
賢木	80		まつりこたん			341・12
賢木	81		かきりあれは			342・4
賢木	82		何心もなくうれしと			342・7
賢木	83		この宮			342・11
賢木	84		おほきさき			342・13
賢木	85		中宮のかく			342・14
賢木	86	わか御世のおなし事にて △...	わか御世のおなし事にて位をさり て...			343・3
賢木	87		おほきおとゝ			343・4
賢木	88		きうに			343・4
賢木	89		けうし			343・6
賢木	90		藤の			343・8
賢木	91	去年今年	去年△今年△			343・9
賢木	92		御ほたし			343・11
賢木	92'		我も++		資料稿「ちり++」ノ誤写カ、ト注記アリ。	343・12
賢木	93		しはすの廿日			343・12
賢木	94	宮は三条の宮に	宮は三条の宮に...	<ナシ>(93注ノ一部)		344・3
賢木	95		かけひろみ哥			344・7
賢木	96		なにはかりの			344・7
賢木	97		さえわたる哥			344・10
賢木	98		わか++しう			344・10
賢木	99		王命婦			344・11
賢木	100		其ついでに			344・12
賢木	101	ふるき宮は	古宮は			344・13
賢木	102		たえたる年月			344・14
賢木	103		としかへりぬれと			344・14
賢木	104		いまめかしき			345・1
賢木	105		みかとのわたり			345・3
賢木	106		むまくるま			345・3
賢木	107		とのゐ物のふくろ			345・3
賢木	108		みくしけとの			345・5
賢木	109		院の御おもひにて			345・6
賢木	110		后はさとかちに			345・8
賢木	111		登花殿			345・10
賢木	112		おもひの外なりし			345・11
賢木	113		こ姫君を			346・4
賢木	114		おとゝの			346・5
賢木	115		そは++しく			346・6
賢木	116		かきりなき御おほえの			346・10
賢木	117		むかひはら			347・2
賢木	118		むかし物かたり			347・3
賢木	119		齋院は御ふくにて			347・4
賢木	120		そんわう			347・5
賢木	121		中将			347・8
賢木	122		むかしに			347・8
賢木	123		みかとは院の			347・10
賢木	124		わりなくても			347・14
賢木	125		五だん			347・14
賢木	126		中納言			348・2
賢木	127		いかてかは			348・5
賢木	128		たゝこゝにしも			348・8
賢木	129		こゝかしこ尋ありきて			348・10
賢木	130		心から哥			348・12
賢木	131		なけきつゝ哥			348・14
賢木	132		御ありさまにて			349・2

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
賢木	133	せよきやうてん	しよきやうでん	せよきやうてん		349・2
賢木	134		つれなき人			349・5
賢木	135		内にまいり			349・6
賢木	136		いとおそろしきに			349・10
賢木	137		御いのりをさへ			349・12
賢木	138		まねふへきやうもなく			350・1
賢木	139		明はてにけれと出給はず			350・5
賢木	140		ぬりごめに			350・6
賢木	141		御けあがり			350・8
賢木	142		大夫			350・9
賢木	143		こもりゐ			350・10
賢木	144		宮もまかて			350・12
賢木	145		猶くるしうこそ			351・3
賢木	146		世やつきぬらん			351・4
賢木	147		年比すこし			351・9
賢木	148		すこし物おもひの			351・10
賢木	149		猶かきり			351・11
賢木	150		さすかにいみしと聞給ふふし			352・7
賢木	151		あらざりし			352・8
賢木	152		したかひ			352・10
賢木	153		明はつれはふたりして			352・13
賢木	154		世中にありと			352・14
賢木	155		あふ事の哥			353・4
賢木	156		御ほたし			353・4
賢木	157		なかき世の哥			353・6
賢木	158		いつくをおもてに			353・8
賢木	159		此女君			353・12
賢木	160		宮も			353・14
賢木	161	大后のあるましき事に	〈ナシ〉(160注ノ一部)			354・4
賢木	162		せきふしんの見けんめ			354・6
賢木	163		おもかはりせん			354・9
賢木	164		宮はいみしう			354・13
賢木	165	みたれて	おもほしみたれて			355・4
賢木	166		御らんせて久しからん			355・4
賢木	167		式部かやうにや			355・6
賢木	168	よひの僧	よゐの僧			355・8
賢木	169		ぬきすゑなり		注釈ナシ。	355・12
賢木	170		女にて			355・13
賢木	171		玉のきす			355・14
賢木	172		雲林ゐん			356・3
賢木	173		こはゝ宮す所			356・4
賢木	174		秋ののゝいとなまめき			356・6
賢木	175		うき人しもそ			356・8
賢木	176		から十十			356・9
賢木	177		りし			356・12
賢木	178		念佛衆＝生			356・13
賢木	179		行はなれぬへし			357・2
賢木	180		きゝさしつるは			357・3
賢木	181		みちのくにかみ			357・3
賢木	182		浅茅生の哥			357・5
賢木	183		風ふけは哥			357・7
賢木	184	中将の君	中将君			357・11
賢木	185	かけまくは哥	かけまくも哥	かけまくは哥		357・14
賢木	186		むかしを今に			357・14
賢木	187		とりかへされん			358・1
賢木	188		中将まきるゝ			358・3
賢木	189		そのかみや哥			358・6
賢木	190		ちかき世			358・6
賢木	191		あさかほ			358・7
賢木	192		おそろしや			358・8
賢木	193		やうの物と			358・9
賢木	194		わりなう			358・10
賢木	195	院は	院も			358・11
賢木	196		あいなきこと			358・13
賢木	197		六十巻			358・13
賢木	198		人ひとり			359・3
賢木	199	しはふる人	しばふるい人	しはふる人		359・6
賢木	200		くろき御車			359・7
賢木	201		世中いかゝあらん			359・10
賢木	202		色かはる			359・11
賢木	203		おほつかなさも			359・13
賢木	204	命婦のもとに	命婦のもとに句			359・14
賢木	205		宮のあひた	宮のあひこ		360・1
賢木	206	日数を心ならずやとてなん	日かすを心ならずやとてなん句			360・2
賢木	207		にしき			360・3
賢木	208	あたら思ひやりふかう物し 給ふ人のゆくりなう	あたら	あたしおもひやり		360・7
賢木	209		宮の御事にふれたる			360・9

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
賢木	210		まかて給ふ			360・12
賢木	211		先内の			360・13
賢木	212		けしき御覽する			361・2
賢木	213		中宮のごよひ			361・9
賢木	214		春宮をは今の御子に			361・12
賢木	215	とてこそ	とてこそ句			361・14
賢木	216		大かた			362・1
賢木	217		れいけいてん			362・4
賢木	218	白こう白をつらぬけり太子をちたり	白こう日をつらぬけり太子をちたり	白こう		362・5
賢木	219		おまへに			362・10
賢木	220		月はなやか			362・10
賢木	221		九重に哥			362・14
賢木	222		月影の哥			363・3
賢木	223		霞も			363・3
賢木	224		例は			363・5
賢木	225		かれより			363・10
賢木	226		木枯の哥			363・11
賢木	227		筆など心ことに			363・14
賢木	228		聞えさせても			364・1
賢木	229		身のみ			364・1
賢木	230		あひ見すて哥	あひすすて哥		364・3
賢木	231	心のかよふ	心のかよふならば			364・3
賢木	232		しまさるへし			364・6
賢木	233		御八講のいそき			364・6
賢木	234		みこき			364・7
賢木	235		宮に聞え			364・8
賢木	236		別にし哥			364・9
賢木	237		なからふる哥			364・11
賢木	238		すちかはり			364・12
賢木	239		けふは			364・13
賢木	240		十二月十日			364・14
賢木	241		玉の軸		注釈ナシ。	365・1
賢木	242		ちす			365・2
賢木	243		花つくゑ		注釈ナシ。	365・3
賢木	244		先たい			365・4
賢木	245		五巻			365・5
賢木	246		つねに			365・9
賢木	247		みこはなかはの		古活字本「か」ハ「リ」ニモ見エル。	365・11
賢木	248		御をちの			365・13
賢木	249		いまはしめて			366・11
賢木	250		みやう香			367・2
賢木	251		月のすむ哥			367・7
賢木	252	大かたの哥	大かたの			367・11
賢木	253		かつにこりつゝ			367・11
賢木	254		かたへは			367・11
賢木	255		殿にても			367・13
賢木	256		大やけさま			367・14
賢木	257		さう++しや			368・6
賢木	258		おもひしめてし			368・7
賢木	259		としもかはり			368・8
賢木	260	内宴踏哥	内宴△踏哥			368・9
賢木	261		むつかしかりし			368・10
賢木	262		宮のうち			368・13
賢木	263		あを馬はかりそ			369・1
賢木	264		むかひの			369・2
賢木	265		ちひと			369・3
賢木	266		みすのはし			369・6
賢木	267		きしの柳			369・8
賢木	268		むへも心			369・9
賢木	269		なかくめかる哥			369・11
賢木	270		有し世の哥			369・14
賢木	271		さるひとつ物にて			370・3
賢木	272		老しらへる			370・6
賢木	273		つかさめし			370・7
賢木	274		たうばり			370・8
賢木	275		みふ			370・9
賢木	276	人しれず	〈欠〉			370・14
賢木	277		このとのゝ			371・2
賢木	278		ちゝのへう			371・4
賢木	279		かへさひ申			371・7
賢木	280		一そう			371・8
賢木	281		御子とも			371・10
賢木	281+	〈欠〉	このたひのつかさめし			371・14
賢木	282		春秋のみとつきやう			372・4
賢木	283		ぬんふたき			372・6
賢木	284		人++あるへし			372・8

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備 考	大成所在
賢木	285		ふとの			372・10
賢木	286		こまとり			372・12
賢木	287		つゐに			373・2
賢木	288		はしのもとのしやうひんと			373・5
賢木	289		中將の子の			373・6
賢木	290		たかさこを			373・10
賢木	291		それもかと哥			374・2
賢木	292		時ならて哥			374・4
賢木	293		さうとき			374・5
賢木	294		おほかんめりし			374・5
賢木	295	貫之かいさめたふるゝ	貫之かたふるゝ			374・7
賢木	296	たうるゝは	(ナシ)(295注ノ一部)			374・7
賢木	297		わか御心にも			374・8
賢木	298		文王の子武王のおとうと		注釈ナシ。	374・9
賢木	299		成王のなにとかや			374・10
賢木	300	兵部卿とも	兵部卿とも帥とも異本	兵部卿とも帥とも		374・10
賢木	301		宮には			375・5
賢木	302		殿の			375・7
賢木	303		中將			375・14
賢木	304		したとに			375・14
賢木	305		あはつけきを			375・14
賢木	306		入はてゝも			376・2
賢木	307		うす二あひ			376・5
賢木	308		我も見付			376・6
賢木	309		たうかみを			376・9
賢木	310		みてなり			377・2
賢木	311		むかしも心ゆるされて			377・8
賢木	312		人からに			377・8
賢木	313		齋院			377・8
賢木	314		このかみの			378・1
賢木	315		おこましかりし			378・7
賢木	316	あやしとやは	あやしとや			378・8
賢木	317		そのほいたかう			378・9
賢木	318		さはかりねたけなりし人の見る所も あり			378・10
賢木	319	しめてわか心の入かたに なひき給にこそは	しめて			378・11
賢木	320		大やけの御かたに			378・13
賢木	321		すすくしう		注釈ナシ。	378・14
賢木	322		さすかに			379・1
賢木	323		あまへて			379・2
賢木	324		ろうせらるゝ			379・4
賢木	325		此ついでに			379・7
賢木	326	一、齋院はわかき御心に 不定なりつる御いてたちの かくさたまり行をうれしとお ほしたり	(欠)		51末尾ニ「私聞出す事 在之奥ニ注之」ト記スノ対応 スル。	338・10
賢木	327	一、なる神たにこそ	(欠)		59末尾ニ「私此引哥の心 奥ニ注也」ト記スノ対応ス 233行間ニ「私八講ノ作法 人ニたつめへし」ト記スノ 対応スル。	339・3
賢木	328	一、御八かう	(欠)			364・7
賢木	329	一、かうい	(欠)			370・9
賢木	330	一、致仕のへう	(欠)		278注ヲ補ウモノ。	371・4
花散里	1		大かたの世につけてさへわつらは しう			387・1
花散里	2		れいけいてん			387・3
花散里	3	御おとうとの三宮	御おとうとの三君			387・5
花散里	4		わさとも			387・7
花散里	5		くさはひ			387・9
花散里	6		さゝやかなる			387・11
花散里	7		あつまにしらへて			387・12
花散里	8		さしいてゝ			387・13
花散里	9		まつりの比			387・14
花散里	10		たゝめ			388・1
花散里	11		もよほしきこえ			388・2
花散里	12		をちかへり哥			388・5
花散里	13		おほめくは			388・7
花散里	14		郭公哥			388・9
花散里	15		ことさらに			388・9
花散里	16		うへし牆ね			388・10
花散里	17		人しれぬ心には			388・10
花散里	18		つくしの五せち			388・12
花散里	19		中十			388・14
花散里	20		廿日の月さし出る			389・3
花散里	21		ありつるかきね			389・8
花散里	22		いかにしりてか			389・9
花散里	23		橋の哥			389・11

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
花散里	24		いにしへの			389・11
花散里	25		こよなう			389・12
花散里	26		いとさら			390・1
花散里	27		人めなく			390・4
花散里	28		さはいへと			390・5
花散里	29		つらさも忘ぬへし			390・7
花散里	30	にくけもなくて	にくけもなくして			390・9
花散里	31		それをあいなしと			390・11
花散里	32		ありつるかきねも			390・12
花散里	33		あたりなりけり			390・12
花散里	34	とにかくに	〈ナシ〉(△1字下ゲ)			390・11
花散里	×35	橘古事	〈ナシ〉(△1字下ゲ「橘古事…」)			
須磨	1		世中いとわつらはしく			395・1
須磨	2		かのすまは			395・2
須磨	3		ひたゝけ			395・4
須磨	4		姫君			395・7
須磨	5		あふをかきり			395・12
須磨	6		かとてもやと			395・12
須磨	7		入道の宮			396・7
須磨	8		やよひ廿日			396・10
須磨	9		そのおりの心ち			396・14
須磨	10		よにかくれ			397・1
須磨	11		あんしろ車			397・2
須磨	12		わか君は			397・4
須磨	13		つれ十にこもらせ			397・9
須磨	14		こしのへて			397・11
須磨	15		いちはやき			397・13
須磨	16		いのちなかき			397・14
須磨	17		あめの下を			397・14
須磨	18		とある			398・2
須磨	19		さしてくはんさく			398・4
須磨	20		あさはかなる			398・4
須磨	21		うつしまにて			398・5
須磨	22	昔の御物かたり	むかしの物かたり			398・9
須磨	23		過待にし			398・12
須磨	24	をかしあるにても	をかしあるにても			399・3
須磨	25		人のみかにも			399・4
須磨	26		されと			399・4
須磨	27		いへはえに			399・8
須磨	28		とまり給ふなるへし			399・10
須磨	29		さまかはり			400・5
須磨	30		とりへ山哥			400・8
須磨	31		あかつきの別は			400・9
須磨	32		いつとなく別と			400・9
須磨	33		きこえさせま			400・11
須磨	34		とらおうかみ			401・2
須磨	35		なき人の哥			401・5
須磨	36		殿に			401・6
須磨	37		さふらひには			401・8
須磨	38		ましていかに荒ゆかん			401・12
須磨	39		よへは			402・3
須磨	40		ひたやこもり			402・5
須磨	41		かゝる世を			402・7
須磨	42		父御子は			402・9
須磨	43		人の見るらん			402・10
須磨	44	思ふ人かた十に	おもふ人かた十に			402・12
須磨	45		物くるをしき世にて			403・6
須磨	46		そちの宮			403・7
須磨	47		むもんのなをし			403・8
須磨	48	身はかくて哥	身はかくて			403・14
須磨	49		殿のうち			404・10
須磨	50		いはほの中			404・12
須磨	51		かうしも			404・12
須磨	52		ことなし			405・2
須磨	53	〔よにつゝみて〕	夜につゝみて		古活字本丁変リニツキコノ 1行ノミ整版本ノ行頭位置 ヤヤ低イ。写本見出しヲ欠 クガ、資料稿デハ版本ニヨ	405・5
須磨	54		れの月			405・5
須磨	55		ぬるゝかほなれは			405・6
須磨	56		月影哥			405・8
須磨	57		行めぐり哥			405・10
須磨	58		たゝしらぬ			405・10
須磨	59		文集			406・1
須磨	60		西のたい			406・4
須磨	61		りやうし			406・4
須磨	62	〔みさうみまき〕	〈ナシ〉(61注ノ一部)		写本見出しヲ欠クガ、資料 稿デハ私ニ補ウ。	406・5

## 写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
須磨	63		けん			406・5
須磨	64		わか御かたの中務			406・7
須磨	65		つれなき御もてなし			406・8
須磨	66		こなたに			406・10
須磨	67		あふせなき哥			407・2
須磨	67+	〈欠〉	つみのかれ	つみのかれ		407・2
須磨	68		涙河哥			407・6
須磨	69		うしとおほしなすゆかり			407・8
須磨	70		あすとての			407・9
須磨	71		北山			407・10
須磨	72		暁かけて			407・10
須磨	73		先入道の			407・10
須磨	74		一ふし			408・3
須磨	75		御山に			408・6
須磨	76		みしはなく哥			408・9
須磨	77		えそつゝけ		「え」ノ字母、整版本「衣」、古活字本「盈」。	408・10
須磨	78		わかれし哥			408・11
須磨	79		月待出て			408・11
須磨	80		さらなる			408・12
須磨	81	右近の丞の蔵人△中川…	右近の丞の蔵人中河紀伊[ノ/]守が弟			408・14
須磨	82		ひきつれて哥			409・4
須磨	83		まかり申			409・6
須磨	84		うき世をは哥			409・7
須磨	85		かきりなきにても			409・9
須磨	86		御はかは			409・12
須磨	87		そいろさむき			410・1
須磨	88		なき影や哥			410・3
須磨	89		王命婦を御かはりにとて			410・4
須磨	90		又まいり待らす			410・5
須磨	91		いつか又哥	いつるゞ哥		410・8
須磨	92		ちりすき			410・8
須磨	93		あちきなき			410・11
須磨	94		御かへりはさらに			411・1
須磨	95		御まへには			411・1
須磨	96		そこはかと			411・2
須磨	97		さきてとくの哥			411・4
須磨	98		時しあらは			411・4
須磨	99		おさめ			411・7
須磨	100		みかはやうと			411・7
須磨	101	世ゆする	世△ゆする			411・9
須磨	102		その日は			412・3
須磨	103		れいの			412・3
須磨	104		おほし入たる			412・10
須磨	105		いとゝし			412・10
須磨	106		いける世の哥			412・12
須磨	107		おしからぬ哥			412・14
須磨	108		さるの時			413・3
須磨	109		大江殿			413・5
須磨	110		から國に哥			413・7
須磨	111		うら山しく			413・8
須磨	112	〔三千里のほか〕	三千里外随に行李二十九年ノ間夕		写本見出しシラ欠クガ、資料稿デハ私ニ補ウ。	413・10
須磨	113		かひの雫も			413・10
須磨	114	古脚を哥	古郷を哥			413・12
須磨	115		つらからぬ物なく			413・12
須磨	116		おはすへき所から			413・13
須磨	117		もしほ			413・13
須磨	118		かやとともゝ			414・1
須磨	119		かゝるおりならずは			414・2
須磨	120		うへ木とも			414・6
須磨	121		心ちうつゝ			414・6
須磨	122		わか君			414・11
須磨	123		かきもやり			414・13
須磨	124		松嶋哥			415・1
須磨	125		みきはまさりて			415・2
須磨	126		中なるに			415・3
須磨	127		つれ々々から			415・3
須磨	128		こりすまの哥			415・5
須磨	129		大殿にも			415・6
須磨	130		みてうゝいも			415・10
須磨	131		二かた			415・12
須磨	132		かとり			415・14
須磨	133	出入給しまき柱	出いり給ひし出給ひ真木柱文躰又一也	出いり給ひし出給ひ		416・2
須磨	134		やう々々忘草			416・6
須磨	135		いつまでと			416・7

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
須磨	136		すくせの			416・8
須磨	137	すく++と	すく++			416・11
須磨	138		うき世の人こと			416・12
須磨	139		やみぬるはかり			416・13
須磨	140		しほたるゝ哥			417・3
須磨	141		浦にたく哥			417・5
須磨	142		浦人の哥			417・10
須磨	143	ものゝ色	ものゝ色句し給へるし給ふ衣裳	ものゝ色句し給へる		417・10
須磨	144		やかて御さうしにて			418・1
須磨	145		中++この			418・4
須磨	146		もらしてけり			418・4
須磨	147		猶うつゝ			418・7
須磨	148		あけぬ夜の	あけぬ夜の夢となり		418・8
須磨	149		罪ふかき身			418・9
須磨	150		うきめかる哥			418・11
須磨	151		伊勢嶋や哥			418・14
須磨	152		あはれに			419・2
須磨	153		かき給ことのは			419・8
須磨	154		かく世を			419・8
須磨	155		いせ人の哥			419・11
須磨	156		あまかつむ哥			419・12
須磨	157	あれまさる哥	あれまさり哥			420・3
須磨	158		むくら			420・3
須磨	159		かんの君			420・7
須磨	160		宮にも			420・7
須磨	161		かのにくかりし			420・9
須磨	162		心しみにし			420・10
須磨	163		いみしかりし			420・11
須磨	164		御さまかたち			420・13
須磨	165		心のうちそ			420・14
須磨	166		その人の			420・14
須磨	167	院のおほしの給はせ	院のおほしの給はせし			421・2
須磨	168	えねんし	(ナシ)(△えねんし)	こんねんし		421・3
須磨	169		あちきなき			421・4
須磨	170		ちかきほとの	ちかきはとの		421・5
須磨	171		いける世に			421・6
須磨	172		ほろ++と			421・8
須磨	173		いまゝて			421・8
須磨	174		東宮を院の			421・9
須磨	175		よからぬ			421・10
須磨	176		海はずこし			421・12
須磨	177		行平の中納言			421・12
須磨	178		まくらをそはたてゝ			422・1
須磨	179		まくらうく			422・3
須磨	180	恋侘ての哥	こひわひて哥			422・5
須磨	181	あひなふおきあつゝ	あいなうおきあつゝ			422・6
須磨	182		ちえたつねのり			423・1
須磨	183		つくりゑ			423・1
須磨	184		しろきあやの			423・6
須磨	185	釈迦牟尼仏弟子	釈迦牟尼弟子			423・7
須磨	186		ちいさき鳥			423・9
須磨	187		初かりは哥			423・13
須磨	188	かきつらね	かきつらね哥			424・1
須磨	189		民部大輔			424・1
須磨	190		心から哥			424・3
須磨	191	とこよ出て歌	とこ世いてゝ			424・5
須磨	192		友まとはしてはいかゝ	友まとはしてはいかゝに		424・5
須磨	193		おやのひたちにて			424・6
須磨	194		月のかほのみ			424・10
須磨	195	二千里ノ外古人ノ心と	二千里ノ外古人ノ心			424・10
須磨	196	△霧やへたつる	霧やへたつる			424・11
須磨	197		夜ふけ待ぬと			424・12
須磨	198		見るほとそ哥			424・14
須磨	199		その夜うへの			424・14
須磨	200	おんしのきよい	おんしのきよいは			425・2
須磨	201		うしとのみ哥			425・4
須磨	202		その比			425・4
須磨	203		北方は舟にて			425・5
須磨	204		五節は			425・8
須磨	205		そち			425・10
須磨	206		まできむかひ			425・14
須磨	207		子のちくせん			426・1
須磨	208		聞えをおもひて			426・3
須磨	209		まか++しう			426・6
須磨	210	ことのねに歌	ことの音に			426・8
須磨	211		人なとかめそ			426・8
須磨	212		いとほつかしけなり			426・9
須磨	213	心ありて歌	心ありての哥			426・10

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
須磨	214		いさりせんとは			426・10
須磨	215		馬屋のおさにくし			426・11
須磨	216	ましてハ	まして			426・11
須磨	217		きさいの宮			427・4
須磨	218		大やけのかうしなる人			427・5
須磨	219		あちはひ			427・5
須磨	220		かのしかを馬と			427・7
須磨	221		ひんかしのたい			427・9
須磨	222		かたしけなくは			428・3
須磨	223	〔私、これやあまの〕	〈欠〉		写本ハ行間書き入し。	428・4
須磨	224		山かつの哥			428・7
須磨	224+	〈欠〉	たゆふ	たゆふ		428・8
須磨	225		むかし胡の國に			428・10
須磨	226		わかおもひ			428・11
須磨	227		霽の後の夢と			428・12
須磨	228		たゞこれにしにゆく			428・14
須磨	229		いつかたの哥			429・2
須磨	230		友千鳥哥			429・4
須磨	231		家に			429・6
須磨	232	明石浦	明石浦は			429・7
須磨	233		かの入道			429・8
須磨	234		くつしいたうて			429・11
須磨	235		かみのゆかりのみ			429・11
須磨	236		あこの	あこの我子		430・1
須磨	237		御めをさへ			430・3
須磨	238	えしり給はし思心こと也	えしり給はし			430・5
須磨	239		もろこしにもわか御門にも			430・10
須磨	240		いかに物し給ふ君そ			430・11
須磨	241		はゞみやす所は			430・11
須磨	242		かうさく			430・12
須磨	243		身のありさまをくちおしき			431・3
須磨	244		年かへりて			431・8
須磨	245		うちのうへの			431・12
須磨	246	いつとなく	いつとなく哥			431・14
須磨	247		ひとつなみた			432・4
須磨	248		竹あめるかき			432・5
須磨	249		ゆるし色の黄かちなるに青にひの かりきぬさしぬき	ゆるし宮の黄かちなるに 青にひのかりきぬさしぬき		432・7
須磨	250		たんき			432・10
須磨	251		かいつ物			432・12
須磨	252	心の行急は	心の行急			432・14
須磨	253		いねとも取いてゝ			433・2
須磨	254	あすか井すこし	あすかぬ			433・3
須磨	255	つきせすも	つきもせす			433・5
須磨	256	さいへとも	さいへと			433・6
須磨	257		急いのかなしみ			433・7
須磨	258		古里哥			433・11
須磨	259		あかなくに哥			433・13
須磨	260		都のつと			433・13
須磨	261		かたしけなき送にとて			433・14
須磨	262		くろこま			434・1
須磨	263		風にあたりては			434・1
須磨	264		雲ちかく哥			434・7
須磨	265		かつはたのまれながら			434・7
須磨	266		たつかなき哥			434・11
須磨	267		いとしも			434・12
須磨	268		やよひの一日			434・13
須磨	269		せんじやう			435・1
須磨	270		この國にかよひける			435・2
須磨	271		しらさりし哥			435・4
須磨	272		さるはれに			435・4
須磨	273		やをよるつ哥			435・7
須磨	274		の給ふに俄に			435・7
須磨	275		ひちかさあめ			435・8
須磨	276		ふすまをはりたらん			435・11
須磨	277		けしきつきて			435・13
須磨	278		たかしほと云			436・3
須磨	279		さは海の中の			436・7
須磨	280		このすまゐたへかたう			436・8
明石	1		なを雨風			441・1
明石	2		心つよう		写本ハ欄外ノ書き入し。	441・2
明石	3		まだ世にゆるされも			441・3
明石	4		波風にさはかされて			441・4
明石	5		たゞおなし			441・6
明石	6		空のみたれ			441・8
明石	7		あやしきすかた			441・9

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
明石	8	みちかひにて	みちかひにてたに人か何そ	みちかひもとに人か何そ	写本ハ注ノ末尾ニ「人か何そトアリ(古活字本・整版本ニハナシ)。	441・9
明石	9		かたしけなく			441・11
明石	10		空さへ			441・13
明石	11		浦かせや哥			441・14
明石	12		みきは			442・1
明石	13		任王会			442・2
明石	14		れいの雨ふり			442・5
明石	15	そほち	そをち			441・10
明石	16		ひふり			442・7
明石	17		住よしの神			443・2
明石	18		色十十の			443・1
明石	19		とよみ			443・5
明石	20		ていわう			443・6
明石	21		大やしま			443・7
明石	22	〔天地〕	天地			443・9
明石	23		家をはなれて			443・9
明石	24		さかひをさり			443・9
明石	25		かくかなしき			443・10
明石	26	おほいその	おほるとの			444・1
明石	27		空はすみ			444・3
明石	28		ちかきせかひ			444・9
明石	29		うみにます哥			445・2
明石	30		さこそいへ			445・3
明石	31		ごうじ絵に			445・3
明石	32		住吉の神の			445・5
明石	33		いさゝかなる			445・9
明石	34		をかしありて			445・10
明石	35		その罪をおふる			445・10
明石	36		いとまなくて			445・11
明石	37		奏すへき			445・12
明石	38		月のかほのみ			445・14
明石	39		よくそかゝる			446・4
明石	40		又やみえ			446・7
明石	41		しんぼち			446・10
明石	42		源少納言			446・10
明石	43		とくい			446・12
明石	44		わたくしにいさゝか	わたくしに		446・12
明石	45		いぬるついたち			447・2
明石	46		人のみかたにも			447・6
明石	47		うつゝの人の			447・14
明石	48		我よりよはひ			448・1
明石	49		しりそきて			448・2
明石	50		はふくとても			448・4
明石	51		うれしき			448・8
明石	52		とふやうに			448・11
明石	53		けふをさかすへき			448・14
明石	54		三まい			449・2
明石	55	残りよはひ	残りのよはひ			449・2
明石	56	〔おいもわすれ〕	老忘れ也		写本ハ注ニ「老忘れ也」トアリ。整版本・古活字本トモニ注釈ナシ。写本見出しヲ欠クガ、資料稿デハ私ニ	449・6
明石	57		月日のひかり			449・7
明石	58		入江			449・10
明石	59		文ども			449・14
明石	60		御いのりの			450・2
明石	61		かへす十十いみしきめ			450・5
明石	62		かゝみをみても			450・6
明石	63		はるかにも哥			450・10
明石	64	夢のなか	夢のなかと			450・10
明石	65	そはなるを	そはめなるを			450・12
明石	66		あさりするあま			450・14
明石	67		御心ちにも			451・4
明石	68		いひしにたかふ			451・7
明石	69		おさ十十まいらす			451・10
明石	70		さらぼひて			451・13
明石	71		さこそいひしか			452・4
明石	72	さうしみ	〈欠〉			452・7
明石	73		みちやうのかたひら			452・10
明石	74		すゝろなりと			452・11
明石	75		あはとはるかに			453・2
明石	76		あはとみる哥			453・4
明石	77		かうれう			453・6
明石	78		柴ふる人			453・9
明石	79		かせをひきありく			453・9
明石	80		くやうぼう			453・9

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
明石	81		後の世に			453・10
明石	82		かきならし給へる声			454・1
明石	83		入道ひわの法師			454・2
明石	84		花紅葉の	花紅葉の…		454・6
明石	85		たか門さして			454・7
明石	86		これは女の			454・9
明石	87		延喜の御てより			454・11
明石	88		かのせん大わう			454・14
明石	89		山ふしのひかみみ			454・14
明石	90		君ことをことゝも			455・2
明石	91	嵯峨天皇△女五宮…	嵯峨天皇女五宮			455・4
明石	92	[かきなて]	かいなてともよむへし		写本ハ注ニ「かいなてともよむへし」トアリ。整版本・古活字本トモニ注釈ナシ。写本見出シヲ欠クガ、資料稿デハ私ニ補ウ。	455・6
明石	93		こゝに			455・6
明石	94		おまへにめしても			455・7
明石	95		あき人の中にてたに			455・7
明石	96		いかにたとるにか			455・10
明石	97	あらし波の	あらし波の			455・10
明石	98		すきゐたれば			455・12
明石	99		さうのこと			455・12
明石	100		けにいとすくして			455・12
明石	101		ゆのねふかう			455・14
明石	102		いせのうみ			455・14
明石	103		こゑよき			456・1
明石	104		そつしなり			456・3
明石	105		十八ねん			456・11
明石	106		おや大臣			457・1
明石	107		つぎ十+			457・3
明石	108		むまれし時より			457・3
明石	109		ほと十+につけて	ほと十+につけて		457・5
明石	110		せはき衣にも			457・6
明石	111		すへてまねふへくも			457・8
明石	112		よこさま			457・10
明石	113		いたつら人			458・1
明石	114	ひとりねは歌	ひとりねは入道哥	ひとりねは	整版本「は」ノ字ハ後補。	458・4
明石	115		されと浦なれ			458・6
明石	116		旅衣哥			458・7
明石	117		入道の心はへまで			458・10
明石	118		こまのくるみ色			458・13
明石	119	遠近の歌	遠近のもイ哥	遠近のもイ哥		458・14
明石	120		おもふに			458・14
明石	121		ゑはす			459・1
明石	122		たもとにつみ			459・5
明石	123		さるは			459・6
明石	124		なかむらん哥			459・7
明石	125		すき十+しや			459・7
明石	126		玉もかつけたり			459・10
明石	127		せんしかき			459・10
明石	128		いふせくも哥			459・11
明石	129		このたひは			459・11
明石	130		とうなき			460・1
明石	131		しめたる			460・1
明石	132		思ふらん哥			460・3
明石	133		二三日へたてつゝ			460・5
明石	134		良清か			460・8
明石	135		関へたゝりては			460・12
明石	136	たはふれにくゝ	たはふれにくゝも			460・13
明石	137		忍ひてや			460・14
明石	138		やよひ十さん日			461・2
明石	139		きさきに			461・5
明石	140	御めにわつらひ	御目わつらひ			461・8
明石	141		宮にも			461・9
明石	142		おほきおとゝ			461・9
明石	143		大宮も			461・10
明石	144		三とせをたに			461・14
明石	145		れいの秋は			462・3
明石	146		こち			462・5
明石	147		ゐ中人などこそ			462・6
明石	148		世こもりて		整版本ト古活字本デハ「世」ノ字体ガ若干異ナル。	462・9
明石	149		まほならねとも			462・13
明石	150		よろしき日			463・8
明石	151		でしとも			463・8
明石	152		十三日			463・9

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
明石	153		あたら夜の		「あ」ノ字母、整版本「安」、古活字本「阿」。	463・10
明石	154		おもふとち			463・13
明石	155		まつ恋しき			463・14
明石	156	やかて馬引すきて	やかて△馬引すきて			463・14
明石	157		秋の夜の哥			464・2
明石	158		いたきは			464・3
明石	159		海つらはいかめしう			464・3
明石	160		岩に生たる			464・6
明石	161		月いれたる			464・7
明石	162		うちとけぬ			464・9
明石	163		やつれたるに			464・12
明石	164	物思ひから	物おもひしらん			464・13
明石	165		ちかき木丁のひも	ちかきる丁のひも		464・14
明石	166		ひきならされたる			464・14
明石	167		ことをさへや			465・2
明石	168		むつことを			465・4
明石	169		あけぬ夜に哥			465・5
明石	170		さうしのうちに			465・7
明石	171		そひえて			465・9
明石	172		夜のなかさも			465・10
明石	173		御文			465・12
明石	174		こゝろのをに			465・12
明石	175		爰にも			465・13
明石	176		物いひさかなき			466・1
明石	177		されはよと			466・2
明石	178		まつことにす			466・3
明石	179		あなちなる			466・6
明石	180		まことやから			466・9
明石	181	かうきこゆるを	かうきこゆる			466・11
明石	182		ちかひしことも			466・12
明石	183		何事に付ても			466・12
明石	184		しほ++と哥			466・14
明石	185		おもひあはせらるゝ			467・1
明石	186		うらなくも哥			467・3
明石	187		おいらか			467・3
明石	188		今そまことに			467・5
明石	189		やんことなき			467・10
明石	190		ゑをさま++			467・12
明石	191	日記の一	日記の	日記の一		468・1
明石	192		いかなるへき			468・2
明石	193		としかはりぬ			468・2
明石	194		内に			468・2
明石	195		たうたいの御子			468・3
明石	196	二に成給へる	二に成給へは			468・4
明石	197		東宮にこそ			468・5
明石	198		つあのことゝ			468・11
明石	199		みな月はかり			469・1
明石	200		あやしう物おもふ			469・3
明石	201		おもひの外に			469・4
明石	202		月もたちぬ			469・8
明石	203		ほとさへより	はとさへより		469・9
明石	204		むつかるめり			469・10
明石	205		少納言			469・12
明石	206		あさつてはかり			469・14
明石	207		めさましう			470・1
明石	208		しほやく			470・8
明石	209		このたひは哥			470・10
明石	210		かきつめて哥			470・12
明石	211		哀にうちなきて			470・12
明石	212		一こと			471・1
明石	213		さし入たり			471・3
明石	214		みつから			471・3
明石	215		入道の宮			471・5
明石	216		これはあくまで			471・7
明石	217		きんは又			471・11
明石	218		なをさりに哥			471・13
明石	219		あふまての哥			472・1
明石	220		此音たかはぬ			472・1
明石	221		打すてゝ哥			472・5
明石	222		年へつる哥			472・6
明石	223		打思ひける			472・6
明石	224		心しらぬ人は			472・7
明石	225		されと何かは			472・11
明石	226		みそひつあまたかけ			472・13
明石	227		ゆへづきて			473・1
明石	228		よる波に哥			473・3
明石	229		かたみにそ哥			473・5

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
明石	230		世をうみに哥			473・11
明石	231		心のやみ			473・11
明石	232		うちあかみ			473・14
明石	233		おもひすてかたき			473・14
明石	234		たゝこの栖			474・1
明石	235		都いてし哥			474・3
明石	236		よろほふ			474・4
明石	237		わりなき事			474・6
明石	238		ひか++しきに			474・8
明石	239		おほしすつましき			474・8
明石	240		いつしかいかて			474・11
明石	241		ほけられて			474・13
明石	242		行道する物は			475・2
明石	243		所せう			475・9
明石	244		かひなき物と			475・8
明石	245		へがれたる			475・9
明石	246		又かのあかす別し			475・10
明石	247		身をはおもはず			475・13
明石	248		かつみる			476・1
明石	249		もとの位に			476・2
明石	250	かすより外	かすの外			476・3
明石	251		かれたりし木の			476・4
明石	252	ねかひまさりて	ねひまさりて			476・6
明石	253		十五夜の月			476・11
明石	254		物心ほそう			476・12
明石	255		あそひから			476・12
明石	256		わたつうみに哥			476・14
明石	257		宮柱哥			477・2
明石	258		院の御ため			477・3
明石	259	春宮	東宮			477・3
明石	260		かへるなみ			477・7
明石	261		なけきつゝ哥			477・10
明石	262		そちの女五せち			477・10
明石	263		あひなう			477・10
明石	264		まくなき			477・11
明石	265		すまのうらに哥			477・13
明石	266		見おほせては			477・14
明石	267		かへりては哥			478・1
明石	268		花散里などに			478・3
濹標	1		さやかにみえ給ひし			483・1
濹標	2		み八講	三八講		483・3
濹標	3		おほきさき			483・4
濹標	4		心やみ			483・4
濹標	5		ものゝむくひ			483・5
濹標	6		あひなくは			483・10
濹標	7		人に思ひおとし			483・14
濹標	8		契ふかき			484・6
濹標	9		みかたち			484・8
濹標	10		なとて			484・10
濹標	11		東宮			484・13
濹標	12		うちにも			485・2
濹標	13		国ゆつり			485・4
濹標	14	かひなき	(ナシ)(13注ノ後半二、写本14注ノ一部ヲ含ム)			485・5
濹標	15		坊には			485・6
濹標	16		かすさたまりて			485・7
濹標	17		そくには			485・9
濹標	18	ちしのおとゝ撰政	ちゝのおとゝ△撰政			485・9
濹標	19		ゆつりきこえ			485・10
濹標	20		人の国にも			485・11
濹標	21		去ためし			486・1
濹標	22		六十三			486・2
濹標	23		四君			486・4
濹標	24		高砂うたひし君も			486・5
濹標	25	大殿はら	大殿ばらの			486・8
濹標	26		内(句)春宮	内句春宮		486・8
濹標	27		二姫君			486・8
濹標	28		幸人			486・13
濹標	29	中将中務	中将△△中務			487・1
濹標	30		ひんかしなる宮			487・3
濹標	31		御せうぶん			487・3
濹標	32		心くるしけ			487・5
濹標	33		わするゝ時なけれと			487・6
濹標	34		三月十六日			487・8
濹標	35		すくよう			487・11
濹標	36	中のおとりは大政	中のおとりは△大政			487・11
濹標	37		中のおとりはらは			487・12
濹標	38		かみなき位			487・13

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
澤標	39		世のわつらわしき			488・1
澤標	40		当代			488・1
澤標	41		みつから			488・2
澤標	42		あまたの御子			488・2
澤標	43		さう人のこと			488・5
澤標	44		せんじ			488・12
澤標	45		このあたり			489・2
澤標	46		忍ひまきれて			489・4
澤標	47		さはいへと			489・4
澤標	48		あやしう			489・6
澤標	49		さすかに			489・11
澤標	50		とりかへし			489・12
澤標	51		かねてより哥			490・2
澤標	52		うちつけの哥			490・4
澤標	53		なれては			490・4
澤標	54		いたし			490・4
澤標	55		御はかし			490・6
澤標	56		かへす十十			490・10
澤標	57		いつしかも哥			490・12
澤標	58		そなたへむきて			490・13
澤標	59		けにかし			491・2
澤標	60		こもちの君			491・4
澤標	61		御をきての			491・6
澤標	62		とくまいり			491・7
澤標	63		ひとりして哥			491・9
澤標	64		さこそあれ			491・11
澤標	65		ねちけたる			491・11
澤標	66		さもおはせんと		写本65注ノ一部デアルガ、 資料稿子仮ニ立項。	491・12
澤標	67		打ゑみて			492・3
澤標	68		そよたかならはし			492・3
澤標	69		人の心より外			492・3
澤標	70		年比あかず			492・5
澤標	71		すさひに	〈欠〉		492・7
澤標	72		おもひやりこと	〈欠〉		492・7
澤標	73		ひか心え	〈欠〉		492・8
澤標	74		あはれなりし	〈欠〉		492・10
澤標	75	ほのみし	ほの見し句	〈欠〉		492・11
澤標	76		我は又なく			492・11
澤標	77		われは我と			492・13
澤標	78		心わけ			492・13
澤標	79		あはれなりし			492・13
澤標	80		思ふとち哥			493・1
澤標	81		何とかや		古活字本ハ70→(81-86) →76ノ順ニアリ	493・1
澤標	82		たれにより哥			493・3
澤標	83		命こそかなひ			493・3
澤標	84		心をかれしとするもたゝ一故とは	心をかれしと△するもたゝ 一故とは…		493・5
澤標	85		かのすくれ			493・6
澤標	86		いかに			493・9
澤標	87		何事もいかにかひ			493・9
澤標	88		わか御すくせ			493・13
澤標	89		うみ松や哥			494・3
澤標	× 89+	〈ナシ〉(89注ノ一部)	〈ナシ〉(△1字下ゲ・89注ノ一部)	何のあやめも		
澤標	90		いけるかひ			494・5
澤標	91		女君			494・8
澤標	92		岩ほの中			494・10
澤標	93		これは			494・11
澤標	94		こめき			494・11
澤標	95	きゝ所ある	きく所有			494・11
澤標	96		名残とゝめ			494・13
澤標	97		心のうちに			494・14
澤標	98		数ならぬ哥			495・4
澤標	99		よろつにおもふ給へ			495・4
澤標	100		なかやかに			495・7
澤標	101		うらよりをちに			495・7
澤標	102		まことはかくまで			495・8
澤標	103		かはかり			495・9
澤標	104		ようこそ			495・10
澤標	105		手などのいとゆへづきて			495・11
澤標	106		かくこの			495・12
澤標	107		御めおとろく			495・14
澤標	108		五月雨つれ十十			496・1
澤標	109		女御君			496・5
澤標	110		えんなる			496・6
澤標	111		はしちかう			496・7
澤標	112		水鶏たに哥			496・10

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
濔標	113		とり十十に			496・11
濔標	114		をしなへて哥			496・13
濔標	115		空なゝかめそ			497・2
濔標	116		なとてたくひあらし			497・2
濔標	117		れいの			497・3
濔標	118		いとかたきことにて			497・6
濔標	119		おやはよろつに			497・7
濔標	120		さる人の			497・8
濔標	121		かの院の			497・9
濔標	122		すりやうなどを			497・10
濔標	123		中十十			497・12
濔標	124		東宮の御母			498・1
濔標	125		幸にて放いてゝ			498・2
濔標	126		この御とのみ所			498・3
濔標	127		入道後の宮			498・5
濔標	128	太上天皇になすらへて	太上天皇に			498・6
濔標	129		よの人も			498・12
濔標	130		兵部卿の御子			498・12
濔標	131		入道の宮は			499・1
濔標	132		世中			499・2
濔標	133		権中納言			499・3
濔標	134		なかの君			499・4
濔標	135		いかりし給はんとすらん			499・5
濔標	136		その秋住吉に			499・6
濔標	137		願とも			499・6
濔標	138		ことしさはる			499・9
濔標	139		岸にさし			499・10
濔標	140		かんたから			499・11
濔標	141		がくにんとをつら			499・11
濔標	142		すくせなから			500・1
濔標	143		色ふしに			500・2
濔標	144		何のつみふかき			500・3
濔標	145		うへのきぬ			500・6
濔標	146		六位の中にも			500・6
濔標	147		かの賀茂のみつかき			500・6
濔標	148		右近のせうもゆけい			500・7
濔標	149		おなしすけ			500・8
濔標	150		あかぎぬ			500・9
濔標	151		河原のおとゝ			500・13
濔標	152		馬ぞひ			501・3
濔標	153		れいの大じん			501・6
濔標	154		神も見いれ			501・7
濔標	155		あからさまに			501・13
濔標	156		住吉の哥			501・14
濔標	157		あらかりし哥			502・2
濔標	158		神のしるへ			502・4
濔標	159		難波のはらへ			502・6
濔標	160		七瀬			502・6
濔標	161		ほり江			502・7
濔標	162		いまはたおなし			502・7
濔標	163		つかみしかき			502・9
濔標	164		みおつし哥			502・12
濔標	165		露ばかり			502・13
濔標	166		かすならて哥			503・2
濔標	167		田蓑嶋にて			503・2
濔標	168		夕しほみちて			503・3
濔標	169		露けさの哥			503・6
濔標	170		みちのまゝ			503・6
濔標	171		あそひとも			503・7
濔標	172		されといてや			503・9
濔標	173		なのめなる			503・9
濔標	173+	〈欠〉	をのか心をやりて			503・11
濔標	174		又中十十			503・13
濔標	175		いまや京に			503・14
濔標	176		嶋こきはなれ			504・2
濔標	177		斎宮	斎宮御代一度に		504・5
濔標	178		むかしたに			504・7
濔標	179		わたり			504・8
濔標	180		わか心なから			504・9
濔標	181		いかにねひ			504・11
濔標	182		みやひか			504・12
濔標	183		すいたる			504・13
濔標	184		かけ十十			505・2
濔標	185		おとろきなから			505・4
濔標	186		たえぬ心さしの			505・7
濔標	187		斎宮のことを			505・9
濔標	188		とさまかうさま			505・11
濔標	189		かゝる御事なくて			505・12

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
濔標	190		いとかたきこと			506・1
濔標	191		ましておもはし			506・3
濔標	192		うき身を			506・4
濔標	193		あひなくも			506・6
濔標	194		よしをのつから			506・8
濔標	195		宮ならんかし			506・13
濔標	196		けたかき物からひそびやかに			507・1
濔標	197		いとくるしき			507・3
濔標	198		ちかく参たる			507・4
濔標	199		思ひ侍る事を			507・7
濔標	200		かゝる御ゆいごんの			507・9
濔標	201		古院のみこたち			507・9
濔標	202		おなしみこの			507・10
濔標	203		あつかふ人も			507・12
濔標	204		ふるき齋宮			508・2
濔標	205		御みつから			508・3
濔標	206		なに事も			508・4
濔標	207		によ別当して			508・4
濔標	208		たのもしげに			508・6
濔標	209		みすおろして			508・8
濔標	210	みつから	〈ナシ〉(209注ノ一部)			508・10
濔標	211		ふりみたれ哥			508・14
濔標	212		空の色のかみ			508・14
濔標	213		消かてに哥			509・5
濔標	214	よにつゝまし	よにつゝまし△よは	よにつゝまし	整版本、見出し注記ノ間 ガ狭クホボ連続シテイル。	509・5
濔標	215	下給ひし	下給ひし△齋宮の	下給ひし	整版本、見出し注記ノ間 ガ狭クホボ連続シテイル。	509・6
濔標	216		かたしけなくとも			509・13
濔標	217		はなれ奉らぬ			510・4
濔標	218	この人しれぬ	この人しれぬも			510・5
濔標	219		御おや心			510・7
濔標	220		わか御心もいかゝ			510・7
濔標	221		あかれ			510・10
濔標	222		下つかた			510・11
濔標	223		山寺の			510・11
濔標	224		高下人に			511・2
濔標	225		院にも			511・5
濔標	226		いつかしかりしは			511・5
濔標	227		齋院			511・7
濔標	228		うへはいとあつしう			511・9
濔標	229		入道の宮にそ			511・14
濔標	230		かう++から			511・14
濔標	231		心にものこすましう			512・5
濔標	232	かの恨の	かの恨			512・7
濔標	233	物の心しる人はさふらは れてもよくや	物の心しる人はさふらはれてもよ くや...	物の心		512・9
濔標	234		御定など			512・9
濔標	235		いとよう			512・10
濔標	236		ゆいごん			512・10
濔標	237		態も			512・12
濔標	238	もよほしはかりの	もよほしはかり			512・14
濔標	239		とさまかうさま			512・14
濔標	240		よの人や			513・2
濔標	241		女君			513・3
濔標	242	おもふ	〈ナシ〉(241注ノ一部)			513・4
濔標	243	入道のみや	入道の宮			513・5
濔標	244		大殿の御子にて			513・7
濔標	245		みあそひ			513・9
濔標	246		宮のなかの君も			513・9
濔標	247		おとなしき			513・10
濔標	248		いとうれし			513・10
濔標	249		あつしく			513・13
濔標	250		すこしおとなひて			513・14
蓬生	1		もしほたれつゝ			519・1
蓬生	2		さてもわか御身の			519・1
蓬生	3		なりしか		注釈ナシ。	519・2
蓬生	4		竹のこのよの			519・4
蓬生	5		とき++			519・4
蓬生	6	中++からひたちまで	中++から			519・5
蓬生	7	ひたちのみやの一	ひたちの宮の	ひたちの宮の一		519・7
蓬生	8		いかめしき			519・9
蓬生	9		大空の			519・11
蓬生	10		なへてのようく			519・12
蓬生	11		打わずれたるやうにて			519・13
蓬生	12		さるかたに			520・5
蓬生	13		中++			520・7
蓬生	14		すこしもさてありぬへき人			520・7

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
蓬生	15		おもひなげくへし			520・7
蓬生	16		もとより			520・10
蓬生	17		狐の栖に			520・10
蓬生	18		こたまなと			520・12
蓬生	19		はなち給はせてんや			521・1
蓬生	20		あないみしや			521・4
蓬生	21		御てうど			521・6
蓬生	22		さる物ようして			521・7
蓬生	23		れいは			521・9
蓬生	24		そこそは			521・10
蓬生	25		から++しき人の			521・12
蓬生	26		おなしき			522・2
蓬生	27		よもきふと云本			522・4
蓬生	28		あけまき			522・7
蓬生	29		は月野分			522・8
蓬生	30		ぬす人など			522・10
蓬生	31		ふよう		「ふ」ノ字母、整版本「不」、古活字本「婦」。	522・11
蓬生	32		のらやふ			522・12
蓬生	33		つやゝかにかひはき			522・13
蓬生	34		ちりは			522・13
蓬生	35		御心をそく			523・2
蓬生	36		わさとこのまし			523・2
蓬生	37	からもりはこやのとし△かくやひめ	からもり△はこやのとし△かくやひめ			523・6
蓬生	38		まさくり			523・8
蓬生	39		題をもよみ			523・8
蓬生	40		かんやかみ			523・9
蓬生	41		みちのくにかみ			523・10
蓬生	42		せめて			523・10
蓬生	43		今の世			523・11
蓬生	44	うるはしくそ	△うるはしくそ(半字分下ゲ)	うるはしくそ		523・13
蓬生	45	齋院	△齋院(半字分下ゲ)	齋院		524・1
蓬生	46		すりやうの北方			524・2
蓬生	47		しらぬ所よりは			524・3
蓬生	48		をのれをは			524・5
蓬生	49		もとよりありつきたる			524・8
蓬生	50		侍従も			524・14
蓬生	51		こちたきは			525・1
蓬生	52		家あるし			525・2
蓬生	53		ことよかる			525・6
蓬生	54		やぶはら			525・7
蓬生	55		えんじうけひけり			525・8
蓬生	56		さるほとに			525・8
蓬生	57		おもひ出給ふけしきみえで			525・12
蓬生	58		年比あらぬ			525・13
蓬生	59		もえ出る			525・14
蓬生	60		かなしかりし			526・2
蓬生	61		たひしかはら			526・1
蓬生	62		わか身ひとつ			526・3
蓬生	63		仏ひしりも			526・5
蓬生	64		宮うへ			526・6
蓬生	65		みえぬ			526・8
蓬生	66		ひたふるに			526・9
蓬生	67		くつしたる			526・10
蓬生	68	たけき事も	たけき事に			526・11
蓬生	69		たてたる			526・11
蓬生	70		おいたつ			526・12
蓬生	71		猶かくかけはなれて			526・14
蓬生	72		わか身の			527・2
蓬生	73		山人のあかきこのみ			527・6
蓬生	74		ゆるすへきにも			527・8
蓬生	75		かきつかん			527・10
蓬生	76		古院の御れう			527・10
蓬生	77		このぜんじ			527・12
蓬生	78		いける浄土			527・13
蓬生	79	仏ほさち	仏ほさつ			528・1
蓬生	80		おもゝち			528・7
蓬生	81		ひたりみき			528・9
蓬生	82		みつの道			528・11
蓬生	83		いとゝはしたなく			528・12
蓬生	84		かたちなど			528・13
蓬生	85		ついへにたれと			528・13
蓬生	86		とりかへつ			528・14
蓬生	87		この人			529・3
蓬生	88	なとかうから	なとかう			529・3
蓬生	89	年比も何かは	年比も			529・6
蓬生	90		大将殿			529・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
蓬生	91		かすならぬ身			529・9
蓬生	92		世に似ぬ			529・13
蓬生	93		いける身			529・14
蓬生	94		兵部卿			530・3
蓬生	95		さらは先			530・10
蓬生	96		中に見給ふ			530・12
蓬生	97		みなれ衣も			530・14
蓬生	98		年へてなれし			530・14
蓬生	99		九尺よ			531・1
蓬生	100		くのゑ			531・3
蓬生	101		一壺ぐして			531・3
蓬生	102		たゆましき哥			531・5
蓬生	103		こまゝの			531・5
蓬生	104	この人も	此人も(半字分上ゲ)	此人も		531・8
蓬生	105	遺言は	遺言は(半字分上ゲ)	遺言は		531・8
蓬生	106	玉かつら歌	玉かつら哥(半字分上ゲ)	玉かつら哥		531・11
蓬生	107	都人さへ	老人さへ			531・14
蓬生	108		をのか			532・1
蓬生	109		こしのしら山			532・4
蓬生	110		まきはらしつる			532・6
蓬生	111		ちりかましき			532・6
蓬生	112		めつらし人に			532・7
蓬生	113		としかほりぬ			532・11
蓬生	114		かたもなく			532・14
蓬生	115		風につきて			533・2
蓬生	116	〔橋にはかはりて〕	橋ならねと云心歎		写本ハ注ニ「橋ならねと云心歎」トアリ。見出シヲ欠クガ、資料稿デハ私ニ補	533・2
蓬生	117		はやう			533・5
蓬生	118		さしいゝ			533・3
蓬生	119		しか侍と			533・6
蓬生	120		尋よりてを			533・8
蓬生	121		ひるねの夢			533・10
蓬生	122		なき人を哥			533・14
蓬生	123	人住気も	人住げも		注釈ナシ。	534・2
蓬生	124		されとおほしわくましき			534・6
蓬生	125		もしきつね			534・9
蓬生	126	かはらさまならは	かはらめさまならは			535・9
蓬生	127		ゆへある			535・11
蓬生	128		尋てもの哥			536・2
蓬生	129		むまのむちして			536・3
蓬生	130		みかささふらふ			536・4
蓬生	131		むとく			536・6
蓬生	132		かうのからひつ			536・10
蓬生	133		とし比から			536・12
蓬生	134		さしもおとろかひ			536・13
蓬生	135		杉ならぬ			536・14
蓬生	136		かゝる草かくれ			537・3
蓬生	137		おほしゆるすらんは			537・5
蓬生	138		いひしにたかふ			537・6
蓬生	139		つき十十			537・9
蓬生	140		ひきうへし			537・9
蓬生	141		御身の			537・11
蓬生	142		藤なみの哥			537・12
蓬生	143		ひなの			537・13
蓬生	144		又年へ給ひつらん			538・1
蓬生	145		かつはあやしく			538・2
蓬生	146		としをへての哥			538・3
蓬生	147		あたり十十			538・6
蓬生	148		うへのみるめよりは			538・7
蓬生	149		塔こほち			538・8
蓬生	150		さるかたにて			538・10
蓬生	151		御目うつし			538・13
蓬生	152		まつり御けい			538・14
蓬生	153		かうたつね			539・4
蓬生	154		二条院			539・5
蓬生	155		をき所なきまで			539・8
蓬生	156		なけの御すさひ			539・9
蓬生	157		心はへなとはた			540・1
蓬生	158		物の思ひやり			540・4
蓬生	159		みとりて			540・9
蓬生	160		二とせはかり			540・9
蓬生	161		大貳北方			540・13
蓬生	162		いますこし			540・14
蓬生	× 163	上陽人ヲ新樂府ニ作	〈ナシ〉(写本ノ注内容ヲ162注ノ一部ニ含ム)			
関屋	1		古院かくれさせ			547・1
関屋	2		つくはね			547・3

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
関屋	3		京にかへり			547・5
関屋	4		関入日			547・5
関屋	5		石山			547・6
関屋	6		この殿			547・7
関屋	7		あはた山			547・10
関屋	8	車ともかきおろし	車ともかきおろし…			547・11
関屋	9		をくらかし			547・12
関屋	10		斎宮の			547・14
関屋	11		何そやう			547・14
関屋	12		関屋よりさととはづれ			548・3
関屋	13		色十十のあその			548・4
関屋	14		御車はずたれおろし			548・5
関屋	15		かのむかしの小君			548・5
関屋	16		けふの御関迎			548・6
関屋	17		ゆくどくと哥			548・10
関屋	18		家人			549・1
関屋	19		とけて			549・3
関屋	20		一日は			549・6
関屋	21		わくらはの哥			549・8
関屋	22		せきもり			549・8
関屋	23		にくまれん			549・10
関屋	24		おほしのく			549・11
関屋	25		えしのはれすや			550・1
関屋	26	あふ坂の関や歌	あふさかの関屋			550・3
関屋	27		たゝこの君			550・6
関屋	28		のこしをく玉しゐ			550・10
関屋	29		情つくれと			550・13
関屋	30		身ひとつ			550・14
関屋	31		いとあさましき			551・3
関屋	32		いかてか			551・6
関屋	33		あひなのさかしらやなどそ			551・7
絵合	1		せん斎宮			557・1
絵合	2		中宮			557・1
絵合	3		とりたてたる			557・1
絵合	4		二条院に			557・2
絵合	5		御くし			557・6
絵合	6		百ぶ			557・7
絵合	7	さしくし	(ナシ)(写本ノ注内容ヲ8注ノ一部ニ含ム)			557・12
絵合	8		たゝくしのはこのかたつかた		注ノ後半、整版本・古活字本ト写本トテ異ナル。	557・10
絵合	9		心は			557・12
絵合	10		別路に哥			557・13
絵合	11		御覧しつけて			557・13
絵合	12		かゝるたかひめ			558・2
絵合	13		つらしともおもふ			558・5
絵合	14		とはかりは			558・6
絵合	15		又御せうそこは			558・7
絵合	16		いとあるましき			558・10
絵合	17		しるしはかり			558・11
絵合	18		いにしへを			558・12
絵合	19		わかるとての哥			559・2
絵合	20		とはかりや			559・2
絵合	21		院のみありさま			559・4
絵合	22		内はまた			559・5
絵合	23		にくき事をさへ			559・6
絵合	24		すりの宰相			559・8
絵合	25		よき女房			559・10
絵合	26		あはれ			559・11
絵合	27		さこそは			559・13
絵合	28	中宮△薄雲…	中宮うす雲			560・1
絵合	29		宮も			560・3
絵合	30		人しれすおとな			560・4
絵合	31		まうのほり			560・5
絵合	32		こきてん			560・6
絵合	33		あなたかち			560・10
絵合	34		権中納言			560・11
絵合	35		その比	その比院へ		560・13
絵合	36		斎宮の事を			560・14
絵合	37		おとゝも			561・2
絵合	38		めてたしと			561・4
絵合	39		見奉り給ふまゝに			561・7
絵合	40		兵部卿			561・9
絵合	41		二所			561・10
絵合	42		うへはよろつ			561・11
絵合	43		ましてをかきける			561・14
絵合	43+	(ナシ)(43注ノ一部)	筆うちやり			562・1
絵合	44		いましめて			562・5

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
総合	45		月なみのゑ			562・8
総合	46		又こなたにても			562・8
総合	47		心やすくも			562・9
総合	48		なやまし			562・12
総合	49		女君			562・14
総合	50	長恨歌王昭君	長恨歌△王昭君			563・1
総合	51		ことのみみ			563・2
総合	52		こだひ			563・2
総合	53		かのたひの			563・2
総合	54	御心ふかゝらて	御心ふかゝらていまみん	御心ふかゝらて		563・4
総合	55		とりかへし			563・5
総合	56		ひとりみて哥			563・8
総合	57		うきめみし哥			563・10
総合	58		中宮はかり			563・10
総合	59		かたわ			563・11
総合	60		さすかに			563・11
総合	61	弥生の一	やよひの	やよひの一		563・14
総合	62		梅つぼ			564・5
総合	63		いまめかしき			564・7
総合	64		こよなくまされり			564・7
総合	65		左みきと			564・10
総合	66		へいなしのすけ			564・11
総合	67		ゆうそく			564・13
総合	68		たけとりのおきな			564・14
総合	69		うつほ			565・1
総合	70		かくやひめ	かくやひめ一		565・2
総合	71		おもひのほれる			565・2
総合	72		かしこきひかり			565・6
総合	72+	<ナシ>(72注ノ一部)	安陪			565・6
総合	72++	<ナシ>(72注ノ一部)	火鼠			565・7
総合	× 72+++	<ナシ>(72注ノ一部)	かくや姫のものかたり可〔ノ〕見			
総合	73		ゑはこせの			565・9
総合	74		からのきをはいし			565・9
総合	75	したんのちく	したんのちく			565・10
総合	76		としかけ			565・10
総合	77		行けるかた			565・12
総合	78		つねのりみちかせ			566・1
総合	79	ひとりには其理なし	ひとりには其理なし			566・2
総合	80		正三位			566・2
総合	81		平内侍			566・4
総合	82		伊勢の海の哥			566・6
総合	83	雲のうへの歌	雲のうへ哥			566・9
総合	84		兵衛の大君			566・9
総合	85		宮			566・10
総合	86		みるめこそ哥			566・12
総合	87		うへのも宮のも			566・14
総合	88		おまへにてこの			567・2
総合	89		えりとゝめ			567・4
総合	90		紙繪			567・6
総合	91		院にも			567・8
総合	92		としのうちの			567・9
総合	93		延喜の御てつから			567・10
総合	94		きんもち			567・12
総合	95		えんに透たる			567・13
総合	96	右近の中將	<ナシ>(△1字下ゲ「左近の中	左近の中將		568・1
総合	97	身こそかく歌	<ナシ>(△1字下ゲ「身こそかくの	身こそかくの哥		568・3
総合	98		昔のかんさし			568・4
総合	99		しめのうち哥			568・6
総合	100		おとゝをも			568・9
総合	101		院の御繪			568・9
総合	102		内侍のかん			568・11
総合	103		その目と定て			568・12
総合	104		ひとりみき			568・13
総合	105		女はうのさふらひ			568・13
総合	106		左したんのはこ			569・1
総合	107		わらは六人			569・2
総合	108	あか色に桜かさねのかさ	あか色に桜かさねのかさみ汗衫			569・3
総合	109		右はちんのはこに			569・4
総合	110		わらは青色に			569・5
総合	111		山吹かさね			569・6
総合	112		此色++		該当本文ナシ。資料稿ニ ハ大成の所在ニツイテ「五 六九45要記」トアリ。	
総合	113	おまへに	おまへにかきたつ			569・6
総合	114		うへの女房			569・7
総合	115		その日そちの宮			569・7
総合	116		かみゑはかきり			569・13

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
総合	117	人の心に作たて	人の心に作たて			569・14
総合	118		あさかれい			570・3
総合	119		ふかう			570・3
総合	120		左は猶かすひとつ			570・6
総合	121		さうのてに			570・12
総合	122		まほのくはしき			570・12
総合	123		こと十十			570・13
総合	124		左のかつに			571・1
総合	125		物いとあはれ			571・1
総合	126		いはけなき			571・3
総合	127		院の			571・4
総合	128		いのちさいはひ			571・5
総合	129		品たかく			571・6
総合	130		筆の行かきり			571・11
総合	131		かうすき十十しき			571・13
総合	132		何のさえも			571・14
総合	133		碁うつこと			572・2
総合	134		をれもの	をのれもの		572・3
総合	135		家のこの中			572・4
総合	136		文さい			572・7
総合	136+	<ナシ>	しやうのこと		注記ナシ。写本ハ136注ト137ノ行間ニアリ。	572・8
総合	137		まさなき			572・11
総合	138	廿あまり	廿日あまり			572・13
総合	139		こなたはまた			572・13
総合	140		ふんのつかさ			572・14
総合	141		さはいへと			573・1
総合	142		うへ人			573・2
総合	143		又かさねて			573・5
総合	144		かのうら十十			573・6
総合	145		是かはしめ			573・7
総合	146		かうもて			573・9
総合	147		うへの御心さし			573・11
総合	148		この御時より			573・13
総合	149		おと			574・1
総合	150		むかしのためしを			574・2
総合	151		此御世には			574・4
総合	152		しつみたりし			574・4
総合	153		御たうつくらせ			574・8
総合	154		末の君たち			574・8
総合	155		いとしりかたし			574・10
松風	1		ひんかしのあん			579・1
松風	2		西のたい			579・1
松風	3		ま所			579・1
松風	4		しんてん			579・5
松風	5		やんことなききはのにさへ			579・8
松風	6		ひたすらにも			579・14
松風	7		昔は君の			580・1
松風	8		さるへき			580・7
松風	9		すり			580・7
松風	10	この春	この春比			580・10
松風	11		御かけにかたかけて			580・13
松風	12		をのつから			580・14
松風	13		をひ十十			580・14
松風	14		みつから			581・1
松風	15		かこか			581・2
松風	16		御さう			581・3
松風	17		民部大輔			581・3
松風	18		つなしにくき			581・5
松風	19		はちふき			581・6
松風	20		けん			581・7
松風	21		いまきは			581・12
松風	22		しか十十の			581・13
松風	23		いろひつかうまつる			582・1
松風	24		海つらに			582・3
松風	25		よしなからすは			582・4
松風	26		つくらせ給ふ御堂			582・5
松風	27	朧殿の心はへなとおとら	朧殿の心はへなとおとらす			582・5
松風	28		これは			582・6
松風	28+	<ナシ>(28注ノ一部)	いたはりは			582・7
松風	29		露のかしらぬ			582・11
松風	30	おなしことのみ	おなしことをのみ		注釈ナシ。	582・14
松風	31	ましてたるにより	ましてたれにより			583・2
松風	32		みなれそなれて			583・4
松風	33		もてひかめたる			583・4
松風	34	〔ありはてぬ〕	<ナシ>(注内容ノミ33注ノ一部)		写本見出しヲ欠クガ、資料稿デハ私ニ補ウ。	583・6
松風	35		わかき人			583・7

## 写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
松風	36	かへる波に	よするなみに	かへるなみに		583・9
松風	37		こといみ			583・12
松風	38	よるひかる	よるひかりけん史記曰	よるひかる		583・13
松風	39		後夜より			583・11
松風	40		入道にも			583・11
松風	41		かく人に			583・14
松風	42		行さきを哥			584・3
松風	43		もろともに哥			584・5
松風	44		かう浮たる			584・6
松風	45	いきて又歌	いかで又哥			584・8
松風	46		をくりにたに			584・8
松風	47		世中を			584・10
松風	48		人の國			584・10
松風	49		身のつたなかり			584・12
松風	* 50	其かた	おやの御かけを			585・3
松風	* 51	おやの御かけを	其かた			585・1
松風	52		君のやう十十			585・3
松風	53		にしきをかくし	にしきをかへし		585・4
松風	54		うれしき			585・7
松風	55		世をてらし			585・11
松風	56		山かつの心を			585・12
松風	57		天にむまるゝ			585・13
松風	58		うちそみぬる			586・3
松風	59		むかしの人も			586・6
松風	60	住はつましき	住はつましく			586・7
松風	61		おもひつけせず			586・8
松風	62	かの岸に歌	その岸に哥	かの岸に哥	「そ」ノ字母「曾」。	586・10
松風	63		いとかへり哥			586・11
松風	64		むかしのこと			586・14
松風	65		また			587・1
松風	66		御まうけの事			587・3
松風	67		おほしたはかる			587・3
松風	68		中十十			587・4
松風	69		御かたみのきん			587・5
松風	70	身をかへて	身をかへて哥			587・9
松風	71		古郷に哥			587・10
松風	72		中十十しつ心			587・11
松風	73		かつらにみるへき			587・13
松風	74		かつらのみんといふ所			588・2
松風	75		おのゝえさへ			588・3
松風	76		れいのくらへ			588・5
松風	77		かりの御そ			588・7
松風	78		大とのはら			588・11
松風	79		猶時よ			588・12
松風	80		山くち			588・13
松風	81		こゝにもいとさとはなれ			589・3
松風	82		かのほいある			589・3
松風	83		つくるふへき所			589・5
松風	84	桂院にわたり給	桂院にわたり給ひし			589・6
松風	85	かゝる所	かゝる所ありはてすして…			589・10
松風	86		あかの具			590・1
松風	87		つみかろく			590・3
松風	88		御すみかを			590・5
松風	89		又かしこには			590・5
松風	90		すて持し世を			590・6
松風	91		あら磯かけ			590・9
松風	92		ふた葉の松も			590・9
松風	93		あさき根さし			590・10
松風	94		よしなからねは			590・11
松風	95		みこの住給ひける			590・11
松風	96		水の音なひかことかましう			590・12
松風	97		住なれし哥			590・14
松風	98		いさらぬは哥			591・2
松風	99		みてらに			591・3
松風	100		十四日五日晦日	〈ナシ〉(△1字下ゲ)		591・3
松風	101		月のあかきに			591・6
松風	102		有し夜の			591・6
松風	103		おりすくさす			591・7
松風	104		またしらへも			591・8
松風	105		契しに哥			591・10
松風	106		かはらしと哥			591・11
松風	107		にけなからぬこそは			591・12
松風	108		つみまぬかれなん			592・1
松風	109		又おもはん			592・1
松風	110		すくせこよなし			592・5
松風	111		こゝにも			592・7
松風	112		里遠しや			592・11
松風	113		はるかに			592・12

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
松風	114		いつら句など			593・1
松風	115		人心ち			593・2
松風	116		上すめかし			593・3
松風	117		みこ			593・5
松風	118		さこそしつめつれ			593・7
松風	119		そびやぎ			593・8
松風	120		あなちなる			593・10
松風	121		かのとけたりし			593・10
松風	122		やへたつ山は			594・1
松風	123		松もむかし			594・1
松風	124		こよなしや			594・2
松風	125		今ことさらに			594・3
松風	126		頭中将兵衛督			594・5
松風	127		山のにしき			594・7
松風	128		何かしの朝臣			594・8
松風	129		あまのさへつり			594・11
松風	130		小鳥しるしばかり			594・11
松風	131		すん			594・13
松風	131+	〈ナシ〉(131注ノ一部)	絶句			594・14
松風	132		おほみあそひ			594・14
松風	133	けふは六日の御物いみ	けふは六日の物忌			595・4
松風	134		いかなれはと			595・5
松風	135		月のすむ哥			595・8
松風	136		まうけの物			595・10
松風	137		わさとならぬ			595・11
松風	138		久かたの哥			595・14
松風	139	所からかも	みつねか所からかも			596・1
松風	140		めぐり来て哥			596・4
松風	141		うき雲に哥			596・5
松風	142		左大弁			596・5
松風	143		雲のうへの哥			596・7
松風	144		うるさくてなん			596・7
松風	145		すこし打みたれて			596・8
松風	146		おのゝえ			596・9
松風	147		ものとも			596・10
松風	148		近衛つかさの			596・11
松風	149		その駒			596・12
松風	150		しゑとゝめて			597・4
松風	151		なすらひ			597・5
松風	152	我はわれとおほしめせと	われはわれとおほしなせと			597・5
松風	153		かしこへ			597・7
松風	154		是やりかくし			597・11
松風	155		せめてみかくし			597・14
松風	156		思ひなんわつらひ			598・3
松風	157		おなし心に			598・3
松風	158		ひるの子か			598・4
松風	159		つみなきさま			598・5
松風	160		いはけなけなる下つかたも			598・6
松風	161		おもはずにのみ			598・7
松風	162		いはけなからん			598・8
松風	163		ちこから			598・9
松風	164		年のわたり			598・12
薄雲	1		うはの空			603・1
薄雲	2		君も			603・2
薄雲	3		つらき所			603・2
薄雲	4		いかにいひてか			603・3
薄雲	5		かくてのみはひなき			603・4
薄雲	6	はかまきの事	はかまきの事は			603・5
薄雲	7		さおほすらん			603・7
薄雲	8		中十にやつくろひ			603・8
薄雲	9		うしろやすから			603・9
薄雲	10		かしこには			603・10
薄雲	11		せん齋宮			603・11
薄雲	12		けにいにしへ			603・13
薄雲	13		かの御心に			604・4
薄雲	14		さりとならば			604・5
薄雲	15		何心なき			604・5
薄雲	16		はゝかたからこそ			604・11
薄雲	17		なりおとり給て			604・13
薄雲	18		猶さしむかひたるは			605・1
薄雲	19		かゝる人いてもし			605・3
薄雲	20	思ひよほりにたる	思ひよほりにたり			605・8
薄雲	21		とのも			605・8
薄雲	22		かひなき身に			605・10
薄雲	23		日なとらせ			605・12
薄雲	24		いみしくおほゆへき			606・2
薄雲	25		つゐには			606・4
薄雲	26		君もなく			606・2

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
薄雲	27		さるへきにや			606・3
薄雲	28		きぬともの			606・10
薄雲	29	雪深み歌	雪ふかき哥			606・14
薄雲	30		雪まなき哥			607・2
薄雲	31		れいは待			607・3
薄雲	32		いなひきこえは			607・4
薄雲	33		いとうつくしけ			607・5
薄雲	34		此春よりおふす			607・7
薄雲	35		あまそき			607・7
薄雲	36		よ所の物に			607・8
薄雲	37		何かかく			607・10
薄雲	38	の給ひあかすを	〈ナシ〉(37注ノ一部)			607・10
薄雲	39		みつからいたきて			607・12
薄雲	40		かたことの聲			607・12
薄雲	41	末とをき歌	末とをき			607・14
薄雲	42		おひ初し哥			608・2
薄雲	43		さることゝは			608・3
薄雲	44		めのと少将			608・3
薄雲	45		御はかしあまかつ			608・3
薄雲	46		人たまひに			608・4
薄雲	47		いかにつみ			608・5
薄雲	48		西おもてを			608・8
薄雲	49		物あひたる			608・14
薄雲	50		いかにそやきすなき			609・1
薄雲	51		心やすき			609・2
薄雲	52	又やんことなき	又やんことなき人のちある			609・5
薄雲	53		まいり給へるまうと	まいり給へるまうと		609・7
薄雲	54		たすきゆひ			609・9
薄雲	55		身のおこたり			609・10
薄雲	56		さこそいひしか			609・10
薄雲	57		よになき色あひを			609・12
薄雲	58		まちとをから			609・13
薄雲	59	年もかへりぬ	〈ナシ〉(△一字下ゲ)			610・3
薄雲	60		七日御よろこひ			610・5
薄雲	61		わかやか			610・6
薄雲	62		東の院のたい			610・8
薄雲	63		よる立とまり			610・11
薄雲	64		うしろやすく			610・12
薄雲	65		おなしこと			611・1
薄雲	66		別当			611・1
薄雲	67		さくらの御なをし			611・4
薄雲	68		とに			611・7
薄雲	69		あすかへりこん			611・8
薄雲	70		舟とむる哥			611・10
薄雲	71		行て見て哥			611・12
薄雲	72		遠かた人			611・13
薄雲	73		いてやなと			612・3
薄雲	74		たよのつねの			612・6
薄雲	75		夢のわたり			612・9
薄雲	76	引すくし	引すくし…	引すくし		612・11
薄雲	77		こゝはかゝる所			612・13
薄雲	78		ちかきみてら			613・1
薄雲	79	又いとけさやか	又いとけさやかに			613・1
薄雲	80		女もかゝる			613・2
薄雲	81		たけき			613・8
薄雲	82		さこそいひしか			613・8
薄雲	83		おほきおとゝ			613・11
薄雲	84		しはしこもり			613・12
薄雲	85	しつかなる	しつかなり			614・3
薄雲	86		こまかに			614・4
薄雲	87		その年			614・5
薄雲	88		内のおとゝ			614・8
薄雲	89		ことしは			614・13
薄雲	90		命のかきり			614・14
薄雲	91		くとく			615・1
薄雲	92		いとよはけに			615・3
薄雲	93		つゝしませ			615・5
薄雲	94		はれ++し			615・6
薄雲	95		つねよりことに			615・7
薄雲	96		かきりあれは			615・10
薄雲	97		あかす思事	欠		615・12
薄雲	98	うへの夢のうち	上の夢のうちに			615・13
薄雲	99		とし比			616・3
薄雲	100		かうじ			616・7
薄雲	101		院の			616・9
薄雲	102		御いらへ			616・13
薄雲	103	はか++し	〈ナシ〉(102注ノ一部)	はか++し		617・2
薄雲	104		ともし火などの			617・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
薄雲	105		かしこき			617・7
薄雲	106		かうけ			617・8
薄雲	107		すゝむるによりて			617・11
薄雲	108		殿上人			618・1
薄雲	109	ことし(△一日)計は	ことしはかりは		写本「△一日」ハ講釈ノ 進行ヲ表スモノ。見出シデ ハナク行間書キ入レト思フ	618・3
薄雲	110		山きはの梢			618・5
薄雲	111		入目さす哥			618・8
薄雲	112		古入道の宮の母后			618・10
薄雲	113	御おほえにて△句・・・	さおほえにて句			618・11
薄雲	×114	ともたてゝ	〈ナシ〉(113注ノ一部)			
薄雲	115		よひなど			619・1
薄雲	116		こたい	こたひ		619・4
薄雲	117		てんの眼			619・6
薄雲	118		法師はひしりと			619・9
薄雲	119		よからぬ事にや			620・2
薄雲	120		仏てんのつけ			620・3
薄雲	121		わが君			620・3
薄雲	122		ことくはへおほせ			620・8
薄雲	123	とはかり△しはし・・・	とはかりしはし			620・10
薄雲	124		てんへん			621・2
薄雲	125		おやのむくひ			621・5
薄雲	126	とひ給へけちてし	おもひ給へけちてし			621・6
薄雲	127		その日式部卿			621・13
薄雲	128		世はつきぬる			622・2
薄雲	129		さかしき世にも			622・6
薄雲	130		ひしりのみかと			622・7
薄雲	131		もろこしにも			622・8
薄雲	132		かたはらいたしや			622・10
薄雲	133		つねよりも			622・10
薄雲	134		かしこき			623・2
薄雲	135		御かくもん			623・7
薄雲	136		もろこしには			623・9
薄雲	137		日のもとには			623・9
薄雲	138		一世の源氏又なうこん		古活字本、注ノ末尾二行ハ 行頭1字上がり、別項二見 エル。	623・11
薄雲	139	人からの	〈ナシ〉(138注ノ一部)			623・12
薄雲	140	大政大臣	〈ナシ〉(138注ノ一部)			623・14
薄雲	141	しはしとおほし	〈ナシ〉(138注ノ一部)			624・8
薄雲	142		御位そひて			624・8
薄雲	143		牛車			624・8
薄雲	144		権中納言			624・10
薄雲	145		みくしげ殿			625・1
薄雲	146		いみしき事		146～201東洋文庫本乱 丁、松風巻ニ紛ル。	625・4
薄雲	147		やんことなき			625・7
薄雲	148	かたしけなき物	かたしけなき物に			625・8
薄雲	149		おまへのせんさい			625・11
薄雲	150		女御の			625・12
薄雲	151		にひ色	にひ	整版本、見出シト注記ノ間 ガ狭クホボ連続シテイル。	625・12
薄雲	152		世中さはかしき			625・13
薄雲	153		念珠引かくし			625・14
薄雲	154		ひもとき			626・2
薄雲	155		かくれはとにや			626・5
薄雲	156		見たてまつらぬ			626・7
薄雲	157		過にしかた			626・8
薄雲	158		さるましき			626・10
薄雲	159		先一は			626・11
薄雲	160		かうまでも			626・13
薄雲	161		もえし			626・13
薄雲	162		今ひとつは			626・1
薄雲	163		中比			626・1
薄雲	164		東のぬんに			627・2
薄雲	165		われも人も			627・4
薄雲	166		立かへり			627・4
薄雲	167		しつめかたう			627・6
薄雲	168		おもひしのひたる			627・6
薄雲	169		さりやあな心うと			627・8
薄雲	170		おさなき人			627・11
薄雲	171		此かと			627・12
薄雲	172		聞つきて			627・1
薄雲	173		はか++しき			627・1
薄雲	174		年のうちの行かはる			628・1
薄雲	175		もろこしには			628・5
薄雲	176		やまと			628・5

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
薄雲	×	177 やまと	(ナシ)(見出シヲ欠クガ写本ノ注 内容ハ176注後半ニアタル)			
薄雲		178	いつれも時十十に			628・6
薄雲		179	色をも音をも			628・6
薄雲		180	あやしときし			628・11
薄雲		181	君もさは哥			628・14
薄雲		182 物ふかうは	物ふかう			629・4
薄雲		183	やはらつゝ			629・6
薄雲		184	まことに心ふかき			629・6
薄雲		185	つらからんとてこそ			629・8
薄雲		186	御しとね			629・9
薄雲		187	柳の枝に			629・9
薄雲		188 これはいとにけなきと也	これはいとにけなきこと也			629・14
薄雲		189	猶この道は			630・2
薄雲		190	女御は			630・3
薄雲		191 おやかり	おやがる			630・5
薄雲		192	春の曙に			630・6
薄雲	×	193	世を政事は	世を政事△は・・・	「は」ノ字母、整版本「波」、 古活字本「盤」。古活字本 ハ「は」ノ前ワズカニ空白ヲ 置キ、注本文へ空白ナク続	
薄雲		194	世中をあちきなくうしと思ひしるけ			630・10
薄雲		195	おほけなくは			630・12
薄雲		196	所のさま			630・14
薄雲		197	中十十にて			631・2
薄雲		198	こしらへかね			631・3
薄雲		199	かゝるすまゐ			631・4
薄雲		200	いさりせし影哥			631・5
薄雲		201	おもひこそ			631・6
薄雲		202	あさからぬ哥			631・7
薄雲		203	たれうき物と			631・8
薄雲		204	たうとき事とも			631・8
朝顔		1	斎院は御ふくにて			639・1
朝顔		2 宮はわつらはし	宮わつらはし			639・2
朝顔		3	いと口おし			639・3
朝顔		4	長月に成て			639・3
朝顔		5	女五の宮			639・4
朝顔		6	にしひんかし			639・7
朝顔		7	程もなく			639・7
朝顔		8	このかみに			639・9
朝顔		9 さるかたなり	さるかた			639・11
朝顔		10	かしこくもは			639・14
朝顔		11	院かくれ			640・1
朝顔		12	又とりみたり			640・3
朝顔		13	いとも十十			640・5
朝顔		14	いつかたにつけても			640・5
朝顔		15	見さして			640・8
朝顔		16	ゆゝしう			640・11
朝顔		17	内の			640・12
朝顔		18	ことにかくさしむかひ			640・13
朝顔		19	あやしき御をしはかり			641・2
朝顔		20	時十十			641・3
朝顔		21	いとゝしき			641・3
朝顔		22	さるへき御ゆかり			641・5
朝顔		23	すこし耳とまり			641・7
朝顔		24	さもさふらひ			641・7
朝顔		25 にひ色のみすに	(ナシ)(△1字下ゲ)			641・13
朝顔		26	宣旨			642・1
朝顔		27	神さひに			642・2
朝顔		28	内外		注釈ナシ。	642・3
朝顔		29 有し世は	有し世は皆			642・4
朝顔		30	らうなどは			642・5
朝顔		31	けにこそ			642・6
朝顔		32	人しれす哥			642・8
朝顔		33	いまは何の			642・8
朝顔		34	世にわつらはしき			642・9
朝顔		35 思ひあつめし	思ひあつめしかな			642・10
朝顔		36	かたはしをたに			642・10
朝顔		37	御ようい			642・10
朝顔		38	いたうすくし			642・11
朝顔		39	なへて世の哥			642・13
朝顔		40	しなどの風に			642・14
朝顔		41	みそきを神は			642・14
朝顔		42	かたはらいたし			643・2
朝顔		43	世つかぬ			643・2
朝顔		44	すき十十しきやうに			643・3
朝顔		45	よはひのつもりには			643・4
朝顔		46	世にしらぬ			643・5

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
朝顔	47		大かたの空			643・6
朝顔	48		心やましくは			643・8
朝顔	49		まして寝覚かち			643・9
朝顔	50		けさやかなりし			643・12
朝顔	51		みしおりの哥			644・1
朝顔	52		かつは			644・2
朝顔	53		おとなひたる			644・3
朝顔	54		秋はてゝ哥			644・5
朝顔	55	につかはし	につかはしき			644・5
朝顔	56		何のおかしき			644・6
朝顔	57		そのおりは			644・8
朝顔	58		もてはなれぬ御けしきながら			644・11
朝顔	59		さらかへり			644・13
朝顔	60		東のたい			644・13
朝顔	61		さふらふ人十+			644・14
朝顔	× 61+	〈ナシ〉(61注ノ一部)	△さしも有ましきさへ(半字分下)	さしも有ましきさへ		
朝顔	62		宮は			645・1
朝顔	63		草木に付たる			645・2
朝顔	64		ふりかたく			645・4
朝顔	65		給へはなん句			645・6
朝顔	65+	〈ナシ〉(65注ノ一部)	にけなからぬ			645・7
朝顔	66		打つけに			645・9
朝顔	67		心うく句			645・10
朝顔	68	いひなし給ひけんよと句	いひなし給はんよと			645・11
朝顔	69		おなし筋には			645・11
朝顔	70		年比			645・13
朝顔	71		よろしきことこそ			646・2
朝顔	72		やくとは			646・4
朝顔	73		人のことは			646・5
朝顔	74		神わさ			646・6
朝顔	75		心よはからん人は			646・10
朝顔	76		まかり申			646・10
朝顔	* 77	わさととたえをく	塩やき衣の			646・13
朝顔	* 78	塩やき衣の	とたえをく			646・14
朝顔	79		なれゆくこそ			646・14
朝顔	80		宮に御せうそこ			647・2
朝顔	81		かりける事も			647・2
朝顔	82		にびたる			647・4
朝顔	83		見出して			647・5
朝顔	84		内より外の			647・6
朝顔	85	宮には△北おもての女五宮也...	宮には北おもての女御宮			647・11
朝顔	86		うすゝきて			647・13
朝顔	87		こほ十+			648・1
朝顔	88		しやうのいといたく			648・1
朝顔	89		みそとせ			648・2
朝顔	90		かりそめのやとり			648・3
朝顔	91		木草の			648・3
朝顔	92		いつのまに哥			648・5
朝顔	93		ひこしろひ			648・5
朝顔	94		御耳もおとろかす			648・7
朝顔	95		いひきとか			648・8
朝顔	95+	〈ナシ〉(95注ノ一部)	よろこひなからはつゝなり			648・9
朝顔	96		かしこけれと			648・10
朝顔	97		その世のこと			649・1
朝顔	98		此宮の御てし			648・13
朝顔	99		おやなしに			649・2
朝顔	100		すけみ			649・4
朝顔	101		されん			649・5
朝顔	102		いひこし程に			649・5
朝顔	103		今しもきたる			649・6
朝顔	104		入道の宮などの			649・8
朝顔	105		心はへ			649・9
朝顔	106		物哀なる			649・11
朝顔	107		年ふれと哥			649・13
朝顔	108		身をかへて哥			650・1
朝顔	109		ありつる老らく			650・4
朝顔	110		人伝ならて			650・6
朝顔	111	我も人も	われも人も			650・8
朝顔	112		さた過			650・10
朝顔	113		まことに			650・13
朝顔	114		をしのこひて			650・14
朝顔	115		つれなさを哥			651・1
朝顔	116		心つから			651・1
朝顔	117	あらためて哥	〈ナシ〉(△一字下ゲ)			651・3
朝顔	118	つと	いと	いとつと		651・5
朝顔	119		世のためし			651・5
朝顔	120		いさら河			651・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
朝顔	121		かるらかにをたちて			651・8
朝顔	122		おほしらぬには			651・9
朝顔	123		よ所の			651・13
朝顔	124		しつみつる罪			651・14
朝顔	125		中十+			652・2
朝顔	126		さふらふ人にも			652・3
朝顔	127		御はらから			652・5
朝顔	128		さはかりめてたき			652・6
朝顔	129		まけてやみなんも			652・9
朝顔	130	むかしよりあまた句へ	むかしよりあまた	むかしよりあまた句へ		652・10
朝顔	131		あだ氣		注釈ナシ。	652・11
朝顔	132		たはふれ			652・13
朝顔	133		御くしを			653・1
朝顔	134		宮うせ			653・2
朝顔	135		まろかれ	まゝろかれ	「ろ」ノ字母、整版本「路」、古活字本「呂」。	653・7
朝顔	136		たかならはし	たかならはしおさあひより		653・8
朝顔	137		けとをき御心はへ			653・11
朝顔	138		かくなんあるとしも			653・13
朝顔	139		ひかりまさりてみゆ			654・3
朝顔	140		とき十+			654・3
朝顔	141		冬の夜の			654・4
朝顔	142		この世の外			654・5
朝顔	143		すさまじきためし			654・6
朝顔	144		みすまきあけさせ			654・6
朝顔	145		雪まろはせ			654・9
朝顔	146		おほきやかに			654・10
朝顔	147		さま十+のあこめみたれき			654・10
朝顔	148		とのぬすかた			654・11
朝顔	149		わらはげて			654・12
朝顔	150		扇	扇冬も女はもてり		654・13
朝顔	151		ふくつけ			654・13
朝顔	152		中宮のおまへに雪の山			655・1
朝顔	153		うしろやすき物には			655・5
朝顔	154		らう十+しき			655・6
朝顔	155		君こそはさはいへと			655・9
朝顔	156		さう十+しきに			655・12
朝顔	157		たゝこのひと所			655・13
朝顔	158		内侍のかみこそ			655・13
朝顔	159		さかし			656・1
朝顔	160		くやしきことの			656・3
朝顔	161		此かすにも			656・6
朝顔	162	人よりことなることは	人よりことなるとは			656・7
朝顔	163		いふかひなき			656・8
朝顔	164		ひんかしのぬん			656・9
朝顔	165		世をつゝましけに			656・11
朝顔	166		氷とち哥			656・14
朝顔	167		かんさし			657・1
朝顔	168		こひきこゆる			657・1
朝顔	169	わくる御心ち	△わくる御心ち(半字分下ゲ)	わくる御心ち		657・2
朝顔	170		かきつめて哥			657・4
朝顔	171		宮の御事			657・4
朝顔	172		もらさしと			657・6
朝顔	173		いみしく口おしき			657・9
朝顔	174		いまも			657・9
朝顔	175		うちもみしろかて			657・10
朝顔	176		とけてねぬ哥			657・12
朝顔	177		つみかるけに			658・1
朝顔	178		何わさをして			658・3
朝顔	179	内にも心のおにゝ	内にも御心のおにゝ	内にも御心のおにく		658・5
朝顔	× 179+		〈ナシ〉(179注ノ一部)	薄雲の事をわざとは思召		
朝顔	180		おなし蓮			658・6
朝顔	181		なき人を哥			658・8
朝顔	182	すゝい	〈欠〉			658・2
乙女	1		としかはりて			665・1
乙女	2		衣かへ			665・1
乙女	2+	〈ナシ〉	まつりの比		写本ハ見出シヲ欠クガ、整版本・古活字本ノ注内容ハ2注ノ一部ニアリ。	665・2
乙女	3		大かたの空			665・2
乙女	4		せん齋院			665・2
乙女	5		おまへなる桂の下かせ			665・2
乙女	6		かけきやは哥			665・6
乙女	7		むらさきの紙			665・6
乙女	8		すくよかに			665・6
乙女	9		おりの哀あれは			665・7
乙女	10		藤衣の哥			665・9
乙女	11		はかなくと			665・9

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
乙女	12		ふくなをし			665・10
乙女	13		おほしやれる			665・10
乙女	14		もてわつらふへし			665・14
乙女	15		こなたにも			666・4
乙女	16	なにか	なにか…			666・5
乙女	17	古宮の	〈ナシ〉(△1字下ゲ)			666・6
乙女	18		え見奉り			666・6
乙女	19		もてはなれ			666・7
乙女	20		三宮			666・9
乙女	21		やんことなく			666・9
乙女	22		さやうにて			666・10
乙女	23		さらがへりて			666・11
乙女	24		宮人			667・1
乙女	25		世中いとうしろ			667・2
乙女	26		かの御みつから			667・3
乙女	27		大とのほら			667・5
乙女	28		やかてかの殿			667・7
乙女	29		右大将			667・7
乙女	30		四位に			667・10
乙女	31		ゆくりなからん			667・12
乙女	32	あさきにて	あさきにて殿上にかへり			667・12
乙女	33		大宮は			667・13
乙女	34		御たいめん			667・14
乙女	35		をひつかすまじう	をいつるすまじう		667・14
乙女	36		大がくの道に			668・1
乙女	37		いたつらのとしに			668・2
乙女	38		わつかになん			668・5
乙女	39	もんさいイ	文のさえ			668・6
乙女	40		はかなきおやに			668・7
乙女	41		はなましろき			668・13
乙女	42		たかき家として			668・10
乙女	43		人と覚て			668・13
乙女	44		やまとたましゐ			669・2
乙女	45	さしあたりては	〈ナシ〉(△1字下ゲ)	さしあたりては(丁境)		669・3
乙女	46		せまりたる大かく			669・5
乙女	47		けにかくも			669・7
乙女	48		大将左衛門督			669・9
乙女	49		うちわらひて			669・11
乙女	50	いとうつく	いとうつくし			669・13
乙女	51		あざなつくる			669・14
乙女	52		ひんかしのゐん			669・14
乙女	53	はかせとも	はかせともをく			670・2
乙女	54		はゝかる所なく			670・2
乙女	55		家より外に			670・4
乙女	56		かたくなしき			670・5
乙女	57		むへ++しく			670・5
乙女	58		ならひ			670・5
乙女	59		すくしつゝ			670・8
乙女	60		へいし			670・8
乙女	61		すちことなる			670・8
乙女	62		民部卿			670・9
乙女	63		おふな++			670・9
乙女	64		おろすは			670・10
乙女	65		おほしかいもとあるし			670・10
乙女	× 65+		〈ナシ〉(65注ノ一部)	あるしは		670・10
乙女	66		たうふ			670・11
乙女	67		かくはかりのしるし			670・11
乙女	68		なりたかし			670・12
乙女	69	さをひきてたちたうひなん などをとしいふに	さをひきてたちたうびなんなどをと しいふも	さをひきてたちたうびなん などをとしいふも曳…		670・13
乙女	70		したりかほ			671・1
乙女	71		なめげ			671・3
乙女	72		けちえんなる			671・4
乙女	73		さるかうかましく	さるからかましく		671・5
乙女	74		いとあされ			671・6
乙女	75		けうさうし			671・7
乙女	76		まとはされなん			671・7
乙女	77		はかせさいじん			671・10
乙女	78		四ゐん			671・11
乙女	79		けふある題			671・12
乙女	80		左中弁			671・13
乙女	81		神さひ			671・14
乙女	82		まとのほたる			672・2
乙女	83		おとゝの御は			672・5
乙女	84		女のえしらぬ			672・6
乙女	85		にうがく			672・8
乙女	86	サウシ	さうじ		注釈ナシ。	672・8
乙女	87		かしこにては			672・11

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
乙女	88		四五月			673・3
乙女	89		史記といふ			673・3
乙女	90		れうし			673・3
乙女	× 90+		〈ナシ〉(90注ノ一部)	擬		
乙女	91		左大弁			673・4
乙女	92		かへさうへき			673・6
乙女	93		つましるし			673・7
乙女	94		さるへきにこそ			673・8
乙女	95		人のうへにて			673・10
乙女	96	身まつくして	身をまつくして			673・14
乙女	97		行きき			674・3
乙女	98		大学に参り			674・3
乙女	99		れうもん			674・3
乙女	100		くわざ			674・5
乙女	101		かゝるましらひには			674・6
乙女	102		座の末に			674・7
乙女	103		おろす			674・8
乙女	104		むかしおほえて			674・9
乙女	105		もんになぎさう			674・11
乙女	× 105+	〈ナシ〉(105注末尾ニアリ)	〈欠〉	爰迄△一日の講尺也	項末ニコノ1行アリ、1字上ゲ。講釈ノ進行ヲ示スモノ。整版本ハ1行空白。	
乙女	106		かくてきさきみ給			674・14
乙女	107	はゝ宮に	はゝ宮も			675・1
乙女	108		源氏の			675・1
乙女	109		兵部卿と聞えし今は式部卿にて	〈ナシ〉(△1字下ゲ)		675・4
乙女	110		おなしくは御母かた			675・6
乙女	111		梅壺み給ひぬ			675・9
乙女	112		御さいはひ			675・9
乙女	113	太政大臣	太政大臣に			675・9
乙女	114		みんふたきには			675・12
乙女	115		わかんとをりはら			676・1
乙女	116		さむかひたる			676・2
乙女	117		のちのおやにゆつらん			676・3
乙女	118		おもひおとし			676・4
乙女	119		をの十十にあまり			676・6
乙女	120		御かた			676・6
乙女	121		みうしろみとも			676・10
乙女	122		おとこは			676・13
乙女	123		いかなる御なからひにか			676・13
乙女	124	よそ十十になり	よ所十十になりて	よ所十十になりてへたゝりては		676・14
乙女	125	よそ十十にそ思ふへき(より)皆あるへし(まで)	〈ナシ〉(ヤヤ異ナルガ124注ノ一部ニアリ)			676・14
乙女	126		たいきやう			677・3
乙女	127		おきの上風			677・5
乙女	128		ひわこそ			677・7
乙女	129	なにのみこくれの源氏	なにのみこ	なにのみこ		677・9
乙女	130		山里に			677・10
乙女	131		物の上手の後			677・11
乙女	132	糸竹は	〈ナシ〉(131注ノ一部)	糸竹は	資料稿ハ「ひとりことにて」六七七14ノ注ト記ス。	
乙女	133		ちうさす			678・1
乙女	134		さいはいに打そへて			678・2
乙女	135		女はたゝ心はせからこそ			678・5
乙女	136		おもはぬ人に			678・7
乙女	137		この君をたに			678・8
乙女	138		かういう			678・10
乙女	139		后かね			678・10
乙女	140		おひすがひ			678・10
乙女	141		さとかさしもあらん			678・11
乙女	142	この事にてそ	この御事にてそ			678・14
乙女	143	いときひわに	いときびはに		古活字東洋文庫本乱丁。166→(148後半~155)→(143~148前半)→167ノ順ニアリ。	679・1
乙女	144		さう	さうしやうとよむへし		679・1
乙女	145		とりゆ			679・3
乙女	146		作たる			679・4
乙女	147		りち			679・6
乙女	148		風のちからけだし			679・8
乙女	149		きんのねならねと		写本ハ注内容異ナル。	679・9
乙女	150		秋風葉			679・9
乙女	151	きむのねならねと	〈ナシ〉(写本ノ注内容ハ149注ニアリ)			679・9
乙女	152		さうか			679・10
乙女	153		いとゝそへん			679・11
乙女	154		おさ十十			679・13

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
乙女	155		ほとよりあまりぬるもあちきなき			679・13
乙女	156		ことわさと			680・2
乙女	157		ふえのね			680・2
乙女	158		おとゝはうし			680・4
乙女	159		萩か花すり			680・5
乙女	160		大との			680・5
乙女	161		ねび人とも			680・11
乙女	162		忍ひて			680・12
乙女	163		かしこかり			680・14
乙女	164		をれたる			681・1
乙女	165		子をしるといふは			681・1
乙女	166		けしきをつふ++と			681・3
乙女	167		あだげ			681・6
乙女	168		しりうごや			681・8
乙女	169		めつらしけなき			681・9
乙女	170		大かたにはむかし			681・12
乙女	171		人++のいひし			681・14
乙女	172		おとしくあさやき	おかしくあさやき		682・2
乙女	173		まほならず			682・5
乙女	174		こゝにさふらふ			682・6
乙女	175		よからぬ物のうへ			682・8
乙女	176		宮けさうし			682・10
乙女	177	見給へ付す	見給へも付す	見給へ付す		682・14
乙女	178		まことに			683・2
乙女	179		なにはかり			683・4
乙女	180		かの人			683・4
乙女	181		かゝる事なんと			683・8
乙女	182		こゝにこそ			683・12
乙女	183		見たてまつり			683・13
乙女	184		そこに			683・13
乙女	185		よからぬ人の			684・2
乙女	186		きわ			684・3
乙女	187		むなしき事にて			684・3
乙女	188		いつきむすめ			684・12
乙女	189		さし過しても			684・14
乙女	190		何かはいはけなき			685・1
乙女	191		よしはしかゝる			685・4
乙女	192		今かしこに			685・5
乙女	193		そこ達は			685・6
乙女	194		大納言殿			685・8
乙女	195		かゝる心の			685・13
乙女	196		もとより			686・1
乙女	197		此君より			686・3
乙女	198		御心のうちを			686・6
乙女	199		かくさばかるらん			686・7
乙女	200		一夜も			686・7
乙女	201		いとゆかしけなき			686・11
乙女	202		かうもきこえしと			686・12
乙女	203		中さうし			687・5
乙女	204	風のをと竹に	風のをとの竹に			687・7
乙女	205		雲井の鷹も			687・9
乙女	206	小侍従や	小侍従也			687・11
乙女	207		にくきや			687・13
乙女	208		さ夜中に友よひ			688・1
乙女	209	萩の上風	萩のうはかせ身にもしみける哉と...			688・1
乙女	210		思ひつゝけて			688・1
乙女	211		らうたけにて			688・6
乙女	212		うへつとさふらはせ給て			689・1
乙女	213		ある人++も			689・1
乙女	214		ゆるされかたきを			689・3
乙女	215		姫君わたして			689・4
乙女	216		さくじり			689・6
乙女	217		女なく			689・8
乙女	218		くし			689・14
乙女	219		おもふ給へらるゝ事はしかなん	おもふ給へらるゝ事はしりなん		689・11
乙女	220	ものし侍とて	ものし侍とて句			690・2
乙女	221	はくゝみ	〈ナシ〉(220注ノ一部)			690・2
乙女	222		又さもこそは			690・5
乙女	223		此比はしけう			690・8
乙女	224	左少将・少納言	左少将少納言			690・10
乙女	225	左衛門督・権中納言	左衛門督△権中納言			690・11
乙女	226		この君			690・13
乙女	227		夕つかた			691・3
乙女	228		いふかひなき事を			691・4
乙女	229		人の御程の			691・5
乙女	230		おもむきをも			691・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
乙女	231		わたし給ふなりけり			691・9
乙女	232		宮の御文にて			691・10
乙女	233		十四になん			691・12
乙女	234		こめかしう			691・13
乙女	235		いつちならん			692・2
乙女	236		とのはことさまに			692・6
乙女	237		いてむつかしき			692・8
乙女	238		いてや物けなし	いてや物けなしめのとの		692・8
乙女	239		わか君や			692・9
乙女	240		さはれ			693・1
乙女	241		まるもさこそ			693・3
乙女	242		そゞや		注釈ナシ。	693・5
乙女	243		わなゝき			693・6
乙女	244	さもさはかれ	さもさはれ			693・6
乙女	245		六位すくせ			693・9
乙女	246		紅の哥			693・14
乙女	247		色十十の哥			694・2
乙女	248	霜氷の歌	霜氷哥			694・11
乙女	249		大殿にはことし	是まで一日講尺△大殿にはことし五節と…	古活字本「是まで一日講尺」ハ講釈ノ進行ヲ示スモノ。整版本デハ除カレテルガ、写本ハ前項注ノ末尾ニアリ。	694・11
乙女	× 249+		(ナシ)(249注ノ一部)	をとめとも		
乙女	250		まいりの夜			694・13
乙女	251		中宮よりも			694・14
乙女	252		過にし年			695・1
乙女	253		按察大納言			695・3
乙女	254		とゝめさせ			695・4
乙女	255		からい			695・7
乙女	256		かしつき			695・10
乙女	257		おまへの試は			695・14
乙女	258		うへの御かたには			696・6
乙女	259		こたちなども			696・8
乙女	260		かしつきおろす			696・8
乙女	261	たゝかの人	たゝかの人惟光か女			696・10
乙女	262		あめにます哥			697・1
乙女	× 262+		(ナシ)(262注ノ一部)	みてくらは		
乙女	263		けさうし			697・3
乙女	264		あさきの			697・4
乙女	265		色ゆるされて			697・5
乙女	266		五節のまいるきしきは			697・8
乙女	267		その物とも			697・11
乙女	268		御文のうち			698・1
乙女	269		をとめこも哥			698・2
乙女	270		おかしうおほゆるも			698・3
乙女	271		かけていへは哥			698・5
乙女	272		あをすりのかみ			698・5
乙女	× 272+		(ナシ)(272注ノ一部)	臨時祭		
乙女	× 272++		(ナシ)(272注ノ一部)	大掌會の時は		
乙女	273		こずみうす墨			698・6
乙女	274		けゝしう			698・8
乙女	275		かたちはしも			698・9
乙女	276	やかてみなとゝめて	やかてみなとゝめ			698・10
乙女	277		あふみのは			698・11
乙女	278		その人ならぬを			698・13
乙女	279		内侍のすけのあきたる			698・14
乙女	280		かの人			699・1
乙女	281		せうとのわらは			699・3
乙女	282		ましか			699・6
乙女	283		おのこはらからとて			699・8
乙女	284		さき十十も			699・10
乙女	285		みとりのうすやう			699・12
乙女	286		日影にも哥			699・14
乙女	287		ちゝぬし			699・14
乙女	288		なぞの			700・1
乙女	289	きんし	きんち	きんちうは		700・4
乙女	290		とのゝ御心			700・6
乙女	291		いそぎ立にけり			700・8
乙女	292		か的人文を			700・8
乙女	293		立まさるは			700・9
乙女	294		さとさへは			700・12
乙女	295	こもりおはず	こもりおはずは			700・12
乙女	296		ほのかに			701・2
乙女	297	かたちのまほ	かたちまほ			701・2
乙女	298		あちきなしや			701・4
乙女	299		みるかひ			701・5
乙女	300		いとをしけなり			701・5

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
乙女	301		殿の			701・6
乙女	302		はまゆふはかり			701・7
乙女	303		大宮のかたちことに			701・8
乙女	304		宮はた			701・12
乙女	305	ものうくのみ	物うくのみ	物こくのみ		701・13
乙女	306		老くつおれ			702・1
乙女	307		かの事			702・3
乙女	308		六位など			702・6
乙女	309		けけしう			702・8
乙女	310		ひんかしのあんにてのみなんおまへちかく			702・9
乙女	311		かきりなき御かけ			703・1
乙女	312		ついたち			703・5
乙女	313		よしふさ			703・7
乙女	314		いつかき	いつかきさ		703・8
乙女	315	朱雀院二行幸	朱雀院行幸			703・9
乙女	× 315+		〈ナシ〉(315注ノ一部)	朝観		
乙女	316		き月			703・10
乙女	317		人十々みなあを色			703・12
乙女	318		わさとのもんにん			704・2
乙女	319		式部省			704・3
乙女	320		をくたかき			704・4
乙女	321		つなかぬ舟			704・5
乙女	322		かくの舟ともにて			704・5
乙女	323		又さはかりの事			704・9
乙女	324		おとゝ院に			704・10
乙女	325		うくひすの哥			704・12
乙女	× 325+		〈ナシ〉(325注ノ一部)	むつれしは		
乙女	326	九重を歌	九重を			704・14
乙女	327	いにしへを歌	いにしへを			705・2
乙女	328		鶯の哥			705・4
乙女	329		御わたくし			705・5
乙女	330		かく所			705・6
乙女	331		御まへに御ことめす			705・7
乙女	332		てづかひ			705・9
乙女	333	しやうかあなうと	しやうか			705・9
乙女	334		桜人			705・10
乙女	335		大きさいの宮			705・12
乙女	336		こ宮を			706・1
乙女	337		いまはかく			706・3
乙女	338		さるへきみかけ			706・4
乙女	339		ことさらに			706・6
乙女	340		むねうちさはきて			706・8
乙女	341		くひおほす			706・9
乙女	342	たえさるへし	たえさるへし双			706・10
乙女	343		后は			706・11
乙女	344		御たうはり			706・12
乙女	345		御心にかなはぬ			706・12
乙女	346		とりかへさま			706・13
乙女	347		いんもくらへ	ゐんもくらへ		706・14
乙女	348	進士に	進士			707・1
乙女	349		きうたいの人			707・2
乙女	350	秋のつかさめし	秋のつかさめしに			707・3
乙女	351		六条京極			707・8
乙女	352		式部卿宮			707・8
乙女	353		年かへりては			707・11
乙女	354		御としみ			707・11
乙女	355		ひんかしのあん			707・13
乙女	356		みやひかに			707・14
乙女	357		あまねき			708・2
乙女	358		はしたなめ			708・3
乙女	359		北方は			708・8
乙女	360		女御の			708・9
乙女	361	はつき	はつきにそ			708・10
乙女	362		ひつしさる			708・11
乙女	363		うしとら			708・12
乙女	364		もとありける			708・13
乙女	365		わさとうへて			709・4
乙女	366		さかの大井			709・7
乙女	367		くだに			709・12
乙女	368		むまはのおとゝ			709・13
乙女	369		じやうめ			710・1
乙女	370		われはかほなる			710・3
乙女	371		けしきはまぬ			710・5
乙女	372		御車十五			710・7
乙女	373	四位五位かち也	四位五位がち			710・7
乙女	374		こちたき			710・8
乙女	375		今一かた			710・9

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
乙女	376		しいう			710・10
乙女	377		あて++			710・12
乙女	378		こまけそ			710・12
乙女	379		五六日			710・12
乙女	380		さはいへと			710・13
乙女	381		こなた			711・4
乙女	382		かさみ			711・6
乙女	383		うるはしきけしき			711・7
乙女	384		心から哥			711・10
乙女	385	風に散紅葉は	風にちる紅葉は哥			711・13
乙女	386		えならぬつくりことゝも			711・13
乙女	387		おまへなる			712・1
乙女	388		いとねたき			712・1
乙女	389		たつたびめ			712・2
乙女	390		さしぞきて			712・3
乙女	391		数ならぬ	かすならぬ		712・6
玉鬘	1		年月へたゝりぬれとあかさし			719・1
玉鬘	2		あらましかは			719・2
玉鬘	3		かいひそめ			719・5
玉鬘	4	おはせましかはより思ひけりまて	おはせましかは			719・6
玉鬘	5		あかしの御かた			719・7
玉鬘	6		おとしあぶさず			719・8
玉鬘	7		口かため			719・12
玉鬘	8		わか名			719・12
玉鬘	9		ちゝ君			720・4
玉鬘	10		まだよくも			720・5
玉鬘	11		ことなることなき			720・8
玉鬘	12		むすめともゝ			720・11
玉鬘	13		おはせましかは			720・13
玉鬘	14		かへる波も			720・13
玉鬘	15		舟ことも			720・14
玉鬘	16		舟人も哥			721・3
玉鬘	x 16+		(ナシ)(16注ノ一部)	神無月時雨ふる日の…		
玉鬘	17		こしかたも哥			721・4
玉鬘	18		ひなの別に			721・4
玉鬘	19		かねのみさき			721・5
玉鬘	20		かしこに			721・5
玉鬘	21		夢などに			721・7
玉鬘	22		小貳任はてゝ			721・9
玉鬘	23		ことなるいきほひ			721・10
玉鬘	24		やまひして			721・11
玉鬘	25		さるへき人			721・14
玉鬘	26		命たへず			722・3
玉鬘	27		わか身のけう			722・4
玉鬘	27+	(欠)	すか++		注釈ナシ。	721・11
玉鬘	28		たちの人			722・5
玉鬘	29		むまこのかしつく			722・5
玉鬘	30		きゝついつく	きゝついつく		722・11
玉鬘	31		せうそこがる		注釈ナシ。	722・11
玉鬘	32		所に付たる			723・4
玉鬘	33		ねさう			723・6
玉鬘	34		大夫の監			723・10
玉鬘	35		あまに			724・1
玉鬘	36		このおのことも			724・1
玉鬘	37		めぐらひ			724・5
玉鬘	38		まけじ玉しゐ			724・9
玉鬘	39	中のと云は	中のこのかみとは			724・10
玉鬘	40		せぬわさ			724・9
玉鬘	41		あげ			724・11
玉鬘	42	詞そいと	詞そいとたみたり	詞そいとたみなり		725・2
玉鬘	43		けさう人			725・6
玉鬘	44		さまかへたるの首尾に秋ならねと			725・7
玉鬘	45		おはおとゝ			725・7
玉鬘	46	古小貳	古少貳			725・8
玉鬘	47		いかう			725・10
玉鬘	48		すちことに			725・11
玉鬘	49		わたくしの			725・12
玉鬘	50		おとゝしぶ++			725・13
玉鬘	51		すやつばら			725・14
玉鬘	52		後の位			726・1
玉鬘	53		いかゝはかく			726・2
玉鬘	54		すくせつたなき			726・3
玉鬘	55		さらに			726・5
玉鬘	56		天かに			726・5
玉鬘	57		やめてん			726・6
玉鬘	58		その日はかり			726・6
玉鬘	59		おりて			726・8

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
玉鬘	60	君にしも歌	君にもし哥	君もしい哥		726・10
玉鬘	61		此和哥は			726・10
玉鬘	62		あれにも			726・11
玉鬘	63		年をへての哥			726・14
玉鬘	64		こはいかに			727・1
玉鬘	65		さはいへと			727・2
玉鬘	66		此人のさまことに			727・2
玉鬘	67		おい			727・4
玉鬘	68		たへすや			727・7
玉鬘	69		あたまれ			727・10
玉鬘	70		あてき			727・14
玉鬘	71		宮のまへ			728・4
玉鬘	72		うき嶋を哥			728・7
玉鬘	73	行さきもの歌	行さきも哥			728・8
玉鬘	74		あやうきまで			728・11
玉鬘	75		ひいきのなた			728・11
玉鬘	76		海賊			728・12
玉鬘	77		うき事に哥			729・1
玉鬘	78		川しり			729・1
玉鬘	79		からとまり			729・3
玉鬘	80		豊後介			729・3
玉鬘	81		われをあしと			729・6
玉鬘	82		このちのせいしきは	このちのせいしとは		729・8
玉鬘	83		たゝ一所の			729・12
玉鬘	84		いそき入ぬ			729・14
玉鬘	85		いちめあきひと			730・3
玉鬘	86		水鳥のくかに			730・5
玉鬘	87		松浦箱崎			730・13
玉鬘	88		ごしとて			731・2
玉鬘	89		ほとけの御中には			731・3
玉鬘	90		はつせ			731・3
玉鬘	91		もろこしにたに			731・4
玉鬘	92		年へ給ひつれは			731・5
玉鬘	93		かちよりと			731・7
玉鬘	94		かくさしあたりて			731・11
玉鬘	95		つばいち			731・12
玉鬘	96		あゆむともなく			731・13
玉鬘	97		三四人			732・2
玉鬘	98		あるかきり三人			732・2
玉鬘	99		つほさうそくして			732・2
玉鬘	100		ひすましめく			732・2
玉鬘	101		家あるし			732・4
玉鬘	102		これもかち			732・6
玉鬘	103		かしらかきありく			732・9
玉鬘	104		人十十はおくにいり			732・10
玉鬘	105		ぜじやう			732・11
玉鬘	106		はしたなき			732・13
玉鬘	107		のそけは			733・4
玉鬘	108		三てう			733・6
玉鬘	109		御かたに			733・7
玉鬘	110		兵とうだ			733・10
玉鬘	111		中へたて			733・11
玉鬘	112		かいねり			733・14
玉鬘	113		まつおとゝは			734・5
玉鬘	114		君の御ことは			734・6
玉鬘	115		おい人			734・10
玉鬘	116		またゝき			735・1
玉鬘	117		むかしそのおり			735・1
玉鬘	118		三人なから			735・3
玉鬘	119		卯月の一重めく			735・8
玉鬘	120		きこめ			735・9
玉鬘	121		そや			735・11
玉鬘	122		右近か局は			735・12
玉鬘	123		あやしき身なれと			736・1
玉鬘	124		大ひさ			736・10
玉鬘	125		大貳の北方			736・11
玉鬘	126	中将殿は	中将殿をは			736・14
玉鬘	127		あめの下を			736・14
玉鬘	128		あなま給へ			737・3
玉鬘	129		しみつのみてら			737・3
玉鬘	× 129+		〈ナシ〉(129注ノ一部)	とふさたて足柄山に…		
玉鬘	130		あなむくつけ			737・4
玉鬘	131		みあかしぶみ			737・6
玉鬘	132		るり君			737・8
玉鬘	133		とのゝうへ			737・14
玉鬘	134		又おひいて			738・1
玉鬘	135		たう代の御母后			738・5
玉鬘	136		姫君			738・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
玉臺	137		うへのみかたち			738・8
玉臺	138		こに出ては			738・9
玉臺	139		いたたきをはなれ			738・13
玉臺	140		ほと+			739・1
玉臺	141		しらぬよの			739・3
玉臺	142		あがおもと			739・4
玉臺	143		いてや身こそ			739・7
玉臺	144		われいかて			739・8
玉臺	145		おとゝの			739・9
玉臺	146		ありしまなと			739・11
玉臺	147		心のおさな			739・13
玉臺	148		まかり申に			740・1
玉臺	149		あないみしや			740・3
玉臺	150		見くたさるゝ			740・6
玉臺	151		二もとの哥			740・8
玉臺	152		うれしきせにも			740・8
玉臺	153		初瀬川はやくの哥			740・10
玉臺	154		ごち++しくは			740・11
玉臺	155		おとゝ			740・13
玉臺	156		さとひ			741・1
玉臺	157		かゝる下草			741・6
玉臺	158		いつとても			741・6
玉臺	159	六条院ちかきとあるは	六条院ちかき			741・8
玉臺	160		みかとひきいるゝ			741・10
玉臺	161		よんへ			741・13
玉臺	162		めしいつれは			741・13
玉臺	163		おとゝ御覽して			741・14
玉臺	164		こまがへり			742・1
玉臺	165		なぬかに過ぬれと			742・2
玉臺	166		女君			742・7
玉臺	167		思ひなしにや			742・10
玉臺	168		御足参る			742・11
玉臺	169		わかき人は			742・12
玉臺	170		年へぬるとち			742・12
玉臺	171		さるましき心と			743・1
玉臺	172		あなみくるしや			743・7
玉臺	173		昔の人も			743・9
玉臺	174		よし知給ぬ			743・11
玉臺	175		此君			744・1
玉臺	176		したりかほにこそ			744・2
玉臺	177		めしはなちつゝ			744・3
玉臺	178		聞出なから			744・5
玉臺	179		おほえぬ			744・8
玉臺	180		たゝ御心に			744・10
玉臺	181		いたつらに			744・11
玉臺	182		かのおりの			744・14
玉臺	183		そこばかり			745・2
玉臺	184		かくきこゆるを			745・6
玉臺	185	しらすとも歌	しらすとも哥			745・8
玉臺	186		うへにも			745・9
玉臺	187		みくしけとの			745・10
玉臺	188		かことはかりにても			745・12
玉臺	189		人だち			746・1
玉臺	190		数ならぬ			746・2
玉臺	191		かずならぬ哥			746・7
玉臺	192		よろほはしけれ			746・8
玉臺	193		御心おちゐにけり			746・8
玉臺	194		げそう			746・10
玉臺	195		うしとらの町			746・12
玉臺	196		さふらふ人			746・11
玉臺	197		ふとの			746・12
玉臺	198		うちかたらひても			746・14
玉臺	199		世にある人の			747・2
玉臺	200		人のうへにてもあまた			747・3
玉臺	201		心ふかきあまた			747・4
玉臺	202		北の町に			747・7
玉臺	203		さりとて明石の波			747・10
玉臺	204		猶北のおとゝ			747・10
玉臺	205		すか++しくも			747・13
玉臺	206		いちめなとやうの物			748・2
玉臺	207		神無月			748・5
玉臺	208		ひかしの御かたに			748・5
玉臺	209		をんなに成まで			748・7
玉臺	210		中将を			748・9
玉臺	211		けにかゝる			748・11
玉臺	212	かのおやなり	かのおや成し			748・13
玉臺	213		つき++しく			748・14
玉臺	214		ふる物あつかひ			749・3

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
玉篋	215	昔ひかる	むかしのひかる			749・4
玉篋	216	右近かいはなては	右近かいはなては			749・8
玉篋	217		この戸口			749・8
玉篋	218		火こそいと			749・9
玉篋	219		おもなの人や			749・13
玉篋	220		けにとおほゆる			749・13
玉篋	221	又たれかはとてまて	又誰かはとて			750・9
玉篋	222		めやすく物し給ふ			750・10
玉篋	223		兵部卿の宮			750・14
玉篋	224		此まかきのうち			750・14
玉篋	225		うるはしたち			750・14
玉篋	226		猶うちあらぬ			751・2
玉篋	227		あやしの			751・3
玉篋	228		まことに君をこそ			751・3
玉篋	229		恋わたる哥			751・7
玉篋	230		あはれとやかて			751・7
玉篋	231		ごなたにまうて			751・9
玉篋	232		御わたりの			751・10
玉篋	233		心しれる人			751・12
玉篋	234		ころのかきり			751・12
玉篋	235		大貳をあなつらはしく			752・1
玉篋	236	監のいきさし	監かいきさし			752・2
玉篋	237		君も			752・3
玉篋	238		おほぞう			752・3
玉篋	239	人をしたかへ	人したかへ			752・7
玉篋	240		てうしたるも			752・11
玉篋	241		われも十+			752・12
玉篋	242		ごなたに			752・14
玉篋	243		とうて			752・14
玉篋	244		うちとのより			753・2
玉篋	245		つれなくて人の			753・7
玉篋	× 245+		〈ナシ〉(245注ノ一部)	やうにてしらんとの心……		
玉篋	246		いつれをかはとおほす			753・9
玉篋	247		それも鏡にては			753・9
玉篋	248		こうはい			753・9
玉篋	249		かの御れう			753・10
玉篋	250		さくらのほそなか			753・10
玉篋	251		あさ花田のかいふ			753・12
玉篋	252		くもりなくあかき			753・13
玉篋	253		いろには			754・2
玉篋	254	いてこの御かたち	いてこのかたち			754・3
玉篋	255		人のかたちは			754・4
玉篋	256		すゑつむ			754・4
玉篋	257		柳の織物			754・5
玉篋	258		人しれず			754・6
玉篋	259		しろきこうちき			754・7
玉篋	260		あそにひ色			754・8
玉篋	261		につい			754・10
玉篋	262		いたくすゝけたる			754・13
玉篋	263		としへ			755・1
玉篋	264		中十+にこそ			755・1
玉篋	265		きてみれば哥			755・3
玉篋	266	あふよりにたり	あふよりにたる			755・3
玉篋	267		さかしらに			755・7
玉篋	268		はつかしきまみ			755・8
玉篋	269		ごだいの哥よみは			755・8
玉篋	270		ゆるき給はぬこそ			755・10
玉篋	271		人の中なる事を			755・11
玉篋	272		やすめ所に			755・12
玉篋	273	よろつのさうし	〈ナシ〉(△一字下ゲ)			755・14
玉篋	274		かうやかみ			756・2
玉篋	275	わかすいなう	和哥のずいなう			756・2
玉篋	276		うこきすへくも			756・3
玉篋	277		よくあないしり			756・5
玉篋	278		めなれてこそ			756・5
玉篋	279		いとおしきや			756・6
玉篋	280		爰にものゝ			756・7
玉篋	281		みぬ人はた			756・8
玉篋	282		たゝ心のすちを			756・10
玉篋	283		これよりをし返し			756・13
玉篋	284		かへさんとの哥			757・1
玉篋	× 284+		〈ナシ〉(284注ノ一部)	いとせめて恋しき時は……		
初音	1		とし立			763・1
初音	2		くらぬ			763・1
初音	3		かすならぬ			763・1
初音	4		まして玉を			763・3
初音	5		まねひたてん			763・5
初音	6		いける佛の			763・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
初音	7		うちとけて			763・6
初音	8		中++よし++しく			763・8
初音	9		はがためのいはひして			763・10
初音	10		年の内の			763・11
初音	10+	〈欠〉	そほれ			763・11
初音	11		ふところて			763・12
初音	12		いとはしたなき			763・12
初音	13		いとしたゝかなる			763・12
初音	14		かねてそ見ゆる			764・1
初音	15		御かた++さんざ			764・4
初音	16		うへにはわれ			764・6
初音	17		みたれたる			764・6
初音	18		うす氷哥			764・8
初音	19		けにめてたき			764・8
初音	20		くもりなき哥			764・10
初音	21	聞えかはし給ふも	きこへかはし給ふ	きえかはし給ふ		764・11
初音	22		けふは子日			764・11
初音	23	わらは下つか	わらは下つかへ			764・13
初音	24		おまへの山			764・13
初音	25		ひけことも			764・14
初音	26		五えうの枝			765・1
初音	27		うつれるは			765・1
初音	28		年月を哥			765・3
初音	29		をとせぬ			765・3
初音	30		けにあはれと			765・3
初音	31		こといみ			765・4
初音	32		初音おしみ			765・5
初音	33		いままで			765・7
初音	34	ひきわかれ歌	ひきわかれ			765・9
初音	35		くた++しくそ			765・9
初音	36		わざと			765・11
初音	37		ちかやかなる			765・12
初音	38		又さておはず			766・1
初音	39		花田はけに匂ひおほからぬ御あ はひにて			766・1
初音	40		やさしき方に			766・2
初音	41		えびかつらして			766・2
初音	42		われならさらん			766・3
初音	43		聞え給ひて			766・7
初音	44		またいたくも			766・7
初音	45	さるかたに	さるかたに・・・			766・10
初音	46		くもれるとみゆる			766・12
初音	47		さはらかに			766・13
初音	48		えしも見返し	えしも見返し		767・1
初音	49		かくいと			767・2
初音	50		猶思ふに			767・2
初音	51		年比に			767・4
初音	52		あなた			767・5
初音	53		さも有事そかし			767・8
初音	54		ものよりことに			767・10
初音	55		とうきやうき			767・12
初音	56		物ことに			767・13
初音	57	ゑひかうなり	ゑひかう			767・13
初音	58		すちかはり			767・14
初音	59		ざへがらす			768・1
初音	60		めつらしや哥			768・4
初音	61	声待出たり	こゑまち出たる			768・4
初音	62		さける			768・4
初音	63		引かへしなくさめ			768・5
初音	64		はつかしけ也			768・6
初音	65		筆さし			768・6
初音	66		かしこまりをきて			768・7
初音	67		しろきに			768・8
初音	68		さはかれもや			768・10
初音	69		かくしも			768・12
初音	70		待とり給へるはた			768・14
初音	71		なまけやけし			768・14
初音	72		あやしき			769・1
初音	73		りんしきやく			769・3
初音	74		おもかしく給ふ			769・4
初音	75		取はなちては			769・6
初音	76		つねの年よりも			769・10
初音	77		花の香さそふ			769・10
初音	78		やう++ひもときて			769・11
初音	79		たれときなる			769・11
初音	80		ものゝしらへ			769・12
初音	81		この殿			769・12
初音	82	物へたていきゝ給ふ	物隔て聞給ふ			770・1

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
初音	83		蓮の中の			770・2
初音	84	またひらけざらん	〈ナシ〉(83注ノ一部)			770・2
初音	85		やましは			770・3
初音	86		ましてひんかしのめん			770・3
初音	87		世のうきめみえぬ山ちになすらへ			770・4
初音	88		さひしき事はた			770・6
初音	89		おこなひ			770・6
初音	90		かなのよろつ			770・6
初音	91	すまゐ也	すまゐ			770・9
初音	92		御わかゞみも			770・11
初音	93	まして瀧の	まして瀧の			770・11
初音	94		柳はげにこそ			770・12
初音	95		くろきかいねり			770・14
初音	96		かさねのうちき			771・1
初音	97		みきちやう			771・3
初音	98		なかき御心の程も			771・4
初音	99		をしなへての人ならすして			771・5
初音	100		かく心やすき御すまゐ			771・8
初音	101		こち++しく			771・10
初音	102		かはきぬをさへ			771・11
初音	103		心うつくしといひなから			771・13
初音	104		かはきぬはいとよし			771・14
初音	105		みのしろころも			772・1
初音	106		いたはりなき			772・1
初音	107		なゝへにも			772・1
初音	108		おれ++しく			772・3
初音	109		をのつからなん			772・4
初音	110		むかひのめん			772・4
初音	111		すみ給はぬ			772・5
初音	112		古郷の哥			772・8
初音	113		うけはりたる			772・9
初音	114		あそにひの木丁			772・12
初音	115		松か浦			772・14
初音	116		やみぬへかりける			772・14
初音	117		さすかに			773・1
初音	118		あさくは			773・3
初音	119		おり++かさねて			773・3
初音	120		おほしるや			773・5
初音	121		すなほにしもあらぬ			773・5
初音	122		かのあさましかりし			773・7
初音	123	かゝる	〈ナシ〉(122注ノ一部)			773・8
初音	124		はかなき事			773・10
初音	125		あなたを			773・11
初音	126		かやうにも			773・12
初音	127		たゝかきり			773・14
初音	128		命そしらぬ			773・14
初音	129		年をへける			774・4
初音	130		ことし男たうか			774・4
初音	131		この院へまいる			774・5
初音	132		ひたりみきの			774・9
初音	133		こなたの姫君			774・10
初音	134		みつむま屋にて			774・12
初音	135	ことくはへ	〈欠〉			774・13
初音	136		あそ色の			775・1
初音	137		かさしのわた			775・2
初音	138		殿の中將君			775・3
初音	139		竹川うたひて			775・5
初音	140		かよれる			775・5
初音	141		ゑにもかき			775・5
初音	142		袖くちとも			775・7
初音	143		春のにしき			775・8
初音	144		さるはかうこし			775・9
初音	145	ことぶきの	ことぶき			775・9
初音	146		何はかりの			775・10
初音	147		れいのわたかつき			775・11
初音	148		弁少將			775・13
初音	149		情たち			776・1
初音	150		おほやけ人に	おほやけ人		776・2
初音	151		もてしつめ			776・5
初音	152		いとうつくしと			776・5
初音	153		ばんすむらく			776・5
初音	154		わたくしのごえん			776・7
初音	155		ふくろともして			776・8
初音	156		ひめをく			776・8
初音	157		ゆるへるは			776・8
胡蝶	1		つねよりことに			781・1
胡蝶	2		ほかの里には			781・2
胡蝶	3		心もとなく			781・3

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
胡蝶	4		さうぞかせ			781・4
胡蝶	5		うたつかさ			781・5
胡蝶	6		かの春待そのほと			781・6
胡蝶	7		かるらかに			781・8
胡蝶	8		わかき女房たち			781・9
胡蝶	9		へたての関			781・11
胡蝶	10		つり殿			781・12
胡蝶	11		龍頭鷄首に			781・12
胡蝶	12		みなみつらゆひて			781・13
胡蝶	13		しらぬ園に			781・14
胡蝶	14		たゝゑに			782・2
胡蝶	15		柳えたを			782・4
胡蝶	16		ほかにほさかり			782・5
胡蝶	17		らうをめくる			782・6
胡蝶	18		おのゝえも			782・10
胡蝶	19		をしの波のあや			782・9
胡蝶	20		風ふけは哥			782・12
胡蝶	21		亀のうへの哥			782・14
胡蝶	22		春の日の哥			783・1
胡蝶	23		ゆく方もかへらん			783・2
胡蝶	24		わうしやう			783・3
胡蝶	25		心にもあらず			783・4
胡蝶	26		釣殿			783・4
胡蝶	27		花をこきませ			783・6
胡蝶	28		かく人めして			783・9
胡蝶	29		ものゝ師			783・10
胡蝶	30		うへに待とる			783・11
胡蝶	31		あなたうと			783・12
胡蝶	32		春のしらへひゝき			783・14
胡蝶	33		かへりこゑ			784・2
胡蝶	34		青柳おり返し			784・2
胡蝶	35		中宮ものへたてゝ			784・4
胡蝶	36		春のひかりをこめ			784・4
胡蝶	37		心をつくる			784・5
胡蝶	38		こともなき	(ナシ)(△1字下ゲ)		784・6
胡蝶	39	おほいしもし	おほいしもしるく			784・7
胡蝶	40		わか身さはかり			784・8
胡蝶	41	中のおもひ	中の思ひに			784・9
胡蝶	42		そのうちにことの			784・10
胡蝶	43		空みたれして			784・13
胡蝶	44		さうとき			784・13
胡蝶	45		おとゝもおほしゝ			784・14
胡蝶	46		思ふこゝろ			785・1
胡蝶	47		むらさきの哥			785・3
胡蝶	48		おなしかさしを			785・3
胡蝶	49		ふちに身を哥			785・5
胡蝶	50		中宮のみときやう			785・7
胡蝶	51		日のよそひ			785・7
胡蝶	52		さはりあるは			785・7
胡蝶	53		あなたは			785・8
胡蝶	54		春のうへの御心さし			785・11
胡蝶	55		とりには白かねの花			785・13
胡蝶	56		おまへにわたれる			786・3
胡蝶	57		あくら			786・4
胡蝶	58		ぎやうがう			786・5
胡蝶	59		花園の哥			786・7
胡蝶	60		昨日の女房			786・8
胡蝶	61		花におれつゝ			786・8
胡蝶	62		うくひすの			786・9
胡蝶	63		鳥のかく			786・10
胡蝶	64		てふはまして			786・11
胡蝶	65		宮のすけ			786・13
胡蝶	66		かねてしも			786・14
胡蝶	67		白キ一かさね			787・1
胡蝶	68		こしざし			787・1
胡蝶	69		藤のほそなか			787・1
胡蝶	70		音になきぬへくこそ			787・3
胡蝶	71		こてふにも哥			787・4
胡蝶	72		すくれたる			787・4
胡蝶	73		かの見ものゝ女房			787・6
胡蝶	74		西のたいの			787・10
胡蝶	75		ふかき御心もちみや			787・10
胡蝶	76		らうありて			787・12
胡蝶	77		聞え給ふ人			787・13
胡蝶	78		おやかりはつましう			787・14
胡蝶	79		すく十十くて			788・3
胡蝶	80		この君に			788・4
胡蝶	81		そのかたのあはれ			788・5

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
胡蝶	82		さやうにもいらし			788・7
胡蝶	83		これは			788・9
胡蝶	84		たいの御かた			788・11
胡蝶	85		いられかましき			788・14
胡蝶	86		たゝかやう			789・3
胡蝶	87		右大将			789・8
胡蝶	88		恋の山にはくしの			789・8
胡蝶	89		おもふとも哥			789・13
胡蝶	90		そをれ	〈ナシ〉(△1字下ゲ)		789・13
胡蝶	91		おのこのとか			790・2
胡蝶	92		むしんなるにや			790・4
胡蝶	93	もしはめさましかるへきゝはゝけやけう	もしはめさましかるへきゝはゝ			790・4
胡蝶	94		花てふにつけたる			790・5
胡蝶	95	心たつ也(行間ニ「女ノ実法の」ト)	〈ナシ〉(△1字下ゲ)			790・6
胡蝶	96		物のたよりはかり			790・7
胡蝶	97		なてしこのほそなか			790・13
胡蝶	98		さはいへと			791・1
胡蝶	99		こと人と			791・4
胡蝶	100		おやと聞えん			791・5
胡蝶	101		さらに人の			791・6
胡蝶	102		御かへりはさらに			791・9
胡蝶	103	さて此わかや	さてこのわかやかに			791・10
胡蝶	104		かれはしうねく			791・11
胡蝶	105		みるこ			791・13
胡蝶	106		をのつから			792・2
胡蝶	107		けつゑん			792・3
胡蝶	108		かうなにやかや			792・4
胡蝶	109		やゝましき			792・5
胡蝶	110		御なかにさし			792・6
胡蝶	111		なをよの人の			792・7
胡蝶	112		めしうと			792・10
胡蝶	113		みなをい給はん人は			792・11
胡蝶	114	あんへき也	あへき			792・13
胡蝶	115		いたうねひ過			792・13
胡蝶	116		かうざま			793・1
胡蝶	117		わい			793・4
胡蝶	118		御心にあかさらん			793・4
胡蝶	119		くるしうて			793・5
胡蝶	120		何事も			793・6
胡蝶	121		世のたとひの後の親			793・8
胡蝶	122		おほすさまの事			793・9
胡蝶	123		たちとまり			793・13
胡蝶	124		ませのうちに哥			793・14
胡蝶	124+	〈欠〉	ぬざりいてゝ			794・1
胡蝶	125		今さらに哥			794・2
胡蝶	126		中十十にこそ			794・2
胡蝶	127		さるは心のうちには			794・3
胡蝶	128		むかし物語			794・6
胡蝶	129		心としられ			794・7
胡蝶	130		物の心えつへくは			794・12
胡蝶	131		などたのもしけ			794・13
胡蝶	132	いてや我にても	いてや我たにも			794・14
胡蝶	133		あな心どゝ			795・2
胡蝶	134		いと見しらすしも			795・2
胡蝶	135		心のうちには			795・3
胡蝶	136		わして又きよし			795・8
胡蝶	137		先この			795・9
胡蝶	138	なこやか	〈ナシ〉(137注ノ一部)			795・11
胡蝶	139		見そめたて			795・12
胡蝶	140		中將のさらに			795・14
胡蝶	141		橘の哥			796・4
胡蝶	142		袖の香を哥			796・9
胡蝶	143		あさくも			797・1
胡蝶	144		をとつれ			797・2
胡蝶	145		いとかう			797・3
胡蝶	146		いとさかしら			797・3
胡蝶	147		風の竹に			797・4
胡蝶	148		御そともの			797・8
胡蝶	149		いと心うく			797・9
胡蝶	150		まことのおや			797・10
胡蝶	151		かうおほすこそ			797・12
胡蝶	152		しらぬ人たに			797・13
胡蝶	153		むかしの心ち			798・3
胡蝶	154		かうほれ++しく			798・6
胡蝶	155		そこぬしらぬ			798・7
胡蝶	156		いとさはかりには			798・9

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
胡蝶	157	ゆめ	いめ			798・11
胡蝶	158		世の中をしり			798・12
胡蝶	159		人の有さま			798・13
胡蝶	160		兵部			799・3
胡蝶	161	たくひなかりし	〈ナシ〉(160注ノ一部)			799・8
胡蝶	162		うちとけて哥			799・10
胡蝶	163		聞えさらん			799・12
胡蝶	164		うらみ所ある			799・14
胡蝶	165		大田の松			800・1
胡蝶	166		うき名にも			800・4
胡蝶	167		まめ十十しき御心			800・6
胡蝶	168		宮大将などは			800・7
胡蝶	169		おとゝの御ゆるしを			800・9
蛭	1		いまはかくおも十十し			805・1
蛭	2		たゝよはしからず			805・2
蛭	3		おもひの外なる			805・3
蛭	4		かゝるすぢ			805・5
蛭	5		母君の			805・7
蛭	6		わららか			805・13
蛭	7		らうのほとは			806・1
蛭	8		五月雨に			806・1
蛭	9	殿は御らんして	殿御覽して			806・3
蛭	10		人十十もことに			806・6
蛭	11		母君の御おち			806・6
蛭	12		物などの給ふさま			806・10
蛭	13		物なけかしさの後			806・12
蛭	14		なにかとおもふには			806・13
蛭	15		されたる			806・14
蛭	16		とのはあひなく			806・14
蛭	17		つまとの間			807・2
蛭	18		むつかしきさかしら			807・4
蛭	19		おほつかなき			807・6
蛭	20		うちよりほのめく			807・8
蛭	21		打出て			807・9
蛭	22		いとあまり			807・13
蛭	23		あつかはしき			807・13
蛭	24		より給て			808・6
蛭	25		ひとへ打かけ			808・6
蛭	26		ほたるをうすきかたに			808・7
蛭	27		わか姫君			808・13
蛭	28		ことかたより			808・14
蛭	29		人のおはするほと			809・1
蛭	30		えならぬうす物の			809・2
蛭	31		そひやか			809・6
蛭	32	あのこと	〈ナシ〉(31注ノ一部)			809・7
蛭	33		なくこゑも哥			809・8
蛭	34		おもひまはさん			809・9
蛭	35	声はせて歌	こゑはせて			809・11
蛭	36		軒のしつく			809・13
蛭	37		ほとゝきす			809・14
蛭	38		御けはひ			810・1
蛭	39		めおやたちて			810・2
蛭	40		さるまことにゆかしけなき			810・7
蛭	41		御心くせ			810・8
蛭	42		うるはしくやは			810・8
蛭	43	をよひなきに	をよひなきに			810・10
蛭	44		この君は			810・11
蛭	45		むまはのおとゝ			810・14
蛭	46		ならはしきこえじ			811・1
蛭	47		いけみころしみ			811・3
蛭	48		つやも色も			811・3
蛭	49		いつこに			811・4
蛭	50	あやめの	あやめも			811・5
蛭	51		しろきうすやう			811・7
蛭	52		まなひいつれば			811・8
蛭	53		けふさへや哥			811・10
蛭	54		ためしにも			811・10
蛭	55		これかれも			811・11
蛭	56	あらはれての歌	あらはれて哥			811・13
蛭	57		わか十十しく			811・13
蛭	58		くす玉など			812・1
蛭	59		おほしつみつる			812・2
蛭	60		おなしくは			812・2
蛭	61		中將のけふの			812・4
蛭	62		しのふる			812・6
蛭	63		こなたのらう			812・8
蛭	64		官人			812・10
蛭	65		たいの御かた			812・11

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
蛭	66		すそこの			812・13
蛭	67		さうふかさね			812・13
蛭	68		西のたい			812・14
蛭	69		あふちのすそこ			813・1
蛭	70		からきぬ			813・2
蛭	71		こなた			813・2
蛭	72		こきひとへかさね			813・3
蛭	73		けにみこたち			813・5
蛭	74		おほやけことに			813・6
蛭	75		すけたち			813・6
蛭	76		女はなにの			813・7
蛭	77		とねりとも			813・7
蛭	78		身をなけたるてまどはし			813・8
蛭	×78+		〈ナシ〉(78注ノ一部)	長和二年五月十二日…		
蛭	79		あなたにもかやう			813・9
蛭	80		たぎうらく			813・10
蛭	81		らんさう			813・10
蛭	82		おとゝはこなたに			813・12
蛭	83		よしといへと			813・14
蛭	84		御おとうとに			814・1
蛭	85		昔のうちわたり			814・3
蛭	86		そちのみこ			814・4
蛭	87		大君げしき			814・5
蛭	88		ふと			814・5
蛭	89		なをあるをは			814・6
蛭	90		右大将			814・7
蛭	91		ちかきよすか			814・8
蛭	92		おましなともこと++			814・9
蛭	93		殿はくるし			814・11
蛭	94		そはみ聞え給はて			814・11
蛭	95		おりふしに付たる			814・11
蛭	96	その駒もの歌	その駒も哥			815・1
蛭	97		にほ鳥に哥			815・3
蛭	98		あいたちなき			815・3
蛭	99		かくても見たて			815・4
蛭	100		ゆかをば			815・6
蛭	101		かきよみ			815・12
蛭	102		わかみありさま			815・13
蛭	103		住吉の姫君			815・14
蛭	104		さしあたりけんとは			815・14
蛭	105		ほと++し			816・1
蛭	106		女こそ物うるさからず			816・3
蛭	107		あつかはしき			816・5
蛭	108		さみたれのかみ			816・6
蛭	109		いたつらに心うこき			816・9
蛭	110		らうたけなる姫君			816・10
蛭	111	かた心つくかし	かた心つくし			816・10
蛭	112		しつかに又			816・11
蛭	113		おさなき人の			816・12
蛭	114	そゝこと	そゞごと(見出し頭ヨリサラニ1字上ゲ)			816・13
蛭	115		さしもあらしや			817・1
蛭	116		けにいつはり			817・1
蛭	117		こちなくも			817・3
蛭	118		神代より			817・3
蛭	119	日本紀	日本記			817・3
蛭	120		その人のうへとて			817・5
蛭	121		よきもあしきも			817・6
蛭	122		人のみかと			817・10
蛭	123		おなしやまと			817・10
蛭	124		佛のいとうるはしき			817・12
蛭	125		はうへんといふ事			817・13
蛭	126		さとりなき物は			817・14
蛭	127		ひとつむねに			818・1
蛭	128		ほたいとほんなう			818・1
蛭	129		人のよきあしき			818・2
蛭	130		しほうなる			818・4
蛭	131		しれもの			818・4
蛭	132		けとをきものゝ			818・4
蛭	133		さらすともかく			818・7
蛭	134		けにこそ			818・8
蛭	135		いとあされたり			818・9
蛭	136		おもひあまり哥			818・10
蛭	137		ふけうなるは佛			818・10
蛭	138		ふるき跡を哥			818・13
蛭	139	かくしていかならん	かくしていかなるへき			818・14
蛭	140	姫君一	姫君			818・14
蛭	141		こまのゝ物語			819・1

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
蛩	142		ちいさき			819・3
蛩	143		かゝるわらはとちいかに			819・4
蛩	144		けにたくひおほからぬ			819・5
蛩	145		このみあつめ			819・6
蛩	146		みそか心			819・7
蛩	147		おかしとはあらねと			819・7
蛩	148		たいの御かた聞給は			819・8
蛩	149		うつほの藤原君			819・10
蛩	150		いひ出たるしわざ			819・12
蛩	151		うつゝの人も			819・12
蛩	152		人十十しく			819・13
蛩	153		よきほどにかまへぬやよしなから			819・14
蛩	154		こめかしきを			819・14
蛩	155		なにわさをして			820・1
蛩	156		けにさはいへと			820・2
蛩	157		ことのはのかきり			820・3
蛩	158		すへてよからぬ			820・5
蛩	159		ほめさせし			820・5
蛩	160		まゝはゝのはらきたなき			820・6
蛩	161		中将の君			820・8
蛩	162		わか世の			820・10
蛩	163		大はん所			820・12
蛩	164		あまたおはせぬ			820・12
蛩	165		まめやかに			820・14
蛩	166		かの人			821・2
蛩	167		さもありぬへき			821・3
蛩	168	猶かのみとりの	猶かのみとり			821・5
蛩	169		やんことなき			821・7
蛩	170		たふるゝ			821・7
蛩	171		つらしと			821・8
蛩	172		人にもことはら			821・8
蛩	173		せうとの			821・10
蛩	174		右中将			821・11
蛩	175		この君をそ			821・12
蛩	176		人のうへにては			821・13
蛩	177		むかしの父おとゝ			821・14
蛩	178		とゝこほる			822・3
蛩	179		かのなてしこ			822・4
蛩	180		すへて			822・6
蛩	181		さかしらに我が子と			822・7
蛩	182		君たちにも			822・9
蛩	183		耳とゝめ			822・10
蛩	184		心のすさひに			822・10
蛩	185		物うんし			822・11
蛩	186		中比			822・12
蛩	187		夢見給て			822・14
蛩	188		とし比			823・1
蛩	189		人の物に			823・2
常夏	1		つり殿			829・1
常夏	2		中将の君			829・1
常夏	3		西川			829・2
常夏	4		ちかき河			829・2
常夏	5		大殿の君たち			829・3
常夏	6		ひみつめして			829・5
常夏	7		すいはん			829・5
常夏	8		さうどき			829・5
常夏	9		せみの聲			829・6
常夏	10		水の上むとく			829・7
常夏	11	むらいの	むらい			829・7
常夏	12		あそひなども			829・8
常夏	13	宮つかへする	宮つかへ			829・9
常夏	14		おきなひたる			829・11
常夏	15		めつらしきこと			829・12
常夏	16		いかてきゝしことそや			830・1
常夏	17		弁の少将			830・2
常夏	18		この春の比ほひ夢かたり			830・3
常夏	19		かこつへきこと			830・4
常夏	20		中将のあそむ			830・4
常夏	21		ふればひ			830・5
常夏	22		けそん			830・7
常夏	23		おほかんめる			830・8
常夏	24		をくるゝかりを			830・8
常夏	25		ふくつけきそ			830・9
常夏	26		いとゝものしきに			830・9
常夏	27		名のりも			830・10
常夏	28		もてはなれたる			830・11
常夏	29		らうかはしく			830・11
常夏	30		そきよくすまぬ水			830・11

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
常夏	31		中将君も			830・13
常夏	32		藤侍従			830・13
常夏	33		あそんやさやうの			830・14
常夏	34		おなしかさし			831・1
常夏	x 34+		(ナシ)(34注ノ一部)	おなしかさしの事		
常夏	35		ろうし給ふやう			831・2
常夏	36		うはへは			831・2
常夏	37		なまねたしとも			831・4
常夏	38		かくきゝ給ふに			831・5
常夏	39		たいの姫君			831・5
常夏	40		もてなされなんはや			831・6
常夏	41		又もてけち			831・7
常夏	42		おほえぬさまにて			831・8
常夏	43		夕つけ			831・9
常夏	44		おなしなをし			831・12
常夏	45		おとゝ			831・14
常夏	46		といで			831・14
常夏	47		しのひて			831・14
常夏	48		いとかけりこまほしけに			831・14
常夏	49		なを++しき			832・2
常夏	50		この家のおほえ			832・3
常夏	51		すぎごと		注釈ナシ。	832・5
常夏	52		かくてものし			832・5
常夏	53		なてしこの色を			832・9
常夏	54		心のまゝに			832・10
常夏	55		いふそく			832・11
常夏	56		右の中将			832・12
常夏	57		中将の君は			832・14
常夏	58		中将をいとひ			832・14
常夏	59	ましり物なくきら++しかめる	ましりもなくきら++しかめる			833・1
常夏	60		おほきみたつ			833・2
常夏	61		きまさはといふ人も			833・2
常夏	62		もてはやされん			833・3
常夏	63		こゝにまかせ			833・5
常夏	64		さはかる御心の			833・6
常夏	65		かり火のだい			833・10
常夏	66		りちに			833・11
常夏	67		思ひおとし			833・12
常夏	68		いとおくふかくはあらて			833・13
常夏	69		こと++しきしらへ			833・14
常夏	70		このものよ			833・14
常夏	71		いとかしこきやまとこと			834・2
常夏	72		はかなくみせて			834・2
常夏	73		ひろくことくにの			834・2
常夏	74		ものなどに			834・4
常夏	75		すがゞき			834・6
常夏	76		ほの++			834・7
常夏	77		いかてとおほす			834・7
常夏	78		このわたりにて			834・8
常夏	79		山かつ			834・9
常夏	80		さかし			834・11
常夏	81		ふんのつかさ			834・12
常夏	82	おやと一	おやとし			834・13
常夏	83		ておしますなど			835・1
常夏	84	ことつひ・きひう	ことつひきひう			835・3
常夏	85		ぬき川			835・6
常夏	86		おやさくるは	おやさくる		835・6
常夏	87		さうぶれん			835・9
常夏	88		おもなくて			835・10
常夏	89		しはしもひき			835・12
常夏	90		いかなる風の			835・13
常夏	91		みゝかたからぬ			836・1
常夏	92		いと心やまし			836・2
常夏	93		世もいとつねなき			836・4
常夏	94		いにしへも			836・5
常夏	95		なてしこの哥			836・7
常夏	96	この事の	この事の…			836・7
常夏	97		まゆこもり			836・8
常夏	98		山かつの哥			836・10
常夏	99		こさらましかは			836・11
常夏	100		さるへき			836・14
常夏	101		なそかくあひなき			837・1
常夏	102		春のうへ			837・4
常夏	103		さてそのおとり			837・5
常夏	104		人よりことなれ			837・6
常夏	105		納言の			837・7
常夏	106		いさなひとりて			837・9

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
常夏	107		たえなんや			837・9
常夏	108		うしろめたき			837・12
常夏	109		さは			838・1
常夏	110		こゝなから			838・1
常夏	111		また世なれぬ			838・3
常夏	112		をのつから関守			838・4
常夏	113		思ひ入なは			838・5
常夏	114		いとけしからぬ			838・5
常夏	115		いよ十			838・6
常夏	116		むつかしき			838・7
常夏	117		このいまの御むすめ			838・8
常夏	118		とのゝ人			838・8
常夏	119		ほぎたる			838・9
常夏	120	少将	少将弁			838・9
常夏	121		さかし			838・10
常夏	122	もとき給はぬ	もとき給ぬ			838・12
常夏	123	これそおほえある	これにそおほえある			838・13
常夏	124	いとこともなき	いともこともなき			838・14
常夏	125		いてそれは			839・2
常夏	126		人十しき程ならば			839・4
常夏	127		塵もつかす			839・4
常夏	128		おもたゝしきはらに			839・5
常夏	129		今ひめ			839・9
常夏	130		しちの御子にも			839・9
常夏	131		え給はん			839・11
常夏	132		なをひめ君			839・12
常夏	133		位さはかり			839・14
常夏	134		くちいれかへさい	くちいれかへさは		840・1
常夏	135		かるらかに			840・3
常夏	136		うたゝねは			840・11
常夏	137		人十もちかく			840・12
常夏	138		心やすく			840・13
常夏	139		身かためて			840・14
常夏	140		ふとう			840・14
常夏	141		うつゝの			841・1
常夏	142		きさきかね			841・3
常夏	143		こと十しきゆへも			841・3
常夏	144		けにさも			841・5
常夏	145		たてゝなひくた			841・5
常夏	146		この君の人と			841・6
常夏	147		おもふやうに			841・8
常夏	148		心見ことに			841・10
常夏	149		ねきことに			841・10
常夏	150		おもふさま侍る			841・10
常夏	151		むかしはなに事をも			841・11
常夏	152		中十さしあたりて			841・12
常夏	153		大宮よりも			841・14
常夏	154		この北のたい			842・1
常夏	155		女御			842・4
常夏	156		さるおこの			842・5
常夏	157	いとさいふはかりにや	いとさいふはかりにや…			842・5
常夏	158		老しらへる			842・7
常夏	159		なとかいとさことの			842・9
常夏	160		中將などの			842・10
常夏	161		かたへはかゝやかしきにや			842・11
常夏	162		この御ありさま			842・12
常夏	163		すみたる			842・13
常夏	164	ほうゑみ給へる	ほうゑみ給へる			843・1
常夏	165		中將のいとさいへと			843・1
常夏	166		すたれたかく			843・3
常夏	167		五せち			843・3
常夏	168		せうさい十			843・4
常夏	169		先をふをもてかき			843・5
常夏	170		御かへしや十			843・7
常夏	171		とうをひねり			843・7
常夏	172		中に			843・8
常夏	173		あさえも			843・8
常夏	174		ひちゝかに			843・9
常夏	175		つみかろげ			843・9
常夏	176		かゝみに			843・11
常夏	177		かくて物し			843・12
常夏	178		てうたぬ			844・2
常夏	179	けに身にちかく	〈ナシ〉(178注ノ一部)			844・2
常夏	180		なへてのつかうまつり人			844・4
常夏	181		まして			844・7
常夏	182		何そはこと十しく			844・8
常夏	183	おほみ大壺	おほみ			844・9
常夏	184		けうぜん			844・11

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
常夏	185		おごめい			844・12
常夏	186		舌の本上			844・13
常夏	187		めうほうし			844・13
常夏	188	たうひし	たうびし給ひし也			845・1
常夏	189		たゝそのつみのむくひ			845・3
常夏	190		大ぞう			845・3
常夏	191		こなから			845・4
常夏	192		さても有ぬへし			845・8
常夏	193		水をくみたきゝを			845・12
常夏	194		あへ物に			845・14
常夏	195		おごごとに			846・1
常夏	196		よろしき日			846・3
常夏	197		打みしろき			846・5
常夏	198		はつかしけにそおはする			846・7
常夏	199		れいの君			846・9
常夏	200		そほれたる		注釈ナシ。	846・11
常夏	201		たゝひなひ			846・12
常夏	202		聲つかひ			847・1
常夏	203		詞たひて			847・5
常夏	204		いといふかひ			847・6
常夏	205		こそおほせ			847・8
常夏	206		よさりまうてん			847・8
常夏	207		おとゝの天下に			847・8
常夏	208		あしかきの			847・11
常夏	209		かけふむはかり			847・12
常夏	210		しらねとも			847・12
常夏	211		てんかちに			847・13
常夏	212		いとふに			847・14
常夏	213		水無瀬川			848・1
常夏	214	草わかみ歌	草わかみ			848・2
常夏	215		おほ川水			848・2
常夏	216		しもしなかに			848・3
常夏	× 216+		(ナシ)(216注ノ一部)	なと長十+としたるなり		
常夏	217		ゆへはめる			848・4
常夏	218		ひすまし			848・6
常夏	219		さうのもしは			848・11
常夏	220		えみしらねはにや			848・11
常夏	221		返事かく			848・12
常夏	222		おかしき事の			849・1
常夏	223		せんじかき			849・1
常夏	224		ちかきしるし			849・2
常夏	225		ひたちなる哥			849・4
常夏	226	それはきかむ人	されはきかん人…	それはきかん人…		849・5
常夏	227		をしつゝみて			849・6
常夏	228		御かたみて			849・6
常夏	229		まつとの給へは			849・7
常夏	230		御たいめん			849・10
篝火	1		おほいとの	(古活字本八前巻末二追イ込ミ)		855・1
篝火	2		なをさりの			855・2
篝火	3		ものめかし			855・3
篝火	4	けによくこそと	けによくこそおやと聞えなからも句			855・7
篝火	5		右近も			855・9
篝火	6		にくき御心こそ			855・9
篝火	7		ふかき御心のみ			855・10
篝火	8		せこか衣も			855・11
篝火	9		御こと			855・13
篝火	10		いつかむゆか			855・13
篝火	11		かゝるたくひ			856・1
篝火	12		わたり給はん			856・2
篝火	13		右近			856・3
篝火	14		やり水のほとり			856・4
篝火	15		うちまつ			856・4
篝火	16		夏の月なき			856・9
篝火	17	かゝり火に歌	かゝり火哥			856・12
篝火	18		ふすふるならても			856・12
篝火	19	ゆくゑなき歌	行ゑなき	行ゑなき玉の哥		857・1
篝火	20		くはや			857・2
篝火	21		ひんかし			857・2
篝火	22		わさとふきなる			857・4
篝火	23		御せうそこ			857・4
篝火	24		風の音			857・6
篝火	25		御ことひき			857・7
篝火	26		源中將			857・8
篝火	27		いたしたてかたう			857・8
篝火	28		すゝむしに			857・9
篝火	29	心してを	心してを句		注釈ナシ。	857・12
篝火	30		ゑいなきのついでに			857・13

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
篝火	31		けにあはれと			857・13
篝火	32		さたに			858・1
篝火	33		え忍ひ			858・2
篝火	34		さまよくもてなし			858・3
野分	1		色草			863・1
野分	2	くろきあかき	くろぎ△あかき			863・2
野分	3		春の山			863・4
野分	4		春秋のあらそひに			863・5
野分	5		名たゝる			863・6
野分	6		こせんぼうのきつき			863・8
野分	7		野分れいの年より			863・9
野分	8		まして草むらの			863・11
野分	9		しぬへくは			863・12
野分	10		おほふはかりの			863・12
野分	11		本あらの			864・2
野分	12		おとゝは姫君			864・3
野分	13		中将君			864・4
野分	14		こさうし			864・4
野分	15		ものにまきる			864・7
野分	16		かはさくら			864・9
野分	17		にほひちりて			864・9
野分	18	いかにしける	いかにしつる			864・11
野分	19		かくみる人			864・14
野分	20		西の御かた			865・2
野分	21		いとうたて			865・3
野分	22		ものきこえて			865・4
野分	23		たてる所			865・8
野分	24		露なかりつる			865・11
野分	25	風こそけにいほも	風こそ			865・11
野分	26	心共をさはかして	心ともをさはかして…			865・11
野分	27		三条の宮に			866・1
野分	28		まいり待つる			866・2
野分	29		おもひ給へゆつりて			866・7
野分	30		三條宮と			866・8
野分	31		おとゝのかはら			867・1
野分	× 31+		〈ナシ〉(31注ノ一部)	三鉢		
野分	32	中十十	中十十夕より内大は			867・4
野分	33		心にかけて			867・6
野分	34		きしかた			867・8
野分	35		たとしへ			867・10
野分	36		人からの			867・11
野分	37		人十十はたおはします			868・1
野分	38		おもひくはゝれる			868・5
野分	39		おちごうして			868・7
野分	40		またみかうし			868・9
野分	41		あたれるかうらん			868・9
野分	42		いにしへたに			869・2
野分	43	ゆるいなき	ゆるひなき			869・4
野分	44		みかうし			869・5
野分	45		しかはかなき			869・7
野分	46		おおしきかた			869・10
野分	47		まことにしみて			869・11
野分	48		うるさなから			869・13
野分	49	かく	かく難也			869・13
野分	50		おこりあひて			870・2
野分	51	かうらんにもをしかり	かうらんにをしかり			870・6
野分	52	しをんなてして	しをんなてしこ			870・9
野分	53		をみなへし			870・10
野分	54	しほに	しをに			870・13
野分	55	こと十十にとある時は	こと十十にとある時は…			870・13
野分	56		ふればひ			870・14
野分	57		おとろきかほには			871・2
野分	58		御参りのほと			871・2
野分	59		宰相の君			871・4
野分	60		これはた			871・4
野分	61		あらき風をも			871・8
野分	62		あへかに			871・10
野分	63		あやしくから			871・9
野分	64		やかてまいり			871・11
野分	65		むねつが十十となる			871・13
野分	66		中将の			872・1
野分	67		心のやみに			872・2
野分	68		わか御かほ			872・2
野分	69		宮に			872・3
野分	70		けしきつき			872・5
野分	71		心とき			872・6
野分	72		みすのうち			872・10
野分	73		さうのこと			873・3

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
野分	74		こうちき			873・4
野分	75		いたし			873・5
野分	76		大かたに哥			873・7
野分	77		けざ十			873・10
野分	78		あくかれなまほしく			873・13
野分	79		ほうづき			874・3
野分	80		わらゝかに			874・4
野分	81		露なん			874・5
野分	82		いとこまやかに			874・6
野分	83	ことゝなれ十しき	いとゝなれ十しき			874・14
野分	84		もとよりみなれ			875・1
野分	85		八重山吹			875・5
野分	86		おりにあはぬ			875・7
野分	87		花は			875・7
野分	88		いかゝあらんまめ立て			875・10
野分	89		吹みたる哥			875・11
野分	90		くはしくも			875・11
野分	91		下露に哥			876・1
野分	92		なよ竹を			876・1
野分	93		ひかみにや			876・2
野分	94		きゝよくもあらずそ			876・2
野分	95		ほそひつめく			876・4
野分	96		打たる			876・5
野分	97	中将の下襲か	中将下襲か			876・5
野分	98		けもんれう			876・9
野分	99		かゝまほしき			876・13
野分	100		姫君の御かた			876・14
野分	101		またあなたに			876・14
野分	102		宮のいとも			877・2
野分	103	なん	なん句			877・3
野分	104		ほと十しきこそ			877・4
野分	105		みつほねの			877・5
野分	106		みつしによりて			877・6
野分	107		北のおとゝの			877・7
野分	108		さたまりて			877・10
野分	109		風さはき哥			877・12
野分	110		かたのゝ少将			877・13
野分	111		さはかりの			877・13
野分	112		かやうの人十しきにも			878・1
野分	113		又もかい給ふて			878・1
野分	114		馬のすけ			878・2
野分	115		わたらせ給とて			878・4
野分	116		見つる花のかほ			878・4
野分	117		うす色			878・8
野分	118		さもありぬへき			878・14
野分	119		をは宮			879・1
野分	120		姫君を			879・6
野分	121		くちおしう			879・8
野分	122		猶心とけす			879・9
野分	123		心うくて			879・10
野分	124		ふでう			879・11
野分	125		むすめといふ名はして			879・12
野分	126		とや			879・14
行幸	1	かくおほしいらぬ	かくおほしいたらぬ			879・12
行幸	2		このをとなし			885・1
行幸	3		みなみのうへ			885・2
行幸	4		かのおとゝ			885・2
行幸	5		けさやかなる			885・5
行幸	6		大原野の行幸			885・6
行幸	7		すさかより			885・7
行幸	8		馬ぞひ			885・10
行幸	9		あを色のうへのきぬ			885・11
行幸	10		ゑひ染			885・12
行幸	11	たかにかゝつらひ一	たかゝひにかゝつらひ	たかひにかゝつらひ		885・13
行幸	12		このゑ青(「青」小字)	このゑ青		886・1
行幸	13		足よはき			886・3
行幸	14		うきはし			886・3
行幸	15		みかとのあか色			886・6
行幸	16		かきりありかし			886・8
行幸	17		御こしの内			886・9
行幸	18		おもひなし			886・13
行幸	19		おとゝ中将			886・14
行幸	20		右大将			887・2
行幸	21		いかてかはつろひ			887・4
行幸	22		見おとし給ひて			887・6
行幸	23		おほしよりての給ふ			887・6
行幸	24		なれ十しき			887・8
行幸	25		御さうそくともなをし			887・10

## 写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
行幸	26		六條院より			887・11
行幸	27		けふつかうまつらせ			887・11
行幸	28		くら人の左衛門そう			887・13
行幸	29		何とかや			887・14
行幸	30		雪ふかき哥			888・2
行幸	31		太政大臣			888・2
行幸	32		をしほ山哥			888・5
行幸	33		その比ほひ			888・5
行幸	34		かの事はおほし			888・7
行幸	35		しろきしきし			888・8
行幸	36		あひなのことや			888・9
行幸	37		うちきらし哥			888・11
行幸	38		おほつかなき御ことゝ			888・11
行幸	39		うへも見給ふ			888・12
行幸	40	しか++イ	しか++			888・12
行幸	41		こゝなからのおほえ			888・12
行幸	42		わかき人の			888・14
行幸	43		あなうたて			889・2
行幸	44		いてそこにしも			889・3
行幸	45	あかねさす歌	あかねさす			889・5
行幸	46		猶おほし			889・5
行幸	47		御もきのこと			889・6
行幸	48		よだけく			889・8
行幸	49		二月にもと			889・10
行幸	50		女はきこえたかく			889・10
行幸	51		このもおほしよる			889・12
行幸	52		つゐには			889・14
行幸	53		なを++しき			890・1
行幸	54		この御こしゆひ			890・3
行幸	55		心の空なく			890・6
行幸	56		宮もうせ			890・7
行幸	57		けしうはおはし			890・14
行幸	58		なにかしのあそん			890・14
行幸	59		うちなどにも			891・2
行幸	60		うる++しくよたけく			891・3
行幸	61		おれ++しき			891・5
行幸	62		おほつかながり		注釈ナシ。	891・2
行幸	63		年のつもり			891・6
行幸	64		さへき			891・9
行幸	65		人のうへ			891・10
行幸	66		いてたち			891・11
行幸	67	さることゝもなれ	さることゝもなり			891・14
行幸	68		日へたてす			892・1
行幸	69		大やけごとのしけきにや			892・4
行幸	70	いまはけにくゝ	いまはきゝにくゝ			892・7
行幸	71		物し侍れとたてたる所			892・9
行幸	72		打わらひて			892・11
行幸	73		いふかひなきに			892・11
行幸	74		こゝにさへ			892・11
行幸	75		くい思			892・13
行幸	76		すゝい			893・1
行幸	77		にこりの末に			893・1
行幸	78		さるはかの			893・4
行幸	79		ふい			893・4
行幸	80		そのおりは			893・4
行幸	81		むつひも			893・7
行幸	82		女官なども			893・9
行幸	83		こらうのすけ			893・11
行幸	84		猶いへたかく			893・13
行幸	85		かしこきかたの			893・14
行幸	86	らうになりほる	らうになりほり			893・14
行幸	87		宮つかへはさるへきすち			894・3
行幸	88		おほやげざまにて			894・4
行幸	89		なとか又さしも			894・6
行幸	90		よはひの程など			894・7
行幸	91		御なやみに			894・10
行幸	92		いかに++			894・13
行幸	93		此年比			895・1
行幸	94		さるやう侍ること也			895・2
行幸	95	御せんとも	御前なども			895・8
行幸	96		まうちきみ			895・10
行幸	97		六条のおとゝ			895・12
行幸	98		つれなくておもひいられぬ			896・4
行幸	99		人の御ことに			896・5
行幸	100	おほす	おほす句			896・6
行幸	101		さしもあらんと			896・7
行幸	x 101+		(ナシ)(101注ノ一部)	おとゝの御心あやになる		
行幸	102		しうとく			896・12

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
行幸	103		あゆまひ			896・13
行幸	104		御さしめき桜の下かさね			896・13
行幸	105		さくらのからのき			897・1
行幸	106	光こそまさり給へ	光こそまさり給へ句			897・2
行幸	107		藤大納言春宮の大夫			897・5
行幸	108		御子十人あまり			897・5
行幸	109		物かたりに			897・10
行幸	110		御かうしや			898・1
行幸	111		かんたうは			898・1
行幸	112		昔より			898・4
行幸	112+	<ナシ>(112注ノ一部)	たいせう			898・5
行幸	113		はねをならふる			898・5
行幸	114		うち十のわたくしことにこそは			898・7
行幸	115		よたけき			898・10
行幸	116		ひきしゝめ			898・11
行幸	117	いにしへはけに	いにしへにけに			898・12
行幸	118		たい十しき			898・13
行幸	119		そのつゝてに			899・4
行幸	120		おとゝ			899・4
行幸	121		なにの			899・6
行幸	122		すこし人かすにも			899・7
行幸	123		かたくなし			899・8
行幸	124		姫君の御事を			900・2
行幸	125		有しにまさる			900・2
行幸	126		しほ十十			900・3
行幸	127		中将の			900・4
行幸	128		一ふし			900・5
行幸	129		かのおとゝ			900・6
行幸	130		こよひも御ともに			900・7
行幸	131		きこえし日			900・10
行幸	132		又いかなる			900・12
行幸	133		さためて心きよう			901・1
行幸	134		やんことなきかた十十			901・2
行幸	135		かの御あたり			901・4
行幸	136		十六日			901・8
行幸	137		かうがへ			901・9
行幸	138		むへなりけり			901・13
行幸	139		かのつれなき			901・14
行幸	140		なをもあらず			901・14
行幸	141		しれ十しき			902・1
行幸	142		ねちけたる			902・2
行幸	143		かくてその日			902・3
行幸	144		御くしのはこ			902・4
行幸	145		きこえんも			902・4
行幸	146	いま十しき	いま十しき			902・5
行幸	147		なかきためし			902・6
行幸	148		御けしきにしたかひて			902・7
行幸	149		二かたに哥			902・9
行幸	150		いたしや			902・11
行幸	151		よくも玉くしけ			902・13
行幸	152		みくしあけ			903・1
行幸	153	かのたき物	からのたき物			903・2
行幸	154		ひんかしの院			903・5
行幸	155		あをにひのほそなか			903・9
行幸	156		おちくりとかや			903・10
行幸	157		あはせのはかま			903・11
行幸	158		紫のしらきり			903・11
行幸	159		しらせ給へき			903・13
行幸	160	おいらかなり	おいらか			903・14
行幸	161		おなしすちの哥			904・5
行幸	162		わか身こそ哥			904・7
行幸	163		ゑりふかう			904・8
行幸	164	しゝかみ	<ナシ>(△1字下ゲ)			904・8
行幸	165		まして今は			904・9
行幸	166		から衣又から衣哥			904・13
行幸	167		君いと匂ひやかに			904・14
行幸	168		ろうしたる			905・1
行幸	169	ようなしこと	よなしこと			905・2
行幸	170		さしも			905・2
行幸	171	きしきいとあへい	きしきなとあへい			905・4
行幸	172		けにわさと			905・4
行幸	173		やうかはりて			905・6
行幸	174		いれ奉り給ふ			905・6
行幸	175		うちのおまし			905・7
行幸	176		御とのあふら			905・8
行幸	177		いとゆくりか			905・10
行幸	178		引むすひ給ふ程			905・10
行幸	179		えしのひ			905・10

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
行幸	180		いにしへさまの			905・10
行幸	181		人めをかさりて			905・12
行幸	182		けにさらに			905・12
行幸	183		うらめしや哥			906・2
行幸	184		ひめ君は			906・3
行幸	185		よるへなみ哥			906・5
行幸	186		人しれず思ひし			906・10
行幸	187		おとゝの御このみともなめり			906・11
行幸	188		中宮の			906・11
行幸	189		世にそしりなき			906・13
行幸	190		さま十十の人			907・1
行幸	191		たゝみもてなしに			907・3
行幸	192		かへさいそうし			907・8
行幸	193		かの御夢も			907・12
行幸	194		女御はかりには			907・13
行幸	195		しねん			908・1
行幸	196		二かたにもてなさるらん			908・3
行幸	197		あふなけに			908・4
行幸	198		あなかま			908・7
行幸	199		宮つかへにと			908・8
行幸	200		おまへの			908・10
行幸	201		なにかしこそ			908・10
行幸	202		さかしらに			908・13
行幸	203		しりへざまにしぞきて			908・14
行幸	204	少将はかゝる方にても	少将はかゝる方にても…			909・3
行幸	205		かたきいはほをも			909・4
行幸	206		あまの岩戸			909・6
行幸	207		たゝおまへ			909・7
行幸	208		いそしく			909・8
行幸	209		おといとけさやかに			909・14
行幸	210		いとつかへ			909・14
行幸	211		ふくれて			910・4
行幸	212		夢にとみしたる			910・4
行幸	213		むねにてを			910・5
行幸	214		舌ぶり		注釈ナシ。	910・6
行幸	215		いとあやしく			910・6
行幸	216	申文とて	申文			910・9
行幸	217		びゞしく			910・9
行幸	218		うへは			910・10
行幸	219		つまごゑのやう			910・13
行幸	220	世人ははちかてら	世人ははちかてらに			911・3
藤袴	1		内侍のかみ			917・1
藤袴	2		たれも十十			917・1
藤袴	3		いかならん			917・1
藤袴	4		おやと			917・1
藤袴	5	ましていまは	まして			917・2
藤袴	6	我身はかくはかなき	わか身はかく			917・4
藤袴	7		おもひとゝめられ			917・4
藤袴	8		うけい			917・6
藤袴	9		物なけかし			917・8
藤袴	10	さりとてかゝる有さまもあし	さりとてかゝるあしき	さりとてかゝるし		917・8
藤袴	11		人のをしはかり			917・10
藤袴	12		かけ十十			917・12
藤袴	13		ごとに			917・13
藤袴	14		女おや			918・1
藤袴	15		いつかたも十十			918・2
藤袴	16		にひ色の			918・5
藤袴	17		宰相中将			918・7
藤袴	18		いますこし			918・7
藤袴	19		いまあらさり			918・10
藤袴	20		内よりおほせ事			918・12
藤袴	21		うたてある			919・1
藤袴	22		きゝあきらめて			919・1
藤袴	23		おほしはなたし			919・2
藤袴	24		さはかり見所ある			919・2
藤袴	25		人にきかず			919・5
藤袴	26		空せうそこ			919・7
藤袴	27		たゝならぬすち			919・7
藤袴	28		猶えしのふましく			919・9
藤袴	29	御ふくも此月に	御ふくも此月には			919・9
藤袴	30		十三日には			919・11
藤袴	31		人にあまねく			919・14
藤袴	32		もらさしと			919・14
藤袴	33		かたみ			920・2
藤袴	34		あやしうもてはなれぬ			920・2
藤袴	35		あらはしころも			920・3
藤袴	36		何事も			920・4
藤袴	37		らに			920・7

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
藤袴	38		これも御らんすへき			920・7
藤袴	39		うつたへに			920・9
藤袴	40		おなしのゝ哥			920・10
藤袴	41		みちのはてなるとかや			920・10
藤袴	42		たつめるに哥			920・13
藤袴	43		かやうにて			920・13
藤袴	44		あさきもふかきも			920・14
藤袴	45		まめやかには			921・1
藤袴	46		今はた			921・3
藤袴	47		頭中將			921・3
藤袴	48		かゝぬなり			921・8
藤袴	49		かんの君			921・8
藤袴	50		いますこし身に			921・12
藤袴	51		おまへに			921・14
藤袴	52		いて給ひける			921・14
藤袴	53	この宮つかへをしふ++	この宮つかへを			922・1
藤袴	54		宮などのれんじ			922・1
藤袴	55		さても			922・6
藤袴	56		わさとさるすちの			922・9
藤袴	57		かたしや			922・10
藤袴	58		かの母きみ			922・13
藤袴	59		山さとに			922・14
藤袴	60		かのおとゝはた			922・14
藤袴	61		つき++しう			923・2
藤袴	62		宮の御人にて			923・3
藤袴	63		いとなまめきたる			923・3
藤袴	64	の給ふ	のたまふ句			923・7
藤袴	65		年比から			923・7
藤袴	66		大將			923・9
藤袴	67		かた++いと			923・9
藤袴	68		女は三に			923・11
藤袴	69		ついてをたかへて			923・12
藤袴	70		うち++にも			923・12
藤袴	71		ろうせんと			923・14
藤袴	72		かとある事なりとよろこひ			924・1
藤袴	73		けにさは			924・3
藤袴	74		まか++しき			924・3
藤袴	75		いつかたに			924・5
藤袴	76		おもひくまなしや			924・5
藤袴	77		猶うたかひは			924・6
藤袴	78		おとゝもさりや			924・6
藤袴	79		あんにおつる			924・6
藤袴	80	宮つかへ	宮つかへの			924・8
藤袴	81		月たゝは			924・10
藤袴	82		きこえ給ふ人++			924・11
藤袴	83		よしのゝ滝を			924・12
藤袴	84		中將も			924・14
藤袴	85	宮つかへのほどの	宮つかへのほどの			925・4
藤袴	86		うちつけなる			925・5
藤袴	87		桂のかけ			925・7
藤袴	88		みきゝいるへく			925・7
藤袴	89		宰相の君して			925・9
藤袴	90	たえぬたとひ	たえぬたとひ一			925・12
藤袴	91		ごだい			925・12
藤袴	92		物しと			925・13
藤袴	93		かくまてとかめ			926・1
藤袴	94		まいり給はん程の			926・5
藤袴	95		中++			926・6
藤袴	96		いてやおこかまし			926・7
藤袴	97		いつかたにつけても			926・8
藤袴	98	北おもてまつめしいれて	北おもてだつめしいれて			926・9
藤袴	99		かくなんときこゆ			926・12
藤袴	100		けに人きゝを			926・13
藤袴	101		いと中++			926・14
藤袴	102		妹せ山哥			927・2
藤袴	103		人やりならず			927・2
藤袴	104		まとひける哥			927・4
藤袴	105		いつかたの故と			927・4
藤袴	106		何事もわりなき			927・5
藤袴	107		をのつから			927・6
藤袴	108		よしなかる			927・7
藤袴	109		やう++らう			927・7
藤袴	110		かくごん			927・7
藤袴	111		御なからひ			927・11
藤袴	112		大將はこの中將			927・12
藤袴	113		御うしろみと			927・13
藤袴	114		さるやう			928・1
藤袴	115		春宮の女御			928・2

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
藤袴	116		おほい君			928・5
藤袴	117		おほなとつけて			928・6
藤袴	118		そのすちに			928・7
藤袴	119		かのおとゝ			928・9
藤袴	120		御おもむけの			928・11
藤袴	121		弁のおもと			928・12
藤袴	122		かすならば哥			929・3
藤袴	123		いふかひなき			929・4
藤袴	124		朝日さす哥			929・6
藤袴	125		下おれ			929・7
藤袴	126	打あひたるや	打あひたりや			929・7
藤袴	127		わすれなんと哥			929・12
藤袴	128		おほしたえぬ			929・13
藤袴	129		こゝろもて哥			930・2
藤袴	130		みつからは			930・3
藤袴	131	女の御心はへ	女の御心はへ……			930・5
真木柱	1		内にきこしめさん			935・1
真木柱	2		しはし人には			935・1
真木柱	3		さしもえつゝみ			935・1
真木柱	4		程ふれと			935・2
真木柱	5		いみしう			935・3
真木柱	6		よその物に			935・5
真木柱	7		いし山のほとけ			935・5
真木柱	8		こもりゐにけり			935・7
真木柱	9		心あさき			935・8
真木柱	10		おとゝも			935・8
真木柱	11		たれも十+			935・10
真木柱	12		きしきいとになく			935・11
真木柱	13		かしこに待とり			935・13
真木柱	14		いつかたにも人の			935・14
真木柱	15		中十+めやすかめり			936・2
真木柱	16		心さしはありながら			936・4
真木柱	17		いかゝもて			936・4
真木柱	18		けにみかとゝ			936・5
真木柱	19		みかの夜の			936・7
真木柱	20		ありかたき世かたり			936・10
真木柱	21		くちおしく			936・11
真木柱	22		かけ十+しく			936・11
真木柱	23		しも月に			936・13
真木柱	24		内侍所にも			936・13
真木柱	25		兵衛のかみ			937・2
真木柱	26		女はわらゝかに			937・7
真木柱	27		心もて			937・8
真木柱	28		おとゝの			937・9
真木柱	29		宮の御心さま			937・9
真木柱	30		殿も			937・11
真木柱	31		今さらに人の心			937・13
真木柱	32		物のくるしう			937・14
真木柱	33		すくよか			938・2
真木柱	34		けけしきさま			938・4
真木柱	35		すくよかなる世のつね			938・5
真木柱	36		おもひの外なる			938・6
真木柱	37		やう十+			938・6
真木柱	38		らうたい			938・8
真木柱	39		おりたちて哥			938・11
真木柱	40		おもひの外			938・11
真木柱	41		みつせ川の哥			938・14
真木柱	42		心おきなの			938・14
真木柱	43		よきみち			939・1
真木柱	44		御てのさきはかり			939・1
真木柱	45		おほしる事も			939・2
真木柱	46		しれ十+しさ			939・3
真木柱	47		又うしろやすさも			939・3
真木柱	48		きゝくるしと			939・4
真木柱	49		内への給はする	内々の給はする		939・5
真木柱	50		をのか物と			939・5
真木柱	51		思ひそめ			939・7
真木柱	52		二条のおとゝ			939・7
真木柱	53		おほすさまにも			939・9
真木柱	54		かしこに			939・10
真木柱	54+	〈欠〉	ゆるしきこえ給ふ			939・11
真木柱	55		女君人に			940・5
真木柱	56		なのめにたに			940・11
真木柱	57		かのうたかひし			940・11
真木柱	58		人きゝやさし			940・14
真木柱	59		をのかあらん			941・1
真木柱	60		今はかきりの身			941・4
真木柱	61		すまゐなど			941・7

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
真木柱	62		玉をみかける			941・8
真木柱	63		昨日けふの			941・9
真木柱	64		さしもありはつましき			941・13
真木柱	65		おほしうとむな			941・14
真木柱	66		ひとわたり見はて給はぬ			942・2
真木柱	67		まことにおほしをきつる			942・4
真木柱	68		しはしかうじ			942・5
真木柱	69		御めしうと			942・6
真木柱	70		もくの君			942・6
真木柱	71		うつし心			942・8
真木柱	72		ほけたり			942・9
真木柱	73		みみなれ			942・11
真木柱	74		こまかににほへる			943・1
真木柱	75		宮の御ことを			943・3
真木柱	76		おほきおとゝの			943・6
真木柱	77		人のつらさは			943・12
真木柱	78		いかてかみえ奉らん			944・1
真木柱	79		こと人にやは			944・1
真木柱	80		かれはしらぬさまにて			944・1
真木柱	80+	<欠>	人のおや達とは			944・2
真木柱	81		こゝにはともかくも			944・3
真木柱	82		れいの御心たかひ			944・4
真木柱	83		いつきむすめのやう			944・5
真木柱	84		おもひおとされたる			944・5
真木柱	85		人のおやけなくこそ			944・6
真木柱	86		むかへ火作て			944・11
真木柱	87		かうしなどもさなから			944・12
真木柱	88	とゝむとも	とゝむとて			944・14
真木柱	89		かゝるにはいかてかと			945・1
真木柱	90		人のいひなし			945・2
真木柱	91		立とまり給ても			945・5
真木柱	92		袖のこほりも			945・7
真木柱	93		みつからは			945・8
真木柱	94		空なけきを			945・12
真木柱	95		かのならひなき			945・14
真木柱	96		おおしき			946・1
真木柱	97		中将もくなどあはれの世や			946・3
真木柱	98		おほきなるこの下			946・5
真木柱	99		いかけ			946・6
真木柱	100		みあふる程もなく			946・6
真木柱	101		心たかひとは			946・13
真木柱	102		よばひ			947・2
真木柱	103		うたれひかれ			947・3
真木柱	104		身さへひえて			947・5
真木柱	105		きすくに			947・6
真木柱	106		心さへ哥			947・8
真木柱	107		づしやかに			947・9
真木柱	108		この比はかりたに			947・13
真木柱	109	けうときかな	けうときかな			947・14
真木柱	110		めやすくしなし給はず			948・1
真木柱	111		人もうし			948・5
真木柱	112		御ゆとの			948・5
真木柱	113		ひとりゐて哥			948・7
真木柱	114		くちおほひて			948・8
真木柱	115		なさけなき事よ			948・9
真木柱	116		うき事を哥			948・11
真木柱	117		ことの外なる			948・11
真木柱	118	いとゝ心をわく	いとゝ心もわく			948・14
真木柱	119		こもりぬ			948・14
真木柱	120		ごちたく			949・1
真木柱	121		女ひと所			949・4
真木柱	122		立ならふかたなく			949・5
真木柱	123		今はかきり			949・6
真木柱	124		心つよう			949・8
真木柱	125		くつおれ			949・9
真木柱	126	中将侍従民部大輔	中将侍従民部太輔			949・13
真木柱	127		旅住に			950・2
真木柱	128		しつませ			950・3
真木柱	129	此世に跡とゝむへく	此世に跡とゝむへくも			950・7
真木柱	130		男君たちは			950・9
真木柱	131		宮のおはせんほと			950・11
真木柱	132		かのおとゝたち			950・12
真木柱	133		さすかにしられて			950・12
真木柱	134	さりとも	さりとて			950・13
真木柱	135		みなふかき心は			950・14
真木柱	136		むかし物語			951・1
真木柱	137		ましてかたのやう			951・2
真木柱	138		名残なき			951・3

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
真木柱	139		いまなともきこえで			951・7
真木柱	140		たゝいまもわたり			951・9
真木柱	141		ひわた色			951・12
真木柱	142		今はとて哥			951・14
真木柱	143		いてやとて			952・1
真木柱	144		なれきとは哥			952・2
真木柱	145		あさけれと哥			952・5
真木柱	146	ともかくも	ともかくも哥			952・7
真木柱	147		かくるゝまでそ			952・8
真木柱	148		君かすむ			952・9
真木柱	149		はゝ北方			952・11
真木柱	150		女御をも			952・12
真木柱	151		御中のうらみ			952・14
真木柱	152		人ひとりを			953・1
真木柱	153	ほとりまでも匂ふ	ほとりまでも			953・1
真木柱	154		心えさりし			953・2
真木柱	155		をのれふるす			953・2
真木柱	156		ふかう			953・7
真木柱	157		うかへしつめ			953・8
真木柱	158		家よりあまる			953・9
真木柱	159		このしやう			953・12
真木柱	160		かくわたり給にけるを			953・14
真木柱	161		しかひきり			954・1
真木柱	162	中++心やすく	中++心やすくは			954・2
真木柱	163		さてかたすみ			954・4
真木柱	164		打ほのめきて			954・4
真木柱	165		柳の下かさね			954・5
真木柱	166		きのさしぬき			954・6
真木柱	167		なとかにけなからん			954・7
真木柱	168		身の心つきなう			954・11
真木柱	169		あやしき事とも			954・12
真木柱	170		今までも			955・1
真木柱	171		たいめんし給ふへくも			955・2
真木柱	172	なにかたゝ時にうつ	なにかたゝ時にうつる			955・3
真木柱	173		年比おもひうかれ			955・4
真木柱	174		いとゝひか++しき			955・4
真木柱	175		いさめ			955・5
真木柱	176		いとわか++しき			955・6
真木柱	177		人++も侍れは			955・8
真木柱	178		つみさり所			955・10
真木柱	179		十なるは			955・12
真木柱	180		姫君におほえたれは			955・13
真木柱	181		あこをこそ恋しき			955・13
真木柱	182		宮にも			956・4
真木柱	183		ひか++しき			956・5
真木柱	184		よろつに			956・5
真木柱	185		はしたなかりし			956・8
真木柱	186		かたきことなり			956・8
真木柱	187		内にも			956・9
真木柱	188		さいへと			956・13
真木柱	189		此まいり			956・14
真木柱	190		内にもなめく			957・2
真木柱	191		年かへりて			957・2
真木柱	192		おとこたうか			957・6
真木柱	193		西に宮の女御			957・6
真木柱	194		めだう			957・8
真木柱	195		みたりかはしき			957・9
真木柱	196		中宮	中宮秋好中宮		957・10
真木柱	197		中納言宰相			957・12
真木柱	198		春宮の女御			958・1
真木柱	199		はふき給			958・3
真木柱	200		四五人はかり			958・5
真木柱	201		八郎君はむかひ腹			958・5
真木柱	202	大将殿の大郎君	大将とのゝ太郎君			958・8
真木柱	203		おなしものゝ色あひ			958・9
真木柱	204		さうしみも女房			958・12
真木柱	205		かきりあるみあるし			959・2
真木柱	206		さふらふ人++そ			959・2
真木柱	207		おとゝの心			959・4
真木柱	208		いとつらしと			959・5
真木柱	209		心にかなはぬ			959・7
真木柱	210		大将はつかさのさうし			959・9
真木柱	211		太山木に哥			959・9
真木柱	212		さへつる			959・12
真木柱	213		又もおはし			959・13
真木柱	214		かの御心はへは			959・14
真木柱	215		これはなとか			960・1
真木柱	216	おもてをかん	おもてをかむ...			960・2

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
真木柱	217		あやしう			960・2
真木柱	218		よろこひなども			960・3
真木柱	219	御くせ	御くせ一本すくせ			960・5
真木柱	220		なとてかく哥			960・5
真木柱	x 220+	<ナシ>(220注ノ一部)	はひあひかたきは…			960・5
真木柱	221		こくなり			960・6
真木柱	222		たかひ給へる			960・6
真木柱	223	宮つかへの労もなくて	宮つかへのらうもなくてと			960・9
真木柱	224		いかならん哥			960・9
真木柱	225		今より			960・10
真木柱	226		うれふへき人あらは			960・13
真木柱	227		むつかしき世の			961・1
真木柱	228		大将はかく			961・1
真木柱	229		まとはし給ふは			961・2
真木柱	230		みつからも			961・5
真木柱	231		又いたしたてぬ			961・6
真木柱	232		昔のなにかし			961・8
真木柱	233		ちかまさりを			961・11
真木柱	234		御てくるまよせて			961・12
真木柱	235		えおはし			961・13
真木柱	236		ちかきまもり			962・1
真木柱	237		九重に哥			962・1
真木柱	238		ことなる事なき			962・2
真木柱	239		野をなつかしみ			962・3
真木柱	240		なん			962・5
真木柱	241	かはかりは歌	かはかりは			962・6
真木柱	242		かへりみかちにて			962・6
真木柱	243		かねてはゆるされ			962・8
真木柱	244		みたり風			962・9
真木柱	245		おひらかに			962・10
真木柱	246		ちゝおとゝ			962・11
真木柱	247		しだい			962・12
真木柱	248		六条殿			962・13
真木柱	249		しほやくけふり			962・14
真木柱	250		ぬすみもていき			963・1
真木柱	251		かの入あさせ			963・1
真木柱	252		心つきなし			963・2
真木柱	253	なを++しき心ちして	なを++しき心ちして句	なを++しき		963・2
真木柱	254		よには			963・2
真木柱	255		いよ++しきあし			963・2
真木柱	256		かの宮にも			963・4
真木柱	257		大殿はさても			963・8
真木柱	258		おかしやかにわらゝかなる			963・10
真木柱	259		ねんし給を			963・12
真木柱	260		かつはおもはん			964・1
真木柱	261		かきたれて哥			964・4
真木柱	262		えの給はぬおやにて			964・6
真木柱	263		この人にも			964・7
真木柱	264		ほのけしき見けり			964・8
真木柱	265		おほつかなくやはとては			964・10
真木柱	266		なかめする哥			964・10
真木柱	267		程ふる比は			964・11
真木柱	268		いや++しく			964・11
真木柱	269		玉水の			964・14
真木柱	270	さしあたりたる	さしあたりて			965・1
真木柱	271	よつかすそ哀	よつかす哀			965・2
真木柱	272	にけなき心のつま	にけなき志のつま			965・4
真木柱	273	あつまのしらへ	あつましらへ			965・4
真木柱	274		玉もはなかりそ			965・5
真木柱	275		御さまなり			965・6
真木柱	276		あかもたれひき			965・8
真木柱	277		かやうのすさひ事			965・9
真木柱	278		ありがたかりし			965・9
真木柱	279		おもひしみ給へる			965・13
真木柱	280		色に衣を			966・1
真木柱	281		おもはずに哥			966・1
真木柱	282		かほにみえつゝ			966・2
真木柱	283		もてはなれたる			966・3
真木柱	284		かりの子の			966・3
真木柱	285		かんじ			966・6
真木柱	286		御心ひとつにのみは			966・9
真木柱	287		おなすに哥			966・9
真木柱	288		なとかさしも			966・10
真木柱	289		女はまことの			966・13
真木柱	290		えきこえしと			967・1
真木柱	291		すかくれて哥			967・1
真木柱	292		よろしからぬ御けしきに			967・3
真木柱	293		わらひ給ふ			967・5

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
真木柱	294		ほけしれて			967・5
真木柱	295		大かたのとふらひ			967・8
真木柱	296		姫君をそ			967・8
真木柱	297		わかき御心			967・10
真木柱	298		つねにまいり			967・13
真木柱	299		うらやましう			968・1
真木柱	300		おはしける			968・1
真木柱	301		其年の十一月			968・2
真木柱	302		おもひやりつへき			968・3
真木柱	303		ちゝおとゝも			968・4
真木柱	304		わさとかしつき給			968・6
真木柱	305		さすかなる			968・6
真木柱	306		このわか君の			968・8
真木柱	307		大やけことは			968・9
真木柱	308		ありぬへきこと			968・13
真木柱	309	色めかしう	〈ナシ〉(308注ノ一部)	色めかしう		969・2
真木柱	310		なましらひそと			969・4
真木柱	311		宰相中将			969・5
真木柱	312		もとめつる			969・5
真木柱	313		はりぬ			969・6
真木柱	314		あふなきことや			969・9
真木柱	315		この世にめなれぬ			969・9
真木柱	316		おきつ舟哥			969・10
真木柱	317		たなゝしを舟			969・10
真木柱	318	あなわるや	あなわかや			969・11
真木柱	319		この御かたには			969・13
真木柱	320		このきく人なりと			969・11
真木柱	321		よるへなみ			969・13
梅枝	1		御もきの事			975・1
梅枝	2		春宮も			975・1
梅枝	3		御まいり			975・2
梅枝	4		正月			975・2
梅枝	5		大貳のたてまつれる			975・3
梅枝	6		おほひ			975・7
梅枝	7		はしとも			975・7
梅枝	8		こまうと			975・7
梅枝	9		ひこんき			975・8
梅枝	10		このたひのあやうすもの			975・9
梅枝	11		かうとも			975・9
梅枝	12		うちにもとにも			975・11
梅枝	13		かなうす			975・13
梅枝	14		そんわう			975・14
梅枝	15		御いましめ			975・14
梅枝	16		うへはひんかしの中のはなちいて			976・1
梅枝	17		八條の式部卿			976・2
梅枝	18		かうこのはこ			976・6
梅枝	19		兵部卿			976・9
梅枝	20		前齋院			976・12
梅枝	21		ちりすきたる			976・12
梅枝	22		宮きこしめす			976・13
梅枝	23	すゝみまいれる	すゝみまいれり			976・14
梅枝	24		いとなれ++しき			976・14
梅枝	25		ちんのはこに			977・2
梅枝	25+	〈ナシ〉(25注ノ一部)	るりのつき			977・2
梅枝	26		心は			977・2
梅枝	27		こんるりには			977・2
梅枝	28		花の香は哥			977・6
梅枝	29		宰相の中將			977・7
梅枝	30		こうはいかさね			977・7
梅枝	31		その色のかみ			977・9
梅枝	32		くま++しく			977・11
梅枝	33		御視のついでに			977・12
梅枝	34		花のえに哥			977・13
梅枝	35		とや有つらん			977・13
梅枝	36		まめやかには			977・14
梅枝	37	いと見にくき	いと見にく			978・1
梅枝	38		うとき人			978・1
梅枝	39		ふかうおはする宮			978・3
梅枝	40		あえ物も			978・4
梅枝	41		此夕暮の			978・6
梅枝	42		たれにかみせん			978・7
梅枝	43	すゝみをくれたるかーくさ なとか句	すゝみをくれたるかーくさなとか 句...			978・8
梅枝	44		いさゝかのとかをわき給ふて句			978・9
梅枝	45		右近の陣のみかは水			978・10
梅枝	46		惟光宰相			978・12
梅枝	47		いとけふたしや			978・14
梅枝	48		おなしう			978・14

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
梅枝	49	かきあはせ也	かきあはせ			979・1
梅枝	50		さいへど			979・3
梅枝	51		侍従はおとゝの御は			979・3
梅枝	52		梅花			979・5
梅枝	53		はやき心			979・5
梅枝	54		此比の風			979・6
梅枝	55		かす十にも			979・8
梅枝	56		冬の御かた			979・10
梅枝	57		さきのしゆしやくみん			979・11
梅枝	58		きんたゝの朝臣			979・12
梅枝	59		おとゝのあたり	(ナシ)(△1字下ゲ)		980・2
梅枝	60		蔵人所			980・3
梅枝	61		あすのみあそひ			980・3
梅枝	62		御ことども			980・3
梅枝	63		げんざんばかり			980・5
梅枝	64		梅か枝			980・9
梅枝	65	高砂うたひし	高砂うたひし…	高砂うたひし		980・9
梅枝	66		鶯の哥			980・13
梅枝	67		色もかも哥			981・1
梅枝	68		うくひすの哥			981・3
梅枝	69		心ありて哥			981・4
梅枝	70		なさけなく			981・4
梅枝	71		霞たに哥			981・6
梅枝	72		まことに			981・6
梅枝	73		御れう			981・7
梅枝	74		手ふれ給はぬ			981・7
梅枝	75		花の香を哥			981・9
梅枝	76	くんしたるや	くつしたるや			981・9
梅枝	77		御車かくるほど			981・10
梅枝	78		めつらしと哥			981・11
梅枝	79	又なきと	又なきこと			981・11
梅枝	80		からかり給			981・12
梅枝	81		かくてにしのおとゝ			981・13
梅枝	82		宮のおはします			981・14
梅枝	83		御くしあげ			981・14
梅枝	84		うへも			982・1
梅枝	85		おほしすつましき			982・3
梅枝	86		なめけなる			982・4
梅枝	87		すゝみ			982・4
梅枝	88		後の世のためし			982・4
梅枝	89	しのひとはとは	心せはくしのひとは			982・5
梅枝	90		いかなる事とも			982・5
梅枝	91		はゝ君			982・9
梅枝	92		かゝる所			982・11
梅枝	93		きさす			982・14
梅枝	94		ひたりのおとゝ左大将			983・1
梅枝	95		たい十しき			983・2
梅枝	96		きやうざく			983・3
梅枝	97		のひぬ			983・4
梅枝	98		左大臣の三の君			983・5
梅枝	99		この御かた			983・6
梅枝	100		しけいさ			983・6
梅枝	101		宮にも			983・7
梅枝	102		物の下かた			983・8
梅枝	103		やかてほん			983・10
梅枝	104		よろつのこと			983・12
梅枝	105		かんなのみなん			983・13
梅枝	106		ゆたかならず			983・14
梅枝	107		たへに			983・14
梅枝	108		とより			984・1
梅枝	109		女てを			984・2
梅枝	110		きはことにおほえしはや			984・3
梅枝	111		さしもあらさりけり			984・5
梅枝	112		宮の御て			984・6
梅枝	113		よはき所			984・8
梅枝	114		そをれ			984・10
梅枝	115		さいへと			984・10
梅枝	116		すくし給そ			984・12
梅枝	117		まんなのすゝみ			984・13
梅枝	118	またかゝぬへうしひもと	またかゝぬ	またからぬ		984・13
梅枝	119		兵部卿			984・14
梅枝	120		ひとよろひ			985・1
梅枝	121		けしきはみいますかり			985・1
梅枝	122		まめやかに			985・4
梅枝	123		うすやうたちたるか			985・4
梅枝	124		式部卿宮の兵衛督			985・5
梅枝	125		あしてうた			985・6
梅枝	126		れいの			985・7

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
梅枝	127		淺みとりなる			985・8
梅枝	128		いかにそや			985・11
梅枝	129		しろきあかき		古活字本ハ129注2行目ヨリ140注3行目マデ欠。	985・13
梅枝	130		そはみたる	<欠>		986・8
梅枝	131		三くたりはかり	<欠>		986・9
梅枝	132		筆なけすてつへし	<欠>		986・11
梅枝	133		かゝる御中におもなくたす	<欠>		986・11
梅枝	134		かき給へる	<欠>		986・12
梅枝	135		唐のかみ	<欠>		986・13
梅枝	136		はたごまかに	<欠>		986・14
梅枝	137		なこう	<欠>		987・1
梅枝	138	さうかき	さうにかき	<欠>		986・14
梅枝	139		女て	<欠>		987・1
梅枝	140		見給ふ人の涙さへ	<欠>		987・2
梅枝	141		このかんやの			987・3
梅枝	142		のこりとともに			987・5
梅枝	143		すまぬ			987・7
梅枝	144		いたはりくはへ			987・7
梅枝	145		哥なども			987・8
梅枝	146		水のいきほひ			987・10
梅枝	147		もしやう			987・12
梅枝	148		いとま入ぬへき			987・13
梅枝	149	物このみしゑんかり	物このみしゑじがり			987・13
梅枝	150		つきかみ			988・1
梅枝	151	御子の一	御子の			988・2
梅枝	152	さかのみかとの古万葉集	さかのみかとの			988・3
梅枝	153		延喜のみかと			988・3
梅枝	154		こきもん			988・4
梅枝	155		おなしき玉のちく			988・4
梅枝	156		たんのからくみ			988・5
梅枝	157		御てのすちを			988・6
梅枝	158		おほとのおふら			988・6
梅枝	159		女子など			988・8
梅枝	×159+	<ナシ>(159注ノ一部)	無器用にては・・・	<ナシ>(159注ノ一部)		
梅枝	160		侍従に			988・10
梅枝	161	上中下	<ナシ>(△1字下ゲ)	上中下(丁境)		988・12
梅枝	162	此御はこ	<ナシ>(△1字下ゲ)	此御はこ(丁境)		988・13
梅枝	163		こゝろうこき			989・2
梅枝	164		かのすまの			989・3
梅枝	165		うちのおとゝ			989・4
梅枝	166		かの人			989・7
梅枝	167		一かたに			989・9
梅枝	168		たはふれ			989・12
梅枝	169		おとゝあやしく			989・13
梅枝	170		右のおとゝ中務			989・14
梅枝	171		かやうの事は			990・2
梅枝	172		つれ十と			990・4
梅枝	173		しりひに			990・6
梅枝	174		いはけなくより			990・7
梅枝	175		世にはしたなめられ			990・10
梅枝	176		位のあさく			990・10
梅枝	177		とりあやまりつゝ			990・14
梅枝	177+	<ナシ>(177注ノ一部)	ならひて			991・1
梅枝	178		もしはおやの心			991・1
梅枝	179		ほかさまの			991・5
梅枝	180		女も			991・6
梅枝	181		うへはつれなく			991・7
梅枝	182		御文は			991・8
梅枝	183		たかまことをか			991・9
梅枝	184		世なれたる			991・9
梅枝	185		大殿にも			991・11
梅枝	186		御むねふたかるへし			991・12
梅枝	187		しのひて			991・12
梅枝	188		おとゝの			991・13
梅枝	189		猶やすゝみ			992・3
梅枝	190		立給ぬる名残も			992・3
梅枝	191		心をくれて			992・4
梅枝	192		つれなさは哥			992・7
梅枝	193		けしきはかりも			992・7
梅枝	194	恨とて忘かたき歌	かきりとて忘かたき哥			992・9
梅枝	195		あやしと			992・9
梅枝	196		見給へりとそ			992・10
梅枝	(197)	御蒙奉ルおほとなふらほのかなれと御けはひいとめてたしと宮は奉り給	<欠>			982・2

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
梅枝	(198)	さてあるましき御名をもたて聞えしそかしくやしきことにおもひしつみ給へりしかと・さしもあらさりけり	<欠>			984・4
梅枝	(199)	からのかみのいとすくみたる	<欠>			986・13
梅枝	(200)	見給人の涙さへ水くきになかれそふ	<欠>			987・2
藤裏葉	1		御いそきの程にも			3藤のうら葉<△十九△詞を名とせり>
藤裏葉	2		ほれ++しき			997・1
藤裏葉	3		関守の			997・1
藤裏葉	4		人わろからぬ			997・2
藤裏葉	5		おとゝの			997・3
藤裏葉	6		そむき++			997・4
藤裏葉	7		御もろこひ			997・5
藤裏葉	8		たけからぬに			997・6
藤裏葉	9		かの宮にも			997・7
藤裏葉	10		あやまりも			997・7
藤裏葉	11		うへはつれなくて			997・10
藤裏葉	12		三月廿日			997・11
藤裏葉	13		こくらくし			997・14
藤裏葉	14		このおとゝを			997・14
藤裏葉	15		つねよりは			998・3
藤裏葉	16		みずきやう			998・5
藤裏葉	17		むかしおほし			998・5
藤裏葉	18		あまげ			998・8
藤裏葉	19		心ときめきに			998・9
藤裏葉	20		かうし			998・10
藤裏葉	21		過にし御おもむけ			998・11
藤裏葉	22		ゆるしなき			998・13
藤裏葉	23		心あはたゝしき			998・14
藤裏葉	24		君いかに			999・1
藤裏葉	25		よとゝもに			999・1
藤裏葉	26		つき++しからん			999・2
藤裏葉	27		ついたち比			999・5
藤裏葉	28	ひとひの花のかけ	ひとひの花のかけ			999・6
藤裏葉	29		わか宿の哥			999・8
藤裏葉	30		けにいと面白き			999・11
藤裏葉	31		まちつけ給へるも			999・11
藤裏葉	32		中++に哥			999・12
藤裏葉	33		おくしに	おくしに...		999・14
藤裏葉	34		わつらはしき			1000・1
藤裏葉	35		けうなかりし			1000・1
藤裏葉	36		ねたけなり			1000・4
藤裏葉	37		さしも侍らし			1000・4
藤裏葉	38		わさとつかひさゝれ			1000・4
藤裏葉	39		いかならんと			1000・6
藤裏葉	40		かろひたなれ			1000・7
藤裏葉	41		非参議の程			1000・8
藤裏葉	42		ぐして			1000・8
藤裏葉	43		心やましき			1000・10
藤裏葉	44		かうさく			1000・11
藤裏葉	45		かれは			1001・2
藤裏葉	46		あされ			1001・4
藤裏葉	47		春の花			1001・5
藤裏葉	48		夏に咲かゝる			1001・8
藤裏葉	49		なつかしきゆかり			1001・10
藤裏葉	50		月さし			1001・11
藤裏葉	51		文籍にも家札			1001・12
藤裏葉	52		なにかしのをしへ			1002・3
藤裏葉	53		いかてかむかしを			1002・3
藤裏葉	54		御時よく			1002・5
藤裏葉	54+	<ナシ>	藤のうら葉		写本ハ54注内容ト54+見出シヲ欠キ、54見出シト54+注内容デ1項目トシテ成	1002・8
藤裏葉	55		紫に哥			1002・8
藤裏葉	56		けしきはかり			1002・11
藤裏葉	57		いくかへり哥			1002・12
藤裏葉	58		たをやめの哥			1002・13
藤裏葉	59		すんなかるめれと			1003・1
藤裏葉	60	松の木たかさ	松の木たかさ			1003・1
藤裏葉	61		あしかきをうたふ			1003・4
藤裏葉	62	けやけうも	けやけう			1003・6
藤裏葉	63		年へにける			1003・6
藤裏葉	64		ほと++しう			1003・6

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
藤裏葉	65		花のかけの			1003・9
藤裏葉	66		松にちきれるは			1003・12
藤裏葉	67		ゆゝしやと			1003・12
藤裏葉	68		中将は			1003・13
藤裏葉	69		いつかしくそおほえ給			1003・13
藤裏葉	70		世のためしにも			1004・2
藤裏葉	71		いたきぬし哉			1004・3
藤裏葉	72		川口のとこそ			1004・6
藤裏葉	73		あさき名を哥			1004・7
藤裏葉	74		こめきたり			1004・9
藤裏葉	75		もりにける哥			1004・10
藤裏葉	76		年月の			1004・11
藤裏葉	77		あくるもしらす			1004・11
藤裏葉	78		明しはてどそ			1004・12
藤裏葉	79		中十十けふは			1004・14
藤裏葉	80		つきせさりつる			1005・1
藤裏葉	81	又もきえぬへき	又もきえぬへきも			1005・3
藤裏葉	82	とかむなよ歌	とかむなよ			1005・3
藤裏葉	83		むかしの名残			1005・5
藤裏葉	84		御かへり			1005・6
藤裏葉	85		右近のそう			1005・6
藤裏葉	86		けさは文など			1005・10
藤裏葉	87		わか方たけう			1005・12
藤裏葉	88		さこそいらかに			1006・2
藤裏葉	89		おおしからず			1006・2
藤裏葉	90		こと打あひ			1006・3
藤裏葉	91		御こともみえず			1006・5
藤裏葉	92		ほか十十にては		注釈ナシ。	1006・5
藤裏葉	93		うすき御なをし			1006・5
藤裏葉	94		宰相とのほ			1006・7
藤裏葉	95	ちやうしそめのこかるゝ	ちやうしそめのこかるゝ・・・			1006・9
藤裏葉	96		しろきあや			1006・9
藤裏葉	97		くはんふつ			1006・10
藤裏葉	98	わらはへいたして	わらはへいたし			1006・10
藤裏葉	99		ふせなど			1006・11
藤裏葉	100		おまへのさほう			1006・11
藤裏葉	101		わさとならねと			1006・12
藤裏葉	102		水もらんやは			1006・14
藤裏葉	103	女御△こきてん也	女御こきてん			1007・2
藤裏葉	104		北方			1007・6
藤裏葉	105		あせちの北方			1007・7
藤裏葉	106		かくて六条院			1007・8
藤裏葉	107		たいのうへみあれに			1007・9
藤裏葉	108		中十十さしも			1007・10
藤裏葉	109		御さしき			1007・10
藤裏葉	110		かれはそれと			1007・14
藤裏葉	111		おもひけちたりし			1008・1
藤裏葉	112		の給ひけちて			1008・5
藤裏葉	113		なげきおふ			1008・4
藤裏葉	114		宮はならひなき			1008・5
藤裏葉	115		のこり給はん			1008・6
藤裏葉	116		そなたに			1008・8
藤裏葉	117		近衛つかさの使は			1008・10
藤裏葉	118		いてたつ所より			1008・10
藤裏葉	119		藤内侍のすけ			1008・11
藤裏葉	120		あはれをかかし			1008・11
藤裏葉	121		何とかや哥			1008・14
藤裏葉	122		おり過し給はぬ			1009・3
藤裏葉	123		かさしても哥			1009・4
藤裏葉	124	葉風也	葉風			1009・6
藤裏葉	125		給ふへき			1009・6
藤裏葉	126		北方そひ			1009・7
藤裏葉	127		かのみうしろみをや			1009・8
藤裏葉	128		この御心にも			1009・9
藤裏葉	129		かた十十心をかれ			1009・10
藤裏葉	130		見をよふ			1009・12
藤裏葉	131		あなたにも			1009・14
藤裏葉	132		その夜うへそひて			1010・2
藤裏葉	133		わかかく			1010・6
藤裏葉	134		人にゆつる			1010・8
藤裏葉	135		この事ひとつ			1010・12
藤裏葉	136		三日すくして			1010・13
藤裏葉	137		残まじう			1010・14
藤裏葉	138		物語なとし給			1011・1
藤裏葉	139		むへこそは			1011・2
藤裏葉	140		又いとけたかう			1011・3
藤裏葉	141		御てくるま			1011・3
藤裏葉	142		ひとつ物とそ			1011・7

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
藤裏葉	143		宮も			1011・10
藤裏葉	144		きすに云なし			1011・14
藤裏葉	145		うへもさるへき			1012・1
藤裏葉	146		あなつらはしかるへき			1012・5
藤裏葉	147		いまはほいも			1012・7
藤裏葉	148		たいのうへの			1012・11
藤裏葉	149	其秋太上天皇	その秋大上天皇			1012・11
藤裏葉	150		れいをあらためて			1013・3
藤裏葉	151	いんし	ゐんし			1013・4
藤裏葉	152		内大臣あかり給			1013・4
藤裏葉	153		御よろこひに	御よろこひに…		1013・8
藤裏葉	154		あるしのおと			1013・8
藤裏葉	155		浅みとり哥			1013・10
藤裏葉	× 155+		〈ナシ〉(△1字下ゲ・155注ノ一部)	紫の色こきまては…		1013・13
藤裏葉	156		二葉より哥			1014・2
藤裏葉	157	三条殿には	三條殿に			1014・4
藤裏葉	158		ちいさき木とも			1014・6
藤裏葉	159		一むらすゝきも			1014・6
藤裏葉	160		恋しき事も			1014・9
藤裏葉	161		さうしさうじ			1014・11
藤裏葉	162		なれこそは哥			1014・13
藤裏葉	163		なき人の哥			1014・14
藤裏葉	164		おはさいし			1015・2
藤裏葉	165		かほすこし			1015・4
藤裏葉	166		女は又かゝる			1015・5
藤裏葉	167		この水の心			1015・7
藤裏葉	168		そのかみの哥			1015・10
藤裏葉	169		いつれをも哥			1015・12
藤裏葉	170		神無月			1015・13
藤裏葉	171		左右			1016・4
藤裏葉	172		せしやう			1016・6
藤裏葉	173		みづし所			1016・8
藤裏葉	174		西のおまへ			1016・10
藤裏葉	175		いや++しさをつくして			1016・13
藤裏葉	176		蔵人所			1016・14
藤裏葉	177		左右の			1017・2
藤裏葉	178		おものに			1017・2
藤裏葉	179		みこたち上達部			1017・3
藤裏葉	180		大かく			1017・5
藤裏葉	181		かわうおん			1017・7
藤裏葉	182		おほきおと			1017・7
藤裏葉	183		うちのみかと			1017・8
藤裏葉	184		おほきおと			1017・8
藤裏葉	185		色まさる哥			1017・10
藤裏葉	186		おとそのおりは			1017・10
藤裏葉	187		猶このきは			1017・12
藤裏葉	188		紫の雲哥			1017・13
藤裏葉	189		時こそ			1017・13
藤裏葉	190		にしきをしきたる			1017・14
藤裏葉	191		あをきあかきしらつるはみ			1018・2
藤裏葉	192		れいのみつらにひたいはかり	れいのみつらにひたいけ		1018・3
藤裏葉	193		かく所			1018・4
藤裏葉	194		ふんのつかさ			1018・5
藤裏葉	195		うだの法師			1018・6
藤裏葉	196		秋をへて哥			1018・8
藤裏葉	197	うらめしけにて	うらめしけにそ			1018・8
藤裏葉	198	よのつねの歌	よのつねの			1018・10
藤裏葉	199		たゝひとつ			1018・11
藤裏葉	200	中納言△こと++	中納言こと++			1018・11
藤裏葉	201		笛			1018・13
藤裏葉	202		中に			1018・14
藤裏葉	203		御なからひなめり			1019・1
藤裏葉	× (204)	如△頭中詞	〈欠〉		写本ハ兼如ノ注記。	
若葉上	1		ありしみゆきのゝち			1025・1
若葉上	2		あつしく			1025・1
若葉上	3		きさいの宮			1025・2
若葉上	4		猶そのかたに			1025・3
若葉上	5		四ところ			1025・6
若葉上	6		藤つほと			1025・7
若葉上	7		帝も御心			1025・11
若葉上	8		十さう四			1025・14
若葉上	9	たれをかは	たれを			1026・1
若葉上	10		にし山なるみでら			1026・3
若葉上	11		御ぞうぶん			1026・7
若葉上	12		はゝ女御も			1026・8
若葉上	13		御うしろみ			1026・12
若葉上	14		この世に			1026・13
若葉上	15	女御にも心うつしき	女御にも心うつしき			1027・7

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜上	16		されとはゝ女御の			1027・7
若菜上	17		うしろみんとまては			1027・10
若菜上	18		まいりつかう			1028・1
若菜上	19		古院のうへ	古院のうへー		1028・4
若菜上	20		大やけど			1028・6
若菜上	21		はかなきことの			1028・7
若菜上	22		春宮などにも			1028・12
若菜上	23		この道のやみに			1028・14
若菜上	24		かたくなゝる			1029・1
若菜上	25		かく末の世			1029・2
若菜上	26		この秋の行幸			1029・4
若菜上	27		年まかりいり			1029・7
若菜上	28	大小	〈欠〉		写本、見出しノミ、注記ナシ。	1029・9
若菜上	29	古院のみゆい のことも	古院のみゆいごんのことも		写本、傍書ニ「如也」トア	1029・12
若菜上	30	身のうつはもの	身のうへはもの			1029・13
若菜上	31		廿にもわつか			1030・4
若菜上	32		年比心得ぬ			1030・7
若菜上	33		さすかにねたく			1030・8
若菜上	34		かのいんの			1031・1
若菜上	35		きこしめして			1031・3
若菜上	36		はか++しき			1031・5
若菜上	37		さきの世			1031・8
若菜上	38		廿			1031・11
若菜上	39		ひとつあまりてや			1031・11
若菜上	40		つき++の子の			1031・13
若菜上	41		あやまちてもをよすけ			1031・14
若菜上	42		内には中宮			1032・7
若菜上	43		きやうざく			1032・10
若菜上	44		中納言			1032・10
若菜上	45		御ねかひふかく			1032・14
若菜上	46		前斎院			1032・14
若菜上	47		あたけこそは			1033・1
若菜上	48		ふればいせ			1033・5
若菜上	49		われ女ならば			1033・7
若菜上	50		あさむかれん			1033・8
若菜上	51		おほし出らるへし			1033・9
若菜上	52		左中弁			1033・10
若菜上	53		ま心			1034・1
若菜上	54		わか心ひとつにしも			1034・2
若菜上	55		かしこきすち			1034・5
若菜上	56		ちりも			1034・8
若菜上	57	やんことなく	〈ナシ〉(△1字下ゲ)	やんことなく		1034・11
若菜上	58		いみしき人と			1034・13
若菜上	59		はゝからるゝ			1035・1
若菜上	60		さるはこの世の			1035・1
若菜上	61		けにをのれか			1035・4
若菜上	62		院の御ありさま			1035・6
若菜上	63		しか++なん			1035・8
若菜上	64	いかなるへきと	いかなるへきこと			1035・10
若菜上	65		ありかたき			1035・12
若菜上	66		たゝ人に			1035・12
若菜上	67		めさましき			1035・13
若菜上	68		いまの世のやうとては			1036・1
若菜上	69	ほからかは	ほからかには			1036・1
若菜上	70		御心とすくし			1036・2
若菜上	71		さふらふ人			1036・3
若菜上	72		さかき下人			1036・4
若菜上	73		御子たちの			1036・7
若菜上	73+	〈欠〉	昔は人の			1036・11
若菜上	74		かけをはつかしむる			1037・1
若菜上	75		いひもてゆけは			1037・1
若菜上	76		あしくもよくも			1037・3
若菜上	77		ありへて			1037・5
若菜上	78		心つからのしのひわさ			1037・8
若菜上	79	みつからの心よりはなれ	みつからの心より放て			1037・9
若菜上	80		あやしく物はかなき			1037・11
若菜上	81		いよ++			1037・14
若菜上	82		ふかきほい			1038・2
若菜上	83	もよほされてなん・句	もよほされてなん			1038・3
若菜上	84	こよなかりなんを・句	〈ナシ〉(83注ノ一部・「こよなからなんを句」)			1038・4
若菜上	85		かた++にあまた			1038・4
若菜上	86		人の心から也			1038・5
若菜上	87		のとかに			1038・5
若菜上	88		おなしすち			1038・8
若菜上	89		又大納言			1038・10
若菜上	90		昔もかやうに			1038・12

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜上	91		又なくもちめん			1038・13
若菜上	92		右衛門督			1039・1
若菜上	93		かきりそあるや			1039・6
若菜上	94		あね宮たち			1039・7
若菜上	95		かの北方して			1039・12
若菜上	96		左大将			1039・14
若菜上	97		藤大納言			1040・1
若菜上	98		にはかに			1040・9
若菜上	99		なのめならずは			1040・10
若菜上	100		御たゝせ			1041・5
若菜上	101		此宮の御こと			1041・6
若菜上	102		心くるしき			1041・6
若菜上	103	こゝに又	こゝに又源			1041・7
若菜上	104		けに次第を			1041・9
若菜上	105	とり分て	とりはきて			1041・11
若菜上	106		不定といひて			1041・12
若菜上	107		まつの人			1042・9
若菜上	108		いきまき			1042・11
若菜上	109		かの宮の御はらから			1042・12
若菜上	110		いふかし			1043・1
若菜上	111		年も暮ぬ			1043・1
若菜上	112		御もきのこと			1043・3
若菜上	113		いつくしく			1043・3
若菜上	114		かへとの			1043・4
若菜上	115		もろこしの后			1043・5
若菜上	116		御こしゆひには			1043・6
若菜上	117		ふたところ			1043・8
若菜上	118		蔵人所			1043・12
若菜上	119		そんじや			1043・14
若菜上	120		中宮より			1043・14
若菜上	121		かの昔の			1044・1
若菜上	122		宮の権のすけ			1044・3
若菜上	123		姫君の御かたに			1044・4
若菜上	124		さしなから哥			1044・6
若菜上	125	あえ物	あは物			1044・7
若菜上	126		さしつきに哥			1044・10
若菜上	127		こしらへかね			1045・1
若菜上	128		子を思ふ道			1045・1
若菜上	129		山のさすより			1045・3
若菜上	130		ほいたかひて			1045・7
若菜上	131		御たうはり			1045・10
若菜上	132		れいのごと++しからぬ			1045・12
若菜上	133		うるはしきさま			1046・1
若菜上	134		くれてかなしく			1046・2
若菜上	135		こ院にをくれ			1046・3
若菜上	136		このかたのほい			1046・4
若菜上	137		身にとりては			1046・7
若菜上	138		なくさめかたく			1046・8
若菜上	139		けふかあすか			1046・10
若菜上	140		ほいのはしにても			1046・11
若菜上	141		たゝこの心さし			1046・14
若菜上	142		まほにはあらぬ			1047・4
若菜上	143		御心のうちにも			1047・4
若菜上	144		けにたゝ人より			1047・5
若菜上	145	一こととして	一こととして			1047・8
若菜上	146		女の御ため			1047・11
若菜上	147		猶さるへきすち			1047・13
若菜上	148		さやうにおもひよる			1048・2
若菜上	149		いにしへのためし			1048・3
若菜上	150		月日の過ゆけは			1048・7
若菜上	151	(内親王一人)	内親王一人		写本八行間二書キ入し。	1048・8
若菜上	152		せんせられて			1048・11
若菜上	153		またあさく			1048・12
若菜上	154		ふかき心			1048・13
若菜上	155		御あるしの			1049・2
若菜上	156		うるはしからす			1049・3
若菜上	157		せんかうのかけはん			1049・3
若菜上	158		御はち			1049・3
若菜上	159		うるさければ			1049・5
若菜上	160		別當の大納言			1049・5
若菜上	161		なま心くるし			1049・8
若菜上	162		前齋院			1049・10
若菜上	163		中++ふかき			1049・13
若菜上	164		その夜は			1050・2
若菜上	165		つけし			1050・6
若菜上	166		いなひす			1050・6
若菜上	167		すく++			1050・9
若菜上	168		御さためあるよに			1050・11

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜上	169		けにかの御ためこそ			1050・12
若菜上	170		はかなき御すさひ			1050・13
若菜上	171		かくてはなととかめらる			1051・2
若菜上	172	女御	母女御			1051・3
若菜上	173		すへて			1051・7
若菜上	174		心ひとつに			1051・8
若菜上	175		こゝろのうちにも			1051・10
若菜上	176		空より			1051・10
若菜上	177		我心にはゝかり			1051・11
若菜上	178		うけはしけなる			1051・14
若菜上	179		大将の御事にてさへ			1052・1
若菜上	180		いちしるく			1052・1
若菜上	181	おいらか	おいらか双			1052・2
若菜上	182		人わらはれならん			1052・3
若菜上	183		年もかへりぬ			1052・4
若菜上	184		きこえ給へる			1052・6
若菜上	185		ことのわつらひ			1052・9
若菜上	186		正月廿三日			1052・10
若菜上	187		さはかり			1052・13
若菜上	188		南のおとゝの西の			1052・14
若菜上	189		かべしろ			1052・14
若菜上	190	いしなと	いしなとは			1053・1
若菜上	191		御地しき			1053・1
若菜上	192		らてん			1053・2
若菜上	193	夏冬の御さうそく	夏冬のさうそく			1053・3
若菜上	194		くすりの箱			1053・3
若菜上	195		ゆするつき			1053・4
若菜上	196		かさしのたい			1053・4
若菜上	197	おなしきかねも	おなしきかねをも			1053・5
若菜上	198		みやひふかく			1053・6
若菜上	199		かんの君に			1053・8
若菜上	200		ひかゝそへ			1053・10
若菜上	201		打つゝきても			1053・13
若菜上	202		ふりわけかみ			1054・1
若菜上	203		過るよはひ			1054・1
若菜上	204		末十の			1054・3
若菜上	205		人よりことに			1054・5
若菜上	206		しはしは			1054・6
若菜上	207		もの十しき			1054・7
若菜上	208		わか葉さす哥			1054・9
若菜上	209		せめて			1054・9
若菜上	210		さまはかり			1054・10
若菜上	211		小松原哥	小松原		1054・12
若菜上	212	式部卿	式部卿宮			1054・13
若菜上	213		御むまこの君			1055・2
若菜上	214		こものよそえた			1055・3
若菜上	215		あつもの			1055・4
若菜上	216		おほんつき			1055・5
若菜上	217		朱雀院の御くすり			1055・6
若菜上	218		たいらき			1055・6
若菜上	219		御ふえなと			1055・7
若菜上	220	第一	第一に			1055・10
若菜上	221		右衛門督			1055・11
若菜上	222		上手のつきと			1055・13
若菜上	223		あとあるてとも			1055・14
若菜上	224		すかゝき	すかゝき		1056・2
若菜上	225		ゆるにはりて			1056・3
若菜上	226		わらゝかに			1056・4
若菜上	227		のほる音の	のほる音の		1056・4
若菜上	228		あひきやう			1056・5
若菜上	229		きんは兵部卿			1056・6
若菜上	230		ぎやうでん			1056・6
若菜上	231		古院			1056・7
若菜上	232		一品宮			1056・7
若菜上	233		おとゝの			1056・8
若菜上	234		きんはおまへ			1056・10
若菜上	235		しやうがの			1056・12
若菜上	236		青柳			1056・14
若菜上	237		わたくしことの	わたくしことの賀は		1057・1
若菜上	238	かうかそへ	かうかそへしらせ			1057・4
若菜上	239	時十は老やまさる	時十は老やまさると	時十は老やまさるゝ		1057・4
若菜上	240		世にすみはて			1057・10
若菜上	241		わかなまいりし			1057・12
若菜上	242		内にまいり			1057・13
若菜上	243		いへはさらなり			1057・14
若菜上	244		けいし			1058・1
若菜上	245		御車よせたる所に	御車かせたる		1058・2
若菜上	* 246	御中のあはひともになん	むこの大君			1058・4

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜上	* 247	むこの大君	御中のあはひとにもなん			1058・4
若菜上	248		たいのうへも			1058・6
若菜上	249		はなやかに			1058・8
若菜上	250		いとらうたけなる			1058・10
若菜上	251	ひたすちに	ひたみちに			1058・12
若菜上	252		にくけに			1058・14
若菜上	253		さもならひ			1059・2
若菜上	254		御そともなと			1059・3
若菜上	255		なとてよろつの事			1059・4
若菜上	256		すこしほゝゑみて			1059・9
若菜上	257		なにもいつこに			1059・11
若菜上	258		いふかひなげに			1059・11
若菜上	259		めにちかく哥			1059・14
若菜上	260		いのちこそ哥			1060・2
若菜上	261		もてはなれ			1060・5
若菜上	262		かたざり			1060・10
若菜上	263		かくこれかれあまた			1060・11
若菜上	264		御心になひて			1061・2
若菜上	265		われもむつひ			1061・4
若菜上	266		ひとしき程			1061・5
若菜上	267		中務中将			1061・7
若菜上	268		いふへし			1061・8
若菜上	269		こと御かた++より			1061・10
若菜上	270		かくをしはかる人++			1061・11
若菜上	271		我身までの			1062・3
若菜上	272	あけくれ	明くれの			1062・11
若菜上	273		やみはあやなし			1062・13
若菜上	274		猶のこれる雪			1062・14
若菜上	275		人++も			1063・1
若菜上	276		をちきこゆる			1063・3
若菜上	277		打とけて			1063・5
若菜上	278		かきりなき人と			1063・6
若菜上	279	よろついにしへの	よろついにしへ			1063・6
若菜上	280		さはおもひし事そかし			1063・12
若菜上	281		女君			1063・12
若菜上	282		御筆など			1063・14
若菜上	283		中道をへたつる哥			1064・2
若菜上	284		やかて見出して			1064・3
若菜上	285		友まつ雪			1064・4
若菜上	286		花をまさくり			1064・4
若菜上	287		袖こそほへ			1064・6
若菜上	288		女君に			1064・8
若菜上	289		これもあまたに			1064・10
若菜上	290		あさやかに			1064・11
若菜上	291		むねつふれて			1064・12
若菜上	292		しはし			1064・13
若菜上	293		はかなくて哥			1065・2
若菜上	294		さはかりの程に			1065・3
若菜上	295		こと人のうへならば			1065・4
若菜上	296		今見たて			1065・6
若菜上	297		この御ありさま			1065・8
若菜上	298		よだけく	よたふく		1065・10
若菜上	299		御そかち			1065・11
若菜上	300		院のみかと			1065・13
若菜上	301		おいらかに			1066・1
若菜上	302		昔の心ならば			1066・4
若菜上	303		きははなるゝ			1066・6
若菜上	304		とり++にこそ			1066・6
若菜上	305		よ所の思ひは			1066・6
若菜上	306		ゆゝしきまで			1066・10
若菜上	307		月のうちに			1066・10
若菜上	308		わつらはしく			1066・12
若菜上	309		おさなき人の			1067・1
若菜上	310		たつね給へき			1067・2
若菜上	311		そむきにし哥			1067・4
若菜上	312		やみをはるけて			1067・4
若菜上	313		心をのへて			1067・8
若菜上	314		そむく世の哥			1067・9
若菜上	315		ないしのかんの君			1067・13
若菜上	316	仏の御幸	佛の御事			1068・2
若菜上	316+	<欠>	世のさはきなど			1068・6
若菜上	317		とき++			1068・10
若菜上	318		御けはひを見給ふにも			1068・11
若菜上	319		中納言			1068・12
若菜上	320		昔よりつらき			1069・4
若菜上	321		あはれにかなしき			1069・5

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若葉上	322	心のとはん	なき名そと		写本ト版本テ見出しガ異ナルガ、注内容ハ同ジ。物語本文トシテハ写本ガ正シ	1069・6
若葉上	323		きよまはりて			1069・9
若葉上	324		たちにしわか名			1069・10
若葉上	325		しのた			1069・10
若葉上	326		女君に			1069・11
若葉上	327		東のゐん			1069・11
若葉上	328		おもひあはする			1070・1
若葉上	329		あしろ車			1070・5
若葉上	330		おもひめぐらして			1070・8
若葉上	331		されはよと			1070・11
若葉上	332		みさうしのしり			1070・13
若葉上	333		玉もにあそふ			1071・1
若葉上	334		平仲			1071・3
若葉上	335		これをかくて			1071・5
若葉上	336		年月を哥			1071・6
若葉上	337		なみたのみ哥			1071・7
若葉上	338		おほうは			1071・8
若葉上	339		つしやか			1071・10
若葉上	340		大やけわたくし			1071・11
若葉上	341	[花はみな]	花はみな	花はみな散過也	写本ハ行間ニ書キ入シ。	1072・3
若葉上	342		この藤よ			1072・6
若葉上	343		さるかたにても			1072・11
若葉上	344		御宮つかへにも			1072・12
若葉上	345		古宮			1072・12
若葉上	346		御物語のとちめは			1072・14
若葉上	347		やう++さしあかり			1073・2
若葉上	348		しつみしも哥			1073・6
若葉上	349		花のかげは猶			1073・8
若葉上	350		身をなけん哥			1073・9
若葉上	351		いとわかやかなる			1073・9
若葉上	352		関守			1073・10
若葉上	353		哀もすくなからん			1073・12
若葉上	354		さはかりならんと			1073・13
若葉上	355		又もらすへき			1074・2
若葉上	356		むかしを今に			1074・6
若葉上	357		中空なる			1074・6
若葉上	358		引つみなとして			1074・8
若葉上	359		何事も			1074・10
若葉上	360		わつらはしう			1074・12
若葉上	361		桐壺の御方			1074・14
若葉上	362		めつらしき			1075・3
若葉上	363		姫宮の			1075・5
若葉上	364		姫宮にも中の戸			1075・7
若葉上	365		あかしの君			1075・11
若葉上	366		しけいさ			1075・13
若葉上	367		はつかしう			1076・2
若葉上	368		人のいらへ			1076・3
若葉上	369	何の心もなき	なに心もなき			1076・5
若葉上	370		我よりかみの人やは有へき			1076・7
若葉上	371		さらはわか身は			1076・10
若葉上	372		宮女御の君			1076・10
若葉上	373		猶たくひなくこそ			1076・13
若葉上	374		てなど			1077・5
若葉上	375		身にちかく哥			1077・7
若葉上	376		水鳥の哥			1077・9
若葉上	377		ことにふれて			1077・9
若葉上	378		こよひは			1077・11
若葉上	379		東宮の御かたは			1077・13
若葉上	380		むかしの			1078・3
若葉上	381		おなしかさしを			1078・4
若葉上	382		かたしけなけれと句			1078・5
若葉上	383		たのもしき			1078・7
若葉上	384		そむき			1078・9
若葉上	385		かくなん			1078・10
若葉上	386		うち++にも			1078・11
若葉上	387		いとかたしけなかりし			1078・12
若葉上	388		ひいなのでかたき			1078・14
若葉上	389		かはかりに成ぬる			1079・3
若葉上	390		いますこし			1079・6
若葉上	391		かくにくけなく			1079・7
若葉上	392		神無月にたいのうへ			1079・8
若葉上	393		さかのゝ御堂			1079・9
若葉上	394		薬師佛			1079・9
若葉上	395	ほとけ〇経〇はこちす	ほとけ経はこちす			1079・10
若葉上	396		ゆたけき			1079・11
若葉上	397		かたへはきほひ			1079・13

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜上	398		御としみ			1080・2
若菜上	399	この院はかくすきまなく	〈ナシ〉(見出シヲ欠クガ写本ノ注 内容ハ398注ノ一部ニアリ)			1080・2
若菜上	400	たい共	たいともは			1080・5
若菜上	401		院司			1080・6
若菜上	402		らてんのいし			1080・7
若菜上	403		御そのつくゑ			1080・7
若菜上	404		内の心は			1080・9
若菜上	405		かさしのたい			1080・10
若菜上	406		あかしの御かた			1080・11
若菜上	407		れいの四季のゑ			1080・13
若菜上	408		せんすいたん			1080・13
若菜上	409		四十つゝけて			1081・3
若菜上	410	万さいらく△〇わうしやう	万さいらくわうじやう			1081・4
若菜上	411		こまのらんしやう			1081・4
若菜上	412		権中納言			1081・5
若菜上	* 413	つかさ位	入あや			1081・6
若菜上	* 414	入あや	つかさ位			1081・9
若菜上	415		立つきたる			1081・10
若菜上	416		北の政所			1081・12
若菜上	417	人++ひきゐて	人++ひきて			1081・13
若菜上	418		千とせをかねて			1082・1
若菜上	419	こ入道の宮	この入道の宮			1082・5
若菜上	420	この院	このゐん			1082・9
若菜上	421		七丈寺に御す行			1082・14
若菜上	422		御はくゝみを			1083・1
若菜上	423		ちゝ宮はゝ御息所			1083・2
若菜上	424		四十賀			1083・4
若菜上	425		大やけさまに			1083・7
若菜上	426		宮のおはします町			1083・7
若菜上	427	さき++も	さき++に			1083・8
若菜上	428	たいきやう	たいきやうに			1083・9
若菜上	428+	〈欠〉	まうちきんだち			1083・10
若菜上	428++	〈欠〉	こしさし			1083・11
若菜上	429		名たかきおひ			1083・12
若菜上	429+	〈欠〉	こせんはう		写本、見出シ・注内容トモ ニ欠クガ、当該箇所ニ一行 分ノ空白アリ。	1083・12
若菜上	430		むかし物語にも			1083・13
若菜上	431		ごちたき			1083・14
若菜上	432		中納言にそつけさせ			1084・2
若菜上	433		右大将			1084・2
若菜上	434		猶かたことに			1084・7
若菜上	435		うしとらの町			1084・5
若菜上	436		所++のきやう			1084・7
若菜上	437		けふはおほせ			1084・11
若菜上	438		しうとく			1084・13
若菜上	439		うちの御てかゝせ			1084・14
若菜上	440		うすたんに			1085・1
若菜上	441	御馬四十疋	御馬四十疋…			1085・5
若菜上	442	りくようノ官人	りくよう官人			1085・6
若菜上	443	まんさいらく	まんさいらく賀王恩			1085・6
若菜上	444		けしきはかり			1085・6
若菜上	445	琵琶は	ひわはれゐの			1085・8
若菜上	446		年比そひ			1085・10
若菜上	447		わこん			1086・1
若菜上	448		御馬むかへとりて			1086・2
若菜上	449	ろくとも	ろくよう共		整版本・古活字本トモニ注 釈ナシ。。写本ノ注内容ハ 整版本・古活字本ノ449+注 内容ニアタル。 写本ハ449傍書ニアリ。	1086・3
若菜上	449+	〈ナシ〉	ろくとも			1086・3
若菜上	450	内東宮一チいん	内東宮一ゐん			1086・5
若菜上	451		きさいの宮			1086・5
若菜上	452		かのはゝ北のかた			1086・8
若菜上	453		こなたのうへ			1086・10
若菜上	454		三条の北方			1086・10
若菜上	455		よ所の事に			1086・12
若菜上	456		としかへりぬ			1086・14
若菜上	457		ちかつき			1087・1
若菜上	458		ゆゝしきことを			1087・2
若菜上	459		さること			1087・3
若菜上	460		所をかへて			1087・6
若菜上	461		かのあかしの御町			1087・7
若菜上	462		みすほう			1087・9
若菜上	463		ほけ人にて			1087・11
若菜上	464		この母君は			1087・13
若菜上	465		わか君			1088・5

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜上	466	世人	世ノ人			1088・11
若菜上	467		おほとき給へる			1088・14
若菜上	468		仙人の			1089・1
若菜上	469		御かたまひり			1089・2
若菜上	470		風など			1089・5
若菜上	* 471	よしめきそして	もう++に			1089・8
若菜上	* 472	もう++に	よしめきそして			1089・7
若菜上	473	あゝと	あゝ			1089・9
若菜上	474		さいふはかり			1089・9
若菜上	475		かはらかに			1089・10
若菜上	476		むねうちつふれて			1089・11
若菜上	477		きつらんはや			1089・13
若菜上	478		御位をきはめ			1090・2
若菜上	479	おほしすつましき	おほしすつへき			1090・3
若菜上	480		これはかりをたに			1090・5
若菜上	481		めくはずれと			1090・8
若菜上	482		老のなみ哥			1090・9
若菜上	483		むかしの世にも			1090・9
若菜上	484		しほたるゝ哥			1090・12
若菜上	485		世をすてゝ哥	世をすてし哥		1090・14
若菜上	486	夢のなかにおほしいたらぬを	夢のなかに			1091・1
若菜上	487		かくれのかたにて			1091・4
若菜上	488		けちかき			1091・5
若菜上	489		かひあるうらと			1091・6
若菜上	490		たいのうへも			1091・6
若菜上	491		しろき御さうそく			1091・7
若菜上	492		みつからからゝる			1091・8
若菜上	493		むつかしけに			1091・10
若菜上	494		をは君			1091・10
若菜上	495		春宮のせんしなる			1091・11
若菜上	496		御むかへゆに			1091・11
若菜上	497		うち++のことも			1091・12
若菜上	498		六日といふに			1092・1
若菜上	499		七日の夜内より			1092・2
若菜上	500		内々のなまめかしさは			1092・7
若菜上	501		今まで見せぬか			1092・9
若菜上	502		御かたの御心をきて			1092・12
若菜上	503		さはかりゆるしなく			1093・1
若菜上	504		らう++じく		注釈ナシ。	1092・13
若菜上	505		宮の御とくに			1093・2
若菜上	506		あまがつ			1093・3
若菜上	507		そゝくり			1093・3
若菜上	508	わかみやを見奉らぬ	わか宮を見たてまつらぬ…			1093・4
若菜上	509	<欠>	あしこ		509ヨリ510注途中マデ写本欠。資料稿ハ版本ニヨリ補ウ。	1093・10
若菜上	510	<欠>	すこしのおほつかなき			1093・11
若菜上	511	今はさりともと	いまはさりとも			1093・12
若菜上	512		ことなる事ならては			1093・13
若菜上	513	この年此は	この年比は			1094・2
若菜上	514		身をかへたるやうに			1094・2
若菜上	515		目のいとま			1094・4
若菜上	516		わかおもとむまれ給はん			1094・9
若菜上	517		ちからをよはぬ			1095・4
若菜上	518		わか君を			1095・7
若菜上	519		かへり申たいらかに			1095・7
若菜上	520		國のはゝと			1095・8
若菜上	521		このひとつのおもひ			1095・10
若菜上	522		はるかに西のかた			1095・10
若菜上	523		むかふるはちす	むかふるはち		1095・11
若菜上	524		水草きよき			1095・12
若菜上	525		光いてん哥			1095・14
若菜上	526		月日かきたり			1095・14
若菜上	527		いにしへより人のそめをける			1096・1
若菜上	528		さはの外の岸に			1096・4
若菜上	529		十四日			1096・7
若菜上	530		くまおふかみも			1096・7
若菜上	531		せし侍なん			1096・8
若菜上	532		あきらかなる所			1096・9
若菜上	533		たえたる嶺			1096・11
若菜上	534		いまはと			1096・13
若菜上	535		せにう			1097・2
若菜上	536		しよぶん			1097・3
若菜上	537		雲霞			1097・4
若菜上	538	仏の御てしの	佛の御てしの…	佛の御てしの仏雖滅と		1097・7
若菜上	539		御かた			1097・10
若菜上	540		おも++しく			1097・11

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜上	541		おほろけならて			1097・11
若菜上	542		ぬ給へり			1097・13
若菜上	543		めとむましき			1097・14
若菜上	544		ひが心にて我身を			1098・3
若菜上	545		君の御とくには			1098・6
若菜上	546		いふせきおもひも			1098・7
若菜上	547		都をすて			1098・8
若菜上	548		そむきにし世に			1098・11
若菜上	549		かひある			1098・11
若菜上	550		かたつかた			1098・12
若菜上	551		世にへし時たに			1098・14
若菜上	552		わかきとち			1099・1
若菜上	553		かすならぬ身には			1099・4
若菜上	554		やみなんこそ			1099・6
若菜上	555		よろつのこと			1099・6
若菜上	556		昨日もおとこの			1099・9
若菜上	557		かくそひ給ふ			1099・10
若菜上	558		わか宮は			1099・11
若菜上	559		いま見たてまつり			1099・13
若菜上	560		ゆゝしきかねこと			1099・14
若菜上	561		いかにおほす			1100・1
若菜上	562		さま十ためしなき			1100・2
若菜上	563		宮よりとく			1100・3
若菜上	564		めつらしきことさへ			1100・4
若菜上	565		宮す所			1100・5
若菜上	566		程なき御身に			1100・7
若菜上	567		ためらひかたく			1100・8
若菜上	568		たいのうへなど			1100・10
若菜上	569		御まへに			1100・12
若菜上	570		おもふさまに			1100・12
若菜上	571		今はのとちめを			1101・1
若菜上	572		むつかしくあやしき			1101・2
若菜上	573		御願ふみとあり			1101・3
若菜上	574		かはかりと見たて			1101・5
若菜上	575		身にはこよなく			1101・8
若菜上	576		ゆつりきこえ	ゆつりきにえ		1101・9
若菜上	577		いとかうしも			1101・10
若菜上	578		かくむつましかるへき			1101・12
若菜上	579		御ひたいかみ			1102・1
若菜上	580		姫君の御かた			1102・3
若菜上	581		みつからは			1102・4
若菜上	582	おとろき給へりや	おとろき給へる也			1102・5
若菜上	583		御かた			1102・6
若菜上	584		きぬも皆			1102・8
若菜上	585		こなたにわたりて			1102・9
若菜上	586		おもふくまなき			1102・10
若菜上	587		女におはし			1102・10
若菜上	588		さかしらかり		注釈ナシ。	1102・12
若菜上	589		御中ともに			1102・13
若菜上	590		へたて			1102・14
若菜上	591		まつはかやうに			1103・1
若菜上	592		いときよけに			1103・2
若菜上	593		なぞの箱		注釈ナシ。	1103・4
若菜上	594		なりかへらせ給める			1103・5
若菜上	595		御けしきともしるければ			1103・7
若菜上	596		御心にもしらせ			1103・9
若菜上	597		またしき			1103・9
若菜上	598		こゝらの年比			1103・12
若菜上	599		さかしきかた十十			1103・13
若菜上	600		ひしりだち			1104・1
若菜上	601		あらぬ世に			1104・2
若菜上	602		今はかの			1104・4
若菜上	603		鳥のね			1104・4
若菜上	604		あま君いかに			1104・6
若菜上	605		あやしく恋しき			1104・8
若菜上	606		ふかき契			1104・9
若菜上	607		いとあやしきほんじ			1104・10
若菜上	608		御らんじとむへき			1104・10
若菜上	609		あはれはのこる			1104・12
若菜上	610		この世ふる			1104・14
若菜上	611		せんそのおと			1105・1
若菜上	612		女このかたに			1105・3
若菜上	613		いとつきなし	いと△きなし(版本欠損)		1105・3
若菜上	614		この夢のわたり			1105・4
若菜上	615		ひか十十しく			1105・5
若菜上	616		さるましきふるまひ			1105・6
若菜上	617	この君のむまれ	この君むまれ			1105・7
若菜上	618	おほつかなく	おほつかなくこそ			1105・8

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若葉上	619		よこさま			1105・9
若葉上	620		心のうちに			1105・10
若葉上	621		これは又くして			1105・11
若葉上	622		あなたの御心はへを			1105・13
若葉上	623		もとよりさるへき			1105・14
若葉上	624		よこさまの人のなげの			1105・14
若葉上	625		ましてこになと			1106・1
若葉上	626		いにしへの世の			1106・3
若葉上	627		らう++しきは			1106・3
若葉上	628		むかしの世のあたならぬ人	むかしの世のあたならぬ人...		1106・6
若葉上	629		ひとり++			1106・7
若葉上	630		おもひくま			1106・9
若葉上	631		ゆへよし			1106・10
若葉上	632		えたるかたありて			1106・11
若葉上	633		よしとて			1106・14
若葉上	634		ひたゝけて			1106・14
若葉上	635		かたへの人は			1107・1
若葉上	636		そこにごそ			1107・2
若葉上	637		のたまはせねと			1107・4
若葉上	638		めさましき物に			1107・5
若葉上	639		かすならぬ身の			1107・7
若葉上	640		もてかくされ			1107・8
若葉上	641		その御ために			1107・8
若葉上	642		ゆつりきこえ			1107・10
若葉上	643		それも又とりもちて			1107・10
若葉上	644		めやすくなれば			1107・12
若葉上	645		うれしき			1107・12
若葉上	646		なをし所なく			1107・13
若葉上	647		さりやよくこそ			1107・14
若葉上	648		たいへ			1108・1
若葉上	649	さはいと	さはいへと	さもいと		1108・1
若葉上	650		おなしすちには			1108・4
若葉上	651		しりうち			1108・5
若葉上	652		我すくせは			1108・6
若葉上	653		山住を	山住を入道		1108・8
若葉上	654		ふくちのそのに			1108・9
若葉上	655		大将の君			1108・10
若葉上	656		かたち人			1109・2
若葉上	657		物思ひなける			1109・3
若葉上	658		みしおもかけ			1110・1
若葉上	659		わか御北方			1110・1
若葉上	660		らう++しき			1110・2
若葉上	661		とり++におかしき			1110・4
若葉上	662		おほけなき			1110・6
若葉上	663	院にもめさましき	院にもめさましと			1110・10
若葉上	664		かたしけなくとも			1111・1
若葉上	665	たくひなき御身にこそあたらさらば	たくひなき御身にこそあたらさらめ			1111・1
若葉上	666		小侍従といふ			1111・2
若葉上	667		ほいありて			1111・3
若葉上	668		ことなしや			1111・7
若葉上	669		こゆみいさせて			1111・9
若葉上	670		うしとらの町			1111・10
若葉上	671		めさめて			1111・11
若葉上	672	まりは	まり			1111・12
若葉上	673	しんてんのひむかし	しんてんのひかし			1111・14
若葉上	673+	〈欠〉	どうの弁			1112・2
若葉上	674		すくしたる			1112・3
若葉上	675		弁官も			1112・5
若葉上	676		わかきゑふつかさは			1112・6
若葉上	677		かはかりのよはひ			1112・6
若葉上	678		きやうぎやう	きやう		1112・7
若葉上	679		所から人から			1112・10
若葉上	680	もえき	〈ナシ〉(△1字下ゲ)			1112・11
若葉上	681	さすかにみたりかはしき	さすかにみたりかはしき句			1113・1
若葉上	682		みはしの間			1113・1
若葉上	683		おとゝも宮も			1113・2
若葉上	684		かうふりのひたい			1113・3
若葉上	685		さくらのなをし			1113・6
若葉上	686		さしぬきのすそ			1113・6
若葉上	687		をしおりて	をしおりて是も心なし		1113・8
若葉上	688		さくらはよきて			1113・9
若葉上	689		ぬさ袋			1113・12
若葉上	690		ひこしろふ	ひうしろふ		1114・3
若葉上	691	はしよりにしのふたつ間	はしよりにしのふたつのま			1114・6
若葉上	692		すきすき			1114・7
若葉上	693		さうしのつま			1114・8

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜上	694		身をなくる			1114・13
若菜上	695		人十十あらはを			1114・14
若菜上	696		さるはわか			1115・4
若菜上	697		わりなき			1115・9
若菜上	698		たいの南おもて			1115・11
若菜上	699		宮も			1115・12
若菜上	700		わらうた			1115・13
若菜上	701	つはいもちい	つはいもちい椿葉をへたてにしたる餅也			1115・13
若菜上	702		からもの			1116・1
若菜上	703		いてやこなたの			1116・4
若菜上	704		ぬるき様には有けれど			1116・6
若菜上	705	うちのようい	うちどのようい			1116・6
若菜上	706	宰相を	宰相を…			1116・8
若菜上	707	はかなきことは	はかなきとは			1116・12
若菜上	708		こうこそみえつれ			1116・13
若菜上	709		はか十十しき			1116・14
若菜上	710		家のつたへなとに			1117・2
若菜上	711		かゝる人にならひて			1117・4
若菜上	712		宮の御事			1117・11
若菜上	713		中の御おほえの	中の御方ほえの		1117・12
若菜上	714	たい十十しき	たい十十しき…			1117・14
若菜上	715		こなたはさま	<欠>		1118・1
若菜上	716		あなかま給へ	<欠>		1118・3
若菜上	717		いかなれは哥	<欠>		1118・6
若菜上	718		あちな	<欠>		1118・8
若菜上	719		太山木に哥	<欠>		1118・9
若菜上	720		ひたおもむき	<欠>		1118・9
若菜上	721		かんの君は	<欠>		1118・10
若菜上	722		わか身かはかり	<欠>		1118・13
若菜上	723		くしいたく	<欠>		1118・14
若菜上	724		ふかきまとのうち			1119・4
若菜上	725		小侍従かり			1119・6
若菜上	726		みかきかはら			1119・6
若菜上	727		みおとし			1119・6
若菜上	728		あやなくけふは			1119・8
若菜上	729		よ所にみて哥			1119・9
若菜上	730	ひとひの	ひとひの			1119・10
若菜上	731		見給へあまる			1119・12
若菜上	732		みつからの心ながら			1119・13
若菜上	733		みもせぬ			1120・1
若菜上	734		かたりきこえ			1120・4
若菜上	735		心のうちそをさなかりける			1120・5
若菜上	736		れいのかく			1120・7
若菜上	737		一日つれなしかほをなむ			1120・7
若菜上	738		今さらに哥			1120・10
若菜上	739	(こと御かた)十十よりもいかとおぼすらん	<欠>		写本「こと御かた」虫損。269注ヲ補ウモノ。	1061・10
若菜下	1		ことはりと思へとも			1125・1
若菜下	2		院の御ため			1125・4
若菜下	3		つこもりの日とは			1125・4
若菜下	4		てんしやうののりゆみ			1125・5
若菜下	5		三月はた御きつき			1125・7
若菜下	× 5+		<ナシ>(△1字下ゲ・5注ノ一部)	礼記唐には		
若菜下	6	左右の大將	さうの大將			1125・8
若菜下	6+	<欠>	すけたちなど			1125・8
若菜下	7		かちゆみ			1125・9
若菜下	8		つき十十		注釈ナシ。	1125・10
若菜下	9		こまとり			1125・11
若菜下	10		けふにとちむる			1125・11
若菜下	11		柳の葉を			1125・14
若菜下	12		とねりとも			1125・14
若菜下	13		こゝしきてつき			1126・1
若菜下	14		われさへおもひ			1126・4
若菜下	15		この君たち			1126・4
若菜下	16		てんつかる			1126・8
若菜下	17		女御の御かたに			1126・11
若菜下	18		あやしく			1126・14
若菜下	19		おほろけに			1126・14
若菜下	20		春宮に参り			1127・1
若菜下	21		さはかりの			1127・3
若菜下	22		うちの御ねこ			1127・3
若菜下	23		はらからとも			1127・4
若菜下	24		たつねんと			1127・12
若菜下	25		又此宮にも			1127・14
若菜下	26		いつらこのみし人は			1128・1
若菜下	27		わきまへ			1128・4
若菜下	28		まさるともさくらふめるを			1128・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜下	29		うたてもすゝむる			1128・12
若菜下	30		恋わふる哥			1128・13
若菜下	31		むかしの契にや			1128・13
若菜下	32		こたち			1128・14
若菜下	33		宮よりめすにも			1129・1
若菜下	34		左大将の北方			1129・3
若菜下	35		しげいさ			1129・6
若菜下	36		おとこ君			1129・7
若菜下	37		この御はら			1129・9
若菜下	38		御子のおほえ			1129・11
若菜下	39		この院大殿			1129・14
若菜下	40		大将も			1130・1
若菜下	41		まゝ母の			1130・6
若菜下	42		あまへて			1130・9
若菜下	43		大宮何かは			1130・10
若菜下	44		宮つかへにつきて			1130・11
若菜下	45		大宮は女子あまた			1131・1
若菜下	46		てつから			1131・5
若菜下	47		宮はうせ給ひ			1131・6
若菜下	48		こなたかなたいかにおほし見給は ましと			1131・14
若菜下	49		いとほつかしく			1132・3
若菜下	50		かゝるあたりにて			1132・4
若菜下	51		せうと君たち			1132・5
若菜下	52		かゝる御けしきもしらすかほ			1132・6
若菜下	53		みこたちは			1132・7
若菜下	54		むかしいと			1132・9
若菜下	55		たゞさるかたの			1132・13
若菜下	56		内のみかとの御位に			1132・14
若菜下	57		世中はかなく			1133・1
若菜下	58		心やすくおほゆる			1133・2
若菜下	59		をもく			1133・4
若菜下	60		ちしのへう			1133・7
若菜下	61	年ふかき身のかうふりを かけ	年ふかき身のかうふりをかけん			1133・8
若菜下	62		左大将右大臣			1133・9
若菜下	63		女御の君			1133・10
若菜下	64	かきりある	かきりある御位			1133・11
若菜下	65		物ノうしろ			1133・11
若菜下	66		六条の女御			1133・11
若菜下	67		大納言に成給てれいのひたりに			1133・14
若菜下	68		冷泉院			1134・1
若菜下	69		おなしすちなれと			1134・2
若菜下	70		春宮女御			1134・4
若菜下	71		源氏の打つゝき			1134・5
若菜下	72		院のみかと			1134・8
若菜下	73		姫宮の御こと			1134・10
若菜下	74		御門御心とゞめて			1134・10
若菜下	75		いさゝかあかぬ			1134・12
若菜下	76		おこなひにもと			1134・14
若菜下	77		あるよにかはらん			1135・3
若菜下	78		御かたはかくれかの			1135・6
若菜下	79		たゞして			1135・8
若菜下	80		すみよしの御願			1135・9
若菜下	81		年ことの春秋に			1135・11
若菜下	82		さりけり			1135・13
若菜下	83		さえさえ			1135・13
若菜下	84		むかしの世の			1136・2
若菜下	85		たゞいんの			1136・4
若菜下	86		物さはかしかりし			1136・4
若菜下	87		たいのうへもぐし			1136・7
若菜下	88	無人 マユウト たけたち	無人	舞人まゆうと		1136・10
若菜下	89		みからのかたには			1137・1
若菜下	90		むまそひの隨身			1137・3
若菜下	91	女御の御めのと	女御の御めのと…			1137・5
若菜下	92		人たまい			1137・6
若菜下	93		あかれ			1137・7
若菜下	94		おもふやうならん			1137・10
若菜下	95		もとより			1137・12
若菜下	96		神のみかき	(ナシ)(△1字下ゲ)		1137・14
若菜下	97		をとのみ秋を			1137・14
若菜下	98		あつまあそひの			1138・1
若菜下	99		つゝみをはなれて			1138・4
若菜下	100		山あゐに			1138・5
若菜下	101		松のみどり			1138・6
若菜下	102		かさしの花の色十			1138・6
若菜下	103		わかれて		注釈ナシ。	1138・6
若菜下	104		まかひいろふ			1138・7

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜下	105		もとめこはつる			1138・7
若菜下	106		引ほころはし			1138・9
若菜下	107		松はらを忌て			1138・10
若菜下	108		かれたる萩を			1138・11
若菜下	109		致仕の			1138・14
若菜下	110		二のくるま			1139・1
若菜下	111		誰か又哥			1139・3
若菜下	112		よをそむき			1139・5
若菜下	113		すみの江を哥			1139・8
若菜下	114		むかしこそ哥			1139・10
若菜下	115		御門より外の			1139・14
若菜下	116		住吉の哥			1140・3
若菜下	117		たかむらの朝臣の			1140・3
若菜下	118		かみ人の哥			1140・6
若菜下	119		はふりこか哥			1140・8
若菜下	120		もどすゑ			1140・11
若菜下	121		かくらおもて			1140・12
若菜下	122		まんさい十十			1140・13
若菜下	123		千世を一夜に			1141・1
若菜下	124		色十十のけちめ			1141・4
若菜下	125		青にひのおもてをりて			1141・7
若菜下	126		かけはなれたうへる			1141・11
若菜下	127		かたき事なりかし			1141・11
若菜下	128		あさみ			1141・13
若菜下	129		入道のみかと			1142・1
若菜下	130		春秋の行幸			1142・2
若菜下	131		この院をは			1142・3
若菜下	132		うち十十の御心よせ			1142・4
若菜下	133		二品になり給て			1142・5
若菜下	134		みふなと			1142・5
若菜下	135		まさり給ふ			1142・6
若菜下	136		我身はたゞ一所			1142・6
若菜下	137		さらんよを			1142・8
若菜下	138		内の御かとさへ			1142・9
若菜下	139		ひとしきやうに			1142・11
若菜下	140		猶つれなく			1142・12
若菜下	141		女一宮			1142・13
若菜下	142		こなたにとり分て			1142・13
若菜下	143		おもひきこえ			1143・1
若菜下	144		内侍のすけはら			1143・2
若菜下	145		すくなき御つきと			1143・4
若菜下	146		右の大との			1143・6
若菜下	147		今は北方			1143・7
若菜下	148		姫君のみそ			1143・10
若菜下	149		女御の君			1143・10
若菜下	150		この宮をは			1143・11
若菜下	151		むげに世ちかく			1143・12
若菜下	152		たいめんなん			1143・13
若菜下	153		まいり給へく			1144・2
若菜下	154		ついてなる			1144・3
若菜下	155		たりたまはん年			1144・5
若菜下	156		御心しらひ共			1144・7
若菜下	157		右の大との			1144・9
若菜下	158		七よりかみは			1144・10
若菜下	159		宮はもとより			1144・14
若菜下	160		おほつかなく			1145・1
若菜下	161	さりともことはかりは	さりともことはりは			1145・4
若菜下	162		たいこく			1145・10
若菜下	163		空のさむさぬるさ			1145・11
若菜下	164		ゆしあんする			1145・14
若菜下	165		御子二ところ			1146・5
若菜下	166		十一日過して			1146・6
若菜下	167		冬の夜の月			1146・9
若菜下	168	かのかた	このかたに			1146・10
若菜下	169		をんなかく			1147・4
若菜下	170		このわたり			1147・4
若菜下	171		はか十十しくつたへ			1147・5
若菜下	172		琴			1147・10
若菜下	173		此御ことのね			1147・10
若菜下	174		廿一二はかり			1147・12
若菜下	175		ぬんに			1147・14
若菜下	176		月たゝは			1148・5
若菜下	177		しんでんにわたし			1148・7
若菜下	178		こなたに			1148・8
若菜下	179		わらはへ			1148・9
若菜下	180		あか色			1148・10
若菜下	181		うす色			1148・10
若菜下	182		紅のうちたる			1148・11

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜下	183		いと			1148・12
若菜下	184		青色に			1148・14
若菜下	185		山吹なるからのきを			1148・14
若菜下	186		こうはい			1149・1
若菜下	187		あをし			1149・2
若菜下	188		うちめ			1149・2
若菜下	189	宮の御かたに	宮の御かた			1149・2
若菜下	190		あをきに			1149・4
若菜下	191		さはいへと			1149・8
若菜下	192		右の大あとのゝ三郎			1149・8
若菜下	193		左大将			1149・9
若菜下	194		御こととも			1149・10
若菜下	195		ごんちの袋			1149・11
若菜下	196		こと十しきことは			1149・13
若菜下	197	ゆるに	ゆるふ			1149・14
若菜下	198		猶大将を			1150・2
若菜下	199		明石君			1150・4
若菜下	200		うへのきこしめす			1150・6
若菜下	201		和こんこそ			1150・7
若菜下	202		春のこの音			1150・8
若菜下	203		心けさうして			1150・9
若菜下	204		花はこそその古雪に			1150・13
若菜下	205		うくひすさそふ			1150・14
若菜下	206		おと			1151・1
若菜下	207		すこしし出て			1151・2
若菜下	208		いちこつてうの声にはち			1151・4
若菜下	209		猶かきあはせはかり			1151・5
若菜下	210		さしいらへにましふ			1151・7
若菜下	210+	〈欠〉	さもある			1151・7
若菜下	211		神さひたるてつかひ			1151・13
若菜下	212		ふかきらう			1152・3
若菜下	213		物のひま十+			1152・4
若菜下	214		ふつゝかに			1152・9
若菜下	215		月心もとなき			1152・11
若菜下	216		宮の御かた			1152・12
若菜下	217		うくひすの			1153・1
若菜下	218		夏にさき			1153・5
若菜下	219		ふくらかなる			1153・6
若菜下	220		をよひたる			1153・8
若菜下	221		ほかけの御すかた			1153・10
若菜下	222		花といはゝ			1153・13
若菜下	223	ことさら	〔こ〕とさら	ことさら	整版本、「こ」字版木欠損。	1153・14
若菜下	224		はちのもてなし			1154・6
若菜下	225		さ月まつ			1154・7
若菜下	226		みしおりよりも			1154・9
若菜下	227		院はたひ十+			1154・11
若菜下	228		此御かた			1154・14
若菜下	229	臥まちの月	臥まち月			1155・4
若菜下	230	春の朧月夜に	春のおほる月夜句			1155・4
若菜下	231	虫の声	むしの声句よりあはせ			1155・5
若菜下	232		つくりあはせたる			1155・8
若菜下	233		かきりこそ侍る			1155・9
若菜下	234		かすみの間より			1155・9
若菜下	235	吹あはせたるやうにはいかてか	吹あはせたるやうには			1155・10
若菜下	236		女は春をあはれふ			1155・10
若菜下	237		いなこのさためよ			1155・12
若菜下	238		いにしへより			1155・13
若菜下	239		こくの物			1155・14
若菜下	240		りちをはつきの物にしたる			1155・14
若菜下	241		そのこのかみ			1156・3
若菜下	242		このかく			1156・3
若菜下	243		年比から			1156・5
若菜下	244		まさる所なる			1156・6
若菜下	245		をよすけてやはと			1156・9
若菜下	246		のほりての世の			1156・9
若菜下	247		かたはらなきを			1156・11
若菜下	248		わさともあらぬ			1156・12
若菜下	249	和琴一	和琴			1156・14
若菜下	250		おさ十きははなれぬ			1157・1
若菜下	251		いとさこと十しききは			1157・2
若菜下	252		ひははしも			1157・4
若菜下	253		われかしこ			1157・7
若菜下	254		たとりふかき人の			1157・10
若菜下	255		さるかたかるとに			1157・11
若菜下	256		きんは			1157・12
若菜下	257		跡のまゝに			1157・13
若菜下	258		あめつちをなひかしきしん			1157・13

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若葉下	259		よろつの物の音			1157・13
若葉下	260		この國にひき			1158・2
若葉下	261		しらぬ國に			1158・3
若葉下	262		空のほしをうこかし			1158・5
若葉下	263	そのかみのかたはしもなきそと也	そのかみのかたはしもなきそと也…			1158・7
若葉下	264		鬼神のみみ			1158・8
若葉下	265		よからすとか			1158・9
若葉下	266		うるさきまゝに			1158・10
若葉下	267		世の中にひとり			1158・12
若葉下	268		しらへーにてを			1159・1
若葉下	269		こゝにつたはるふと			1159・3
若葉下	270		師とすへき			1159・4
若葉下	271		猶あかりての人			1159・5
若葉下	272		つたはるへきすゑもなきと			1159・6
若葉下	273		そも			1159・8
若葉下	274		この宮いまより			1159・9
若葉下	275		うへにゆつり			1159・11
若葉下	276		かつらきの哥は		古活字本、東洋文庫本276 注釈2行目以降289マデ 欠、陽明文庫本ハ整版本 二同シ。	1159・12
若葉下	277		はゝ君の			1160・2
若葉下	278		ゆの音			1160・2
若葉下	279		この御てつかひ			1160・2
若葉下	280		りんのて			1160・4
若葉下	281		かへり声			1160・5
若葉下	282		きんは五かの			1160・5
若葉下	283		五六のはち			1160・7
若葉下	284		春秋よろつ物の物に			1160・8
若葉下	285		この君たち			1160・10
若葉下	286	耳とまらぬ	耳とからぬ			1160・13
若葉下	287		さうの笛			1160・14
若葉下	288		こなたより			1161・1
若葉下	289		御ふゑをたてまつる			1161・4
若葉下	290		つたへ十			1161・8
若葉下	291		恋しくおほゑ			1161・11
若葉下	292		つき十			1162・1
若葉下	293		院はたいへ			1162・3
若葉下	294		うへはとまり			1162・3
若葉下	295		うるさく			1162・5
若葉下	296		宮の御ことは			1162・5
若葉下	297		こと十十なく			1162・5
若葉下	298		さかし			1162・7
若葉下	299		てをとる十			1162・7
若葉下	300		むかしのつかぬ			1162・12
若葉下	301		かやうのすち			1163・2
若葉下	302		くし			1163・5
若葉下	303		ことしは卅七			1163・7
若葉下	304		おほきなる事			1163・11
若葉下	305	こ憎都	こ憎都			1163・11
若葉下	306		みつからは			1163・13
若葉下	307		かなしきめを			1164・1
若葉下	308		かの一ふし			1164・5
若葉下	309		きさきといひ			1164・6
若葉下	310		おほしするや			1164・11
若葉下	311		この宮			1164・11
若葉下	312		御みつからのうへ			1164・12
若葉下	313		の給ふやうに			1164・14
若葉下	314	物なけかしきは	物なけかしきは			1164・14
若葉下	315		しらすかほにて			1165・3
若葉下	316		それはしも			1165・4
若葉下	317		何となくて			1165・5
若葉下	318		おほくは			1165・9
若葉下	319	大将の母君	大将母君			1165・11
若葉下	320		さかし			1166・2
若葉下	321		人みえにく			1166・4
若葉下	322		身のあは十十しく			1166・9
若葉下	323		けに人から			1166・10
若葉下	324		中宮をさるへき			1166・11
若葉下	325		かの世なから			1166・12
若葉下	326		内の御かたの御うしろみ			1166・14
若葉下	327		こと人はみねは			1167・3
若葉下	328	たとしへなき	たとへなき			1167・5
若葉下	329		女御は			1167・6
若葉下	330		めさましと心をき			1167・7
若葉下	331		君こそ			1167・9
若葉下	332		二すち			1167・10

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜下	333		いとけしきこそ			1167・11
若菜下	334		われに心をく			1167・13
若菜下	335		心ゆかせてこそ			1168・1
若菜下	336		よひあなと			1168・3
若菜下	337		世のたとひ			1168・4
若菜下	338		むかしかたりとも			1168・4
若菜下	339		つゐによる			1168・6
若菜下	340		けにの給ひつる			1168・6
若菜下	341		御身もぬるみ			1168・11
若菜下	342		女御の御かたより			1168・12
若菜下	343		御かゆ			1169・3
若菜下	344		そこ所とも			1169・6
若菜下	345		かのあん			1169・10
若菜下	346		きこゆることを			1170・3
若菜下	347		人ひとり			1170・12
若菜下	348		はやくまいり			1170・13
若菜下	349		わか宮の			1170・14
若菜下	350		ゆしくかくな			1171・3
若菜下	351		をきてひろき			1171・4
若菜下	352		きうなる人は久しく			1171・6
若菜下	× 353	御心のいとまもなけ也迄	〈欠〉		写本、注内容ナク、「又一日の御講尺」トアル。講釈ノ進行ヲ示スモノ。	1172・1
若菜下	354		いと時の人			1172・2
若菜下	355		おもふ事かなはぬ			1172・2
若菜下	356		二宮をなん			1172・3
若菜下	357	もとよりしみにしかた	もとよりしみにしかた			1172・5
若菜下	358		なくさめかたきをはすて			1172・6
若菜下	359		ご侍従といふかたらひ人は宮の			1172・7
若菜下	360		はやくより	はや＋＋より		1172・9
若菜下	361		おもひも付そめたるなり			1172・11
若菜下	362		院のうへたに			1173・2
若菜下	363		いとおしくもは			1173・7
若菜下	364		それはそれと			1173・8
若菜下	365		それをそれと			1173・9
若菜下	366		さこそは			1173・10
若菜下	367		なとてかは			1173・12
若菜下	368		御いたはり			1173・13
若菜下	369		いとかたき御こと			1173・14
若菜下	370		かのいんの			1173・14
若菜下	371		この比こそすこし			1174・2
若菜下	372		はちふく			1174・8
若菜下	373		こちたく	こちなたく		1174・9
若菜下	374		給フべけれ也			1174・9
若菜下	375		女御后			1174・9
若菜下	376		ありさまに			1174・10
若菜下	377		うち＋＋は			1174・10
若菜下	378		つきより			1174・14
若菜下	379		人におとされ			1175・1
若菜下	380		世になき御ありさま			1175・6
若菜下	381		なれすかた			1175・6
若菜下	382		物ふかゝらぬ			1175・10
若菜下	383		こうして			1175・10
若菜下	384		よろこひながら			1176・1
若菜下	385		けちかく中＋＋			1176・2
若菜下	386		おもふ事をも			1176・5
若菜下	387		みそきあすて			1176・7
若菜下	388		上臈にはあらぬ			1176・8
若菜下	389		あせちの			1176・10
若菜下	390		さまても			1176・13
若菜下	391		ゆかのしにも			1176・14
若菜下	392		かすならねと			1177・5
若菜下	393		心にくたして			1177・7
若菜下	394		院にも			1177・8
若菜下	395		うこかし			1177・10
若菜下	396		せきかねて			1177・12
若菜下	397		つみをもき			1177・14
若菜下	398		ひたふるなる心も			1178・3
若菜下	399		よ所の思ひやり			1178・4
若菜下	400		ゐてかくして			1178・9
若菜下	401		てならししねこの			1178・11
若菜下	402		何しにたてまつりつらん			1178・12
若菜下	403		おほしおほるゝ			1178・14
若菜下	404	院は	院は源氏			1179・4
若菜下	405		人の涙をさへ			1179・5
若菜下	406		ふよう			1179・10
若菜下	407	こよひにかきり	こよひにかきる			1179・11
若菜下	408	これにかへつるにても	これにかへつるにても			1179・13

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜下	409		夢かたりも			1180・6
若菜下	410		おほしあはする			1180・7
若菜下	411		心つくしなり			1180・8
若菜下	412		おきて行哥			1180・9
若菜下	413		明暮の哥			1180・11
若菜下	414		玉しぬは			1180・12
若菜下	415		女宮の御もと			1180・13
若菜下	416		しかいちじるき			1181・6
若菜下	417		かきりなき			1181・8
若菜下	418		世つきたる			1181・8
若菜下	419		うへはゆへあり			1181・9
若菜下	420		これはふかき			1181・10
若菜下	421		心をつくし給ふ			1181・14
若菜下	423		かの御心ちの		資料稿項目番号422ナシ	1182・3
若菜下	424		かくけしきも			1182・7
若菜下	425		まつりの日			1182・9
若菜下	426		女君をは			1182・11
若菜下	427		くやしそ哥			1183・1
若菜下	428		女宮かゝる			1183・3
若菜下	429		今ひときは			1183・7
若菜下	430		もろかつら哥			1183・9
若菜下	431		いとなめけなるしりうこと			1183・9
若菜下	432		かのゐん			1183・13
若菜下	433		まか十しき			1183・13
若菜下	434		めしあつめて			1184・6
若菜下	435		かきりある			1184・6
若菜下	436		不動尊のもの			1184・7
若菜下	437		とまり給へき			1184・12
若菜下	438		てうせられて			1185・1
若菜下	439		月比てうし			1185・2
若菜下	440		おほしらせん			1185・3
若菜下	441		いまこそかく			1185・4
若菜下	442		たぶれたる			1185・9
若菜下	443		わか身こそ哥			1185・14
若菜下	444		さすかに			1186・1
若菜下	445		道ことに成ぬれは			1186・3
若菜下	446		心のしう			1186・4
若菜下	447		こゝろよからず			1186・6
若菜下	448	はふきかへし給へとこそおもへは	はふきかへし給へとこそ思へと	はふきかへし給へとこそ思へと省		1186・8
若菜下	449		打おもひし			1186・8
若菜下	450		かくいみしき			1186・8
若菜下	451		所せき也			1186・8
若菜下	452		まもりつよく			1186・10
若菜下	453		よし今は			1186・11
若菜下	454		齋宮におはせし			1187・14
若菜下	455		ふんじこめ			1187・3
若菜下	456		かくうせ			1187・4
若菜下	457	けふのかへさ見に	けふのかへさに			1187・5
若菜下	458		さいはひ人			1187・6
若菜下	* 459	二品宮	何をさくらに			1187・8
若菜下	* 460	何を桜に	二品宮			1187・10
若菜下	461		もとの御おほえ			1187・10
若菜下	462		何か憂世に			1187・13
若菜下	463		式部卿宮			1188・2
若菜下	464		大将の君			1188・4
若菜下	465		ゆゝしき			1188・4
若菜下	466		いとをむく			1188・6
若菜下	467		をもきひやうさ			1188・12
若菜下	468		ことさらに			1188・14
若菜下	469		かゝるおりのらうろう			1189・1
若菜下	470		はらきたなき			1189・2
若菜下	471		うつし人にてたに			1189・3
若菜下	472		このおりは			1189・5
若菜下	473	おなしつみふかさ	おなしつみふかさ			1189・6
若菜下	474		五かいばかり			1189・10
若菜下	475		もろ心			1189・12
若菜下	476		まくらがみ			1190・5
若菜下	477		おり十かなしけなる			1190・6
若菜下	478		なきやうなる			1190・8
若菜下	479		ゆゝしうて			1190・13
若菜下	480		六条院にはあからさま			1190・13
若菜下	481		夢のやうに			1191・2
若菜下	482		ひとしくたに			1191・4
若菜下	483		めさまじうのみ			1191・7
若菜下	484		哀なる御すくせ			1191・7
若菜下	485		みたてまつりとかめて			1191・8
若菜下	486		つふやき恨			1191・8

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜下	487		わたり給			1191・9
若菜下	488		女君はあつく			1191・9
若菜下	489		さを白く			1191・12
若菜下	490		あれたりつる院の			1192・1
若菜下	491		哀に今まで			1192・3
若菜下	492		あれ見給へ			1192・5
若菜下	493	かくて見たてまつるも	かくて見たても			1192・6
若菜下	494		みつからもあはれに			1192・8
若菜下	495		きえとまる哥			1192・9
若菜下	496		契りをかん哥			1192・10
若菜下	497		めにちかき			1192・11
若菜下	498		かゝる雲ま			1192・12
若菜下	499		あやしく			1193・4
若菜下	500		ふちやう也			1193・5
若菜下	501		いかに十+			1193・8
若菜下	502		我君の			1193・10
若菜下	503		かの人			1193・11
若菜下	504		またいとたよはし			1194・4
若菜下	505		ゆめ心			1194・6
若菜下	506		月待てとも			1194・12
若菜下	507		夕露に哥			1195・1
若菜下	508		待さとも哥			1195・4
若菜下	509		しつ心なく			1195・5
若菜下	510		よへのかはほり			1195・7
若菜下	511		風ぬるくこそ			1195・7
若菜下	512		すこしまよひたる			1195・9
若菜下	513		鏡など開て			1195・13
若菜下	514		めも見やらず			1196・1
若菜下	515		すこしあかれ			1196・5
若菜下	516		さはかりのいみを			1196・9
若菜下	517		いさとよ			1196・11
若菜下	518		いつのかは			1196・13
若菜下	519		人にもみえさせ			1197・2
若菜下	520		かくまでおもひ			1197・2
若菜下	521		なれきこえ			1197・4
若菜下	522		かくなやましく			1197・5
若菜下	523		かの中納言			1197・9
若菜下	524		昔かやうに			1197・13
若菜下	525		めつらしきさま			1198・2
若菜下	526		わか身なからも			1198・3
若菜下	527		みかとの御めをも			1198・6
若菜下	528		宮つかへといひて			1198・8
若菜下	529		又なきさま			1198・13
若菜下	530	みかとゝきこゆると	みかとゝきこゆれと			1199・1
若菜下	531		ねきこと			1199・2
若菜下	532		我身なからも			1199・4
若菜下	533		古院のうへも			1199・6
若菜下	534	恋の山ち	恋の山ちは			1199・9
若菜下	535		女君			1199・10
若菜下	536		心ちから			1199・11
若菜下	537		内よりはたひ十+			1199・14
若菜下	538		こなたかなた			1200・2
若菜下	539		内のきこし			1200・3
若菜下	540		われはおほし			1200・4
若菜下	541		けにあなちりに			1200・6
若菜下	542		ほゝゑみて			1200・8
若菜下	543		わたり給はんことは			1200・9
若菜下	544		日比へぬ			1200・12
若菜下	545		今はわか			1200・12
若菜下	546		空にめつき			1201・4
若菜下	547	給てけん	〈欠〉		写本、注釈ナシ。	1201・5
若菜下	548		あさ夕			1201・5
若菜下	549	身もしぬる心ちして	身もしむる	身もしつむる		1201・6
若菜下	550		かの御心にも			1201・9
若菜下	551		身のいたつらに			1201・12
若菜下	552		いてやしつやか			1201・13
若菜下	553	なんつけ奉らまほし	なんつけたてまつらま			1202・2
若菜下	554		さふらふ			1202・3
若菜下	555		よきやうとても			1202・14
若菜下	556		かの御事の			1202・5
若菜下	557		かくおもひはなち			1202・6
若菜下	558		うきに			1202・7
若菜下	559		くるしかりけり			1202・12
若菜下	560		女御のあまり			1203・1
若菜下	561		かうはるけ所			1203・2
若菜下	562		右のおとゝの北方			1203・4
若菜下	563		にくき心			1203・7
若菜下	564		このおとゝの			1203・8

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜下	565		ゆるされたる			1203・9
若菜下	566		契ふかき中なりければ			1203・10
若菜下	567		おなしこと			1203・12
若菜下	568		二条の内侍			1203・14
若菜下	569		かの御心よはさも			1204・1
若菜下	570	つねに御ほいの事	つみに御ほいのの事			1204・1
若菜下	571		いまなんと			1204・3
若菜下	572		あまの世を哥			1204・5
若菜下	573		おほしすてつとも			1204・6
若菜下	574		とくおほし立にし			1204・8
若菜下	575		御文のとちめ			1204・11
若菜下	576		をくれぬと			1204・12
若菜下	577		あま舟に哥			1204・14
若菜下	578		あまねきかたにても			1204・14
若菜下	579		女君にも			1205・3
若菜下	580		齋院と			1205・6
若菜下	581		齋院はた			1205・8
若菜下	582		かの人			1205・9
若菜下	583		よくこそあまた			1205・12
若菜下	584		わか宮を			1205・14
若菜下	585		みこたち			1206・2
若菜下	586		たゝ人は	たゝ人とはをのつから		1206・4
若菜下	587		はか++しきさまの			1206・6
若菜下	588		いかならんとて			1206・7
若菜下	589		またゝちなれぬ			1206・9
若菜下	590		けさ			1206・10
若菜下	591		六条の東の君			1206・10
若菜下	592		うるはしき			1206・11
若菜下	593		つくも所			1206・13
若菜下	594		は月は大将			1207・1
若菜下	595		なか月			1207・2
若菜下	596		ひめ宮			1207・3
若菜下	597		その月には			1207・4
若菜下	598		かんの君			1207・5
若菜下	599		病つきて			1207・7
若菜下	600		宮打はへて			1207・7
若菜下	601		いとくるしげに		注釈ナシ。	1207・8
若菜下	602		ことしはまきれ			1207・10
若菜下	603		御やまにも			1207・11
若菜下	604		ほか++にて			1207・11
若菜下	605		ひんなきことや			1208・1
若菜下	606		内わたりなど	打わたりなど		1208・3
若菜下	607		みやひをかはずへき			1208・3
若菜下	608		此みち			1208・5
若菜下	609		いと++おしく			1208・11
若菜下	610		おもはずにおもひ			1208・14
若菜下	611		はちらひて			1209・2
若菜下	612		今より後			1209・4
若菜下	613		御心にそむく			1209・5
若菜下	614		こゝたにも			1209・6
若菜下	615		いたりすくなく			1209・7
若菜下	616		さた過たる			1209・8
若菜下	617		院のおはし			1209・10
若菜下	618		いにしへよりほい			1209・12
若菜下	619		たとりうすき女かた			1209・12
若菜下	620	みつから心には	みつからの心には			1209・13
若菜下	621		ほたしはかりに			1210・3
若菜下	622		みつからの世たに			1210・4
若菜下	623		その外は			1210・5
若菜下	624		御心みたり			1210・8
若菜下	625		古ひとの			1210・12
若菜下	626		身にかはる			1210・12
若菜下	627	二宮	二宮落葉		注釈ナシ。	1211・4
若菜下	628		かのごまかなりし			1211・1
若菜下	629		ふるめかしき			1211・4
若菜下	630		霜月は			1211・5
若菜下	631	やはにて	やはにて句			1211・7
若菜下	632		何さま			1211・9
若菜下	633		みんなつけても			1211・11
若菜下	634		なやみわたり			1211・14
若菜下	635		すき物は	すき物は柏也		1212・1
若菜下	636		女御の君も			1212・5
若菜下	637		このたひのみこは			1212・6
若菜下	638		すき++			1212・7
若菜下	639		過るよはひ			1212・7
若菜下	640		てうかくのやうに			1212・9
若菜下	641		かの御かたは			1212・10
若菜下	642	おまへの物は見給はず	おまへの物は見給はず句			1212・10

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜下	643		れいのけちかき			1213・3
若菜下	644		只ことのさまの			1213・8
若菜下	645		そのことゝなくて			1213・10
若菜下	646		みこのほうし			1213・12
若菜下	647	年もせめ	〈ナシ〉(646注ノ一部)			1213・13
若菜下	648		いもゐの御鉢			1213・13
若菜下	649		家におひ出る			1213・14
若菜下	650	そのことを	そのことをせめて			1214・1
若菜下	651	月比	月比柏詞			1214・2
若菜下	652		みたりかきひやう			1214・6
若菜下	653		かうふりをかけ			1214・10
若菜下	654		つく所なし			1214・11
若菜下	655		をもきやまひを			1214・12
若菜下	656		いかめしき事をは			1214・14
若菜下	657		いかめしききし御賀の			1215・2
若菜下	658		たゝかく			1215・4
若菜下	659		されはよと			1215・5
若菜下	660		もとよりしまぬ			1215・6
若菜下	661		大将	大将柏と		1215・9
若菜下	662		ひんかしのおとゝ			1215・14
若菜下	663		おこなひくはへ			1216・1
若菜下	664		けにこのみちは			1216・2
若菜下	665		あかきしらつるはみ			1216・4
若菜下	666		けふはあを色			1216・5
若菜下	667		かく人			1216・5
若菜下	668		せんゆふか			1216・7
若菜下	669		春のとなり			1216・8
若菜下	670		右のおとゝ			1216・9
若菜下	671		兵部卿			1216・12
若菜下	672		右の大との			1216・11
若菜下	673		源中納言			1217・1
若菜下	674		わうしやう			1217・1
若菜下	675		御むまこの			1217・4
若菜下	676		あるしのいん			1217・8
若菜下	677		ゑいなき			1217・9
若菜下	678		衛門督			1217・9
若菜下	679		さかさまに			1217・10
若菜下	680	空ゑひ	空ゑひを			1217・13
若菜下	681		もたせながら			1218・1
若菜下	682		ゑいにもあらぬを			1218・3
若菜下	683		けのゝほり			1218・4
若菜下	684		よ所十にて			1218・7
若菜下	685	かとてにやと	かとにてやと			1218・10
若菜下	686		世のことゝして			1218・12
若菜下	687		ことはりや			1219・2
若菜下	687+	〈欠〉	とまりかたき			1219・6
若菜下	688		えゆきやるましき			1219・6
若菜下	689		まつ見えんとは			1219・8
若菜下	690		人より先			1219・11
若菜下	691		いと忍ひて			1219・14
若菜下	692		たゆく			1220・2
若菜下	693		なく十十			1220・4
若菜下	694		かうじ			1220・7
若菜下	695		女宮の御心			1221・3
若菜下	696		五十寺			1221・3
若菜下	697		又かのおはしますみでら			1221・4
若菜下	698		まかひるさなの			1221・4
若菜下	× 698+	〈ナシ〉(△1字下ゲ・698注ノ一部)	後漢書列傳			
若菜下	× 698++	〈ナシ〉(698注ノ一部)	〈ナシ〉(698+注ノ一部)	韓		
若菜下	(699)	一たかき心さしありて	〈欠〉			1039・3
若菜下	(700)	一北のかへにそへてをき物のみつし	〈欠〉			1080・14
若菜下	(701)	一いにしへの朱雀院の御幸に青海波のいみしかりしゆふへ思出ぬ人々は権中納言衛門督の又をとら	〈欠〉			1081・7
若菜下	(702)	一大将の君の御ゆかりにいとよかすまへられ給へ	〈欠〉			1086・14
若菜下	(703)	一かのこたいの尼君はわかみやをえ心のとかにみたてまつらぬなむあかすおほえける	〈欠〉			1093・4
若菜下	(704)	一心あらむけさう人のなかうたよみてふんしこめたる心ちこそすれとの給へはあなうたてやいまめかしくなりかへらせ給める御心	〈欠〉			1103・4

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
若菜下	(705)	一身に人しれぬ思そひたらんも又まことに心ちゆき ○けにとよ○こほりなかる へにし打まれはかたへ の人にひかれつゝおなし 氣はひにもてなしになたら	<欠>			1109・5
柏木	1		おとよ北方			1227・1
柏木	2		つみおもかる			1227・2
柏木	3	思ひのほりにし	おもひのほりし			1227・5
柏木	4		ひとつふたつ			1227・6
柏木	5		なへての世中			1227・7
柏木	6		野山にも			1227・8
柏木	7		物思ひの一かたならぬ			1227・10
柏木	8		さるへぎに			1227・12
柏木	9		たれもちとせ			1227・13
柏木	10		なけの衰をも			1227・14
柏木	11		ひとつおもひに			1228・1
柏木	12		せめてなからへは			1228・1
柏木	13		なめしと			1228・2
柏木	14		いとあちきなし			1228・6
柏木	15		枕もうきぬ			1228・7
柏木	16		今は			1228・8
柏木	17		今はとて哥			1228・13
柏木	18		心のとめて			1228・13
柏木	19		侍従にも			1229・1
柏木	20	こりすまに	<ナシ>(19注ノ一部)			1229・1
柏木	21		この人も			1229・2
柏木	22		われもけふか			1229・5
柏木	23		御心本上			1229・7
柏木	24		はつかしける			1229・7
柏木	25		かつらき山より			1229・11
柏木	26		おんみやうじ		注釈ナシ。	1230・2
柏木	27		このひしりも			1230・4
柏木	28		まぶしつべたましく			1230・5
柏木	29		だらにのこゑ	たしにのこゑ		1230・6
柏木	30		おとなひ			1230・9
柏木	31		かゝる物共と			1230・10
柏木	32	何の罪とも	何の罪にてもなし			1230・12
柏木	33		むかしの世にも			1231・2
柏木	34		御光なるへし			1231・4
柏木	35		ふかきあやまちも			1231・5
柏木	36		まとひ初にし			1231・5
柏木	37		むすひとゝめ			1231・6
柏木	38		さて打しめり			1231・8
柏木	39		なかき世のほたし			1231・12
柏木	40		心くるしき御こと			1231・12
柏木	41		みし夢を			1231・13
柏木	42		心くるしう聞ながら			1232・2
柏木	43		立そひて哥			1232・5
柏木	44		をくるへう			1232・5
柏木	45		鳥の跡のやう			1232・8
柏木	46		行ゑなき哥			1232・10
柏木	47		夕はわきて			1232・10
柏木	48		むごにむかへずへて			1233・2
柏木	49		何か			1233・5
柏木	50		思ひまじる			1233・9
柏木	51		けしきもらさしと			1233・10
柏木	52		はん僧			1233・11
柏木	53		生給ぬ			1233・12
柏木	54		又かく心くるし			1234・1
柏木	55		をそろしと			1234・2
柏木	56		むかはりきぬれは			1234・4
柏木	57		つかかさね			1234・7
柏木	58		中宮			1234・8
柏木	59	きは十+	<ナシ>(58注ノ一部)			1234・10
柏木	60		御かゆどむじき			1234・10
柏木	61		ちやうのめしつぎ			1234・11
柏木	61+	<ナシ>(61注ノ一部)	大夫より			1234・11
柏木	62		さばれ			1235・3
柏木	63		むつかしけに			1235・6
柏木	64		さのみこそは			1235・10
柏木	65		さやうにみたて			1236・6
柏木	66	心をれ給はんか	心をかれ給はんか			1236・8
柏木	67		ためし			1236・13
柏木	68		年比みたて			1237・6
柏木	69	よにかくれ	よにかくれて			1237・9
柏木	70		このみちのやみ			1237・12
柏木	71		たうりの			1237・13

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
柏木	72		みかたち			1238・1
柏木	73		うら山しく			1238・2
柏木	74		わつらひ給ふ			1238・3
柏木	75		よひのかちの僧			1238・8
柏木	76		さなから			1238・10
柏木	77		そしらるゝやう			1238・14
柏木	78		日比もかくなん			1239・2
柏木	79		ざげ			1239・2
柏木	80		それにまけぬとて			1239・4
柏木	81		御心のうち			1239・6
柏木	82		何かは			1239・10
柏木	83		あつけをき奉りしるしには			1239・12
柏木	84	そうぶん	そうぶん			1239・13
柏木	85		かつは			1240・7
柏木	86		つれなくてうらめしと			1240・8
柏木	87		みゆき			1241・6
柏木	88		世中			1241・7
柏木	89		又しる人			1241・8
柏木	90		きこえつけて			1241・9
柏木	91		さらにかく			1241・13
柏木	92		こや			1242・1
柏木	93		とりかへしつと			1242・2
柏木	94		今はかへりなん			1242・3
柏木	95		くやしう			1242・5
柏木	96		女宮の			1242・9
柏木	97		今一たひ			1242・12
柏木	98	此宮	此宮の			1242・14
柏木	99		二品の宮			1243・2
柏木	100		たへぬ契り			1243・5
柏木	101		母うへにも			1243・7
柏木	102		右大弁			1243・9
柏木	103		よろこひに			1243・13
柏木	104		えためらひ			1243・14
柏木	105		大将の			1244・2
柏木	106		みたれなから			1244・6
柏木	107		けふはよろこひ			1244・11
柏木	108		なとかく			1244・12
柏木	* 109	えほしはかり	いとくちおしう			1244・14
柏木	* 110	いと口おしう	えほしはかり			1244・14
柏木	111		さらぼひ			1245・5
柏木	112		をくれ先たつ			1245・9
柏木	113		心にはをもくなる			1245・11
柏木	114		君につかうまつる			1246・4
柏木	115		はか++しからぬ		陽明文庫本1丁分(115-131)落丁。	1246・4
柏木	116		これかれあまた			1246・8
柏木	117		病づき		注釈ナシ。	1246・10
柏木	118		院の御賀			1246・11
柏木	119		ざうけん			1247・1
柏木	120		ろなう			1247・3
柏木	121		かうじ			1247・4
柏木	122		さらにさやう			1247・7
柏木	123		けにいさゝか			1247・11
柏木	124		今日あすとしも			1247・12
柏木	125		とくに			
柏木	126		みつからなから			1247・12
柏木	127		てかき			1248・4
柏木	128		女御をは			1248・5
柏木	129		大将の御かた			1248・6
柏木	130		右の大とのゝ北方			1248・7
柏木	131		やむ薬			1248・9
柏木	132		あはのきえいる			1248・10
柏木	133		下の心こそ			1248・10
柏木	134		たゝかくみしか			1248・13
柏木	135		おとゝ北方			1249・2
柏木	136		あま宮			1249・3
柏木	137		わか君			1249・5
柏木	138		物かたり			1249・9
柏木	139		れいの御さま			1249・10
柏木	140		御いかにもちい			1249・13
柏木	141		かたちことなる			1249・13
柏木	142		女にものし給はゝこそ			1249・14
柏木	143		もとの心を			1250・3
柏木	144		心くるしう			1250・4
柏木	145		御くしのすゑ			1250・5
柏木	146		すぎすぎ			1250・8
柏木	147		いまやう色			1250・9
柏木	148	また有つかぬ	<欠>			1250・10

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
柏木	149		子どもの			1250・10
柏木	150		めもくるゝ			1250・11
柏木	151		ふりかたう			1250・12
柏木	152		とりかへす			1250・14
柏木	153	今はとて	今はとておなし			1251・1
柏木	154		かゝるさま			1251・4
柏木	155	かひなの事や	〈ナシ〉(154注ノ一部)			1251・9
柏木	156		女御の宮たち			1251・9
柏木	157		この君いと			1251・10
柏木	158		たゞいまながら			1251・12
柏木	159		まなこゑ			1251・13
柏木	160		五十八			1252・4
柏木	161		しつかにおもひて			1252・3
柏木	162		この事の心しれる			1252・5
柏木	163		あへなん			1252・7
柏木	164		ふたついはんには			1252・7
柏木	165		物かたりして			1252・8
柏木	166		おや達の			1252・10
柏木	167		はかなきかたみ			1252・11
柏木	168		たか世にか哥			1253・3
柏木	169		たゞにはと			1253・5
柏木	170		すこし物おほえたる			1253・7
柏木	171		又去共			1253・12
柏木	172		猶むかしより			1253・14
柏木	173		いとよう			1254・1
柏木	174		むかしの契と			1254・5
柏木	175		女君にたに			1254・7
柏木	× 176	見まほしかりける迄	〈欠〉		写本、注内容ナク、「一日御講尺也」トアル。講釈ノ進行ヲ示スモノ。	1254・9
柏木	177	みわさ	〈欠〉		写本、注釈ナシ。	1254・10
柏木	178		ほうふく			1254・11
柏木	179	我等なきかせそ	われになきかせそ			1254・13
柏木	180		中十みちさまたけ			1254・13
柏木	181		おほつかなくて			1254・14
柏木	182		このみ給ひし			1255・2
柏木	183		音をたてぬも			1255・5
柏木	184		さき花やかに			1255・8
柏木	185		大将とのゝおはし			1255・10
柏木	186		弁の君宰相			1255・10
柏木	187		いみしき			1255・14
柏木	188		さるへき人十十にも			1255・14
柏木	189		神わさ			1256・4
柏木	190		立なからはた			1256・5
柏木	191		おやこの道の			1256・8
柏木	192		かゝる御ながらひの			1256・8
柏木	193	哀なることをや	哀なることをは			1256・11
柏木	194		又たくひなき			1256・11
柏木	195	おほし入りたり	おほしいりたる			1256・13
柏木	196		かた十十に			1257・1
柏木	197		をのつからちかき			1257・2
柏木	198		はしめつかたより			1257・3
柏木	199		身つからの心をきて			1257・5
柏木	200		みつからの			1257・6
柏木	* 201	おほろけの事ならて	みこたちは			1257・8
柏木	* 202	みこたちは	おほろけの事ならて			1257・8
柏木	203		けふりにも			1257・11
柏木	204		御とふらひ度十十			1257・13
柏木	205		さらはかの			1257・14
柏木	206		これかれ			1258・1
柏木	207	うれしきも	うれしきせは			1258・3
柏木	208		いとこよなう			1258・4
柏木	209		に三ねん			1258・5
柏木	210		あまりよの理を			1258・5
柏木	211		心うつくしからず			1258・6
柏木	212		かのおほしなけく			1258・9
柏木	213		かの君は			1258・10
柏木	214		ことしはかりは			1259・1
柏木	215		いま十十しきすち			1259・1
柏木	216		あひみん			1259・1
柏木	217		時しあれは哥			1259・3
柏木	218		わさとならぬは			1259・3
柏木	219	この春は歌	この春はの哥			1259・5
柏木	220		いとふかきよし			1259・5
柏木	221		出ゐのかた			1259・8
柏木	222		おやのけうよりも			1259・10
柏木	223		見たて			1259・11
柏木	224		御中よく			1259・12

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
柏木	225		たゝん			1260・1
柏木	226		此玉はぬく	此玉いぬく		1260・5
柏木	227		君の御はゝ君の			1260・6
柏木	228		みる人すくなう			1260・7
柏木	229		はか++しからねと			1260・9
柏木	230		あひたのむ人++			1260・9
柏木	231		ふかきおもひは			1260・11
柏木	232		なかめ給へる			1260・14
柏木	233		けふそ			1260・14
柏木	234		このたゝん紙に			1261・1
柏木	235		木の下の哥			1261・2
柏木	236		なき人も哥			1261・4
柏木	237		弁の君			1261・4
柏木	238	うらめしや歌	うらめしや			1261・5
柏木	239		殿は心ことに			1261・6
柏木	240		すなこのうすき物のかくれ			1261・11
柏木	241		一むら薄			1261・13
柏木	242		いよすかけ			1261・14
柏木	243		猶めおとろかるゝ			1262・2
柏木	244		けふはすのこ			1262・2
柏木	245		とかく			1262・4
柏木	246		いと物あはれ也			1262・6
柏木	247		物よりことに			1262・6
柏木	248		枝さしかはし			1262・6
柏木	249		ことならば哥			1262・9
柏木	250		柏木に哥			1262・13
柏木	251		あさう			1262・14
柏木	252		おほしなけく			1263・4
柏木	253		此宮こそ			1263・6
柏木	254		人わらはれ			1263・6
柏木	255		たゝならねは			1263・7
柏木	256		かたちそいと			1263・8
柏木	257		みるめにより			1263・10
柏木	258		さるましきは			1263・10
柏木	259		今は猶昔に			1263・11
柏木	260		そゝろか			1263・14
柏木	261		かのおとゝ			1263・14
柏木	262		いふしやうぐん			1264・3
柏木	263		それもいとちかき			1264・4
柏木	264		むへ++しき			1264・6
柏木	265		うへには			1264・8
柏木	266		御心ひとつ			1264・11
柏木	267		いさりなと			1264・13
柏木	(268)	一おとゝ北のかたなとはま していはんかたなく	〈欠〉			1249・2
横笛	1		故権大納言			1269・1
横笛	2		いかにそや			1269・4
横笛	3		御はてにも			1269・6
横笛	4		よろつもしらす			1269・6
横笛	5		こかね百りやう			1269・7
横笛	6		おとゝは心もしらて			1269・7
横笛	7		なき跡にも			1269・11
横笛	8		おなし道をこそ			1270・1
横笛	9		たえず			1270・3
横笛	10		たかうな			1270・4
横笛	11		ところなと			1270・4
横笛	12		春の山かすみも			1270・5
横笛	13		世をわかれ哥			1270・7
横笛	14		いとかたきわざになん			1270・7
横笛	15		らいしとをも			1270・8
横笛	16		けふかあすか			1270・10
横笛	17		おなし所なとは			1270・11
横笛	18		われさへ			1270・12
横笛	19		かきかへ			1271・1
横笛	20		うき世には哥			1271・3
横笛	21		うしろめたけ			1271・3
横笛	22		つみえぬへく			1271・7
横笛	23		からのこもん			1271・10
横笛	24		うしろのかきり			1271・12
横笛	25		柳をけつり			1271・13
横笛	26	ことさらに	ことさらには			1271・13
横笛	27		かれはいと			1272・1
横笛	28		あならうかはし			1272・6
横笛	29		女宮ものし給める			1272・10
横笛	30		花のさかりは			1272・12
横笛	31		雲もよゝ			1272・14
横笛	32		いとねちけたる			1272・14
横笛	33		うきふしも哥			1273・2

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
横笛	34		ゐてはなち			1273・2
横笛	35		いとそゝかしよう			1273・3
横笛	36		うきふし			1273・4
横笛	37		身つからの御すくせも猶あかぬ			1273・6
横笛	38		過にしつみ			1273・9
横笛	39		えとりやらて			1274・2
横笛	40		わか御との			1274・6
横笛	41		すたき			1274・7
横笛	42		むしのね			1274・8
横笛	43		りちにしらへ			1274・9
横笛	44		こ君			1274・13
横笛	45		哀いとめつらかなる			1274・13
横笛	46		この御ことにも			1274・14
横笛	47		琴のをたえにし			1275・1
横笛	48		わらはあそひ			1275・2
横笛	49		女宮たち			1275・3
横笛	50		あらぬさまにから			1275・4
横笛	51		世のうきつま			1275・5
横笛	52		いと理の			1275・6
横笛	53		かきりたに			1275・6
横笛	54		ことはをしやり			1275・7
横笛	55		かれ猶			1275・7
横笛	56		聲につたはる			1275・7
横笛	57		みみをたに			1275・8
横笛	58		しかつたはる中のを			1275・9
横笛	59		はねうちかはす			1275・12
横笛	60		さうのことを			1275・13
横笛	61		さうぶれん			1276・1
横笛	62		おもひをよひかほ			1276・1
横笛	63		まして			1276・3
横笛	64		ことについて、哥			1276・5
横笛	65		末つかたをいさゝか			1276・5
横笛	66		ふかき夜の哥			1276・7
横笛	67		古き人の			1276・8
横笛	68		すき十しき			1276・10
横笛	69		ひきたかふる			1276・12
横笛	70	こよひの御すきには	こよひ御すきには			1276・14
横笛	71	こよひからありける	(ナシ)(70注ノ一部)			1276・14
横笛	72		あはずは何を			1277・2
横笛	73		御をくり物に笛を			1277・2
横笛	74		ふるきことも			1277・3
横笛	75		かゝるよもきふに			1277・4
横笛	76		御さきにきほはん			1277・4
横笛	77		につかはしからぬ			1277・5
横笛	78		これかねに			1277・7
横笛	79		むかしをしのふ			1277・9
横笛	80		露しげき哥			1277・12
横笛	81		よこ笛の哥			1277・14
横笛	82		いもとわれと			1278・4
横笛	83		みぬさとも			1278・6
横笛	84		かゝる夜の月			1278・7
横笛	85		こ君			1278・7
横笛	86		みをとらせんこそ			1279・1
横笛	87		大かたの世につけてもかきりなく			1279・1
横笛	88		わか御中			1279・2
横笛	89		打けしきはみ			1279・3
横笛	90		おこりならひ			1279・4
横笛	91		笛竹に哥			1279・8
横笛	92		おもふかたこと			1279・8
横笛	93		つたみ			1279・10
横笛	94		みみはさみ			1279・11
横笛	94+	<欠>	かはらかなる			1279・14
横笛	95		うちまき			1279・14
横笛	96		なつみて			1280・8
横笛	97		なきむつかり			1280・8
横笛	98		行へきかた			1280・10
横笛	99		一ねん			1280・11
横笛	100		をたきにすきやう			1280・14
横笛	101		心よせの			1281・1
横笛	102		佛のみちに			1281・2
横笛	103		女御の御かた			1281・3
横笛	104		三宮			1281・3
横笛	105		こなたにそ			1281・4
横笛	106		大將こそ宮いたき奉りて			1281・5
横笛	107		かしこまりて			1281・6
横笛	108		みずのまへをは			1281・6
横笛	109		きやうきやう			1281・7
横笛	110		われかほは			1281・7

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
横笛	111		ごなたにも二宮の若宮と			1281・9
横笛	112		院も			1281・12
横笛	113		大やけの御ちかきまもり			1281・12
横笛	114		所さり			1282・1
横笛	115		うちゑみて			1282・3
横笛	116		公卿のみさや			1282・4
横笛	117		わたり給はん			1282・4
横笛	118		宮のわか君			1282・5
横笛	119		心のくせ			1282・7
横笛	120		大将のこの君を			1282・8
横笛	121		なをしのかきりをきて		整版本、注ノ2行目以下1字上げ。	1282・10
横笛	122		なまめとまる			1282・12
横笛	123		をかしょうかほれる			1282・13
横笛	124		いとよくおほえて			1282・14
横笛	125		ちゝおとゝの			1283・4
横笛	126		いていかて			1283・7
横笛	127		たいへ			1283・9
横笛	128		おはせし			1283・11
横笛	129		ほゝゑみて			1283・11
横笛	130	昔のことかゝりたる	むかしのこと△かゝりたる			1283・11
横笛	131		かのさうぶれん			1283・12
横笛	132		もらすまう			1283・14
横笛	133		過にしかたの			1284・1
横笛	134		みたれなからんや			1284・3
横笛	135	さかし	さかしさと也			1284・4
横笛	136		すきは			1284・4
横笛	137		何のみたれか			1284・5
横笛	138		つねならぬ			1284・6
横笛	139		みしかく	〈ナシ〉(△1字下ゲ「みしかく…」)		1284・6
横笛	140		中++けんぎ			1284・6
横笛	141		けんぎ有かほに侍らめとてこそ			1284・7
横笛	142		心とさしすきて	いとさしすきて		1284・7
横笛	143		あされすき++			1284・11
横笛	144		かの夢かたり			1284・13
横笛	145	その笛は	その笛			1284・14
横笛	146		陽成院の御笛			1285・1
横笛	147		末の世の			1285・5
横笛	148		さやうに思ふなりけん			1285・5
横笛	149		この君も			1285・6
横笛	150		そのみけしきを			1285・7
横笛	151		いましもことについて			1285・8
横笛	152		されはよと			1285・13
横笛	153		しか人の			1285・14
横笛	154		かの夢は			1286・1
横笛	155		よるかたらすとか			1286・2
横笛	156		おほしけりとそ			1286・4
横笛	× (157)	竈	〈欠〉			
横笛	(158)	一、なま目とまる心もそひて見ればにやまなこみなとこれはいますこしつようかとあるさましたれとましりのとちめおかしょうかほれるけしきなといとよくおほえ給	〈欠〉			1282・12
鈴虫	1		夏比			1291・1
鈴虫	2		此たひはおとゝの君			1291・1
鈴虫	3		やかてしつらはせ給			1291・3
鈴虫	4		はなつくゑのおほひ			1291・4
鈴虫	5		めそめ			1291・4
鈴虫	6		よるのみちやうのかたひら			1291・6
鈴虫	7		まんたらと			1291・6
鈴虫	8		四おもて			1291・8
鈴虫	9		花の色を			1291・8
鈴虫	10		からの百歩のゑかう			1291・8
鈴虫	11		けうじのほさつ			1291・8
鈴虫	12		うつくしけなり			1291・9
鈴虫	13		荷葉のほう			1291・11
鈴虫	14	みちをかくしほろゝけて	みちをかくしほろゝけて			1291・11
鈴虫	15	ひとりかほり	ひとつかほり			1291・11
鈴虫	16		みつからの御持経は			1291・13
鈴虫	17		これをたにこの世の			1291・13
鈴虫	18		はしを見給ふ			1292・3
鈴虫	19		けかけたる			1292・4
鈴虫	20		ちんの花そく			1292・6
鈴虫	21		佛のおなしちやうのうへに			1292・6
鈴虫	22		きやうがう			1292・7
鈴虫	23		火とりとも			1292・11

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
鈴虫	24		あふぎ			1292・11
鈴虫	25		大かたのなり			1292・13
鈴虫	26		れいの物ふかいらぬ			1293・1
鈴虫	27		ひれふし			1293・3
鈴虫	28		宮にも			1293・4
鈴虫	29		おましをゆつり			1293・5
鈴虫	30		もろともにいそかん			1293・7
鈴虫	31		かの花の中の			1293・7
鈴虫	32	蓮葉を歌	蓮葉を云			1293・9
鈴虫	33		かう染の			1293・10
鈴虫	34		へたてなく哥			1293・11
鈴虫	35		七僧法服			1293・14
鈴虫	36		みしる人は			1294・2
鈴虫	37		むつかしうこまか			1294・2
鈴虫	38		たいいまの世にざえ			1294・5
鈴虫	39		ゆたけきさきら			1294・6
鈴虫	40		みすきやう			1294・8
鈴虫	41		ことひろこり			1294・9
鈴虫	42		夕の寺に			1294・11
鈴虫	43		今しも			1294・12
鈴虫	44		御そうぶんの宮			1294・13
鈴虫	45		よそ++にては			1294・14
鈴虫	46		有はてぬ		(ナシ)(△1字下ゲ「有はてぬ…」)	1295・2
鈴虫	47		かの宮をも			1295・3
鈴虫	48		院の御そうぶん			1295・5
鈴虫	49		わか御あつかひ		わか御あそひ	1295・8
鈴虫	50		西のわた殿			1295・9
鈴虫	51		ふる人			1295・12
鈴虫	52		かたちことにて			1296・2
鈴虫	53		れいの御心			1296・5
鈴虫	54		人目にこそ			1296・5
鈴虫	55		うちには			1296・6
鈴虫	56		十五夜の月の			1296・10
鈴虫	57		あかつき			1296・11
鈴虫	58		そゝきあへる			1296・12
鈴虫	59		あみたのたす			1296・14
鈴虫	60	ほの++きこゆ	ほの++きこゆ句			1296・14
鈴虫	61		中宮			1297・2
鈴虫	62		しるく鳴つたふるこそ			1297・3
鈴虫	63		人きかぬ			1297・5
鈴虫	64		いとへたて心			1297・5
鈴虫	65		大かたの哥			1297・8
鈴虫	66		いかにとや			1297・9
鈴虫	67		心もて哥			1297・11
鈴虫	68		すゝををこたりて			1297・12
鈴虫	69		月さし出て			1297・13
鈴虫	70		れいよりも			1297・14
鈴虫	71		大将の君			1298・2
鈴虫	72		こなたに			1298・3
鈴虫	73		いとつれ++			1298・3
鈴虫	74		内のおまへ			1298・6
鈴虫	75		むしのねの定を			1298・8
鈴虫	76	いつととも一	いつととも	ナシ	古活字本ハ75注ニ追イ込ミ1首ノ歌トスル。	1298・9
鈴虫	77		こよひのあらたなる			1298・10
鈴虫	78		故権大納言			1298・11
鈴虫	79		いとうるさかりし			1298・13
鈴虫	80		御ことのねにも			1298・14
鈴虫	81		みすの内にも			1298・14
鈴虫	82		かたつかたの御心			1299・1
鈴虫	83		内などにも			1299・2
鈴虫	84		鈴虫のえむ			1299・2
鈴虫	85		左大弁			1299・5
鈴虫	86		きこしめしてなりけり			1299・6
鈴虫	87		雲のうへを哥			1299・7
鈴虫	88		おなしくは			1299・7
鈴虫	89		月影は哥			1299・12
鈴虫	90		ことなる事			1299・12
鈴虫	91		みこ			1300・1
鈴虫	92	左衛門督藤宰相	左衛門督△藤宰相			1300・1
鈴虫	93		下かさねばかり			1300・3
鈴虫	94		ふえなど			1300・4
鈴虫	95		うるはしかるへき			1300・5
鈴虫	96		ねひとゝのひ			1300・8
鈴虫	97		いよ++こともの			1300・8
鈴虫	98		その夜の哥			1300・10
鈴虫	99		明かた			1300・11

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
鈴虫	100		中宮の御かた			1300・12
鈴虫	101		なににもつかぬ			1301・1
鈴虫	102		残りの人++			1301・4
鈴虫	103	きこえつけし	きこえつけし付也		整版本ハ「きこえつけし」ト「付也」ノ間ニワズカニ空白アリ。	1301・5
鈴虫	104		れいのいとわかう			1301・6
鈴虫	105		このへのへたて			1301・7
鈴虫	106		思ひの外に			1301・8
鈴虫	107		みな人の			1301・9
鈴虫	108	その心のうちもうけ給はらねは	その心のうち			1301・9
鈴虫	109		けに大やけさまに			1301・11
鈴虫	110		さしていとはしき			1301・13
鈴虫	111		心やすかるへき			1301・14
鈴虫	112		をしはかり			1302・2
鈴虫	113		ふかうもくみはかり			1302・3
鈴虫	114		かのの給ひけん			1302・8
鈴虫	115		たなき人			1302・9
鈴虫	116		さるしるし			1302・10
鈴虫	117		をくれし			1302・11
鈴虫	118		ものゝあなた			1302・12
鈴虫	119		みつからたに			1302・13
鈴虫	120		やう++つもるになん			1302・14
鈴虫	121		けにさもおほし			1302・14
鈴虫	122		朝露のかゝれる			1303・2
鈴虫	123		もくれんか			1303・3
鈴虫	124		佛にちかき			1303・3
鈴虫	125		えつかせ			1303・4
鈴虫	126		やう++			1303・5
鈴虫	127	しか思ひ給ふる	しかおもひ給へる			1303・6
鈴虫	128		物さはかき様に			1303・6
鈴虫	129		みつからのつとめにそへて			1303・7
鈴虫	130		猶やつし			1303・9
鈴虫	131		御をくり			1303・11
鈴虫	132		春宮の女御			1303・11
鈴虫	133		人にことなる			1303・12
鈴虫	134		院もつねに			1303・14
鈴虫	135		いそかされ給て			1304・2
鈴虫	136		中宮そ中++			1304・2
夕霧	1		さかしがり			1309・1
夕霧	2		みつからなと			1309・9
夕霧	3		をのといふ			1309・10
夕霧	4		御いのりの師に			1309・11
夕霧	5		ちかきゆかり			1309・14
夕霧	6		弁の君はた			1310・1
夕霧	7		ことの外なる			1310・2
夕霧	8		浄衣		注釈ナシ。	1310・5
夕霧	9		こと++しき御さま			1310・6
夕霧	10		宮そ			1310・7
夕霧	11		北のかたけしきとり			1310・10
夕霧	12		は月十日はかり			1310・11
夕霧	13		なにかしりし			1310・12
夕霧	14	松か崎のを山も	松か崎のを山	松か崎のを山しさる岩		1311・1
夕霧	15		けうもまさりて			1311・2
夕霧	16		いとかたしけなく			1311・9
夕霧	17		今しはし	今しはし命也		1311・11
夕霧	18		わたらせ給ひし			1311・12
夕霧	19		旅の御しつらひ			1312・2
夕霧	20		さはかりなゝり	<欠>		1312・4
夕霧	21		あなたの			1312・4
夕霧	22		れいの少将			1312・5
夕霧	23		年比と			1312・6
夕霧	24		又こそならはねいかにふるめかし			1312・8
夕霧	25	かるらかなり	かるらかなりし			1312・10
夕霧	26		ほのすきたる			1312・10
夕霧	27		すくずくしうをれて			1312・11
夕霧	28		けにいとあなつり			1312・12
夕霧	29		みつから聞え			1313・1
夕霧	30		こは宮の			1313・3
夕霧	31		身にかふはかり			1313・4
夕霧	32		たゝあなたさま			1313・7
夕霧	33		しかはりて六時にかはれり	しかはり		1313・13
夕霧	34		ひとつに			1313・14
夕霧	35		まかてんかたも			1314・5
夕霧	36		山里の哥			1314・7
夕霧	37		山かつの哥			1314・9
夕霧	38		中空なるわさ哉			1314・10

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夕霧	39		家路はみえす			1314・10
夕霧	40		やはらせ			1314・11
夕霧	41		つきなき人は			1314・11
夕霧	42		見知給はぬには			1314・13
夕霧	43		なさけなう			1315・2
夕霧	44		つかさのぜう			1315・3
夕霧	45	此律師	此律師に			1315・4
夕霧	46		ごしん			1315・4
夕霧	47		くるす野			1315・7
夕霧	48		みちたと++し			1315・9
夕霧	49		はひわたらん			1315・13
夕霧	50		みかへりたるに			1316・2
夕霧	51	いとようたとりて	いとようたとり			1316・3
夕霧	52		水のやうに			1316・5
夕霧	53		さすかね			1316・6
夕霧	54		なきぬはかりに			1316・8
夕霧	55		かはかりにて			1316・8
夕霧	56		いと心うくわか++しき			1316・13
夕霧	57		いかばかり			1317・1
夕霧	58		いひしらぬ御けしきの			1317・4
夕霧	59		さはいへと			1317・8
夕霧	60		たゝありの			1317・13
夕霧	61		猶かう			1317・14
夕霧	62		しれ++しき			1318・2
夕霧	63		世を知たる			1318・6
夕霧	64		めさましう			1318・7
夕霧	65	憂みつから	憂みつからの			1318・8
夕霧	66		我のみや哥			1318・11
夕霧	67		わか心につけて			1318・11
夕霧	68		いかにいひつる			1318・12
夕霧	69		けにあしう			1318・13
夕霧	70		大かたは哥			1319・1
夕霧	71		こ君の			1319・8
夕霧	72		おほしおとすとは			1319・9
夕霧	73		御心のうちにも			1319・10
夕霧	74		めさましき心のなりにし			1319・12
夕霧	75		よ所にきく			1319・12
夕霧	76		大との			1319・13
夕霧	77		院にも			1319・14
夕霧	78		御息所			1320・2
夕霧	79		おほしれよ			1320・5
夕霧	80	かしこうすかしやりつと	かしこうすかしやりつと…			1320・6
夕霧	81		あされたる			1320・8
夕霧	82		わかみつからも			1320・9
夕霧	83		萩わらや哥			1320・12
夕霧	84		ぬれころもは			1320・12
夕霧	85		御心つからこそはと			1320・13
夕霧	86		心のとはん			1320・14
夕霧	87		わけゆかん哥			1321・2
夕霧	88		年比人に			1321・3
夕霧	89	おもひかへしつゝ	思ひかへしつゝ句			1321・5
夕霧	90		六条院の東のおとゝ			1321・9
夕霧	91		ましてかしこには			1321・10
夕霧	92		夏冬と			1321・11
夕霧	93		おまへに			1321・12
夕霧	94		かしこに			1321・13
夕霧	95		たゝならぬふしにても			1322・2
夕霧	96		へたてける			1322・3
夕霧	97		きこえもらさん			1322・3
夕霧	98		昔物かたりにも			1322・6
夕霧	99		人++何かはほのかに			1322・7
夕霧	100		人にかばかり			1322・11
夕霧	101		思ひやりなかりし			1322・12
夕霧	102		さるはにくけもなく			1322・13
夕霧	103		玉しゐを哥			1323・1
夕霧	104		ほかなる物は			1323・1
夕霧	105		行かたしらす			1323・2
夕霧	106		れいのけしきなる		古活字本、東洋文庫本ハ 損傷アリ不鮮明。陽明文庫 本ニヨル。	1323・3
夕霧	107		何事につけても			1323・5
夕霧	108		かるかた			1323・6
夕霧	109		こうしやう			1323・12
夕霧	110		すぐ++しきりつし			1323・13
夕霧	111		そよや			1323・14
夕霧	112		さる事も			1323・14
夕霧	113		いとあやしく			1324・2
夕霧	114		いてあなかたは			1324・3

## 写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夕霧	115		みわい			1324・6
夕霧	116		せちにも			1324・10
夕霧	117		一かうに			1324・11
夕霧	118		やくなし			1324・12
夕霧	119		ほんさい			1324・12
夕霧	120		そうるい			1324・13
夕霧	121		みこの君			1324・13
夕霧	122		ぢやうやのやみ			1324・14
夕霧	123		人のいかり			1325・1
夕霧	124		いとあやしき			1325・3
夕霧	125		打やすみて			1325・4
夕霧	126		さやうにて			1325・5
夕霧	127		いとまめやかに			1325・6
夕霧	128		はふきすて			1325・8
夕霧	129		心ゆるさぬ事は			1325・9
夕霧	130		宮もほのかに			1325・14
夕霧	131		とてもかくても			1326・6
夕霧	132		心おさなきかきりこゝに			1326・10
夕霧	133		えの給ひ			1326・10
夕霧	134		よつかはしう			1326・12
夕霧	135		わたらせ給へ			1326・14
夕霧	136		ほころひたる			1327・3
夕霧	137		この人十十			1327・4
夕霧	138		あしのけ			1327・7
夕霧	139		をしくたさせ			1327・8
夕霧	140		けそ			1327・8
夕霧	141	みさうしかため	みさうしのかため			1327・10
夕霧	142	なけひ給へるけしき	なけい給へるけしき			1327・12
夕霧	143		この事にのみもあらず			1327・13
夕霧	144		まいていふかひなく人のことに			1328・2
夕霧	145		かはかりに			1328・4
夕霧	146		ぬりこめ			1328・5
夕霧	147		あけあはせて			1328・6
夕霧	148		ふつかみつか			1328・8
夕霧	149		のちかならず			1328・9
夕霧	150		又めぐり			1328・10
夕霧	151		あなかちに			1328・11
夕霧	152		物きこしめさすと			1329・2
夕霧	153		たゞ御心ちの			1329・3
夕霧	154		胸すこしあき給ふ			1329・3
夕霧	155		おほしよはる御心も下にそひて			1329・7
夕霧	156		猶きこえ給へ			1329・8
夕霧	157		底に			1329・8
夕霧	158		あまへたる			1329・10
夕霧	159	ひたふる心も付也	ひたふる心も	ひたふる心も付也		1329・12
夕霧	160		せくからに哥			1329・14
夕霧	161	心ちよかほにて	〈ナシ〉(△1字下ゲ)			1330・2
夕霧	162		こなたにちから			1330・4
夕霧	163		しほり			1330・6
夕霧	164		たのもしけなく			1330・7
夕霧	165		をみなへし哥			1330・10
夕霧	166		たゆめける			1330・11
夕霧	167		猶わたらせ			1330・13
夕霧	168		ひるつかた			1330・14
夕霧	169		ちへに			1331・2
夕霧	170		六条のひんかし			1331・8
夕霧	171		なを十十の			1331・11
夕霧	172		おもはん所を			1331・12
夕霧	173		年月にそふる			1331・13
夕霧	174		よのつねの事			1332・2
夕霧	175		まだあらじかし			1332・2
夕霧	176	とりのせう	とりのせうの		古活字本、東洋文庫本ハ 損傷アリ不鮮明。陽明文庫 本ニヨル。	1332・4
夕霧	177		あまたか中に			1332・5
夕霧	178		おきななのにかし			1332・7
夕霧	179		おれまとひ			1332・7
夕霧	180		をこつりとらん			1332・9
夕霧	181		あざむき			1332・9
夕霧	182		古ぬる人			1332・10
夕霧	183		かねてより		古活字本、東洋文庫本ノミ 1丁錯簡。183~195ト196 ~210ガ前後スル。	1332・11
夕霧	184		にはかに			1332・12
夕霧	185		まるをは			1332・14
夕霧	186		ことつけて			1333・1
夕霧	187	ことつけては	〈ナシ〉(186注ノ一部)			1333・1
夕霧	188		あひなき人の			1333・2

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夕霧	189		大ゆふの			1333・3
夕霧	190		あさり			1333・5
夕霧	191		むねはしりて			1333・5
夕霧	192		われも今			1333・9
夕霧	193		かくもとめんとも			1333・10
夕霧	194		ちらしてげり			1334・1
夕霧	195	おこかましうとりて	おこかましうて			1334・5
夕霧	196	古山風	太山風			1334・7
夕霧	197		何のおかしき			1334・8
夕霧	198		よの人に			1334・8
夕霧	199		此女房			1334・9
夕霧	200		おまし			1335・1
夕霧	201		かう心くるしき			1335・3
夕霧	202		かき給へるさまにて			1335・6
夕霧	203	あたへ	あたゑ			1335・8
夕霧	204		いてや			1335・8
夕霧	205		人もかくは			1335・10
夕霧	206	いかならん	いかならん句			1335・10
夕霧	207		玉さかに			1335・11
夕霧	208		猶よからん			1335・11
夕霧	209		いとめつらしき			1335・12
夕霧	210	秋の野の歌	秋のゝ哥			1336・1
夕霧	211		よへのつみは			1336・2
夕霧	212		足とき馬にうつし			1336・2
夕霧	213		後のきこえをも			1336・5
夕霧	214		さうしみの			1336・8
夕霧	215		かくいみしう			1336・10
夕霧	216		いと心くるしう			1336・12
夕霧	217		今さらに			1336・14
夕霧	218		みすくせ			1336・14
夕霧	219		そなたさま			1337・4
夕霧	220		人ふたり			1337・7
夕霧	221		思ひの外に			1337・9
夕霧	222		院よりはしめ			1337・10
夕霧	223	來の世まで	末の世まで			1337・12
夕霧	224	大空をかうちて	大空をかこちて			1337・13
夕霧	225		よその御名をは			1338・1
夕霧	226		こよなう			1338・3
夕霧	227		をしこめて			1338・3
夕霧	228		人にをとり			1338・5
夕霧	229		契ふかかりけん			1338・6
夕霧	230		くるしう			1338・7
夕霧	231		佛もつらく			1338・11
夕霧	232		打ちゝ給			1338・13
夕霧	233		さることの葉を			1338・14
夕霧	234		やかてたえ入			1339・1
夕霧	235		れいのこと			1339・2
夕霧	236		さるへきかきり			1339・9
夕霧	237		いつの間にかと			1339・10
夕霧	238		日比	日比をもく		1339・13
夕霧	239		つねにさこそ			1340・3
夕霧	240		やまとのかみ			1340・4
夕霧	241		けふよりのち			1340・7
夕霧	242		ひきへたてめつらし	ひきへたてめつらし		1340・10
夕霧	243	心つよさなれと	心つよさ	心つよさなれと		1340・14
夕霧	244		夢もさむるほと			1341・3
夕霧	245		おほしたりさま			1341・4
夕霧	246		いかに聞え			1341・6
夕霧	247		只今はなき人と			1341・9
夕霧	248		わたらせ			1341・10
夕霧	249		きこえやるへき			1341・11
夕霧	250		かのおほしたりし			1341・13
夕霧	251		かこちきこえさするさまに			1341・14
夕霧	252		かきりある事にて			1342・2
夕霧	253		の給ひ出る事も			1342・4
夕霧	254		猶きこえ			1342・5
夕霧	255		こよひしも			1342・6
夕霧	256		みたてまつる人十十			1342・12
夕霧	257		みねのけふり			1343・1
夕霧	258		西のひさしを			1343・3
夕霧	259		ひるまもなく			1343・6
夕霧	260		いのちさへ			1343・6
夕霧	261		とりてたに			1343・11
夕霧	262		うたかひなく			1343・11
夕霧	263		後の世の御つみに			1343・12
夕霧	264		むねにみつ			1343・13
夕霧	265		見知給はずは			1344・2
夕霧	266		こと事の			1344・3

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夕霧	267		我心に哀と			1344・4
夕霧	268		大宮			1344・5
夕霧	269		こはりの世の			1344・7
夕霧	270		大やけ++しき			1344・7
夕霧	271		わか方			1344・8
夕霧	272	左衛門督	こ衛門かみ			1344・9
夕霧	273		文かよはし		注釈ナシ。	1344・13
夕霧	274		はかなき			1345・1
夕霧	275		あはれをも哥			1345・2
夕霧	276		おほつかなき			1345・2
夕霧	277		にけなの			1345・3
夕霧	278		いつれとか哥			1345・5
夕霧	279		猶かくへたて			1345・6
夕霧	280		又わたり			1345・7
夕霧	281		たよつきて			1345・9
夕霧	282		かの一夜			1345・11
夕霧	283		すゝきはて			1345・12
夕霧	284		九月十日あまり			1345・13
夕霧	285		峯のくす			1345・14
夕霧	286		うれへかほ也			1346・4
夕霧	287		より所なけに			1346・5
夕霧	288		うちめ			1346・9
夕霧	289		ゑましき			1346・12
夕霧	290		すこの			1346・13
夕霧	291		猶ちかくてを			1346・14
夕霧	292		霧もいとふかしや			1347・1
夕霧	293		なを++と			1347・2
夕霧	294		すそをひき			1347・3
夕霧	295		つるばみ			1347・5
夕霧	296		かくつきせぬ			1347・6
夕霧	297		みる人ごとに			1347・7
夕霧	298	この人	この人少将			1347・9
夕霧	299		過にし			1347・12
夕霧	300		ほと++			1347・12
夕霧	301		おまへには			1347・14
夕霧	302		そよやそも			1348・2
夕霧	303		たれをかは			1348・4
夕霧	304		御山住も			1348・4
夕霧	305		さるへきにごそ			1348・5
夕霧	306		有へしと			1348・6
夕霧	307		かゝる御別の			1348・7
夕霧	308		われをとらめや			1348・9
夕霧	309		里とをみ哥			1348・10
夕霧	310		藤衣哥			1348・12
夕霧	311		おりあらは			1348・14
夕霧	312		十さん日			1349・2
夕霧	313	をくら山も	をくらの山も			1349・3
夕霧	314		大納言			1349・6
夕霧	315		みし人の哥			1349・8
夕霧	316		あかさりし			1349・9
夕霧	317		うへは			1349・10
夕霧	318		六条院の人++を			1349・11
夕霧	319		世のためし			1349・13
夕霧	320		そむき++に			1350・2
夕霧	321		いと心つきなし			1350・3
夕霧	322		はひ給はず			1350・4
夕霧	323		いつとかは哥			1350・6
夕霧	324		うへよりおつる			1350・6
夕霧	325		御かへりをたに			1350・7
夕霧	326		目には見給ひてけりと			1350・12
夕霧	327		人わろかりける			1350・12
夕霧	328		見つゝけ給へれば			1350・13
夕霧	329		あさゆふに哥			1350・14
夕霧	330		とや取なすへからん			1350・14
夕霧	331		古ことなど			1350・14
夕霧	332		あされ			1351・6
夕霧	333		いつかたにも			1351・10
夕霧	334		かやうのためし			1351・12
夕霧	335		をくらかし			1351・14
夕霧	336		女はかり			1351・14
夕霧	337		そは大かたものゝ心			1352・3
夕霧	338		おふしたてけん			1352・4
夕霧	339		物にはあらずや			1352・4
夕霧	340		無言太子			1352・5
夕霧	341		小法師はら			1352・5
夕霧	342		わか心			1352・6
夕霧	343	みやす所いみはてぬらん	御息所のいみはてぬらん			1352・9
夕霧	344		みとせ			1352・10

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夕霧	345		夕の露			1352・10
夕霧	346		いかてこのかみそり			1352・11
夕霧	347		まことに			1352・12
夕霧	348		いけるよのかきり			1353・1
夕霧	349		院よりも			1353・2
夕霧	350		かのみこ			1353・2
夕霧	351		さてもありぬへき			1353・5
夕霧	352		かのみここそ			1353・6
夕霧	353		みやす所は			1353・8
夕霧	354		宮の御こともかけず			1353・9
夕霧	355		いとつれなし			1353・10
夕霧	356		すくよけ心			1353・10
夕霧	357		女かたの心あさき			1353・14
夕霧	358		かの日は	かの昔は		1354・1
夕霧	359		時の人			1354・2
夕霧	360		おほしたつこと			1354・3
夕霧	361		けにあまた			1354・4
夕霧	362		こゝにかく			1354・7
夕霧	363		末なきは			1354・8
夕霧	364		やうの事			1354・9
夕霧	365		この浮たる			1354・11
夕霧	366		うむし			1354・12
夕霧	367		はつかしと			1354・14
夕霧	368		大将もとかく			1355・1
夕霧	369		かの御心に			1355・2
夕霧	370		なき人に			1355・3
夕霧	371	さこそいへ女とちは	さこそいへとも女とちは			1355・7
夕霧	372		かべしろ			1355・9
夕霧	373		さらけ給はらし			1355・12
夕霧	374		たゆるに			1355・13
夕霧	375		くこのことも			1355・14
夕霧	376		このかたに			1356・2
夕霧	377		御心になはぬ			1356・3
夕霧	378		一所			1356・4
夕霧	379		かつはあるましき			1356・8
夕霧	380	さこ・少将	さこ少将			1356・9
夕霧	381		みつからの御心には			1356・13
夕霧	382		夜も更ぬへし			1356・14
夕霧	383		のほりにし哥			1357・3
夕霧	384		かくもてさはかさらんじに			1357・4
夕霧	385		ほいのことも			1357・7
夕霧	386		かたはら			1357・9
夕霧	387		御心ちのくるしきにも			1357・10
夕霧	388		めもきりて			1357・11
夕霧	389		御はかし			1357・11
夕霧	390		恋しさの哥			1357・14
夕霧	391		くろきもまたしあへさせ			1357・14
夕霧	392		す経に			1358・1
夕霧	393		浦島の子か			1358・2
夕霧	394		ふるさとのおほえす			1358・4
夕霧	395		年へにける			1358・9
夕霧	396		御ためこそ			1358・11
夕霧	397		御まうけなとさまかはりて			1358・11
夕霧	398		わたり給ふて			1358・12
夕霧	399		けふあすを			1358・13
夕霧	400		身のため			1359・2
夕霧	401		あやく			1359・3
夕霧	402		いてやたしいまは			1359・5
夕霧	403		あか君			1359・6
夕霧	404		いとまたしらぬ			1359・7
夕霧	405		人にもことはらせん			1359・8
夕霧	406		さすかにいとおしう			1359・9
夕霧	407	またしらぬはけに	またしらぬはけに句			1359・10
夕霧	408		おましひとつ			1359・14
夕霧	409	いつまでにかは	かはかりにいつまでにかは句			1360・1
夕霧	410		もてはなるゝ			1360・3
夕霧	411		山鳥の			1360・4
夕霧	412		ことゝいへは			1360・5
夕霧	413		恨わひ哥			1360・8
夕霧	414		かの大殿わたり			1360・10
夕霧	415		もとの心さしも			1361・1
夕霧	416	何かは	何かは句こなたかなたに			1361・5
夕霧	417		けんぎ			1361・5
夕霧	418		院のわたらせ			1361・7
夕霧	419		人のいつはり			1361・10
夕霧	420		みなよのつねの			1361・11
夕霧	421	鬼しう侍るさかな物をとて	鬼しう侍るさかな物をとて句		注釈ナシ。	1361・13
夕霧	422		かしこけれと			1361・14

## 写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夕霧	423		さかなくことかましき			1362・2
夕霧	424		みなみの			1362・4
夕霧	425		身の人わろき			1362・7
夕霧	426		さておかしき事は			1362・7
夕霧	427		さかしたつ			1362・9
夕霧	428		さなん			1362・11
夕霧	429		かの事			1362・12
夕霧	430		ねひまさり			1362・14
夕霧	431		すきすき			1363・6
夕霧	432		いつことて			1363・8
夕霧	433		心やましうて			1363・11
夕霧	434		かんかはしき			1364・3
夕霧	435		をいらかに			1364・3
夕霧	436		さても契ふかくなるせを			1364・6
夕霧	437		契りしかと			1364・7
夕霧	438	なをさりことは	なをさりことゝは			1364・9
夕霧	439		かれもいと			1364・10
夕霧	440		けふも御かへり			1364・13
夕霧	441		昨日けふ			1364・14
夕霧	442		おとゝのつらく			1365・2
夕霧	443		女たに			1365・4
夕霧	444		いにしへたに			1365・6
夕霧	445		人十十いと所せき	人々いと所せき御子達也		1365・6
夕霧	446		なるゝ身を哥			1365・14
夕霧	447		うつし人にては			1365・14
夕霧	448		松嶋の哥			1366・3
夕霧	449		打いそきて			1366・3
夕霧	450		過にしかたをも			1366・7
夕霧	451		うらめしかりける			1366・8
夕霧	452		いとあやにくに			1366・12
夕霧	453		思ふ心は又ことさま			1366・13
夕霧	454		みたれにそへて			1367・2
夕霧	455		つらき句			1367・3
夕霧	456		御心かまへなれと			1367・4
夕霧	457		又いひかへし			1367・4
夕霧	458		さりとてかくのみやは			1367・5
夕霧	459		こゝの人めも			1367・6
夕霧	460		うち十の御心つかひは			1367・7
夕霧	461		又かゝりて			1367・8
夕霧	462		この人を			1367・10
夕霧	463		けにとも思ひ	けにとも思ひ句		1367・10
夕霧	464		見たてまつるも			1367・10
夕霧	465		これよりまさる			1367・12
夕霧	466		いとかういはんかたなき			1368・1
夕霧	467		あるましき心			1368・3
夕霧	468		とりかへず			1368・3
夕霧	469		たけき御名にかは			1368・4
夕霧	470		身をなくる			1368・5
夕霧	471		たけきことゝは			1368・7
夕霧	472		岩木より			1368・9
夕霧	473		契とをうて			1368・9
夕霧	474		三条君			1368・11
夕霧	475		わか心もて			1368・13
夕霧	476		かうのみ			1369・1
夕霧	477		こ君			1369・1
夕霧	478		わか御心をこしらへ			1369・13
夕霧	479		こゝもかしこも			1369・14
夕霧	480		おりさへ			1369・14
夕霧	481		御てうつ御かゆ			1370・1
夕霧	482		色ことなる			1370・1
夕霧	483		ちんのかい			1370・3
夕霧	484		山ふき			1370・5
夕霧	485		女所			1370・6
夕霧	486		まらうとのおはするときゝて			1370・9
夕霧	487		世を心みはつる			1370・13
夕霧	488		女御			1370・14
夕霧	489		れいのわたり給かた			1371・11
夕霧	490		さるへきによ			1371・14
夕霧	491		あやしき人十十			1372・4
夕霧	492		たか名かおしきとて			1372・5
夕霧	493		かしこに又			1372・7
夕霧	494	かきりもの給はてはさて心みむ	かきりとの給ひはてはさて心みん			1372・10
夕霧	495		かしこなる人十十も			1372・10
夕霧	496	えり残し給へる	えり残し給へり			1372・11
夕霧	497		すか十十しき御心にて			1372・13
夕霧	498		いざ給へ			1372・14
夕霧	499		おもひとるかた			1373・3

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夕霧	500		しはしは			1373・5
夕霧	501		をのつから思所			1373・5
夕霧	502	よしかくいひそめつと	かくいひむすひてからは			1373・7
夕霧	503		蔵人少将			1373・8
夕霧	504		契あれや哥			1373・10
夕霧	505		猶えおほしはなたし			1373・10
夕霧	× 505+		〈ナシ〉(505注ノ一部)	中となり	古活字本、東洋文庫本ノミ 1丁錯簡。505+～519ト 520～531ガ前後スル。	
夕霧	506		物きこえにくし			1373・12
夕霧	507		中に			1373・13
夕霧	508		御覽しゆるさすや			1374・1
夕霧	509		御心さしもへたて			1374・2
夕霧	510		古うへ			1374・3
夕霧	511		つみをかくい給はまし			1374・4
夕霧	512		何ゆへか哥			1374・7
夕霧	513		よすかある			1374・10
夕霧	514		いとしく心よからぬ			1374・11
夕霧	515		大殿の君			1374・12
夕霧	516		ないしのすけ			1374・13
夕霧	517		かくあなつりにき			1374・14
夕霧	518		文など			1375・1
夕霧	519		よとゝも			1374・14
夕霧	520		かすならば哥			1375・2
夕霧	521		なまけやけしとは			1375・2
夕霧	522		物哀なる			1375・3
夕霧	523		かれもたゝには			1375・3
夕霧	524		人の世の哥			1375・5
夕霧	525		あはれにみる			1375・6
夕霧	526		御中たえの程			1375・6
夕霧	527		ことあらためて			1375・7
夕霧	528		この御はら			1375・8
夕霧	529		大君			1375・9
夕霧	530		ひんかし			1375・12
夕霧	531		此御中らひ			1375・13
夕霧	(532)	心くるしき御なやみを身を かふ計なけきすくさせ侍る もなにゆへにかたしけな けれとものおほしし御 ありさまなどはれ十しき かたにもみたてまつりなを し給まてはたいらかに過し 給はむこそたか御ために もたのもしきことに侍らめ とをしはかりきこえさする になん〇たゝあなたさまに	〈欠〉			1313・3
夕霧	(533)	あさましようおもふ給へよら さりける御心の程になむと なきぬはかりきこゆれと	〈欠〉			1316・8
夕霧	(534)	心うつくしきやうに聞えか よひて猶ありしまゝならむ こそよからめ	〈欠〉			1329・10
夕霧	(535)	としつきにそふるあなつら はしきは御心ならひなへか めりとはかりかくうるはした ち給へるにはゝかりてわか やかにおかしきさましての	〈欠〉			1331・14
御法	1		しはしにても			1381・4
御法	2		みつからの			1381・5
御法	3		あかぬ事なく			1381・5
御法	4		なげかせたてまつらん			1381・7
御法	5		ほいある			1381・8
御法	6		わか御心にも			1381・10
御法	7		もよほされて			1381・11
御法	8		おなし蓮と			1381・13
御法	9		おなし山なり			1382・1
御法	10		あさへたる			1382・4
御法	11		つみかるかるましき			1382・7
御法	12		内東宮后宮	内侍宮后宮		1383・2
御法	13		ほうもち			1383・2
御法	14		けに磯上			1383・5
御法	15		さうじ			1383・8
御法	16		佛のおはすなる所			1383・9
御法	17		薪こるさんたん			1383・10
御法	18		打やすみたる			1383・12
御法	19		三宮して			1383・13
御法	20		おしからぬ哥			1384・1
御法	21		心ほそきすちは			1384・1

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
御法	22		薪こる哥			1384・4
御法	23		霞のまより			1384・5
御法	24		猶春に			1384・6
御法	25		れうわう			1384・8
御法	26		ぬきかけたる			1384・9
御法	27		夏冬など			1385・2
御法	28		なまいとましき			1385・3
御法	29		たえぬへき哥			1385・8
御法	30		むすひをく哥			1385・9
御法	31		むつかしけに			1385・14
御法	32		中宮此院に			1386・2
御法	33		ひんかしのたいに			1386・3
御法	34		この世の有さま			1386・3
御法	35		名だいでん			1386・5
御法	36		久しき御たいめん			1386・6
御法	37		み物かたり			1386・7
御法	38		すはなれたる			1386・7
御法	39		おきみ給へるを			1386・9
御法	40		かた十十におはしましては			1386・9
御法	41		宮たちを			1387・2
御法	42		ゆゝしけになとは			1387・6
御法	43		ことなるよるへなう			1387・7
御法	44	みときやう	みとつきやう			1387・9
御法	45		うちうへよりも			1387・12
御法	46		はゝをこそ			1387・12
御法	47		佛にもたてまつりたまへ			1388・2
御法	48		ひめ君とをそ			1388・4
御法	49		さるは	さるはさうあつて也		1388・6
御法	50		露けきおりかち			1388・7
御法	51		さかしき様			1388・8
御法	52		宮そわたり			1388・9
御法	53		けにみたて			1388・10
御法	54		やせほそり			1388・11
御法	55		あさ十と			1388・13
御法	56		この世の花			1388・13
御法	57		いとかりそめに			1388・14
御法	58		このおまへにては			1389・3
御法	59		御けしきを			1389・5
御法	60		をくとみる哥			1389・7
御法	61		けにそ			1389・7
御法	62		やゝもせは哥			1389・9
御法	63		秋風に哥			1389・11
御法	64		いふかひなく			1389・14
御法	65	みやも帰給はて	宮もかへり給はて	〈ナシ〉(△1字下ゲ)		1390・6
御法	66		明くれの夢に			1390・9
御法	67		年比ほいありて			1390・12
御法	68		この世には			1391・1
御法	69		くらきみちの			1391・1
御法	70		かしらおろすへき			1391・2
御法	71		かくのみ物は			1391・6
御法	72		とてもかくても			1391・6
御法	73		一日一夜			1391・6
御法	74		いふかひなく成はてさせ			1391・8
御法	75		おほけなき	おほせなき		1391・12
御法	76		有しばかりも			1391・12
御法	77		御聲をたに			1391・13
御法	78		ほの十と明行			1392・4
御法	79		この君は			1392・6
御法	80		しほり			1392・9
御法	81		御くしのたゝ打やられ			1392・10
御法	82		つや十と			1392・11
御法	83		ひのいと			1392・12
御法	84		玉しゐの			1393・2
御法	85		いにしへも			1393・4
御法	86		おりたちて			1393・6
御法	87		からをみつゝも			1393・8
御法	88		空をあゆむ心ちして人にかゝりて			1393・10
御法	89		いつかしき御身			1393・11
御法	90		かれは猶			1393・14
御法	91		十四日			1394・1
御法	92		むかしのこと			1394・9
御法	93		又かきりの程の			1394・10
御法	94		涙の玉をは			1394・12
御法	95		いにしへの哥			1394・14
御法	96		名残さへ			1394・14
御法	97		さたまりたる			1395・1
御法	98		臥てもおきても			1395・2
御法	99		かゝりに			1395・3

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
御法	100		いはけなき程より			1395・4
御法	101		佛などの			1395・5
御法	102		やしましき			1395・9
御法	103		おほしめしたる			1395・11
御法	104		身を心に			1395・14
御法	105		をくれ先たつ			1396・5
御法	106		いにしへの哥			1396・9
御法	107		露けさは哥	露けきは哥		1396・10
御法	108		ものゝみかなしき			1396・10
御法	109		うす墨と			1396・13
御法	110		すゝるなる人にもうけられ			1397・1
御法	111		年比むつましく			1397・5
御法	112		枯はつる哥			1397・10
御法	113		物おほえぬ御心にも			1397・11
御法	114		えかき			1397・13
御法	115		のほりにし哥			1398・1
御法	116		女かたに			1398・3
御法	117		蓮の露もこと十々に			1398・6
御法	118	人きゝをからあちきなかり けり迄	人きゝをから			1398・7
御法	119		けふやとのみ			1398・9
御法	120		はかなくてつもりにける			1398・9
御法	121		中宮		古活字本、東洋文庫本ハ 損傷アリ不鮮明。陽明文庫 本ニヨル。	1398・10
御法	×	(122) 不入事也...	〈欠〉			
御法	×	(123) 探菓汲水...	〈欠〉			
幻	1		春のひかりを			1403・1
幻	2		外には			1403・2
幻	3		兵部卿	〈ナシ〉(△1字下ゲ)		1403・3
幻	4		わか宿は哥			1403・6
幻	5		香をとめて哥			1403・8
幻	6	あゆみ出給へる	あゆみ出給へり			1403・8
幻	7		これより外に			1403・9
幻	8		年へにけるは			1403・11
幻	9		あらためかたく			1403・12
幻	10		まきれなく			1403・13
幻	11		まめやかに			1403・14
幻	12		中十々よく立たり		注釈ナシ。	1404・1
幻	12+	〈ナシ〉(12注ノ一部)	おほそりに	〈ナシ〉(△1字下ゲ「おほ そりにあたりちかく引さけ ては」)		1404・2
幻	13		御ひじり心			1404・4
幻	14		さしもありはつましき			1404・5
幻	15		一わたりつゝ			1404・9
幻	16	雪ふりたりし	雪ふりたりし...	雪ふりたりし		1405・1
幻	17		夢にても			1405・4
幻	18	曙にしも	明ほのにしも...			1405・4
幻	19		さうじにおるゝ			1405・4
幻	20		憂世には哥			1405・8
幻	21		ひとりねつねよりも			1405・10
幻	22		袖のしからみ			1405・14
幻	23		この世につけては			1406・2
幻	24		人よりことに			1406・3
幻	25		世のはかなく			1406・4
幻	26		心のきは			1406・6
幻	27		人十々の			1406・8
幻	28	わろかりける	わろかりけり			1406・9
幻	29		明ほの			1406・13
幻	30		をしなへては			1406・13
幻	31		かたはらいたき			1407・2
幻	31+	〈ナシ〉(31注ノ一部)	人よりことに	〈ナシ〉(31注ノ一部)		1407・3
幻	32		うなひ松			1407・5
幻	33		うとき人には			1407・6
幻	34	かく心ばかり	かく心ばかり			1407・13
幻	35		御かた十々に			1408・1
幻	36		なみたの雨のみ			1408・2
幻	37		きさいの宮			1408・3
幻	38		母のゝ			1408・4
幻	39		かの御かたみ			1408・7
幻	40		鶯の花やかに			1408・7
幻	41		うへてみし哥			1408・9
幻	42	此世の外やうに	この世の外やうに			1408・11
幻	43		ほかの花は			1408・14
幻	44		かばざくら			1408・14
幻	45		木のめぐりにちやうを			1409・3
幻	46		おほふはかりの			1409・5
幻	47		君に	〈欠〉		1409・6

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
幻	48		たいめんは	<欠>		1409・7
幻	49		まか＋十しう	<欠>		1409・9
幻	50		御その袖を	<欠>		1409・9
幻	51		いろかへぬもあり	<欠>		1409・11
幻	52		みつからの御なをし	<欠>		1409・12
幻	53		今はとて哥	<欠>		1410・2
幻	54		入道の宮に	<欠>		1410・3
幻	55		あさへ	<欠>		1410・8
幻	56		あかの花の	<欠>		1410・9
幻	57		たいのおまへの	<欠>		1410・11
幻	58		品たかう			1410・12
幻	59		うへし人なき			1410・13
幻	60		たにはは春もと			1411・1
幻	61		そのことのさらても			1411・2
幻	61+	<ナシ>(61注ノ一部)	<ナシ>(△1字下ゲ・61注ノ一部)	さらても		1411・2
幻	62		やみにしかな			1411・3
幻	63		又かうさま			1411・10
幻	64		人を哀と			1411・12
幻	65		身をいたつらに			1412・1
幻	66		いのちをも			1412・1
幻	67		野山のすゑに			1412・2
幻	68		ひとつのすちの			1412・5
幻	69		おほしたるさまから	おほしたかさまから		1412・5
幻	70		大かたの			1412・6
幻	71		おしけなき人たに			1412・6
幻	72		中＋十なる事			1412・9
幻	73		にぶきやうに侍らんやつみにすみ はて			1412・9
幻	74	侍てこそ	侍てこそ句			1412・11
幻	75		おもふよりたかふ			1412・11
幻	76		わろき	わかつき		1412・12
幻	77		うこきなかるへき			1412・13
幻	78		さまておもひのとめん			1413・2
幻	79		こきさい			1413・3
幻	80		心あらはと			1413・4
幻	81		みつからとりわく			1413・6
幻	82		年へぬる人に			1413・6
幻	83		たゝかゝる中の			1413・8
幻	84		ひろふ	ひろふこなたかなたへ・・・		1413・11
幻	85		女も			1413・13
幻	86		なく＋十も哥			1414・3
幻	87		よへのみありさまは			1414・3
幻	88		鷹かゝし哥			1414・6
幻	89		なまめさましき			1414・7
幻	90		又さりとて			1414・9
幻	91		人はさしも			1414・9
幻	92		夏衣哥			1414・14
幻	93		羽衣の哥			1415・1
幻	94		ふくたみたる髪			1415・6
幻	95		紅のきはみ			1415・6
幻	96		此名こそ			1415・10
幻	97		さもこそはよるへの水に哥			1415・11
幻	98		大方は哥			1415・13
幻	99		ひとりばかりは			1415・13
幻	100		十よ日の月			1416・1
幻	101		千世をならせる			1416・2
幻	102		まとをうつ聲			1416・5
幻	103		妹か垣ねに			1416・6
幻	104		独住は			1416・7
幻	105		くた物			1416・9
幻	106		心には			1416・10
幻	107		かくのみおほし			1416・11
幻	108		ほのかにみし			1416・12
幻	109		ちかう成侍にけり			1416・13
幻	110		何はかりよのつねなら			1417・1
幻	111	なにかし僧都	なにかし			1417・2
幻	112		もとよりとりたてゝ			1417・5
幻	113	うしろやすきわさなれと	うしろやすきわさなれと句			1417・5
幻	114		それはかりそめならず			1417・7
幻	115		かとひろけ			1417・8
幻	116		いたうもの給ひ			1417・10
幻	117		いかに知			1417・11
幻	118		なき人を哥			1417・12
幻	119		時鳥哥			1417・14
幻	120		とゝめつ			1418・1
幻	121		立はなれぬ			1418・3
幻	122		いけの蓮の			1418・4
幻	123		いかにおほかる			1418・5

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
幻	124		先おほし			1418・5
幻	125		ひとりのみ			1418・6
幻	126		つれ十と哥			1418・8
幻	127		せきてんに			1418・9
幻	128		よるをしる哥			1418・11
幻	129		七夕の哥			1419・2
幻	130		風のをとさへ			1419・2
幻	131		しやうにち			1419・4
幻	132		君こふる哥			1419・7
幻	133		人こふる哥			1419・9
幻	134		わたおほひたる菊			1419・9
幻	135		もろともに哥			1419・11
幻	136		ふりしかと			1419・12
幻	137		大空哥			1420・1
幻	138		頭中将			1420・4
幻	139		小忌にて			1420・4
幻	140		いにしへあやしかりし			1420・6
幻	141		宮人は哥			1420・8
幻	142		今はと			1420・9
幻	143		やれはおし			1420・14
幻	144		少つゝ			1420・14
幻	145		ちとせのかたみに			1421・4
幻	146		過にし人の			1421・6
幻	147		ふりおつる御なみた	<ナシ>(146注ノ一部)		1421・7
幻	148		しての山哥			1421・10
幻	149		この世なから			1421・11
幻	150		めめしく			1421・13
幻	151		かたはらに			1422・1
幻	152	かきつめて歌	かきつめて			1422・2
幻	153		御佛名も			1422・3
幻	154		しやくちやう			1422・3
幻	155		行末なかきことを			1422・4
幻	156		だうしのまかつる			1422・5
幻	157		さかつきなど			1422・6
幻	158		録など			1422・6
幻	159		色かはりて			1422・8
幻	160		時によりたる			1422・11
幻	161		まことや			1422・12
幻	162		春までの哥			1422・13
幻	163		千代の春哥			1422・14
幻	164		もらしつ			1422・14
幻	165		その日そ			1423・1
幻	166		なやはらんに			1423・3
幻	166+	<欠>	若宮	若宮三宮なり	写本ハ見出しヲ欠クガ、整 版本・古活字本ノ注内容ハ 166注ノ一部ニアリ。	1423・3
幻	167		物おもふと哥			1423・6
幻	168	ついたちの	ついたち			1423・6
幻	× (169)	三教尊ナト云外道ノ経ヲ焼 たると云古事歌	<ナシ>(△1字下ゲ)			
匂宮	1		ひかりかくれ			1429・1
匂宮	2		かの御かけに			1429・1
匂宮	3		そこら			1429・1
匂宮	4		おりのみかと			1429・2
匂宮	5		かたしけなし	かたけなし		1429・2
匂宮	6		おなしおとゝ			1429・2
匂宮	7		宮のわか君			1429・3
匂宮	8		いとまはゆき			1429・4
匂宮	9		さる御なからひ			1429・5
匂宮	10		やゝ立まさり			1429・7
匂宮	11		おほえからなん			1429・7
匂宮	12		宮なれば			1429・8
匂宮	13		古郷に			1429・11
匂宮	14		女一宮			1429・12
匂宮	15		二宮も			1429・13
匂宮	16		次の坊かね			1430・1
匂宮	17		おほいと			1430・2
匂宮	18		ついでのみゝ			1430・4
匂宮	19		この兵部卿			1430・4
匂宮	20		何かはやうの物			1430・6
匂宮	21		うるはしう			1430・6
匂宮	22		六君			1430・8
匂宮	23		さま十つとひ			1430・9
匂宮	24		ひんかしの院	みかしの院		1430・11
匂宮	25		御そふ所	御そふ所より		1430・11
匂宮	26		今后			1430・12
匂宮	27		この院を			1431・2
匂宮	28		うしとらの町			1431・3

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
句宮	29		一条宮			1431・3
句宮	30	三条殿	三条殿も			1431・4
句宮	31		たとひとりの			1431・5
句宮	32		とにかくに			1431・12
句宮	33		火をけちたる			1431・12
句宮	34		まして殿のうち			1431・13
句宮	35		かきりなき			1431・14
句宮	36		春の花の			1432・1
句宮	37		二品宮の			1432・2
句宮	38		後の			1432・3
句宮	39		院にて			1432・5
句宮	40		十四にてやかて			1432・5
句宮	41		おはしますおとゝ			1432・7
句宮	42		女の御けしき			1432・9
句宮	43		ごちしのおほい殿			1432・11
句宮	44		きさいの宮の			1432・13
句宮	45		みねん佛と也			1433・1
句宮	45+	〈ナシ〉(45注ノ一部)	御あそひかたき故			1433・4
句宮	46		ほのきゝ			1433・6
句宮	47		ぜんけう太子			1433・9
句宮	48		おほつかな哥			1433・11
句宮	49		ことにふれ			1433・11
句宮	50		つゝがある			1433・12
句宮	51		はちすの露も			1434・3
句宮	52		いつゝのなにかし			1434・4
句宮	53		かのすき給にけん			1434・5
句宮	54	世をかへても	世をへても	世をかひへても		1434・6
句宮	55		物うかり		注釈ナシ。	1434・6
句宮	56		内にも			1434・8
句宮	57		きさいの宮はた			1434・9
句宮	58		末にむまれ			1434・11
句宮	59		右のおとゝ			1434・12
句宮	60		そねみ給ふ			1434・14
句宮	61		もてしつめ			1435・2
句宮	62		いみしき世の			1435・3
句宮	63		後の世の御つとめもをくらかし給 はすとほ			1435・3
句宮	64		この君は			1435・4
句宮	65		かりにやとれる			1435・6
句宮	66		このよのにほひ			1435・9
句宮	67		やつればみ			1435・11
句宮	68		かくかたわ			1435・13
句宮	69		とりもつけ			1435・14
句宮	70		御からひつに			1436・1
句宮	71		袖かけ給ふ			1436・2
句宮	72		ぬしなき			1436・3
句宮	73	おりなしからなんまさりけ	おりなしからなんまさりける…			1436・4
句宮	74		人のとかむる			1436・5
句宮	75		うつしを			1436・6
句宮	76		をみなへし			1436・8
句宮	77		さをしかのつまに			1436・8
句宮	78		御心うつし給はず			1436・8
句宮	79		老を忘るゝ			1436・8
句宮	80		われもかう			1436・9
句宮	81		源中將			1436・13
句宮	82		いひつゝけて			1437・1
句宮	83		やうことなき			1437・2
句宮	84		冷泉院			1437・5
句宮	85		さしあたりて			1437・12
句宮	86		十九になり給年	十九になる・給年	古活字本(東洋文庫本・陽明文庫本共二)「給」ノ前二点ノヨウナモノアリ。アルイハ「リ(里)」ノ版木一部欠損力。	1437・13
句宮	87		およすけ			1438・3
句宮	88		ひとつ院の内に			1438・5
句宮	89		大かたこそ			1438・8
句宮	90		物馴奇			1438・11
句宮	91		われかく人			1438・11
句宮	92		いさなはれつゝ			1439・1
句宮	93		参りあつまる			1439・1
句宮	94		あるまじきゝはの			1439・3
句宮	95		心にはからるゝ			1439・5
句宮	96		宮のおはしさん			1439・5
句宮	97		あまた物し			1439・6
句宮	98		ひとり十+			1439・7
句宮	99		さすかに			1439・7
句宮	100		やんことなき			1439・9

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
句宮	101		ことにこそあるへけれ	ことにこそ		1439・14
句宮	102		いつくしく			1439・14
句宮	103		のり弓のかへりあるし			1440・2
句宮	104		れいの			1440・6
句宮	105		大将まかて給			1440・7
句宮	106		まげがた			1440・9
句宮	107	をしとゝめさせて	をしとゝめさせて…			1440・9
句宮	108		道のやゝ			1440・12
句宮	109		みなみむきに			1441・1
句宮	110		糸かのみこたち			1441・1
句宮	111		もとめこまひてかよれる袖	もとめこまひて		1441・2
句宮	112		やみはあや			1441・5
句宮	113		香にこそ			1441・5
句宮	114		みたれぬさまに			1441・7
句宮	115		右のすけ			1441・7
句宮	116		まらうとだゝしや			1441・8
句宮	117		神のます			1441・9
句宮	118		など			1441・9
紅梅	1		その比			1447・1
紅梅	2		さしつき	さしつきよ		1447・1
紅梅	3		後のおほきおとゝ			1447・5
紅梅	4		式部御宮			1447・5
紅梅	5		御子は			1447・7
紅梅	6	おなし	おなし子なり	〈ナシ〉(5注ノ一部)		1447・10
紅梅	7	をの十御かたの	をの十御かたの…			1447・11
紅梅	8		すぎすぎ			1447・14
紅梅	9		南おもてに			1448・2
紅梅	10		宮の御かた			1448・2
紅梅	11		けはひあらま			1448・5
紅梅	12		内眷宮			1448・6
紅梅	13		右の大との			1448・8
紅梅	14		まいらせ奉り			1448・11
紅梅	15		十七八のほとにて			1448・11
紅梅	16		打すがひ			1448・12
紅梅	17		すみたる			1448・12
紅梅	18		此若君を			1448・14
紅梅	19		せうとを			1449・2
紅梅	20		さん			1449・2
紅梅	21		かすかの神の			1449・6
紅梅	22		殿はつれ十なる			1449・11
紅梅	23		西の御かた			1449・12
紅梅	24		こなたをしのやうに			1449・14
紅梅	25		物はちを			1450・1
紅梅	26		わか方さま			1450・4
紅梅	27		おなしことゝ	おなしかとゝ		1450・5
紅梅	28		母君にも			1450・6
紅梅	29		さらにさやうの			1450・6
紅梅	30		みすくせに任て			1450・8
紅梅	31		世をそむくかたにても			1450・8
紅梅	32	まいりくへきを	参りくへきを…			1450・13
紅梅	33		世中ひろき			1451・3
紅梅	34		さもまねひ			1451・7
紅梅	35		なまかたほに			1451・7
紅梅	36		むかしおほえ			1451・11
紅梅	37		右のおとゝ			1451・12
紅梅	38		源中納言			1451・12
紅梅	39		てづかひすこしなよひ			1451・14
紅梅	40		ぢうさす			1452・2
紅梅	41		女房などは			1452・4
紅梅	42		おもふはしも			1452・5
紅梅	43		とのぬすかた			1452・6
紅梅	44		れいけいてんに			1452・8
紅梅	45		ゆつりきこえて			1452・8
紅梅	46		またいとわかき			1452・10
紅梅	47		つまひきに			1452・13
紅梅	48		かはふえ			1452・14
紅梅	49		此ひんかしのつまに			1452・14
紅梅	50		おまへの花			1453・2
紅梅	51		しる人そしる	しり人そしる		1453・2
紅梅	52		いはゆる			1453・3
紅梅	53		わらはにて			1453・3
紅梅	54		はしが+E10204はしにも			1453・5
紅梅	55		心のなしにや			1453・7
紅梅	56		けちかき人の			1453・7
紅梅	57		いかゝはせん			1453・10
紅梅	58		あなんかひかり			1453・11
紅梅	59		やみにまよふ			1453・13
紅梅	60		をかさんかし			1453・13

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
紅梅	61		心ありての哥			1454・1
紅梅	62		ふとごろがみ			1454・2
紅梅	63		中宮の			1454・4
紅梅	64		心やすき所			1454・7
紅梅	65		かたらひ給へは			1454・9
紅梅	66		春宮には			1454・9
紅梅	67		おまへには			1454・12
紅梅	68		我をは人けなしと			1454・12
紅梅	69		古めかしきおなしすち			1454・13
紅梅	70		うちゑみて			1455・1
紅梅	71		枝のさま			1455・1
紅梅	72		そのに匂へる			1455・2
紅梅	73		紅の			1455・3
紅梅	74	こよひとのゐ	こよひはとのゐ			1455・5
紅梅	75		この花のあるし			1455・7
紅梅	76		宮には			1455・7
紅梅	77		しらす心しらん			1455・8
紅梅	78		大納言の御心はへは			1455・8
紅梅	79		聞あはせ給へと			1455・9
紅梅	80		花の香に哥			1455・12
紅梅	81		おきなともにかかしらせさせで			1455・12
紅梅	82		此君も			1455・13
紅梅	83		れいのはらから			1456・1
紅梅	84		かひあるさまに			1456・2
紅梅	85		春宮の御かた			1456・2
紅梅	86		ねたけにも			1456・5
紅梅	87		ゆるしきこえずと			1456・6
紅梅	88		右のおとゝわれらか			1456・7
紅梅	89		あた人と			1456・7
紅梅	90		けふ参らせ給ふに			1456・9
紅梅	91		もどつかの哥			1456・10
紅梅	92		いひなさん			1456・11
紅梅	93		花の香を哥			1456・13
紅梅	94		猶心とけす			1456・13
紅梅	95		北方			1456・14
紅梅	96		人はなをと			1457・2
紅梅	97		宮のいとおほしよりて			1457・2
紅梅	98		むへ我をはすさめたり			1457・3
紅梅	× 98+	<ナシ>(98注ノ一部)	<ナシ>(△1字下ゲ・98注ノ一部)	北方と		
紅梅	99		御そうそこや			1457・4
紅梅	100		さかし			1457・6
紅梅	101		さはえしめぬ哉			1457・8
紅梅	102		梅はおひ出けん根こそ			1457・9
紅梅	103		此宮などの			1457・12
紅梅	104		さしむかひたる			1457・14
紅梅	105	宮は御ふさいのかたは	宮は御ふさいのかたは			1458・2
紅梅	106		御文あれと			1458・2
紅梅	107		大納言君			1458・3
紅梅	108		いとおしう			1458・4
紅梅	109		つくし			1458・5
紅梅	110		はかなき			1458・7
紅梅	111	おひさき遠く	おひさきとをき	おひさきとを++		1458・9
紅梅	112		八宮			1458・9
紅梅	113		御心あた++し			1458・10
紅梅	114		まめやかには			1458・10
紅梅	115		かたしけなき			1458・11
紅梅	116		さかしらかり			1458・11
竹川	1		これは			1463・1
竹川	2		源氏の御ぞうにもはなれ			1463・1
竹川	3		紫のゆかりにも			1463・2
竹川	4		女ともいひけるか			1463・2
竹川	5		ひかこととも			1463・3
竹川	6		我より年の			1463・4
竹川	7	いつれかまことならむ	いつれかまことなるらん			1463・4
竹川	8		内侍のかみの御腹			1463・5
竹川	9		あへなく			1463・7
竹川	10		おほんちかきゆかり			1463・11
竹川	11		ことこの			1463・13
竹川	12		むら++しきすぎ			1463・13
竹川	13		えなつかしく			1463・14
竹川	14		猶むかしにかはらす			1464・1
竹川	15		中++			1464・3
竹川	16		おとゝのそうし			1464・7
竹川	17		中宮いよ++			1464・8
竹川	18		むとく			1464・9
竹川	19		目をそはめられ			1464・10
竹川	20		さたすき			1464・13
竹川	21		このよの末に			1465・3

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
竹川	22		右大殿			1465・4
竹川	23		いつかたに			1465・6
竹川	24		おかしかりし君			1465・6
竹川	25		うるさき			1465・9
竹川	26		北方			1465・10
竹川	27		たゝのさまにも			1465・12
竹川	28		今すこし			1465・12
竹川	29		こよなき			1465・14
竹川	30		くたされて			1466・3
竹川	31		六条院のから			1466・3
竹川	32		四位			1466・5
竹川	33		三条宮と			1466・7
竹川	34		みえしらがひ			1466・9
竹川	35		この君たち			1466・9
竹川	36		けになまめいたる			1466・11
竹川	37		六条院			1466・11
竹川	38		なつかしう			1466・14
竹川	39		あんの御心はへ			1466・14
竹川	40		はらからのつら			1467・3
竹川	41	かの君も	〈ナシ〉(40注ノ一部)	〈欠〉		1467・3
竹川	42		いひなやましける			1467・6
竹川	43	む月	む月の			1467・6
竹川	44		御はらからの			1467・6
竹川	45		藤中納言			1467・7
竹川	46		かしつかれたるさま			1467・11
竹川	47		おとゝは			1467・12
竹川	48		いまはかく世に			1468・2
竹川	49		過にし御事も			1468・4
竹川	50		院より			1468・4
竹川	51		内におほせらるゝ			1468・6
竹川	52		女一宮の			1468・11
竹川	53		そも十は			1468・11
竹川	54		女御なん			1468・13
竹川	55		これかれこゝに			1469・1
竹川	56		すさくあん			1469・1
竹川	57		この殿の			1469・3
竹川	58		夕つけて			1469・4
竹川	59		にほひ香			1469・9
竹川	60		ひめ君			1469・10
竹川	61		心もとなく			1469・13
竹川	62		すかせ			1469・14
竹川	63		おりて見は哥			1470・3
竹川	64		口はやしと			1470・3
竹川	65		よ所にては哥			1470・5
竹川	×66	槁木	〈ナシ〉(65注ノ一部)			
竹川	67		さらは袖ふれて	さらは		1470・5
竹川	68		色よりも			1470・6
竹川	69		おもなけれ			1470・7
竹川	70		まめ人と			1470・8
竹川	71		あるしの侍従			1470・9
竹川	72	おとゝは	おとゝ	おとゝ夕霧		1470・11
竹川	73		めてくつかへる			1471・1
竹川	74		すき物ならはん			1471・3
竹川	75		おなしなをし			1471・3
竹川	76		つみふかゝるへき			1471・6
竹川	77		いさしるへし給へ			1471・7
竹川	78		梅かえを			1471・9
竹川	79		つま戸をしあけて			1471・9
竹川	80		女のことにて			1471・10
竹川	81		おりかへし			1471・11
竹川	82		かたみにゆつりて			1471・14
竹川	83		こちしのおとゝの	こちしのおとゝの		1471・14
竹川	84		うくひすにも			1472・2
竹川	85		あまへて			1472・2
竹川	86	むつひさりし	むつひさりし…	むつひさり		1472・4
竹川	87		この君は			1472・6
竹川	88		さき草うたふ	さき草こたふ		1472・8
竹川	89		さかしら			1472・8
竹川	90		こおとゝに			1472・10
竹川	91		さかつきをのみ			1472・10
竹川	92		ことふきをたに			1472・11
竹川	93		竹川を			1472・12
竹川	94		おなし聲			1472・12
竹川	95		うけひかず			1472・14
竹川	96		かつけ給ふ			1473・2
竹川	97		しのふることも			1472・13
竹川	98	なにそもとそ	なにそもとそ	なにそもとそ		1473・2
竹川	99		水馬屋にて			1473・3

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
竹川	100		少将			1473・3
竹川	101		人はみな哥			1473・6
竹川	102		おりからや哥			1473・8
竹川	103		よへはいと			1473・9
竹川	104		竹川の哥			1473・11
竹川	105		此君たちの			1473・14
竹川	106		返事けに			1474・1
竹川	107		よへは水馬や			1474・1
竹川	108		竹河に哥			1474・3
竹川	109		けにこのふしを			1474・3
竹川	110		やよひ			1474・6
竹川	111		はしちかなる			1474・7
竹川	112		十八九の程にや			1474・8
竹川	113		姫君は			1474・9
竹川	114		今一所は			1474・13
竹川	115		御くし色にて			1474・13
竹川	116		をもりかに心ふかきけはまさり給へれと	をもりかに心ふかきけはまさり給へれと…		1474・14
竹川	117		けんぞ			1475・2
竹川	118		あに君たち			1475・3
竹川	119		中将は			1475・6
竹川	120		弁官はまいて			1475・7
竹川	121		おはさうする			1475・8
竹川	122		内わたりなと			1475・9
竹川	123		古殿			1475・9
竹川	124		廿七八のほと			1475・10
竹川	125		おはしまさうし時			1475・13
竹川	126		うへはわかきみ			1475・14
竹川	127		さは泣のしらねと			1476・1
竹川	128		給へられしはや			1476・2
竹川	129		此桜の老木に			1476・2
竹川	130		身のうれへも			1476・3
竹川	131		人のむこに			1476・4
竹川	132		花に心とめて			1476・5
竹川	133		何につけてかはと			1476・8
竹川	134		院へ参り給はん事			1476・9
竹川	135		時にしたかひて			1476・10
竹川	136		東宮はいかゝ			1476・13
竹川	136+	〈ナシ〉(△1字下ゲ)	いさや			1476・13
竹川	137		かたはら			1476・14
竹川	138		さくらをかけ物に			1477・5
竹川	139		れいの少将			1477・7
竹川	140		桜色の			1477・11
竹川	141		見わきつ句			1477・11
竹川	142	けに藤なん	けに散なん			1477・12
竹川	143		こまのらんさう			1477・14
竹川	144		右に心よせ奉りて			1478・1
竹川	145		又かゝる			1478・4
竹川	146		まけかたの			1478・7
竹川	147		さくらゆへ哥			1478・8
竹川	148		宰相の君			1478・8
竹川	149		さくとみでの哥			1478・10
竹川	150		きこえたすくれは			1478・10
竹川	151		風にちる哥			1478・12
竹川	152	心有て歌	心ありて			1478・14
竹川	153	大空の歌	〈欠〉			1479・2
竹川	154		さくら花哥			1479・3
竹川	155		心せはげに			1479・3
竹川	156		かくいふに月日			1479・4
竹川	157		女御うと++しう			1479・5
竹川	158	うへはこゝに	うへはこゝに…	うへはこゝ		1479・6
竹川	159		さるへきにこそは			1479・8
竹川	160		はゝ北方を			1479・10
竹川	161		いとかたはらいたき			1479・11
竹川	162		おほししるかたも			1479・12
竹川	163		いかなる事と			1479・14
竹川	164		このほとおほししつめて			1480・1
竹川	165		なくさめきこえむさまをも			1480・2
竹川	166		この御まいり			1480・3
竹川	167		さしあはせては			1480・4
竹川	168		あさへたる			1480・5
竹川	169		思ひうつるへう			1480・5
竹川	170		れいの侍従の			1480・8
竹川	171		つれなくて哥			1480・11
竹川	172		中將のおもとの			1480・14
竹川	173		此かへりことせんとて			1481・1
竹川	174	このまへ申	このまへ	このまへ中立也		1481・3
竹川	175		御五のけんそせし			1481・3

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
竹川	176		つらきもあはれと			1481・6
竹川	177		哀とて			1481・6
竹川	178		なくさめ給はん			1481・7
竹川	179		けんぞうなりけん			1481・8
竹川	180		けにかうあやにく			1481・8
竹川	181		きこしめさせたらは			1481・9
竹川	182		おいらか			1481・13
竹川	183	めくはせ	めくわせ			1481・13
竹川	184		いてやなそ哥			1482・1
竹川	185		わりなしや哥			1482・3
竹川	186		あはれとて哥			1482・5
竹川	187		はらからの君たち			1482・6
竹川	188		おとゝも			1482・8
竹川	189		おふな十十			1482・8
竹川	190		くやしう			1482・8
竹川	191		花をみて哥			1482・12
竹川	192	いきしにをといひしさまの	いきしにをといひしさまの句	いきしにをと		1482・14
竹川	193		とりかへ有て			1483・2
竹川	194	さまたけやうに思ふらんは しも・めさましきこと	さまたけやうにおもふらんはしもめ さましきこと句…			1483・3
竹川	195		この文とりいれて			1483・5
竹川	196		けふそしる哥			1483・7
竹川	197		あないとおし			1483・7
竹川	198		九日にそ			1483・8
竹川	199		右の大殿			1483・8
竹川	200	此御ことゆ	此御事ゆへ			1483・10
竹川	201		あやしう			1483・12
竹川	202		うけ給りとゝむる			1483・12
竹川	203		つゝしむ事			1484・2
竹川	204	源少將兵衛佐	源少將			1484・3
竹川	205		大納言			1484・3
竹川	206		藤中納言はしも			1484・5
竹川	207		蔵人の君			1484・7
竹川	208		いといたうくつし給へり			1484・11
竹川	209		とゝおほし			1484・14
竹川	210	とりて見給ふ	とりて見給ふ…			1485・1
竹川	211		おとゝ北方			1485・1
竹川	212		あはれてふ哥			1485・5
竹川	213		ゆゝしきかたにてなん			1485・5
竹川	214		おほしとむる	おほしとむる院		1485・7
竹川	215		たか名はたゝし			1485・8
竹川	216		かことかましくて			1485・8
竹川	217		いける世の哥			1485・9
竹川	218		つかのうへにも			1485・9
竹川	219		うたてもいらへを			1485・10
竹川	220		書かへて			1485・11
竹川	221		女御の御かたに			1485・13
竹川	222		后女御			1485・14
竹川	223		たゝ人だちて			1486・3
竹川	224		口おしう			1486・5
竹川	225		此御かたにも			1486・8
竹川	226		かの御かた			1486・10
竹川	227		てにかくる哥			1486・13
竹川	228		心くるしく			1486・14
竹川	229	我心にもあかぬ	わか心にもあらぬ			1486・14
竹川	230		紫の哥			1487・2
竹川	231		まめなる			1487・2
竹川	232		いと心まとふ			1487・3
竹川	233		少將の君をは			1487・5
竹川	234		院にはかのきみたち			1487・7
竹川	235		このまいり給て			1487・7
竹川	236	内にはおとゝ	内にはおとゝ			1487・9
竹川	237		中將			1487・10
竹川	238		御けしきよろしからず			1487・10
竹川	239		かたふきぬへき			1487・12
竹川	240		かんの君を			1487・14
竹川	241		思ひたゝさりしを			1487・14
竹川	242		右のおとゝ			1488・4
竹川	243		めにみえぬ物なれば			1488・6
竹川	244		中宮を			1488・7
竹川	245		うしろみや何や			1488・8
竹川	246		よし見きゝ			1488・9
竹川	247		女御は			1488・11
竹川	248		ふた所			1488・12
竹川	248+	〈欠〉	くるしとおほして	くるしとおほしてぬい		1488・13
竹川	249	さるは限なき	さるはかきりなき…	さるはかきりなき		1488・13
竹川	250		けに人のさま十十			1488・14
竹川	251		侍従も			1489・3

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
竹川	252		梅かえにあはせたりし中将の			1489・3
竹川	253		おとこたうか			1489・5
竹川	254		右のかとう			1489・7
竹川	255		十四にち			1489・8
竹川	256		女御			1489・8
竹川	257		ぞうをはなれて			1489・10
竹川	258		このあん			1489・11
竹川	259		わたばな			1489・13
竹川	260		竹川うたひて			1489・14
竹川	261	過にし世の	過にし夜の	過にし世の		1490・1
竹川	262		きさいの宮			1490・2
竹川	263		さか月もさして			1490・4
竹川	264		めいほくなくなん			1490・5
竹川	265		よ一夜所++かきありきて	よ一夜所++かさありきて		1490・5
竹川	266		哥とうは			1490・7
竹川	267		ばんしゆんらく			1490・9
竹川	268		みやす所			1490・9
竹川	269		聲聞しりたる			1490・12
竹川	270		一夜の月影は	一夜の月影に		1490・12
竹川	271		桂のかけにはつるにはあらずや			1490・13
竹川	272		雲の上ちかきかたにては			1490・14
竹川	273		やみはあやなき			1491・1
竹川	274		すかして			1491・2
竹川	275		竹河の哥			1491・3
竹川	276		はかなき事			1491・3
竹川	277		なかれての哥			1491・6
竹川	278		心くるしう見ゆる也			1491・8
竹川	279		打いて			1491・8
竹川	280		こなたにと			1491・9
竹川	281		女かたにて			1491・9
竹川	282		物の上手なる女さへ			1491・11
竹川	283	さうは御息所	さうは			1491・13
竹川	284		ひわは			1491・13
竹川	285		わこん			1491・13
竹川	286		かの御ことの音			1491・14
竹川	287		うたこくの物			1492・2
竹川	288	かたちはたからしらすかし	かたちはたから			1492・3
竹川	289		卯月に			1492・6
竹川	290		物のはへも			1492・7
竹川	291		いかのほと			1492・9
竹川	292		こなたに			1492・10
竹川	293	さいへとも	さいへと			1492・13
竹川	294		かくいひ			1493・1
竹川	295		うへの御心はへ			1493・1
竹川	296	内には	内には御心			1493・3
竹川	297		おほやけさまにて			1493・4
竹川	298		かたう			1493・6
竹川	299		えじ			1493・6
竹川	300		古おとゝの御心を			1493・7
竹川	301		久しう成にける昔のれい			1493・7
竹川	302		この君の御すくせにて			1493・7
竹川	303	年比	年一比...			1493・8
竹川	304		かくて心やすく			1493・9
竹川	305		弁の君して			1493・11
竹川	306		内のみけしきは			1493・14
竹川	307		大やけことに			1494・1
竹川	308		はやおほし			1494・1
竹川	309		此たひは			1494・2
竹川	310		さきのかんの君			1494・1
竹川	311		かた++に			1494・6
竹川	312		院にはわつらはしき			1494・10
竹川	313		さすかにかたしけなう			1494・11
竹川	314		さるいみに			1494・14
竹川	315		我をむかし			1495・1
竹川	316		院のうへはた			1495・3
竹川	317		年比有て			1495・5
竹川	318		女御も			1495・11
竹川	319		くね++		注釈ナシ。	1495・12
竹川	320		もとより			1495・14
竹川	321		此御かたさまを			1496・2
竹川	322		おほうへは			1496・6
竹川	323		さてもおはせましに			1496・6
竹川	324		宰相の中將			1496・8
竹川	325		めてさばかるなる			1496・8
竹川	326		みごたち大臣の			1496・9
竹川	327		ねひまさり			1496・11
竹川	328		うるさけなる			1496・13
竹川	329		此中將			1496・14

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
竹川	330		左大臣			1497・1
竹川	331		みちのはてなる			1497・1
竹川	332		右はひたりに			1497・6
竹川	333		藤大納言			1497・6
竹川	334		このかほる			1497・7
竹川	335		三位の君は			1497・7
竹川	336		はいしたてまつり給			1497・9
竹川	337		よぎ			1497・10
竹川	338	先むかしの	〈ナシ〉(337注ノ一部)			1497・11
竹川	339		ふりかたくも			1497・12
竹川	340		ことひきいて給てん			1497・13
竹川	341		よろこひなどは			1497・13
竹川	342		をろかなるつみに打かへさせ			1498・1
竹川	343		けふはさた			1498・1
竹川	344		たいめん			1498・2
竹川	345		くた++しき			1498・3
竹川	346		又きさいの宮			1498・4
竹川	347		宮たちは			1498・6
竹川	348		給へて			1498・10
竹川	349		おさなう			1498・11
竹川	350		さらにかう			1498・12
竹川	351		人は何のとかと			1499・2
竹川	352		さばかりの			1499・4
竹川	353		すぐすぐ			1499・6
竹川	354		あはの			1499・7
竹川	355		御息所も			1499・9
竹川	356		宇治の姫君			1499・9
竹川	357		大臣殿			1499・14
竹川	358		たいきやう		注釈ナシ。	1499・14
竹川	359		ゑかのきんたち			1499・14
竹川	360		かへりたち			1500・1
竹川	361		すまひは有こそしつらめ			1500・2
竹川	362		けふのひかりと			1500・2
竹川	363		かしつき給ふ			1500・3
竹川	364		宮そ			1500・4
竹川	365		となり			1500・6
竹川	366		むかしの事			1500・7
竹川	367		こ宮	こ宮螢		1500・8
竹川	368		おもひもきえす			1500・9
竹川	369	宰相中將	宰相の中將			1500・10
竹川	370		廿七八			1500・14
竹川	371		見くるしの			1501・1
竹川	372		いますからふや			1501・2
竹川	373	古との	故との			1501・2
竹川	374		侍従と	〈欠〉		1501・4
竹川	375		としよはひの			1501・5
竹川	376		宰相はとかくつき++しく			1501・6
橋姫	1		その比	その比八宮の事…		1507・1
橋姫	2		母かた			1507・1
橋姫	3		すちことなる			1507・1
橋姫	4		時うつりて			1507・2
橋姫	5	世にはしたなめられ	世中にはしたなめられ			1507・2
橋姫	6		中++いと			1507・3
橋姫	7		御うしろみなども			1507・3
橋姫	8		むかしの大臣			1507・5
橋姫	9		たとしへなき			1507・6
橋姫	10		心もとなかりければ		注釈ナシ。	1507・9
橋姫	11		女きみ			1507・10
橋姫	12		おなしさまにて			1507・12
橋姫	13		哀なる人の			1508・1
橋姫	14		かきりある身			1508・3
橋姫	15		ほいも			1508・4
橋姫	16		いてや			1508・7
橋姫	17		かきりのさま			1508・9
橋姫	18		姫君は			1508・14
橋姫	19		いたはしく			1509・2
橋姫	20		つき++			1509・4
橋姫	21		さるさはきに			1509・5
橋姫	22		ほとにつけたる			1509・6
橋姫	23		おなし心に			1509・11
橋姫	24		持佛の			1509・12
橋姫	25		いまさらにとのみ			1510・1
橋姫	26		れいの人			1510・3
橋姫	27		わかるゝほととの			1510・3
橋姫	28		よの人になすらふ			1510・5
橋姫	29		へんつき			1510・6
橋姫	30		つき++しく			1510・7
橋姫	31		池の水鳥			1510・12

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
橋姫	32		うちすてゝ哥			1511・4
橋姫	33		硯には			1511・8
橋姫	34		いかてかく哥			1511・11
橋姫	35		なく十も哥			1511・14
橋姫	36		いかゝおほさゝらん			1512・2
橋姫	37		きやうをかたてに			1512・2
橋姫	38	おほとかなる女のやうに	おほうとかなる女のやうに			1512・8
橋姫	39		おほちおとゝ			1512・8
橋姫	40		うたづかさ			1512・11
橋姫	41		源氏のおとゝ			1512・13
橋姫	42		大后			1512・14
橋姫	43		あなたさまの			1513・2
橋姫	44		かの御つき十十			1513・3
橋姫	45		山里			1513・6
橋姫	46		いとしくなかめ			1513・10
橋姫	47		野山の末にも			1513・11
橋姫	48	みし人も歌	みし人も哥	みしくも哥		1513・13
橋姫	49	〈欠〉	山かさなれる		写本、48注ノ途中ヨリ56マ デ欠。資料稿デハ版本ニ ヨツテ補ウ。	1513・14
橋姫	50	〈欠〉	下す			1513・14
橋姫	51	〈欠〉	嶺の朝う	嶺の朝一	整版本「う」ハ記号ノヨウニ モ見エル。	1514・1
橋姫	52	〈欠〉	ひしりだちたる			1514・2
橋姫	53	〈欠〉	まなひしり			1514・6
橋姫	54	〈欠〉	心はかりは蓮の			1514・7
橋姫	55	〈欠〉	冷泉院			1514・10
橋姫	56	〈欠〉	いまたかたちは			1515・1
橋姫	57		ぞくひしり			1515・1
橋姫	58		このわかき人十十			1515・2
橋姫	59		我こそ世中をは			1515・3
橋姫	60		出家の			1515・5
橋姫	61		川なみに			1515・9
橋姫	62		こくらく			1515・9
橋姫	63		さるひしり			1515・10
橋姫	64		このいんのみかと			1515・13
橋姫	65		中十十			1516・2
橋姫	66		さてあさり			1516・3
橋姫	67	人伝にきくことなど	〈ナシ〉(△1字下ゲ「人傳にきくこと など…」)	人傳にきくことなど		1516・6
橋姫	68		世をいとふ哥			1516・7
橋姫	69		跡たえて哥			1516・11
橋姫	70		ひしりの			1516・11
橋姫	71		はか十十しくもあらぬ			1517・2
橋姫	72		こゝには			1517・9
橋姫	73		残すくなき			1517・11
橋姫	74		法の友			1517・13
橋姫	75		さるかたにて			1518・2
橋姫	76		あされ		注釈ナシ。	1518・11
橋姫	77		うはそくなから			1518・13
橋姫	78		の給ひしらす			1518・14
橋姫	79	けとをけなる	けとをげなる句			1519・1
橋姫	79+	〈ナシ〉(79注ノ一部)	きすくにて		注釈ナシ。	1519・1
橋姫	80		いむことたもつ			1519・3
橋姫	81		こと葉だみて			1519・4
橋姫	82		こちなげに			1519・4
橋姫	83		ものしくて			1519・4
橋姫	84		よき人は			1519・8
橋姫	85		三とせはかり			1520・1
橋姫	86	秋の末つかた(是迄一度 講尺)	秋の末つかた		写本「是迄一度講尺」ハ 講釈ノ進行ヲ表スモノ。見 出シデハナク行間書キ入 レト思ワレル。	1520・1
橋姫	87		うつろひては			1520・3
橋姫	88		有明の月の			1520・6
橋姫	89		河のこなた			1520・7
橋姫	90		しけきの中を			1520・8
橋姫	91		ほろ十十と			1520・9
橋姫	92		山おろしに哥			1520・12
橋姫	93		柴のまかき			1520・13
橋姫	94		ぬしらぬ			1521・1
橋姫	95		ひわの聲			1521・4
橋姫	96		わうきてう			1521・4
橋姫	96+	〈ナシ〉(96注ノ一部)	しやうのこと			1521・6
橋姫	97		しか十十なん			1521・9
橋姫	98		何かしか			1521・9
橋姫	99		事やめ給て			1522・1
橋姫	100	けになへての	けになへてに	けになくてに		1522・9

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
橋姫	101	侍らんとて	侍らんとて句		注釈ナシ。	1522・10
橋姫	102		竹のすいかひ			1522・10
橋姫	103		をしよせ奉れり			1522・11
橋姫	104		あふきならて			1523・3
橋姫	105		いる日をかへす		整版本ハ注釈末尾1行1字 上げ。	1523・6
橋姫	106	さまことにといふは	さまことにといふは…			1523・6
橋姫	107		いますこしは			1523・6
橋姫	108		これも月にはなるゝ			1523・7
橋姫	109		むかし物かたり			1523・9
橋姫	110		世なりけり			1523・12
橋姫	111		又月さし出なんと			1523・13
橋姫	112		おりあしく			1524・3
橋姫	113		みえや			1524・4
橋姫	114		うる十しき人なめるを			1524・9
橋姫	115		山のかけち			1524・13
橋姫	116		きえかへり			1525・1
橋姫	117		わざとめいたる			1525・3
橋姫	118		何事も			1525・3
橋姫	119		かつ知なから			1525・5
橋姫	120		一ところしもあまり			1525・6
橋姫	121		御心のうちは			1525・8
橋姫	122	御心のまきはしきにも	御心のまきはしきも			1525・13
橋姫	123		おこしつる老人			1526・1
橋姫	124		たとしへなく			1526・1
橋姫	125	みすのうちにて	みすのうちにそ句			1526・3
橋姫	126		君たちは			1526・5
橋姫	127		いとたつぎも			1526・10
橋姫	128		むかしの御物かたり			1527・1
橋姫	129		またきにおほれ			1527・4
橋姫	130		夜のまのほと			1527・9
橋姫	131		三条宮			1527・11
橋姫	132		古右衛門督			1528・1
橋姫	133		人かすにもは			1528・5
橋姫	134		かんなぎやう			1528・12
橋姫	135		さしくみ		注釈ナシ。	1528・13
橋姫	136		こち十			1528・14
橋姫	137		そこほか			1529・1
橋姫	138		心のほとよりは			1529・4
橋姫	139		立たまふにかの			1529・4
橋姫	140		嶺の八重雲			1529・5
橋姫	141		朝ほらけ哥			1529・9
橋姫	142		御かへり			1529・11
橋姫	143		れいのいと			1529・12
橋姫	144		雲のある哥			1529・13
橋姫	145		何はかり			1529・14
橋姫	146		心くるし			1530・1
橋姫	147		よの人めいて			1530・3
橋姫	148		あしろは			1530・5
橋姫	149		されと			1530・6
橋姫	150		たれもおもへは			1530・8
橋姫	151		玉の臺に			1530・9
橋姫	152	橋姫の歌	橋姫			1530・11
橋姫	153		いらゝぎ			1530・12
橋姫	154		ときこそは			1530・13
橋姫	155		さしかへる哥			1531・1
橋姫	156		身さへ			1531・1
橋姫	157		まほにめやすく			1531・2
橋姫	158		かへりわたらせ			1531・3
橋姫	159		思ひはなれかたき			1531・7
橋姫	160		えりて			1531・9
橋姫	161		打つけなる			1531・9
橋姫	162		とゝめ			1531・10
橋姫	163		すぐよか			1531・13
橋姫	164		さこんのせう			1531・13
橋姫	165		うつしきて			1532・7
橋姫	166		こめかしきを			1532・11
橋姫	167		中十うたて			1532・13
橋姫	168		一こと打			1533・1
橋姫	169		御みつから			1533・1
橋姫	170		まうてん			1533・2
橋姫	171		三宮			1533・2
橋姫	172		夕暮に			1533・5
橋姫	173		さま十御覧すへかめる			1533・9
橋姫	174		かのわたり			1533・10
橋姫	175		かやすきほと			1533・12
橋姫	176		打かくろへ			1533・13
橋姫	177		見おとり			1534・3

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
橋姫	178		さはかりならん			1534・4
橋姫	179		よたけ			1534・8
橋姫	180		ひしりこと葉			1534・11
橋姫	181		何かそのひを			1535・2
橋姫	182		あしろ車			1535・3
橋姫	183		かとのりの御なをし			1535・3
橋姫	184		文など			1535・6
橋姫	185		ぎなど			1535・7
橋姫	186		きんの音			1535・9
橋姫	187		しるへする			1535・14
橋姫	188		とりてしらへ			1536・1
橋姫	189		ほのかに聞し			1536・1
橋姫	190		御ことひのひき			1536・2
橋姫	191		嶺の松風			1536・5
橋姫	192		此わたり			1536・7
橋姫	193		心得たる			1536・7
橋姫	194		川なみ			1536・9
橋姫	195		ろなう			1536・10
橋姫	196		そのつゐてにも			1536・13
橋姫	197		人にたに			1537・1
橋姫	198		おちあぶれて			1537・3
橋姫	199		心くるしう			1537・4
橋姫	200		わさとのみうしろ			1537・5
橋姫	201		やまひつき			1537・11
橋姫	202		たくひや又も			1538・4
橋姫	203		かのみかけに			1538・6
橋姫	204		かゝる身には			1538・10
橋姫	205		佛は世に			1538・12
橋姫	206		焼もすて			1538・14
橋姫	207		この世の			1539・3
橋姫	208		母に侍し			1539・5
橋姫	209		藤衣			1539・6
橋姫	210		よからぬ人の			1539・7
橋姫	210+	<ナシ>(210注ノ一部)	人をはかりこちてとは			1539・7
橋姫	211		ちゝかた			1539・10
橋姫	212		れいせぬん			1539・11
橋姫	213		み山かくれの			1539・13
橋姫	214		小侍従			1539・13
橋姫	215		よしさらは	<欠>		1540・2
橋姫	216		さゞやかに			1540・6
橋姫	217		ほぐ	ほゝ		1540・6
橋姫	218		おまへにて			1540・7
橋姫	219		つれなくて			1540・11
橋姫	220		内の御物いみ			1540・14
橋姫	221		院の女一宮			1541・1
橋姫	222		ふせんれう			1541・5
橋姫	223		しやう			1541・5
橋姫	224		かの御名			1541・6
橋姫	225		やまひは			1541・8
橋姫	226		ゆかしう			1541・9
橋姫	227		みかたちも			1541・9
橋姫	228		めのまへに哥			1541・12
橋姫	229	二葉の松	二葉のほと			1541・13
橋姫	230		命あらは哥			1542・1
橋姫	231		しみといふものゝ			1542・2
橋姫	232	宮のおま	宮のおまへ			1542・7
橋姫	233		はちらひて			1542・7
橋姫	234		何かは			1542・8
橋姫	235	やかて別にしかは	<欠>			1540・10
椎本	1		中やとり			1547・2
椎本	2		うらめしと			1547・3
椎本	3		むつまじう			1547・3
椎本	4		六条院より			1547・5
椎本	5		申たなれば			1547・8
椎本	6		中十十			1547・10
椎本	7	右大弁	右大弁一			1547・11
椎本	8		たぎのぼん			1548・1
椎本	9		かのひしりの宮			1548・5
椎本	10		むかしの事			1548・6
椎本	11		笛をいと			1548・7
椎本	12		さしも思ひ			1548・14
椎本	13		心やりぬるたひね			1549・2
椎本	14		ちるさくら			1549・3
椎本	15		川そひ柳			1549・5
椎本	16		山風に霞哥			1549・10
椎本	17		をちこちの哥			1549・13
椎本	18		かんすいらく			1549・14
椎本	19	ゆへある君なれば	ゆへある宮なれば			1550・1

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
権本	20		こゝは又			1550・2
権本	21		あしろ屏風			1550・2
権本	22		一こつてうの心に			1550・5
権本	22+	(ナシ)(22注ノ一部)	(ナシ)(△1字下ゲ)	桜人は		1550・5
権本	23		おほきみ			1550・9
権本	24		心つくす			1550・12
権本	25		かの宮			1550・13
権本	26		うへわらは			1551・1
権本	27		山さくら哥			1551・2
権本	28		野をなつかしみ			1551・2
権本	29		かさしおる哥			1551・6
権本	30		野をわきてしも			1551・6
権本	31		藤大納言			1551・8
権本	32	尋もきかぬ也	尋もきかぬ			1551・11
権本	33		しるへなくても			1551・13
権本	34		心ときめき			1551・14
権本	35		かゝる人			1552・1
権本	36		猶もあらぬ			1552・1
権本	37		春のつれ++			1552・3
権本	38		ねひまさり			1552・4
権本	39		いてたちいそき			1552・8
権本	40		一所++			1552・13
権本	41		さるへきにや			1553・6
権本	42		年比よりも心くるしうて			1553・8
権本	43		いちじるき			1553・9
権本	44		宇治にまうで		注釈ナシ。	1553・10
権本	45		をとほ山			1553・12
権本	46		猶たつね			1553・13
権本	47		一ことにても			1554・2
権本	48		はふき			1554・3
権本	49		さるかた			1554・4
権本	50		山のはちかきは			1554・6
権本	51		このころの			1554・8
権本	52		くぢう			1554・8
権本	53		夜ふかき			1554・11
権本	54		うへは			1555・2
権本	55		女はかきり有て			1555・2
権本	56		いかにさおほさゝらん			1555・4
権本	57		すへてまことに			1555・4
権本	58	さかしきひしりたつ	さかしき			1555・7
権本	59		うと++しからぬはしめ			1555・9
権本	60		さうのこと			1555・10
権本	61		ならしそめつる			1555・12
権本	62		よこもれる			1555・13
権本	63		我なくて哥			1556・1
権本	64		ひかこと			1556・2
権本	65		いかならん哥			1556・4
権本	66		すまひなと			1556・4
権本	67		ふる人			1556・5
権本	68		わか心なから			1556・9
権本	69		すくせことにて			1556・13
権本	70		秋ふかく成行			1557・5
権本	71		おもひなくさむ			1557・8
権本	72		なかき世のやみ			1557・10
権本	73		かつ見たて			1557・11
権本	74		過給ひにし			1557・12
権本	75		ひたふるに			1558・1
権本	76		女はさるかたに			1558・2
権本	77		心のうちにこそ			1558・6
権本	78		つらき御心ならねと			1558・7
権本	79		さすらへん契かたしけなく	さすへらん契かたしけなく		1558・14
権本	80		にきはしき			1559・3
権本	81		よからぬかたに			1559・4
権本	82		なからん			1559・5
権本	83		ひとり++			1559・8
権本	84		三味けふはてぬらん	三味けふはてぬらん		1559・10
権本	85		風かどて			1559・12
権本	86		こと++			1560・5
権本	87		そなたのしとみ			1560・10
権本	88		なみたもいつち			1560・13
権本	89		みる目のまへ			1560・14
権本	90		かきりある道なりければ			1561・3
権本	91		日比も			1561・6
権本	92		御ありさまをき			1561・8
権本	93		よに心ほそき			1561・10
権本	94		かきりあるみちには			1561・12
権本	95		又あひみること	又あるみること		1561・14
権本	96		あさゆふの			1562・2

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
権本	97		きのふけふとは			1562・2
権本	98		よのつねの			1562・6
権本	99		あけぬよの			1562・10
権本	100		袖の時雨			1562・11
権本	101		かぎりあらん御いのち			1562・13
権本	102		御いみに			1563・1
権本	103		中納言には			1563・4
権本	104		をしか鳴哥			1563・9
権本	105	只今のからなんまで	たゝいまの			1563・9
権本	106		比になんまで			1563・10
権本	107		けにかきりありけり			1564・2
権本	108		わかさかしう			1564・5
権本	109		なみたのみ哥			1564・7
権本	110		さゝのくまを			1564・10
権本	111		いそきおぎて			1565・2
権本	112		朝霧の哥			1565・4
権本	113		あまりなさけ			1565・5
権本	114		ひと所			1565・5
権本	115		あまたみしり			1565・11
権本	116		山ぶしだちて			1565・13
権本	117		くたりたるかた			1566・1
権本	118		むかしの御心むけに			1566・5
権本	119		こといへは			1566・9
権本	120	月火のかけ	月日のかけ			1566・10
権本	121		行かたもなく			1566・11
権本	122		けにこそ			1566・12
権本	123		むかしざま			1567・1
権本	124		おもひしり給ふへし			1567・1
権本	125		おほすらんさま			1567・2
権本	126	おほすらむさま	おほすらんさま			1567・8
権本	127		色かはる浅茅哥			1567・10
権本	128		色かはる哥			1567・12
権本	129		はつるゝ			1567・12
権本	130		ありかたく			1568・1
権本	131		こゝんに			1568・3
権本	132		ほたしなど			1568・8
権本	133		かの御こと			1568・9
権本	134	おほほれ	おもほれ			1568・11
権本	135		この人は			1568・11
権本	136		はゝ君も			1569・1
権本	137		かのとのには			1569・2
権本	138		むかしの御事は			1569・4
権本	139		中納言は			1569・7
権本	140		いとほつかしけなる			1569・8
権本	141		又もてはなれては			1569・9
権本	142		これやかきりのなと			1569・11
権本	143		秋やはかはる			1569・12
権本	144		かゝる人の		東洋文庫本乱丁。144~ 154/ハ174ノ次ニアリ	1570・3
権本	145		秋霧の哥			1570・7
権本	146		人も参りかよひしか			1571・10
権本	147		みえみえすみ			1572・4
権本	148		さるかたにて			1572・5
権本	149		君なくて哥			1572・9
権本	150		おく山の哥			1572・10
権本	151		又もふりそふや			1572・10
権本	152		れいよりは			1572・13
権本	153		墨染ならぬ			1572・14
権本	154		いかゝはせんとて			1573・3
権本	155		猶うつりぬへき			1573・6
権本	156		もらしきこえたりけん	もえしきこえたりけん		1573・8
権本	157		こゝになん			1573・9
権本	158		さとのしるへ			1573・11
権本	159		何かは			1573・11
権本	160		すい給へらん			1573・12
権本	161	なをさりことなどの	しをさりことなどの	なをさりことなどの		1573・13
権本	162		なに事にもあるにしたかひて			1573・14
権本	163		くつれそめては			1574・4
権本	164		心ふかく			1574・5
権本	165		ことにそむくこと			1574・6
権本	166		人のみたて			1574・8
権本	167		みたりあしこそ			1574・10
権本	168		わか御みつから			1574・11
権本	169	いかにとかけかけ	いかにかけかけ			1574・13
権本	170		かならず御みつから			1575・1
権本	171		それは雪をふみ分て			1575・1
権本	172		このかみ心にて			1575・2
権本	173		かの御心よせは			1575・3

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
権本	174		ほのかにの給ふ			1575・3
権本	175		御返事など			1575・4
権本	176		雪ふかき哥			1575・8
権本	177		かきて			1575・8
権本	178		つらとち哥			1575・10
権本	179		さらばしもかけさへ			1575・10
権本	180		すくみたる			1575・12
権本	181		かうこそは			1575・14
権本	182		しらすかほなる			1576・1
権本	183		山里の			1576・4
権本	184		中の宮は			1576・7
権本	185		かつらひげ			1576・9
権本	186		さん十よねんとよむ			1576・12
権本	187		木のもと			1576・14
権本	188		花のかさり			1577・2
権本	189		立よらん哥			1577・4
権本	190		君もしり			1577・6
権本	191	おい人に	出い人に			1577・8
権本	192		ありがたくもと			1577・10
権本	193		雪きえに			1577・10
権本	194		君かおる哥			1578・1
権本	195		雪ふかき汀の小芹哥	雪ふかき汀のふせり哥		1578・2
権本	196	中納言殿一	中納言殿			1578・3
権本	197		宮かさしを			1578・5
権本	198		つてにみし哥			1578・8
権本	199		うはへばかり			1578・10
権本	200		いつことか哥			1578・11
権本	201		さしはなち			1578・11
権本	202		見あらはず			1578・14
権本	203		心になふ			1579・2
権本	204		六君			1579・2
権本	205		おともおほしたり			1579・3
権本	206		まめやかなる			1579・7
権本	207		あさればみ			1579・9
権本	208		にはかに			1579・11
権本	209		猶あらしに			1580・1
権本	210		ひきかへる			1580・4
権本	211		その御木丁をしいて			1580・4
権本	212		あなたにとをらんと			1580・7
権本	213		まつひとり立いて			1580・7
権本	214		おひはかなげに			1580・10
権本	215		女一宮			1580・14
権本	216		又いさり			1581・1
権本	217		いそきてしも			1581・4
権本	218		いみしうも			1581・5
権本	219		くろきあはせ			1581・6
権本	220		髪さはら			1581・8
権本	221		色なりとか			1581・8
権本	222		立たる			1581・11
総角	1		御はての事			1587・1
総角	2		きやうのかさり			1587・3
総角	3		人のきこゆる			1587・3
総角	4		みつからも			1587・5
総角	5		みやうがうのいと			1587・6
総角	6		かくてもへぬる			1587・7
総角	7		たより			1587・7
総角	8		そのこと			1587・8
総角	9		玉にぬかなん			1587・9
総角	10		いせのごも			1587・9
総角	11		物とはなしに			1587・11
総角	12		願文など			1587・12
総角	13		あけまきに哥			1588・1
総角	14		れいのと			1588・1
総角	15		ぬきもあへす哥			1588・3
総角	16		あはずは			1588・3
総角	17		みつからの御うへ			1588・4
総角	18		さしも			1588・6
総角	19		たかへきこえしの			1588・12
総角	20		心あらん人は			1589・1
総角	21		さるはずこよこもる			1589・5
総角	22		み山かくれには			1589・5
総角	23		けさやかに			1589・8
総角	24		たゝ後の世さまの			1589・9
総角	25		物心ほそけに			1589・10
総角	26		契りてしを			1589・11
総角	27		おほしをきて奉り給ひし			1589・12
総角	28	いかにおほしよそへと	いかにおほし			1589・13
総角	29		きゝつたへ			1589・14

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
総角	30		いひなすやう			1590・2
総角	31		宮の御事をも			1590・5
総角	32		うち十十に			1590・6
総角	33	ことよかりなと	ことよかりなとも			1590・8
総角	34		もとよしかく			1590・9
総角	35	かたほならん御有さま	かたほならん御ありさまは			1591・1
総角	36		松の葉をすき			1591・5
総角	37		いける世の	いかける身の		1591・6
総角	38		わかき御心ともを			1591・7
総角	39		きこえかよひ給ふめるに			1591・12
総角	40		あはれなる一こと			1591・14
総角	41		いつかたにも			1592・1
総角	42		なよひかなる			1592・4
総角	43		はらからなと			1592・6
総角	44		きさいの宮			1592・10
総角	45		かきりあれは			1592・12
総角	46		みえたてまつらぬ			1593・2
総角	47		いつかたも			1593・6
総角	48		あさやかならぬ			1593・8
総角	49		らうめいたる			1594・1
総角	50		打とくへうも			1594・3
総角	51		さはり所にて			1594・5
総角	52		さしもゝて			1594・8
総角	53		へたてなきとは			1595・1
総角	54		あばめは			1595・2
総角	55		へたてぬ心を			1595・2
総角	56		めつらかなりとも			1595・3
総角	57		人はかくしも			1595・5
総角	58		しれ物			1595・5
総角	59		我ならて			1595・8
総角	60		ゆゝしき袖の色			1595・14
総角	61		いとかうしも			1596・3
総角	62		袖の色をひき			1596・3
総角	63	さはかりいみをくへく	さはかりのいみをくへく			1596・4
総角	64		みやうかうのいと			1596・10
総角	65		墨染の今さら			1596・12
総角	66		かう成けりと			1597・3
総角	67		宮のゝ給ひし			1597・4
総角	68		水の音に			1597・6
総角	69		旅のやとり			1597・7
総角	70		あかう成行			1598・1
総角	71		今たに			1598・3
総角	72		よに			1598・6
総角	73		いまより後は			1598・8
総角	74		曉の			1598・10
総角	75		山さとの哥			1598・13
総角	76		鳥の音も哥			1598・14
総角	77		名残恋しくて			1599・2
総角	78		つぎ十十			1599・5
総角	79		この人の			1599・6
総角	80		身つからのうへ			1599・10
総角	81		この人の			1599・11
総角	82		わか世はかくて			1599・13
総角	83		この宮は			1600・1
総角	84		御そひきゝ			1600・3
総角	85		すぐ十十		注釈ナシ。	1600・6
総角	86		あけまきを			1600・6
総角	87		ひろはかり			1600・7
総角	88		日は残なく			1600・9
総角	89		心はなと			1600・10
総角	90		かた時も			1600・14
総角	91		うすにひ			1601・3
総角	92		かみなとあらふ			1601・4
総角	93		ちかおとり			1601・6
総角	94		かの人			1601・7
総角	95		藤の衣			1601・8
総角	96		御文にて			1601・11
総角	97		よにしらぬ			1601・12
総角	98		むかし物かたり			1602・3
総角	99		うちとくましきは			1602・4
総角	100		此君を			1602・5
総角	101		おとりまさらん			1602・5
総角	102		ことにてゝは			1602・7
総角	103		ほいになんあらぬと			1602・8
総角	104		けしきたに			1602・9
総角	105		むかしの御おもむけ			1602・11
総角	106		やうの物			1603・2
総角	107		心うくては			1603・5

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
総角	108		一所をのみやは			1603・5
総角	109		思ひみたれ			1603・9
総角	110		ひと所			1603・13
総角	111		身を心とも			1603・14
総角	112		たゞかたに			1604・3
総角	113		とうせられず			1604・4
総角	114		あやうも			1604・6
総角	115		れいの色			1604・7
総角	116		山なしの花そ			1604・9
総角	117		いつありそめけん			1604・11
総角	118		さはいへとも			1604・13
総角	119		たゞこのゆかりに			1605・6
総角	120		おなしことに			1605・7
総角	121		かく世にありかたき			1605・14
総角	122		かしこけれと			1606・1
総角	123		それはさるへき	それは去へき	「は」ノ字母、整版本「八」、古活字本「盤」。	1606・5
総角	124		この殿の			1606・6
総角	125		雲霞を			1606・13
総角	126		いかにもてなさんと			1607・2
総角	127		なよゝか			1607・3
総角	128		すこしまるひのきて			1607・5
総角	129		さかしたち			1607・7
総角	130		引あげて		注釈ナシ。	1608・5
総角	131		あらましことにて			1608・7
総角	132	おちとまる	たちとまる			1608・9
総角	133		今はと			1608・9
総角	134		心しけるにや			1608・11
総角	135		あさましけに			1608・12
総角	136		心もしらさりける			1608・13
総角	137		打つけに			1609・2
総角	138		このふし			1609・2
総角	139		しそじつと			1609・5
総角	140		おそろしき神そ			1609・9
総角	141		はは打すきて			1609・9
総角	142		なその			1609・10
総角	143		つき十十			1609・11
総角	144		あふ人にしも			1609・14
総角	145		つらき人の			1610・3
総角	146		弁参りて			1610・5
総角	147		きのふの給ひし			1610・7
総角	148		かへのなかのきり十十す			1610・8
総角	149		おほすらんことの			1610・8
総角	150		身もなけ			1610・14
総角	151		すてかたよくとしをき			1610・14
総角	152		かけ十十しき			1611・2
総角	153		うきもつらきも			1611・2
総角	154		宮などのはつかしけもなく			1611・3
総角	155		いかにしつる			1611・7
総角	156	れいのよりも	れいよりも			1611・9
総角	157		秋のけしきも			1611・10
総角	158		おなしえを哥			1611・12
総角	159		そこはかと			1611・13
総角	160		山姫の哥			1612・3
総角	161		ことなしひに			1612・3
総角	162		身をわけて	〈欠〉		1612・4
総角	163		そのかひなく			1612・5
総角	164		はしめのほい			1612・6
総角	165		世中を思ひすてんの			1612・8
総角	166		おなしあたり			1612・10
総角	167	兵部卿の御かた	兵部卿宮の御かた			1612・12
総角	168		三条ノ宮やけにし		注釈ナシ。	1612・12
総角	169		六条院にそ			1612・12
総角	170		ちかうては			1612・12
総角	171		おもひつるもしるく			1613・2
総角	172	はしをのほりも	はしをのほるも			1613・4
総角	173		かのわたり			1613・6
総角	174		おもひなるやう			1613・8
総角	175		明闇			1613・9
総角	176		わつらはしかれは			1613・11
総角	177		をみなへし哥			1613・13
総角	178		霧深き哥	霧ふき哥		1614・1
総角	179		なへてやは		注釈ナシ。	1614・1
総角	180		あなかしかまし			1614・2
総角	181		年比から			1614・2
総角	182	をしはからるゝ	をしはからるゝ句			1614・3
総角	183	いとおしう内十十に	いとおしう内々十十に			1614・5
総角	184		ゆつりきこえて			1614・7

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
総角	184+	<ナシ>(184注ノ一部)	<ナシ>(Δ1字下ゲ「心せはくは…」)	心せはくは		1614・8
総角	185		れいのかるらか			1614・9
総角	186		よしみ給へ			1614・10
総角	187		つかうまつり			1614・12
総角	188		ひかんのはて			1614・13
総角	189		舟わたり			1615・2
総角	190		みとかめん人なけれとも也			1615・5
総角	191		けいめい			1615・6
総角	192		うつろふかた			1615・7
総角	193		思ふかたこと			1615・8
総角	194		いかなるへき事にかと			1615・10
総角	195		ひたやくもり			1615・13
総角	196		みちひき給ひてんや			1615・14
総角	197		いつかたにもおなし			1615・14
総角	198		かの入給ふへき			1616・2
総角	199		今はとうつろひ			1616・5
総角	200		かはかりも			1616・7
総角	201		こしらへて			1616・9
総角	202		こと人			1616・10
総角	203		さき++も			1616・12
総角	204	姫宮は	姫君は			1616・13
総角	205		おかしうもいとおしうも			1616・13
総角	206		宮のしたひ			1617・1
総角	207		このさかしだつ			1617・2
総角	208		中空に人わら			1617・2
総角	209		めもあやに			1617・4
総角	210		今はいふかひなし			1617・6
総角	211		ことはりは			1617・6
総角	212		やんことなきかたに			1617・7
総角	213		かの御心さしは			1617・8
総角	214		かなはぬ身こそ			1617・9
総角	215		しるへといさなひ			1617・11
総角	216		このゝ給ふすくせ			1617・14
総角	217		目にみえぬ事にて			1618・1
総角	218		しらぬなみたのみ			1618・1
総角	219		こはいかに			1618・2
総角	220		をこめきて		注釈ナシ。	1618・3
総角	221	思ひのとまりて聞えん	思ひのとまりて聞らん句			1618・6
総角	222		あがぎみ			1618・8
総角	223		御心にしたかふ			1618・8
総角	224		山鳥の			1619・1
総角	225		れいの明行			1619・1
総角	226		いきたなくて			1619・1
総角	227		しるへせし哥			1619・4
総角	228		かた++に哥			1619・6
総角	229		こよなう			1619・7
総角	230		よろつに恨つゝ			1619・7
総角	231		よへのかたより			1619・8
総角	232		いとあやしく			1619・10
総角	233		夜をやへたてん			1619・13
総角	234		御車よせて			1619・14
総角	235		ことやう			1619・14
総角	236		みなわらひ			1620・1
総角	237		をろかならぬ			1620・1
総角	238		しるへの			1620・2
総角	239	さま++	さわ++		注釈ナシ。	1620・6
総角	240		たのもし人			1620・8
総角	241		御文			1620・9
総角	242		よのつねに哥			1620・11
総角	243		大かたに			1620・12
総角	243+	<欠>	さかしく			1620・13
総角	244		三重かさねの			1620・14
総角	245		つゝませて			1621・2
総角	246		けしきもらさしと			1621・3
総角	247		にくおほす			1621・6
総角	248		ほいならさりし			1621・7
総角	249		さかし人			1621・11
総角	250		この人++			1621・12
総角	251		はか++しう			1621・14
総角	252		つみもそえ給ふ			1622・4
総角	253		おほしをきてしを			1622・6
総角	254		さるは心もなく			1622・8
総角	255		かよひたまはさん	かよひ給はんさん		1622・10
総角	256		哀ともいかにとも			1622・11
総角	256+	<欠>	かしつくあたり			1622・12
総角	257		さるはこの君しもそ			1623・3
総角	258		おもてうちあかみて			1623・7

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
総角	259		宮つかへ			1623・9
総角	260		みたり心ち			1623・11
総角	261		をいつき書給て			1623・12
総角	262		みそひつ			1623・12
総角	263		宮の御かたに			1623・14
総角	264		御れうと			1624・2
総角	265		さ夜衣哥			1624・4
総角	266		おどし			1624・4
総角	267		ごなたかなた			1624・5
総角	268		御つかひかたへは			1624・6
総角	269		へたてなき哥			1624・8
総角	270		おほしけるまゝと			1624・9
総角	271		宮はその夜			1624・9
総角	272	何事も物このまじう	何事も物このまじう…			1624・13
総角	273		たてたる御心			1624・13
総角	274		よくみけしきのみ奉らん			1625・4
総角	275		日比へて			1625・5
総角	276		人しれぬ宮つかへのしるし			1625・7
総角	277		いとほしう			1625・10
総角	278		おなしさわがれ			1625・11
総角	279		つみにかはり			1625・12
総角	280		こはたの			1625・12
総角	281		むまはいかゝ			1625・14
総角	282		此君			1626・1
総角	283	あまた色たち	あまた宮たち			1626・4
総角	284		大宮			1626・5
総角	285		御中らひ			1626・8
総角	286		うこき			1626・10
総角	287		みえしらがふ			1626・13
総角	288		もてしつめ			1626・14
総角	289		心++なる			1627・1
総角	290		つねなき			1627・2
総角	291	かしこには(二日晝)	かしこには		写本「二日晝」ハ晝花抄ニ「二日」トアルノヲ写シタモノト思ワレド。見出しニ	1627・3
総角	292		おもひしり			1627・7
総角	293	たくひあらしとや	たくひあらしはや			1627・8
総角	294		花の色++			1627・14
総角	295		かほづくり		注釈ナシ。	1628・4
総角	296		わか身にては			1628・4
総角	297		はつかしけならん			1628・6
総角	298		心のほとや			1628・12
総角	299		たえまあるへく			1629・1
総角	300		わか有さま			1629・2
総角	301		跡の白波			1629・4
総角	302	姫君に	姫君も			1629・7
総角	303		わか方さま			1629・8
総角	304		うち橋の			1629・10
総角	305		中納言のはつかしさ			1629・14
総角	306		おもふかたことにて			1629・14
総角	307		よそに思ひ			1630・2
総角	308		京におはし			1630・5
総角	309		中たえん哥			1630・7
総角	310		たえやせしの哥			1630・9
総角	311		されたる			1630・12
総角	312	あくる日ことに	あくる日こと			1631・3
総角	313		心つくしにみじ			1631・4
総角	314		をしはかりて			1631・12
総角	315		ふるの			1631・13
総角	316		女ばら			1632・5
総角	317		さかしら人			1632・9
総角	318		またまらうとあのかた			1632・12
総角	319		人のうへにても			1633・2
総角	320	思ひはてゝ	おもひはてゝ句			1633・2
総角	321		宮の御ありさまなど			1633・5
総角	322		猶かく			1633・7
総角	323		さいへと			1633・12
総角	324		わか儂に			1633・13
総角	325		れいの遠山			1634・2
総角	326		宮はまた			1634・2
総角	327	女房あやしと	女君あやしと			1634・4
総角	328		くるしきに			1634・5
総角	329		御心の中を			1634・6
総角	330		けに心つくしからみゆまで			1634・7
総角	331		六の君			1634・9
総角	332		うれへ			1634・10
総角	333		なみ++には			1634・13
総角	334		もし世ノ中			1634・13

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
総角	335		わたしたてまつらん			1635・2
総角	336		かくいと			1635・3
総角	337		しはしの御さわがれ			1635・5
総角	338		衣かへなと			1635・7
総角	339		かべしろ			1635・9
総角	340		たてまつれ給			1635・10
総角	341		十月一日比			1635・12
総角	342		そゝのかし			1635・12
総角	343		宰相中将			1636・1
総角	344		さきの春			1636・3
総角	345		これもさるへきにこそ			1636・7
総角	346		さうじみ			1636・9
総角	347	紅葉をふきたる	〈ナシ〉(△1字下ゲ)			1636・10
総角	348		ひこ星			1636・13
総角	349		舟さしよせて			1637・1
総角	350		かいせんらく			1637・2
総角	351		宮はあふみの			1637・3
総角	352		遠かた人			1637・3
総角	353		宰相の御あに			1637・6
総角	354		宮のたいぶ			1637・11
総角	355		よそにてへたゝるへき日は			1638・2
総角	356		あしろのひをも			1638・5
総角	357		人にしたかひつゝ			1638・7
総角	358		をくれて			1638・11
総角	359		いつそやも哥			1639・3
総角	360		あるしかたの			1639・3
総角	361		桜こそ哥			1639・5
総角	362		いつこより哥			1639・6
総角	363		みし人も哥			1639・7
総角	364	うちなき給は	うちなき給へは			1639・7
総角	365		あきはてゝ哥	あきはてゝ哥句		1639・9
総角	366		月草の			1640・2
総角	367		なを++しき			1640・5
総角	368		すちことなる			1640・6
総角	369		かの見おとり			1640・10
総角	370		いとなやましう			1640・13
総角	371		人なみ++	人みな++		1641・4
総角	372		こりすまに			1641・9
総角	373		さるへき人にも			1641・11
総角	374		やうの物			1641・12
総角	375		かきりなき人			1642・6
総角	376		わかあまり			1643・2
総角	377		とりかへず			1643・8
総角	378		御心に付て			1643・10
総角	379		又この			1644・2
総角	380		きこゆれと			1644・4
総角	381		よそへらるゝ			1644・8
総角	382		かしこへたて			1644・9
総角	383		さいこ			1644・9
総角	384		きんをしへ			1644・9
総角	385		人のむすはん			1644・10
総角	386		御くしのなひきて			1644・14
総角	387		すこしも物へたて			1645・1
総角	388		わか草の哥			1645・3
総角	389		ことしもこそ			1645・4
総角	390		ことほりにてうらなく			1645・5
総角	391		紫のうへから			1645・6
総角	392	御心うつろひ	御心のうつろひ			1645・9
総角	393		待きこえ給ふ			1645・11
総角	394	中納言もおはしたり	中納言おはしたり			1645・12
総角	395		宮の御心も			1646・3
総角	396		こゝには			1646・5
総角	397	いと心くるしう	いと心くるしう			1646・7
総角	398		世中は			1646・8
総角	399		人の御うへをさへ			1646・11
総角	400		おもひのまゝに参りきて			1646・14
総角	401		いとみくるしう			1647・2
総角	402		きのふはかり			1647・4
総角	403		さらはこなたへ			1647・6
総角	404		むわつふれて			1647・7
総角	405		所さり給			1647・11
総角	406		御ともなる人			1647・13
総角	407		わかき人			1647・13
総角	408		我とのこそ			1648・4
総角	409		めもあやに			1648・6
総角	410		さこそいひつれ			1648・7
総角	411		よはき御心ちは			1648・12
総角	412		姫君			1648・14

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
総角	413		見やりつゝ			1649・2
総角	414		おやの			1649・2
総角	415		みせまほし			1649・10
総角	416		ひるねの君			1649・10
総角	417		御かほは			1649・11
総角	418		はな十として			1649・12
総角	419		こ宮の夢に			1649・12
総角	420		人のくにに			1650・4
総角	421		おりはすこし			1650・5
総角	422		心うつくしう			1650・6
総角	423		さやうなるあるましき			1650・8
総角	424		かた時も			1650・11
総角	425		あすしらぬ			1650・11
総角	426		たかため			1650・12
総角	427		なかむるはおなし哥			1651・1
総角	428		かく袖ひつる			1651・1
総角	429	耳なれたる	耳なれにたる			1651・2
総角	430		猶あらし			1651・2
総角	431		いかて人に			1651・3
総角	432		程ふるにつけて			1651・4
総角	433		あられふる哥	あれれふる哥		1651・9
総角	434		月もへたり			1651・10
総角	435		さはりおほみなる			1651・10
総角	436		五せちなとく	五せちなとく		1651・11
総角	437		はかなく人を			1651・13
総角	438		大宮は			1651・13
総角	439		さ思ふ給ふる			1652・2
総角	440		御心をしり給はねは			1652・3
総角	441		心からおほえつゝ			1652・4
総角	442		おさ十			1652・5
総角	443		この月と成て			1652・6
総角	444		此御中を			1653・12
総角	445		しよより			1653・14
総角	446		引あけて		注釈ナシ。	1654・2
総角	447	おほつかなく	おほつかなくて			1654・6
総角	448		さくりも			1654・8
総角	449		すこしあつくそ			1654・8
総角	450		人の歎			1654・8
総角	451		むねもひしけて		注釈ナシ。	1654・11
総角	452		日比見奉り			1654・11
総角	453		とのゐ人さふらはん			1654・13
総角	454		いとくるしくはつかし			1654・14
総角	455		かのかたつかた			1655・2
総角	456		をしはなち			1655・4
総角	457		くうつきて			1655・8
総角	458		いかにこよひは	〈欠〉		1655・9
総角	459		いさゝか			1655・13
総角	459+	〈欠〉	たへたるに			1656・1
総角	460		なにかしの念佛			1656・2
総角	461		思給へえたる			1656・3
総角	462		つかせ			1656・3
総角	462+	〈欠〉	君もいみしう			1656・4
総角	463		いかてかのまたさたまり			1656・5
総角	464		まうてゝ			1656・5
総角	465		そのわたり			1656・7
総角	466		ゑかう			1656・8
総角	467		あさやかに			1656・11
総角	468		をも十しき			1656・12
総角	469		霜さゆる哥			1656・14
総角	470	つれなき人	つれなき人哥			1657・1
総角	471		あかつきの哥			1657・3
総角	472		につかはしからぬ			1657・3
総角	473		かやうのはかなし			1657・4
総角	474		かう心くるしき			1657・6
総角	475		いとまのよし			1657・9
総角	476		たのもし人			1658・7
総角	477		とよのあかりは			1658・10
総角	478		ひかりもなく			1659・1
総角	479		かきもり哥			1659・2
総角	480		見くるしけなる			1659・4
総角	481		いよ十			1659・10
総角	482		あるへき物にも			1660・5
総角	483		もてなし			1660・7
総角	484		玉しゐ			1660・7
総角	485		命もし限ありて			1660・8
総角	486		かの御事を			1660・10
総角	487		かくはかなかりける物を			1660・11
総角	488		御おもむけに			1661・2

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
総角	489		すゝめ給ふ			1661・6
総角	490		あしすり			1661・9
総角	491		引さけ			1661・11
総角	492		むしのから			1661・14
総角	493		さめぬへき			1662・4
総角	494	けふりもおほく	けふりおほく			1662・8
総角	495		つらしと			1662・11
総角	496		この君			1662・14
総角	497		したの心			1663・1
総角	498		かうもの			1663・2
総角	499		かきりあれは			1663・7
総角	500		けうし			1663・7
総角	501		紅におつる哥			1663・10
総角	502		ゆるし色の氷とけぬかと			1663・10
総角	503		かた十に			1664・1
総角	504		この君は			1664・4
総角	505		しはすの月			1664・7
総角	506		むかひの寺			1664・7
総角	507		けふも暮ぬと			1664・8
総角	508		をくれしと哥			1664・10
総角	509		よもの山鏡を	よもの山鏡を		1664・11
総角	510		しとみおろすと云て			1664・11
総角	511		恋わひて哥			1665・1
総角	512		なかはなる句を			1665・1
総角	513		心きたなき			1665・2
総角	514		御心ちをもく			1665・5
総角	515		たゝこの宮			1665・6
総角	516		さすかにかの御かた			1665・7
総角	517		たれかはかゝるさ夜中			1666・2
総角	518		中納言は			1666・4
総角	519		日かすは			1666・5
総角	520		おほしなけき			1666・7
総角	521		今よりのちの			1666・8
総角	522		物し給へは			1666・9
総角	523		御ありさまに			1666・14
総角	524		かうがへ			1667・2
総角	525		かやうなる事また			1667・3
総角	526		このきみの心も			1667・4
総角	527		人やりならず			1667・7
総角	528		ちゝの			1667・7
総角	529		いかてかく口なれ			1667・8
総角	530		きしかたを哥			1667・12
総角	531		中十しふせう			1667・12
総角	532		行末を哥			1667・14
総角	533		うらみんも			1668・3
総角	534		ましていかに			1668・3
総角	535		有しさまなど			1668・7
総角	536		音をのみから			1668・9
総角	537		をのかけしからぬ			1668・11
総角	538		かくつれなき物から			1668・13
総角	539		つれなきは			1668・14
総角	540		時十しおふし			1669・8
総角	541		女一宮の			1670・3
総角	542		宮のおほしよるめりしすちは			1670・7
早蕨	1		やふしわかねは			1677・1
早蕨	2		月日ならん			1677・1
早蕨	3	もと末	〈ナシ〉(△一字下ゲ)			1677・3
早蕨	4		哥はわさと			1677・12
早蕨	5		君にとて哥			1677・14
早蕨	6		おまへに			1677・14
早蕨	7		大事			1678・1
早蕨	8		なをさりにさしも			1678・1
早蕨	9		この春は哥			1678・5
早蕨	10		昔人			1678・7
早蕨	11		かのみあたり			1678・12
早蕨	12		ないえん	いなえん		1679・2
早蕨	13		しつえを			1679・6
早蕨	14		みる人の哥			1679・9
早蕨	15		みる人に哥			1679・11
早蕨	16		そのかみより			1679・14
早蕨	17		人の御うへ			1680・2
早蕨	18		かひ十ししくそ			1680・3
早蕨	19		やみは			1680・5
早蕨	20		世にためし			1680・7
早蕨	21		いてさりと			1680・7
早蕨	22		みつからのあやまち			1680・14
早蕨	23		もしひんなくや			1681・2
早蕨	24		いはせのもりの			1681・4

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
早蕨	25		なくさめかたき			1681・5
早蕨	26		おはしまさん			1681・9
早蕨	27		かしこにも			1681・10
早蕨	28		このふしみを			1681・11
早蕨	29	中の契も	中の契も…			1681・13
早蕨	30		みねの霞も			1682・3
早蕨	31		をのかとご世			1682・3
早蕨	32	かきりある	かきりある姉の服は三ヶ月			1682・5
早蕨	33		御褌もあさき			1682・5
早蕨	34		おや一所			1682・6
早蕨	35		御車御せん			1682・9
早蕨	36		はかせ			1682・9
早蕨	37		はかなしや哥			1682・11
早蕨	38		けに十十			1682・11
早蕨	39		かつけ物			1682・12
早蕨	40		とき十十			1683・2
早蕨	41		みつからはわたり			1683・3
早蕨	42		我こそ人より			1683・5
早蕨	43		ことの外になどは			1683・7
早蕨	44		あすのわたり			1683・11
早蕨	45		はしたなしと			1684・1
早蕨	46		あなめてたの人			1684・6
早蕨	47		姫宮は			1684・6
早蕨	48		面影さらぬ			1684・6
早蕨	49		わたらせ給ふ			1684・9
早蕨	50		夜なか暁			1684・9
早蕨	51		宿をはかれし			1684・13
早蕨	52		その夜の事			1685・3
早蕨	53		うくひすたに			1685・5
早蕨	54		春やむかし			1685・5
早蕨	55		たちはなならねと			1685・7
早蕨	56		つまなり			1685・7
早蕨	57		もてあそひ			1685・9
早蕨	58		みる人も哥			1685・10
早蕨	59		袖ふれし哥			1685・12
早蕨	60		ことおほく			1685・12
早蕨	61		御ともにも			1686・3
早蕨	62		いとふにはへて			1686・8
早蕨	63		いかにせよ			1686・9
早蕨	64		なへての世を			1686・9
早蕨	65		つみもいかに			1686・10
早蕨	66		ひたいの程	ひたいの躰		1686・12
早蕨	67		みやひか也			1686・13
早蕨	68		かゝるさま			1686・13
早蕨	69		さきにたつ哥			1687・5
早蕨	70		それもいと			1687・5
早蕨	71		かの岸にいたる事			1687・6
早蕨	72		さしも			1687・6
早蕨	73		むなしく			1687・7
早蕨	74		身をなけん哥			1687・9
早蕨	75		すゝるに			1687・11
早蕨	76		おもほしの給へる			1687・12
早蕨	77		人はみな哥			1688・1
早蕨	78		しほたるゝ哥			1688・3
早蕨	79		あれはてじと			1688・4
早蕨	80		かく人より			1688・9
早蕨	81		さきの世も			1688・10
早蕨	82		わらはへの			1688・11
早蕨	83		御みつから			1688・13
早蕨	84		心もとなく			1689・1
早蕨	85		いつちならん			1689・4
早蕨	86		ありふれは哥			1689・7
早蕨	87		弁の尼の	〈ナシ〉(△1字下ゲ「弁の尼の…」)		1689・7
早蕨	88		今ひとり			1689・8
早蕨	89		過にしか哥			1689・10
早蕨	90		いつれも年			1689・10
早蕨	91		なかむれは哥			1690・3
早蕨	92		年比	年比々		1690・4
早蕨	93		三はよつは			1690・6
早蕨	94		御車のもと			1690・7
早蕨	95		いかばかり			1690・9
早蕨	96		物にもかなや			1691・2
早蕨	97		しなてるや			1691・4
早蕨	98		又はとき十十	文はとき十十		1691・7
早蕨	99		のへ給はん			1691・9
早蕨	100		おなしゆかり			1691・9
早蕨	101		人をも			1691・11

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
早蕨	102		此君さへ			1691・14
早蕨	103		おほな十十			1691・14
早蕨	104		二条院の桜を			1692・3
早蕨	105		ぬしなき宿の			1692・4
早蕨	106		こゝかちに			1692・5
早蕨	107		あやしき			1692・7
早蕨	108		しちの御心			1692・7
早蕨	109		たいの御かた			1692・10
早蕨	110		むかしの心			1692・12
早蕨	111		なれ十十しき			1692・14
早蕨	112		霞へたて			1693・2
早蕨	113		花の色鳥のこゑ			1693・4
早蕨	114		今しもこそ			1693・8
早蕨	115		まかり申に			1693・10
早蕨	116		わかためは			1693・14
早蕨	117		あやしと			1693・13
早蕨	118	心ゆるひせん	心ゆるいせん			1694・2
早蕨	119		一かたならず			1694・3
早蕨	120		かの人も			1694・5
早蕨	121		かた十十に			1694・7
宿木	1		故左大臣殿の			1701・1
宿木	2		中宮には			1701・3
宿木	3		女宮一所			1701・4
宿木	4		人にをされ			1701・5
宿木	5		ちゝおとゝ			1701・10
宿木	6		さがし			1702・1
宿木	7		宮は			1702・6
宿木	8		大蔵卿修理のかみ			1702・13
宿木	9		御心ひとつ			1703・2
宿木	10		うつろひはてゞ			1703・3
宿木	11		姫宮を			1703・7
宿木	12	しはしはいてや	しはしはいてや世に	しはしは		1703・8
宿木	13		宮たちの御かたはらに	宮たちの御かたはらに…		1703・14
宿木	14		もとより思ふ人	もとよりおもふ人…		1704・1
宿木	15		つゐには			1704・2
宿木	16		御こなと			1704・4
宿木	17		中務のみこ			1704・5
宿木	18		かんつけのみこ			1704・5
宿木	19		中納言あそん	<欠>		1704・5
宿木	20	中納言の朝臣	中納言朝臣			1704・6
宿木	21		あそひなとすましき			1704・8
宿木	22		いたつらに			1704・9
宿木	23		こはんめし出て			1704・10
宿木	24		よきのり物			1704・11
宿木	25		この花一枝			1705・1
宿木	26		おりて			1705・1
宿木	27		世のつねの哥			1705・3
宿木	28		霜にあへず哥			1705・5
宿木	29		さま十十			1705・7
宿木	30		ひしりよの			1705・9
宿木	31	こと更に	<欠>			1705・9
宿木	32		后はら			1705・10
宿木	33		おほけなかりける			1705・11
宿木	34		左大臣殿			1705・11
宿木	35		六君			1705・11
宿木	36		水もる			1706・1
宿木	37		むこもとめ			1706・4
宿木	38		中宮をも			1706・5
宿木	39		うへの御世も			1706・8
宿木	40		一ことに			1706・9
宿木	41		かのおとゝの			1706・10
宿木	42		おもひをきて			1706・11
宿木	43		わか御心にも			1706・13
宿木	44		うるはしけ			1706・14
宿木	45		彼あせち			1707・3
宿木	46		されとその年			1707・5
宿木	47		ほのめかし			1707・9
宿木	48		そのほど			1707・9
宿木	49		過給ひにし			1707・10
宿木	50		口おしき			1707・13
宿木	51		かうの香			1707・14
宿木	52		右の大との			1708・1
宿木	53		二条院のたい			1708・2
宿木	54		やかて跡たえ			1708・9
宿木	55		かならずさる			1709・2
宿木	56		こちたく			1709・8
宿木	57		またさやう			1709・9
宿木	58		八月に			1709・13

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
宿木	59		うらめしからさらん			1710・3
宿木	60		かくわたり			1710・3
宿木	61		この比は時十十			1710・6
宿木	62		かねてより			1710・7
宿木	63		女かた			1710・9
宿木	64		心ゆるされで			1710・14
宿木	65		一かたにも			1711・3
宿木	66		めめしく			1711・6
宿木	67		ゐてありき			1711・6
宿木	68		女のためのみ			1711・10
宿木	69		見ゆるなるへし			1711・13
宿木	70		この君をみまし			1711・14
宿木	71		よろつは			1712・4
宿木	72		かの君たち			1712・11
宿木	73		尋とりつゝ			1712・12
宿木	74		さもわろく			1712・14
宿木	75		あくるま			1713・4
宿木	76		北のゐん			1713・6
宿木	77		さはれ			1713・8
宿木	78		けさのまの哥			1713・14
宿木	79		をみなへし			1714・1
宿木	80		女とち			1714・2
宿木	81		朝またきまたき			1714・3
宿木	82		みかうしとも			1714・4
宿木	83		猶めさましく			1714・7
宿木	84		心をあまりおさめ			1714・7
宿木	85		さらはいかゝ待らん			1714・12
宿木	86		北面などのかくれそかし			1714・12
宿木	87		かゝる古人			1714・12
宿木	88	やすみ所は	やすみ所は句			1714・13
宿木	89		あしこもと			1715・1
宿木	90		つねよりも			1715・5
宿木	91	をしへ聞え給ふ	をしへ聞え給ふ句			1715・7
宿木	92		物おもはぬ人は			1715・10
宿木	93		人十十しく			1715・11
宿木	94		かなしき事も			1715・13
宿木	95		これや今すこし			1716・1
宿木	96		あかみ			1716・3
宿木	97		よそへてそ哥			1716・5
宿木	98		ことさらひてしむて			1716・5
宿木	99		消ぬまに哥			1716・8
宿木	100		何にかゝれる			1716・8
宿木	101		秋の空は			1716・10
宿木	102		さいつ比			1716・11
宿木	103		庭も籬も			1716・11
宿木	104		こゐんの			1716・12
宿木	105		さかの院			1716・13
宿木	106		かのあたり			1717・1
宿木	107		忘草おふして			1717・6
宿木	108		彼いにしへ			1717・9
宿木	109		ちかきは			1717・11
宿木	110		おなしこと			1717・11
宿木	111		昔の人を			1717・13
宿木	112		世のうきよりは			1718・3
宿木	113		思ひくらふる			1718・4
宿木	114		いまなん			1718・5
宿木	115		この廿日あまり			1718・7
宿木	116		あらさしと			1718・9
宿木	117		たうときかたに			1718・11
宿木	118		此うへも			1719・2
宿木	119		こもりある			1719・3
宿木	120		いとあるましき			1719・4
宿木	121		さふらひの別當			1719・8
宿木	122		内にやまいるへきと			1719・10
宿木	123	猶このけはひ(是迄一日)	猶このけはひ		写本「是迄一日」ハ講釈ノ進行ヲ表スモノ。見出シデハナク行間書キ入レト思ワレル。	1719・11
宿木	124		まださうじ			1719・14
宿木	125		かゝる御けしきを			1720・1
宿木	126		いく世しも			1720・2
宿木	127		かゝるかたちにては			1720・3
宿木	128		ひんかしの			1720・6
宿木	129		あないし			1720・9
宿木	130		こよひすきんも			1720・11
宿木	131		大空の哥			1720・13
宿木	132		今なん			1720・13
宿木	133		内におはし			1720・14

## 写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
宿木	134		もろともに			1721・3
宿木	135		程なりけり			1721・3
宿木	136	今いとしく	今いとしく			1721・7
宿木	137		心うき物は			1721・9
宿木	138		世中を思とゝめ			1721・10
宿木	139		打つゝき			1721・13
宿木	140		ひたすら			1722・4
宿木	141		さらにをはすて			1722・8
宿木	142		しゐの葉			1722・11
宿木	143		山里の哥			1722・12
宿木	144		きしかた			1722・12
宿木	145		月みるは			1722・13
宿木	146		ゆゝしく			1722・14
宿木	147		もとの心さし			1723・2
宿木	148		かけていはさらなん			1723・4
宿木	149		たゝにこそ			1723・4
宿木	150		人にはいはせし			1723・4
宿木	151		いてや中納言殿			1723・5
宿木	152		いかならん			1723・11
宿木	153	さやうなる御けはひには	さやうなる御けはひには…			1723・13
宿木	154		秋の夜			1723・13
宿木	155		あめの下			1724・3
宿木	156		たゝにしもあらず			1724・4
宿木	157		ねたけなる			1724・5
宿木	158		御かへりもこなた			1724・5
宿木	159		打あかみ給へる			1724・8
宿木	160	おもかくしにや	おもかくしにや句			1724・12
宿木	161		なにかし僧都			1725・2
宿木	162		かゝるかたにも			1725・3
宿木	163		昔も人に			1725・4
宿木	164		いとよくこそさはやかなれ			1725・5
宿木	165		これにならふ人は			1725・6
宿木	166		きくにつけてもから			1725・10
宿木	167		いのち			1725・10
宿木	168		後の契や			1725・10
宿木	169		猶こりすま			1725・11
宿木	170		日比も			1725・12
宿木	171		こほれそめては			1726・1
宿木	172		さらすはよの			1726・3
宿木	173		よのまの			1726・4
宿木	174		あか君や			1726・5
宿木	175		ことえりして	ことはりして		1726・6
宿木	176		わか御身になしても	わか御身なしても		1726・8
宿木	177		身を心とも			1726・8
宿木	178		おもふやう			1726・9
宿木	179		命のみこそ			1726・10
宿木	180		御つかひ			1726・11
宿木	181		あまのかる			1726・13
宿木	182		いつのほとに			1726・13
宿木	183	さしくみに	さしくみ			1727・1
宿木	184		へたてなきさまに			1727・3
宿木	185		まゝ母の			1727・3
宿木	186		さかしは			1727・5
宿木	187		女郎花哥			1727・7
宿木	188		かことかまし			1727・8
宿木	189		心やすくてしはしは			1727・8
宿木	190		又ふたつ			1727・9
宿木	191		みつから			1728・1
宿木	192		かゝる道			1728・2
宿木	193		人のうへにても			1728・3
宿木	194	いまめかしきは	いまめかしき			1728・10
宿木	195	日晩の	〈ナシ〉(194注ノ一部)			1728・12
宿木	196		大かたに哥			1728・13
宿木	197		いて給ふ也			1728・14
宿木	198		あまもつり			1728・14
宿木	199		はしめより			1729・1
宿木	200		命みしかきぞう			1729・3
宿木	201		又いとおみ			1729・4
宿木	202		その日は			1729・5
宿木	203		ひとつ車			1729・8
宿木	204		かきりあらんかし			1729・9
宿木	205		この君も			1729・9
宿木	206		もろ心			1729・12
宿木	207		御たいやつ	(△半字下ゲ)		1729・14
宿木	208		もちゐ			1730・2
宿木	209		とみにも			1730・4
宿木	210		北の方のはらから			1730・4
宿木	211		さか月さゝけて			1730・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
宿木	212		わつらはしきわたり			1730・7
宿木	213		されと			1730・8
宿木	214		ひんかしの			1730・9
宿木	215		三重かさね			1730・11
宿木	216		めしつぎとねり			1730・13
宿木	217		あざやかならぬ			1731・2
宿木	218		かへりて打敷て			1731・3
宿木	219		君は入てふし			1731・7
宿木	220		内にたに			1731・11
宿木	221		源中納言			1731・13
宿木	222		ふるめきたる			1731・14
宿木	223		うちの御けしき			1732・1
宿木	224		かくのみ物うく			1732・1
宿木	225		いかにそこ君			1732・3
宿木	226		あせちのきみとて			1732・4
宿木	227		打わたし哥			1732・8
宿木	228		ふかいらす哥			1732・10
宿木	229		おほゆらんかし			1732・11
宿木	230		まことはこの空			1732・12
宿木	231		あかさんとよ			1732・13
宿木	232		まことにをかしき			1732・14
宿木	233		世をそむき			1733・3
宿木	234		宮は女君			1733・5
宿木	235		かみのさかりは			1733・6
宿木	236		はたちに		注釈ナシ。	1733・9
宿木	237		かと十しけ也			1733・14
宿木	238		このみそし			1734・2
宿木	239		おなし南の			1734・6
宿木	240		一日の御事は			1734・13
宿木	241		かゝる御心の名残			1735・1
宿木	242		さりぬへくは			1735・2
宿木	242+	<欠>	御かへり			1735・5
宿木	243	ひとひはひしりたちたるさまにて	ひとひは			1735・9
宿木	244		ことさらにしのひ	ことさらにしのひ……		1735・10
宿木	245		さ思ひ給ふるやう			1735・10
宿木	246		名残との給はせ			1735・11
宿木	247		丁子染			1736・2
宿木	248		さてあらましをと			1736・4
宿木	249		思ひくらふるに			1736・5
宿木	250		つねはへたて			1736・7
宿木	251		わさと			1736・9
宿木	252		宮わたらせ			1736・10
宿木	253		年比			1736・11
宿木	254		一日うれしく			1736・14
宿木	255		むすほゝれながら			1736・14
宿木	256		いと遠も			1737・2
宿木	257		世やは			1737・8
宿木	258		すこしもたかひめ			1737・12
宿木	259	さたに	<ナシ>(△1字下ゲ「さたに……」)			1737・13
宿木	260		物にも			1738・1
宿木	261		さてもいつはかり			1738・5
宿木	262		よのゆるしなど			1738・8
宿木	263		むかしおもひ			1738・9
宿木	264		あらずや忍ひて			1738・12
宿木	265	これはとかある	これはとか			1739・3
宿木	266		くやしきにも			1739・12
宿木	267		いとおしきや			1740・2
宿木	268	まねひし物からまで	まねひ物からまで双	まねひ		1740・5
宿木	269		こしのしるし			1740・9
宿木	270		おこましの			1740・10
宿木	271		さかしく			1740・13
宿木	272		たちはなれたる			1741・2
宿木	273		いたつらに哥			1741・8
宿木	274		ことはりしらぬ			1741・8
宿木	275	さはかりから男といふ物	さはかりから			1741・13
宿木	276		いとかくるしき			1741・10
宿木	277		たのもし人			1742・3
宿木	278		あるに任て			1742・14
宿木	279		打とけぬ			1743・4
宿木	280		かくことよき			1743・6
宿木	281		あなかちなりつる			1743・6
宿木	282		あれをも			1743・8
宿木	283		久しくたえ			1743・12
宿木	284		そのみちの人にし			1744・2
宿木	285		残ありてしも			1744・7
宿木	286		思ひ聞ゆる	思ひきこゆる……		1744・8
宿木	287		われこそさきに			1744・9

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
宿木	288		まねふへくも			1744・11
宿木	289		又人に哥			1744・13
宿木	290		見なれぬる哥			1745・1
宿木	291		かゝればそかし			1745・2
宿木	292		はちなぎ			1745・12
宿木	293		かゝる御うつり香			1745・14
宿木	294		はらからなどには			1746・2
宿木	295		みつしこがらひつ			1746・5
宿木	296		かの人			1746・9
宿木	297		老人			1746・13
宿木	298		うしろやすく			1747・1
宿木	299		さはいへと			1747・2
宿木	300		はゝ宮			1747・4
宿木	301		たゝん月			1747・5
宿木	302		みつからの御れう			1747・9
宿木	303		わか御れう			1747・10
宿木	304		こしのひとつ			1747・12
宿木	305		むすひける哥			1747・13
宿木	306		おまへちかく			1748・4
宿木	307		けちえん			1748・6
宿木	308		ことほりなり			1748・11
宿木	309		花の露			1748・11
宿木	309+	<ナシ>(309注ノ一部)	<ナシ>(△1字下ゲ「いてやか ら…」)	いてやから		1748・14
宿木	310		中十十なる			1749・2
宿木	311		世にひゝき			1749・3
宿木	312		宮のうち			1749・3
宿木	313		うとからん			1749・5
宿木	314		こと十十しくしたて			1749・7
宿木	315		この君しもそ			1749・9
宿木	316		心おこり			1749・10
宿木	317		こみこの			1749・11
宿木	318		いとをしの			1749・13
宿木	319		あたらしみ			1750・8
宿木	320		この事いと			1750・12
宿木	321		聞えいたし			1750・14
宿木	322		くすしなどの			1751・2
宿木	323		ひとよも物のけしき			1751・4
宿木	324		打なけてゐなをり			1751・13
宿木	325		下やすからぬ			1751・14
宿木	326		人にとひ			1752・1
宿木	327		むかしの人			1752・4
宿木	328		誰も千とせの			1752・5
宿木	329		いと心くるしく			1752・5
宿木	330		めしよせたる人のきかんとつゝま れす			1752・6
宿木	331		かの御みゝ	かの御みみ		1752・7
宿木	332		きゝゝるたり			1752・9
宿木	333		いはけなき			1752・10
宿木	334		さるへきにや			1752・11
宿木	335		彼ほいのひしり			1752・12
宿木	336		こゝにもかしこにも			1752・13
宿木	337		心の引かた			1753・1
宿木	338		うしろめたく			1753・6
宿木	339		今はこれより			1753・9
宿木	340		いとかしこき事			1753・10
宿木	341		からうして	かううして		1753・11
宿木	342		山のかたは			1753・14
宿木	343		かきりたに			1754・2
宿木	344		をとなし			1754・3
宿木	345		むかしおほゆる人かた			1754・4
宿木	346		うたてみたらし川			1754・6
宿木	347		こかねもとむる			1754・6
宿木	348		そよその			1754・7
宿木	349		花ふらせたる			1754・8
宿木	350		人かたのつゝめてに			1754・11
宿木	351		思ひよるましき			1754・11
宿木	352		尋出たりし			1755・2
宿木	353	かたみなど	かたみになど	かたみなど		1755・5
宿木	354		夢かたりかとまで			1755・7
宿木	355		さるへき			1755・7
宿木	356		さやうにも			1755・7
宿木	357		いさや			1755・9
宿木	358		ありさまともにて			1755・9
宿木	359		けしきみるに			1755・12
宿木	360		しのふ草			1755・13
宿木	361	かはかりにては	かはかりにては句			1755・14
宿木	362		心をとり			1756・3

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
宿木	363		よをうみ中に			1756・4
宿木	364		いとさまては			1756・4
宿木	365		なくさめかたさに			1756・5
宿木	366		いにしへの			1756・7
宿木	367		へくゑ			1756・8
宿木	368		ほのかなりしかばにや			1756・11
宿木	369		佛にならん			1756・12
宿木	370		うるさき心を			1756・14
宿木	371		あるましき			1757・1
宿木	372		れんじたる			1757・9
宿木	373		にたるとの給へる			1757・11
宿木	374		さはかりのきは			1757・12
宿木	375		人のほい			1757・12
宿木	376		いとかしこけれと			1758・4
宿木	377		いかになかめ			1758・5
宿木	378		人のうへにて			1758・7
宿木	379		秋の風			1758・8
宿木	380		けにかの			1758・9
宿木	381		なからふれは			1758・11
宿木	382		おほししみけん			1758・12
宿木	383		わかあやまち			1758・12
宿木	384		此比の御ありさま			1758・12
宿木	385	何か	何か不可然事もなきと也			1758・12
宿木	386		いひても十十			1758・13
宿木	387		かの御忌日			1759・1
宿木	388		とまりけん人十十			1759・8
宿木	389		彼宮の御りやう			1759・9
宿木	390		成にたり			1759・10
宿木	391		しんてんを			1759・12
宿木	392		むかし別を			1759・13
宿木	393		たい十十しき			1760・2
宿木	394		のちの世の			1760・2
宿木	395		佛のをしへ			1760・5
宿木	396		このたひはかり			1760・7
宿木	397		めつらしく			1761・2
宿木	398		みたてまつり			1761・4
宿木	399		宮より			1761・7
宿木	400		こめかしく			1761・12
宿木	401		宮の御かた			1761・13
宿木	402		心ゆるさゝらん			1761・13
宿木	403		思ひくらへ			1762・2
宿木	404		京に此ころ			1762・3
宿木	405		中将君			1762・4
宿木	406		かすまへ給は	かすまへ行は		1763・5
宿木	407		弁も			1763・8
宿木	408		京より大輔か			1763・9
宿木	409		さや			1763・11
宿木	410		ごだに			1764・5
宿木	411		やとり木と哥			1764・7
宿木	412		あれはつる哥			1764・9
宿木	413		いとゞ峯の			1764・14
宿木	414	などそある	などそある句			1765・3
宿木	415		さやありつらん			1765・4
宿木	416	打えんし	打えし			1765・6
宿木	417		みじやとて			1765・6
宿木	418	山さとの	山里			1765・7
宿木	419		岩ほの			1765・9
宿木	420		物よりことに			1765・12
宿木	421		ほにいてぬ哥			1766・2
宿木	422		さしいて給へる			1766・6
宿木	423		秋はつる哥			1766・7
宿木	424		わか身			1766・7
宿木	425		心のうちも			1766・8
宿木	426		うつろひはてゞ			1766・10
宿木	427		わさとつくるひ			1766・10
宿木	428		花のなかに			1766・12
宿木	429		なにかしのみこ			1766・13
宿木	430		天人の	天人の・・・		1766・13
宿木	431		御ことさしをき			1766・14
宿木	432		心こそ			1766・14
宿木	433		むかしこそ			1767・4
宿木	434		かはかりの事			1767・5
宿木	435		見るわたり			1767・6
宿木	436		その中納言	そのわたり		1767・8
宿木	437		いせの海			1767・11
宿木	438		此院			1768・6
宿木	439	御子とも	〈欠〉			1768・8
宿木	440		御みつから			1768・14

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
宿木	441		年も暮ぬ			1769・3
宿木	442		なやみ給ふ			1769・3
宿木	443		かくて三とせ			1769・6
宿木	444		一所の			1769・6
宿木	445		女二の宮			1769・11
宿木	446		御うしろみ			1769・12
宿木	447		つくも所			1769・13
宿木	448		すりやう			1769・14
宿木	449		まいりそめ			1770・1
宿木	450		れいのことなれば			1770・2
宿木	451		なをしものとか			1770・3
宿木	452		右のおほあとのゝ左にて			1770・4
宿木	453		この宮にも			1770・5
宿木	454		たうのはい			1770・8
宿木	455		つかさの人十十			1770・9
宿木	456		右大臣とのゝ			1770・10
宿木	457		急んがのみこたち			1770・12
宿木	458		をとるへくも			1770・14
宿木	459		宮のわたくし			1771・5
宿木	460		五てのせに			1771・6
宿木	461		ふずく			1771・10
宿木	462		宮のたいふ			1771・13
宿木	463		宮のはしめて			1771・14
宿木	464		御みつから			1772・3
宿木	465		すが十十			1772・13
宿木	466		御門の御むこに			1772・14
宿木	467	左大臣殿も	左大臣殿も…			1773・2
宿木	468		こゝんたに			1773・2
宿木	469		我はまして			1773・4
宿木	470		宮はげにと			1773・5
宿木	471		大蔵脚			1773・6
宿木	472		かの御かた			1773・6
宿木	473	忍やかにして	忍やかにしてさすか也			1773・7
宿木	473+	〈欠〉	猶わずれかたき			1773・9
宿木	474		おはします			1773・12
宿木	475		心のやみはおなしこと			1774・3
宿木	476		御文にも			1774・4
宿木	477		宮のわか君			1774・10
宿木	478		心のなしにや			1775・1
宿木	479		あひたちなく			1775・5
宿木	480		いとあるましき			1775・5
宿木	481		おもひ給ふらん心ふかさば			1775・7
宿木	482		打とけはてゞ			1775・11
宿木	483		さらなること			1776・1
宿木	484		わか物にて			1776・3
宿木	485	されと	〈ナシ〉(484注ノ一部)			1776・4
宿木	486		あまりすへなき			1776・6
宿木	487		おりつれば			1776・12
宿木	488		わつらはしかる			1776・13
宿木	489		せちぶ	〈ナシ〉(△1字下ゲ)		1777・1
宿木	490		藤の花のえん			1777・2
宿木	491		あるしの宮			1777・3
宿木	492		右のおとゝ	右のおとゝ夕		1777・4
宿木	493		藤中納言			1777・4
宿木	494		三宮			1777・5
宿木	495		こうらうてん			1777・6
宿木	496		かくそ			1777・6
宿木	497		宮の御かたより			1777・7
宿木	498		きんのふ			1777・9
宿木	499		笛はかの夢に			1777・11
宿木	500		白かねのやうぎ			1778・3
宿木	501		おとゝしきりて			1778・5
宿木	502		をしと			1778・7
宿木	503		さしかへし			1778・9
宿木	504		ぶたう			1778・9
宿木	505		かぎりあれは			1778・11
宿木	506		あせちの大納言			1778・12
宿木	507		この宮の母女御			1778・13
宿木	508		人からはげに			1779・2
宿木	509		はてはえんや			1779・4
宿木	510		文だいにをく事は			1779・7
宿木	511		かみの町			1779・9
宿木	512	すへらきの歌	すへらぎ哥			1779・13
宿木	513		萬代を哥			1780・1
宿木	514		君かため哥			1780・2
宿木	515		世のつねの哥			1780・3
宿木	516		ひかことにも			1780・4
宿木	517		あせちも			1780・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
宿木	518		御七らうわらは		注釈ナシ。	1780・8
宿木	519		さなから御をくり			1780・12
宿木	520		ひさしの御車			1780・13
宿木	521		こかねつくり			1780・13
宿木	522		びらうげ			1780・13
宿木	523		あしろふたつ			1780・13
宿木	524		御むかへのいたし車			1780・14
宿木	525		ほん所			1780・14
宿木	526		れいのくち木			1781・9
宿木	527		女車			1781・11
宿木	528		下人			1781・12
宿木	529		がや++			1782・1
宿木	530		ゆがみ			1782・2
宿木	531	せんし	〈ナシ〉(530注ノ一部)			1782・2
宿木	532		おいや			1782・3
宿木	533		引さけ		注釈ナシ。	1782・3
宿木	534		このしんてんは			1782・7
宿木	535		御そのなれば			1782・9
宿木	536		おりで			1782・10
宿木	537		ゆめその人			1782・12
宿木	538		こぜん			1782・14
宿木	539		いふ聲			1783・2
宿木	540	例の御事也	例の御事なり			1783・2
宿木	541		車はたかく			1783・6
宿木	542		やゝ見て			1783・8
宿木	543		こきうちき			1783・8
宿木	544		わかかなへ			1783・9
宿木	545		いつみ河			1783・12
宿木	546		このきさらき			1783・12
宿木	547		おい人			1784・5
宿木	548		京人			1784・5
宿木	549		天下			1784・6
宿木	550		あつまにて			1784・6
宿木	551		物けたまはる			1784・10
宿木	552		これなんど			1784・10
宿木	553		まらうとのかた			1785・8
宿木	554		かはらかにて			1785・9
宿木	555		このおい人			1785・11
宿木	556		むごに			1785・12
宿木	557		これよりはいとよく	これよりは		1785・13
宿木	558		かれをも			1785・14
宿木	559		宮の御かた			1786・2
宿木	560		これほしられ			1786・5
宿木	561		世中に			1786・7
宿木	562		かんざしのかきり			1786・8
宿木	563	こそ過て	こそは過て			1787・1
宿木	564		その比ほひ			1787・4
宿木	565		かほ鳥の哥			1788・1
宿木	566		かたりけり			1788・2
東屋	1		つくは山を			1793・1
東屋	2		は山の茂り			1793・1
東屋	3		さまでも			1793・5
東屋	4		世にありかたけなる			1793・5
東屋	5		かみの子ともは			1793・7
東屋	6		すぎ++			1793・8
東屋	7		こと人と			1793・9
東屋	8		おなしごと			1793・12
東屋	9		我姫君			1794・2
東屋	10		かんたちめ			1794・3
東屋	11		ことこのむ			1794・5
東屋	12		聲なとほと++	声なとほと++ほとむとな		1794・8
東屋	13		かうげ			1794・8
東屋	14	またく	またくすきまなき			1794・9
東屋	15		わかう人			1794・11
東屋	16		物かたり			1794・13
東屋	17		かうじんをし			1794・13
東屋	18		らう++しくこそ			1794・14
東屋	19		いひなして			1794・14
東屋	20		左近の少将			1795・1
東屋	21		えあらぬにや			1795・2
東屋	22		さいへと			1795・6
東屋	23		この御かたにとり付て			1795・7
東屋	24		人のでうとゝ			1795・13
東屋	25		目をはつかに			1795・14
東屋	26		内教坊			1796・1
東屋	27	はやりかなる	はやりか			1796・2
東屋	28		あこをは			1796・6
東屋	29		ちかうよひよせて			1796・8

## 写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
東屋	30		おもひはゝかる			1796・9
東屋	31		なみ++の			1796・10
東屋	32		わかき人++			1796・12
東屋	33		まうてゝ			1797・3
東屋	34		女とものしるたより			1797・6
東屋	35		かのへん			1797・11
東屋	36		君いとあてやかならぬ			1797・13
東屋	37		いきかよはん			1797・14
東屋	38		おなしごと			1798・1
東屋	39		源少納言さぬきのかみ			1798・3
東屋	40		この人			1798・4
東屋	41		なかにあたり			1798・6
東屋	42		いさやはしめより			1798・7
東屋	43		かんのぬしは			1798・9
東屋	44	なにかは	なにかは句			1799・1
東屋	45		このにしのかた			1799・1
東屋	46		内の御かた			1799・7
東屋	47	手にさゝけたること	てにさゝけしごと			1799・11
東屋	48	さらにこと人	さらにこと人と			1800・3
東屋	49	もとの御心さしのまゝに	もとの心さしのまゝに			1800・4
東屋	50		まうてこと	まとてこと		1800・5
東屋	51		しかなん			1800・10
東屋	52		めのわらは			1800・12
東屋	53		の給ふ人++			1800・13
東屋	54		こ大納言殿			1801・2
東屋	55	家のこ	〈ナシ〉(54注ノ一部)			1801・2
東屋	56		きやうさく			1801・3
東屋	57		心つきて			1801・3
東屋	58		このほと心のさしに	このほとて		1801・4
東屋	59		うれしく思			1801・7
東屋	60	ほとりはみ	ほとりはみたる			1801・10
東屋	61		人から			1801・11
東屋	62		あてひても			1801・12
東屋	63		又ころの			1801・13
東屋	64	なを人の	なき人			1802・1
東屋	65	こたみの頭	こたひ			1802・2
東屋	66	御口つからこて	くちつからこて			1802・2
東屋	67	あそん	あそむし			1802・3
東屋	68		われしあれは			1802・4
東屋	69		たとひあへすして			1802・13
東屋	70		たう時のみかと			1803・3
東屋	71		いもうと			1803・5
東屋	72		ぞくらう			1803・8
東屋	73		かの姫君をは			1803・12
東屋	74		中のこのかみ			1803・13
東屋	75		月比は又なく			1803・14
東屋	76	日をたにとりかへて	日をたにかへて	日比たにかへて		1804・3
東屋	77		又しちを			1804・9
東屋	78	〈欠〉	女はまして		写本、78-81・83欠。資料稿 八版本ニヨリ補ウ。	1804・12
東屋	79	〈欠〉	こなたにも			1804・14
東屋	80	〈欠〉	かみ外より			1804・14
東屋	81	〈欠〉	けさう人			1805・1
東屋	82		めてたからん御むすめ			1805・2
東屋	83	〈欠〉	いやしうも			1805・3
東屋	84		もはら			1805・4
東屋	85		おなしこと			1805・10
東屋	86		このゆかり			1805・10
東屋	87		あひ++にたる			1805・14
東屋	88		御さいはいにて			1806・2
東屋	89	かく心口おしきいまし	かく心ちおしくいまし			1806・3
東屋	90	按察	右のおほ殿		写本ト版本デ見出し・注内 容ノ記載順ニ相違アルガ、 内容トシテハ同一。	1806・8
東屋	91		式部卿			1806・8
東屋	92		いとむねいたかるへき			1806・12
東屋	93		こ宮	こ宮は宮		1806・14
東屋	94		さまあしき			1807・2
東屋	95		わかかすならては			1807・6
東屋	96		あたらしうしたてられたるかたを			1807・10
東屋	97		さばらかに			1807・12
東屋	98	にかいなと	〈欠〉			1807・13
東屋	99		御かたは			1808・1
東屋	100		人の御心は			1808・1
東屋	101		こうちきのほと			1808・4
東屋	102	〈欠〉	なてつくるふ句		資料稿八版本ニヨリ補ウ。	1808・5
東屋	103		なかうとに			1808・8
東屋	104		そのことゝ侍らて			1808・12

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
東屋	105	<欠>	所かへ		写本、105-107欠。資料稿ハ版本ニヨリ補ウ。	1808・13
東屋	106	<欠>	たのもしかたには先なん			1809・2
東屋	107	<欠>	あぶれんも			1809・4
東屋	108		かたみにちりほはん			1809・5
東屋	109		たゆふかもとにも			1809・6
東屋	110		かゝるおどりの			1809・8
東屋	111		御かたも			1809・11
東屋	112		あつまきぬ	あつまきや		1809・14
東屋	113	まらうとの御てい	まらうとの御でゐ	まうかとの御てゐ		1810・4
東屋	114		源少納言			1810・5
東屋	115		おのこゝ			1810・5
東屋	116		宮にとはおもふなりけり			1810・7
東屋	117		この御かたさま			1810・8
東屋	118	ことにゆるい	ことにゆるひ			1810・8
東屋	119		はち給はす			1810・11
東屋	120		こ北のかたには			1810・13
東屋	121		こゝには			1811・1
東屋	122		宮わたり給			1811・3
東屋	123	<欠>	こたみは		資料稿ハ版本ニヨリ補ウ。	1811・3
東屋	124	<欠>	わかまゝこの		資料稿ハ版本ニヨリ補ウ。	1811・8
東屋	125		こはなに人そ			1811・9
東屋	126		よそに思ふ時は			1811・10
東屋	127		七夕はかり			1811・11
東屋	128		わかきみいたきて			1811・13
東屋	129		こ宮			1812・1
東屋	130		なを十しき			1812・5
東屋	131		ちゝぬしの			1812・7
東屋	132	なをしきて(一日)	なをしきて		写本「一日」ハ講釈ノ進行ヲ表スモノ。見出シデハナク行間書キ入レト思フレ	1813・1
東屋	133		かれそこの			1813・2
東屋	134		かしけたる			1813・4
東屋	135		いさこのあたり			1813・4
東屋	136	かの君たち	かの君達			1813・4
東屋	137		とのゐにそ			1813・10
東屋	138		山ふところ			1814・1
東屋	139		中十世のつねに			1814・5
東屋	140		あるを猶			1814・6
東屋	141		大将殿は			1814・7
東屋	142		せかれしも			1814・10
東屋	143	いさやうのもの	いさやうの物			1814・10
東屋	144		かの過にし			1814・14
東屋	145	一もとゆへに	一もと			1815・2
東屋	146		けに心くるしき			1815・8
東屋	147		人にあなつらるゝ			1815・9
東屋	148		むげにその			1815・10
東屋	149		うき嶋の			1816・3
東屋	150		わか身			1816・3
東屋	151		つくは山の			1816・4
東屋	152		かくあきらめ			1816・4
東屋	153	よらぬあやしの	よからぬあやしの			1816・5
東屋	154		身をやつす			1816・7
東屋	155		ほのかにみたて			1816・14
東屋	156		おかしけどもみえすなから			1817・5
東屋	157		すゝろにみえ			1817・6
東屋	158		内より			1817・7
東屋	159		宮たちの			1817・9
東屋	160		けたいして			1817・11
東屋	161		おはしたなめり			1817・13
東屋	162	いひ初てしことのすちなれはなこりなからしとにやな	いひ初しことのすちなれはなこりなからしとにやなと			1818・2
東屋	163		御そきをせさせ			1818・5
東屋	164		いてやその本尊			1818・9
東屋	165		ねかひみてゝ			1818・9
東屋	166		時十十			1818・9
東屋	167		ひしり心や			1818・10
東屋	168		ゆゝしと			1818・12
東屋	169		みし人の哥			1818・14
東屋	170		みそき河せゝにいださん哥			1819・2
東屋	171		ひくて			1819・2
東屋	172		つゐに			1819・3
東屋	172+	<ナシ>	つゐによるせはさらなり		写本見出しヲ欠クガ、整版本・古活字本ノ注内容ハ172注ノ一部ニアリ。	1819・3
東屋	173	<欠>	水のあは		写本、173-175欠。資料稿ハ版本ニヨリ補ウ。	1819・4
東屋	174	<欠>	なて物			1819・4

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
東屋	175	<欠>	はしたなけるまじうはこそ	はしこなけるまじうはこ		1819・8
東屋	176		いとうゐ十十しく			1819・8
東屋	177		めのとゆくりかに			1819・10
東屋	* 178	天河を	えひすめきたる			1819・14
東屋	* 179	えひすめきたる	天川を			1819・12
東屋	180		よりゐ			1820・1
東屋	181		時十十			1820・2
東屋	182		かのかうはしきを			1820・3
東屋	183		ごづせんたん			1820・5
東屋	184		まつかのとのゝ			1820・5
東屋	185	仏はまこと△経云…	ほとけは経云			1820・6
東屋	186		きゝゐたり			1820・8
東屋	187	思初つる事	<欠>			1820・9
東屋	188	けふたゝ今の△異本	けにたゝいまの	けにたゝいまの異本		1820・10
東屋	189		かの世をそむき			1820・10
東屋	190		つらきめ			1820・11
東屋	191		鳥のね			1820・12
東屋	192		いとわつらはしく成て			1821・5
東屋	192+	<ナシ>	いさや		写本見出しヲ欠クガ、整版本・古活字本ノ注内容ハ192注ノ一部ニアリ。	1821・5
東屋	193		をびやかす		注釈ナシ。	1821・8
東屋	194		岩ほの中			1821・8
東屋	195		この御かた			1821・11
東屋	196		御車なども例ならて			1821・14
東屋	197		なぞの車		注釈ナシ。	1822・1
東屋	198		とのこそ			1822・4
東屋	199		さうじみを			1822・6
東屋	200		車ぞひ			1822・8
東屋	201		なき名はたて			1822・12
東屋	202		ゆする			1823・2
東屋	203		けふ過は			1823・5
東屋	204	九十月は	九十月			1823・6
東屋	205		見ゆるなめり			1823・12
東屋	206		さる物のつらに			1824・8
東屋	207		大将にや			1824・10
東屋	208		かく打つけなる			1824・13
東屋	209		宮は今			1825・2
東屋	210		おまへならぬ			1825・3
東屋	211		屏風			1825・4
東屋	212		右近とて			1825・6
東屋	213		みかうしをくるしきに			1825・8
東屋	214		はやりかにをそき			1825・9
東屋	215	物聞え侍ん	物聞侍らん			1825・9
東屋	216	見給へこうして	見給へこうし			1825・10
東屋	217		心つきなげにけしきはみ			1826・3
東屋	218	おそまし	おすまし			1826・12
東屋	219		つとそひて			1826・12
東屋	220		心なきおりの			1827・1
東屋	221		いてや今			1827・2
東屋	222		少心あらん			1827・5
東屋	223		平のしけつね			1827・8
東屋	224		中務宮			1827・10
東屋	225	大夫	<ナシ>(224注ノ一部)			1827・11
東屋	226		御車引			1827・11
東屋	227		人のおほすらん			1827・12
東屋	228		よ所のさしはなれ			1828・2
東屋	229	かまのさうを	かまのさう			1828・4
東屋	230		てをつませ			1828・5
東屋	231		かの殿には			1828・6
東屋	232	まようと	まらうと			1828・8
東屋	233		しも人さへ			1828・9
東屋	234	此御事侍ら	この御事侍ら			1828・10
東屋	235	<欠>	君はたゝ		資料稿ハ版本ニヨリ補ウ。	1828・12
東屋	236	おほしくんせそ	おほしくつせそ			1829・3
東屋	237		はつせの観音			1829・4
東屋	238		あか君			1829・6
東屋	239		内ちかき			1829・7
東屋	240		うつし馬			1829・10
東屋	241		ゆするの名残			1829・12
東屋	242		目ましろき			1830・2
東屋	243	かたはらいたく	かたはらそいたく			1830・2
東屋	244		大将の			1830・3
東屋	245		みたりかはしく			1830・4
東屋	246		おもはずならん			1830・6
東屋	247		この君			1830・6
東屋	248		あひなく			1830・7
東屋	249		わか身の			1830・9

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
東屋	250		このにくき			1830・11
東屋	251		こなたのさうし			1831・3
東屋	252		まめやかに			1831・5
東屋	253		いさゝかにても			1831・8
東屋	254		うへを			1831・11
東屋	255		ふたりはかり			1831・14
東屋	256		物かたり			1831・14
東屋	257		おもひよそへ			1832・3
東屋	258		昔の御心さし			1832・4
東屋	259		いふなりしか			1832・13
東屋	260		いとゆかしう			1833・8
東屋	261		いみしうおほすとも			1833・9
東屋	262		あひてもあはぬ			1833・11
東屋	263		うちうそふき			1833・12
東屋	264		いさやことさら			1833・12
東屋	265	さうしみ(一日)	さうしみ		写本「一日」ハ講釈ノ進行ヲ表スモノ。見出シデハナク行間書キ入レト思ワレ	1834・1
東屋	266		物にくみは			1834・2
東屋	267		夕つかた			1834・3
東屋	268	いたちのはんへらん	いたちの侍らん			1834・4
東屋	269		まかけこそ			1834・7
東屋	270		心のをにに			1834・8
東屋	271		みさほに			1834・11
東屋	272		けしからすたち			1834・14
東屋	273		ゆるし			1835・3
東屋	274		ことやうなりとも	こゝやうなりとも		1835・14
東屋	275		つゝがなくておもふこと			1836・3
東屋	276		心ちなく			1836・5
東屋	277		かの家にも			1836・6
東屋	278		ざうじざうじ			1836・9
東屋	279	かしみに	かしこに			1836・11
東屋	280		もろ心			1836・12
東屋	280+	〈ナシ〉	この人により		写本見出シヲ欠クガ、整版本・古活字本ノ注内容ハ280注ノ一部ニアリ。	1836・13
東屋	281		かの宮のおまへ			1836・14
東屋	282		ことたに			1837・11
東屋	283		人ともおほえず			1837・14
東屋	284		つぶやかると			1837・14
東屋	285		しめゆひし哥			1838・3
東屋	286		宮木のゝ哥			1838・5
東屋	287		古宮			1838・6
東屋	288		あひなう			1838・7
東屋	289		わかき人は			1838・11
東屋	290		わか物にせん			1838・12
東屋	291	いとかたし	〈ナシ〉(290注ノ一部)			1838・14
東屋	292		世の人のありさま			1839・2
東屋	293		旅の宿			1839・7
東屋	294		あやにくだち			1839・10
東屋	295	はゝ君たつやと	母君だつや			1839・13
東屋	296		ひたふるに哥			1840・4
東屋	297		憂世には哥			1840・7
東屋	298		なを++しき			1840・7
東屋	299		さまかへてけるも			1840・13
東屋	300		山里めきて			1841・2
東屋	301		たえはてぬ哥			1841・5
東屋	302		小家			1841・11
東屋	303		そこにわたして			1841・12
東屋	304		みつからやは			1842・1
東屋	305	あたとのひしり	あたこのひしり			1842・4
東屋	306		ひとわたす			1842・6
東屋	307		きゝにく			1842・6
東屋	308	あさてはかり	あさつてはかり			1842・7
東屋	309		ひかわさ			1842・8
東屋	310		あふなく			1842・9
東屋	311		ちかき程にこそ			1842・11
東屋	312		ふりはへて			1842・11
東屋	313		いがたうめ			1842・12
東屋	314		文はやすかるへきを			1842・13
東屋	315		宮に御らん			1843・2
東屋	316		かひなからす			1843・3
東屋	317	たゝのおやめきて	たゝおやめきて			1843・4
東屋	318		こなたかなた			1843・5
東屋	319		むつかしきわたくし			1843・6
東屋	320		の給ひしまだ			1843・6
東屋	321		御あたりの人			1844・1
東屋	322		宇治より			1844・6

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
東屋	323		さにやあらん			1844・7
東屋	324		かの殿にこそ			1845・1
東屋	325		なとてかさはあらん			1845・2
東屋	326	やかのたつみ	やかの			1845・6
東屋	327		この人の御車			1845・6
東屋	328		かゝる人			1845・7
東屋	329	むく++しく	むく++し			1845・8
東屋	330		さのゝ			1845・8
東屋	331		里びたる			1845・9
東屋	332		さしとむる哥			1845・11
東屋	333		ひたのたくみ			1846・1
東屋	334		かたらひ給ふへき			1846・4
東屋	335		大どき			1846・6
東屋	336		よもきのまろね			1846・9
東屋	337		をの++			1846・10
東屋	338		九月			1846・12
東屋	339		十三にち			1847・1
東屋	340	かしこ	かしこも			1847・4
東屋	341		人ひとり			1847・5
東屋	342		ほうさうし			1847・8
東屋	343		わかき人は			1847・8
東屋	344		石たかき所は			1847・10
東屋	345		うす物のほそなか			1847・11
東屋	346		物のはしめ			1848・1
東屋	347	君もみる人は	君もみる			1848・4
東屋	348		なをしの花			1848・7
東屋	349		おとしかけ			1848・7
東屋	350		かたみそと哥			1848・9
東屋	351		心にも			1848・9
東屋	352		あまたの年			1848・13
東屋	353		さしかくて			1849・1
東屋	354		こめいたるも			1849・3
東屋	355		むなしき			1849・4
東屋	356	おりてはすこし	おりてすこし			1849・6
東屋	357		あま君は			1849・8
東屋	358		わさと思ふへき			1849・9
東屋	359		みちはしけ			1849・11
東屋	360	み給へりは	み給へり			1850・4
東屋	361		むかしのいと			1850・5
東屋	362		宮の御くし			1850・7
東屋	363		あやまりて			1850・14
東屋	364		はやりかならは			1851・1
東屋	365		我つまといふ事は			1851・12
東屋	366		その山とこと葉			1851・14
東屋	367		おほさぬなるへし			1852・2
東屋	368		そわうのたいのうへ			1852・2
東屋	369		弓のみ			1852・3
東屋	370		さるは			1852・4
東屋	371		めとゝめ給ふ			1852・8
東屋	372	やとり木は歌	やとり木哥			1852・10
東屋	373		はつかしくも			1852・10
東屋	374		里の名も哥			1852・12
東屋	375		侍従なん			1852・13
浮舟	1		宮なを			1859・1
浮舟	1+	<欠>	あるまじげ		注釈ナシ。	1859・1
浮舟	2		かゝるすちの			1859・4
浮舟	3		やんことなき			1859・6
浮舟	4		月目をへて			1859・10
浮舟	5		いつかたざま			1859・12
浮舟	6		なとはかりそ			1859・13
浮舟	7		いとをしなから			1860・1
浮舟	8		ことざまに			1860・1
浮舟	9		かの人ば			1860・3
浮舟	10		神の			1860・5
浮舟	11		日かすも			1860・7
浮舟	12		かの心をも			1860・8
浮舟	13	もとの心	もとの所			1860・11
浮舟	14		れいのから			1860・13
浮舟	15		わたすへき			1860・13
浮舟	16		すこしいとま			1860・14
浮舟	17		見たてまつる			1861・1
浮舟	18		世中を			1861・2
浮舟	19		ねひまさり			1861・4
浮舟	20		されとたいめん			1861・7
浮舟	21		年月もあまり昔をへたてゆき	年月もあまり		1861・8
浮舟	22		中++かう			1861・10
浮舟	23		おなし心			1861・12
浮舟	24		つゝみ文			1862・4

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
浮舟	25		たゆふのおとゝ			1862・7
浮舟	26		れいのおまへにてそ			1862・8
浮舟	27		このこはかねを			1862・9
浮舟	28		大夫かりやれ			1862・11
浮舟	29		宇治の名のりつき十+	宇治の名のり		1862・13
浮舟	30		それならん時			1862・13
浮舟	31		さはみんよ			1863・2
浮舟	32		おほつかなくて			1863・4
浮舟	33	山里のいふせき	山里のいふせき			1863・4
浮舟	34		御めたてゝ	御めたてゝ		1863・6
浮舟	35		年あらたまりて			1863・7
浮舟	36		こゝにはいとめてたき	こゝには		1863・8
浮舟	37		つゝましく			1863・11
浮舟	38		うつち			1863・12
浮舟	39		おほきおまへ			1863・12
浮舟	40		またぶりに			1864・4
浮舟	41	またふりぬ歌	まだふれぬ哥			1864・6
浮舟	41+	(欠)	なと御けしきの			1864・8
浮舟	42		女君少将			1864・9
浮舟	43		御文のことにつけて			1865・4
浮舟	44		かのとのに			1865・4
浮舟	45	殿ゐにさしあてなとしつゝ 京よりも	とのゐにさしあてなとしつゝ京より も句		注釈ナシ。	1865・13
浮舟	46	いと忍ひてさるへき事な とゝはせ給ふ	いとしのひて			1865・13
浮舟	47		いかなる			1865・14
浮舟	48		あまはらうになん			1866・3
浮舟	49		みし人かとも			1866・14
浮舟	50		このわたり			1866・14
浮舟	51		のり弓			1867・2
浮舟	52		つかさめし			1867・3
浮舟	53		はやう			1867・8
浮舟	54		御ともにさふらひ			1867・14
浮舟	55		けふあすよも	けふあそよも		1868・6
浮舟	56		あやしきまで			1868・7
浮舟	57		やゝましき			1868・11
浮舟	58		まいりて			1869・5
浮舟	59		いやすは			1869・7
浮舟	60		三四人			1869・9
浮舟	61		かのほかけに			1869・11
浮舟	62		右近と名のりし			1869・11
浮舟	63		右近ものをるとて			1869・14
浮舟	64		わたらせ給なは			1869・14
浮舟	65		おりしも			1870・3
浮舟	66		やかてわたりおはし			1870・6
浮舟	67		このおとゝの			1870・10
浮舟	68		このまゝに			1870・13
浮舟	69		けににくき物			1870・14
浮舟	70		かゝるさかしら人			1871・4
浮舟	71		かの御事			1871・7
浮舟	72		なにはかりの			1871・9
浮舟	73		よろしう			1871・11
浮舟	74		あてなる			1872・7
浮舟	75		なかのふ			1872・10
浮舟	76		かいはなつ			1872・12
浮舟	77		みちにていと			1872・12
浮舟	78		よきたり			1872・14
浮舟	79		れいのこゝには			1873・6
浮舟	80		あはれなるよの			1873・7
浮舟	81		つゝましかりし			1873・10
浮舟	82		いける			1874・5
浮舟	83		時かた			1874・8
浮舟	84	なめけなり	なめけ			1874・11
浮舟	85		あやしかりし			1874・11
浮舟	86		時かたと			1875・12
浮舟	87		誰にか			1875・13
浮舟	88		かうかへ給ふ			1875・13
浮舟	89	まめやかよりしては	まめやか			1875・14
浮舟	90		石山に			1876・9
浮舟	91		けふは			1876・11
浮舟	92		御てうつ			1876・14
浮舟	93		女いとさまよく			1877・2
浮舟	94		おもひ出きこゆれと			1877・5
浮舟	95		しらぬを猶			1877・6
浮舟	96		むかへの人			1877・9
浮舟	97		この人十+			1877・14
浮舟	98		よべより			1878・1
浮舟	99		かのたいのうへ			1878・8

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
浮舟	100		大殿の			1878・8
浮舟	101		まだ			1878・10
浮舟	102		なかきよを哥			1879・3
浮舟	103	ゆかしけれ	ゆかしけれ			1879・3
浮舟	104		よるつに			1879・4
浮舟	105		つらかりし			1879・5
浮舟	106		心をは哥			1879・7
浮舟	107		いかなる人の			1879・8
浮舟	108		えいはぬ事を			1879・10
浮舟	109		わりなきや			1879・12
浮舟	110		よさり			1879・12
浮舟	111	けそう	けんぞう			1880・3
浮舟	112		ひしりの名をさへ			1880・4
浮舟	113	かねてかうとうけ給はら ましにも	かねてかううけたまはらましにも 句			1880・6
浮舟	114		人めもえ			1880・11
浮舟	115		世のととひ			1880・13
浮舟	116		袖の中			1881・2
浮舟	117		世にしらす哥			1881・5
浮舟	118		なみたをも哥			1881・7
浮舟	119		をのか			1881・8
浮舟	120		この五位			1881・10
浮舟	121		二条院		注釈ナシ。	1881・14
浮舟	122		心ちこそ			1882・6
浮舟	123		人のほいは			1882・8
浮舟	124		まめやかに			1882・8
浮舟	125		いかやうに			1882・10
浮舟	126		まことにつらしと			1882・12
浮舟	126+	<欠>	人には			1882・13
浮舟	127	御心ふかさ	御心のふかさ			1883・1
浮舟	128	すくせのをろか	すくせをろか			1883・1
浮舟	129		いらへきこえん	いらへきこらん		1883・4
浮舟	130		すゝなる			1883・5
浮舟	131		ありやなしや			1883・10
浮舟	132		きのふの			1883・12
浮舟	133	よろしくは	<ナシ>(△1字下ゲ)			1883・13
浮舟	134	<欠>	久しうも		写本、134-140欠。資料稿 ハ版本ニヨリ補ウ。	1883・13
浮舟	135	<欠>	さばかれ給はんもいかゝなれ共	さばかれ給はんもいかゝな れとも...		1883・13
浮舟	136	<欠>	宮にも			1884・3
浮舟	137	<欠>	見るからに			1884・4
浮舟	138	<欠>	さばかり			1884・6
浮舟	139	<欠>	れいはさしも			1884・7
浮舟	140	<欠>	の給ひやぶる			1884・8
浮舟	141		わかありさま			1884・12
浮舟	142		かしこには			1884・14
浮舟	143		それたに			1885・1
浮舟	144	すさ	ずんざ			1885・2
浮舟	145		右近かふるく			1885・2
浮舟	146		月もたちぬ			1885・4
浮舟	147		こゝには			1885・8
浮舟	147+	<欠>	ゑほしなをし			1885・9
浮舟	148		あなち			1885・11
浮舟	149		われは年比			1885・13
浮舟	150		又いかにきて			1886・1
浮舟	151		恋しかなしと			1886・3
浮舟	152		いふに			1886・4
浮舟	153		えんなるかたさま			1886・5
浮舟	154		おもはずなるさま			1886・7
浮舟	155		月比			1886・11
浮舟	156		けちかき水			1886・14
浮舟	157		わたしてんと思召て			1887・2
浮舟	158		かの人			1887・2
浮舟	159		御心はへの			1887・6
浮舟	160	ついたちの比	ついたち比			1887・9
浮舟	161		さむきすさき			1887・11
浮舟	162		柴つみぶね		注釈ナシ。	1887・13
浮舟	163		いとゝからぬ			1888・1
浮舟	164		都馴行			1888・3
浮舟	165		宇治橋の哥			1888・7
浮舟	166		今見給てん			1888・7
浮舟	167		たえまのみ哥			1888・9
浮舟	168		内に文			1888・13
浮舟	169		すゝなる	こゝなる		1889・2
浮舟	170		大将人に			1889・4
浮舟	171		やみは			1889・6
浮舟	172		衣かたしき			1889・6

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
浮舟	173		御心さはく			1889・9
浮舟	174		もとつ人			1889・11
浮舟	175		文たてまつり給ふ			1889・12
浮舟	176		きよけなり			1889・14
浮舟	177		かの君もおなしほと			1889・14
浮舟	178		御文すくれ			1890・4
浮舟	179		かの人の			1890・6
浮舟	180		京には友まつ			1890・7
浮舟	181		内記は式部少輔			1890・10
浮舟	182	ひきあげなと	ひきあげ			1890・11
浮舟	183		心さまもあふなからぬを			1891・2
浮舟	184		有明の月			1892・1
浮舟	185		されたる			1892・3
浮舟	186		年ふとも哥			1892・6
浮舟	187		橋の哥			1892・8
浮舟	188		みたてまつる			1892・11
浮舟	188+	〈欠〉	しろきかきり			1893・5
浮舟	189		わか名もらすな			1893・9
浮舟	190		聲ひきしめ			1893・12
浮舟	191		かの人の			1894・1
浮舟	192		かのみとゝめ	かのみみとゝめ		1894・4
浮舟	193		まらうとのぬしさてなみえそや	まらうとのぬしさてなみえ そや宿守の…		1894・6
浮舟	194		わかすむかた			1894・8
浮舟	195		嶺の雪哥			1894・11
浮舟	196		こはた山			1894・11
浮舟	197		ふりみたれ哥			1894・13
浮舟	198		この中空			1894・13
浮舟	199		御そなたてまつり			1895・4
浮舟	200		しひら			1895・6
浮舟	201		あざやぎたれは			1895・6
浮舟	202		御てうつ			1895・7
浮舟	203	姫宮	姫宮に			1895・7
浮舟	204	そのほとかの	そのほとかのの人に			1895・10
浮舟	205		恨ても			1895・13
浮舟	206		むすめの子うむ			1896・6
浮舟	207		はゝ君			1896・8
浮舟	208		わか心にも			1896・11
浮舟	209		待わたれ			1896・11
浮舟	210		おほしたえて			1896・14
浮舟	211		おやのかうこ			1897・1
浮舟	212		なかめやる哥			1897・3
浮舟	213		はしめより			1897・5
浮舟	214		かのうへ			1897・11
浮舟	215		あやしかりし			1897・11
浮舟	216		まして			1897・12
浮舟	217		これかれと見るも			1897・14
浮舟	218		猶ことおほかり			1898・1
浮舟	219		なをうつりに			1898・1
浮舟	220		まつならば			1898・4
浮舟	221		心ひとつ			1898・8
浮舟	222		のちの御文			1898・9
浮舟	223	水まさる歌	水まさる			1898・12
浮舟	224		まつかれを			1899・1
浮舟	225		里の名を哥			1899・3
浮舟	226		なからへてあるましき			1899・4
浮舟	227		かきくらし哥			1899・6
浮舟	228		ましりなは			1899・6
浮舟	229		つれ++と哥			1899・10
浮舟	230		女宮に			1899・11
浮舟	231		すてをき			1899・12
浮舟	232		むかしより			1899・13
浮舟	233		ありと			1900・1
浮舟	234		いかなる事			1900・3
浮舟	235		内になど悪さま			1900・3
浮舟	236		この内記			1900・8
浮舟	237		きゝつぎて			1900・9
浮舟	238		ゑしなど			1900・10
浮舟	239		しもつかた			1900・11
浮舟	240		この月の			1901・1
浮舟	241		宇治に	宇治に爰に也		1901・2
浮舟	242		さそふ水			1901・4
浮舟	243		まゝか心ひとつ			1901・9
浮舟	244	八重たつ山に	八重たつ			1901・12
浮舟	245		かくれなんことをおもへと			1901・13
浮舟	246		いかなる御心ち			1902・3
浮舟	247		石山とまり			1902・3
浮舟	248		ふしめ			1902・4

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
浮舟	249		宮のうへ			1902・8
浮舟	250		思ふやうなるは			1902・10
浮舟	251		おほろけならし			1903・4
浮舟	252		しるへをなん			1903・6
浮舟	253		つゝましきことなどの			1903・8
浮舟	254		さるすちの			1903・11
浮舟	255		君は閑臥			1903・12
浮舟	256		よそ十にて			1903・14
浮舟	257		よからぬことを			1904・1
浮舟	258		みたてまつらさらまし			1904・1
浮舟	259		かゝらぬなかれ			1904・4
浮舟	260		さいつ比			1904・6
浮舟	261		みたらし河に			1904・14
浮舟	262		人すくなゝめり			1905・2
浮舟	263		さうしみこそ			1905・3
浮舟	264		かしこに			1905・5
浮舟	265	しはしもまいりまほしく	しはしもまいりこまほしく			1905・8
浮舟	266		かしこもいと物さはかし			1905・8
浮舟	267		はかなき事など			1905・9
浮舟	268		たけふのこふ			1905・10
浮舟	269		風のなひかん			1906・1
浮舟	270		雨ふりし日			1906・2
浮舟	271		かのせうか家にて			1906・2
浮舟	272		物がくし		注釈ナシ。	1906・5
浮舟	273		かうの君			1906・6
浮舟	274	さへもん	さゑもん			1906・9
浮舟	275		とねりの人			1906・11
浮舟	276		かしこまりてをり			1907・2
浮舟	277		上くはん			1907・10
浮舟	278		おととも			1907・10
浮舟	279		御ひもさし			1907・13
浮舟	280	つい居	つゐゐて			1907・13
浮舟	281		あなたは			1908・2
浮舟	282		かと十し			1908・13
浮舟	283		みちすから			1908・13
浮舟	284		ぬ中ひたる			1909・1
浮舟	285		さるはそれは			1909・6
浮舟	286		昔をおほし出る			1909・12
浮舟	287		色めきたる			1910・1
浮舟	288	此宮の御く	此宮のぐ			1910・2
浮舟	289		のく			1910・3
浮舟	290		やんことなく			1910・3
浮舟	291		一品の宮の			1910・7
浮舟	292		なかのふ			1910・10
浮舟	293	みちさたも	みちさた			1910・11
浮舟	294		をこなり			1910・12
浮舟	295		せうかつねに			1910・13
浮舟	296		波こゆる哥			1911・3
浮舟	297		人にわらはせ			1911・3
浮舟	298		奉れつ			1911・6
浮舟	299		にくしとは			1911・7
浮舟	300	いみ侍なる	いみ侍る			1911・11
浮舟	301		道にてあけて			1911・12
浮舟	302		みつとはいはて			1911・13
浮舟	303		侍従と			1912・4
浮舟	304		右近かあねのひたちにて		整版本・古活字本トモ注釈ナシ。写本ノ注内容ハ整版本・古活字本304ノ注内容ニアタル。	1912・4
浮舟	304+	<ナシ>	人ふたり		写本見出しヲ欠クガ、整版本・古活字本ノ注内容ハ304注ノ一部ニアリ。	1912・4
浮舟	305		ほと十につけては			1912・5
浮舟	306		さて我もすみ			1912・7
浮舟	307		國にも			1912・8
浮舟	308		あやまちたる			1912・8
浮舟	309		女のたい十しきそかし			1912・10
浮舟	310		あつま人に成ても			1912・11
浮舟	311		御いのちまては			1912・13
浮舟	312		一かた			1912・14
浮舟	313		うへのおもひ			1913・3
浮舟	314		今ひとり			1913・5
浮舟	315		いてやいとかたしけ			1913・7
浮舟	316		人のかくおほし			1913・8
浮舟	317		ぶたう			1913・12
浮舟	318		ひとるい			1913・12
浮舟	319		うとねり			1913・14
浮舟	320		いみしくいられ			1914・9

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
浮舟	321		たのみきこえて			1914・10
浮舟	322		かくき事あるためし			1914・12
浮舟	323		このおとし			1915・7
浮舟	324	さうしとも	ざうじ			1915・10
浮舟	325		さのごときひじやう			1916・3
浮舟	326		ふくろうの			1916・6
浮舟	327		さりや			1916・7
浮舟	328		めのとほ			1916・9
浮舟	329		やぎやう			1916・11
浮舟	330		こけのみたるゝ			1916・12
浮舟	331		むかしは			1917・1
浮舟	332		人わらへ			1917・5
浮舟	333		こめき			1917・6
浮舟	334	をそかなへき	おそかるへき			1917・7
浮舟	335		ほく			1917・8
浮舟	336		とうたい			1917・9
浮舟	337		御かみづかひ			1917・14
浮舟	338		かへしたてまつらん			1918・10
浮舟	339		あが君			1918・13
浮舟	340		むなしき			1919・10
浮舟	341		いさとげ也			1919・12
浮舟	342		ふよう			1920・1
浮舟	343		やかてさも御心			1920・8
浮舟	344		めのとほいさとき			1920・9
浮舟	345	たいふ	たゆふ			1920・10
浮舟	346		さとびたる			1920・14
浮舟	347	かみわきよりかいこして	かみわきよりかいこし			1921・2
浮舟	348		あをりといふ物			1921・7
浮舟	349		あたをゝにゝ		349注ノ中途ヨリ巻末375マ テ写本ハ破損欠落。資料 稿ハ版本ニヨリ補ウ。	1921・10
浮舟	350	<欠>	ちるましき			1921・13
浮舟	351	<欠>	をひさけ			1922・2
浮舟	352	<欠>	火あやうし			1922・4
浮舟	353	<欠>	いつくにか哥			1922・6
浮舟	354	<欠>	右近はいひきり			1922・8
浮舟	355	<欠>	いりきて			1922・9
浮舟	356	<欠>	むごに			1922・11
浮舟	357	<欠>	おひなとして			1922・12
浮舟	358	<欠>	かの心のとかに			1923・1
浮舟	359	<欠>	はつかしけれど		注釈ナシ。	1923・3
浮舟	360	<欠>	なげきわひ哥			1923・5
浮舟	361	<欠>	ひつしのあゆみ			1923・10
浮舟	362	<欠>	からをたに哥			1923・13
浮舟	363	<欠>	所十+			1923・14
浮舟	364	<欠>	いむといふ事なん			1924・4
浮舟	365	<欠>	御ゆかりも			1924・6
浮舟	366	<欠>	のちに又哥	<欠>		1924・14
浮舟	367	<欠>	かねのをとに哥			1925・2
浮舟	368	<欠>	もてきたる			1925・3
浮舟	369	<欠>	書つけて			1925・3
浮舟	370	<欠>	かへるましといへは句			1925・3
浮舟	371	<欠>	心ばしりの			1925・3
浮舟	372	<欠>	見にくゝ老成て			1925・6
浮舟	373	<欠>	われなくは			1925・7
浮舟	374	<欠>	世中			1925・7
浮舟	375	<欠>	夢も			1925・10
蜻蛉	1	かしこには人々おはせぬ	かしこには人おはせぬ			1931・1
蜻蛉	2	物かたりの姫君	物かたりの			1931・1
蜻蛉	3		京より			1931・2
蜻蛉	4		かの心しれる			1931・5
蜻蛉	5		此文を			1931・7
蜻蛉	6		こよひは			1931・7
蜻蛉	7		物へわたらせ			1931・9
蜻蛉	8		よへの御かへり			1931・11
蜻蛉	9		めのとほいかさまに			1932・3
蜻蛉	10		宮にもれいならぬ			1932・5
蜻蛉	11		いたくわつらふとも			1932・12
蜻蛉	12		雨すこし			1933・8
蜻蛉	13		ひとよも			1934・3
蜻蛉	14			あか君	注釈ナシ。	1934・6
蜻蛉	15		むなしき			1934・6
蜻蛉	16		いつしかかひある御ありさま			1934・8
蜻蛉	17		人のいみしく			1934・10
蜻蛉	18	人にまれ鬼にまれ	人にまれ			1934・11
蜻蛉	19		あやしとおもふ			1934・12
蜻蛉	20		人のみかとも			1935・4
蜻蛉	21		こゝには			1936・5

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
蜻蛉	22		雨のいみし			1936・6
蜻蛉	23		かゝることゝものまきれ			1936・8
蜻蛉	24		をにやくひつらん			1936・10
蜻蛉	25	きつねめく物や	きつねめく物	きつねめく物也		1936・10
蜻蛉	26		かのおそろしと			1936・12
蜻蛉	27		かうむかへ			1936・13
蜻蛉	28		はかなきことも			1937・2
蜻蛉	29		かへり出			1937・3
蜻蛉	30		なきかけに			1937・5
蜻蛉	31		いひさはきて			1937・8
蜻蛉	32		しのひたる事とても			1937・9
蜻蛉	33		やさしき程ならぬを			1937・10
蜻蛉	34		いふ人も			1938・1
蜻蛉	35		我もおち入			1938・3
蜻蛉	36		大うみのはら			1938・5
蜻蛉	37		たゆふ			1938・12
蜻蛉	38		法しのかきりしてやかす			1939・2
蜻蛉	39		むかひの			1939・1
蜻蛉	40		いとあやしくれいの			1939・4
蜻蛉	41		かたへ	かたへ兄弟也		1939・6
蜻蛉	42		やすからず			1939・6
蜻蛉	43		たゝ今はかなしさ			1940・2
蜻蛉	44		入道の宮のなやみ			1940・4
蜻蛉	45		いとゝかしこをは			1940・5
蜻蛉	46		よへの事			1940・10
蜻蛉	47		大くらの大ゆふ			1940・13
蜻蛉	48		をになとや			1941・2
蜻蛉	49		おもはずなるすち			1941・3
蜻蛉	50		なやませ給ふ			1941・6
蜻蛉	51		宮の御かた			1941・7
蜻蛉	52		うつゝの世にも			1941・10
蜻蛉	53		かゝるすち			1941・12
蜻蛉	54		かくれいの人			1941・13
蜻蛉	55		佛などの			1941・14
蜻蛉	56		慈悲をも			1941・14
蜻蛉	57		かの宮			1942・2
蜻蛉	58		されはよ猶			1942・8
蜻蛉	59		文かよはし			1942・9
蜻蛉	60		宮の御とふらひに			1942・11
蜻蛉	61		式部御宮			1942・13
蜻蛉	62		見給ふにも			1943・4
蜻蛉	63		いかてか心えん			1943・9
蜻蛉	64		さりやたゝこの事			1943・10
蜻蛉	65		この君は			1943・12
蜻蛉	65+	<欠>	こよなくも			1943・12
蜻蛉	66		空とふ鳥の			1943・13
蜻蛉	67	まきはしらは	まきはしらは			1944・2
蜻蛉	68		むかしより			1944・5
蜻蛉	69		中十十の			1944・6
蜻蛉	70		昔御覽せし			1944・8
蜻蛉	71		人のそしり			1944・10
蜻蛉	72		なにかしひとり			1944・11
蜻蛉	73		きこしめすやうも			1945・1
蜻蛉	74		をのつから			1945・7
蜻蛉	75		いみしくも			1945・11
蜻蛉	76		當し			1945・12
蜻蛉	77	人ほくせき	人ほくせきに			1946・5
蜻蛉	78		はらから			1946・8
蜻蛉	79		なかこもり			1946・9
蜻蛉	80		月たちて			1946・11
蜻蛉	81		宿にかよはゝ			1946・13
蜻蛉	82	北の宮に	北の宮に句			1946・13
蜻蛉	83	忍ひねや歌	しのひ音や			1947・2
蜻蛉	84		女君の			1947・2
蜻蛉	85		橘の哥			1947・5
蜻蛉	86		心ふかきなかに			1947・6
蜻蛉	87		とりなをしつゝ			1947・9
蜻蛉	88		かくし給しか			1947・9
蜻蛉	88+	<欠>	こと十十くうるはし			1947・11
蜻蛉	89		れいの人十十			1947・14
蜻蛉	90		にはかに			1948・3
蜻蛉	91		かきりの			1948・5
蜻蛉	92		物になん			1949・2
蜻蛉	93		君達をも			1949・2
蜻蛉	94		裳はたゝ今			1949・14
蜻蛉	95		その夜なき			1950・6
蜻蛉	96		おほ十十と			1950・6
蜻蛉	97		さるへきにて			1950・9

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
蜻蛉	98		聞えあかす			1950・13
蜻蛉	99		あなたも			1951・1
蜻蛉	100		かの御れうとて			1951・4
蜻蛉	101		をくり物			1951・5
蜻蛉	102		さま十にせさせ			1951・5
蜻蛉	103		この人におほせ			1951・6
蜻蛉	104		かゝる事とも	かゝる事とそ		1951・7
蜻蛉	105		かくまめやかなる			1952・7
蜻蛉	106		さらにあらし			1952・10
蜻蛉	107		宮もおもほし			1952・13
蜻蛉	108		とき十みたて			1953・9
蜻蛉	109		かのつくは山も			1953・11
蜻蛉	110		たへ侍らす			1954・5
蜻蛉	111		けそう			1954・8
蜻蛉	112		をろかに見なし			1954・10
蜻蛉	113		なかめやすらひて			1955・3
蜻蛉	114		かのあやし			1955・5
蜻蛉	115		中十うたて			1955・8
蜻蛉	116		かうそいはんかし			1955・10
蜻蛉	117		宮をめつらしく			1955・12
蜻蛉	118		ふかき谷			1956・1
蜻蛉	119		人かたと			1956・5
蜻蛉	120		後のうしろみ			1956・6
蜻蛉	121		さはかりの			1956・8
蜻蛉	122		のほり給はて			1956・11
蜻蛉	123		御車のしちを			1956・11
蜻蛉	124		われも又哥			1957・1
蜻蛉	125		つみいとふかゝらん			1957・3
蜻蛉	126		うつせ			1957・10
蜻蛉	127	家にもえいはず	家にもえいかす			1957・11
蜻蛉	128		あさましき			1958・1
蜻蛉	129		まいて			1958・2
蜻蛉	130		さるへき事			1958・5
蜻蛉	131		年比に			1958・6
蜻蛉	132		いたうも觸侍らすと			1958・10
蜻蛉	133		かゝるおほせ事			1958・12
蜻蛉	134		年比は心ほそき			1958・13
蜻蛉	135		さとの契			1959・1
蜻蛉	136		かの君に			1959・5
蜻蛉	137		はんさい			1959・6
蜻蛉	138		すゝろなるわさかな			1959・8
蜻蛉	139		何故なとは			1959・10
蜻蛉	140		ことなる事なきゆかり			1959・12
蜻蛉	141		かのかみの			1960・1
蜻蛉	141+	<欠>	かしこには			1960・5
蜻蛉	142	よき人	よき人句			1960・9
蜻蛉	143		さるはおほせし			1961・1
蜻蛉	144		人のそしり			1961・3
蜻蛉	145		とてもかくても			1961・4
蜻蛉	146		六十そう			1961・5
蜻蛉	147		あるしかり			1961・11
蜻蛉	148		しらき			1961・12
蜻蛉	149		ならふへく		注釈ナシ。	1961・14
蜻蛉	150		御すくせなりけり			1962・1
蜻蛉	151		宮のうへ			1962・1
蜻蛉	152		七僧のまへ			1962・1
蜻蛉	153		この宮にかしこまり			1962・3
蜻蛉	154		ふたりの人			1962・3
蜻蛉	155		おもひのさかり			1962・5
蜻蛉	156		かの殿は			1962・6
蜻蛉	157		きさいの宮			1962・7
蜻蛉	158		猶かくて			1962・8
蜻蛉	159		二宮の			1962・8
蜻蛉	160		この宮			1962・9
蜻蛉	161		小さいやう			1962・12
蜻蛉	162		この宮も			1962・14
蜻蛉	163		いたき	いたさ		1962・14
蜻蛉	164		なとかさしも			1963・1
蜻蛉	165		まめ人			1963・2
蜻蛉	166		かく物おほしたる			1963・3
蜻蛉	167		哀しる哥			1963・5
蜻蛉	168		かへたらは			1963・5
蜻蛉	169		夕暮			1963・6
蜻蛉	170		つれなしと哥			1963・8
蜻蛉	171		このよろこひ			1963・8
蜻蛉	172		なへて			1963・10
蜻蛉	173	しけにて	<ナシ>(△1字下ゲ)			1963・10
蜻蛉	174		人から			1963・10

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
蜻蛉	175		みし人よりも			1963・13
蜻蛉	176		などてかく			1963・14
蜻蛉	177		さる物にて			1963・14
蜻蛉	178		人しれぬすちは			1963・14
蜻蛉	179		蓮の花			1964・1
蜻蛉	180		五くはんの日			1964・3
蜻蛉	181		西のわた殿			1964・6
蜻蛉	182		物きゝこうして			1964・7
蜻蛉	183		なをしきかへて			1964・8
蜻蛉	184		こゝにやあらん			1964・11
蜻蛉	185		れいさやうの			1964・12
蜻蛉	186		はれ++しく			1964・13
蜻蛉	187		ひを物のふたに			1964・14
蜻蛉	188		からきぬともかさみ			1965・1
蜻蛉	189		まことにつち			1965・7
蜻蛉	190		きなるすゝし			1965・7
蜻蛉	191		物あつかひ			1965・9
蜻蛉	192		さまあしうする			1965・11
蜻蛉	193		のこはせ			1965・13
蜻蛉	194		下す女房の			1966・4
蜻蛉	195		左の大殿			1966・10
蜻蛉	196		いてきなん			1966・11
蜻蛉	197		ひとへも			1966・11
蜻蛉	198	物思ふ人とも	物おもふ人ともなるかな			1966・14
蜻蛉	199		つとめて			1967・3
蜻蛉	200		大貳に			1967・8
蜻蛉	201		はうそく			1967・12
蜻蛉	202		あへなん			1967・12
蜻蛉	203		ひめして			1968・1
蜻蛉	204		ゑにかきて			1968・1
蜻蛉	205		内に有し時			1968・5
蜻蛉	206		下すに			1968・9
蜻蛉	207		れいの宮			1968・10
蜻蛉	208		丁子	丁子一		1968・11
蜻蛉	209	なをしこまやか	(ナシ)(208注ノ一部)		写本八行間書き入し。	1968・11
蜻蛉	210		女の御みなり		写本八行間書き入し。	1968・12
蜻蛉	211		ゑをいとほく			1968・14
蜻蛉	212		このさどに			1969・3
蜻蛉	213		かやうの物			1969・6
蜻蛉	214		あやしくなとてかすて			1969・7
蜻蛉	215		それよりも			1969・9
蜻蛉	216		かれよりは			1969・10
蜻蛉	217		もとよしかすまへ			1969・10
蜻蛉	218		すきばみ			1969・13
蜻蛉	219		一夜の心さし			1969・14
蜻蛉	220		有しわた殿			1969・14
蜻蛉	221		西さまに			1970・1
蜻蛉	222	大かたは	大かたには			1970・4
蜻蛉	223		いとおほえなく			1970・5
蜻蛉	224		ありつかす			1970・5
蜻蛉	225		おひの君達			1970・6
蜻蛉	226		今より			1970・7
蜻蛉	227		ひめ宮は			1970・9
蜻蛉	228		大納言			1970・11
蜻蛉	229		まめ人に			1970・12
蜻蛉	230		人よりは心よせ			1971・1
蜻蛉	231		宮をこそ			1971・3
蜻蛉	232		かたしけなき			1971・4
蜻蛉	233		宮もわらはせ			1971・4
蜻蛉	234		この人++		写本八行間書き入し。	1971・6
蜻蛉	235		いとあやしき			1971・6
蜻蛉	236		なにかしかめは			1971・8
蜻蛉	237		宮もいと			1971・11
蜻蛉	238		いさや			1972・4
蜻蛉	239		かしこに侍			1972・4
蜻蛉	240		をそき			1972・7
蜻蛉	241		大将殿打勝			1972・13
蜻蛉	242		せり川の大將			1972・13
蜻蛉	243		とを君			1972・14
蜻蛉	244		おほしなひく			1973・1
蜻蛉	245		荻の葉に哥			1973・3
蜻蛉	246		かきてもそへまほしく			1973・3
蜻蛉	247		昔の人			1973・5
蜻蛉	248		かゝる事も			1973・8
蜻蛉	249		又宮のうへ			1973・9
蜻蛉	250		心のとかに			1974・3
蜻蛉	251		めのとゝこの人ふたり			1974・9
蜻蛉	252		きさいの宮			1975・1

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
蜻蛉	253		見奉りし			1975・6
蜻蛉	253+	〈ナシ〉(△1字下ゲ)	かけろふの式部卿			1975・6
蜻蛉	254		せうとのむまのかみ			1975・8
蜻蛉	255		御せうとの			1975・12
蜻蛉	256	姫宮の御くにて	姫宮の御く			1975・13
蜻蛉	257		かきりあれは			1975・14
蜻蛉	258		もはかり			1975・14
蜻蛉	259		ちゝみこははらからそかし			1976・2
蜻蛉	260		もとかしきまでも			1976・3
蜻蛉	261		春宮にや			1976・4
蜻蛉	262		我にもけしき			1976・4
蜻蛉	263		水の底			1976・5
蜻蛉	264		此院に			1976・6
蜻蛉	265		この宮れいの			1976・11
蜻蛉	266		内にまいらせ給			1976・14
蜻蛉	267		紅葉の比			1976・14
蜻蛉	268		此みやそ			1977・2
蜻蛉	269		初花のさま			1977・4
蜻蛉	270		入たち			1977・4
蜻蛉	271		かの侍従は			1977・6
蜻蛉	272		御すくせ			1977・7
蜻蛉	273		宮は宇治の			1977・9
蜻蛉	274		たち出給ふ			1977・10
蜻蛉	275		御はてをも			1977・11
蜻蛉	276		心やすくは			1977・14
蜻蛉	277		さすかにさるへからん			1977・14
蜻蛉	278		やう十			1978・1
蜻蛉	279		弁のおもと			1978・2
蜻蛉	280		そも			1978・2
蜻蛉	281		はつへきゆへあらしと			1978・5
蜻蛉	282		てならひ			1978・7
蜻蛉	283		心もとなき			1978・8
蜻蛉	284		女郎花哥			1978・12
蜻蛉	285		心やすく			1978・12
蜻蛉	285+	〈欠〉	さうしに			1978・13
蜻蛉	286		花といへは哥			1979・1
蜻蛉	287	たゝかたそは	たゝかた			1979・1
蜻蛉	288		今まうのほりける			1979・2
蜻蛉	289		けさやかなるおきなこと			1979・3
蜻蛉	290		旅ねして哥			1979・5
蜻蛉	291		宿かさは哥			1979・7
蜻蛉	292		何かはつかしめ			1979・7
蜻蛉	293		はへなん	はへなん侍るなり		1979・10
蜻蛉	294		わきてまかの			1979・10
蜻蛉	295	御物はちのゆへかならず	御物はちのゆへかならず			1979・10
蜻蛉	296		をしなへて			1979・11
蜻蛉	297		中について			1979・13
蜻蛉	298		ありつるきぬの			1980・1
蜻蛉	299		宮の	宮の匂ふ也		1980・2
蜻蛉	300		かの御かたの中將			1980・2
蜻蛉	301		猶あやしのわさや			1980・3
蜻蛉	302		この宮には			1980・4
蜻蛉	303		おりたちて			1980・5
蜻蛉	304		このゆかりには			1980・7
蜻蛉	305	此わたりにも	〈欠〉			1980・7
蜻蛉	306		れいの			1980・8
蜻蛉	307		心はせあらん人は			1980・9
蜻蛉	308		されとかたい			1980・9
蜻蛉	309		たいの御かた			1980・10
蜻蛉	310		かの御ありさま			1980・10
蜻蛉	311		いとひんなき			1980・11
蜻蛉	312		すきも			1980・14
蜻蛉	313	れいのにしわた殿	れいの西わた殿			1981・1
蜻蛉	314	姫宮	姫君			1981・2
蜻蛉	315		なとかく			1981・4
蜻蛉	316		にるへきこのかみや侍るへき	にるへきこのかみや		1981・6
蜻蛉	317		まるこそはゝかたの			1981・7
蜻蛉	318		れいの			1981・8
蜻蛉	319		たゝかやう			1981・10
蜻蛉	320		おかしの御身の程や			1981・10
蜻蛉	321		りち			1981・12
蜻蛉	321+	〈欠〉	心いれ			1981・13
蜻蛉	322		わかはゝ宮			1981・14
蜻蛉	323		みかと十十の			1982・1
蜻蛉	324		ならへてもえたて			1982・4
蜻蛉	325		みやの君は			1982・5
蜻蛉	326		ふたり三人は			1982・8
蜻蛉	327		人しれぬ心よせ			1982・10

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
蜻蛉	328		君にも			1982・12
蜻蛉	329		おもほしかけさりし			1982・13
蜻蛉	330		なみ十の			1983・1
蜻蛉	331		もとより			1983・2
蜻蛉	332		けにと			1983・4
蜻蛉	333		松もむかしの			1983・4
蜻蛉	334		もとよりなど			1983・5
蜻蛉	335		たなへてのかゝるすみかの			1983・7
蜻蛉	336		この人そ			1983・10
蜻蛉	337		是こそは			1983・11
蜻蛉	338		又かはかりそ			1983・12
蜻蛉	339		あやしかりける事は			1983・12
蜻蛉	340		このはかなしや			1983・14
蜻蛉	341		ありとみて哥			1984・4
蜻蛉	342		あるかなきかと		写本「是ヨリ如私」トアリ、 343・344ハ兼如ノ補注。	1984・4
蜻蛉	× (343)	花鳥△ありとみて・・・	〈ナン〉(342注ノ一部)		写本ハ和歌ヲ列挙シ注ヲ 付ス。整版本・古活字本ハ 写本トヤヤ異ナルガ、同様 ノ注内容ガ342注ノ一部ニ	
蜻蛉	(344)	あはれこれも又おなし人そ かしの思ひ出きこえて	〈欠〉			1982・6
手習	1		その比横川に			1989・1
手習	2		なにかし			1989・1
手習	3		いもうと			1989・2
手習	4		ふるきくはん			1989・2
手習	5		みちの空にてなくやならんと			1989・8
手習	6		みたけさうし			1989・10
手習	7		みて奉るへきに			1989・13
手習	8		こずさくゑん			1989・13
手習	9		やともし			1990・3
手習	10		大やけ所			1990・4
手習	11		つき十しき			1990・8
手習	12		かしろのかみあらは			1990・14
手習	13		きつねの人に			1991・5
手習	14		かのわたり			1991・5
手習	15		みつし所			1991・7
手習	16		しるくや思ふらん	しるやおもふらん		1991・10
手習	17		あさむきて			1991・14
手習	18		けからひ			1992・1
手習	19		ひたいをしあけて			1992・2
手習	20		やつと			1992・7
手習	21		木玉の鬼			1992・11
手習	22		目もはなもなかり			1992・13
手習	23		いかきさまを			1992・13
手習	24		雨いたく			1993・2
手習	25	人におはれ	人にをわれ			1993・7
手習	26		よこさまの			1993・7
手習	27		たい十			1993・10
手習	28		御車よせて			1993・14
手習	29		何か			1994・2
手習	30		しか十の事なん			1994・4
手習	31		をのか寺にて			1994・4
手習	32		たゝ年比			1994・10
手習	33		ありさまみぬ			1994・10
手習	34		神など			1995・1
手習	35	いみしくもかなしと	いみしくかなしと			1995・10
手習	36		こゝはとみゆる			1996・2
手習	37		人の心まとはさん			1996・3
手習	38		かつみる十			1996・10
手習	39		まへみやられし火は	よへみやられし火は		1996・10
手習	40		宮の御むすめ			1996・13
手習	41		ひめ宮を			1996・14
手習	42		かたはらに今の人			1997・4
手習	43		をのと云所			1997・5
手習	44		中やとりを			1997・6
手習	45		けしやくこと			1998・5
手習	46	四五月も	四二月			1998・5
手習	47		あか佛			1998・8
手習	48		あへなん			1998・8
手習	49		打すてましかは			1998・10
手習	50		いときやうさく		注釈ナシ。	1999・2
手習	51		御ようめい	〈欠〉		1999・2
手習	52		くどくのむくひに			1999・3
手習	53		なにかそれえんに			1999・5
手習	54		われむさん			1999・11
手習	55		やふるかいは			1999・11
手習	56		女のすちに			1999・11

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
手習	57		人にかりうつして			2000・1
手習	58		むかしはおこなひせし			2000・5
手習	59		つきたる人の			2000・10
手習	60		いといみしと			2001・2
手習	61	いと清けなる	いときよけ			2001・7
手習	62		もとよりおれ++しき			2002・9
手習	63		いたはりやめ			2002・11
手習	64		一とせたらぬ			2002・14
手習	65		天人のあまくたれる			2003・1
手習	66		たゝほのかに			2003・5
手習	67		人のいてきて			2003・7
手習	68		このあるしも			2003・12
手習	69		いときよけに			2004・5
手習	70		物まねひして			2004・8
手習	71		みしあつまちの			2004・9
手習	72		かの夕霧			2004・9
手習	73		山にかたかけ			2004・10
手習	74		少将の尼			2004・13
手習	75		むかしも			2004・14
手習	76		おもひいつ			2005・3
手習	77	おひ出けるかな	おひ出けるかな句			2005・2
手習	78		身をなけし哥			2005・5
手習	79		我かくての哥			2005・9
手習	80		こもきとて			2006・6
手習	81		都鳥			2006・7
手習	82		世中に			2006・8
手習	83		さきうちをひ			2006・13
手習	84		これもいと			2007・1
手習	85		年比			2007・6
手習	86		心のうち			2007・9
手習	87		住はなれかほ			2007・9
手習	88		したひまとはさるゝ			2007・11
手習	89		はふき			2007・12
手習	90		よになひかせ			2007・14
手習	91		すいはん			2008・1
手習	92		はすのみ			2008・1
手習	93		わずれかたみ			2008・4
手習	94	とはすかたりも	とはすかたり			2008・6
手習	95		われは我と			2008・7
手習	96		しろき一重			2008・8
手習	97		ひわた色			2008・8
手習	98		わずれなんと思			2009・1
手習	99		らうのつま			2009・6
手習	100		何にほふらん			2010・3
手習	101		人の物いひを			2010・3
手習	102		頭中納言			2010・6
手習	103		おやのとの			2010・7
手習	104		心うく			2010・8
手習	105		やう++			2010・11
手習	106		さしあたり			2010・12
手習	107		ひたみちに			2011・1
手習	108		世をすてたれと			2011・6
手習	109		せんしの			2011・5
手習	110		女はをきたるましき			2011・9
手習	111		むかしものかたり			2011・13
手習	112		うちつけ心			2012・8
手習	113		こと++に			2012・9
手習	114		あたしのゝ哥			2012・12
手習	115		うつしうへて哥			2013・3
手習	116		こたみ			2013・3
手習	117		まつちの山			2013・7
手習	118		たいめん			2013・8
手習	119	ゆるい給ふ	ゆるひ給ふ			2013・10
手習	120		かく具したる			2013・11
手習	121		うたゝ			2013・14
手習	122		世をこめたる			2014・2
手習	123		いつらあな心う			2014・6
手習	124		松むしの哥			2014・8
手習	125		名残なるへし			2014・12
手習	126		秋のゝの哥			2014・13
手習	127		わつらはしかり	わつらはしに		2014・13
手習	128		うちにも猶			2014・14
手習	129		かきりなく			2015・6
手習	130		鹿のなく音に			2015・9
手習	131		過にしかたの			2015・11
手習	132	みぬ世	みえぬ			2015・12
手習	133		あたら夜を			2015・12
手習	134		なにかをちなる			2015・14

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
手習	135		笛のねさへ			2016・3
手習	136		ふかき夜の哥			2016・3
手習	137		かくなん			2016・5
手習	138		山のはに哥			2016・7
手習	139		いかてその			2016・10
手習	140		いつらくそたち			2016・11
手習	141		さためなき世そ			2016・12
手習	142		はんしきてう			2016・13
手習	143		みみからにや			2017・1
手習	144		今やうはおさ++			2017・2
手習	145		松風			2017・3
手習	146		念佛より			2017・6
手習	147		とのもりのくそ			2017・12
手習	148		聲やめつる			2018・2
手習	149		たけふちちり++			2018・2
手習	150		こと葉とも			2018・3
手習	151		今の世に			2018・3
手習	152		耳ほの++			2018・4
手習	153		われかしこに			2018・7
手習	154		よへは			2018・9
手習	155		わすられぬ哥			2018・12
手習	156		おほしるはかり			2018・12
手習	157	何かはとあるを	何かはとあるを句			2018・13
手習	158		いとゝわひたるは			2018・13
手習	159		笛のねに歌に哥			2019・1
手習	160		あやしく			2019・1
手習	161		めつらしからぬ			2019・2
手習	162	萩の葉におとらぬ	萩の葉にをとらぬ			2019・3
手習	163		見知にし			2019・4
手習	164		人にも思ひはなたすへき			2019・6
手習	165		九月から		注釈ナシ。	2019・10
手習	166		いさ給へ			2019・12
手習	167		たひ++			2020・1
手習	168		はかなくて哥			2020・7
手習	169		又もあひきこえん			2020・8
手習	170		ふる川の哥			2020・11
手習	171		しのひてと			2020・12
手習	172		あさましき事と			2020・14
手習	173		たのもし人			2021・1
手習	174	いとあやしくこそは有しかとの給へと	いとあやしくこそは有しかとはの給へと			2021・4
手習	175		われはと思ひて			2021・5
手習	176		きせい大とこ			2021・8
手習	177		玉にきす			2021・13
手習	178		心には哥			2022・2
手習	179		しみつかん			2022・5
手習	180		おはせぬよしをいへとも			2022・6
手習	181		山里の哥			2022・11
手習	182		うき物と哥			2022・14
手習	183		おもひしらぬ人よりも			2023・6
手習	184	それも物こり	〈欠〉			2023・6
手習	185		いひきあはせたり			2023・12
手習	186		ひとつはしあやうかりて			2023・13
手習	187		こもき			2024・1
手習	188		たのもし人なりや			2024・3
手習	189	しはふきおほゝれて	しはふき			2024・5
手習	190		ひたいにてを			2024・7
手習	191		中にあらましかと			2024・12
手習	192		さるかたに	さきかたに		2025・1
手習	193		こしまの色			2025・5
手習	194		はしめより			2025・6
手習	195		有し御さま			2025・8
手習	196		鳥の鳴を			2025・10
手習	197		ことなしひ			2025・14
手習	198		左大臣			2026・4
手習	199		髪は六しやく			2026・13
手習	200		かゝれとてしも			2026・14
手習	201		まるなる			2027・2
手習	202		ふいにて			2027・7
手習	203		ものゝけも			2028・8
手習	204	したるやうにて	したるやうにて句			2029・2
手習	205		こゝにとよふ			2029・8
手習	206		うつし人			2029・10
手習	207		ほころひより			2029・11
手習	208		見いれなど			2030・1
手習	209		わか上の			2030・2
手習	210		るてん三かいちう			2030・7
手習	211		たちはてし	たちはてし		2030・8

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
手習	212		とみにせさすへくも			2030・10
手習	213		これのみそいける			2030・12
手習	213+	<欠>	よにふへき			2031・3
手習	214		おほとれたる			2031・5
手習	215		くらふなして			2031・7
手習	216		なき物に哥			2031・11
手習	217		かきりそと哥			2031・13
手習	218		岸とをく哥			2032・4
手習	219		れいならず			2032・6
手習	220		心こそ哥			2032・9
手習	221		かきうつして			2032・10
手習	222		いちしるき			2033・8
手習	223		こうして			2033・11
手習	224		おなし御丁			2033・13
手習	225		ことしらい年と			2034・1
手習	226		けうのこと			2034・5
手習	227		かくのこと		写本ハ見出しノミデ注内容 ナシ。整版本・古活字本ハ 次項ト一体化シテ一項目ト ナル。	2034・7
手習	228	おほきなる所は	<ナシ>(227注ノ一部)			2034・7
手習	229		そのによにん			2034・13
手習	230		女この			2035・2
手習	231		今はしられなん			2035・6
手習	232		さもやかたらひ			2035・7
手習	233		りうのなかより			2035・9
手習	234		おまへなる			2035・10
手習	235		あね君のつたへ			2035・10
手習	236		かたきたち			2035・13
手習	237		事さま			2035・13
手習	238	宮はそれにもこそ	宮はそれにも			2036・1
手習	239		この人にそ			2036・1
手習	240		さならんとも			2036・2
手習	241		おほしやみにけり			2036・3
手習	242		の給ひも			2036・5
手習	243		はかなき物に			2036・7
手習	244		葉のうすきかことし			2036・13
手習	245		松もんに			2036・13
手習	246		ひねもすに			2037・1
手習	247		山ふしは			2037・2
手習	248		はしのかたに			2037・4
手習	249		れいのすかた			2037・7
手習	250		いとま有て			2037・10
手習	251		木からしの哥			2037・14
手習	252		まつ人も哥			2038・1
手習	253		五重の扇			2038・5
手習	254		わかしたらん			2038・12
手習	255		よのつね			2039・5
手習	256		きしかたの			2039・6
手習	257	いと行ふ心ほそう	いと行末心ほそう			2039・7
手習	258		この尼君も			2039・9
手習	259		尋きこえ給へき			2039・12
手習	260		心のおもむけ			2040・1
手習	261		大かたの哥			2040・4
手習	262		いとふに			2040・4
手習	263		くち木などの			2040・8
手習	264		人には			2040・9
手習	265		春のしるしも			2040・13
手習	266		君にそまとふ			2040・14
手習	267		かきくらす哥			2041・2
手習	268		山里の哥			2041・6
手習	269		雪ふかき哥			2041・8
手習	270		春やむかしと			2041・10
手習	271		匂のしみけるにや			2041・10
手習	272		かことかまし			2041・12
手習	273		袖ふれし哥			2041・14
手習	274		何事か去年			2042・1
手習	275		ほけ++しき			2042・2
手習	276		ひたちの北方			2042・5
手習	277		いもうとなるへし			2042・6
手習	278		えまちつけ			2042・7
手習	279		女のしやうそく			2043・1
手習	280	はしめのはた	<欠>			2043・6
手習	281	ほと++出家	ほと++			2043・6
手習	282		さすかおそろし			2043・7
手習	283		あやしくやう			2043・7
手習	284	うへにのほり	うへにのほりて			2043・9
手習	285		みし人は哥			2043・11

写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
手習	286		いちの所も			2043・14
手習	287		左大臣殿との給へは			2044・3
手習	288		しうとくにて			2044・4
手習	289		この世の事ともおほえず			2044・7
手習	290		ひねらせ			2044・12
手習	291		くれなゐに桜			2044・14
手習	292		あま衣哥			2045・3
手習	293	いとおしく	いとおしく句	いとおしく句なくも		2045・3
手習	294		適にしかたの			2045・5
手習	295		むかしの入			2045・9
手習	296		しかあつかひ			2045・9
手習	297		みし程は			2045・12
手習	298		せう			2046・2
手習	299		人のそしり			2046・6
手習	300		所のさか			2046・7
手習	301		さいつ比			2046・8
手習	302		道しん			2046・9
手習	303		猶うちつき			2046・11
手習	304		人はなれたる		注釈ナシ。	2046・13
手習	305		しのふる			2046・14
手習	306		こと十			2047・5
手習	307		さま十なる			2047・8
手習	308		宮のとはせ			2047・10
手習	309		われも又			2047・12
手習	310		聞て後も			2047・13
手習	311		うつゝの			2047・14
手習	312		思入にけん			2048・8
手習	313		さなの給ひそ	さなの給ひか		2048・9
手習	314		宮もかゝつらひ			2048・11
手習	315		うつし人に			2048・12
手習	316		きなるいつみ			2048・12
手習	317		風のまきれ			2048・13
手習	318	思ひみたれて	おもひみたれて句	おもひみたれて		2048・14
手習	319	なをの給はずや	〈ナシ〉(318注ノ一部)			2048・14
手習	320		おちあふれて		注釈ナシ。	2049・2
手習	321		今すこし			2049・5
手習	322		宮の御事を			2049・6
手習	323		しらすかほにて			2049・8
手習	324	きこえんかたなかりける	きこえんかたなかりけり			2049・10
手習	325		心うく			2049・12
手習	326		いとおもき			2049・12
手習	327		月ことのやうか			2050・2
手習	328		やくし佛			2050・3
手習	329		かのせうと			2050・4
手習	330		その人十			2050・5
手習	331		打みん夢の心ち			2050・5
手習	332		さすかに			2050・6
手習	333	うきことを	〈欠〉			2050・8
手習	× (334)	夢にこそ恋しき人を...	〈欠〉		写本、和歌一首アリ。	
夢浮橋	1		れいせさせ			2055・1
夢浮橋	2		つけかたらひ			2055・2
夢浮橋	3		京にはか十しき			2055・9
夢浮橋	4		そのわたり			2055・11
夢浮橋	5		もらしきこえめ			2056・2
夢浮橋	6		こゝにうしなひたる			2056・4
夢浮橋	7		老け			2056・12
夢浮橋	8		たまとの			2057・2
夢浮橋	9		てしばら			2057・4
夢浮橋	10		てんくう			2057・8
夢浮橋	11		三月			2057・10
夢浮橋	12	すけし	〈欠〉			2058・6
夢浮橋	13		さてこそあなれ			2058・10
夢浮橋	14		かくおほしける			2058・14
夢浮橋	15		この世には			2058・14
夢浮橋	16		わかんとをり			2059・3
夢浮橋	17		つみかろめて			2059・8
夢浮橋	18		月比かくさせ			2059・10
夢浮橋	19		かたちをかへ			2060・1
夢浮橋	20	まかりおりより	まかりより			2060・4
夢浮橋	21		此しるへ			2060・10
夢浮橋	22	打わらひ	〈欠〉			2060・12
夢浮橋	23		三条宮			2060・14
夢浮橋	24		くらゐなと			2061・2
夢浮橋	24+	〈ナシ〉(24注ノ一部)	大やけわたくしは	大やけ		2061・4
夢浮橋	25		中やとり			2061・11
夢浮橋	26		すゝろなるやう			2061・14
夢浮橋	27		あをほの山			2062・3
夢浮橋	28		やり水のほたる			2062・4

## 写本・刊本項目対照表

巻名	項目番号	写本(資料稿底本)見出し	整版本見出し	古活字本見出し	備考	大成所在
夢浮橋	29		谷の軒はより			2062・5
夢浮橋	30		ひきほし			2062・7
夢浮橋	31		かゝる山ち			2062・11
夢浮橋	32		又の日			2063・2
夢浮橋	33		ふたり三人			2063・3
夢浮橋	34		いもうとのかほ			2063・4
夢浮橋	35		をゝと			2063・11
夢浮橋	36		いひ入たり			2064・6
夢浮橋	37		こなたに			2064・7
夢浮橋	38		かやうにては			2064・9
夢浮橋	39		けさこゝに			2064・14
夢浮橋	40		すけを			2065・2
夢浮橋	41		仏のせめそふ			2065・2
夢浮橋	42		いかゝはせん			2065・3
夢浮橋	43	あいしうの	あいしう			2065・4
夢浮橋	44	せめられて	〈欠〉			2065・8
夢浮橋	45		こと++には			2065・5
夢浮橋	46		宇治にも			2065・10
夢浮橋	47	打おほえ	うちおほえ	うちおほみ		2066・1
夢浮橋	48		けにへたてありと			2066・5
夢浮橋	49	見給へてけんを	見給へてけん			2066・6
夢浮橋	50		きのかみとか			2066・8
夢浮橋	51		ひとりものし			2066・11
夢浮橋	52		僧都のゝ給ひし			2067・1
夢浮橋	53		いとかたいことかな			2067・3
夢浮橋	54		から++しき			2067・5
夢浮橋	55		此子もさはきゝ			2067・7
夢浮橋	56		又侍る			2067・8
夢浮橋	57		そゝやあらうつくし			2067・9
夢浮橋	58		げせう			2067・10
夢浮橋	59		おほしへたてゝ			2067・12
夢浮橋	60		さしすき人			2068・6
夢浮橋	61		さらに			2068・7
夢浮橋	62		さま++つみ			2068・7
夢浮橋	63		われなからもとかしき			2068・9
夢浮橋	64	法の師と歌	法の師と			2068・11
夢浮橋	65		この人は			2068・11
夢浮橋	66		もてまいり			2069・6
夢浮橋	67		つみさり所			2069・8
夢浮橋	68		あるしの君			2069・10
夢浮橋	69		今なんいとかたしけなく			2069・13
夢浮橋	70		あはてたる心ちして			2070・2
夢浮橋	71		うつしかたれ共			2070・4
夢浮橋	72		たゝかくおほつかなき			2070・5
夢浮橋	73		雲のはるかに			2070・6
夢浮橋	74		様々にて			2070・11
夢浮橋	75		本に侍るとそ			2070・12

論  
考  
編

# 広島大学蔵刊本『源氏物語抄（紹巴抄）』とその書き入れについて

——刊本『紹巴抄』の書誌的考察（I）——

妹尾好信

## はじめに

いわゆる『源氏物語紹巴抄』は、連歌師の里村紹巴が、三条西公条による『源氏物語』講釈を聞き取ったもので、永禄八年（一五六五）春頃の成立と考えられている。『源氏物語』五十四帖すべてに注釈を施し、巻頭に序文と総説を置いた大部にして完備した注釈書で、『源氏物語』注釈史の中でも重要なもののひとつである。写本で伝わるほか、近世初期の寛永年間（一六二四～四四）頃に古活字本で刊行され、後に整版本に覆刻されて、刊本として世に流布したことも知られている。

広島平安文学研究会が発行している「翻平安文学資料稿」の第二期には、故稲賀敬二先生によつて御架蔵の写本二十冊が『永禄奥書源氏物語紹巴抄』として十分冊で刊行されている（昭和51年～61年刊、平成7年に索引編刊。以下、「資料稿」と称する）。『源氏物語』古注釈書の翻刻刊行が盛んになって久しいが、『紹巴抄』に関して

は初めての活字化であり、その後も長らく唯一の活字翻刻であった（平成17年11月になって、中野幸一氏編「源氏物語古註釈叢刊」第三巻『紹巴抄』が武蔵野書院から刊行された。同書は中野氏御架蔵の整版本を定本としている）。「資料稿」では、各冊の巻末に「刊本との項目異同」の欄を設け、刊本と校合して大きな異同を一覧している。その際に用いられたのは、当時、広島大学文学部国語学国文学研究室所蔵であった二十冊の整版本である。

平成15年度より三箇年にわたつて、日本学術振興会の科学研究費補助金の交付を受けて、『源氏物語』古注釈資料本文のデータベース化を試みることにになり、サンプルとして版本『源氏物語紹巴抄』を取り上げることにした。そして、データベースの検索システムを用いて、版本の翻刻本文（文字データ）と版面（画像データ）、さらに「資料稿」に翻刻された写本本文の版面（画像データ）とを相互に参照できるようにした。本文データベースの底本には「資料稿」で校合に用いた広島大学蔵の版本を採用することにしたが、同本には、

各冊の見返しに旧蔵者による書き入れがあり、また第一冊目には本文中の行間や欄外に多数の注釈の書き入れが存する。本稿では、まず、定本とした広島大学蔵本の書誌を紹介することとし、加えて、第一冊目の書き入れ注を翻刻し、それがいかなる性格の注であるかを考察する。

### 一 『紹巴抄』諸本の概観

『紹巴抄』は、外題や内題に「源氏物語抄」とある伝本が多く、正式な書名は『源氏物語抄』とみなされるが、同名他書と区別するために『源氏物語紹巴抄』、略して『紹巴抄』と呼ばれることが多い。ただし、諸伝本にはさまざまな異称が見えている。

『国書総目録』（補訂版）には、書名と諸伝本が次のように記されている。

- ◎源氏物語抄 二〇巻二〇冊 ㉑ 源氏抄・源氏二十巻抄・源氏物語称名院抄・源流臨江抄・源氏物語紹巴抄・水源紫明抄 ㉒  
注釈 ㉓ 里村紹巴 ㉔ 永禄六頃 ㉕ 国会（「水原紫明抄」）・京大（国会蔵本写）（一五冊）（二〇冊）・実践・東大・山口（一〇冊）・神宮・天理（第五冊欠、九冊）（二〇冊本二部）・桃園・無窮神習（一冊）・竜門（文禄四写） ㉖ 寛永古活字版―東洋岩崎・蓬左・大東急・高木、古活字覆刻版―内閣・京大・大阪府・蓬左・天理・穂久邇（巻一欠）・竜門、刊年不明―国会・宮書・九大・東大・高知・日比谷加賀・穂久邇

このように、六種の異称と、写本十四点、版本三種十九点の伝本が掲げられている。また、同書第八卷「補遺」には、

源氏物語抄（里村紹巴） ㉗ 天理吉田（源氏物語桐壺抄）、室町末期写一冊） ㉘ 古活字覆刻版―島原（「紫糸抄」）

とあつて、写本・版本各一点が追加されている。

さらに、『国書総目録』の続編である『古典籍総合目録』には、

源氏物語抄 二〇巻二〇冊 ㉙ 源氏抄・源氏二十巻抄・源氏物語称名院抄・源氏臨江抄・紹巴抄・源氏物語紹巴抄・水源紫明抄 ㉚ 注釈 ㉛ 紹巴（里村紹巴） ㉜ 永禄六頃 ㉝ 国文研初雁（「紹巴抄」、昭和三、四西下経一・入江悦子・倉田道子・國友喜一郎・中村辰雄写二〇冊 東京帝大蔵本の写） ㉞ 太宰府天満宮（「源流臨江抄」、二〇巻 寛文刊二〇冊 古活字本覆版）

とあつて、新写本一点と版本一点が記される。

これらによれば、『紹巴抄』の伝本には約十五点の写本と三種類二十点余の版本の存在が知られていることになる。三種の版本とは、古活字本とその覆刻版、そして刊年不明の整版本である。古活字本については、川瀬一馬氏著『増 古活字版の研究』（昭42 日本古書籍商組合）に、

源氏物語紹巴抄 里村紹巴撰 二十巻 二十冊

活字印本盛行期に於ける源氏物語注釈書の刻本として最も大部なものである。寛永十七年刊左大将六百番歌合等と同種の小型活字印本で、寛永後期の開版と認められる。巻末に、天正八年

仲夏上旬三條西殿等の聞書を武州忍成田総州の懇望に拠つて許可する由の紹巴の識語を附刻してある。《十行平仮名交り、每行約二十四字。字面の高さ、約六寸六分。》

伝本の管見に入つたものは、東洋文庫・安田文庫・久原文庫・高木文庫《書入多し》蔵の四本に過ぎず、世に流伝するものは、寛永末年頃に本書に片仮名附訓を施して覆刻した整版本《内閣文庫（和学講談所旧蔵二十冊）・京都帝国大学（十冊）・大阪府立図書館（二十冊）・蓬左文庫・高木文庫（真如蔵旧蔵、二十冊）奈良女高師（二十冊）等あり。》である。原本を極めて精刻してゐる部分が多いので、間々活字印本と誤認せられてゐる。

という記述がある（《内は二行割書》）。これによると、古活字本の刊行は寛永後期と認められること、巻末に紹巴の識語が付刻されていること、寛永末年頃に付訓を施した覆刻整版本が刊行されて世間に流布したことが知られる。そして、古活字本に『国書総目録』に載らない安田文庫と久原文庫蔵の二本の伝存があることが記される（安田文庫蔵本は第一冊巻頭第1丁の写真が示されている）、整版本についても奈良女高師蔵本の存在が知られる。

古活字本の巻末にある紹巴の識語というのは、第二十冊末尾の後見返し部分に、

此二十冊者 三条西殿

右府入道殿公條公 稱名院殿 御講

釈 予 聞書也 武州忍成田総州依御懇

望奉許可畢

可被守御在名而已

于時天正八年仲夏上旬

紹巴判

とあるのをさしている。整版本にはこの識語はない。藤田徳太郎氏『源氏物語研究書目要覧』（昭7 六文館）が本書を「天正八年成」とするのは、この識語によつたものであろう。

川瀬氏によれば、『紹巴抄』の版本は、寛永後期刊の古活字本と寛永末年頃に付訓を施した覆刻整版本との二種ということになり、『国書総目録』のように「寛永古活字版」「古活字覆刻版」「刊年不明」の三種に分類する立場はとつておられないようである。池田亀鑑氏編『源氏物語事典』下巻所収の「注釈書解題」（大津有一氏執筆）にも、「刊本としては十行古活字本と十一行整版本が残つていて」云々とあり、川瀬氏と同様古活字本と整版本の二種に分類されている。ところが、近年刊行の伊井春樹氏『源氏物語 注釈書・享受史 事典』（平13 東京堂出版）には「版本には寛永古活字版・同覆刻版・無刊記版が存する」とあつて、『国書総目録』と同様三分類をとつている。

詳しい調査をしたわけではないので確かなことは言えないが、『国書総目録』が「古活字覆刻版」として載せる内閣文庫本と「刊年不明」として載せる国会図書館本とを実見して比べた限りでは両者の版面に目立った相違はなく、いずれも広島大学本と同一の版と思われる（ただし、後述のごとく各冊冒頭の目録の刷り位置に相違がある）。

国文学研究資料館のマイクログラフ資料目録によると、平成十八年三月

現在、次の六点がマイクロフィルムとして収集されている。うち五点が刊本である。

東洋文庫蔵本(三A d 二三) 刊 二〇冊

神宮文庫蔵本(一六二三) 写 二〇冊

熊本大学国文研究室蔵本(九一三・三六・Ma八二) 刊 七冊

陽明文庫蔵本 刊 二〇冊

上田市立図書館花春文庫蔵本(五) 刊 二〇冊

島原市立島原図書館松平文庫蔵本(一〇六一六) 刊 二〇冊

マイクロフィルムで見たところ、刊本五点のうち、東洋文庫本と陽明文庫本は付訓や返り点・送り仮名などのない十行本で、古活字本と認められる(ただし、陽明文庫本の第二冊は補写)。他は広島大学本と同じ十一行整版本である。熊本大学本のみ七冊本であるが、これは二十冊本の三冊ないし二冊を合冊して七冊としたものである。

十一行整版本は、管見の及んだ限りどれも同一版と思われるが、各冊冒頭第1丁に置かれた巻名目録の刷り位置に違いが見られる。と言うのは、広島大学蔵本は、全冊とも本文の前の丁の表面、つまり扉の位置に目録が置かれているのであるが、これとは別に、袋綴じの裏面に刷られて表紙に貼られ、見返しの位置に目録を記すものを一部に含む伝本が存するのである。たとえば、国会図書館本や上田市立図書館本は、二十冊のうち第五冊から第十六冊までの十二冊がこの見返し目録型になっている。また、熊本大学本は前述の通り

合冊された七冊本であるが、もとの二十冊の冒頭のうち、第二、四、七、十、二十冊の十四冊分が見返し目録型である。第四、第七、第十、第十三、第十六、第十八冊は第二冊目以降の冒頭にあたるので表紙に貼られて見返しになっているが、他は本文の途中に挟まれた形になっている。これに対して内閣文庫本などは広島大学本と同じく全冊扉型である(島原図書館松平文庫本は基本的に扉型であるが、第七冊だけが見返し型になっている)。これらのどれが本来の形であるかはわからないが、全冊扉型の方が統一がとれていてすっきりしていることは間違いない。

## 二 古活字本と整版本との相違

どうやら、『紹巴抄』の刊本諸本は、十行古活字本と十一行整版本の二つに分けるのが妥当で、「寛永古活字本」「古活字覆刻版」「刊年不明」本の三つに分ける『国書総目録』の分類はやや無理があるように思われる。十一行整版本は十行古活字本を覆刻(かぶせ彫り)して作られたもので、その意味ではすべて「古活字覆刻版」である。また、古活字本を含めて刊記のある刊本はないから、すべて「刊年不明」本である。

川瀬氏が言われるように、整版本は「原本を極めて精刻してある部分が多いので、間々活字印本と誤認せられてゐる」というほど精巧な覆刻であるが、古活字本にない漢字の付訓や仮名の清濁符号、漢文表記部分の返り点・送り仮名が付されて全体的に読みやすいよ

うに手を加えられているのが特色である。

以下、第一冊目をサンプルとして取り上げて検討する。

第一冊を見る限り、十行古活字本と十一行整版本との間に注釈項目の削除や追加などの出入りはない。

見出しに関する異同はほとんどが仮名の清濁表記の有無である。

次に一覧する(頭に付したのは「資料稿」の項目番号である。以下同じ)。

○桐壺卷

	《十行古活字本》	《十一行整版本》
41	さうし	さうじ (10オ・11)
68	すけなふ	すげなふ (12ウ・11)
133	たいたいしき	たいだいしき (19オ・4)
151	さへ	ざへ (21オ・2)
156	けさく	げさく (21ウ・3)
162	三たい	三だい (22オ・6)
168	うけはりて	うけばりて (22ウ・2)
192	くはんさ	くはんさ (24ウ・3)
198	きひは	きひは (25ウ・9)
199	あけおとり	あげおとり (25ウ・10)
203	けしきはみ	けしきばみ (26オ・10)
215	とむ食	どむ食 (28オ・3)
226	しげいさ	しげいさ (28ウ・9)

○箒木卷

	《十行古活字本》	《十一行整版本》
47	ゆへつけて	ゆへづけて (34オ・11)
56	みみたゝすかし	みみたゝずかし (35オ・4)
60	又なを人のかんたちめにて	又なを人のかんだちめ (35オ・8)
112	大やけはらたゝしく	大やけはらだゝしく (39ウ・2)
148	えんすへき	えんずべき (42ウ・11)
161	ひひらきゐたり	ひびらきゐたり (44オ・5)
220	さうしみはなし	さうじみはなし (49オ・1)
279	をたしく	をだしく (54オ・3)
325	さうしら	ざうじら (57オ・5)
349	あへかり	あべかり (59オ・9)
412	けとをき	けどをき (63オ・5)
438	あはめらるゝ	あばめらるゝ (64ウ・6)
483	さは	さば (67ウ・11)
516	さはれ	さばれ (69ウ・5)

また、古活字本では誤って項目の頭を一字下げて記し、注釈部分に埋没してしまっている個所がいくつかあるが、整版本では一字上げて位置を修正している。第一冊では、箒木卷の次の二例である。

142 にこりにしめる (整版本 42オ・3)

164 りんし (整版本 44ウ・4)

この両者は、整版本の版面を古活字本と比べると、「に」「りん」が不自然に縦長に彫られていて、行頭を一字分上げるためにやや無理をした形跡が窺われる。

ただし、整版本でも位置が正されず、一字下げになったままの例も三例ある。やはり箒木巻の次の項目である。

99 a おほどか (整版本 38ウ・1)

181 きこえさせつる (整版本 46才・11)

333 君達あさまし (整版本 57ウ・6)

これは整版本作成にあたって項目の位置の誤りを見落したか、または修正し忘れたかであろう。

他に、古活字本の項目表記の誤りまたは不備を整版本で正した例もある。第一冊目では次の二例である。

《十行古活字本》

《十一行整版本》

101 御さうそく一くた 御さうそく一くたり (桐壺・15ウ

・2)

195 人みなく 人なみく (箒木・47ウ・2)

354 是にたえす 是にたらす (箒木・59ウ・4)

もちろんこれらの修正は項目だけではなく注釈本文にも及んでいる。これを見ても、古活字本から整版本への覆刻は、単なる精巧な覆刻ではなく、注釈本文を読みやすくするとともに、古活字本の不備を努めて修正しようとする姿勢がはつきりと見て取れるのであ

る。

それにしても、一面十行本を十一行本に改めたのは丁数を減らして本の値段を安くするためかと思われるが、一行ずつ前の面に送って版木に貼り付けて彫っていったのだとすると、その労力は相当なものだ、版面を見ても、よほど注意深く見ない限り、貼り合わせて作ったような形跡は全く見られず、大した技術だと感心する。全二十冊の巻配置と巻頭の目録1丁を除く両本の丁数の相違を次に一覧する(巻名表記は原本のまま)。巻の配置は古活字本も整版本も全く一致する。矢印の上が十行古活字本、下が十一行整版本の丁数である。古活字本の調査は東洋文庫本の紙焼写真によった。「半」とあるのは、最終丁が表面で終わり、裏表紙に貼り付けられて後見返しになっているものである。

《古活》《整版》

第1冊	桐壺・はゞき	76丁	↓	69丁
第2冊	うつせみ・夕かほ	39丁半	↓	36丁
第3冊	若むらさき・すゑつむ花	50丁半	↓	47丁
第4冊	もみちの賀・花のえん・あふひ	60丁半	↓	55丁
第5冊	さかき・花ちる里・すま	60丁半	↓	55丁
第6冊	あかし・みおつくし・よもきふ・関屋	61丁	↓	55丁
第7冊	絵合・松かせ・うす雲	51丁半	↓	47丁
第8冊	朝かほ・おとめ	58丁	↓	52丁

第9冊	玉かつら・初子・こてふ・ほたる	84丁半↓77丁
第10冊	とこなつ・かゝり火・野分・御ゆき・藤はかま・真木柱 (※広大本は末尾1丁落丁につき85丁)	95丁半↓86丁
第11冊	梅かえ・藤のうら葉	36丁 ↓ 34丁
第12冊	わかな上	65丁 ↓ 60丁
第13冊	わかな下	55丁半↓51丁
第14冊	かしは木・よこ笛・すゝむし	48丁半↓44丁
第15冊	夕霧・御法	57丁 ↓ 52丁
第16冊	まほろし・匂ふ宮・紅梅・竹川	67丁半↓61丁
第17冊	はし姫・椎かもと・あけまき	87丁 ↓ 79丁
第18冊	さわらひ・やとり木	58丁 ↓ 54丁
第19丁	あつま屋・うき船	61丁 ↓ 56丁
第20丁	かけろふ・手ならひ・夢のうき橋	63丁 ↓ 58丁

### 三 『紹巴抄』刊本の伝本一覧

ここで、前掲の『国書総目録』と『古典籍総合目録』の記載に、『源氏物語事典』『注釈書解題』『源氏物語 注釈書・享受史 事典』、『増 古活字版の研究』、さらに国文学研究資料館所蔵マイクログラフ資料目録などの情報を加えて、現在知られている『紹巴抄』刊本の諸伝本を古活字本と整版本の二種に区分して一覽しておく。各文庫・図書館の目録からも情報を補った。ここでは写本については省略し、刊本のみに限って掲げた。

#### ○古活字本

- 1 東洋文庫蔵本 岩崎(二十冊。外題「源氏物語抄」)
- 2 大東急記念文庫蔵本(二十冊。後補題簽「源氏物語紹巴抄」。  
第六冊あたりまで書入れあり)
- 3 高木文庫蔵本(二十冊。書き入れ多し)
- 4 安田文庫蔵本(二十冊)
- 5 久原文庫蔵本(二十冊)
- 6 陽明文庫蔵本(二十冊。第二冊は補写)
- 覆刻整版本
- 7 内閣文庫蔵本(二十冊。外題「源氏物語抄」。書籍館・浅草文庫・和学講談所旧蔵本)
- 8 京都大学蔵本(十冊)
- 9 大阪府立図書館蔵本(二十冊。内題「源氏物語抄」。目録に「寛永年間印行の古活字本を覆刻した無刊記整版本(覆古活字本)」とある)
- 10 蓬左文庫蔵本(二十冊。外題「源流臨江抄」。目録には「寛永年間刊(古活字本覆刻)」とある。『国書総目録』には寛永古活字本と古活字本覆刻の双方所蔵とあるが、目録には本書だけしか見えない)
- 11 天理図書館蔵本
- 12 穂久邇文庫蔵A本(十九冊。卷一欠)
- 13 穂久邇文庫蔵B本

- 14 竜門文庫蔵本
- 15 島原図書館松平文庫蔵本(二十冊。外題「紫糸抄」。目録には「古活字十一行二十一字」とあるが整版本である)
- 16 太宰府天満宮蔵本(二十冊。外題「源流臨江抄」。目録には、寛文頃刊「古活字覆版」とあり)
- 17 高木文庫蔵本(二十冊。真如蔵旧蔵本)
- 18 奈良女子大学蔵本(二十冊)
- 19 国立国会図書館蔵本(二十冊。外題「源氏物語抄」)
- 20 宮内庁書陵部蔵鷹司本(二十冊。外題「源氏二十巻抄」)
- 21 九州大学蔵本
- 22 東京大学蔵本(二十冊。外題「源氏物語抄」)
- 23 高知県立図書館蔵本
- 24 東京都立中央図書館加賀文庫蔵本(二十冊。外題「源氏二十巻抄」)
- 25 熊本大学国文学研究室蔵本(七冊)
- 26 上田市立図書館花春文庫蔵本(二十冊。外題「源氏物語抄」)
- 27 桃園文庫蔵本(二十冊。外題「源氏物語抄」。朱の書き入れあり)
- 28 中野幸一氏蔵九曜文庫蔵本(合綴十冊)
- 29 広島大学蔵本(二十冊。外題なし。第一冊に書き入れ多し。全体に虫損やや多し。第十冊末尾に1丁の落丁あり)

#### 四 広島大学蔵刊本の書誌と見返し書き入れ

改めて、広島大学蔵刊本『源氏物語抄(紹巴抄)』の書誌を記す。  
 広島大学図書館中央図書館蔵。大本。縦二七・七センチ×横二〇・三センチ。楮紙袋綴。二十巻二十冊。小豆色無地の紙表紙。全冊外題なし(題簽のはがれた跡も認められない)。やや虫損あり。一面十一行書き。各冊冒頭に巻名の目録を1丁置く。各冊の丁数は先に記した通りである。  
 同本は、二十冊すべて前後見返しに旧蔵者を示す墨の書き入れがある。一覧すると次の通りである(「/」は原文改行)。

##### 第一冊 ○前見返し

續貳拾冊之初／北越蒲原郡彌彦／山續角田山麓波岸／角田之郷乙始山麓／願正寺納書藏

##### ○後見返し

此式拾巻何方参候共早く急／越後國蒲原郡弥彦庄角田濱村／乙始山願正寺方迄御遣し／可被下付候如件

##### 第二冊 ○前見返し

共二拾冊／巻之貳／乙始山藏

##### ○後見返し

北海邊弥彦高山續山麓／角田之郷／願正寺物

##### 第三冊

○前見返し

共二拾冊／卷之三／有則堂藏

○後見返し

下越海邊山麓角田村／願正寺書

第四冊

○前見返し

共二拾冊／卷之四／願正寺藏

○後見返し

北越海岸角田之郷／願正寺物

第五冊

○前見返し

共二拾冊／卷之五／有則堂

○後見返し

越之后州蒲原郡角田村／乙始山藏

第六冊

○前見返し

共二拾冊／卷之六／乙始山藏

○後見返し

北海波岸角田之郷／願正寺物

第七冊

○前見返し

共二拾冊／卷之七／願正寺書

○後見返し

越之後州蒲原郡弥彦庄／角田村／願正寺藏

第八冊

○前見返し

共二拾冊／卷之八／願正寺藏

○後見返し

第九冊

○前見返し

北越海岸角田之郷／有則堂藏

○後見返し

共二拾冊／卷之九／有則堂藏

第十冊

○前見返し

北越海邊角田之郷／乙始山藏

○後見返し

共二拾冊／卷之拾／乙始山書

第十一冊

○前見返し

越之后州角田村乙始山／書藏

○後見返し

共二拾冊／卷之拾一／角田乙願

第十二冊

○前見返し

北海邊角田郷乙始山／願正寺物

○後見返し

共二拾冊／卷之拾二／乙始山藏

第十三冊

○前見返し

北海之邊角田之郷／願正寺藏

○後見返し

共二拾冊／卷之十三／乙始山藏

第十四冊

○前見返し

越後國蒲原郡角田村／願正寺藏

共二拾冊／卷之拾四／願正寺藏

○後見返し

北越海邊角田之郷／乙始山藏

### 第十五冊

○前見返し

共二拾冊／卷之十五／角乙願藏

○後見返し

越之后州蒲原郡／角田村

### 第十六冊

○前見返し

共二拾冊／卷之拾六／願正寺藏

○後見返し

北海岸角田村／願正寺藏

### 第十七冊

○前見返し

共二拾冊／卷之拾七／乙始山藏

○後見返し

北越蒲原角田之郷／乙始山藏

### 第十八冊

○前見返し

共二拾冊／卷之拾八／角乙願藏

○後見返し

北海岸角田之郷／願正寺藏

### 第十九冊

○前見返し

共二拾冊／卷之十九／乙始山藏

○後見返し

越之北岸角田之郷／願正寺書

### 第二十冊 ○前見返し

揃而貳拾冊之終／越之后州北海邊／波岸角田之郷／乙始山書藏

○後見返し

此本何方へ参候共早く／北越角田村願正寺迄／御遣し可被下候

以上のごとく、この本は越後国蒲原郡角田郷にある乙始山願正寺の所蔵である旨がすべての巻に記されているのである。第一冊と最終第二十冊後見返しの書き入れには、この本がどこに持ち出されても早々に願正寺まで返すようにと書かれており、相当大切にされていたことがわかる。年時を示す記事は全くないので、いつ書かれたものかは不明だが、少なくとも江戸時代のある時期において、現在の新潟県西蒲原郡巻町（平成十七年十月十日に新潟市に編入合併）に属する角田村にある願正寺なる寺に所蔵されて大事に扱われていた本なのである。

願正寺は現在も巻町角田浜一一六三番地に存在する。平成十五年八月二十三日、寺の由緒を知るべく現地を訪れた。JR越後線巻駅前から女性運転手の乗務する角田山周遊登山バスにただ一人の客となり、約四十分乗車して「角田妙光寺前」で下車。願正寺は日蓮ゆかりの古刹妙光寺とは道路を挟んで反対側にあった。海岸までほんの

二、三十メートルほどの海辺で、まさに「波岸」である。寺は美しい姿の山門をくぐった正面に「乙始山願正寺」の扁額を掲げた堂々たる本堂を構えた立派な建物であった。住職の乙山圓亮氏はお留守であったが、先代の奥様である住職の御母堂にお目にかかり、話を聞くことができた。寺の由緒由来については本堂に掲げられた「乙始山願正寺略史」と題する文章にわかりやすく書かれているので、それを引用する（句読点を一部変更した）。

乙始山願正寺は、その創始は不詳なるも、所蔵の記録によれば、往古は天台宗で、岩穴前の坊九坊の一寺で北蒲原郡中條村乙村乙宝寺の分寺であった。

暁雲和尚を第一世とし、建久五年九月六日往生とあるから、紀元一二〇〇年頃である。第二世は錫擧師、第三世積遥師の時、承元元年、親鸞聖人が當國国府（直江津在）に御流罪になり、全三年、蒲原御巡錫の途次、赤塚村の庵主某の許に御一泊なされた時、これより西三十余丁の地に西院の河原のあるお話を聞きになられ、翌早朝、全庵主の御案内で岩穴にお出になられ、阿弥陀経を誦讀なされたのを、お側近くにいた積遥師は、その御聲と御姿の尊さに打たれ、御教化を蒙り、立ちどころに改宗、お弟子となり、法名を教善と、更に御形見の御染筆御六字の御尊号を賜わったので、教善は尔後お供仕りたいと切に御願ひ申上げたが、聖人は、そこもとは越後の國が有縁の地なれば、我

に代り衆生教化をたのむと仰せになり、左の一首を賜ったのであります。

わかるゝというばかりなり昨日今日

明日は会い見ん弥陀の浄土に

斯く願正寺は祖師聖人の御旧跡であったため、こんどは第十世開藏師の時、本願寺第八代で中興上人と仰ぐ蓮如上人の御巡錫御一泊、そしてまた御染筆の六字尊号を賜っています。当時願正寺は既に乙始山麓に移り、そしてこの地に在ること約二百八十年、その後第十七世宝了師の時、承応元年に現在地に移り、本堂は安永六年（一七〇〇年頃）、庫裡は文化三年（一八〇〇年頃）造営されています。次、第二十二世理観師の時、明和二年三月四日（一七六三年頃）、靈夢による三尊佛が岩穴より御出現になり、当山に御安置されるに至ったのであります。而も、願正寺は千有余年の寺歴をもちながら一度も火災に遭っていないので、古い記録がそのまま残っている。従つてこのような話も単なる傳説や物語りではありません。明治八年、村で七十余戸も焼けた大火にも免がれ、全廿三年九月には本当の真ん中に落雷があつても焼けなかった。

そして、明治九年には本願寺第二十一代明如上人の御巡錫をいたゞく等、これだけ御佛縁の深い寺は他に余り例がないと思われる。

明如上人より賜ったお歌（本堂前の碑銘）、

法の舟にあわすばわれもいつまでも

海にいつまで沈みはてまし

(以下略)

これによれば、本寺は鎌倉時代以来の歴史のある浄土真宗の寺で、始祖親鸞ゆかりの寺でもあり、妙光寺にまさるとも劣らない古刹なのである（本堂の前には近年建てられた親鸞上人の像がある）。山門の脇には白壁の蔵があるが、それが第三、八、九冊の見返し書き入りに見える「有則堂」という名の経蔵なのだという。しかも話によると「有則堂」の名はあの良寛の命名によるのだという。それが事実で、良寛が当地に程近い五合庵に在住時のことだとすれば文化年間（一八〇四〜一八）頃のこと、これら見返し書き入れもそれ以後になされたことになる。現在「有則堂」は錠が錆び付いて開かないのだというが、中には經典や仏書がほとんどで、文学書のようなものはないはずだという。それにしても、確かに江戸時代後期のある時期に、この寺の経蔵には『源氏物語』の注釈書の版本が二十冊セットで収められており、貸し出されることもあったようだが、非常に大切にされていたということは、この荒波打ち寄せる北越の海岸沿いの寒村において『源氏物語』が受容されていたことの証であり、地方における文化水準の高さを示しているように、『源氏物語』享受史においても興味深い事象であろうと思う。

おわりに——第一冊の欄外・行間書き入れ注について

ところで、他に注目される事象として、この願正寺旧蔵『紹巴抄』の第一冊には、ほぼ全体にわたって欄外・行間に注釈が書き込まれているということがある。書き入れ注は、総説が終わって桐壺巻に入った第5丁裏から簞木巻の八割以上を占める第64丁表までのほぼ全丁に見られ、上部欄外を中心に、一部行間の余白にも及んでいる。書き入れは基本的に墨書だが、見出しの頭に丸印と合点、終わりに句点を朱で付している。まれに丸印や合点がない項目もあり、不適切な位置に句点が置かれた例もあるので、これらの朱は後に一括して付されたものと考えられる。

これら書き入れ注に関しては、次ページ以下に全文を翻刻し、その内容に関して簡略な考察を加える。

《翻刻》広島大学蔵刊本『源氏物語抄（紹巴抄）』

第一冊欄外・行間書き入れ注（付・考察）

〔凡例〕

- 一、書き入れ注は墨書であるが、見出し（『源氏物語』本文の引用部分）の頭に丸印と合点、終わりに句点が朱で付されている。翻刻では合点と句点は省略したが、丸印はそのまま○で表した。
- 一、見出しの頭の丸印がないものには、私に頭に・印を付した。
- 一、見出しの後に、『源氏物語』における所在を『源氏物語大成』のページ数・行数と「新編日本古典文学全集」第一冊のページ数で示した。
- 一、見出し部分はゴシック体で記し、注釈部分との間を一字開けた。
- 一、注釈部分は、漢字は原則として通行の字体に改め、読解の便宜のため適宜句読点を付した。
- 一、上部欄外から書き始める通常の注と異なる低い位置にある注は、区別するために頭に▽印を付して一字下げて記した。
- 一、『細流抄』にない独自の注には、末尾に※印を付した。
- 一、書き入れ注に脱落があると認められる場合は、『内閣文庫本細流抄』の本文によって補い、その部分を「」で括って示した。
- 一、その他、必要事項を適宜（ ）内に注記した。
- 一、各項目には、末尾の「」内に通し番号を付した。

◎桐壺卷

・題号の事説々多し。しかれ共唯源氏の事をしるせる故也。又は古今の序に、山した水のたえずといへるかごとく、水の源をいへる也。山谷か詩に、岷江、初は濫<sup>レ</sup>觴<sup>ヲ</sup>入<sup>レ</sup>楚<sup>ニ</sup>乃無<sup>レ</sup>底と云かことく、是は女のはかなく書たれとも心あさからさる也。凡諸抄にくはしくしるせり。仍略之。卷名は花鳥に見えたり。発端は伊勢集に、いつれの御時にかおほみやす所と聞えける御局にとかけるにもとつけり。いつれの御時とさす事は、肝要は醍醐の御時をさして云也。高明公左遷の事を以て須磨の事は書也。総して此物語のならひ人ひとりの事をさしつめて書とはなけれども、皆故事来歴なき事をはかゝさる也。表は作物語にて莊子か寓言により、又しるす所の虚誕なき事は司馬か史記の筆法によれり。好色の人をいましめむかため、おほくは好色淫風の事を載也。盛者必衰のことたり、則出離解脱の縁も此物語の外には有へからさる也。凡日本<sup>の</sup>国史は三代実録光孝天皇（右二「号小松天皇」ト傍書）仁和三年八月（右二「此八月廿五日二帝崩、在位三年」ト傍書）までしるして、其後国史みえさる歟。此物語は醍醐天皇よりしるす。彼国史につかんの心とみえたり。彼孔子の春秋も哀公までしるせり。魯哀公は周敬王の代にあたり。其後左丘明（右二「私、左丘明ハ左氏伝ノ筆者トハ非也。別人也」ト朱テ傍書）周元王貞定王の時

代までして、考王夷烈王以下の事をはしるさす。然に司馬温公が通鑑をしるす事は、夷烈王廿三年よりしるせり。是も左伝につくへき心有なり。此物語に宇多御代をしるさるも相かなへる也。〔1〕

・更衣（五1・17） 便宜の御殿にさふらふしかるへき上達部などのむすめ也。〔2〕

○時めき給ふ（五2・17） 時めくは時をえたる也。時宜にあへると也。春めく、冬めくなとおなし心也。〔3〕

○はしめより我はと（五2・17） これよりしなをたてゝいへり。〔4〕

○下らうの更衣たちはまして（五3・17） 此ましてと云一詞殊勝也。人は我身のしなくほと心もちるはあるもの也。いたらぬ下劣の嫉妬の心は深と也。〔5〕

○あつしく（五5・17） いれいかち也。〔6〕

▽○あつしくはわつらはしき也。あとわと五音相通か。下は畧字歟。私、煩字、医書二煩熱ト云時ハあつきコヽ口なり〔私〕以下ノ

一文朱書。〔7〕

○まはゆき（五8・17） 人のそねみてうちもむかはさる兒也。〔8〕

○もろこしにもかゝる事のおこりにこそ（五8・17） 花鳥にはもろこしにもといふより以上貴妃の事のやうにしるさる。不可然歟。

二段にみるへきなり。是は股紂か姐己を愛し周幽王の褒姒を寵愛せしより世のみたれたる事等を引て云也。さて楊貴妃のためしと

書は、此巻は長恨歌にて書故也。彼褒姒は烽火の事にて世の乱出来也。姐己はさせる悪事見えさる也。但史記に姐己之言是從とかけり。何事も姐己か云まゝに紂か悪事を行ふ心也。史記の筆誅のおもむき詞と見えたり。〔9〕

○いとはしたなき（五10・18） 此更衣によそよりの人の心むけ也。〔10〕

▽○はしたなきは不相応也。引 さもこそは夜半の嵐のあらからめあなはしたなきのまきの板戸や。〔11〕

○かたしけなき御心ひとつを（五11・18） 御門の御気色一をたのむはかりなり（右二「はかり也」ト朱テ傍書）。〔12〕

○ちゝ大納言は（五12・18） 以下更衣の族姓をいへり。〔13〕

○母きたのかたなん（五12・18） 母北方なんいにしへのよしあるにてと句を切てよむ也。〔14〕

○おやうちくし（五12・18） 孤独の身なれともかたくにおとらぬやうに母君のあつかひ給ふ也。〔15〕

○たまのおのこみこ（六2・18） 源氏の君なり。玉のおのこ花鳥

説尤レ有興。〔16〕

○一のみこ（六4・18） 朱雀院なり。〔17〕

○右大臣（六4・18） 弘徽殿の父也。〔18〕

○よせおもく（六4・18） 寄重也。〔19〕

○この御にほひには（六5・18） 黍稷かうはしきにあらず。明德惟馨といへるかことく其人の威徳を匂ひといへる也。〔20〕

○おほかたのやむことなき(六五・一九) 一のみこはもとよりの御  
おほえはかりと也。(21)

○はしめよりをしなへてのうへみやつかへし給へき(六七・一九)

女御更衣は別殿に祓候して時くこそさふらふへきを、此人は典  
侍(右二「相当従四位」ト傍書)などのやうにおまへさらすめし  
まとはせは、かへりてかろくしき也。寵愛の甚しきあまり也。

[22]

○上手めかしけれと(六八・一九) 上すめかしきとは上臆しきと也。

花鳥の説如何。(23)

○坊にもようせずは(六十二・一九) ようせずとはあしくせはとなり。

[24]

○かしこき御かけをたのみきこえなから(七十二・二〇) 是より更衣  
の心也。(25)

○中くなる物おもひ(七三・二〇) 此物語中くと云詞いつくも

奇特也。凡哥の五文字にもなかくとをくは大事也。末いひおほ  
せかたき故也。御寵愛甚しからすはかやうにはあるましきを、こ  
れ故に中くなる物おもひもあると也。(26)

○御局は桐壺也(七三・二〇) 桐壺は御殿よりはほと遠き故也。花

鳥に見えたり。(27)

○うちはし(七六・二〇) きり馬道に板をうちわたしてかよふ道也。

[28]

○あやしきわさ(七六・二〇) 花に見えたり。(29)

○後涼殿(七二・二〇) 涼の字らうと読よし河海にみえたり。此更  
衣誰ともなし。(30)

○そのうらみまして(七二・二〇) はしめより後涼殿に住し更衣の  
心也。(31)

○此みこみつになり給ふ(七二・二〇) 三歳着袴例、河に見えたり。

[32]

▽○をよすけ(七二・二〇) 源語類聚ニ日本紀ヲ引テ助及ト書リ。才

トナシキ事也。(33)

○みやす所(八二・二一) 更衣の事也。更衣たる人、御子をうみた  
てまつりてのちの御息所に号するやうに、此物にはいつくにも見  
えたり。(34)

○五六日(八五・二一) いつか六日<sup>ムユカ</sup>と日の字をいれて読なり。(35)

○なくくそうしてまかてさせたてまつり給(八六・二一) 爰にて  
退出のやうにみえたれともいまた御いとまを申也。おくにて、わ  
りなくおもほしなからまかてさせ給つと云處にまことの退出也。  
此筆法あまた所にあり。(36)

○あるましきはちもこそと(八六・二一) 更衣の里にわたしたてま  
つらん事をは遠慮して源氏の君をはとめさせ給ふ也。(37)

○われかのけしき(八三・二二) あるかなきかのけしき也。正躰も  
なき体也。(38)

○手くるまの宣旨(八四・二二) 花説可然。(39)

○かきりとて(九三・二三) ありめのまゝなる哥也。時にのみて哀

なる哥也。いかまほしきはいき度と也。〔40〕

○いとかく思ふ給へましかは(九三・二三) 花儀非歟。かねてよろ  
つたのみし心のほかになりぬる事を思ふ詞也。きのふけふとは思  
はさりしをと云かことし。御門の御返哥のなきは御心を深くま  
はし給ふ事を見せたり。〔41〕

○けふはしむへきいのり(九六・二三) こよひよりきこえ今夜より  
更衣の里にて修法をもせさせむとて也。是も深くおほしめすに  
り退出をゆるし給也。〔42〕

○まかてさせ給(九七・二三) ここにて退出。〔43〕

▽○いふせさ(九八・二三) 物かなしき躰也。又おそろしき事也。

〔44〕

○みこはかくても(九一・二四) 此段河誤也。花説可然。七歳以前  
人服忌の事醍醐御代法をたてらるゝ事、両度あらたまれり。これ  
ははしめ七歳以前の人も服のいみあるへしと有し時の分にかける  
也。〔45〕

○なに事かあらんとも(九一・二四) 光源氏の君いときなきよし尤  
哀也。〔46〕

○よろしき事にたに(九一・二四) 此よろしきは中品也。なをさり  
のわかれさへとなり。〔47〕

○おたき(一〇三・二四) 今の六道是也。昔の葬所也。〔48〕

▽○一抄、鳥部野ヲ云也ト云々。未詳之。〔49〕

▽○所ノ者カタリ侍ルハ、六波羅ト六道トノ間ヲタギ寺アリト云ヘ

リ。〔50〕

○むなしき御からを(一〇五・二四) 母君の心也。引哥に及へから  
ざる也。〔51〕

▽○はひになり(一〇六・二五) もえはてゝ灰と成なん時にこそ人  
を思ひのやまむこにめ〔52〕

○ひたふるに(一〇六・二五) 一向になり。〔53〕

▽○サハ思ヒツカシ(一〇七・二五) サレハコソ思ヒツルコトヨト  
人く云也。〔54〕

○三位のくらひ(一〇八・二五) みつのくらゐと読也。〔55〕

▽○心世(一一〇・二五) 心操。(墨テ抹消)〔56〕

▽○~~スガササ~~(一一〇・二五) 無人輩。(墨テ抹消)〔57〕

▽○年中行事歌合ノ判詞、宣命ト申八天子ノミコトノリヲ百ノ官ニ  
フレアメノシタニツタヘキカスル也ト云リ。〔58〕

○さまあしき御もてなし(一一〇・二五) 御寵愛のすぐれたるによ  
りて人のにくみをうけ給ふ也。〔59〕

○なくてそとは(一一〇・二五) 引哥。〔60〕

○御かたくの御とのゐ(一一二・二六) 他人の御とのゐはたえて  
なしと也。猶なき跡迄も人のそねみ有と也。〔61〕

○ゆけひの命婦(一一八・二六) 衛門の命婦也。拾遺の詞書にもあ  
り。命婦、総しては禁中にある、内命婦と云。私の妻をも命婦と  
云。それを外命婦といふ也。当時も禁中にさふらふ女房中に内  
侍より次に御下とてさふらふ。其中に命婦女蔵人としてあるなり。

〔62〕

○やみのうつゝには（一一一・二二・二七） 引哥、夢にいくらもまさらさりけりと云たるよりは此面影はかなきとなり。引哥、歌の取やう奇特也。〔63〕

○人ひとりの御かしつき（一一一三・二七） 人ひとりとは更衣を云り。

〔64〕

○草もたかくなり（一一一・二一・二七） ぬしなき宿はさひしかりけりと  
いふ哥の心なり。〔65〕

○やへむくらにも（一一二・二・二七） とふ人もなき宿なれとの哥宜也。

春を月にとりかへて引用也。〔66〕

○けにえたふましく（一一二・四・二七） 母君の身にてはかやうの御と

ふらひにあつかる事ははつかしきと也。〔67〕

○まいりては（一一二・四・二七） 命婦の詞也。〔68〕

○内侍のすけ（一一二・五・二七） 是よりさきに内侍のすけを御使につかはさるゝ事あるへし。〔69〕

○しはしはゆめかと（一一二・七・二八） 是より勅定宣を命婦のつたふる也。〔70〕

○めも見え侍らぬに（一一二・一三・二八） 母君の詞也。〔71〕

○ほとはすこし（一一二・一四・二八） 是より勅書の詞也。〔72〕

○みやきのゝ（一一三・五・二九） 宮中の心也。花。〔73〕

○松のおもはむ（一一三・六・二九） 引哥。人にしられんもはつかしと也。〔74〕

○ゆゝしき（一一三・一三・二九） 爰にてはいまゝしき心也。所々用かへたる詞也。〔75〕

○宮は御とのこもり（一一三・一三・二九） 宮とは源氏也。〔76〕

▽○長恨歌伝ニ玉妃方寝。オホトノゴモリトヨマセタリ。〔77〕

○みたてまつりて（一一三・一三・二九） 命婦の詞也。うちをみまいらせて有さま奏せんとする物をと也。〔78〕

○くれまとふ（一一三・一四・三〇） 母君の詞也。子を思ふ道をいへり。

〔79〕

○としころうれしく（一一四・一・三〇） 更衣在世の時はおもたゝしき事にこそ御消息有しに、唯今思かけさる事の御使とかなしきと也。

〔80〕

○かへりてはつらく（一一四・一〇・三一） 寵の甚しきもかへりてはつらきとなり。是も心のやみと也。〔81〕

○よこさまなる（一一四・九・三一） 横死也。あまりに寵愛甚しき故に人のそねみなどのつもりてうせぬると思ひなざるゝ也。〔82〕

○人のこゝろをまけたる（一一四・一三・三一） 御心ならぬ事もありしと也。〔83〕

○うへもしかなん（一一四・一一・三一） 命婦の詞也。〔84〕

○月はいりかたの空（一一五・四・三二） まへに夕付夜のおかしきほとにいたしたてさせ給と云にかけてみるへし。夜のふけゆきたる景気余情たくひなし。〔85〕

○虫のこゑく（一一五・七・三二） 哀を催也。〔86〕

○すゝ虫の(一五七・32) 命婦の哥也。〔87〕

○えものりやらす(一五七・32) 前に門引いるゝよりとかきてこゝにえものりやらすとかけり。悉皆車の事を車とはいはて余情にてかけり。〔88〕

○いとゝしく(一五九・32) 母君。〔89〕

▽母の<sup>墨</sup>毛上<sup>墨</sup>毛<sup>墨</sup>リ<sup>墨</sup>更衣<sup>墨</sup>ノ歌(墨テ抹消) ○母ノ服ニテ里ニ侍ル比醍醐御門ヨリ無常ノ御文給ケル御返事ニ五月雨ノ哥。〔90〕

○かこともきこえ(一五九・32) かことは、かこつ也。又所によりかはりめある詞也。〔91〕

○御くしあけのてうと(一五十二・32) さしくしなどの類なるへし。〔92〕

○すかくと(一六二・33) はやくと也。速也。〔93〕

▽○おほとのもらせ給(一六三・33) 主上いまた御寝ならさると也。尤哀なるへし。命婦帰参を待たまふ故也。〔94〕

○つほせんさい(一六四・4・33) 此巻の一名ともいへり。〔95〕

○長恨哥の御丞(一六六・33) 花鳥にしるせり。貫之哥事不見云々。然共凡此物語に書事則証拠なるへし。栄花物語伊周公左遷の所にも昔の長恨哥の物語もかやうなる事にやと悲しくおほしめさるゝ事かきりなしと云々。〔96〕

○まくらこと(一六八・33) つねの事也。〔97〕

○いともかしこきは(一六九・33) 母君の文詞。〔98〕

○あらし風(一六十一・34) 更衣のなくなりし云々。〔99〕

○みたりかはしき(一六十二・34) 両儀有リ。第二三句御門の御うへを云に似たり。仍憚へきと云心也。又義、此種のみたり心にかきかきさまなともみたりかはしきとなり。草子地評して云也。〔100〕

○いとかうしも(一六十二・34) 御門の御心也。〔101〕  
・かくても月日は(一六十四・34) かくても経ぬる世にこそありけれの心也。〔102〕

○故大納言のゆいこん(一七一・34) 大納言のこゝろさしを母君のきこえによりて仰さるゝ也。〔103〕

○かくてもをのつからわか宮など(一七三・34) 母君をなくさめ給ふ御詞也。〔104〕

○しるしのかんさしならましかは(一七六・35) 花鳥。〔105〕

○たつね行(一七七・35) 幻術の方士もかなと也。〔106〕

○からめいたるよそひはうるはしう(一七九・35) うるはしうは実めなる也。〔107〕

○なつかしうらうたけなりし(一七十一・35) 貴妃にはたとへも有し也。此更衣はたとへん物なきと也。〔108〕

○弘徽殿には(一七十三・35) 遊なとし給也。かくまでの御なけきにてあるへきとも思給はぬと也。〔109〕

○月もいりぬ(一八三・36) 此詞殊勝の由古来所称也。前に夕月とかき月はいりかたの空とかきて月もいりぬとかかけり。月落長安半夜鐘の句にもおとらすやと云々。〔110〕

○あくるもしらすと（一八七・36） 引哥、長哥をよめる哥也。〔11〕

○猶あさまつりことは（一八八・36） 長恨哥には貴妃か寵により

て也。爰は更衣の事の御なけきにおこたらせ給ふ也。猶の字殊勝也。〔112〕

○大床子（一八九・36） 朝餉は女房の陪膳、大床子のは殿上人の陪膳也。いつれをも御覽しもいれさるさま也。〔113〕

○この御事にふれたる事をは（一八三・37） 御寵愛の甚によりて此更衣の事にふれてはすこしは道理をまけたる事もありしとは、

後涼殿の更衣をよそにうつし給などのたくひなるへし。〔114〕

○人のみかとのためし（一九一・37） 河海玄宗と有。玄宗は祿山か乱の後則位をさりて肅宗につき給しかは、位をもやさり給はんすらの心也。〔115〕

○月日へてわか宮まいり給ひぬ（一九二・37） 源氏君也。〔116〕

○坊さたまり給ふ（一九三・37） 朱雀院の御事也。醍醐御代には東宮文彦太子保明薨ノ後其子慶頼ヨシトカ王立坊又早世。其後朱雀院立坊也。〔117〕

○女御も御心おちる給ぬ（一九六・37） 弘徽殿の御心安堵せし也。〔118〕

○かの御おは北の方（一九六・37） 更衣の母君。源氏の君祖母なり。〔119〕

○このたひはおほしりして（一九九・38） 源氏君更衣にわかれ給時は何のわきまへもなかりしを、此度は思ひしりて愁傷有也。

〔120〕

○女みこたちふた所（二〇二・39） 朱雀院の御一腹也。〔121〕

○宇多の御門の御いましめ（二〇七・39） 河、花、等にみえたり。〔122〕

○鴻臚館（二〇八・39） 河花に見えたり。今のよつ塚といふ所の辺也。〔123〕

○右大弁の子（二〇九・39） うつほ物語にも相人の右大弁の子としてあふ事あり。〔124〕

○国のおやとなりて又其御さうたかうへし（二一〇・39） 此一段花鳥義いかゝ。言ははしめより国のおやとなりてあらはあしかるへし、天下をたすくるかたにてあらはみたれうれふるかたたかひてよかるへし。〔125〕

○弁もいとさえかしこき（二一〇・39） さえはさ文字清へきよし一條禅閣御説と云々。然共さ文字古本濁て声をさす也。可然哉。其故は神樂のざいのをのこともさ文字濁也。〔126〕

○いみしきをくり物（二一三・40） 此進物、梅かえ巻に沙汰。〔127〕

○やまとさう（二一六・44） 和国の相人もかやうに申と也。〔128〕

○無品親王の外サさく（二一七・40） 花。〔129〕

○いよくみちくのさえを（二一〇・41） 天下のたすけなとならせ給は、才学なくてはとて也。〔130〕

○すくよう（二一二・41） 宿曜師。人の運命などをかんかふる者也。〔131〕

○先帝(二二四・41) 系図になし。〔132〕

○三代の宮つかへ(二二六・42) 河海、光孝、宇多、醍醐かと有。

然ともさして三代にてなくとも只久しくといはんため歟。〔133〕

○御かたち人にて(二二七・42) かたちよき人と也。〔134〕

○ゆゝしうと(二二一〇・42) いまぐしき也。〔135〕

○きさきもうせ給ぬ(二二一一・42) 藤壺の母后也。〔136〕

○兵部卿の御子(二二一三・42) 紫上父也。後に式部卿。〔137〕

・これは人のきはまさりて(二二三二・43) 桐壺の更衣は族姓さし

もなきによりて人もそねみしに、是は族姓人からそねみ云へきか

たなしと也。〔138〕

・おほしまきるゝとはなけれど(二三三・43) おもしろきかさ

ま也。〔139〕

○うちおとなび給へる(二三三七・43) 女御たちの中に藤壺はわか

くおはしますと也。〔140〕

○はゝみやす所は(二三三九・43) 源氏の君更衣の面影はおほえ給

はねとも、今内侍のすけのかたり給ふにつけてなつかしく思ひ給

也。〔141〕

○うへもかきりなき(二三三十一・44) 主上の御心には源をも藤壺を

もいつれも大切に思ひ給ふ故也。〔142〕

○こきてんの女御、又この宮とも(二四一・44) 更衣の後は源氏

をは思ゆるし給ひしを、此藤壺と御中へたて給はぬより、たちか

へり源をにくみ給と也。〔143〕

○名たかうおはする(二四三・44) 弘徽殿の宮たちの事をいふ。

〔144〕

○かゝやく日の宮(二四五・44) 花。〔145〕

○おはします殿(二四一〇・45) 清涼殿也。花。〔146〕

○大蔵卿くら人(二四一三・45) 花。〔147〕

○はいしたてまり給さま(二五二・45) 春宮の御元服は南殿にて

堂上にて拜あり。是は堂下にてある故に皆涙をおとすといふ義あ

り。され共只源氏の容儀進退を感じる心可然歟。〔148〕

・さふらひに(二五九・46) 殿上也。〔149〕

○おとゝけしきはみ給(二五一〇・46) 今ひきいれの大員むことり

給へき也。さて我恋し人賞し申さるゝ事也。〔150〕

○いとぎなき(二六一・47) いとけなきといふ本有。それをもい

とぎとよむへし。〔151〕

○御心はへありて(二六一・47) 葵上の事を含たる仰也。〔152〕

○むすひつる(二六三・47) 紫は惣して女を云。又は今は元服な

れはいふ也。哥の心は源氏君の心たにたかはすはと也。〔153〕

○みはしのもとにみこたち(二六五・47) 元服の禄賜也。〔154〕

○おりひつ(二六六・47) おりうつと読也。おりにいれたる也。

〔155〕

○こ物(二六六・47) とんしき(二六七・47) 河海。〔156〕

○ゆゝしうつくしと(二六一〇・48) 此ゆゝしうはゆへくしき

心也。〔157〕

○女君はすこしすくし(二六〇・四八) 葵上は源氏に四の兄也。此年のましたる事故始終葵上は心をかせ給ふと也。(158)

○おほなく(二七四・四九) 念比に也。(159)

○さとのとは(二八二・五〇) 更衣の里也。後に二条院と云也。

[160]

○おもふやうならん人を(二八四・五〇) 一儀大方思ふやうなる人と也。又藤壺の心あり。(161)

○ひかる君と(二八五・五〇) 源氏の名の事をかきあらはせり。西

三条右大臣源光と云は仁明天皇御子、才人也。(162)

○となん(二八六・五〇) 紫式部我かきたる事を人にしらせしとなり。何巻にも此心あり。(163)

### ◎箒木巻

○源氏十六歳。桐壺巻には十二歳の事までしるすと見えたり。但同巻の奥におとなに成給ひてのちはとかき、又さとの殿は修理職たくみつかさに宜旨くたりてになふあらためつくらせ給ふと有。然は十三四五の年の事は桐壺の奥にこもり侍へし。巻名、河海に箒木の心もしらての哥の所委くしるさる。はき木と云名は総して源氏一部の名にかけてみるべき也。一切衆生のあるかとすればなきありさまによくかなへり。桐壺巻は序分までもいりたす。此巻物語の序分也。作者の本意、盛者必衰のことはり、此題号にお

さまれり。凡莊子か胡蝶の夢の詞も此ありなしにおなしかるへし。世間は只箒木にはしまりて夢の浮橋におさまるみるべき也。(1)

○光源氏名のみことくしう(三五一・五三) 河海に名のみこと

くしうと読きるべきよししるせり。可然。但読つてくもくしからさる也。人をそしるよりいへはいかなる名人もいひけたる物也。是世間のありさま也。弘徽殿の方さまよりは云けたれ給ふと也。されとも只公界へかけてみるべきにや。とかは好色也。又何事に付てもなり。(2)

○すきこと共(三五二・五三) すき事とは好色也。花鳥、光源氏と

いふ名をすき事とはいへると云々。此儀は如何。かくろへ事とはしのひたる事なるへし。花鳥、高麗人に相せしめ給し事云々。是も又如何。(3)

○片野の少将には(三五五・五三) 給けんかといふまで物語の作者の惣論也。かた野の少将説々あり。物語の名也。清少納言枕草子にも見えたり。心は、片野の少将は天性好色をうへからたつる人の事也。此源氏の君は「うへはさはなくてしたに好色の心あると也。(4)

○また中将などに(三五五・五三) こより双紙の詞也。今源氏は(括弧内脱落) 当官中将也。給し、此し文字は過去のし文字にては聊心得かたき様なれと当代の事をも如此書事常の事也。(5)

○さふらひようして(三五六・五三) 居よくして也。(6)  
・おほいとのは(三五六・五三) 葵上の御方也。桐壺巻にもうち

すみのみこのましようおほえ給と有。〔7〕

○しのふのみたれやと(三五六・53) 内裏にてはいかなるみたれ心もあらんと葵上かたには思疑へると也。花鳥、藤壺の女御に心かよはし給事と云々。是はさしつめたるやうなるにや。〔8〕

▽○さしもあためきめなれたる(三五七・53) 花鳥、めなれたるは葵上の事也と云々。此義不可然。此段は悉皆源氏の君の本性をあらはし侍也。源氏の心くせにて心つくしにわりなきふしをこのみ給と也。源氏の君一生涯の心はせをあらはす也。〔9〕

○なかつ雨(三五十・54) 花には六月と有。只五月可然。〔10〕

○なかる(三五十・54) 久しく居也。〔11〕

・御むすこの君たち(三五十二・54) ひきいれのおとゝの子息たち也。〔12〕

・御とのゐ所(三五十二・54) 源氏のとのゐ所也。〔13〕

・宮はらの中将(三五十三・54) 後に致仕のおとゝ也。桐壺御門の御いもうと、三宮の御腹也。〔14〕

○右のおとゝの(三五十四・54) 弘徽殿の後の妹也。此おとゝの四君此宮はらの中将にあはせ給也。此君も物うくしてとは、此四君をはさしも思給はてあためき給へは、源氏の葵上には心とゝめ給はぬおなしやう也となり。〔15〕

・おさく(三六三・54) 此詞所によりて用かふる也。〔16〕

○をのつからかしこまりもえをかす(三六四・54) へたてなくむつひ給ふゆへにをのつから礼儀をもわすれてともなひ給ふと也。

かしこまりもえをかすは無礼なる様也と也。是則しなざための物語なとうちとけたる事のはしめにかけるなるへし。〔17〕

○御とのゐ所(三六六・55) 桐壺の事也。〔18〕

○おほとなのふら(三六七・55) 又はおほとなのあふら。いかさまにかいてもよむ時はとのふらとよむなり。〔細流抄』二ハコノ項目ナシ)〔19〕※

○ふみともなと見給(三六七・55) 此文は書籍也。〔20〕

▽○かたはなるへきも(三六九・55) 其中に見くるしきも有へき也。下の心は興有文をはかくし給ふ心也。〔21〕

○色くのかみなる文(三六八・55) 是は艶書也。〔22〕

▽○をしなへたるおほかたのは(三六十・55) 只大かたのは中将などの我身の上にもかきかはしてみ侍ると也。〔23〕

○をのかし(三六十一・55) 我く也。みつからの心さしのまゝに也。〔24〕

▽○八雲抄云、ワレくアル心也ト云々。〔25〕※

○えんすれは(三六十二・55) うらむる也。〔26〕

○おほそう(三六三・56) 大概也。ウチハナチタル也ト云々。※(片仮名書ノ一文『細流抄』ニナシ)〔27〕

・二のまちの心やすき(三六十四・56) 第一にかくし給にてはあるましき也。つきのにてあるへきと也。(『紹巴抄』ノ項目「二の町」ニ「次ノマチノ心也」ト傍書)〔28〕

○そこにこそ(三七四・56) そこは足下也。源氏此中将をさして

の給也。〔29〕

○御覽し所あらんこそ（三七五・56） 中將の詞。〔30〕

○これはしも（三七六・56） 只これはいはんため也。し文字はやすめ字也。〔31〕

○うはへはかりの（三七七・56） 手をかく事也。大かた手なともきたなげなくかきて事たかひたるやうなる人也。〔32〕

○そもまことに（三七八・56） そもはそれも也。撰出していはんにはかたきとなり。〔33〕

○わか心得たる事はかり（三七十・57） 我はと思ひて人をなにもなく云也。女の常のくせ也。〔34〕

○まとのうちなる（三七十一・57） 人のむすめのよそのきこえあるほとなり。〔35〕

○たゝかたかとを（三七十二・57） 哥をもよみ琴をもひき手をもかくなど一ふししいつる事のあるをきゝつたふる也。凡此品定はたれとなく皆世にありとある人のありさまをいへり。されとも少々は此物語の中にある人の性に引あはせて見也。こゝは末摘の琴なと引給と聞て源の心をとり給る也。〔36〕

○をのつからひとつゆへづけて（三七十四・57） 自然一芸はたれもしいつる事ある也。〔37〕

○みる人をくれたるかたを（三七十四・57） 人の媒介するくせにて、種々の其身によきはかりをとりいたして云たつる也。〔38〕

○それしかあらしと（三八二・57） さはあるましきと推察するま

ての事はたれもなき物也。〔39〕

○まことかと見もて行ニ（三八二・57） きくことにかなふやうなることはなき物なれば、とにかくに世間にしかるへき女はなきそとてうちうめきたる也。〔40〕

○いとなへてはあらねと我も（三八四・57） 我もとは源氏也。〔41〕

○いとさはかりならん（三八五・57） 一向なる人の所へはすかされもよるましきと也。〔42〕

○とるかたなくちおしき（三八六・57） 下品と上品とは同じ物なるへし。最下品と最上品とはかすすくなきと也。されは中品に人の心はみゆへしと也。〔43〕

○人の品たかく（三八七・58） 上品の人は自然にかくるゝ事もおほきと也。〔44〕

○しもかしなに成ぬれば（三八十・58） 下品の人の事は人のとりあくる事もなきは耳にたつ事もなき也。まへの詞のとるかたなく口おしきゝはとすぐれたるかすすくなしと云ことはをのへたる也。〔45〕

○そのしなくやいかに（三八十一・58） 源氏の詞也。三品には何とわくへきそととひ給也。〔46〕

○もとのしなたかく（三八十二・58） 上品の人の身もちさけたるを云也。くらみしかくとは選叙令にも位のみしかきと云に卑の字を書たり。位のいやしき也。〔47〕

○またなを人の（三八十三・58） なを人は直人也。種姓不貴人也。

諸大夫などの時をえて次第に昇進して公卿なとまてなりのほる人も。此二の品分別してかたきと問給也。〔48〕

○左の馬のかみ(三九一・58) 此問答の最中に兩人参也。〔49〕

○いとぎくにくき事(三九三・58) 是は物語の作者の詞也。〔50〕

○なりのほれ共(三九三・59) 右馬頭の申也。まへの二の品を評也。当時なりのほる人をは世間からきのふけふまでさしもなき人そとおもひいへとすてに昇進なしあかれは云おとすへきにもあらずと也。〔51〕

○さはいへと(三九四・59) されとも思ところはある也。惟光が女藤内侍のすけなとにあたり。〔52〕

○またもとはやむことなき(三九四・59) 是は種姓よき人のおとろへ給をいふ也。末摘なとにあたる也。まへには琴など引給しわさを云とて末摘を云也。こゝは其身の有さまに比する也。両段は中の品なるへし。〔53〕

○すりやうといひて(三九七・59) 軒はの荻の類也。まへのなを人と云類なるへし。国の守は一任四か年つゝにてかはるを人の事にてとは云也。吏務を司る人なるへし。参儀の兼国と云、権守也。

〔54〕

・けしうは(三九八・59) けの字清也。〔55〕

・えり出へきころをひ(三九九・59) 当時受領の女しかるへき時分なるへし。〔56〕

○なまくのかんたちめ(三九九・59) なまくとはなまなりな

る也。公卿なとになりたる人也。中納言参議ほとらひの人也。〔57〕

○非参議(三九九・59) 参議にもあらず三位四位たる人也。〔58〕

○もとのねさし(三九一〇・59) 明石入道にかなへり。〔59〕

○いとかはらか(三九一〇・59) さはやかなる也。〔60〕

○家のうちに(三九一一・59) はぶかすとは何事も省略せず也。〔61〕

○まはゆきまで(三九一二・59) 明石上の類なるへし。〔62〕

○宮つかへに(三九一三・59) 桐壺の更衣にあたり。〔63〕

○すへてにきはしき(三九一四・60) 源の語也。所詮は富るによるへしと也。家の内にたらぬ事となかめるといふにあたりての詞也。〔64〕

○こと人のいはん(四〇一・60) 中将の詞。源は好色の身にしてかくの給は似あはさる也。〔65〕

○もとのしな(四〇一・60) 馬頭詞。此段女三の宮によくあたれり。朱雀院鍾愛の皇女にてましませとも、御手なともうるはしからす心もをくれたる所まします也。〔66〕

○うちあひてすくれ(四〇三・60) やむことなき人のおほえもあり心もちるもしわさもうちあひしかるへき人也。是はもとよりの事也。薄雲女院にあたり。〔67〕

▽○心もおとろくまし(四〇五・60) 是はもとよりかくこそあるき事なれば心もおとろくましきと也。〔68〕

○なにらへ(左二「カシ」と傍書)をよふへき(四〇五・60) なにかしは右馬頭自身をさしていふ。然共身にとりて上品をは申か

たきと也。〔69〕

・さて世にありと人に（四〇六・60） 夕兒の上あたる也。〔70〕

○ちゝのとしおひ（四〇九・60） 此段は種姓させる人ならぬ人の中にも可然人あるへきの心也。〔71〕

○かたかとも（四〇一〇・61） かやうの中にもとり所あるへき儀也。大かたをしなをしにすてかたきはいかゝとなり。藤式部かいもうとの類也。〔72〕

○いてやかみのしな（四〇一四・61） 源氏の心の中也。葵上は父は左大臣、母は御門の御いもうなれはこそ上の品とも云へき人たにも、源の御心に思所有やう也。君とは源氏也。〔73〕

○しろき御そ（四〇一五・61） 源のありさまをいふ。〔74〕

○なをしはかりを（四〇一六・61） 夜陰なれば知音の中にてはさしぬきを略して直衣はかりを引かくる事勿論なるよし一条禅閣の説也。然とも直衣には必下にきぬをかさぬるもの也。こゝにはきぬをかさぬるをなをしはかりとは云也。さしぬきを略する説はあまりなる歟。〔75〕

○そひふし（四〇一七・61） 添臥。花説可然。〔76〕

○女にてみたてまつらほし（四〇一八・61） 女に我なりて見たてまつりたきと也。又説源を女になして見たきと也。此詞末の巻にもあり。〔77〕

○このためには（四〇一九・61） 源のためには上か上をえらひあらまほしきと也。〔78〕

○大かたの世に（四〇二〇・61） 右馬頭詞也。我物と撰定へきはかたしと也。〔79〕

・おとこの大やけ（四〇二一・61） 此段簡要也。此人こそ世のかためともなるへきとてとりいたすへき人はかたき事也。〔80〕

・されとかしこしとても（四〇二二・62） されとも天下万機の政は官々職々有てつかさとる物也。かしこしとて一人してする事はなき也。されは上は下にたすけられ下は上になひきて大事とは云なから何ともなりて行事也。〔81〕

・せはき家（四〇二三・62） 家中は人ひとりのはからひにてゆつるかたなければ大事なると也。此あるしはうしろみすへき女あるしの事也。うしろみなくて家中はおさまりかたき也。〔82〕

▽○ソヘニトテトハサアリト思テトスレハ又カ、リト也。世中ノサマ也。祇注云、ソヘニトテトハ我コ、ロニ物ヲリヤウゲシタル心也。サヤウニシテヨカラント思ヘハチカヒサラハ又カヤウニセントスレハ又タカフコトアル義也。〔83〕※

○とあれはかゝりあふさきさ（四〇二四・62） 花鳥、そへには本のことつけそへたる荷を云。世俗におも荷にこつけといふ事也。人のあつらへ物なとあつかりてあなたこなたへとするは、をのかわつらひになる心也と云々。如何。顕昭云、あふさとはあふさまなり。きるさとはきさま也。とさまかくさまといふ心也。とするもかくするもあしといひしらぬわさかなとよめり云々。京極黄門同之也。とせんとするもかくせんとする。あちこちへ物のちかひ

たる也。そへにとてとは只詞也。さありと思てすれば又かゝりと也。世間のありさま也。荷にはあらず。後撰に、けふそへにくれさらめやはと思へともたへぬは人のこゝろ也けりも此詞に同歟。

〔84〕

・ソヘニハサラハト云コ、口と云々。後撰ノモサラハナリ。又サニモト云コ、ロモアルヘシ。〔85〕※

○なのめに(四一・12・62) 大かたは子細なき人也。なのめは十分せぬ詞也。大かたなといふ心也。〔86〕

○かならずしもわかおもひにかなはねと(四二・2・62) 少々心にかなはぬ女をもすてかたく思男の事也。此詞男女のうへのみならず君臣朋友のましはりに勝殊の詞也。〔87〕

・されとなにか世のありさま(四二・4・62) 河海、なにかはなにかしかと云心と云々。但されとも読きりて何かと詞にいへる事と見えたり。〔88〕

○君たちのかみなき(四二・5・63) 源氏や中將を云也。しかるへき女の世になきをいへり。〔89〕

○所せく思ひ給へぬたに(河内本四二・6・63) 花鳥、所せくはひろき心也。思ひ給へぬはせはき心也。馬頭か世間せはきみにたにかやうに思と也云々。聊相違せるにや。所せきとはせはき心也。上臈はよろつに身をかるくしくし給はぬによりて、其身はせはき心也。馬頭なといやしき身は所せはき事なくてみありき侍るたに、思ふにかなふ女はなしと也。所せく思ひ給へぬにたと云に

て句をきり、心を上へかけて見共、下へはつゝかぬ詞也。〔90〕

○かたちきたなけなく(四二・6・63) 女の一種あるさま也。〔91〕

○ちりもつかしと(四二・6・63) 身をたて、潔白なると也。〔身ノ字ノ左ニ「カカ身カ本ウタカハシ」ト傍書〕〔92〕

○文をかけとおほとか(四二・7・63) 六條院御息所にあたり。おほとか大やう也。〔93〕

○ことえり(四七・7・63) 詞をえらひつくるふ也。〔94〕

○又さやかにも見てしかなと(四二・8・63) 又とは文かきなどほのかなるといふに對していへり。心は文などはかりにてはおほつかなさに行てあはむとすれば、すへなくまたせてはやく出てもあはて幽にあひしらひてものおもはする躰也。又文のほのかなれば又さやかなるをも見はやと待心にや。花鳥、墨つきほのかに書たる文を読とかむとすれば隙をついやすなれはすへなくと云、またせてとは程をふる心也と云々。〔95〕

○スヘナク(四二・8・63) 無便也。無為トモ。〔96〕※  
・わつかなるこゑきくはかり(四二・8・63) 是よりは木枯の女にあたり。〔97〕

・とりなせはあためく(四二・10・63) とりよりて心みればあたくしくみゆる人あり。〔98〕

・はしめのなんとす(四二・11・63) 第一の難とする也。〔99〕

○ことかなかに(四二・11・63) ことなるか中也。とり分てなといふ也。この段はすゝむをしりそけ退をすゝむる也。〔100〕

○なのめなるましき(四二・11・63) なをさりならぬ人と也。可然女の事をいへり。又は男のうしろみをなをさりにすましきをも云。

[101]

○をかしきにすゝめる(四二・12・63) 物の哀をしりなさけにすゝむる、あしきにてはなけれども実なる所なきはかなければ云也。

[102]

・実々シキハカリナルモ又オソロシキ心也。(103) ※

○又まめくしきすちを(四二・13・63) 是はあまりに実なるうしろみのかたはかりをたてゝ我身をはやさしくもまたさるを云。

[104]

○みゝはさみかちに(四二・14・63) 鬢の髪を耳にはさむ也。とりつくるはずあるにまかせてわか身をもつ也。家とうしはさためる妻也。此女は馬頭ゆひくひし女の類也。(105)

○ひさうなき(四二・14・63) ひさうは貧相也。なきにてはあるましきなり。貧相なる也。なきは添字也。此類ノ詞に多シ歟。(106)

○朝夕のいていり(四三・1・63) 男の出入也。世間のうきをも、又は外より帰ても何事なとゞ我妻にこそ語りあはせんとするにも、うちとけて其いらへなともしかくとせざるを云也。(107)

・おほやけはらたゝしき(四三・4・64) 主人なともちたる人の其身にうらみ有、又傍輩朋友なにくちおしき事の有時、心ある妻などにはかたりもすへきをと也。(108)

・思いてわらひ(四三・6・64) 口惜なと思ふ事ある時也。(109)

・さしあふき(四三・7・64) 扇などをさしかさしてゐたる也。(110)

・たゝひたふるにこめき(四三・7・64) 紫上の類。こめき、花におさなかまし心と云々。如何。巨の字可然乎。おほとかなる心也。

[111]

・けにさしむかひて見るほとは(四三・9・64) さしむかひてあるほとはそのけちめもみえさるも、立はなれて男のために何事をもをしはかりさたするかたのなきはあしかるへきと也。(112)

・おりふしにしいてんわさの(四三・10・65) 人に物を云つけてきたさするにも、我たらひたる事にてなければ毎事不便なる事おほき物也。(113)

・つねはすこしそはく(四三・12・65) 花散里の類也。平生は其かたちなどのよくもなきによりてうちもむかはぬやうなれとも、おりふしにつけていてはへする心たてのしかるへきを云也。(114)

・いまはたゝしなにもよらし(四三・14・65) 此詞一部の肝心の由花鳥にしるせり。(115)

・ねちけ(四四・1・65) 倭人也。(116)

・物まめやかにしつかに(四四・2・65) 葵上紫上を人の事にてし皆云也。(117)

・ゆへよし(四四・3・65) ゆへくしくよしある也。(118)

・うしろやすくのとけきに(四四・5・65) 葵上にあたり。(119)

・えんに物はちして(四四・6・65) 是は伊勢物語の、いてゝいなは心かろしといひやせんの哥よみし女の類也。(120)

- ・うらみいふへきをも (四四六・65) 匿怨友其人と云かことし。〔121〕
- ・うへはつれなくみさほつくりて (四四七・66) 夕兒のうへの類也。〔122〕
- ・わらはに侍し時 (四四九・66) 馬頭幼少の時昔物語にさまかへたる女の事なとかきたる草子を見て哀なる事と思ひしを、今思へは結句かろくしき事なりと也。〔123〕
- ・心ふかしやなど (四四四・66) 古今に、我を君なにはのうらにとよみし女の類也。〔124〕
- ・コトサラヒ (四四一・66) 異風躰也。〔125〕※
- ・君か<sup>の</sup>心は (四五四・67) 君とは男をいふ也。いまた男のかたからは忘れもはてぬと也。〔126〕
- ・にこりにしめる (四五七・67) 引哥、詞はかりをとる也。心はうき世にある程は蓮淤泥にありて濁にしまぬを、はや世を一たひはなれて又うちかへる心あるは更に濁にけかるゝと也。〔127〕
- ・あまにもなさて (四五九・67) 是は尼にいまたなさてとりかへす也。是もたゝおなし物也。〔128〕
- ・われも人もうしろめたく (四五二・67) 伊勢物語に、わするらんと思ふ心のうたかひにとよみし類也。〔129〕
- ・またなのめにうつろふ (四五二・67) なをさりにうつろふ。さやうならん男をは女も思ひとるへし。〔130〕
- ・心はうつろふかたありとも (四五三・67) 男のうつろふ方あり
- とも見そめし契りを思ひて堪忍すへき也。〔131〕
- ・さやうならんたちるき (四五四・67) 堪忍せぬ人はかやうの時中も絶ぬへきと也。〔132〕
- ・なたらかにゑんすへき (四六一・67) ゑんすへきをもゑんし、うらむへきをも一向うらみぬもわるき物也。紫上の類也。(コノ項目、見出ト注ヲ離シテ記ス) 〔133〕
- ・ともかくもたかふへき (四六八・68) こゝにて総を決していふ也。〔134〕
- ・我いもうと (四六〇・68) 此事葵上の様躰によく似たると思ふたれとも。〔135〕
- ・君うちねふり (四六一・68) 源もかく思給ゆへ也。〔136〕
- ・物さためのはかせ (四六二・69) 朱晦庵、博士とは学官名掌通古今と任せり。古今ひろく通する心也。〔137〕
- ・よるつの事によそへて (四六三・69) 馬頭の詞也。まへくは人の心くをさしむきて云もてきて、これより譬をもちて云也。木の道絵所手跡の三を云也。万の道を中将にいらせたまつらんため也。政道にも又かやうの道までもしらはかなふましきよし也。〔138〕
- ・そはつきさはみ (四七一・69) されは左道の心にて、左礼也。此譬人にとらは人にたはふれ事をこのむ人也。それをも愛するかたにとる也。〔139〕
- ・大事として (四七一・69) 人の本台になるへき人はされはみた

りなとしたる人はかなふましき也。世にありかたきもの也。〔140〕

・又絵所に（四七四・69） 是より絵をいへり。着色はまきるゝ事

ある也。墨絵いたりて大事也。〔141〕

・つきく（四七五・69） 上手のにならてみる也。〔142〕

・ほうらいの山（四七六・69） 真実をみさる物はさもあるへきと

思也。河海、韓非子を引。後漢書張衡伝ニモ、画工悪凶犬馬而好

作鬼魅、誠以実事難シテ形而虚偽不ルヲ窮也云々。同也。〔143〕

・山のけしき（四七十一・70） 濃淡に山のかさなりたる様に書也。

花、金岡山を十五重たゝむと有。〔144〕

・けちかきまかき（四七十一・70） 前栽をいふ也。〔145〕

・心しらひ（四七十二・70） 心つかひ也。是は人の本台たるへき人

のさま也。〔146〕

・手をかきたる（四七十三・70） 是は手を云。〔147〕

・まことのすちをまめやかに（四八一・70） 唐穆宗問筆法、柳公

権曰正則筆正云々、乃可法矣といへり。〔148〕

・とりならへて見れば（四八二・70） 哥道も如此也。かとかくし

き様なるはきとめにたてと、とりならへて見るにみるに見さめの

する也。大貳高遠か関の岩かとふみならしとよめるは貫之か関の

清水にかけ見えてにはまされりと思しか、後に及はさるといひし

かことく也。〔149〕

・はかなき事たに（四八二・70） かやうの小技芸たにもあり、何

事も実になくてはとて、馬頭申也。源氏君頭中将いづれも世をま

つりこつへき人たるへきゆへに世上の有さまをよくしらせ奉らん  
ため也。〔150〕

・そのはしめの事（四八四・70） まへにさまくいひしもいまた

事たらぬとて、我身にむかしありし事共を引いてゝかたり申也。

〔151〕

・のりの師の（四八六・71） まことに説法の砌にて法を聞こく

也。花鳥、三周説法の事尤おもしろく、惣して此品さためは口に

て云までにては無曲也。久しくへたる人などはさまくに思あは

する事有へし。悉皆世のありさま人くのうへにあるありさま也。

此物語をみるには源氏の時代になりかへりてみるへき也。今の世

にあはせて見れば毎事虚誕のやうに覚ゆる也。定家卿恋の哥よま

むとてには凡骨をすてゝ業平のおきもせすねもせて夜をあかして

はとよみし時の心にかへりてよめと申されしことく、此時代に心

ををきてみるへきと也。〔152〕

・はやうまた下らう（四八八・71） 古今詞書、はやくすみける所

にて郭公の鳴けるをとあるは、もとすみこし所と云、其こゝろに

かなへり。〔153〕

・きこえさせつるやうに（四八八・71） まへにひさうなき家とう

しと云し事也。〔154〕

・まほにも侍らざりし（四八九・71） 河海、まほはうるはしく也。

まほにあらすとはうるはしからぬと也。真帆也。ほと読也。只ま

おともよむ也。千載哥に、そなれ木の見なれくゝてむす昔のまお

ならずともあひ見てしかな。是はまあをのかたへも読なり。又、

こぬ人をまつほの浦の夕なきに、これもまつおと読也。〔155〕

・わかきほとんすき心ち（四八九・七） 真実の本台（左二「妻か」

ト傍書）とは思はさりし也。されともよるへとは思し也。〔156〕

・おいらか（四八11・71） なたらかなり。〔157〕

・かすならぬ（四八13・71） いまた官もあさくて年もわかき我身をは何とてこれ程まではたのみてかくゆるしなくはするそと也。

〔158〕

・しねむに心おさめらるゝ（四八14・71） まことは自然に心もお

さまると也。〔159〕

▽アリヤウナルヘシ云々、ネタムオリく二好色心ヲモ馬オサメタル也。〔160〕※

・此女のあるやう（四八14・72） 是より本性をいふ也。此人のためとは、馬頭のため女の何とかなと思也。〔161〕

・すゝめる（四九4・72） すくめると云本あり（右二「スクメル八河内本」ト傍書）。すゝみ過たる也。又はきこつなき也。女の事也。〔162〕

・とかくになひきて（四九4・72） 花、男の事と云々。いかゝ。只女の事と也。〔163〕

・人にみえは（四九5・72） これこそ馬頭の本台（左二「妻か」ト傍書）といはれて他人にもなをさりには見えしとつくるひてある也。〔164〕

・にくきかた（四九7・72） 嫉妬のかた也。〔165〕

・あなかちにしたかひ（四九8・72） 馬頭か心にはよくしたかひたる人也ければ、おとしてみん我をはみはなつましき本性也と思ふ也。〔166〕

・かくおそましくは（四九12・73） 馬頭の詞也。をそき也。おそろしき也。〔167〕

・かきりとおもはゝ（四九13・73） 我にわかれんと思はゝ此程のことく嫉妬をもせよ、此まゝにもそひはつへきと思はゝ此心をやめられよと也。〔168〕

・人なみくにも（五〇1・73） 昇進をもせはと也。〔169〕

・いひそし（五〇3・73） いひそしとはつよくいひすす也。〔170〕

・よろつに見たてなく（五〇3・73） 女の詞也。人なみくにもなりといひし詞をうけて云也。更に人なみくになり給を待にてはなき也。いつれかしつほうにあるへきとまでともきはあるまし

ならはわかるへき也。〔171〕

・あひなたのみ（五〇6・73） かひなきたのみと也。あちきなき心也。〔172〕

・かたみにそむきぬへき（五〇6・73） とにかくにわかるへききさみかと也。〔173〕

・はらたゝしく（五〇7・73） 前はそらはらをたてゝしかこゝにては実に腹立する也。〔174〕

・をよひひとつ（五〇8・73） 小指也。かくかたわにさへなれば

よろつかひなしと也。〔175〕

・手をおりて(五〇13・74) 作物語なれば上句をそのまゝ置也。

〔176〕

・これひとつやは(五〇13・74) 今これひとつにてもなきと也。

〔177〕

・えうらみし(五〇13・74) 女もえうらみしと也。〔178〕

・うきふしを(五一1・74) こやとはこれや也。〔179〕

・まことにはかはるへき(五一2・74) 馬頭の心也。〔180〕

・りんしのまつり(五一3・74) 賀茂臨時の祭也。〔181〕

・いみしうみそれふる(五一4・74) 艶に余情あるさま也。〔182〕

・まかりあかるゝ(五一4・74) 別也。〔183〕

・家ちと思はむ(五一5・74) 馬頭の心也。家ちとは室家をいふ

也。〔184〕

・内わたり(五一5・74) 内裏也。〔185〕

・けしきはめるあたり(五一5・75) 我思物のあるあたりへと思

へと、それも夜もふけ侍るよし也。是は木からしの女なるへし。

〔186〕

・いかゝおもへる(五一6・75) 指くひたる女の事也。〔187〕

・つめくはるれと(五一7・75) はちたる躰也。〔188〕

・火ほのかに(五一8・75) 面白躰也。〔189〕

・なへてきぬとも(五一8・75) 綿なといりたるきぬ也。〔190〕

・おほひなるこ(五一9・75) ふせこなるへし。〔191〕

・ひきあくへきものゝかたひら(五一9・75) 木丁也。〔192〕

・こよひはかりや(五一10・75) 馬頭を待さま也。〔193〕

・されはよと(五一10・75) されはこそ我を思はずてぬよと也。

〔194〕

・さうしみは(五一10・75) あるし也。〔195〕

・おやの家に(五一10・75) 留守の女房の云也。折しも今夜おや

家に出ぬるよしをいふ也。花鳥、おやの家にありてこよひこれへ

わたり給、たれを待也と云々。不審。〔196〕

・ひたやこもり(五一12・75) 無意趣也。このやうたい何とも心

得かたきと也。哥などをよみをかすいかにともいひをかさるをい

ふ也。〔197〕

・我をうとみねと(五一13・75) 此程さかなくゆるしなかりしは、

我に思ひうとませてよそへ行へきと思けるにこそとまでとあらぬ

ふしをさへ思と也。〔198〕

・さしもみ給へさりし(五一14・75) 年月はさやうの心とはおほ

ろけにもみさりし事なれ共とおもふ也。〔199〕

・われみすてらむ(五一22・75) 女のみてん後までを思ふ也。〔200〕

・きるへき物(五一21・75) 二心あるかと疑たれば、馬頭か衣裳

などをしかるへきやうにとゝのへ置也。〔201〕

・そむきもせず(五一23・76) あり所をかくしもせずかはらす返

事する也。とをさかりて尋まとはさせんともせぬ也。そむきもせ

すとは、河海にしるせるを花鳥破之。只男の尋きたるにうちそむ

かすあへしらふと云々。可然。又河海の説猶すてかたきかと云々。

〔202〕

・かゝやかし(五二四・76) はちかゝやくなと云はたゝはちたる也。馬頭にはちすの心也。〔203〕

・たゝ有しなから(五二五・76) 女の詞也。馬頭のこゝろをたにもあらためは帰へきと云也。〔204〕

・さりともえおもはなれし(五二六・76) かくはいへとも猶こらさんとてあらたむへしともいはさる也。〔205〕

・つなひきて(五二七・76) 女のこらさむとて馬頭のわさとのけひきてよりつかぬ義也。引よせはたゝにはよらて春駒の哥にかけり。〔206〕

・たはふれにくゝ(五二八・76) 引哥、女をこらさむとせしはたはふれたるこゝろ也。〔207〕

・たつた姫といはむ(五二九・76) 物を染なとする色あひなとも上手也。〔208〕

・たなはたの(五二九・76) 物をぬふ事也。〔209〕

・うるさく(五二九・76) うるはしきなり。〔210〕

〔211〕

・あへましは(五二九・76) あやかるへしと也。たちぬふわさはあへすそありけるの哥にてかけり。〔212〕

・立田姫の錦には又しく物あらし(五二九・76) しく物あらしとは、馬頭か妻の物の色あひなとよくさせける事のたくひもあらし

とはほめたる也。花には手きゝたる女なりとも立田姫にはさりとも及ましきと云々。いかゝとおほえたり。〔213〕

・はかなき花紅葉(五二九・76) 春の花秋の紅葉は造化のしはささへ年によりて花も色なくさき紅葉も色あひあしければ露のはへなき物を、まして人のさたしいつる事などは色あひ肝要也とて一段と此女の大切なるよしを中将の云て馬頭に哀をそへ給也。花鳥、

おりふしの色あひはかくしからぬもてなしとは、物ゑんしのかたのうるさきを云也と云々。如何。〔214〕

○さて又おなしころ(五二九・76) 又物語を一云いたす也。木枯の女の事也。〔215〕

○うちよみ(五二九・76) 哥をよむ也。〔216〕

○こともなく(五二九・76) 無事はほめたる詞也。万事にわたるへし。〔217〕

○このなかも(五二九・76) 指くひたる女を本妻にて也。〔218〕

○えんにこのましき(五二九・76) あたくしきかたの心たのもしからぬと也。人の心のをしへにいへり。〔219〕

○うちたのむへくは(五二九・76) 色くしき故に心をとめさる也。〔220〕

○うへ人(五二九・76) 殿上人也。誰ともなし。此人木枯の女にかよへる人なるへし。〔221〕

○大納言の家(五三10・78) 此大納言誰ともなし。河海、右馬頭の父と云々。さもあるにや。いかさま馬頭に縁ある人なるへし。

(222)

○こよひ人まつらむ(五三11・78) 伊勢か、雲井にてあひかたらはぬ月たにも心の心也。此上人木からしの女に心有て云詞也。(223)

▽○雲井ニテアヒカタラハ又月タニモワカ宿スヘキ行方ハナシ(224)

※

○池の水かけ(五三12・78) おもしろき詞也。(225)

○すのこたつ(五三14・78) すのこのやうなると也。(226)

○ふところなりける笛(五四2・78) 殿上人也。(227)

○かけもよしなと(五四3・78) 此あすか井をうたふ心かやかやとりはすへしの心をとる也。(228)

○つゝしりうたふ(五四3・78) 式々にうたふはあらてつゝりうたふ也。そろ<sup>そ</sup>うた也。花鳥、文選大人賦云々。噦<sup>ソソ</sup>噦<sup>ソソ</sup>コト也(左ニ「只ツ、リシナルヘシ」ト傍書) 大人賦は漢書司馬相如か伝にあり。文選とあるは誤也。(229)

○よくなるわこむを(五四4・78) 内にて女のしらへたる也。(230)

▽○ケシウハアラス(五四4・78) コ、ハ大カタニハアラストノ心也。(231) ※

○律のしらへ(五四4・78) 飛鳥井も律の哥也。律は秋也。又律は陰なれば女のかた也。時節神無月なればおりにあへるなるへし。

(232)

○いまめきたる物の(五四5・79) 和琴をいふ也。(233)

○庭のもみち(五四7・79) 秋はきぬ紅葉は宿にの哥にてかけり。

ねたますと云詞は心得かたき歟。ふみわけたる跡のあらんこそたれかかよひつらんとねたむ理なるへけれ、されとも是は此女の所へ別の人がよふときゝていへる也。かよふ人はありとも、かやうの紅葉<sup>ナト</sup>なども我こそ尋まいりてみはやし侍れと也。此心にてねたますの心きこえたり。(234)

○ことのねも月も(五四9・79) 月を菊とかきたる本あり。いつ

れも面白。えならぬとはたゝならぬと也。つれなき人とはさためて待人あるへしと也。されと我ならて誰か紅葉をふみわけてきつると也。(235)

○わろかめり(五四9・79) かく女と哥よみかはすは人めわろきと也。又儀は哥のわろき也。此義可用にや。(236)

○きゝはやすへき(五四10・79) 馬頭をいふ也。(237)

○木からしに(五四12・79) 前の哥は別に待人あるへしとよめるを、こゝにはつれなき人をは此うへにしなして、我身かすならては引とゝむへきことのはもなきと也。(238)

○にくゝなるをも(五四13・79) 女のかくいひかはすを馬頭の聞にくゝ思ふ也。(239)

○かとなきにはあらねと(五四14・79) 一かとなきにてはなけれとも。(240)

▽○たゝ時くうちかたらふ(五五1・79) 時くのかたらひ人

にてはかやうにても子細なきと也。大かたの物と実<sup>まこと</sup>に用へきとの差別也。前より皆此心也。(コノ項目前項ニ続ケテ記ス。但シ朱圈点・合点アリ)〔241〕

○このふたつの事を(五五4・80) わかき時さへ口惜思ひしに、まして今は心もとまらずと也。〔242〕

○御心のまゝに(五五6・80) 頭中将などの御心のまゝならば「かくあたなる事をこそおもしろくおほしめさめと也。秋の露玉篠のあられ引哥にをよふへからず。たゝ」あたなる心なるへし。(括弧内脱落ナルベシ)〔243〕

○あへかなる(五五8・80) ひわつ<sup>ツ</sup>によはき心也。〔244〕

○いま七とせあまり(五五8・80) 馬頭源氏よりも七歳はかり兄と云儀歟。只七は大かすをあけて今ちと年もかさなりて思ひしり給ふへきよし也。〔245〕

○いつかたにつけても(五五12・80) 源氏の御心也。おはさうすはおはしますと也。〔246〕

○しれものゝ物かたり(五五13・81) 花鳥、しれ物はされものと云々。いかゝ。萬葉浦嶋長哥に、世中のしれたる人といふに癡の字を書<sup>か</sup>たり。こゝは夕兒の上の事也。彼性をろかにて癡なるかたある人也。癡の字尤可然。又左伝十三成十八年伝無患ニシテ不弁ニ菽麦一故不可立。注云、不患ハ世ノ所謂白癡。〔247〕

○さても見へかりし(五五14・81) なにとなくはしめてあふ人人の心につく也。此まゝも見たく思ふ也。〔248〕

○なからふへき(五五14・81) 行末とをくとまては思はさりし。〔249〕

○うちののめる(五六2・81) 女もなれ行まゝにうちののむと也。〔250〕

○たのむにつけては(五六2・81) たのむにつけてはうらむへき事をもうらみてこそあれ匿怨ところある也。〔251〕

○あさゆふにもてつけ(五六5・81) 此夕兒上はとたえあるをもうらむるやうにもなかりしを、それさへ結句心くるしき也。〔252〕

○おやもなく(五六6・81) おやは三位中将なる人也。夕兒の巻に見えたり。〔253〕

○さらは此人こそは(五六6・81) おやもなき故に此中将をたのみ所におもはるゝ也。〔254〕

○此見給ふる(五六8・81) 頭中将北方二條大臣の四君かたよりおとしかけたる事のある也。〔255〕

○むけにおもひしほれ(五六10・82) 夕兒の上也。かやうの事も露ほとも中将には申されさりし也。〔256〕

○おさなきもの(五六11・82) 玉かつら也。〔257〕

○さてその文(五六12・82) 源氏のとひ給也。〔258〕

○いさやことなる(五六13・82) 優なる詞也。はゝかりての給さる也。ことはなにて人のほと人の心も見ゆへき故也。さて答給ふに心つかひおもしろき也。〔259〕

○山かつの(五六14・82) 哀なる哥也。あるともとはあるゝとも

也。我身こそ山かつのことくあれたりとも、卑下の心也。下句は玉かつらの事にかけてたり。哀はかけよと中将をかこつなり。なてしこはそなたの御子なれはとひ給へと也。〔260〕

○れいのうらみもなき(五七1・82) 夕兒の心くせ也。〔261〕

▽○あれたる家の(五七2・82) あはれふかきさま也。〔262〕

▽○むかし物語(五七2・82) 当時此家の躰をみていふ也。古物語にをよふへからさる也。〔263〕

○さきまじる(五七4・82) さきまじる花とは秋の庭のさま也。

其中に常夏は今女のたとへて云也。夕兒上をなくさむる也。しく物そなきとはほむる心也。又床の縁もあるへし。秋の七種の中にとこなつは其一ツ也。〔264〕

○ちりをたに(五七5・83) 子よりもさき母の心をとる也。夕兒上をこそ思へと也。〔265〕

○うちはらふ(五七6・83) 夕兒上の哥也。嵐吹そふとは、下心は二条大臣方はけしき事のきこえくると也。おもては只中将をうらみて読也。〔266〕

○はかなげに(五七6・83) 悉皆はかなげなる性也。〔267〕

○あはれと思ひし(五七11・83) 我身のとたえをくをもうらむるけしきもあらはかくはあるましきと也。〔268〕

○なてしこ(五七13・83) 玉かつら。〔269〕

○つれなくてつらしと(五八1・83) 色にはみせずして此女のつらしと思をは我はしらすして哀と思ひしは益なきかた思ひ也。

〔270〕

○いまやうく(五八2・84) 我はやうくわすれんと思ふ時分には思ひ出事もあるへきと也。〔271〕

○されはかのさかな物(五八4・84) これより又馬頭詞也。さかな物は指くひし女也。花鳥には中将の詞云々。〔272〕

○琴の音の(五八6・84) 木枯の女也。〔273〕

○この心もとなき(五八6・84) 夕兒上也。〔274〕

○なんすへきくさはひ(五八9・84) 思ひのまゝなる人はなきと也。〔275〕

○ほうけつき(五八10・84) 仏法くさき也。〔276〕

○くすしからん(五八10・84) くすみたる也。是より以下みな狂言に書也。〔277〕

○式部か所にそ(五八11・85) 藤式部也。〔278〕

○しもかしも(五八12・85) 式部か詞也。〔279〕

○かの馬頭の申給へる(五八14・85) まへに朝夕のいていりに付てもおほやけわたくしの人のたゝすまひよきあしき事のめにも耳にもとまる有さまをうとき人にわさとうちまねはんやなといひしやうにとなり。〔280〕

○さえのきは(五九2・85) 才のかきり也。花、才の伎と云々。如何。〔281〕

○なま／＼のはかせ(五九2・85) 才覚のある女也。〔282〕  
・我ふたつの道(五九5・85) 文集秦中吟、花鳥に見えたり。儒

者なるによりてかくいへり。〔283〕

○こしおれふみ(五九11・86) こしおれ哥なとかことし。折腰躰  
まてはゆかぬ事也。〔284〕

○はかなし口おし(五九14・86) 藤式部か詞也。女を或ははかな  
し、或はくちおしなと思へと、宿世にまかせてあれば、男はしさ  
いもなき物と也。すぐ世のひくかた侍ぬれはと誂切て、をのこし  
もといふよりおこして見る也。大かた男子はやすき物也と也。花  
鳥義は上へつけてひとつにみる也。おのこのためしさいなきと云  
々。いかゝ。〔285〕

○こゝろはえなから(六〇3・86) すかしてかたらせんとし給と  
心えなから也。〔286〕

○ふすふるにや(六〇5・87) 久しくまからさる故かと思也。〔287〕

○又よきふし(六〇6・87) 式部か心にはれも子細なきと思ふ也。  
〔288〕

○ふひやう(六〇8・87) 腹痛也。〔289〕

○こくねちのさうやく(六〇8・87) 土用のひるなと云て薬に用  
る事の有也。〔290〕

○いらへに何とか(六〇10・87) 何と返事をいふへきよしもなけ  
れは也。〔291〕

○この香(六〇11・87) 女の詞也。〔292〕

○きゝすくさんも(六〇12・87) 式部也。〔293〕

○さゝかへの(六一1・88) この香うせむ時といふとかめてい

へる也。我来へきよひとまたすして此香うせて後にとあるは、  
もしあらぬかこつけこともやあるといひかくる也。蒜を昼によせ  
たり。〔294〕

○あふ事の(六一3・88) 不断たちそふ中にてあらはひるまをま  
てともいはずあふへきを、たまさかなる故にかやうなると也。面  
白哥也。まはゆきははつかしき也。〔295〕

○いつこの女(六一5・88) さやうなる女はよもあらしと也。〔296〕

○おいらかに(六一5・88) まことに也。花鳥、まめやかにと云  
々。同心也。真成とかく。まめやかもまことのことゝろ也。〔297〕

○さふらひなんやとており(六一7・88) おりは居也。〔298〕

○すへて男も女も(六一8・89) 爰にて惣をくひもて馬頭の批判  
する也。〔299〕

○しれるかたの事を(六一8・89) 此以下悉皆人のをしへを書也。  
しりたる事をも思はせてをくよき也。あまりに才覚たてをするあ  
しき事也。〔300〕

○三史五経(六一9・89) 紫式部か云也。大かたにしてこそよか  
らめと云てをきて、又されともあなかに書にたてゝならはずと  
も世にある事をしてはくちおしきと也。〔301〕

・さるまゝに(六一13・89) さありとてこれか又うたてき事也。  
〔302〕

・かきすくめたる(六一13・89) 一本すゝめと有。〔細流抄〕ハ  
「すくめ」ト「すゝめ」ガ逆〔303〕

・心ちにはさしも(六一四・八九) 真名にと云物は心のやはらかなる事をこゑによみなせはこはくしくきこゆる也。〔304〕

○哥よむと思へる(六二二・八九) 哥よむへき人のをしへ也。はしめからそれにまつはれたるはあしきと也。〔305〕

○五月のせち(六二五・90) 花鳥。〔306〕

○いそぎまいる朝(六二五・90) えならぬはえんならぬ也。今日はおりにあひてえんなるへき事なれ共、節会などにまいる人はおりふしのいそかしきに哥なともよみかくるは心つきなきと也。〔307〕

○いとまなきおり(六二七・90) かやうのおりふしに菊の露をかへ哥よみかけなとするはつきなき事にてはなけれども、心つきなき事也。〔時節ををしはかりてあるへき事也。〕〔括弧内脱落力〕

定家卿詠哥大概にも、時節の景気世間の盛衰とかゝれたる也。こゝもとに心ををかさるは、いかなる秀逸をよみ出すとも心のへたなるへし。〔308〕

○さならても(六二八・90) 哥よみかけなとするは老後の哀にもなるへきを、つきなきときよみかくる当座は心をくれに見え侍り。哥よむ人のをしへ可然云々。〔309〕

○よろつの事になとかは(六二一〇・90) なとかはといふにて句をきるへし。〔310〕

○さてもおほゆる(六二一〇・90) 後に思へはの句にかゝる也。時節の機嫌を分別すへき事と也。こゝに心ををかめやすかるへき

と也。花には、分別なき人の心にて斟酌したらんはめやすかるへきと也。されとも唯用捨あるへき事と見るへき歟。〔311〕

○すへて心に(六二一二・90) 殊勝の詞也。心をつくへし。〔312〕

○君はひとり(六二一三・90) 君、源氏也。人ひとりとは藤壺の御事也。さまざまの事をきくにもたくひなく思出らるゝと也。〔313〕

○いつかたによりはつとも(六三一・91) 此品くいつかたに一定するともなくてあけはつる也。〔314〕

○からうして(六三二・91) なか雨はれまなきと前にありしにかゝり。なか雨のはるゝけしきからうしてといへる、まことにさる事也。〔315〕

○日のけしきも(六三二・91) 此もの字にて御忌もはて雨も晴たるを見せたり。〔316〕

○おほととの御心(六三三・91) おほい殿といふ本もあり。葵上の父おとゝ也。同事也。大殿の御心には源氏をいかにしても里すみをせさせたまつらんとおほすゆへ也。〔317〕

○おほかたのけしき(六三三・91) 葵上の有様也。是こそ上品の人とも云へきかたち也。〔318〕

・御有さまのとけかたく(六三三・91) あまり実めなるを源氏のわかき心に難と思給也。〔319〕

○さうくしくて(六三三・91) さひしくて也。〔320〕

○中納言 中務の(六三七・91) 兩人葵上の御かたにさふらふ人也。源氏の思ひ人也。花鳥。〔321〕

○あつさにみたれ給へる(六三・八・九一) 源の御様也。雨の晴間一入の暑気なるへし。〔322〕

○おとゝもわたり(六三・九・九一) 源の御出ある故にわたり給へり。

〔323〕

○うちとけ給へれば(六三・九・九一) あつさにみたれ給御さまなれば、木丁を隔てまします也。礼をいたさるゝ義也。〔324〕

○あつきにと(六三・一〇・九一) 源のくるしと思給也。〔325〕

○あなかま(六三・一一・九二) あなかしかまし也。こゝのやうたい帳をへたてゝ対面とみえたり(右二「カシカマシ山ノシタ行サ、レ水アナカマカレモ思フ心アリ」ト傍書)。〔326〕

○なか神(六三・一二・九二) 中央の儀にて中神とも云、又長神とも云也。両儀也。天一神の事也。内裏より天一神の方にあたると也。

〔327〕

○さかし(六三・一二・九二) けにさそと也。〔328〕

▽○れいはいみ給(六三・一三・九二) いつも忌給方也。〔329〕

○二条院(六三・一三・九二) 河海、花、種々沙汰あり。いつれにても歟。但柵巻にいたりて用處有。花鳥の儀しかるへし。〔330〕

○いとあしき事(六三・一四・九二) 此方遵(右二「写本」ト傍書)に御出なくてはあしきと也。〔331〕

○中川(六四・一・九二) 花、榮花物語を引、尤かなへり。中川とは、賀茂川は東、桂河は西、京極川は中央にて、中川也。〔332〕

○なやましきに(六四・二・九二) 源の詞也。門外より下車する所は

わつらはしきと也。〔333〕

○しのひくの御かたゝかへ(六四・三・九二) 源の思人のある所は自然いつくにもあるへき也。されとさやうの所へはえ出給はさる也。久しく内裏にさふらひてたまゝ御出ありて、又さやうの方へははゝかりあると也。源氏の心つかひしかるへし。〔334〕

○きのかみおほせこと給へは(六四・五・九二) 今夜御出あるへきと仰らるゝ也。〔335〕

▽・ウケタマハリナカラ(六四・五・九二) 承ツゝ也。〔336〕※

○伊与のかみ(六四・五・九二) きのかみか父也。〔337〕

○なめけ(六四・七・九三) 無礼也。〔338〕

▽○その人ちかゝらん(六四・七・九三) 源の詞。女ちかくあらん所こそこのましけれ也。〔339〕

○けによるしき(六四・九・九三) さふらふ人たちの申也。〔340〕

○おとゝにも(六四・一〇・九三) あるしのおとゝにも也。俄の事なる故也。〔341〕

○風すゝしくて(六四・一四・九三) 夏の末つかたの躰おもしろく。花鳥、此時節をなか雨より悉皆六月と有。此虫の声なとゝあるをもて六月とある歟と也。只月も有明にても有程に、五月の末なるへき歟。〔342〕

○人く(六五・一・九四) 御ともの人く也。〔343〕

○あるしもさかなもとむ(六五・二・九四) 風俗哥に、あるしもさかなもとめにこゆるきのいそにわか(マ)なかりあけなとゝあり。こゝの

なもとめにこゆるきのいそにわか(マ)なかりあけなとゝあり。こゝの

あるしは紀伊守なるに、此詞妙也。〔34〕

○かの中のしなに（六五三・94） 前のしなさため中のしなさため  
にそをくへき。すりやうといひて人の国にかゝつらひてなとゝい  
ひし事を此家のありさまを源の御覽しておほしめしあはする也。

〔345〕

▽○おもひあかれる（六五四・94） 空蟬をは父の内へまいらせん  
と思ひし人也。〔346〕

○きぬのをとなひ（六五五・94） 夏はみなすゝしをきるへきに音  
はあるましきといふ説あり。いりほがなり。夏もひねりかさねと  
したのかさねはいたひき也。音あるへし。又はかまもいたひきな  
れはをとなくてはかなふへからず。〔347〕

○かうしをあけたり（六五七・94） 女のあるかた方（ママ）のかうし也。  
夏なれば如此。紀伊守聊尔也とておろさする也。〔348〕

○むつかりて（六五七・94） 日本記、発憤とかける。〔349〕

○さうしのかみより（六五八・94） 障子の紙也。ひかうの心なる  
へし。〔350〕

○このちかきもやに（六五九・94） 女共也。〔351〕

○よすかさたまり（六五九・94） 葵上のさたまり給ふを云也。〔352〕

○されとさるへき（六五九・94） さはあれとも御しのひありき常  
にあると也。〔353〕

○おほす事のみ（六五九・95） 藤壺密通の事也。〔354〕

○式部卿の宮のひめ君（六五九・95） 桃園式部卿宮の御女權齋院

也。是よりさきに此事なし。初て書出し侍り。前にありつること  
く心得へし。此類此物語の格也。かたらさる也。〔355〕

○ほうゆかめて（六六一・95） 圓は方にはしまる物也。歌を正躰  
にも（前項末ノ「かたらさる也」ニ続ク）。〔356〕

○くつろきかましく（六六一・95） 源氏のたちきゝをもしらすし  
て、ひまありてくつろきたる様なる也。〔是も女の要心あるへき  
事のをしへ也。〕〔括弧内脱落力〕〔357〕

○とはり帳（六六四・95） 源の詞也。催馬楽我家（ウチノ）の哥に、我家は  
戸はり帳をかけたるを大君きませむこにせん、（「その（イ）サカナニ  
補入）みさかなはなによけん、あはひさだいかせよけんなど云詞  
なり。今源氏の給心は今夜可然御そひふしをまいらせよと也。

〔358〕

○なによけんとも（六六五・95） 此下詞をもて何よけんといふ也。

可然女もありかたきと云。〔359〕

○はしつかたのおまし（六六五・95） 源氏も仮に寝給也。〔360〕

○あるしの子とも（六六六・95） 紀伊守の子也。〔361〕

○伊与のすけの子（六六七・95） 是は紀守か弟也。〔362〕

○十二三はかり（六六八・96） 空蟬の弟小君也。〔363〕

○故衛門のかみ（六六九・96） 空蟬の父也。〔364〕

○あはれの事や（六六九・96） 源の詞。〔365〕

○まうとの（六六九・96） 真人也。かはねをよひ給也。朝臣やな  
といへるにおなし。〔366〕

○のちのおや (六六12・96) 継母也。然は空蟬は紀守継母かと尋給也。〔367〕

○さなん (六六12・96) 紀守申也。〔368〕

○にけなきおや (六六13・96) 源の詞。〔369〕

○宮つかへに (六六13・96) 父は空蟬を宮つかへに出さんと申せしと内にも仰ありし也。何とて受領の妻になしたるぞ、あはれの事やと也。〔370〕

○ふいにかく (六七1・96) 紀守申也。〔371〕

○いよのすけは (六七3・96) 源の詞也。〔372〕

○君とこそ (六七4・96) しょうとこそ思ふらめと也。〔373〕

○いかゝはわたくしの (六七4・97) をしいたしてしょうといはんは源の御前にてはゝかりある故に私のといふ尺マテをもしろし。いかゝはと句を切て読へし。〔374〕

○すきくしきこと (六七4・97) われらを始て無益なる事と申と申也。〔375〕

○さりともまうとたち (六七5・97) 源の詞。〔376〕

○つきくしく (六七6・97) 紀守よりは伊与の守はさやうの處はよしはむへき也。〔377〕

○おろしたてんやは (六七6・97) 紀守もすき物なれば伊与の介も心をはゆるさしと也。〔378〕

○いつかたに (六七7・97) 源の尋給也。〔379〕

○みやしもや (六七7・97) 紀守詞。しもやは雑舎なと也。〔380〕

○ゑいすゝみて (六七8・97) 源の御ともの人く也。〔381〕

○ありつる子 (六七11・97) 小君也。〔382〕

○ものけ給はる (六七12・97) 物うけ給る。〔383〕

○かれたる声 (六七12・97) 此子のかれたるこゑにて空蟬にいふ也。〔384〕

○こゝにそふしたる (六七13・97) 空蟬の詞也。〔385〕

○いかにちかゝらん (六七13・98) 源の御寢處へいかにちかゝらむとおもひしに、さもなくてうれしきと也。〔386〕

○いとよくにかよひたれば (六七14・98) 小君と空蟬とこゑよく似たると也。〔387〕

○いもうとゝ (六八1・98) あねをいもうとゝいふ也。系図にも姉なれ共女子をは必末につる類也。〔388〕

▽○ひさしにも (六八1・98) 小君か詞也。花、女房達の詞云々。如何。〔389〕

・おとにきゝつる (六八1・98) 源氏の御事を小君のかたる也。〔390〕

・ひるならましかは (六八3・98) 空蟬の詞也。〔391〕

○ねたう心とゝめても (六八4・98) 源の御心也。ちと我うへを心とゝめてもとひきけかしと也。〔392〕

○まろははしに (六八4・98) 小君か詞。ヒヒ〔393〕

○女君はたゝこの (六八5・98) 源此声をきゝて推し給也。障子は寢殿の母屋の南面【と北おもて】(括弧内脱落力)との中をへ

たてたる障子也。すちかひたるは、今夜源氏の寢所は南面の方也、  
空蟬の方は東也。今源氏の方よりすちかひなるへし。〔394〕

・中将の君は(六八六・98) 空蟬のめしつかふ女房の名也。〔395〕

○もとめつる(六八二・99) 中将の君と思と也。〔396〕

○中将めしつれば(六八三・99) 源氏当官中将也。中将の君はい  
つくにそと尋しをき、給し程にかくの給へり。とりあへすよき詞  
也。〔397〕

○うちつけに(六九一・99) 源の詞也。うちつけなるやうにこそ  
思らめ、我は年月のおもひあるによりてこそ今夜の方たかへもあ  
りつれととりあへすの給也。〔398〕

○あさましく(六九五・99) 空蟬の詞也。〔399〕

○たかふへくもあらぬ(六九七・100) 源の詞也。〔400〕

○もとめつる(六九九・100) 中将の君也。〔401〕

○やとの給(六九一〇・100) 此中将を源氏のめしよするさま也。〔402〕

○あやしくて(六九一〇・100) 此中将也。〔403〕

○思ひよりぬ(六九一一・100) 源氏にてましますと思ふ也。〔404〕

・とうもなく(六九一三・100) うこきもし給はぬ也。〔405〕

### 〔考 察〕

ここに翻刻したように、広島大学蔵の整版本『源氏物語抄(紹巴抄)』の第一冊目には、桐壺巻に一六三項目、箒木巻に四〇五項目の書き入れ注が記されているのだが、これらを通覧してわかるのは、それらが基本的に『細流抄』の注だということである。と言うよりもほぼ完全に『細流抄』を引き写したものである。

伊井春樹氏編『源氏物語古注釈集成』7『内閣文庫本細流抄』(桜楓社昭55)に翻刻された本文と比較するに、たとえば、桐壺巻において書き入れ注に存在しない『細流抄』の注はわずかに三項目だけである(『細流抄』の項目番号9「かゝる事のおこり」、52「はたさむき」、147「くらの少将」の三項目)。他に、項目が前後逆順になっているところが二箇所ある(71「よこさまなる」と72「かへりてはつらく」、73「うへもしかなん」と74「人の心をまけたる」)。また、内閣文庫本『細流抄』では136「大蔵卿くら人」の項目(書き入れ注の〔147〕)の注の中に取り込まれている「はいしたてまつり給さま」を書き入れ注では独立した項目(〔148〕)として立てているが、これは本来独立した項目であるべきであり、書き入れ注の方が正しい。注釈の本文を比べても内閣文庫本『細流抄』とは小異のある箇所が少なくないので、やや異なる本を用いたものと思われるが、この書き入れをした人物は『細流抄』を見てそのすべての注を『紹巴抄』整版本の欄外や行

間に書き写そうとしたようである。『細流抄』は写本として十数本が伝わっているに過ぎず、いわば稀観本に属する古注釈書であるが、その一本が願正寺所蔵の『紹巴抄』に書き入れられる環境にあったわけで、もしこの書き入れが願正寺において成されたのであれば、北越地方における『源氏物語』享受のレベルの高さが改めて想像されるのである。また、たまたま『細流抄』が手元にあったから書き入れたというのではなく、『紹巴抄』が三条西公条の講釈を紹巴が聞き書きして作ったものだということを確認した上で、一般に公条の著作とされている『細流抄』の説を比較・参考のために書き入れたのであるならば、いつそう高度に研究的な姿勢で行なわれた書き入れであるということになるが、実際はどうだったのであろうか。なお、公条の息実枝が『細流抄』に修訂を加えて作ったと言われる『明星抄』もほぼ同内容の注釈であり、同書には版本もあるが、よく見比べると、本書の書き入れ注は『明星抄』ではなくやはり『細流抄』だと思われる。

ところで、書き入れ注には『細流抄』にない注も若干あって、それらは『細流抄』を写した注よりもやや小字で低い位置に記され、

多く漢字片仮名混じりで記されている。手も別筆であるようだ。翻刻で▽印を付して一字下げて記した注がそれにあたる。一部朱で書かれたものもある。いまだ典拠を調べ得ていないが、何か特定の注釈書を引き写したものでなさそうである。桐壺巻の中では、「をよすけ」の項（33）に「源語類聚」なる書を引いているのが注目

される。この書名から、翻平安文学資料稿第三期・第九、十巻に翻刻した源義亮の『源語類聚抄』（広島平安文学研究会 平14、15）のことかと思われたが、どうも同一書ではなさそうである。

次に、箒木巻における書き入れ注に関してやや詳しく検討する。

箒木巻の書き入れも、桐壺巻と同様、基本的に『細流抄』の注釈を『紹巴抄』の当該項目の上部欄外に書き写したものである。ただし、桐壺巻の書き入れは巻全体に及んでいるが、箒木巻は巻首から第64丁表までで、全体の八割方進んだところだとぎれている。何らかの事情で書き入れ作業を中止してしまったのだろう。

桐壺巻と同様に、『細流抄』による書き入れは漢字平仮名混じりで記されており、それとは別に片仮名混じりで記される別筆とおぼしき注が存在している。

まず、平仮名書きの注を内閣文庫本『細流抄』の本文と比較するに、箒木巻において書き入れ注に存在しない『細流抄』の注は、次の五箇所八項目である（引用末尾の数字は、内閣文庫本の翻刻に付された項目番号である）。

①「なのめに」（86）と「かならすしもわかおもひにかなはねと」

（87）の間

すきくしき心（四一・12・62）あなちすきくしき心ならね

と心になふやうもやとえりそめてはさためかたきと也。天然の縁にまかせてをくへき事也。（82）

② 「なたらかにゑんすへき」(133)と「ともかくもたかふへき」(134)の間

みる人から(四六三・68) みる人は女の事也。男の心も女からおさまるへき也。(127)

あまりむけに(四六三・68) 女の男をあまりさしゆるすもあしきと也。千里万里の舟をいささかの質にて繫をく如に男の心をも女の心にて繫とむへきと也。(128)

つなかぬ舟(四六五・68) 鵬鳥賦、河海。(129)

さしあたりて(四六六・68) 花、第七段馬頭詞云々。いかゝ。是よりは頭中將の詞也。男のうへにみる説あれとも、唯女にみるよき也。朧月夜の類也。(130)

③ 「我ふたつの道」(283)と「こしおれふみ」(284)の間

おやの心を(五九七・85) 物をならふ師なる故におやの心をはゝかると也。(277)

④ 「ふいにかく」(371)と「いよのすけは」(372)の間

女のすくせ(六七二・96) 世間の不定のうちにも女は一段はかなきと也。(365)

⑤ 「中將の君は」(395)と「もとめつる」(396)の間

うへなるきぬやるまで(六八二・99) 源氏也。(390)  
これらの項目は書き入れ者が見た『細流抄』にはなかったのか、それとも書き入れの際に不注意から脱落したのか定かでない。

逆に、内閣文庫本『細流抄』にない項目で、書き入れ注にあるも

のとして、次の一例がある。書き入れ者が見た『細流抄』にはこの注が存していたのであろう。

○おほとのなら(三六七・55) 又はおほとのおふら。いかさまにかいてもよむ時はとのふらとよむなり。(19)

書き入れ注には、目移りによる脱落のため、項目が落ちたようになっているところが一箇所ある。

○片野の少将には(三五五・53) 給けんかしといふまで物語の作者の惣論也。かた野の少将説々あり。物語の名也。清少納言枕草子にも見えたり。心は、片野の少将は天性好色をうへからたつる人の事也。此源氏の君は当官中將也。給し、此し文字は過去のし文字にては聊心得かたき様なれと当代の事をも如此書事常の事也。(4)・(5)

書き入れ注はこのようにあるが、これは「此源氏の君は」の後に、うへはさはなくてしたに好色の心あると也。

○また中將などに(三五五・53) こゝより双紙の詞也。今源氏は

が脱落したため、「また中將などに」の項目(5)が前半部分を失って埋没した形になっているのである。

片仮名書きの注は、帚木巻には全部で十例ある(25)・(27)・(83)・(85)・(96)・(103)・(125)・(160)・(224)・(336)。うち一例(27)は平仮名書きの項目に続けて書かれている。これらの注の典拠は不明だが、『源氏物語』の本文を見出しとして掲げて注釈を

記す形のものと同様でないものとが混在しており、また〔83〕と〔85〕のように同じ「そへに」という語に関する注を二箇所に分けて記すものもあるもので、ある特定の書物から引用したものではないようだ。「八雲抄」(〔25〕)や「祇注」(〔83〕)なるものを引いた注があるのも興味深い。また、和歌の引用もある。「雲井ニテアヒカタラハ又月夕ニモワカ宿スキテ行方ハナシ」(〔224〕)がそれで、これは『紫明抄』『異本紫明抄』『河海抄』『孟津抄』『岷江入楚』などが引歌に指摘する『拾遺集』(巻八・雑上・四三七)の伊勢詠である。

片仮名注は平仮名注の行間や傍書にも見えており、それらにもなかなか興味深いものがある。〔92〕の傍書「カカ身カ本ウタカハシ」は、書き入れ者が見た『細流抄』の「身」の字が判読し難かったことを注記したものだろうし、〔331〕の傍書「写本」は、「遵」の字に疑問を抱いた書き入れ者が本の通りに写したと断つたものだろう。〔162〕の傍書「スクメルハ河内本」は異本に言及したものであり、〔326〕には「カシカマシ山ノシタ行サ、レ水アナカマカレモ思フ心アリ」(『金葉集』巻八・恋下・五〇五、読人不知)の和歌を傍書する。これは見出し項目「あなかま」の例歌を記したもののだが、主な古注釈書に指摘のない歌である。

これら典拠不明の注記をも含めて、願正寺旧蔵の『紹巴抄』の第一冊目には『源氏物語』をかなり研究的に勉強した跡が見られるの

である。そういう意味で、広島大学蔵刊本『紹巴抄』は、それ自体はさほど珍しい本ではないけれども、近世後期の北越地方における『源氏物語』享受の実態を垣間見せてくれる資料として貴重な伝本と言えるのではないかと思うのである。

書き入れが箒木巻の途中で終わっているのは、何らかの事情で中断してしまったものと思われるが、大部な書への書き入れがはじめの方だけにしかないことはよくあることである。『紹巴抄』の版本に限っても、たとえば東洋文庫蔵の古活字本には欄外書き入れが極めて多いが、それは第一冊目のみであり、同じく陽明文庫蔵の古活字本にも行間書き入れや貼紙が多いけれども賢木巻の途中までで以下には全くないのである。

なぜ途中でとぎれたのか、その理由はわからないが、桐壺・箒木両巻の書き入れ注を見ると、そこには『源氏物語』についてのかなりレベルの高い勉強の跡が見てとれるのである。

# 『源氏物語抄（紹巴抄）』の古活字本と整版本

——刊本『紹巴抄』の書誌的考察（Ⅱ）——

妹尾好信

はじめに

刊本『源氏物語抄』、いわゆる『紹巴抄』には、古活字本と整版本の二種があることが知られている<sup>1)</sup>。どちらも全二十冊から成るが、

古活字本は一面十行、整版本は十一行である。古活字本について、川瀬一馬氏<sup>増</sup>『古活字版の研究』（昭42 日本古書籍商組合）には、

「活字印本盛行期に於ける源氏物語注釈書の刻本として最も大部なものである。寛永十七年刊左大将六百番歌合等と同種の小型活字印本で、寛永後期の開板と認められる」とある。そして、古活字本の伝本が少ないことを指摘され、「世に流伝するものは、寛永末年頃に本書に片仮名附訓を施して覆刻した整版本（割注略）である。原本を極めて精刻してゐる部分が多いので、間々活字印本と誤認せられてゐる」と言われている。川瀬氏によれば、両本の関係について、

（1）古活字本は寛永年間（一六二四～四四）後期頃の開板であり、整版本は同じく寛永末年頃の刊行であること。

（2）整版本は古活字本に片仮名附訓を施して覆刻したものであること。

（3）古活字本はあまり流布せず、世に広く流伝したのは整版本であること。

の三点が指摘されているのである。

川瀬氏が刊記のない古活字本の開板を寛永後期頃とされたのは、「寛永十七年刊左大将六百番歌合等と同種の小型活字印本」であることを有力な根拠にされるわけだが、反町茂雄氏『弘文荘古活字版目録』（昭47）や『弘文荘古版本目録』（昭49）でも「寛永中刊」とされており、寛永年中の刊行であることは疑いないようである。整版本も無刊記であり、川瀬氏の言われるように「寛永末年頃」の刊行であるかどうかの確証はない。反町氏の『弘文荘待賈古書目録』では明暦（一六五五～五八）頃の刊とも記されている<sup>2)</sup>。

寛永末から慶安（一六四八～五二）あたりを境にして、それまで隆盛を誇った古活字版による書物刊行の流れが急に途切れ、整版に

よる刊行へと移ったことはよく知られている（中野三敏氏『書誌学談 義 江戸の版本』〔平7 岩波書店〕等）。『紹巴抄』は、ちょうどその境目あたりの、かなり近接した時期に古活字本と整版本の二種が刊行されたわけである。

古活字本の伝存が少ないのは刊行部数がごく少なかったからに違いない。古活字版から整版への移行の理由のひとつに、古活字版が大量印刷に適さないことが挙げられるという（中野氏、同書）が、整版本が広く世に流布したのは、古活字本とは比較にならないくらい大量に印刷されたからだろう。

さて、川瀬氏は、整版本は古活字本に片仮名附訓を施して覆刻したものであり、その覆刻は「原本を極めて精刻してある部分が多いので、間々活字印本と誤認せられてゐる」ほど精巧なものであると言われるが、両本の版面を見比べると、文字の形、字の間隔、行取りなどが酷似しており、実にその通りと思われる。もともと、先述した通り、古活字本は一面十行であるのに対し、整版本は十一行であるから、単純な覆刻ではない。覆刻にあたって、一面につき一行ずつ行を増やすという、かなり面倒な作業を行なっている。

下段に、両本の第一冊目冒頭の一面を掲げたので、参照してほしい。古活字本は、反町氏『弘文荘古活字版目録』掲載の図版から、整版本は広島大学図書館蔵本によつて掲げた。

この一面だけを見ても、行数のみならず、両本のさまざまな違いが明らかである。

は如鐘よ中の巻異あり迄家心内自筆を表紙中はめ込れ  
 るうまると一書と内守迄の源氏物語とよりまれも  
 てあうれしきく内守と世もふりひかしてせま  
 花山院の内守改信して心ゆくこふと改ふとあれし  
 中と用抄ひ世の水源抄と清合教とて河海抄の速修と  
 けりり花鳥餘情又むす一表紙迄家心内守改信とゆ  
 一く思てきて志多改存のとりひ一人ふあひや  
 内れも表紙改換してけりり不盡と一系種内守改信と  
 りく三条西敷内府 道遠院 一講釈やとさ巧くとりへとも禁中  
 のうさきり 道遠院改へるやとさ巧と書とりり修

〔図1〕古活字本 第1丁表

は如鐘よ中の巻異あり迄家心内自筆を表紙中はめ込れ  
 るうまると一書と内守迄の源氏物語とよりまれも  
 てあうれしきく内守と世もふりひかしてせま  
 花山院の内守改信して心ゆくこふと改ふとあれし  
 中と用抄ひ世の水源抄と清合教とて河海抄の速修と  
 けりり花鳥餘情又むす一表紙迄家心内守改信とゆ  
 一く思てきて志多改存のとりひ一人ふあひや  
 内れも表紙改換してけりり不盡と一系種内守改信と  
 りく三条西敷内府 道遠院 一講釈やとさ巧くとりへとも禁中  
 のうさきり 道遠院改へるやとさ巧と書とりり修

〔図2〕整版本 第1丁表

川瀬氏は、整版本は古活字本に「片仮名附訓を施して覆刻した」ものと言われるが、両本の本文上の違いは単に「片仮名附訓」の有無にとどまるものではない。

筆者は前稿<sup>3)</sup>において、両本の相違について略述し、特に第一冊目における見出し項目の異同を検討した。その結果、整版本は古活字本にあった誤りをつとめて訂正していることがわかった。本稿では、見出し項目だけでなく、本文全体に関して古活字本と整版本の相違点を考察する。ただし、全二十冊と大部であるため、煩を避けて、便宜上、第一冊目（桐壺・簪木）のみを取り上げることにする。

### 一 第1丁表の本文における相違点

改めて、前ページに掲げた第一冊1丁表（巻頭の目録1丁を除く）の本文を見て、両本間の相違箇所を整理してみる。なお、この部分は、巻頭の総説にあたる部分の冒頭であり、『源氏物語』本文の一部を掲げて見出しとし、その下に注釈文を記すという形式をとっていない。桐壺巻の注釈は整版本で5丁表の4行目から始まっている。はじめに両本の本文を翻刻する。各行の頭に行番号を算用数字で記した。へへ内は二行割書部分である。

#### 《古活字本》

- 1 此物語に本の差異あり定家卿御自筆青表紙中比断絶の
- 2 やうなりし事は河内守光行源氏物語をとりわきも

- 3 てあそはれしまゝ河内本と世間にいひならはせり釈
- 4 雲（花山院御祖流）河内本を信して心得かたき所をなをされし
- 5 本を用給ひ紫明水源両抄に御會釈有て河海抄御述作と
- 6 いへり花鳥餘情又おなし爰宗祇定家卿御本の御流をゆ
- 7 かしく思はれて志多良（奉公の人也）といひし人にあひ申
- 8 され青表紙傳授してのち猶不審を一条禪閣御所へきは
- 9 めて三条西殿（内府 逍遙院）へ講釈申さるゝといへとも禁中
- 10 のふかき事は逍遙院殿へ尋申されし事とあり稱

#### 《整版本》

- 1 此物語に本の差異あり定家卿御自筆ノ青表紙中比断絶の
- 2 やうなりし事は河内ノ守光行源氏物語をとりわきも
- 3 てあそはれしまゝ河内本と世間にいひならはせり耕
- 4 雲（花山院御祖流）河内本を信して心得かたき所をなをされし
- 5 本を用給 紫明水源両抄に御會釈有て河海抄御述作と
- 6 いへり花鳥餘情又おなし爰宗祇定家卿御本の御流をゆ
- 7 かしく思はれて志多良（奉公の人也）といひし人にあひ申
- 8 され青表紙傳授してのち猶不審を一条ノ禪閣ノ御所へきは
- 9 めて三条西殿（内府 逍遙院）へ講釈申さるゝといへとも禁中
- 10 のふかき事は逍遙院殿へ尋申されし事とあり稱
- 11 名院殿（右府 逍遙院殿御二男）逍遙院殿にもこえたる御才覚に

両者を比較して、古活字本を覆刻して整版本とするにあたって変更が加えられている点は、次の諸点である。

- ① 漢字に片仮名で振り仮名を付した……「差異」(1行)・「断絶」(1行)・「光行」(2行)・「河内本」(3行)・「信して」(4行)・「紫明水源」(5行)・「御會釈」(5行)・「御述作」(5行)・「志多良」(7行)・「傳授」(8行)・「不審」(8行)・「禅閣」(8行)・「講釈」(9行)・「逍遙院殿」(10行)・「稱名院殿」(10行)
- ② 漢字表記の語句に助詞を補った……「御自筆ノ青表紙」(1行)・「河内ノ守」(2行)・「爰」(6行)・「定家卿ノ御本」(6行)・「一条ノ禅閣ノ御所」(8行)
- ③ 漢字の熟語に線引きを施した……「中比」(1行)
- ④ 誤った文字を訂正した……「釈雲」↓「耕雲」(3行)
- ⑤ 文脈を訂正した……「用給ひ」↓「用給」(5行)

最も例の多い①は、川瀬氏が整版本の特徴としてあげられた「片仮名附訓を施し」たものである。②もそれに準ずるものと言つてよからう。③は、ここでは「中比」が訓読みする熟語であることを示す。熟語の線引きは漢文で記された引用文などの中に時々見られるが用例数は多くない。1丁表にはないが、整版本では漢文表記の文には返り点と送り仮名が施されている。また、仮名に濁点が付されて清濁が区別された箇所が多いのも整版本の特色である。これらは文章を読みやすくするために覆刻にあたって新たに加えられた操作である。

一方、④と⑤は古活字本の不備を訂正したものである。④は、古活字本が人名「耕雲」を「釈雲」と誤っていたのを正し、振り仮名を加えた例、⑤は、古活字本で「用給ひ」と連用形で下に続けていたのを覆刻に際して活用語尾「ひ」を削り「用給」として文を終止させた例である。一字削つたままで字間を詰めていないので、整版本では「給」の下に不自然に一字分の空白が存在する。

このように、冒頭の一面だけを見ても、整版本は古活字本に比べて、漢字に付訓したり助詞を補つたりして本文を読みやすくする工夫がなされるとともに、古活字本にあった誤植や文章上の不備などをつとめて訂正・修正していることがわかるのである。

古活字版には、その木活字組みという技法上、漢字の振り仮名や返り点・送り仮名を施し難いという欠点があった。整版での覆刻に際しては、その欠点を補つて、積極的に付訓・付点が行なわれたというわけである。

## 二 古活字本から整版本への変更点

読みやすくするための工夫である付訓・付点の類は、整版本全体にほぼ等しく見えるものであり、特にいちいち取り上げて検討するまでもないであろう。問題とすべきは、本文そのものに変更が加えられた箇所であつて、整版本に覆刻する際に、古活字本本文のいかなる部分が不備と認められて訂正・修正の手が加えられているのかということである。

そこで、次には、第一冊目（桐壺・簾木）全体を見渡して、古活字本と整版本の間の本文異同箇所を調べ、それらをいくつかに分類してみた。だいたい、次のような八分類が可能かと思われる。

- 〔1〕古活字本の字句の誤りを訂正した例
- 〔2〕古活字本の字句をより適切な形に変更した例
- 〔3〕古活字本の漢字の字体や仮名の種別を変更した例
- 〔4〕古活字本にある字句を削除した例
- 〔5〕古活字本にない字句を補った例
- 〔6〕字間に古活字本にない空白を置いた例
- 〔7〕古活字本にある字間の空白を除いた例
- 〔8〕古活字本の字句の位置を変更した例

以下に、それぞれに該当する例を掲げる。本文の調査・引用には、古活字本は東洋文庫蔵岩崎文庫本を用い、整版本は広島大学図書館蔵本を用いた。前者については国文学研究資料館蔵の紙焼写真によった。「古活字本の本文」↓「整版本の本文」の順で示し、（ ）内に整版本の丁数と行数で所在を記した。巻別に通し番号（丸囲み数字）を付し、相違箇所傍線を施した。見出しにおける例には（※見出）と注記した。

〔1〕古活字本の字句の誤りを訂正した例

〔桐壺〕

- ①昔云は ↓ 昔と云は（6才・5）

- ②後涼殿の即 ↓ 後涼殿の良（9ウ・8）
- ③俊成院 ↓ 俊成説（10才・11）
- ④からを見つゝも古詞はかり ↓ からを見つゝもの詞はかり（12才・6）

- ⑤心操みさはとよむ ↓ 心操みさほとよむ（12ウ・10）

- ⑥露をそふに ↓ 露をそふるに（15ウ・1）

- ⑦在天願作比翼共鳥地願為連理枝 ↓ 在ラハレ天願クハ作ラシニ比翼

ノ鳥ト在ハレ地ニ願クハ為ニ連理ノ枝ト（17ウ・8）

- ⑧其里喪則不相 ↓ 其里ニ有ル喪則不セス相（17ウ・10）

- ⑨終夜さうくの ↓ 終夜さまくの（17ウ・11）

- ⑩又天到日 ↓ 又天ニ到日（18才・2）

- ⑪保明之類後 ↓ 保明之墓後（19才・9）

- ⑫乳安国 ↓ 乳安国（19ウ・8）

- ⑬云はときかたき ↓ 云ほときかたき（20才・1）

- ⑭天子を國母と申 ↓ 天子を國ノ親と申（20ウ・6）

- ⑮狛犬三 ↓ 狛犬二（24才・7）

- ⑯かたかく ↓ かたかく（25ウ・4）

- ⑰東意御元服 ↓ 東宮御元服（29ウ・7）

〔簾木〕

- ①最頭 ↓ 最頂（30才・6）

- ②きつかある ↓ きすかある（30ウ・7）

- ③聖人八瀨不縹 ↓ 聖人八瀨不縹（35才・1）

④天下の政をましはるはかるると云官也 ↓ 天下の政をましはるはかるると云官也 (36才・5)

⑤大類之故 ↓ 不<sub>レ</sub>類之故 (45才・6)

⑥いさやひくらんもち月の駒 ↓ いまやひくらんもち月の駒 (45ウ・1)

⑦舟來かと云 ↓ 再來かと云 (45ウ・4)

⑧人みなく ↓ 人なみく (47ウ・2) (※見出)

⑨手をおもての哥 ↓ 手をおりての哥 (48才・1) (※見出)

⑩言記凌空而去 ↓ 言<sub>イ</sub>訥<sub>テ</sub>凌<sub>テ</sub>空<sub>ヲ</sub>而去<sub>ル</sub> (50才・7)

⑪あへる ↓ あへか (53才・7) (※見出)

⑫世間乃 愚人の ↓ 世間<sub>ヨリ</sub>乃<sub>シ</sub>愚人<sub>ト</sub>乃<sub>シ</sub> (53ウ・7)

⑬わかせこかくへき宵なりさかにかにの ↓ わかせこかくへき宵なりさかにかにの (57才・9)

⑭水魚を給 ↓ 氷魚<sub>ヲ</sub>を給 (59才・3)

⑮詠哥大枕 ↓ 詠哥<sub>ノ</sub>大枕 (59才・8)

⑯ひとつ ↓ ひとつ (59ウ・2) (※見出)

⑰風俗催馬木などの類一品也 ↓ 風俗催馬<sub>ヲ</sub>樂<sub>ト</sub>などの類一名也 (61才・1)

⑱とりあへす物にもかなや世中を ↓ とりかへす物にもかなや世中を (65才・9)

単純な誤字・誤植の訂正の他、脱字・衍字の訂正(桐壺⑦)や仮名遣いの訂正(箒木②)などがある。桐壺⑭の「國母」↓「國ノ親」

の訂正は、誤植というよりも古活字本の誤認というべきかも知れない。もつとも、写本にも「天子を国母と申」とあるので、古活字本のみの誤認というわけではない。ほほどれも適切に訂正されていると言つてよいと思うが、「さかにかに」を「さたかに」と改めた箒木⑬だけは不適當ないし不必要な訂正と言わねばならない。

【2】古活字本の字句をより適切な形に変更した例

〔桐壺〕

①冷眼と書 ↓ 冷眼と書 (7才・11)

②無頼と云 ↓ 無頼と書 (8ウ・5)

③セイリヤウト又ヨム ↓ セイリヤウトヨメトモ也 (10才・10)

④あそはしたるなり ↓ あそはし出したる也 (21才・6)

⑤此方 ↓ 以<sub>テ</sub>來 (25才・10)

⑥袍を用の時あり ↓ 袍を用<sub>ル</sub>時あり (25才・11)

⑦御舞有 ↓ 御舞<sub>アリ</sub> (25ウ・8)

⑧公卿よりうへに此間の着座あるを ↓ 公卿より上に此間の心<sub>ニ</sub>着座あるを (26才・10)

〔箒木〕

①またせなとして物を思はし ↓ またせなとして物を思はせ (38ウ・9)

②取よりなとして心みたれは ↓ 取よりなとして心みれは (38ウ・9)

③こゑたてつへき此世とおもへは↓こゑたてつへき此世とおもふに(41才・5)

④次第くをいへり↓次第くといへり(45才・2)

⑤松をも↓松ほもをと也(46・ウ2)

⑥むもれ木のみなれくて↓そなれ木のみなれくて(46ウ・3)

⑦四君よりのことくおもひむすほれたる躰を↓四君よりのことくおもひむすほれたる躰を(54ウ・10)

⑧まよふと迄なり↓まどふと迄なり(63才・4)

⑨みきとないひそ人のきかんに↓みきとないひそ人のきかんに(65ウ・5)

仮名遣い、漢字の表記、助詞や助動詞の使い方、動詞の活用方法など、さまざまな点に変更が加えられている。中には古活字本の表記を誤りと見て訂正したものもあれば、誤りとは言えないけれどもより適切な表現に変更しようとしたものもあるようである。箒木③は引用和歌の出典である『堀河百首』夏・四七二でも『千載集』卷三・夏・二〇二でも「おもふに」とある(ともに俊頼歌)ので整版本の方が適切であり、箒木⑥の歌も『千載集』卷十三・恋三・八〇四に載る待賢門院安芸の歌で、初句は「そなれ木の」とある(ただし、第二句は「そなれそなれて」)。箒木⑨も『古今集』卷十五・恋五・八一では末句「人のきかくに」とある詠み人知らずの歌である。和歌に関しては、整版本ではどれも典拠に忠実な形に改められている

ると言える。

〔3〕古活字本の漢字の字体や仮名の種別を変更した例

〔桐壺〕

①姐已力云コトニ↓姐已力云事ニ(8才・6)

②兵衛陣↓兵衛ノ陣(11才・8)(2例)

③上下略 川↓上下略河(11才・11)

④牛一刻↓丑一刻(18才・7)

⑤川↓河(18ウ・11)

⑥人不学不知道をとも云々↓人不ハレ学不レ知レ道ヲとも云々(21ウ・5)

⑦川↓河(21ウ・8)

⑧美人也 川↓美人也河(23才・7)

⑨天子之十二にして而冠 河↓天子之十二ニ而冠(23ウ・5)

⑩冠両王着ヲ黄衣↓冠両王着ニ黄衣(25才・8)

⑪諸陣↓諸陣(28才・5)

〔箒木〕

①麗うるはしき↓麗ウルハシキ(31才・4)

②三日以上を日霖↓三日以上ヲ日霖ト(31ウ・8)

③正身 川↓正身 河(49才・1)

④世間乃 患人の↓世間乃愚人乃(53ウ・7)

⑤ 不恵にして不弁豆麦 ↓ 不<sup>フツ</sup>恵<sup>コ</sup> 不<sup>レ</sup>弁<sup>ニ</sup>豆<sup>ツ</sup>麦<sup>ガ</sup> ↓ (53ウ・10)

⑥ 纏 まとぶ ↓ 纏<sup>マ</sup>ト<sup>ブ</sup> (54ウ・10)

⑦ わさとかましき心也 川 ↓ わさとかましき心也 河 (66オ・9)

⑧ 恐かしこ字 ↓ 恐<sup>カ</sup>シ<sup>コ</sup>ノ字 (69ウ・7)

古活字本の仮名書きを漢字に改めたり(桐壺①・箒木④)特殊な字体の漢字を通行の字体に改めたり(桐壺②⑩)している。また、古活字本の「川」を「河」に改めた例が多い(桐壺③⑤⑦⑧・箒木③⑦)が、これらは「河海抄」の略であるから「川」ではなくて「河」とあるべきだと訂正したものである。桐壺④の「牛」→「丑」の訂正も適切な字体に改めたものである。他に、古活字本では漢文訓読体の文の中に平仮名表記の訓が混じっているのを整版本では片仮名小書きに改めたり(桐壺⑥⑨⑩・箒木②⑤)、古活字本で漢字の訓を示すのに平仮名表記されているものをやはり片仮名の小書きに改めたりした例(箒木①⑥⑧)も多い。

#### 【4】古活字本にある字句を削除した例

〔桐壺〕

① 漢書文<sup>ソトシタ事ヲキラタムル心也</sup> ↓ 漢書文 (9ウ・4)

② 四位指合時と云歟 ↓ 四位指合時と云 (19オ・2)

③ 一師子二 ↓ 師子二 (24オ・7)

④ 浅黄也 黄故誤れり ↓ 浅<sup>アサキ</sup>黄<sup>キ</sup>也 (25ウ・5)

〔箒木〕

① 此段生姓の品を二に分てり心 ↓ 此段生姓の品を二に分てり (35オ・10)

② ひんのかみを耳にかきつくる少 ↓ ひんのかみを耳にかきつくる (39オ・6)

③ 金岡子は ↓ 金岡八 (44ウ・11)

④ 風俗玉垂哥 件磯在相模國かなとよむ時はふうそく共 ↓ 風俗玉垂哥 件<sup>ノ</sup>磯<sup>在</sup>リ<sup>ニ</sup>相模國<sup>ニ</sup> (60ウ・9)

桐壺①の「ソトシタ事ヲキラタムル心也」や桐壺④の「黄故誤れり」は写本にも存在する注である。なぜ整版本で削除されたのかはわからない。桐壺②は整版本では古活字本の「云歟」という疑問表現を断定した形に改めている。写本でも「四位ノ指合ノ時ト云心也」と断定表現になっている。桐壺③・箒木①②は衍字の削除、箒木③も不必要な「子」の字を削除したものである。箒木④では「かなとよむ時はふうそく共」という注を削除したために、整版本は以下の三行分、文字の位置が古活字本とは異なっている。削除された注は上の「風俗」の語に関する注で、写本にも「かなによむ時はふうそく共」と同様の注が存在する。これもなぜわざわざ行取りをずらせてまで削除したのかは不明である。

#### 【5】古活字本にない字句を補った例

〔桐壺〕

① 廢奴燈火 見 咲 ↓ 廢<sup>スイ</sup>奴<sup>ク</sup>燈<sup>カ</sup>火<sup>ヲ</sup>見<sup>テ</sup>咲<sup>シ</sup>ナリ (8オ・7)

② 世上は皆如此 ↓ 世上は皆如レ此なるへし (11ウ・8)

③ 親王 ↓ 親王ヲミコトヨム (12オ・1)

④ 頑 ↓ 頑カタクナシ (15オ・3)

⑤ 此句躰 相似たり ↓ 此句躰に相似たり (18オ・2)

⑥ 君主不早朝 ↓ 君主不<sup>ズ</sup>早朝<sup>アサマツリコトシマハ</sup> 長恨哥 (18ウ・4)

⑦ 勞 ↓ 勞<sup>ネキ</sup>ヲウトヨム (19ウ・9)

⑧ 法師 ↓ 法師 マラウトヨメリ (20オ・9)

⑨ 女にも給こゝろなり ↓ 女にも姓を給フ心なり (22オ・1)

⑩ 内匠寮 ↓ 内匠寮<sup>タクミレウ</sup>アトテ (29オ・5)

⑪ 朗詠にして見出 ↓ 朗詠にして見出ス (29オ・7)

〔箒木〕

① 左傳に 治 治理世を事也 ↓ 左傳に 治 ヲサクト云

治<sup>ヲサムル</sup>ニ理世<sup>ヲ</sup>一 事也 (32ウ・10)

② 位早と書 ↓ 位早と書<sup>テ</sup>クライミシカシトヨム (35オ・7)

③ 馬の涯分に 上とは不及となり ↓ 馬の涯分には上とは不<sup>レ</sup>及  
となり (36ウ・8)

④ 倭人 口きゝかましき人也 ↓ 倭人<sup>ネチケヒト</sup> 口きゝ  
かましき人也 (40ウ・3)

⑤ 金岡公望 ↓ 金岡<sup>カノ</sup>子公望 (44ウ・10)

⑥ 蒜 蒜同 ↓ 蒜也蒜同 (57オ・3)

⑦ 招 ふけく其様な事をは ↓ 招<sup>アハメ</sup> ふけく其様な事を  
は (57ウ・8)

⑧ 愧 悵同 ↓ 愧<sup>トハリ</sup> 悵同 (61ウ・10)

⑨ 繼母楼上 居 烽 まゝ子に ↓ 繼母<sup>オボボ</sup>楼上に居<sup>イ</sup>て烽をまゝ子に  
(67オ・7)

文中の脱字と見なされる文字を補ったもの (桐壺⑨・箒木⑤)、  
文末表現を補ったもの (桐壺①②⑩⑪・箒木⑥)、助詞を補ったもの  
(桐壺①⑤・箒木③⑨)、出典名を補ったもの (桐壺⑥) などいろいろあるが、最も多いのは漢字の訓 (読み方) を明らかにしたものである (桐壺③④⑦⑧・箒木①②④⑦⑧)。これらの訓は、箒木の例④を除いてすべて写本にも存在する。

〔6〕 字間に古活字本にない空白を置いた例

〔桐壺〕

① 纏不破 ↓ 纏 | 不破 (9オ・8)

② 不善不能不用 ↓ 不善 | 不能不用 (9オ・9)

③ さはされはこそと人々云也 ↓ さは | されはこそと人々云也  
(12オ・10)

④ 一師子二狛犬三帳前四南第三間 ↓ 師子二狛犬二帳前四 | 南第  
三ノ間 (24オ・7)

③は「さは」は見出しであり、この下に一字分の空白がない古活

字本は不備である。整版本ではその不備を解消している。①②も、  
まず「纏」「不善」を挙げ、その下に同義語や言い換え語を示した  
ものだから、整版本のように空白がある方がよい。④は「師子二狛

犬二帳前四」がひとまとまりであることを整版本は明確にしている。写本ではこの部分を二行割書にしている（写本では「狛犬三」とある）。どれも整版本は文脈を吟味した上で適切な処置をしていると言うことができる。

【7】古活字本にある字間の空白を除いた例

〔桐壺〕

- ①上下略 | 川 ↓ 上下略河 (11才・11)
- ②寿者 | 多辱 ↓ 寿者多辱 (14才・8)
- ③注相 | 杵 | 旧 ↓ 注三相ハ杵旧 (17ウ・10)
- ④玄僧蕃 | 客 ↓ 玄ハ僧蕃ハ客 (20才・10)
- ⑤無学行政 | 如無灯夜行か云々 ↓ 無学ニノ行レ政ヲ如シニ無ノレ灯夜行ガ一ト云々 (21ウ・6)

〔箒木〕

- ①各 | 競とも如何 ↓ 各競とも如何 (33才・10)
- ②楊家有女初長成養在深閨人 | 未識 ↓ 楊家ニ有レ女初テ長成スヤシナハレテ 養 在 リニ深閨ニ一人未タスレ識 (34才・8)
- ③美 | 麗 調度 ↓ 美麗 調度 (44ウ・7)
- ④世間乃 | 患人の我妹兒尔 ↓ 世間乃患人乃我妹兒尔 (53ウ・7)
- ⑤知為知 | 不知 | 為不知 ↓ 知ヲハ為セヨレ知レリ不ヲハレ知為セヨレ 不トレ知ヲ (59ウ・1)

熟語の間であつたり（箒木③）、ひと続きの慣用句や引用文、和

歌などの途中であつたり（桐壺②⑤・箒木②④⑤）、全一〇例すべて、古活字本の不必要な字間の空白を整版本では取り除いたと見てよい。ただし、桐壺①については「河」の字は古活字本のように少し空白を置くか小字で記すかした方がよいところではある。

【8】古活字本の字句の位置を変更した例

〔桐壺〕

- ①無越 輿入 ↓ 無越 輿入 (22ウ・6)

〔箒木〕

- ①さふらひようして 句御座あり ↓ さふらひようして 御座あり (31ウ・2)
- ②えんすれば 句怨 ↓ えんすれば 怨 (33才・11)
- ③中将まちとりて 句品くのあらそひの ↓ 中将まちとりて 品くのあらそひの (35ウ・4)
- ④幸 聚分駒 ↓ 幸 聚分駒 (40才・1)
- ⑤口出 万 又眉をしはむるをも云也 ↓ 口出 又眉をしはむるをも云也 (42才・1)
- ⑥鳥の翫はふくこゝろ成へし ↓ 鳥の翫ハフク こゝろ成へし (44才・6)

典拠の書名を小書きに変更したもの（桐壺①・箒木④⑤）、注釈冒頭の「句」の字を小書きにして項目の後にぶらさげる形に改めたもの（箒木①②③）、漢字の訓を示した部分を片仮名小書きに変え

たもの(簞木⑥)の三種である。いずれも表記の形式を統一しようという意識にもとづいて変更が加えられている。

### 三 古活字本はあらかじめ整版本覆刻を想定していた

以上のように、整版本は、全体にわたって、古活字本に見られる誤字・誤脱・衍字などを訂正し、不足な部分を補ったり不要な部分を削ったりし、また表記の形式を整えたりなどして、本文をより完全な形に近づけていることがわかる。すなわち、整版本は古活字本の改訂新版たるにまことにふさわしいと言えるのである。

ところで、古活字本から整版本への本文の変更点を調べていて気が付くのは、古活字本には、あたかも埋められることが予定されているかのように空白が置かれていて、整版本ではそこにそのまま文字が補われていてうまく空白が埋められた形になっている箇所が多いということである。先に検討した中では「5」の「古活字本になる字句を補った例」にいくつも見られる。桐壺⑦では、古活字本には「勞」の字の後に約五字分の空白があり、整版本ではその位置に「ネキラウトヨム」と訓が小字で注記されている。同⑧では、古活字本には「法師」の後に約八字分の空白があつて、整版本にはそこに「マラウトヨメリ」とやはり訓の注記がある。また、簞木①では、古活字本には「治」の字の後に約四字分の空白があり、整版本ではその部分に「ヲサクト云」という注が補われている。同④に

おいても、古活字本には「佞人」の後に約五字分の空白があり、整版本ではそこに「ネチケヒト」という訓が補われているといった具合である。同⑦⑧においても同様である。他にも、例えば桐壺②でも、古活字本には「親王」の後に約六字分の空白があり、整版本ではそこに「ヨミコトヨム」という注が書かれているのである。

これだけ例が多いと、古活字本は、後で埋めることを予定して意図的に空白を設けていたと考えざるを得なくなる。先に挙げた例の中には略したが、桐壺巻には次のような異同箇所もある。

大公望 懇 ↓ 大公望ヲ勞ネキラウト云ハ 懇ニトアリイカン  
(19ウ・10)

古活字本の二箇所空白部分は、整版部分のような注を補うことを想定して置かれたとしか思えないのである。

古活字本はあらかじめ整版本のような付訓を入れることを予定して随所に空白を置いた。それは、木活字組みという技法上の制約から、古活字本では小書きの訓などが表記し難かつたためであろう。

古活字本はかように欠字箇所が多い本文で、いわば欠陥だらけの本である。それをあえて刊行したのは、近い将来に整版本として覆刻し、その時には付訓・返り点などとともに、古活字本では表現しきれない細かな注記も書き加えて、より完全な形で刊行することを予定していたからだと考えざるを得ないのである。

はじめに述べたように、川瀬一馬氏によれば、『紹巴抄』の古活字本は「寛永後期の開板」であり、整版本は「寛永末年頃」の覆刻

であるとされる。その間、わずかに数年の隔たりしかない。この刊行年次の近さは、最初から古活字本は、近い将来整版本に覆刻することを念頭において作られたものであることを示していると思われるのである。

### おわりに

『紹巴抄』が刊行された寛永後期は、古活字版の隆盛期が終わり、主たる出版形態が整版へと移行する時期にあたる。ごく近接した時期に古活字本と整版本が刊行されたのは、そういう時代の趨勢を反映していることであろう。

古活字版は組版にかかる経費は安いけれども大量出版には向かず、整版は繰り返し刷ることができるので大量出版に向くけれども、手間と経費がかかると言われる。『紹巴抄』がまず古活字本で出されたのは、経費の安い方法で少数数刊行してみ、売れ行きを見た上で改めて整版本に覆刻しようという計画だったからではないだろうか。大部な『源氏物語』の注釈書を刊行するのは相当な冒険で、いきなり経費をかけて整版本で出すことは躊躇されたのであろう。しかし、少数ながら古活字本として出してみると評判がよかったので、当初の意図通り整版本に覆刻した。その際、版木の量を少なくして経費を押さえるために一面十行から十一行に変更したという事情であろうと考えられる。

『源氏物語』の注釈書の出版としての『紹巴抄』の成功が、明暦

三年（一六五七）の『明星抄』刊行へと繋がり、さらには延宝（一六七三〜八一）初年の『湖月抄』へと発展していくことになるわけだ。『源氏物語』享受史上、実に意義深い試みであったのである。

### 〔注〕

(1) 『国書総目録』（岩波書店）では、『紹巴抄』の版本を「寛永古活字版」「古活字覆刻版」「刊年不明」の三種に分類して掲げ、また伊井春樹編『源氏物語 注釈書・享受史 事典』（平13 東京堂出版）にも「版本には寛永古活字版・同覆刻版・無刊記版が存する」と記されているが、今のところ、古活字本と整版本の二種以外には存在を確認していない。

(2) 鈴木徳三編『弘文荘待賈古書目索引』（昭63）によった。

(3) 拙稿「広島大学蔵刊本『源氏物語抄（紹巴抄）』とその書き入れについて」（『広島大学大学院文学研究科論集』第六三巻 平15・12）。本報告書所収。

(4) 稲賀敬二校「翻平安文学資料稿」第二期1『永禄奥書 源氏物語紹巴抄 一、二』（昭51 広島平安文学研究会）による。以下、写本文との比較はすべて同書によって行なった。

(5) 他に、〔5〕に掲げた桐壺①や箒木⑨の例を見ると、古活字本には後に助詞を補うことを念頭に置かれたかと思われる一字分の空白が存在している。

# 『源氏物語抄（紹巴抄）』の古活字本から整版本へ

——刊本『紹巴抄』の書誌的考察（Ⅲ）・項目異同から見た改訂の様相——

妹尾好信

はじめに

『源氏物語抄』、いわゆる『紹巴抄』の刊本には古活字本と整版の二種類があることが知られている。そして、整版本は、古活字本の版面を版下としてかぶせ彫りした覆刻版であり、古活字本の本文をもとにして、新たに漢字の振り仮名や漢文表記部分の返り点・送り仮名などを加えたものであることも明らかである。その際、古活字本の一面十行組みを十一行組みに改めている。

筆者は、前稿『源氏物語（紹巴抄）の古活字本と整版本』（『広島大学大学院文学研究科論集』第六十四巻 平16・12〈本報告書所収〉）において、第一冊目（桐壺く箒木）をサンプルとして、両本の本文の詳しい比較考察を行なった。その結果、整版本は、古活字本にあった誤植や組版上の不備が訂正されている他、項目の立て方や注釈本文の内容にも一部手が増えられていることがわかった。

本稿では、対象を全二十冊すべてに広げ、特に見出し項目（見出

しとして掲げられた『源氏物語』の本文）の異同に注目して、古活字本から整版本への改訂の様相を明らかにしてみたい。

整版本の本文は、広島大学図書館中央図書館蔵『源氏物語抄』（国文一六六七N）を用い、上田市立図書館蔵花月文庫本および熊本大学蔵北岡文庫本を参照した。また、古活字本の本文は、東洋文庫蔵岩崎文庫本を用い、陽明文庫蔵本を参照した。花月文庫本以下の四本については、いずれも国文学研究資料館蔵の紙焼写真によった。

項目の所在の掲出に際しては、『源氏物語』の巻名の次に、便宜上、広島平安文学研究会刊「翻平安文学資料稿」第二期『永祿奥書源氏物語紹巴抄』1〜10（昭51〜61）の項目番号によって掲げ、同書にない項目はその直前の番号にa・b…の記号を付して表わした。番号の下の（ ）内には、整版本の所在を丁数・表（オ）裏（ウ）の別・行数で併記した。また、古活字本と整版本の見出しを並べ記す場合には、（整版本）——（古活字本）の形で示した。

## 一 古活字本の脱落箇所補充

古活字本と整版本の間の項目の出入りを調べていて、まず目につくのは、整版本には古活字本にない項目がままあることである。そのうち、古活字本にない項目が整版本に連続して存在する箇所が数箇所あるが、それらは、古活字本作成の際に誤って生じた脱落を補ったものであると推測される。

その例として、まず、次の3箇所が挙げられる。

- ① 梅枝 129 (11ウ・9) 「しろきあかき」の注釈2行目「ひらは一枚二枚也」(10行目)から、140 (12ウ・4) 「見給ふ人の涙さへ」の注釈3行目「獲<sup>ネリ</sup>麟<sup>ヲ</sup> 哀公狩ニ出<sup>レ</sup>得麟<sup>ヲ</sup> 無道ノ代ニ出タルヨト也」(7行目)まで、整版本で20行分、古活字本に欠。
- ② 若菜上 715 (58ウ・1) 「こなたはさま」から、723 (59オ・9) 「くしいたく」まで、整版本で20行分、古活字本に欠。
- ③ 幻 47 (4ウ・7) 「君に」から、57 (5ウ2) 「たいのおまへの」まで、整版本で18行分、古活字本に欠。

このうち、①と②は、それぞれ整版本で20行分ずつの脱落であるから、古活字本作成時に1丁分の脱落が生じたものと考えられる。

これによって、古活字本の親本も一面十行本であったことが推測される。③は、整版本にして18行分の脱落であるが、おそらく古活字

本の親本ではこの部分が20行あったのであって、ここもやはり1丁分の脱落が生じたのであろう。これら3箇所の脱落部分の本文を整版本では補充しているのである。その際、補充された部分の文字遣いや筆跡が前後に比して全く違和感がないのは、整版本の版下作成時に、改めて活字で組んで印刷し、覆刻版作成と同じ手順で作業を行なったためと考えざるを得ない。手のこんだことをするものであるが、これは、覆刻版の作成が、時間的にも場所的にも古活字本の作成と極めて近いところで行なわれたことを意味しているだろう。

他に、古活字本と整版本の間にまとまった項目の出入りがある箇所として、次の例が挙げられる。

- ① 濬標 71 (27ウ・2) 「すさひに」・72 (27ウ・4) 「おもひやり」と」・73 (27ウ・6) 「ひか心え」・74 (27ウ・8) 「あはれなりし」・75 (27ウ・10) 「ほの見し句」の5項目(2行目く11行目の10行分)、古活字本に欠。

- ② 濬標 81 (28オ・11) 「何とかや」・82 (28ウ・1) 「たれにより哥」・83 (28ウ・3) 「命こそかなひ」・84 (28ウ・6) 「心をかれしとするもたゞ一故とは」・85 (28ウ・8) 「かのすくれ」・86 (28ウ・9) 「いかに」の6項目(28オ・11く28ウ・10の11行分)、70 (27ウ・1) 「年比あかす」の次にあり。

すなわち、古活字本には整版本27ウ・2から27ウ・11までの10行

分がなく、続く28才・1「我は又なく」から「思ふとち哥」の末尾の28才・10までの10行分と、28才・11「何とかや」から28ウ・9「いかに」の末尾(28ウ10)までの11行分が入れ替わっているのである。見出し語の『源氏物語』本文中での出現順から整版本の形が正しいことは明らかで、古活字本は何らかの理由で組版時に1面の脱落と2面の順序転倒が生じたようである。整版本に覆刻するにあたってそれらは補正された。ここもやはり脱落部分は新たに活字で組み直して版下を作成したと考えられる。

まとまった項目の出入りがある箇所は以上であるが、次に、古活字本にない項目が整版本に付加されている例を挙げる。次の12例である。

- ①若紫 32 (4才・9) たいく
- ②若紫 33 (4才・10) さる心はへ
- ③薄雲 97 (39才・2) あかす思事
- ④若菜下 96 (9ウ・11) 神のゐかき
- ⑤夕霧 20 (2才・11) さはかりなゝり
- ⑥竹川 374 (61ウ・2) 侍従と
- ⑦橋姫 215 (17ウ・5) よしさらは
- ⑧総角 162 (51ウ・1) 身をわけて
- ⑨総角 458 (72ウ・8) いかゝこよひは
- ⑩宿木 19 (12ウ・8) 中納言あそん

- ⑪浮舟 366 (55ウ・10) のちに又哥
- ⑫手習 51 (30ウ・1) 御ようめい

①と②は連続した2項目(2行分)であるが、他はそれぞれ別々に存在する。⑪以外は写本(前掲「翻平安文学資料稿」の底本。以下、「写本」と言う場合は同書をさす)にもある項目であるから、古活字本の親本とは異なる写本との校合によつて付加されたものであろう。

## 二 注釈の一部を項目化した例、項目を注釈中に収めた例

古活字本と整版本の項目を比べると、古活字本で注釈文中にある記述を整版本では独立させて別項目としたものや、逆に、古活字本で項目を立てている記事を整版本では注釈文の中に取り込んでしまっているものも存在する。

古活字本で前項の注釈文に一体化した形になっている記事を整版本で独立した項目としている例には、次のようなものがある(整版本における所在を併記する)。

- ①紅葉賀 146 (14才・6) 我ひとり
- ②紅葉賀 147 (14才・7) 人つまは哥
- ③賢木 12 (1ウ・11) 松風すこく
- ④賢木 55 (5才・6) 長奉送使

⑤ 賢木 94 (8ウ・11) 宮は三条の宮に藤壺の事也… (整版本は見出しと注釈の間に空白なし)

⑥ 松風 100 (25ウ・1) 十四日五日晦日

⑦ 乙女 249 (40ウ・7) 大殿にはことし (古活字本には「是まで一日講尺 大殿にはことし五節を…」とある)

⑧ 鈴虫 76 (40オ・1) いつとても (古活字本はこの項を前項末に追い込んで一首の歌として記す)

⑨ 幻 31 a (3オ・9) 人よりことに

⑩ 幻 147 (13オ・3) ふりおつる御なみた

⑪ 紅梅 6 (26オ・4) おなし子なり

⑫ 宿木 489 (49オ・5) せちぶ

⑨は、写本でも前項「31かたはらいたき」の注釈末尾の記事になっているが、『源氏物語』本文の「人よりも」を項目化したものと考えられる。

一方、これらとは逆に、古活字本で項目としているものを整版本では注釈の中に埋没させている例には、次のようなものがある (整版本における所在を併記する)。

① 葵 43 (33ウ・4) 榻事

② 濤標 89 a (29オ・7) 何のあやめも

③ 薄雲 103 (39オ・10) はかくし (整版本では前項下部の余白部分に

ある)

④ 真木柱 309 (86オ・3) 色めかしう (整版本では前項下部の余白部分にある)

⑤ 幻 61 a (5ウ・11) さらに (前項 61「そのことのさらても」の注の一部とする整版本や写本が正しい)

⑥ 紅梅 98 a (33オ・3) 北方と

⑦ 橋姫 67 (7オ・1) 人傳にきくことなど

⑧ 総角 184 a (53オ・4) 心せはくは

⑨ 宿木 309 a (34オ・11) いてやから

これらは、古活字本の不備を整版本で訂正したということなのだろうが、③・④・⑦は写本でも項目化されており、古活字本のごとく項目として扱うのがよいと思われる。もつとも、③と④は、整版本においても、短い項目である前項下部の余白部分に置かれた項目と見ることが出来る。また、整版本・写本ともに項目としていないが、⑧は『源氏物語』本文の「心せばく」に関する注として、⑨は同じく「いでや」に関する注として、それぞれ古活字本のごとく項目化してよいように思われる。やや問題を含んではいるが、これらは整版本に覆刻するにあたって、ある見識をもって古活字本の項目を廃したのであろう。

### 三 見出しと注釈との間の空白の有無

『紹巴抄』では、各項目は、『源氏物語』本文の一節を見出しとして掲げて、その下に約1字分の空白を置いて注釈が書かれるという形式になっている。ところが、中には組版上の不手際から空白が置かれていない場合もある。古活字本で空白がないものは多くの場合整版本では空白が置かれて正されているが、中には正されていないものも存する。

古活字本では見出しと注釈の間に空白がないが、整版本で正されているものには、次のような諸例がある。

- ① 桐壺 61 (12才・10) さは — さはされはこそと人く云也
- ② 空蟬 53 (6才・8) さかし — さかし御領状也
- ③ 夕顔 305 (34才・11) とりあやまちても — とりあやまちてもくるしかるましきとなり
- ④ 若紫 110 (9ウ・7) 仏は — 仏はまへの首尾なるへし
- ⑤ 若紫 286 (24才・11) み帳見屏風などあたりく — み帳み屏風などあたりくしはやすめ字にや
- ⑥ 花宴 17 (20才・7) 源氏の君の御をは — 源氏の君の御をはてにをは也
- ⑦ 須磨 236 (50ウ・11) あこの — あこの我子
- ⑧ 明石 84 (7ウ・1) 花紅葉の — 花紅葉の定家卿こゝにて…

- ⑨ 乙女 144 (32ウ・1) さう — さうしやうとよむへし
- ⑩ 乙女 238 (40才・2) いてや物けなし — いてや物けなしめとの詞

⑪ 真木柱 196 (76ウ・3) 中宮 — 中宮秋好中宮

⑫ 藤裏葉 153 (30才・3) 御よろこひに — 御よろこひに群賀諸家へ也

⑬ 若菜上 628 (52才・1) むかしの世のあたならぬ人 — むかしの世のあたならぬ人大かたの世の人くの中の…

⑭ 横笛 139 (33才・4) みしかく — みしかく大かたのあはれをみしかくは中く世の(古活字本は頭が1字下がっている)

⑮ 鈴虫 46 (38才・9) 有はてぬ — 有はてぬ哀まつまの体斗憂ことしけく思はずもかな(古活字本は頭を1字下げて一首の和歌として記す)

⑯ 夕霧 17 (2才・8) 今しはし — 今しはし命也

⑰ 夕霧 445 (35才・10) 人くいと所せき — 人々と所せき御子達也

⑱ 御法 49 (46ウ・2) さるは — さるはさうあつて也

⑲ 幻 84 (8ウ・2) ひろふ — ひろふこなたかなたへ…

⑳ 幻 166 a (14ウ・4) 若宮 — 若宮三宮なり(写本はこの項目欠、166 「なやはん」の末尾に「三宮也」とのみある)

㉑ 竹川 116 (42才・5) をもりかに心ふかきけはまさり給へれと — をもりかに心ふかきけはまさり給へれと此段は…

③竹川 214 (50才・7) おほしとむる — おほしとむる院

④竹川 367 (61才・3) こ宮 — こ宮堂

⑤橋姫 1 (2才・7) その比 — その比八宮の事始て書出…

⑥宿木 13 (12ウ・1) 宮たちの御かたはらに — 宮たちの御か

たはらに薫宮達の…

⑦宿木 14 (12ウ・2) もとより思ふ人 — もとよりおもふ人宇治

大君…

⑧宿木 244 (29ウ・1) ことさらにしのひ — ことさらにしのひ別

て大君…

⑨宿木 284 (32才・9) 思ひ聞ゆる — 思ひきこゆる前々位にも…

⑩宿木 430 (44ウ・1) 天人の — 天人の(マ)のね覚物語に…

⑪宿木 492 (49才・10) 右のおとゝ — 右のおとゝ々

⑫東屋 12 (2才・5) 聲なとほとく — 聲なとほとくほとむ

となり

⑬浮舟 135 (39才・5) さばかれ給はんもいかゝなれ共 — さはか

れ給はんもいかゝなれとも実事に… (整版本は「とも」を「共」

に換えることによつて見出しの下に空白を作つてゐる)

⑭浮舟 193 (43才・10) まらうとのぬしさてなみえそや — まらう

とのぬしさてなみえそや宿守かしつく主にて…

⑮浮舟 241 (46ウ・6) 宇治に — 宇治に爰にも

⑯蜻蛉 41 (4ウ・4) かたへ — かたへ兄弟也…

⑰蜻蛉 293 (21ウ・10) はへなん — はへなん侍るなり

⑱蜻蛉 299 (22才・7) 宮の — 宮の句

⑲手習 293 (48才・2) いとおしく句 — いとおしく句なくも

一方、これとは逆に、古活字本には見出しと注釈の間に空白があるのに、整版本の方に空白がない例もある。これらは覆刻の際に生じたミスと考えられる。次のような例である。

①明石 114 (9ウ・9) ひとりねは入道哥 — ひとりねは 入道哥

②濬標 214 (38ウ・2) よにつましましよは… — よにつましましよ

は…

③濬標 215 (38ウ・3) 下給ひし齋宮の… — 下給ひし 齋宮の…

④松風 38 (19ウ・7) よるひかりけん史記曰 — よるひかる 史

記曰

⑤薄雲 76 (37才・11) 引すくし青本如レ此すくれたるといはん用か

— 引すくし 青本如此…

⑥若菜上 538 (45才・6) 佛の御てしの仏雖へトモ滅ト常在靈山の心を

弟子等知りながら — 佛の御てしの仏雖滅々 為

⑦鈴虫 103 (41ウ・8) きこえつけし付也 — きこえつけし 付也

⑧幻 16 (2才・10) 雪ふりたりし此段… — 雪ふりたりし 此段

…

⑨竹川 86 (40才・1) むつひさりし玉は… — むつひさり 玉は

…

⑩ 竹川 249 (52ウ・7) さるはかきりなき又自リ是レ： |  
さるはかきりなき 自是：

そして、古活字本にも整版本にもともに見出しと注釈の間に空白がない例もある。これらは、整版本に覆刻の際に古活字本の不備を訂正しえなかつたものと考えられる。

① 若紫 149 (13才・5) 僧都きんを琴は禁也とて：

② 末摘花 105 (36ウ・11) 心にくゝもてなし命婦の心にくき：

③ 紅葉賀 110 (10才・8) 平調にをしくたして筆ノ柱をさけてたつる也

④ 紅葉賀 109 (10才・9) ゆしは左の手にて及てをすことをいへり  
| ゆし左の手にて及てをすことをいへり

⑤ 紅葉賀 112 (10ウ・4) 一日も詩云一日モ： | 一日も詩云一日も：

⑥ 紅葉賀 180 (16ウ・8) 七月中宮に成給へる非<sub>二</sub>十月<sub>一</sub>

⑦ 紅葉賀 181 (16ウ・11) 廿よねんとよみ給へり (あるいは見出し脱か)

⑧ 葵 167 (45才・10) つれなの御訪やさてもとなり

⑨ 葵 251 (52ウ・5) 中将君といふ誰共なし東の對にて御足さすらせ給ふ也

⑩ 賢木 86 (8才・11) わか御世のおなし事にて位をさりて世を政し

給ふ

⑪ 須磨 133 (42ウ・8) 出いり給ひし出給ひ：

⑫ 関屋 8 (53ウ・5) 車ともかきおろし牛をはつし轆<sub>ナカエ</sub>をおろすなり

⑬ 若菜上 701 (57ウ・5) つはいもちい椿葉<sub>ツハキソバ</sub>をへたてにしたる餅也

⑭ 若菜上 714 (58才・10) たいくしき退々<sub>タイク</sub>いかてかさはあるへきと云心也

⑮ 若菜下 91 (9ウ・3) 女御の御めのと此乳母<sub>メノト</sub>：

⑯ 若菜下 263 (22ウ・1) そのかみのかたはしもなきそと也なまくなれば：

⑰ 匂宮 73 (21ウ・8) おりなしからなんまさりける薫の折給ふは：

⑱ 匂宮 107 (24才・6) をしとゝめさせて夕の子共達など薫を同道なり

⑲ 紅梅 7 (26才・5) をのく御かたの乳母<sub>メノト</sub>などの当母：

⑳ 紅梅 32 (27ウ・10) 参りくへきを北方留守にはと：

㉑ 竹川 194 (48ウ・5) さまたけやうにおもふらんはしもめさましきこと句かきりなきにてもなり | さまたけやうにおもふらんはしもめさましきこと句かきりなきにてもなり

㉒ 竹川 210 (49ウ・11) とりて見給ふ玉と云義いかゝ：

㉓ 竹川 303 (57才・1) 年比諸人望<sub>ノソメトモ</sub>不<sub>レ</sub>成：

#### 四 見出しの掲げ方の相違

古活字本と整版本との間には、見出しの掲げ方に相違がある場合  
 がかかりある。

そのうち、古活字本で見出しと注釈との区切り方を誤っているの  
 を整版本が正しているものには、次のような例がある。

- ①夕顔 83 (16ウ・6) しをん色のおりにあひたる句 | しをん色  
 のおりに あひたる句うす物のあさやかこれ
- ②夕顔 318 (35ウ・4) くしは | くしはとこほる 所をとく故
- ③若紫 35 (4ウ・1) かいりう王 | かいりう 王 吉祥天女：
- ④若紫 165 (14オ・8) おもかけは身をも | おもかけは 身をも  
 心を：
- ⑤明石 44 (4オ・1) わたくしにいさゝか | わたくしに いさ  
 ゝか
- ⑥滂標 84 (28ウ・6) 心をかれしとするもたゝ一故とは | 心を  
 かれしと するもたゝ一故とは紫上ゆへ：
- ⑦滂標 177 (36オ・10) 斎宮 | 斎宮御代一度に たち給へり
- ⑧滂標 233 (39ウ・10) 物の心しる人はさふらはれてもよくやあらん  
 とおもへ | 物の心 しる人は：
- ⑨絵合 35 (3ウ・7) その比 | その比院へ 源
- ⑩絵合 54 (5オ・5) 御心ふかゝらていまみん | 御心ふかゝら

て いまみん：

- ⑪薄雲 193 (46オ・4) 世を政事は | 世を政事 は
- ⑫朝顔 136 (12オ・11) たかならはし | たかならはしおさあひよ  
 り
- ⑬朝顔 150 (13ウ・11) 扇 | 扇冬も女はもてり
- ⑭乙女 124 (31オ・3) よ所くになりて | よ所くになりてへ  
 たゝりては
- ⑮乙女 129 (31ウ・2) なにのみこ くれの源氏 | なにのみこ  
 くれの 源氏何くれと：
- ⑯篝火 19 (20ウ・11) 行ゑなき | 行ゑなき玉の哥
- ⑰真木柱 253 (81ウ・5) なをくしき心ちして句 | なをくし  
 き 心ちして句
- ⑱梅枝 60 (6ウ・6) 蔵人所 | 蔵人頭撰関
- ⑲若菜上 678 (56オ・2) きやうぎやう | きやう きやう
- ⑳若菜上 687 (56ウ・6) をしおりて | をしおりて是も心なし
- ㉑夕霧 14 (1オ・4) 松か崎マツカサキのを山 さる岩 | 松か崎マツカサキのを山し  
 さる山
- ㉒夕霧 33 (3ウ・7) しかはりて六時にかはれり | しかはり
- ㉓匂宮 25 (18オ・1) 御そふ所 より所と云： | 御そふ所より  
 所と云：
- ㉔匂宮 101 (23ウ・6) ことにこそあるへけれ | ことにこそあ  
 るへけれ

⑤ 匂宮 111 (24ウ・1) もとめこまひてかよれる袖 | もとめこまひて かよれる袖

⑥ 紅梅 2 (25ウ・7) さしつきよ | さしつきよ

⑦ 竹川 67 (38ウ・9) さらは袖ふれて | さらは 袖ふれて

⑧ 竹川 72 (39オ・5) おとゝ夕霧 | おとゝ夕霧

⑨ 竹川 174 (46ウ・6) このまへ 中立也… | このまへ中立也

…

⑩ 竹川 192 (48オ・11) いきしにをといひしさまの句 | いきしにをといひしさまの句

次に、見出しの掲げ方そのものに相違がある場合もある。次のような例である。

① 桐壺 77 (13ウ・11) 内侍の | 内侍のし

② 箒木 30 (33オ・11) えんすれば句 | えんすれば〔句〕は注釈冒頭に付く)

③ 箒木 370 (60ウ・5) 人ちかゝらん | 人ちかゝらんし

④ 夕顔 28 (13オ・3) むこの | むこのし

⑤ 夕顔 276 (32オ・3) おやたち | おやたちから云出せり 三位

⑥ 若紫 90 (8オ・8) また又も同 | また又も同

⑦ 末摘花 165 (41ウ・9) いとよう | いとようかさ おほせたりと…

⑧ 紅葉賀 85 (8オ・10) 見てもおもふ哥 | 見てもおもふ

⑨ 紅葉賀 169 (16オ・2) 中たえは哥 | 中たえは

⑩ 花宴 5 (19オ・6) 宰相の中将春と云 | 宰相の中将

⑪ 花宴 46 (23オ・6) 四位少将右中弁 | 四位少将

⑫ 花宴 70 (25ウ・5) 我か宿の花し | 我か宿の花

⑬ 花宴 74 (26オ・6) 桜の唐の綺 | 桜の唐の綺は

⑭ 賢木 218 (19オ・9) 白こう日をつらぬけり太子をちたり | 白こう

⑮ 須磨 143 (43ウ・9) ものゝ色句し給へるし給ふ衣装 | ものゝ色句し給へる

色句し給へる

⑯ 須磨 148 (44オ・5) あけぬ夜の | あけぬ夜の夢となり

⑰ 須磨 191 (47オ・5) とこ世いてゝ哥 | とこ世いてゝ

⑱ 須磨 210 (48ウ・9) ことの音に哥 | ことの音に

⑲ 明石 119 (10オ・5) 遠近のもい哥 | 遠近の哥

⑳ 明石 191 (16オ・5) 日記の | 日記のし

㉑ 滯標 26 (24ウ・5) 内句春宮 | 内句春宮

㉒ 蓬生 7 (41ウ・11) ひたちの宮の | ひたちの宮のし

㉓ 蓬生 120 (49オ・5) 尋よりてを句 | 尋よりてを 句うちいてよ

㉔ 絵合 61 (5ウ・6) やよひの | やよひのし

㉕ 絵合 70 (7オ・8) かくやひめ | かくやひめし

㉖ 松風 38 (20ウ・7) よるひかりけん史記曰 | よるひかる 史

記曰

- ①朝顔 118 (11才・3) いと — いとつと 様躰も…
- ②朝顔 130 (12才・3) むかしよりあまた — むかしよりあまた句へ
- ③初音 150 (41才・2) おほやけ人に — おほやけ人
- ④常夏 86 (8才・10) おやさくるは — おやさくる
- ⑤行幸 40 (36ウ・4) しかくイ — しかしか
- ⑥藤袴 10 (50才・9) さりとてかゝる あしき — さりとてかゝるし あしき
- ⑦若菜上 19 (3才・10) 古院のうへ — 古院のうへし
- ⑧若菜上 211 (17才・1) 小松原哥 — 小松原
- ⑨若菜上 237 (18ウ・8) わたくしことの — わたくしことの賀は
- ⑩若菜上 341 (27才・2) 花はみな — 花はみな散過也
- ⑪若菜上 653 (54才・2) 山住を — 山住を入道
- ⑫若菜下 448 (35才・2) はふきかへし給へとこそ思へと — はふきかへし給へとこそ思へと省
- ⑬若菜下 549 (41才・11) 身もしむる — 身もしつむる 心ちして おそろしくうしろさむき心也
- ⑭若菜下 635 (47才・6) すき物は — すき物は栢也 好色仁は…
- ⑮若菜下 661 (49才・6) 大将 — 大将栢と 談合有て…
- ⑯夕霧 159 (13才・5) ひたふる心も付也 — ひたふる心も付也
- ⑰夕霧 238 (19才・11) 日比おもくイ — 日比をもく

- ⑱夕霧 243 (19ウ・9) 心つよさ — 心つよさなれと
- ⑲夕霧 463 (36ウ・10) けにとも思ひ句 — けにもと思ひ句
- ⑳幻 12 a (2才・3) おほそうに — おほそうにあたりちかく引 させては…(写本は12「中くよく立たり」の注釈文中に埋没する)
- ㉑竹川 63 (38ウ・2) おりて見は哥 (見出しの下に空白なし) — おりて見は
- ㉒竹川 141 (44才・4) 見わきつ句 けに也 — 見わきつ句<sup>ぎやく</sup>けに也
- ㉓竹川 158 (45ウ・1) うへはこゝに — うへはこゝ
- ㉔竹川 248 a (52ウ・6) くるしとおほして — くるしとおほしてぬい (写本にはこの項目なし)
- ㉕橋姫 51 (5ウ・5) 嶺の朝う — 嶺の朝
- ㉖総角 320 (62ウ・4) おもひはてゝ句 — おもひはてゝ
- ㉗総角 365 (66才・8) あきはてゝ哥 — あきはてゝ哥句
- ㉘宿木 12 (12才・10) しはしはいてや世に — しはしは
- ㉙宿木 268 (31才・9) まねひ物からまで双 — まねひ
- ㉚宿木 557 (53ウ・2) これよりはいとよく — これよりは
- ㉛東屋 188 (14ウ・5) けにたゝいまの — けにたゝいまの異本
- ㉜浮舟 21 (30才・3) 年月もあまり昔をへたてゆき — 年月もあまり
- ㉝浮舟 29 (31才・1) 宇治の名のりつきく — 宇治の名のり
- ㉞浮舟 36 (31才・9) こゝにはいとめてたき — こゝには

②蜻蛉 170 (13ウ・5) つれなしと哥 | つれなしと哥

③蜻蛉 208 (16オ・11) 丁子 | 丁子し

④蜻蛉 316 (23ウ・5) になるへきこのかみや侍るへき | になるへき  
このかみや

⑤手習 197 (41ウ・2) ことなしび | ことなしび

⑥手習 211 (42オ・10) たちはてゝ | たちはててし

⑦手習 318 (49ウ・7) おもひみたれて句 | おもひみたれて

⑧夢浮橋 24 a (54ウ・10) 大やけわたくしは | 大やけ (写本は  
24 「くらゐなど」の注釈文中に埋没する)

見出しの末尾に時々ある「ー」(④・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭・⑮)や「し」  
(③・⑫・⑬・⑭・⑮・⑯)のように見える符号の意味はよくわ  
からない。前者は古活字本のみだが、後者は古活字本にも整版本に  
も見えている。他に「う」に見える例(⑮)もある。

ところで、見出しの文字遣いに目を向けると、古活字本と整版本  
の間に文字遣いが異なる例がいくつもある。次のような例である。  
どうして文字遣いを変更したのか定かでないものが多いが、③は  
「よ」という語の解釈の相違であろう。

①乙女 391 (52ウ・11) 数ならぬ | かすならぬ (「資料稿」に項目  
番号 341とあるのは誤り)

②藤裏葉 33 (20オ・2) おくしに | をくしに

③竹川 261 (53ウ・11) 過にし夜の | 過にし世の

④総角 123 (48オ・10) それは(字母「八」)さるへき | それは(字  
母「盤」)去へき

⑤宿木 331 (36オ・1) かの御みゝ | かの御みみ

⑥浮舟 192 (43オ・9) かのみゝとゝめ | かのみみとゝめ

### 五 項目の頭の位置の訂正

『紹巴抄』の項目の形式は、見出しを注釈部分より1字分上げて  
記し、注釈の行頭は見出しより1字下がったところにそろえられて  
いるわけだが、古活字本には、見出しの頭が1字分下がったり、逆  
に注釈部分の行頭が見出しと同じように上がった形になっている箇  
所がまま見られる。整版本ではそれらレイアウト上のミスはほぼ正  
されている。分類して示すと、次のような諸例がある。

〔1〕古活字本で見出しの頭が1字分下がっているのを整版本で正  
した例

①箒木 142 (42オ・3) にこりにしめる

②箒木 164 (44ウ・4) りんし

③夕顔 313 (35オ・6) なくくも哥

④若紫 125 (10ウ・11) 鹿の

⑤若紫 226 (19ウ・8) まゆうど | まゆうとにと云人あり誤也

⑥乙女 109 (29ウ・5) 兵部卿と聞こえし今は式部卿にて

⑦胡蝶 38 (46ウ・8) こともなき

⑧胡蝶 90 (51オ・4) そをれ

⑨梅枝 59 (6ウ・5) おとゝのあたり

⑩横笛 139 (33オ・4) みしかく (古活字本は見出しの下に空白なし)

⑪鈴虫 46 (38オ・9) 有はてぬ (古活字本は1字下げで一続きの和歌として記す)

⑫御法 65 (47ウ・8) 宮もかへり給はて (古活字本は1字下がっていて項目としない)

⑬幻 3 (1オ・10) 兵部卿

⑭早蕨 87 (8オ・7) 弁の尼の

⑮宿木 207 (26ウ・3) 御たいやつ (古活字本は約半字分下がっている)

⑯手習 49 (30オ・10) 打すてましかは句 | 打すてましかは

〔2〕古活字本で誤って注釈の一部が1字分下がっているのを整版  
本で正した例

①行幸 12 (33オ・3) このゑ青 「赤椽は黄柳と茜とにて摺たるかり衣也」 (33オ・9) (古活字本はこの1行が1字分下がっている)

②若菜下 5 (1ウ・8) 三月はた御きつき 「礼記唐には 忌日ありて 忌月なし」 (1ウ・9) (古活字本はこの1行が1字分下がっている)

〔3〕古活字本で誤って注釈の一部が1字分上がっているのを整版

本で正した例

①空蟬 43 (5ウ・3) ねひれて 「軒はの萩は見事ながら進退又温かなくとみえたり」 (5ウ・5) (古活字本はこの1行が1字分上がっている)

②空蟬 92 (8ウ・6) うつせみの哥 「うつくしきと云心もありうつくしいとせもしはそへ」 (8ウ・9) (古活字本はこの1行が1字分上がっている)

③薄雲 138 (41ウ・11) 一世の源氏又なうこん (古活字本は注釈の末尾2行が1字分上がっている)

④朝顔 179 (16オ・9) 内にも御心のおにゝ 「薄雲の事をわさとは思召也」 (16オ・11) (古活字本はこの1行が1字分上がっている)

⑤乙女 65 (22ウ・11) おほしかいもとあるし 「あるしは主なり爰にても大学衆ならぬ公卿は」 (23オ・3) (古活字本はこの1行が1字分上がっている)

⑥乙女 90 (26オ・1) れうし 「擬ナスラウル心歟 諸國より上らぬも進士なら」 (26オ・11) (古活字本はこの1行が1字分上がっている)

⑦乙女 105 (28ウ・11) もんにんぎさう 「爰迄 一日の講尺也」 (古活字本は項目末尾にこの1行があり、1字分上がっている。整版本はこの行を削除し、1行分空白にする)

⑧乙女 131 (31ウ・5) 物の上手の後 「糸竹は合器なくては難成道となるへし」 (31ウ・6) (古活字本はこの1行が1字分上がって

いる。写本はこれを項目「132糸竹は」とする)

- ⑨ 乙女 249 (40ウ・7) 大殿にはことし 「をとめとも乙女さひずも  
からたまをたもとにまきて」(41オ・3) (古活字本はこの1行が  
1字分上がつている)

- ⑩ 乙女 262 (42ウ・4) あめにます哥 「拾遺みてくらはわかにはあ  
らす天にます豊をか姫の神の」(42ウ・10) (古活字本はこの1行  
が1字分上がつている)

- ⑪ 乙女 272 (44オ・3) あをすりのかみ 「臨時祭舞人のほ青摺と名  
付」(44オ・11) 「大嘗會シヤウエの時は小忌ラミといへり 記キスルニ 無キ暇イトマ間下  
略」(44ウ・1) (古活字本はこの2行が1字分上がつている)

- ⑫ 乙女 315 (47オ・5) 朱雀院行幸 「朝觀朝テウキョウはまいる也參心歎 觀  
はまみゆるか」(47オ・7) (古活字本はこの1行が1字分上がつて  
いる)

- ⑬ 乙女 325 (48オ・6) うくひすの哥 「むつれしは古院の事なり」  
(48オ・8) (古活字本はこの1行が1字分上がつている)

- ⑭ 玉鬘 16 (2ウ・7) 舟人も哥 「神無月時雨降日の暮る間は君ま  
つ程になかしとそ思」(2ウ・10) (古活字本はこの1行が1字分  
上がつている)

- ⑮ 玉鬘 129 (12ウ・2) しみつのみてら 「とふさたて足柄山アジハシに舟木  
きり木にきりよせつあたら」(12ウ・3) (古活字本はこの1行が  
1字分上がつている)

- ⑯ 玉鬘 245 (21オ・10) つれなくて人の 「やうにてしらんとの心と

源の御すいりやうなり」(21オ・11) (古活字本はこの1行が1字  
分上がつている)

- ⑰ 玉鬘 284 (25オ・6) かへさんとの哥 「いとせめて恋しき時はむ  
は玉の夜の衣を返してそぬる」(25オ・9) (古活字本はこの1行  
が1字分上がつている)

- ⑱ 蛸 78 (64オ・2) 身をなけたるてまどはし 「長和二年五月十二  
日左大臣の上東門院の亭に行幸有」(64オ・4) (古活字本はこの  
1行が1字分上がつている)

- ⑲ 常夏 34 (3ウ・11) おなしかさし 「おなしかさしの事おなしか  
さしをさしこそはせめの」(4オ・2) (古活字本はこの1行が1  
字分上がつている)

- ⑳ 野分 31 (25オ・4) おとゝのかはら 「三躰八句ニ」(25オ・4)  
(古活字本はこの1行が1字分上がつている)

- ㉑ 行幸 101 (41オ・2) さしもあらんと 「おとゝの御心あやにな  
ると 双地也」(41オ・3) (古活字本はこの1行が1字分上がつて  
いる)

- ㉒ 藤裏葉 155 (30オ・5) 浅みとり哥 「紫の色こきまては知さりき  
御代のはしめの天のは衣」(30オ・9) (古活字本はこの1行が1  
字分上がつている)

- ㉓ 若菜下 699 (51ウ・8) 後漢書列傳 「韓 姓康字伯休」(古活  
字本はこの1行が1字分上がつている)

- ㉔ 椎本 22 (21ウ・7) 一こつてうの心に 「桜人は麗キイナル人歎」(21

ウ・11) (古活字本はこの1行が1字分上がっている)

乙女・玉鬘の巻に特に集中し、その前後にも目立つのは、古活字本の版組み作成の作業時、職人がやや注意散漫になっていたのだからか。

逆に、整版本の方が誤って、注釈の一部が1字上がっている例が1箇所ある。

①梅枝 159 (14才・9) 女子など 「無器用にてはいかゝまして男はとなり」 (14才・10) (この1行が1字分上がっている)

そして、古活字本も整版本もともに見出しの頭が1字分下がっている例も次の7例ある(整版本における所在も併記する)。これらは、整版本に覆刻する際に訂正しそびれたものであろう。

- ① 箒木 99 a (38ウ・1) おほとか
- ② 箒木 181 (46才・11) きこえさせつる
- ③ 箒木 333 (57ウ・6) 君達あさまし
- ④ 若紫 1 (1才・10) わらはやみ
- ⑤ 末摘花 100 (36才・10) かゝる事
- ⑥ 末摘花 190 (44才・11) 山吹か
- ⑦ 行幸 164 (45才・10) しどかみ

これらのうち、①のみは写本でも1字下がっていて、前項の注釈文中に埋没した形になっている。

#### 六 見出しの文字の誤りの訂正

項目の異同という視点で古活字本と整版本を比較した場合、最も目につくのは、見出しにおける文字の相違である。それも、ほとんどの場合が、古活字本の文字の誤りを整版本が正した形になっている。次のような諸例が挙げられる。

- ① 箒木 195 (47ウ・2) 人なみく | 人みなく
- ② 箒木 202 (48才・1) 手をおりての哥 | 手をおもての哥
- ③ 箒木 272 (53才・7) あへか | あへる
- ④ 箒木 314 (56ウ・4) したゝかなり | したゝかなる
- ⑤ 箒木 352 (59ウ・2) ひとつ | ひとつゝ
- ⑥ 夕顔 42 (13ウ・8) すほう | すをう
- ⑦ 夕顔 137 (21ウ・8) ぬかつく | ぬるつく
- ⑧ 夕顔 170 (24才・4) ひかりありとの哥 | ひかりあるとの哥
- ⑨ 夕顔 198 a (26才・9) きけとし | きけと申(写本は欄外に補記)
- ⑩ 若紫 31 (4才・8) けしうはあらす | けうはあらす
- ⑪ 若紫 198 (17才・10) 御めのとこの弁 | 御めのと此弁

- ⑫ 若紫 246 (21才・7) そゝろさむけに — そゝろきさむけに
- ⑬ 若紫 253 (21ウ・10) ふたかへり — ふたりかへり
- ⑭ 若紫 274 (23ウ・7) すきかましきこと — すきかましきへと
- ⑮ 若紫 292 (24ウ・8) すゝろ成人は — すゝろ成へは
- ⑯ 末摘花 27 (29ウ・6) まらうと — まううと
- ⑰ 末摘花 38 (30ウ・4) すいしんからこそ — すいしんかうこそ
- ⑱ 末摘花 176 (43才・5) かいなで — かいなく
- ⑲ 末摘花 184 (43ウ・9) かひねりは — かねねりは
- ⑳ 末摘花 211 (46才・6) へいちう — へうちう
- ㉑ 紅葉賀 20 (3ウ・2) 御后ことは — 御后ことき
- ㉒ 紅葉賀 103 (9ウ・3) あされたる — あまれたる
- ㉓ 紅葉賀 155 (15ウ・9) ほどく — はとく
- ㉔ 紅葉賀 179 (16ウ・7) うるさくてなんまで — うるくてなんまで
- ㉕ 花宴 36 (22才・11) 帥宮の北方 — 師宮の北方
- ㉖ 花宴 49 (23才・10) 桜の三重かさね — 桜の三かさね
- ㉗ 花宴 60 (24ウ・7) おきなもほどく — おきなもはとく
- ㉘ 花宴 64 (25才・2) ましてさかゆく春に — ましてさかやく春に
- ㉙ 花宴 75 (26才・8) しりいとなくひきて — しりいとなくひけて
- ㉚ 葵 3 (29ウ・2) 御身のやんことなさまそふにや — 御身のや

- んことなきもそふにや
- ⑤ 葵 45 a (33ウ・10) ことなりぬ — ことりぬ (写本は1字下げて記す)
- ⑥ 葵 88 (38ウ・11) うちとけぬ朝ほらけ — うち拝ぬ朝ほらけ
- ⑦ 葵 269 (34才・6) あなかしこあたになといへは — あなかしこあなたになといへは
- ⑧ 賢木 29 (3才・5) かはらぬ色を — かはらぬ宮を
- ⑨ 賢木 50 (4ウ・10) ほとちかく — はとちかく
- ⑩ 賢木 133 (12ウ・6) しよきやうでん — せよきやうてん
- ⑪ 賢木 199 (17ウ・7) しばふるい人 — しばふる人 (ただし、写本は「しはふる人」)
- ⑫ 賢木 205 (18才・9) 宮のあひた — 宮のあひこ
- ⑬ 賢木 208 (18ウ・4) あたら — あたしおもひやり
- ⑭ 賢木 230 (20ウ・4) あひ見すて哥 — あひすすて哥
- ⑮ 賢木 300 (27才・5) 兵部卿とも帥とも — 兵部卿とも咄とも
- ⑯ 須磨 91 (39才・10) いつか又哥 — いつる又哥
- ⑰ 須磨 168 (45才・11) えねんし (ただし、頭が1字下がる) — こんねんし
- ⑱ 須磨 170 (45ウ・2) ちかきほとん — ちかきはとの
- ⑲ 須磨 192 (47才・6) 友まとはしてはいかゝ — 友まとはしてはいかゝに
- ⑳ 須磨 249 (51ウ・10) ゆるし色の黄かちなるに青にひのかりきぬさ

しぬき — ゆるし宮の黄かちなるに青にひのかりきぬさしぬき  
⑤ 明石 8 (1ウ・9) みちかひにてたに人の何そ — みちかひも  
とに人の何そ

⑥ 明石 109 (9ウ・2) ほとくにつけて — ほとくにつけて

⑦ 明石 165 (14オ・5) ちかき木丁のひも — ちかきる丁のひも

⑧ 明石 203 (16ウ・8) ほとさへより — ほとさへより

⑨ 濤標 2 (22オ・7) み八講 — 三八講

⑩ 絵合 134 (14オ・5) をれもの — をのれもの

⑪ 松風 36 (19ウ・4) よするなみに — かへるなみに

⑫ 松風 53 (20ウ・8) にしきをかくし — にしきをかへし

⑬ 薄雲 53 (35ウ・3) まいり給へるまらうと — まいり給へるま  
うらうと

⑭ 薄雲 116 (40オ・5) こたい — こたひ

⑮ 薄雲 151 (42ウ・5) にひ色 — にひ

⑯ 朝顔 135 (12オ・10) まろかれ — まろかれ

⑰ 乙女 35 (20オ・5) をひつかすまじう — をひつるすまじう

⑱ 乙女 73 (24オ・7) さるかつかましく — さるからかましく

⑲ 乙女 172 (35オ・11) おしくあさやき — おかしくあさやき

⑳ 乙女 177 (35ウ・7) 見給へも付す — 見給へ付す

㉑ 乙女 219 (38ウ・4) おもふ給へらるゝ事はしりかなん — おもふ  
給へらるゝ事はしりかなん

㉒ 乙女 289 (45ウ・4) きんち□ (1字分空白) は — きんちうは

(整版本は、古活字本の「う」を「ら」に訂正するつもりで削った  
ままたれたか)

㉓ 乙女 305 (46オ・11) 物うくのみ — 物こくのみ

㉔ 乙女 314 (47オ・4) いつかしき — いつかしき

㉕ 玉鬘 30 (4オ・7) きついつつ — きついつつ

㉖ 玉鬘 60 (6オ・9) 君にもし哥 — 君もしい哥 (「靈也 此哥は  
廣経」ナシ)

㉗ 玉鬘 82 (8オ・9) このちのせいしをは — このちのせいしと  
は

㉘ 初音 22 (28オ・8) きこへかはし給ふ — きえかはし給ふ

㉙ 初音 49 (31オ・11) えしも見過し — えしも見返し

㉚ 常夏 134 (12オ・5) くちいれかへさい — くちいれかへさい

㉛ 行幸 11 (32ウ・9) たかゝひにかゝつらひ — たかひにかゝつ  
らひ (写本は「たかにかゝつらひ」)

㉜ 真木柱 49 (65ウ・9) 内への給はする — 内々の給はする

㉝ 藤裏葉 192 (33オ・11) れいのみつらにひたいはかり — れいの  
みつらにひたいけり

㉞ 若菜上 224 (18オ・1) すかゝき — すかくき

㉟ 若菜上 227 (18オ・5) のほる音の — のほる昔の

㊱ 若菜上 239 (19オ・1) 時くは老やまさると — 時くは老や  
まさるゝ

㊲ 若菜上 245 (19オ・7) 御車よせたる所に — 御車かせたる

- ⑤ 若菜上 298 (23ウ・11) よだけく — よたふく
- ⑥ 若菜上 485 (38ウ・7) 世をすてゝ哥 — 世をすてし哥
- ⑦ 若菜上 523 (43ウ・2) むかふるはちす — むかふるはち
- ⑧ 若菜上 576 (47ウ・6) ゆつりきこえ — ゆつりきにえ
- ⑨ 若菜上 613 (50ウ・6) いとつきなし — いと□□ (文字欠損)  
きなし
- ⑩ 若菜上 690 (57オ・3) ひこしろふ — ひうしろふ
- ⑪ 若菜上 713 (58オ・9) 中の御おほえの — 中の御かほえの
- ⑫ 若菜下 360 (29オ・4) はやくより — はやくより
- ⑬ 若菜下 373 (30オ・4) こちたく — こちなたく
- ⑭ 若菜下 606 (45オ・5) 内わたりなど — 打わたりなど
- ⑮ 柏木 29 (3オ・3) だらにのこゑ — たしにのこゑ
- ⑯ 柏木 226 (15ウ・11) 此玉はぬく — 此玉いぬく
- ⑰ 横笛 142 (33オ・9) 心とさしすきて — いとさしすきて
- ⑱ 鈴虫 49 (38ウ・2) わか御あつかひ — わか御あそひ
- ⑲ 夕霧 242 (19ウ・7) ひきへたてめくらし — ひきへたてめつら  
し
- ⑳ 御法 12 (43オ・2) 内東宮后宮 — 内侍宮后宮
- ㉑ 御法 75 (48ウ・4) おほけなき — おほせなき
- ㉒ 御法 107 (51オ・2) 露けさは哥 — 露けさは哥
- ㉓ 御法 113 (51ウ・9) 物おほえぬ御心にも — 物おほはぬ御心に  
も

- ⑤ 幻 69 (6ウ・1) おほしたるさまから — おほしたかさまから
- 100 幻 76 (6ウ・9) わろき — わかつき
- 101 匂宮 5 (16ウ・2) かたしけなし — かたけなし
- 102 匂宮 24 (17ウ・10) ひんかしの院 — みかしの院
- 103 匂宮 54 (20ウ・1) 世をへても (「世をかへても」が正しい) —  
世をかひへても
- 104 匂宮 86 (22ウ・6) 十九になり給年 — 十九になる・給年(ママ)
- 105 紅梅 27 (27ウ・2) おなしことゝ — おなしかとゝ
- 106 紅梅 51 (29オ・8) しる人そしる — しり人そしる
- 107 竹川 83 (39ウ・7) こちしのおとゝの — こちうのおとゝの
- 108 竹川 88 (40オ・3) さき草うたふ — さき草こたふ
- 109 竹川 98 (40ウ・4) なにそもそ — なにそもとそ
- 110 竹川 265 (53ウ・11) よ一夜所くかきありきて — よ一夜所  
くかきありきて
- 111 竹川 270 (54オ・9) 一夜の月影は — 一夜の月影に
- 112 橋姫 48 (5ウ・1) みし人も哥 — みしくも哥
- 113 橋姫 100 (9ウ・9) けになへてに — けになくてに
- 114 橋姫 217 (17ウ・7) ほぐ — ほゝ
- 115 椎本 79 (26ウ・7) さすらへん契かたしけなく — さすへら  
ん契かたしけなく
- 116 椎本 84 (27オ・7) 三味けふはてぬらん — 三味けふはてぬ  
らん

- 117 椎本 95 (28才・2) 又あひみること — 又あるみること  
 118 椎本 156 (33才・6) もらしきこえたりけん — もえしきこえ  
 たりけん  
 119 椎本 195 (36ウ・1) 雪ふかき汀の小芹哥 — 雪ふかき汀のふ  
 せり哥  
 120 総角 37 (42才・9) いける世の — いかける身の (写本も「い  
 ける世の」だが、「いける身の」が正しい)  
 121 総角 178 (52ウ・4) 霧深き哥 — 霧ふき哥  
 122 総角 190 (53ウ・3) みとかめん人なれとも也 — みとかめ  
 人なれとも也  
 123 総角 255 (58才・9) かよひたまはさらん — かよひ給はんさ  
 らん  
 124 総角 371 (66ウ・8) 人なみく — 人みなく  
 125 総角 433 (71才・4) あられふる哥 — あられふる哥  
 126 総角 436 (71才・11) 五せちなとく — 五せちなとく  
 127 総角 512 (76ウ・6) よもの山鏡を — よもの山鏡を  
 128 早蕨 12 (1ウ・10) ないえん — いなえん  
 129 早蕨 66 (6ウ・3) ひたいの程 — ひたいの躰  
 130 早蕨 92 (8ウ・4) 年比 — 年比々  
 131 宿木 176 (24ウ・1) わか御身になしても — わか御身なしても  
 132 宿木 341 (36ウ・6) からうして — からうして  
 133 宿木 406 (42才・11) かすまへ給は — かすまへ行は

- 134 宿木 430 (44ウ・1) 天人の — 天人の (古活字本は空白なく  
 注釈に続く)  
 135 宿木 436 (44ウ・9) その中納言 — そのわたり  
 136 東屋 50 (4ウ・6) まうてこと — まとてこと  
 137 東屋 58 (5才・4) このほと心さしに — このほとて  
 138 東屋 76 (6才・9) 日をたにかへて — 日比たにかへて (写本  
 は「日をたにとりかへて」)  
 139 東屋 93 (7ウ・8) こ宮 — こ宮は宮 (古活字本の「は宮」は  
 注釈の「八宮」を誤ったもの)  
 140 東屋 112 (9才・1) あつまきぬ — あつまきや  
 141 東屋 113 (9才・3) まらうとの御でる — まうかとの御でる  
 142 東屋 175 (13ウ・8) はしたなけなるまじうはこそ — はしこ  
 なけなるまじうはこそ  
 143 東屋 274 (20ウ・2) ことやうなりとも — ことやうなりとも  
 144 浮舟 34 (31才・6) 御めたて — 御めたて  
 145 浮舟 55 (33才・6) けふあすよも — けふあそよも  
 146 浮舟 129 (38ウ・2) いらへきこえん — いらへきこらん  
 147 浮舟 169 (41ウ・2) すゝろなる — こゝろなる  
 148 蜻蛉 25 (3才・11) きつねめく物 — きつねめく物也 (写本「き  
 つねめく物や」)  
 149 蜻蛉 104 (9才・4) かゝる事とも — かゝる事とそ  
 150 蜻蛉 163 (13才・3) いたき — いたさ

- 151 手習 16 (28オ・9) しるくや思ふらん — しるやおもふらん  
 152 手習 127 (36オ・4) わつらはしかり — わつらわしに  
 153 手習 192 (41オ・6) さるかたに — さきかたに  
 154 手習 313 (49オ・7) さなの給ひそ — さなの給ひか  
 155 夢浮橋 47 (56オ・11) うちおほえ — うちおほみ

見出しにおける文字の相違の中には、少数ではあるが、もともと古活字本の形が正しく、訂正したはずの整版本の方が誤っているかと思われる例も見出される。だいたい次のようなものが挙げられようか。

- ① 末摘花 192 (44ウ・2) □ (1字空白) のに — ものに  
 ② 葵 184 (46ウ・10) 中将もにひ色のなをし — 中将君にひ色のなをし  
 ③ 賢木 185 (16ウ・4) かけまくも哥 — かけまくは哥  
 ④ 乙女 347 (49ウ・5) いんもくらへ — ゐんもくらへ  
 ⑤ 若菜上 649 (53ウ・5) さはいへと — さもいと (写本「さもいと」)  
 ⑥ 若菜下 88 (9オ・6) 舞人 □ □ □ □ □ (約5字分空白) たけたち — 舞人まゆと たけたち (整版本は「舞人」の付訓を脱している。片仮名小字で記すつもりで忘れたのだろうか)  
 ⑦ 夕霧 358 (28ウ・1) かの日は — かの昔は (写本も「日」だが、

「昔」が正しい)

- ⑧ 紅梅 111 (33ウ・10) おひさきとをき — おひさきとをく (写本「おひさき遠く」が正しい)  
 ⑨ 椎本 161 (33ウ・4) しをさりことなどの — なをさりことなどの  
 ⑩ 早蕨 98 (9オ・8) 又はときぐ — 文はときぐ  
 ⑪ 宿木 175 (24オ・10) ことえりして — ことほりして (写本は「ことえりして」。『源氏物語』本文、三条西家本は「ことえり」とあるが、青表紙本諸本は「ことほり」)  
 ⑫ 宿木 353 (38オ・10) かたみになと — かたみなと (写本「かたみなと」)  
 ⑬ 手習 39 (29ウ・9) まへみやられし火は — よへみやられし火は  
 依拠した『源氏物語』本文がいかなるものであったかにもよるが、覆刻にあたって訂正したばかりにかえって誤ってしまったものも、このように十数例は存在するのである。  
 ところで、次の2例は、古活字本の文字の誤りを整版本もそのまま踏襲している例である。整版本に覆刻するにあたって訂正し忘れたのであろう。
- ① 若菜下 570 (42ウ・7) つるに御ほいの事 (「の」が衍字)

② 椎本 191 (36才・2) 出い人に (写本「おい人に」が正しい)

### 七 覆刻の際に生じたレイアウト上の問題点

何度も言うように、整版本への覆刻に際しては、古活字本の紙面を切り貼りして一面十行から十一行へと変更している。整版本の版面を見ると、ほとんど切り貼りの跡がわからないほど精巧に行なわれているのだが、それでも細かく調べると、切り貼りの際の不手際から行頭の高さに誤差が生じて見出しや注釈部分の位置にやや問題のある箇所が存する。次のような例である。

① 紅葉賀 128 (11ウ・10) かたつかたにては (見出しの頭が1字分上がっている)

② 須磨 53 (36ウ・1) 夜につゝみて (見出しの頭が約半字分下がっている)

③ 蓬生 44 (44ウ・2) うるはしくそ・45 (44ウ・3) 齋院 (見出しの頭がともに約半字分下がっている)

④ 蓬生 104 (48才・7) 此人も・105 (48才・8) 遺言は、106 (48才・9) 玉かつら哥 (見出しの頭がそれぞれ約半字分上がっている)

⑤ 絵合 96 (10才・1) 左近の中將、97 (10才・2) 身こそかくの哥 (見出しの頭がともに1字分下がっている)

⑥ 朝顔 61 (6才・9) さふらふ人く (この項目の2行目と3行目の注釈の頭が約半字分上がっている)

⑦ 朝顔 169 (15ウ・1) わくる御心ち (見出しの頭が約半字分下がっている)

⑧ 梅枝 161 (14ウ・1) 上中下、162 (14ウ・2) 此御はこ (見出しの頭がともに約半字分下がっている)

⑨ 若菜上 57 (5ウ・1) やんことなく (見出しの頭が約半字分下がっている)

⑩ 横笛 121 (31ウ・8) なをしのかきりきて (この項目の2行目から4行目までの3行の注釈の頭がほぼ1字分上がって、見出しと同じような高さになっている)

⑪ 竹川 33 (37才・1) 三条宮と (見出しの頭が約半字分下がっている)

⑫ 橋姫 105 (10才・7) いる日をかへす (この項目末尾の1行 (10ウ・1) の頭が1字分上がって、見出しと同じ高さになっている)

これらの例はごく少数存する整版本におけるレイアウト上の不備であり、まさしく玉に瑕というべき微細な欠点ではあるけれども、それがすることは、確かに古活字本から整版本への覆刻が切り貼り作業を介して行なわれたことを我々に教えてくれる徴証であると言える。実際、右に挙げた箇所を古活字本の行配りとつきあわせてみると、確かに一面の行数を変更するためにその箇所でも切り貼りが行なわれたと考えられる箇所になっているのである。

最後に、レイアウト上の問題として、『紹巴抄』は、古活字本・整版本ともに巻の切れ目は面を改めているのであるが、古活字本は、

唯一、篝火巻の冒頭を前の常夏巻末の丁に追い込んでおくことを付け加えておく。何らかの理由で原則が破られていたのだが、整版本では改められている。

### おわりに

『紹巴抄』の古活字本から整版本への覆刻の際に行なわれた本文の改訂の様相を、全巻にわたって項目の出入りと見出しの形態・表記の異同を精査することによって明らかにした。整版覆刻本が作られたことよって、古活字本が持っていた不備や欠点が大幅に解消されたことは間違いない。若干の訂正漏れや、まれに新たに生じた誤りもあり、一面の行数を十行から十一行に変更したためにレイアウト上の不都合が生じた箇所も少々あるけれども、総じて見事な覆刻版作成がなされていると言つてよい。古活字本は伝存する本がごく少ないため、整版本に比して稀覯本扱いされているけれども、内容的には、断然整版本のほうがすぐれているわけである。

それにしても、古活字本にある項目の脱落箇所を補うにあたって、覆刻の際にはどうやらもとの古活字版と同じ活字で組んで印刷し、それを覆刻版の版下にするという手のこんだことを行なっているように見えることは、寛永期という古活字本から整版本への移行期における刊本作成の実態を垣間見させて、実に興味深いものがある。

〔付記〕古活字本と整版本との間の項目異同の調査にあたっては、安道百合子・小川陽子両氏に多大な協力を得た。記して厚く御礼申し上げます。



DATA

整版本『紹巴抄』データベース

平成13年度

平成17年度

科学研究費補助委  
基礎研究 (C)  
研究成果報告書

「源氏物語」古法研究資料のデータベース化に関する研究  
(課題番号 15520108)  
研究代表者 妹尾好信

平成 15 年度～平成 17 年度  
科学研究費補助金（基盤研究（C））  
研究成果報告書

『源氏物語』古注釈資料のデータベース化に関する研究  
（課題番号 15520108）

印刷・発行 平成 18 年（2006 年）3 月

研究代表者 せいの 妹 お 尾 よし 好 のぶ 信  
（広島大学大学院文学研究科助教授）  
〒 739-8522 東広島市鏡山 1 丁目 2-3  
tel/fax.082-424-6668（ダイヤル）

印刷所 株式会社 タカトープ rint メディア  
〒 730-0052 広島市中区千田町 3 丁目 2-30  
tel.082-244-1110（代） fax.082-244-1199